特定教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年３月４日更新】

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面									環境面					人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士	教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7121	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	81			27	27	27				4	4	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	足関節捻挫	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	1. 基準以上配置	—	危険個所の見直しと対策を実する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	—	—	引き続き定期的に点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	坂道とコンクリートの境目に段差があったため起きた。	鬼ごっこ中に走ったり回るなどの広い場所で行うよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	本児が走っている時、足をくねらせた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	足をくねった瞬間はそばにいなかったので、本児が伝えるまで気付かなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児と別の遊びをしていたので見ていなかった。	—	その後の様子を見ていたが、いつも通り動いていたので骨折にかなかった。以前も怪我をした箇所だったので、こまめに経過を見るなどの対策をする。	
7122	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	10			6	4					1	1	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1	2. 基準配置	雪面は状況がわかりやすく、場所によっては凍結しやすく、気を付けても転倒するが、意識が不十分だった。	気温や降雪による積雪や雪面の状況について、子どもたちの内容について保育教諭間で情報交換を全員に共通理解をする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	—	やぐらに下敷きにした空間を取り除くなど、やぐら下に危険性の空間を取り除くなど、やぐらの空間に足を引っかけて転倒したり、やぐらの生かした遊びをしていたもの、凍結した雪面を足で滑らせたりしていたもの、凍結した雪面を足で滑らせた。	やぐらは今回の破損等は今回の原因ではないため、改善策は無し	1. 集団活動中・見守り	陽が当たってザラメ状になっている場所と日陰で凍っている部分があるなど、子どもたちが保育教諭間で確認すると共に、そうした場所に行くことを保育者は、それぞれの場所による危険性に伴う危険性を知らせる。また、コーンを設置して注意を促すなど、子どもが安全に遊べるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	雪遊びを楽しんだり、寒さが水に興味をもち、戸外遊びを楽しんでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児の姿は確認していたものの、転倒時は他児と関わっていなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児と共に出る備をしていた。	園庭担当者2名のうち1名が、他児の援助をしていたことで対応し遅れて戸外へ出た。	・自由遊びは保育教諭2名を配置しており、担当者は必ず定刻に出ることと、子どもへの援助等で出る定刻で出ることが難しい場合は、他の保育教諭へ依頼する。	
7123	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	50			15	15	20				3	3	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	1. 頭部	後頭部にヒビ	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	0～1	2. 基準配置	ひもに関する指導で、目からうろこをろしっかりすべきだった	クラスのものに扱いつい周知して、中ひのことが遊びのようなひとりを配ると共に、そうだったはしようしていることを助く	1. 定期的に実施		3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	各遊びのコーナーの間隔が少しもも広いよかった	遊ぶ環境広くよりとれるような遊具の置き場所やコーナーに配置して設置検討する	3. 個人活動中・見守り	縄跳びコーナーに、平均台たもに、一近くがあったことも、ケガが要因だった。	平均台を使用しない時は、壁側に寄せて設置し、遊ぶよ環境を安全に広く保てるようにすると。また、平均台付近は静かなコーナーにする配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	普段通り、好きな遊びつけ、楽しんだ。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	子どもたちの様子を気にかけながら、周囲の子どもたちの様子に集中しながら、一緒に遊んでいた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	全体の様子から、遊びを気にしている子どもたちで遊んでいた。	危険な遊び方や、状況になっていないか、より配慮すると良かった。	危険な状況が配り、気づいた時には、すぐに環境を変更するなど、迅速な対応をしていけるよう職員間で改めて共通理解する。	
7124	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									1	1	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	絵本棚の置き位置が子どもの動線上にあり、つまずき状況になってやすい状況になってしまった。	絵本棚の位置置き変え、転倒防止に努める。	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	少し慌て取り行く姿が見られた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	先に集まっている園児のし対応をしていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他業務の園児のため、職員室にいた。	特になし	改めて慌てを取りに行かないように伝える。（室内での過ごし方）	
7125	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42	3	9	9	7	7	7			16	13	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足甲骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1、2	2. 基準配置	保育者が畑や、砂場などそれぞれの場所に届く場所がいない為、遊目が保育者がいなかった。	達にも子どもの合わせて職員を配置し子ども全体届いに目くすると、事前間を動きに保育者に職員動きをしておくこと。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭での自由遊びを楽しんでいた。利用人数の人数も少なく、遊び好きな具で思い切り遊べる環境だった。近くに本児を保育者もいなかった奇心旺盛な性格の本児は高いところに上り柵を越え、自ら飛び降りた。	正しい遊び方をいつも伝えて、保育者も共に解をしていく。	1. 集団活動中・見ており	保育者もかけ声をかけていたが、収穫した野菜を運ぶ職員へ、収穫した野菜室で中に行く途中で、目が合ったため、行き届いない状況だった。	常に動きしを確認し、バランス職員すバランスを配置するよう声掛けをする。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で遊ぶことを喜び、野菜を収穫したり、遊具で遊んで楽しんでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	部屋へ入る全体へ声をかけ歩いた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	担当職員も4名で室内で食配膳していた。職員に出てたで分かれていた。	全体に指示をしていたため個々への配慮が手薄になってしまった。	保育者同士で声を掛け合い常に子どもから目を離さないようにする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7130	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23			9	6	8				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折(右腕)	1.遊具等から転落・落下	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全マットに全面安全を敷く	1.集団活動中・見守り	5歳児がいろいろと遊んでいたのに、本も加わった。保育教諭は補助についていなかった	・登り棒と遊ぶには必ず保育教諭が補助に付く・合同保育中、保護者対応や職員体制が整わない場合は、登り棒で遊ばせない。遊ばない時の目印としてボールを設置し子ども、職員が認識できるようにする	1.いつもどおり様子であった	登り棒で遊んでいる5歳児がいたので、教諭に声かけずに遊びに加わった	4.対象動児を見ていなかった	5歳児に登り棒の許可した、補助が付かずに遊ばせた。他の児童が遊びに加わった事に気が付かなかった	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	保護者対応と一緒に遊んでいた為	登り棒の補助に付かなかった事や危険な状況が全体の状況を見る職員がいなかった	・全保育教諭にマニュアルの周知徹底を図る・全体をみる職員を配置して、その業務に専念し、他みても者よ担当ように、ビブスを着用する	
7131	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			11	13	13				5	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右側橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	1.定期的に実施	12	3.基準以下	—	職員体制、配置の見直しを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	195	1.定期的に実施	195	溝蓋に段差ができている。	・段差があることを園児すあを全周知する。・担課に修依頼を当締依頼をする。	3.個人活動中・見守り	—	遊びを見つけ、楽しめるよう声かや環境づくりうやくりを見直す。	1.いつもどおり様子であった	・朝いつも通り元気な様子で登園してきた。・室内から、上靴のまま友達の所へでいて走りでいて走った際に、インターロックで転倒した。	3.対象から児の離れたところで対象児を見ていた。	・室内で他児ら本児の園児らと遊んで。本児が室内出てこいろいろを見ていた。	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	・他児とインターロックで話しをした所児が近で合っていた本児走った、転倒が、走ったを姿勢を見ていなかったが、ためする至近でした。	本児は他の園児らがまって話をしているの気り、靴のまま走っていた。	外に行くときは必ず靴に履き替え、落ち着いて行動できるようにする。	
7132	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47			16	15	16				4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	職員数に余裕が出たら、基準以上の配置にする。	職員数に余裕が出たら、基準以上の配置にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	園庭の中央付近、何もない平な場所だので、問題ない	安全な場所からと過ぎ侵せず、常に子どものに気を配る。	1.集団活動中・見守り	保育者の目が行き届かなかった	職員の強化	1.いつもどおり様子であった	園庭で友達とちょこしていた	4.対象動児を見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた	—	注意して子どもの様子をみる	
7133	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	29									6	6	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	—	職員に対してマニュアルの周知・徹底を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	—	引き続き定期的な点検を行い、安全に使用できる確認する。	1.集団活動中・見守り	—	年齢発達における子どもの動きを改めて理解し、一人ひとりを見野に入れていく心掛ける。	1.いつもどおり様子であった	様々なことに興味があり、通過のテラスにあった家なとろたであった。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた。	戸外から室内への移動中であった、子ども全体のはしたもの、すぐにはたもの、近くにはいなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	別の子どもたちと順次移動していたころだった。	—	年齢発達における、興味や身体発達をより子どもたちの行動を近くで見守れるようにする。	
7134	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	39									2	2	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中(家所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首の靭帯損傷剥離骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	1.定期的に実施	毎日	1.基準以上配置	慌てて移動したため、バランスを崩して足を捻挫しました。	階段手すりを持ちこち降りは手を降ると、落ちて着地を徹底として指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	引き続き安全点検を行い、無いに危険を確認する。	7.その他	職員の配置	これまで全見渡ように体を以上に職員の配置を改善する。	1.いつもどおり様子であった	預かり保育の部屋へ移動していた。	4.対象動児を見ていなかった	他の幼児の移動を見ていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他の幼児の移動を見ていた。	—	これまで以上に全体を見渡せるように職員の配置を改善する。	
7135	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9			2	3	4				2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	・左側下唇裂傷・左側上顎歯肉裂傷・外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	子どもの特異な動きに対する危険度を改めて職員間で職員確認、周知。	室内の環境の再点検。箱椅子を踏みとしていて台と使ったっとしてこころ。踏みを使うは、台を目安は、歳児の高さ台目5歳児の高さたえに達し時、のは5みの歳児とした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	ヒヤリハットの有効活用と分析。	室内において細やかな点検と危険の周知。箱椅子の利用を限定し、5歳児以外は使ないようにした。	1.集団活動中・見守り	椅子を踏みみ台におうとした時に、対応できれば良かった。	以上児、3クラスで子どもの転倒を防ぐと園庭の環境設定について統一し、誰の見守りであっても同じ対応ができるように周知。	1.いつもどおり様子であった	積み木遊びに集中していた先に、踏み台(コンテナ)に上がった本児に誘発され台を児誘踏み使おうとしただ。	2.対象至対象児の近で見ていた	担任は他対応児の様子はていた。児を、していたが、本の遊び近で見た。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他児の対応について、一人の同じ室にいた職員は、担任から話をきいていた。	箱椅子を踏み台にすることも、少し慎重に考えればよかった。	踏み台を使うタイミングや踏み台椅子を使える椅子、年齢などを子ども話と細かく話しあい、ルールの定着を図る。	
7136	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72				21	51				6	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの突突るも	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	発生時、遊ぶ前に子ども達と安全方法のある遊び方の確認・指導を行っていたが、そのさわしい方を改めて確認し必要がある。	子ども達の動きを予測し、子どもの場面がの予定のような話し合い、援助・安全確認をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	日常的に利用している小学校運動場横の場所である。安全検・その場での点検の内容を確認する。	安全点検項目を見直し、子どもの行動を予測し全点検を予安を検する。	1.集団活動中・見守り	全クラスの園児がそのいるの時間で、まわっている子どもが見えない場面ができた。	自然環境での中での危険個所（樹木・根の張り具合等）きちんと把握して安全指導をする。活動の時間帯・利用人数の再確認をする。	1.いつもどおり様子であった	ともだち6人で一緒に鬼ごっこをした。	4.対象動児を見ていなかった	その場にいた一緒に、転んだ瞬間は見えていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	場所全体を見ていたため、対象児が転んだ瞬間を見ていなかった。	広い場所で遊ぶ際の立ち位置、転びやすい場所の確認をする。	日常的に広い場所が届きにくい場所での子ども達の活発な動きに、どう対応するか、職員の立ち位置・分担を再確認していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の内訳		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7137	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3	1		2						1	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12/12	1.基準以上配置	その他要因・分析、特記事項 ３名の内２名と一緒に玩具の片付けをしており背後に本児を１人で行動の見過ごした。	改善策 保育中は全員が視野に入る場所に一人の行動を把握しておく。	施設の安全点検 1.定期的に実施	実施頻度【回/年】 12	遊具の安全点検 1.定期的に実施	実施頻度【回/年】 12	玩具の安全点検 1.定期的に実施	実施頻度【回/年】 12	その他要因・分析、特記事項 大型ブロックを組み立て作業台の上に乗り遊具だった油断し、安全の点検を怠った。	改善策 特に手作りや遊具の設置場合、リスクが高いことを認識し細部にわたっての安全点検ないこと。	教育・保育成支援の状況 1.集団活動中・見守りあり	その他要因・分析、特記事項 大型ブロックに合わせた台でボロボロ段を組み立てるブロックから２ほどの高さ～３cmボールが出ており、そこに足をかけてバランスを崩したとけンしたえる。	改善策 安全策の床にはマットを敷いていたが、バランスを崩すと、ど んなんが低いところから落ちても事故につながる危険性を共ことの通理解する。	対象児の動き 1.いつもお様子であった	理由 本児は二台目の滑り台が好きで、よく遊ここで遊んでいる。	担当職員の動き 4.対象動児の見ていなかった	具体的に何をしていたか 担当職員は至近距離にいたものの、目を離し、本児をきの動きの把握なかった。	他の職員の動き 2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	具体的に何をしていたか 当—	その他要因・分析、特記事項 —	改善策 怪我の確認、原因が分からないときはビデオカメラでこと。　　子どもの観察を十分にすること。	
7138	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	3	3	6	14	19	22			17	13	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育対応担当児の延長時間では保育士が職員を担当して保育を担当して対象児を保育士が職員の行動をできたの予想できなかったこと、保育経験が浅く子どもとの関係を築くことも難しかった。	保育教諭は全体が見える場所に一人の行動を把握しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	鉄棒に破損や欠損は見られない	気温も低く冷たいので冬季は使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	気温も低く柔軟な動きが出にくい状態だった。	保育内容を見直す。報連相を統一する。子どもたちの仕方を合い場を設ける。保育者の立ち位置は全体が把握できる場所でなければならない。	1.いつもお様子であった	鉄棒に乗り不安定な状況にある友達とバランスを崩してしまった。	3.対象から児が離れたところで対象児を見ていた	離れたところで対象児を見ていたが、転落を予想して転落を予防止することができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は昼寝をいなかった。	当日は昼寝をしていなかった。	夕方延長保育時間には疲れも出ての状態にあった遊びをするようにする。	
7139	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									3	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	順番に並び、自分の番がきたらライン沿ったのにS字にたンに走り、折り返し地点のコーンをタッチする際に児が対象児のたそのを直しと立ていると次の他児が本ていたき順番を抜いた児が抜き走っ抜くめ、対象児でそうと、二人並び、が接触した本児に際に転倒し事故が事故なった。	順番とルールを整理し、ルールを理解させる。スタート地点、折返し地点に配置レイしているにもかかわらず子ども等が場合、順番のをさせ同じスプレイ人以上レイいよう。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	今回の事故は該当しない	今回の事故では特に該当しない	1.集団活動中・守り	折り返し地点に準備したコーンにもチェック際、コンやすたに、対象児にンにすさまい、順番の他いを発生させてしまった。	スタート地点、折返し地点に職員を配置し、プレイをしているにもかかわらず子どもトラブルがあった場合、順番を次のプレイ、させない、同じスプレイ人以上レイいようにする。また、倒れにくいコーンを用意する。	1.いつもお様子であった	倒れたコーンを元の位置に戻したり、追かさに抜かされたり、抜かされたり、そうと身体がバランスを崩してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の他ドラムくでのトラブルがあっていた為対応をした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	反対側のグループの対応（指導）を行っていた	事故発生前に順番待ちの所で「抜いた、抜かれた」のトラブルがあっており、レイもそのプレイ中の様な雰囲気があったかもしれない。	・職員は全体が見える位置に立ち、他の職員と連携をとる（他職員が個別対応している時は必ず一人は全体を見ること）・トラブルが多い時や感じた時や落ち着きない子ども等を感じた際には、一時活動を止めるなどして落ち着く時間を作る。・プレイ中に何かあれば、次のプレイしないようにする。	
7140	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									1	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	中手骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	— 職員で点検計画を見直す。事故が起こった際に話し合う職員検討して事故予防についてもいろいろ話し合う機会を設けるようにする。	危険個所は危険と思われる箇所はかかのすぐ何らかの対応をする	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	—	園内の危険個所を直ちに行うもとる速やか	1.集団活動中・守りあり	—	見守り体制がなかったか問題が職員で話し合う会議	1.いつもお様子であった	友だちと元気に遊んでいる走って遊ん	3.対象から児が離れたところで対象児を見ていた	ソリを使って雪の上を他人と歩いて転ぶもの子瞬間を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども遊んでも対象児の者の見ていなかった当きを	遊びの見守り・対象児の仕方等を見直す、雪遊びを仕方の見直し	
7141	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折（全治３週間）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	職員は配置したいたものの、体の育指導の跳び台際、職員１名１つき１名が１つ配置、箱に１人が員がだった為、手厚いが必要だったと思われる。	跳び箱１つ台に１つき配置に職員配置を２名にする。	1.定期的に実施	296	1.定期的に実施	296	1.定期的に実施	52	子どもが成長し跳び箱をふまえて、ロイ跳び箱、本板の準備をしていたが、本児が強くがみこんでしまいが過ぎまった。	子育ちあるものマット、跳び箱、ロイター板使用する。	1.集団活動中・守りあり	安全面前と左右に面かっていたマッ跳び箱に慣れていたことと跳べることになって箱に切り取りて取り組んだ。	子どもの育ちあるマット、跳び箱、ロイター板などを使用する。	3.いつもお活発で活動的でもあった(理由を記載)	跳び箱が跳べるようになり、張り切って練習に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全確保のため職員の立ち位置、取り組み、援助の仕方を職員間で確認。事故発生時も確認した安全確認・指導をしながら跳び箱を見ていたが、対象児が着地して前に1回転してしまうのを救う間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の跳び箱を見守っていた児の把握は難しかった。	子ども達の次の行動を予測して指導、援助する必要性を感じる。	・体育指導の安全確認を再度徹底する。・体育指導の時の再確認を行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7142	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34			18		16				2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	特になし	子どもの特性に合わせて、側についてのを見守りを実施しているが、引き続き注意していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	不備・不具合はなかったが、再度危険な箇所がないか確認する。	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も活動に見守りに注意する。	1.いつもどおりの様子であった	散歩に出ようと出発しかけたところであった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	散歩に出かける園児の列の一番前で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	散歩に出かける園の列の一番後ろで見守っていた。	特になし	児童の特性や身体能力などに留意した上で見守りを行う。	
7143	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	20									5	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	安全面には注意をしながらしている子どもの思いがけない予期しない動きすることが十分でない。	子ども達子どもの様子の注意をしながら関わっていくように特にこの子の動きは十分に意しておく。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	テラスから保育室に入る際少し段差がある。	毎日	保育室にテラスを拒んだ本児の後ろから保育者が支えて一緒に保育室へ入ろうとしたところ、支えていた本児が顔から転倒し口を床にぶつけた。	3.個人活動中・見守り	保育室に入ることで、本児の後ろから保育者が支えて一緒に保育室へ入ろうとしたところ、支えていた本児が顔から転倒し口を床にぶつけた。	子どもの予定を予期し、特に抱っこしている時や支えるを緩めるにかかわる。	1.いつもどおりの様子であった	自分の思いを表すことができない時であり、行動そうとした。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象接した)	予期せぬしぬ動きをしたため、咄嗟に体を支えれなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの機嫌など共通理解しておく必要があった。	子どもの様子を共通理解し、気持ちを受けとめるわりことで次の活動に移れるようにする。	
7144	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	2	3	5	4	4	4			5	5	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	職員配置について職員間で確認しておき、園児の動きかしっかり把握しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	日々の点検を強化する。	3.個人活動中・見守り	—	自由時間の職員の連携の都度行っておく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に遊んでいた。	2.対象至対象児を見ていた	対象児が足を滑らせてしまった手を少しが、差しには間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自由遊び中で、他の児と場所で一緒に遊んでいた。見ていなかった。	長椅子に立っていた。	椅子の上に危ないことを具体的に伝える。	
7145	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	122		19	15	26	20	42			30	24	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	なし	安全保育についてで職員共有していく	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	—	なし	今後も点検をかり行っていく	3.個人活動中・見ありり	なし	職員間で共有していく	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊び出へ送り出した直後、走ってベンチうったてベンチに乗ろうとしため、ベンチにしっかり足をことできておらず、踏み外してしまった。	4.対象動児をていた	クラスの児たちを園庭に送り出し、それぞれの配置につこした時に本児が落下。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラス点呼を、園児を園庭に送り出したところ。	なし	子どもの特性を考慮して言葉をかけていく	
7146	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	121	1	17	17	25	21	40			31	25	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	なし	安全保育についても後に今報共有をする	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	—	本児は、背もたれを滑りたとが、より明。	園庭での安全確認の職員の位置度確認	1.集団活動中・見ありり	手袋をつけたため、手りまっていまがうとした際ま落ちまった。	手袋をつけたままでの遊具はしないに徹底	1.いつもどおりの様子であった	背もたれに寄りかかって座っていたら後ろにひっくり返り、してまっ落ちた。ないと手すりを掴んだが、手袋を着用していたため滑ってしまった。	3.対象児離れとで対象児を見ていた	音を聞き下き園児行き開のく、泣いている、痛がる患部(左肘)の状態の確認。保護者に連絡。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭遊び交代で職員が安全確認って入っている。遊具、が必要な中心に安全確認を行ってい	なし	今後も安全確認をしながら保育を進めていく	
7147	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	200				60	70	70			15	15	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	毎日	1.基準以上配置	滑ってて降りたため、着地時バランスを崩した。	山型の遊具から降りには、側面の滑り際おを側をつけて滑ると滑るこということを徹底し指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	引き続き安全点検をすることに、前に必ず確認してから使用する。	1.集団活動中・見ありり	—	これまで以上に全体を見渡せるように職員の配置を改善する。	1.いつもどおりの様子であった	運動が得意で、自分の能力に自信をもった。	3.対象児離れとで対象児を見ていた	他児に声掛けを掛けれ、少し離れたところにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見えるところにはいたが、離れ少したところにいた。	—	職員が十分に指導できるよう、職員間で遊具の遊び方や職員の配置の確認を徹底する。	
7148	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	30									4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指靭帯損傷・骨のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	毎日同じ場所に、水筒を片付けるだから大きい頃は、片付けだから大きいと認っ甘いあったのではないか。	子どもの日常の動きの分析を全職員で行うと共に、水筒の片付け場所をもう一度全面を安全か検討し変更する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	水筒の片付けを入れのので、元となりの転びやすかったのではないか。	水筒を片付けるこを上に置き、足元が見やすいように環境構成を変更する。	1.集団活動中・見ありり	全体活動中の間の休憩の取り方や、落ち着いに落ち着て静かに過ごす環境構成が必要だったのではないか。	休憩後の見活動の見直しを行う。	3.いつもどおり活発な活動であった(理由を記載)	いつもどおりあり、朝から元気で、朝から落ちが着きいだった。	3.対象児離れとで対象児を見ていた	いつものように、子どもたちが水筒を片付けている様子を見ていて、本児ただが慌てしくを片付け時がに来たに事故が発生した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で他の保育を行っていた為。	本児の動きが朝活発であったので、落ち着け言葉掛けが必要だったのではないか。	本児の動きを見守りながら、落ち着いて行動できるよう、言葉を掛けるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析						ハード面							環境面		人的面							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7149	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	18									3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の破折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	年1回程度	2. 基準配置	小さめの低い滑り台だから、大丈夫と言う思っ大丈夫という認識があったのではないか。	滑り台等の構造、子どもの動きの分析を行う。遊具使用時の安全確認を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	毎日	移動式の滑り台であるため、職員が子どもを把握できないのであれば安しまっておくもの方ではないか。	一日の保育の流れを全職員が細かく把握し、遊具の位置を配置すること。	1. 集団活動中・見守り	午後は子どもの動きが多少鈍くなるため、静かに過ごす環境構成が必要だと考えられる。	おやつの活動後の見直しを全クラス行う。	1. いつもお様子のもりの子であった	いつも通りの男の子であり、午前中も普段通り過ごした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台は遊戯室前の広いスペースに設置しているが、遊戯室で遊んでいる園児が1名いたため、両方見れていなくて、一瞬目を離した際に事故が発生した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で他の園児の保育を行っていたため。	子どもの遊ぶ範囲が広く、職員の目が行き届かなかったのではないか。	滑り台を外しておくか、保育室等1か所で活動するようにする。	
7150	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	108		18	30	30	30				6	6	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不期実施	1	2. 基準配置	危険箇所で気づきのに対する、日々の職員間報告でのでの共有ができていなかった。(職員会議等で確認)	「ひやり」はっと」をノート作成し、ことを皆で記入し、全職員が毎日通し、職員配員目すし、会議で見守りについて再度周知し確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	遊具周りの上が固い上、下時の衝撃が大きい。	園庭前面および遊具下にやわらかい砂を補充した。(3/●)	3. 個人活動中・見守り	個人活動(自由あそび)中は、異年齢児がおおきい子が多く、動きが更に活発になる。(人数が多い状況で確認しにくい状況になる)	異年齢児と遊んでいる場合は、園児の身体能力や理解度の違いなどが発生するため、遊びの様子を確認しつつ臨機応変に配置工夫を行う。また、職員のみだけではなく、年長児が下級生の安全に注意をはらうなど、異年齢児との遊び方等も教育も行っていく。	1. いつもお様子のもりの子であった	慣れ親しんだ遊具で、怖がる様子も無くいろいろ活発に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	視界に入る範囲には立っていたが、落下の瞬間は視線をはずして見逃しており、落下直後の泣き声で気づき、救助した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも視界に入る位置に立っていたが、落下の瞬間を見ていた者はいなかった。	職員配位置の位置に問題があり、遊びなどによる死角があった。	立ち位置を決め、職員がいないように園庭全般を見守るようにした。	
7151	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20									20	20	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折外顆骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不期実施	3	1. 基準以上配置	手に羽子板を持って木登りをした	物を持って木に登ると危険を子ども達に再度伝えても職員共有もえでした	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	地面が硬かった	マットを敷いた	3. 個人活動中・見守り	木れた場所から離れた場所から見ていた子で持っている羽子板に気付かなかった	木に登っているが、子どもが持っていると時には何もないか確認をする	1. いつもお様子のもりの子であった	羽根つきとが木登りとって夢中になっているあるため、にやりにいやろうとした	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	木の斜め右後ろの少し離れた場所から見ていており、落ちては見ていたが、落ちる瞬間なかった。その後本児がるに気が付きすぐに対応した	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には児クラス5歳しか出ていなかった、担任外の職員はいなかった	本児はいつも木登りは安全に登ることができていた為、遠くから見守っていたが、児がろうとすると測しながら見て必要があった	子どもと危険なことを確認しながら、子どもの動きを予測して見守っていく	
7152	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	36									6	6	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕前腕骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	子どもの行動パターンで予測できないことがあった。	子どもの行動パターンに危険性を聞き取り、対応策を検討する。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	特になし。鉄棒等確認した、不備ないが見られなかった。	子ども達安全な箇所ないが、子どもの考え方があっで見直す。	1. 集団活動中・見守り	周りの子が、鉄棒をしている状況を見て、ぼくもやってみようという気持ちになった。	周りの子につられて、遊び始めるで注意して見る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒に飛び乗り、勢いがついてバランスを崩したか、前方に回ると手に同時に手を放し転落した。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	・鉄棒から少し離れた所で見ていた遊び・他の介助の具をしていた・ぶっ下がって遊んでいる様子をみていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具に5人、子どもとかけっこ1人 給食の配膳に1人	危険度高い遊具の介助に行けなかった。	鉄棒等、危険度が高いと思われる遊具には、できるだけ保育士を配置する。	
7153	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16									3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	現時点で報告なし	2. 自転車倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	—	防犯カメラの映像から、滑り台周辺の見守りについて話した。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	310	—	開園から設置され固定の滑り台で起きた初の事故であり、事実を理解した。危険を再認識した。	1. 集団活動中・見守り	—	滑り台にかけて手をかけることについての危険について話し合った。	1. いつもお様子のもりの子であった	多動傾向あるもがで、通ても着かあった。	4. 対象児の見ていなかった	防犯カメラの映像から、事故直前までは、見ていたが、事故の瞬間は、他児と関わっていたため見ていない状態であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員もいつも気にかけてる児ではあるが、防犯カメラの映像から、事故直前までは、見ていたが、事故の瞬間は、他児と関わっていたため見ていない状態であった。	—	人的面での配置や配慮等を見直しし、よりきめの細やかな保育を遂行していくを話し合いを行った。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面								環境面						人的面												
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																																				
			施設・事業所種別	事故発生時					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																												
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所													年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7160	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			20	22		18			9	6	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ジャングルジムは3面あり全体を見るには人数が必要。職員の立ち位置とその時使用する面を決めて十分に見れる範囲を設定する。	遊ぶ範囲が見守りできる範囲を超えていた。	1.いつもどおり様子であった	他児とジャングルジムでいつも通り元気に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童の登っている面の近くにいたが、他児が泣いたので、児童のその対応をしていたため落下の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具のローラー滑り台に1名ブランコに1名ジャングルジム1名の配置で見守りを行っていた。	見守りの不十分。	園庭に出る子どもの人数、職員数を確認し、遊ぶ範囲や配置をする。	
7161	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76			22	24	30				3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2.基準配置	園庭が広く、基準の3人では園庭ですべて配置に目を配は難しい。	学年や時期で、クラス担任が使用できる遊具を決め指導を行っているが、確認の意味で遊具指導の回数を増やすこと。また、職員全体で使用可能な遊具や使い方等の共通理解を図ること。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	特になし	遊具の安全点検を引き続き全点引き行う。また、落下した場合を想定して、遊具下の砂の日常量を的に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢児の戸外あそびでは、遊び大きの幅が大きいし、年長児の真似をし上の動きしに挑戦して年少児もいるため、遊具遊びに注意すること。また、職員の目が離れがちな状態の時は、使用遊具の制限もすること。	1.いつもどおり様子であった	いつもどおり活発に園庭を走り回りにも遊具登った	4.対象児の動きを見ていなかった	一番近くにいた職員は、他の園児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの場所で、別の園児だと遊んだり対応したりしていた。	特になし	担当職員同士の動きにも気を配り、ひとりは全体を見るようにする。	
7162	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左11肋骨骨折　全治3週間	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故のあった遊具には人員配置はしていたが、他児を見ていたため、事故の瞬間は見ることができなかったため、対応をとれなかった。	遊具の危険個所の園児への周知のための子ども用注意表示と配置個所の見直しを行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	遊具の注意個所の十分な把握ができなかった。	注意個所での安全使用方法の改善(遊具では走らない 複数からの出入口を制限する 鎖やコーポストの設置 遊具では設置しない 遊具と登ら飛び降り等 ないカーシールを直接張り 園児が目に見える方法で知らせるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	園児の姿に死角にならない見位置 園児が死角にならないような守り配置を考える	遊具の安全使用方法を園児へわかりやすく徹底する	3.いつもより活発で活動であった(理由を記載)	全体が遊び始める前に保育者Yが地面がぬかるんでいて転びやすくなっている事を伝え、走ることを禁止していたが、Aくんは衝動的に走ってしまうので保育者Zが注意を何度かしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者Xは遊具の階段付近でずっと子どもの遊びを見守っていたが、向かいのお家で遊んでいたちに声を掛けられ、振り向き対応した。最中、Aくんと当該児は追いかけっこをしていたと思われる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時の職員配置：保育教諭1→ピロティ付近にて他児の怪我の手当中 保育教諭Z→園舎裏側から方へ遊具に見回り中 保育教諭X→ピロティから園舎正面、遊具かの方にけて見回り中	危険行動の予測と園児への注意を徹底する	園児の見守り専用係を決め、見守りだけに専念する	
7163	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33					15	18			4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯脱臼	3.子どもに衝突するもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	保育場面意でのがされておらずマニュアルが周知が不十分だった。	リスクマネジメント検討にて行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	36	なし	床面にお欠陥はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	友達と前後の間隔が十分に取れていなかった。	走る際にの十分な距離との十分に取り走ることを友達に伝える。	1.いつもどおり様子であった	マラソンしている際に前をして走っている子が転倒。転んだ子のつまず足につまずき転ぶ。	2.対象児で対象児を見ていた	・異年齢でマラソンを行っている時は、走らない時は輪になって子ども達と座って見て・も達 ・も座いた1人は先頭を走っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危険な箇所に近く、ぶつからないように注意を払っていた。	走っている子の様子を見る担当者が曖昧で瞬間止めることが出来なかった。	危険な箇所の近くに立ちぶつかってしまうこのないように、走って危険な箇所に立ちぶつかってしまうこのないように注意を払って	
7164	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	慌てて上履き履き歩き、履きながらだして躓いた。	落ち着いた生活をするよう全体に呼び掛けた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	転んでぶつけた部分に緩衝材をつけた	3.個人活動中・見守りあり	—	分担監視体制を確認	1.いつもどおり様子であった	次の遊び取られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	保育体制の再確認	
7165	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31			6	12	13				3	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折、左手関節褥瘡	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員の立ち位置をがにこと全員はいるによる注意する	職員同士で掛け合い、立ち位置を確認。また、子供に背を向けない	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	3	遊具事態は安全。使い方を子どもたちに伝える	各学年に伝えて、遊具の使い方を再確認	1.集団活動中・見守りあり	職員の立を考えるち位置	職員同士で掛け合う	1.いつもどおり様子であった	大好きな滑り台を楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	いつも、滑り台を滑しんで楽いるので、大丈夫だと思った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の周りの子の保育をしていた	大丈夫だという思考になっていた	夫ようう大丈夫ではなく、危ないかもしれないと考える	大丈夫だろうと	
7166	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	27									5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特に無し	職員間で発生した事故対応研修や、事故後の周知徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に無し	これからも定期的な施設の安全点検を行い事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	すぐに駆け寄る事ができるように職員の立ち位置場所を決め、どこで誰が遊んでいるかを把握できるようにする。	1.いつもどおり様子であった	普段から遊っている丸太でバランスを崩し転落した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1メートル離れた所で周辺の見守りをしながら、他児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の職員の立ち位置場所で子どもの見守りを行った。	特に無し	職員の立ち位置を十分確認するとともに、園児の転倒、転落が発生する場面を予期し、可能な限り事故が防げるように注意を払う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面						環境面				人的面															
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7167	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73			28	19	26			5	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	自由保育の時間中で、●●組、●●組の園児、クラスの職員が園庭に出ていた。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身のため特になし。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身のため特になし。	1.集団活動中・見守り	朝の自由保育の時間であったため、多くの園児が園庭に出た。各クラスの担当職員が園庭に出ていたものの、事故発生を未然防止するのは難しい状況であった。	・転倒防止のため、靴を正確に履けているかなどを確認する。 ・職員は分散して子どもの行動に目を配る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、友人と楽しくたちと鬼ごっこしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児が園庭に出ており、他の園児の対応中であったため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児が園庭に出ており、他の園児の対応中であったため、見ていなかった。	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身のため特になし。	
7168	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	32								2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	職員の配置は決まっているが、子どもの行動によって、臨機応変に応変に応じて配置するようにしなければいけなかった。	園庭での遊び方、ルールを再度確認し、全職員に周知した。子どもたちにも伝えた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	点検は毎日実施していたが、より丁寧に点検をしなければいけなかった。	園庭での配置の見方を全職員で再度検討した。	1.集団活動中・見守り	よそ見をしていた為。	園庭を走る時はしっかり前を向いて走る様に伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	職員の近くで遊んでいた。	2.対象児の至近距離で見ていた	近くで様子を見ていて、声掛けを出合いが出ず頃にぶつかった為、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていたため、様子を見ていなかった。	園庭にいる職員は、自分の配置だけでなく体も常に気にしていないといけなかった。	園庭での過ごし方を事故防止の観点と再度検討し、全職員に周知し改善した。	
7169	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	32		5			27			4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	保育者が危険個所いが見て意識がなかったとしても、児童見れ「いる大丈夫」との意識が働いてしまうことを考慮していなかった。	児童がどこにかかるような考えを意識し、職員が共通認識として周知する。	3.未実施		3.未実施		3.未実施		日頃利用するため、本来であれば危険だと感じた場所で遊ばせていた。	事故発生場所で遊ぶことが危険である年齢を定め園内で有すると子どもへの注意喚起を園外保育の度に行うことした。	1.集団活動中・見守り	子どもたちに対して保育士がいれば滑り台で遊ってよ滑り遊っていと説明していた が、保育士がその場面を見ていなかった。	滑り台の下で、滑り台等を専門に見る保育士がいないときは遊ばないというルールを作り、保育士と子どもたちに周知する。	1.いつもどおりの様子であった	特に病気やケガもなく、健康もなく、多事トラブルがあった様子もなく、精神的にも安定している状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	●●公園の広場で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台のはいり上にはいたが、他児を見守りお対象児台が滑りが遊んでいることは認識していなかった。	保育者がいる場合は滑り台で遊んでよいとしていたが、滑り台の上にいる保育者は滑り台を見るという意識はなく、上部の砂場で遊んでいる児童を見ていた。しかし対象児見れば、近くに保育者がいるから遊んでよいとしてもう考えまうであった。	滑り台の下の保育士が滑り台で遊んでよいということを、保育士及び児童に周知徹底する。	
7170	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ヒヤリハットの直しを年1回行っているが、活用が薄かった。	ヒヤリハットの報告を止まっていた故防努めく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	逆上がり補助器具の設置場所で遊具が狭く、その周辺が狭かった。	危険個所に対する補助器具の見直しを行い、逆上がり器具場所の適切と撤去不適切し器具を撤去した。	1.集団活動中・見守り	狭い場所で急いで走り抜けるため事故につながった。	クラスでの遊び方を園庭で考える機会を設け、安全に遊べるよう指導に遊べるようしていく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から迫いかけっこを遊ぶことを好当日友達と遊び一緒に遊び始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で追いかけっこをして遊んでいる姿を把握していたが、大型で遊ぶブロックで遊ぶ幼児を見ていたため、対象児が逆上がり補助器具に乗った瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジム付近に加配児の見守りとして、対象児の動きを見ていなかった	担任ではなくて、周りの幼児が安全に遊べているか、職員全体で幼児を見れると良かった。危機管理意識が薄かったのではないか。	園庭で遊ぶ際に、保育者の立ち位置や職員間の連携も密に図れるよう、再度クラスや学年で動きを整理していく。	
7171	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	新しい靴を履いており、履き慣れていなかった。	子ども達の体調や高ぶった気持ち受けの時間や高ぶった時間所に配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に溝ができや すい。	引き継ぎ、定期的に安全点検を行っていく。	3.個人活動中・見守り	危険性を考え、保育内容や育場所を考える必要があった。	子どもの体調を把握し、遊ぶ場所や時間に配慮していく。	1.いつもどおりの子であった	鬼ごっこ中に走っているところに立ちこ他児尽くしている姿があった。	3.対象児の動きを見ていなかった	片付けの時間を知らせるために、離れたところに立っていた子ども基児の本の所へ向かって途中いるだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者が1名で保育していたため、他保育教諭はいなかった。	保育教諭一人対応し、遊ぶ範囲が広かった。	子どもの体調や活動によって、保育人数を調整しく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7172	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	26		6	20						5	5	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指） 左肘上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	職員配置は基準をしたが、職員は満4歳児クラスの保育士が多く、園の環境に慣れていない児童を見守る保育教諭の立ち位置が適切でばない。危険箇所では注意深く見守りが必要である。	園内の危険箇所を点検し、危ないと思われるところは起こる事故が改善とするように、職員間で共有し危機意識を持つ。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	普段からベンチの下では絵を見て座ったり、ペンチの上に立ち上がり、15cmという段差があるため足を踏み外すことがあり、骨折することもある。	遊ぶ場所は座ることができるよう下に敷物を敷き、安全に遊ぶ環境を整えるように、職員が見守りを行う。	1. 集団活動中・見守り	進級して間もない頃であり、遊び方や分かっていない。	新年度の始まりで慣れない環境の中に一人一人の子どもに丁寧に関わり援助する。	1. いつもお様子であった	いつもと変わらない様子で両手に玩具を持ち遊んでいて、窓辺のベンチに立ち外を眺めて直っていたときに窓を踏み外して転倒した。	3. 対象児が離れたところ対象児を見ていた	対象児の見ていた様子を見ていたが、対象児が外にいる児が眺めていたらと思ったり返った時に足を踏み外して手を差し伸べる間もなかった。	2. 担当者・発表者・観察児を見ていなかった	当対象児の動きを見て、対象児が転倒するところは見ていなかった。	他の園児が泣いたり上りすぎて保育教諭が手を差し伸べる位置にかければならかった。	窓辺のベンチに園児が泣いたり上りすぎて保育教諭が手を差し伸べる位置にかければならかった。	段差があったと危険だと思われる箇所では必ずに近くに保育教諭が付き、園児に対して注意喚起するような声がけをする。また普段から、園内の環境に危なおいと思われる箇所がある場合は意見を出し、職員間で検討し事故発生防止につなげていく。	
7173	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	2. 1歳児クラス	36									7	5	13. 1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む） 上顎の打撲による撲滅入、右前歯の脱落 左前歯の脱落	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	当日の出席数のグループ分けを下にループけをし、教育・保育ってい。	危機管理振り返りシートを用いてコーナー会議にて合い話しをしている。日々の危険箇所への意識を共有をしている。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	頻	保育室からランチルームへ狭い通路付近に向かう設置したテーブルの棚につかったこと。	入口付近の角にナーションを貼り、本棚を置いたことや職員がいなかったこと。	1. 集団活動中・見守り	ランチルームの入口付近の棚を置いたことや職員がいなかったこと。	入口付近の角にナーションを貼ってくださったと反省した。	1. いつもお様子であった	体を動かすことが好きで、歩き歩いたり、足元に物がつまずいて転ぶことが多い。	2. 対象児の近く対象児を見た	部屋の移動をして、何もとして、ないと躓く、静止掛け間もない出来あって事であった。	1. 担当者・発表者・観察児を見た（至近距離にいた）	全体を目を向けて供の様子を確認したが、全体の様子が測れず、とっさに対応できなかったため。	入口付近の狭い場所における転倒、衝突などの危険予測や子供の動きを静止出来なかったこと。	全体を把握する職員に、狭い場所である入口付近に配置し、掛け合い適切な安全保育に努めること。	
7174	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	4. 3歳児クラス	17									2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面（口腔内含む） 上前歯（乳歯）2本の骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	この集団遊びにおいて、事前の子どもの行動への働かけが足りなかった。また、子どもの行動が突発的に対する危険予測に対する職員の危険予測が充分でない。	遊び始めの集団遊びに子どもたちが安全に遊ぶためのルールについて伝えるのに担任からかりしっかり伝えるとともに、子どもたちが活動できるようにきるようにする。また、職員打合せで共有し、職員間で共有し、職員打合せで共有し、職員間で共有し、職員打合せで共有し、職員間で共有し

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7177	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	70								5	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期に実施	2	1. 基準以上配置	着座し、足を手すりつかんで掃らすルールだった。が、発達に即した遊び方の変化について、遊び方の変化(地面に付くほど大きく掃らす)に対応できていなかった。	マニュアルだけでなく、職員間で遊び方の変化を読み取り、情報交換を行い、適切に対応する。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	特になし	職員の情報共有はもちろん、保護者を含め、危険箇所を日常的にチェックし改善する。	1. 集団活動中・見守り	ドッジボールの審判をしている背後で事故が起きた。担任が見られていなかった。	それぞれの遊びをする子を見られるよう、視野を広げ、死角にならないような立ち位置をとる。	1. いつもおなじりの様子であった	ウサギの遊具を勢いよく揺らした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任は、ドッジボールの審判をしていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場とウサギの遊具の中間で見守っていた。	ドッジボールの審判をしている背後で事故が起きた。担任が見られていなかった。	足を入れて乗る、掃らす加減を調整するなどの声かけが必要であった。保育者がそれぞれの遊びをしている子への見守りの意識を高める。	
7178	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	25								1	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期に実施	12	1. 基準以上配置	本児が最近サッカー遊びに興味を持ち、気持ちが先走り行動が伴わなかった	ボールをとるときは、落ちて蹴って着いてるをかける	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	遊びの状況により、空間を確保する	1. 集団活動中・見守り	—	子どもの遊び方について、安全であるかの確認を行う	1. いつもおなじりの様子であった	—	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭の中央に立ち、子どもたちの遊びを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	園庭には、担当人数は子どもを見ていた	3歳児の担当職員は、通常2名の配置であるが、全員4歳の誕生日を迎えており、子ども達も落ち着いて遊んでいたため、1人で見守っていた。	子ども・保育者の状況によっては、もう一人職員を配置する	
7179	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24								4	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	日々のミーティング等で安全管理について共通確認を行う努めているが、全職員にての不十分であった面があるがあった。	全職員で安全な遊具の遊び方を再度確認し、園児再度指導を行う。戸外遊び時には、危険な遊び方をしているときは、その都度、丁寧に遊び方を指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	(数) 回/年	遊具に破損等は見られない。パイ滑りやいすとも無かった。園児の動きを見て、配慮するがあった。	園児が事故なくそう場所、状況において、職員を配置し安全管理する。	3. 個人活動中・見守り	他のクラス交流はなく、広場は見通しよくて全ての見通しは出来た。園児が落ちないかかる様子が見られた際には、見守り担当者の人数を調整する必要があった。	園児の動きを見て、見守り担当者人数を調整する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は、雲梯ができるようになったばかりでなく、太鼓橋の下で楽しく、太鼓橋のように棒へ渡ることを楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の対象児のそばで見ていたが、本児が落下する瞬間を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった。	他の職員が落ちないように、担当者が児を見ていた。	園児のそばに担当教諭はフリー保育教諭で、日頃の本児の様子を把握できていない面もあった。	フリー保育教諭に引き継ぐ際、園児の様子を伝える必要がある。また、対象園児の動きを見て、遊び方の注意喚起を再度行う必要があった。	
7180	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48			26		22			4				1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期に実施	4～5	1. 基準以上配置	マニュアルに載っているような遊具の事故だけでなく、園が遊びの可能性などの事故が起こすいような事故が有具やすいかの検討や必要。	職員会議で定期的に事故等マニュアルについて合わせを行う。自園で起きたヒヤリハットや事故について、職員会議で共有する。外部講師による研修を増やし、専門的な知識を身につける。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	該当遊具は、懸垂運動系遊具である。遊具下にラバーマットを引いている。	ラバーマットの適さが厚さしている再度確認し、劣化が認められる際は交換する。	1. 集団活動中・見守り	新学期初めであったが、対象日までに全園児に全園児に向けに園庭の遊びにお話をお行っていなかった。	新学期始まってすぐ全園児に向けにおお話と、クラス毎に外遊びの前に注意や確認事項のお話を行う。	1. いつもおお様子であった	普段通り園庭で元気達と遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊具対象児のうちい付近でクラス子と関わった。対象落下する瞬間も見ていたもの、対象児に手を降りにたした見め、見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	砂場や滑台付近で各担当のクラスの様子を見ていた。園児を守ったため、見かった。	—	遊具には必ず職員を配置した上で、転倒や転落に備えた位置につっ。	
7181	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50	3	5	10	11	8	13		12		11	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期に実施	2	1. 基準以上配置	新年度初めの保育ともあることもあり、今年度の研修は実施ていつ等実施できなかった。	・保育を際する際は、常に全体を見よ渡せるよう職員を配置する。・研修以外でも、定期的にミーティング等で安全確認について共有する。	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	約3	2. 不定期に実施	約3	ある程度あり高る遊具であるため、見守りの職員を配置するべきだった。	遊具の撤去は現在検討していないため、子どもたちの見る状況から職員の配置を徹底する。	3. 個人活動中・見守り	進級当時子どもの状況や体力をもたの把握しないまま外遊びをしてしまった。	・遊具付近に砂を盛り、落下の衝撃を和らげる。・状況に応じて子どもの様子が変化することを念頭に置いて子観察ものを注意深くそのを行い、その子に合った遊びを提供する。	1. いつもおお様子であった	体調等いつもとおりの様子だった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	落下したこの対象児含め活動中の見守りを園児の見守りをしていた。別の遊具で遊ぶ園児の見守りをしていた対象落下が、遊具で遊ぶ園児の際に対象児し、差られかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	別の遊具で遊ぶ園児の見守りをしていた対象児の動きを見ていなかった。	対象児に遊具で遊ぶ注意喚起(声掛け)をしきていなかった。	遊ぶ前と遊ぶ最中に、遊具の使い方をしっかりと伝え、安全面に考慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面					環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7182	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)										0		0	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	2. 基準配置	保育時間以外だったためシューズよりも配慮くなかったシューズを履くことを配慮できた。	保育時間以外も園舎内ではシューズを履くよう指導する。	2. 不定期に実施	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	2	待ち時間がありたためお遊戯室に入って遊んでしまった。	保育者が配置できない場合は、使用はしないようにする。	7. その他	保育時間外だったため、保護者任せていた。	園内での子どもの安全な過ごし方を保護者に周知するとともに、子どもにもシューズを履くお遊戯室等、靴下で走らないなど指導する。	1. いつもどおりの様子であった	保護者、姉と一緒に個人懇談の順番を待つ間、お遊戯室で遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	個人懇談を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	個人懇談や保育の準備等をしていた。	保護者が一緒にいたため、職員を配置していなかった。	お遊戯室を使用する場合は、職員を配置する。	
7183	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	54			15	23	16			2		2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準以上配置	職員は配置しても降り飛び降りる場面を阻止できない	遊具を開場放する時間帯に担当職員を配置し、声かけ見守り、飛び降り前に止める	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	パーテーションを設置いなかった	パーテーションをとりロにことで走りロ側づい、飛び降りたる機会を無くす	1. 集団活動中・見守り	飛び降りかもしれない状況を予想できなかった	・職員間で安全に使用できるルールを確認する ・遊具の方を子どもたちに使い改めてもらとし、降り口から飛び降りて怪我をする事故を予防する	1. いつもどおりの様子であった	仲の良い友達がいたので、一人で遊んでいる認識だった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	入り口側で見ていたが、口は職員がいなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所の担当をしていた	遊具を開放した職員が、降り口側の職員に声をかけなかった	遊具を開放する場合、必ず声を掛け合う	
7184	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18								1		1	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	—	園庭に異常はなかった。ボールも日頃使用しているものに異常はなかった。	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	対象児がボールを投げあうことを担当職員(担任)に提案した。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接した)	対象児がボールを受け取りやすいよう、担当職員(担任)は意識してゆっくりボールを投げた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時に、4歳児担当職員が同じ第1園庭で4歳児と戦取りゲームをしていたが、担当職員(担任)と対象児の動きは見ていなかった。	担当職員(担任)は対象児のボールの投げ方などを知っており、配慮しながらボールを投げあっていた。	比較的やわらかい幼児用ボールを使用し、対象児に対して取りやすいようにゆっくり下からボールを投げておりを特になし。	
7185	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24			12		12			1		1	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	乳歯外傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	マットを出す時も子ども達に注意事項等の声掛けをする	全体に目を配り、子ども達の行動を把握する	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日	マットは2枚しかなかったあせまい	マットを増やす	1. 集団活動中・守り	マットでジャンプしている時、転んで顔を打つ	遊ぶ前に注意点を話し、保育者も全体把握をする	1. いつもどおりの様子であった	マットでジャンプをした	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体把握をしながら子どもの活動にも目を配る	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人で保育を行っていた	子ども活動に職員の配置を行う	職員の人数を増やす	
7186	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21								1		1	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	なし	マニアルの確認を行い、事故防止につなげる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	安全点検員検を確認し、園庭環境を整備する。	1. 集団活動中・守り	なし	遊びの場所の確保など、再確認する。	1. いつもどおりの様子であった	元気に登園している。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから対象児の様遊びの様子をみていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を把握しながら保育で、本児が時点では、本児の動きは見ていない。	園庭の安全点検を毎日、これからも引き続き行っていきたい。	何もない所で、歩いての怪我なので、今後しない体つくりなの環境や指導の工夫を行っていく	
7187	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	64			24	23	17			3		3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右第5指基節骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	職員がジョドッボールを行う準備をする際に、園児が手持無沙汰になり沙汰ボールが始び遊びがまったと考えられる為、待ち方の工夫が必要だった。	座って待たせる。ボールを先に持たせない。周りを見て動するように行く指導。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	(園庭に出る都度)	1. 定期的に実施	12	遊び始めてボールがプラ、ブランター付ンター近くまで追い行しまって衝突し、怪我をさせた。	幼児の特性を理解し、要求があるため、慌てて行動し、二人で行かないように気をつけ指導する。	1. 集団活動中・守り	職員が準備しておいる際、手持無沙汰になると、別のことで遊びに出すことの特性に配慮していなかった面がある。	待っている間に園児に対して的確な指示を出す事。	1. いつもどおりの様子であった	日常と特に変わった様子はなかった。	2. 対象至児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近距離で見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭職員で他の園児を見ていた故、他の対応をしていた事故の為、を見ていなかった。	全体をなが児見ら他を見ていたが、職員が散配置していた為、事故現場付近は1名の職員のみとなった。	全体を見ながら、近くの園児と関わることで、遠くにいる園児の危険も察知できるようにする。	なく関わることで、遠くにいる園児の危険も察知できるようにする。	
7188	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	20								1		1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左手親指骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備・安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	1. 定期的に実施	220	なし	タオル掛倒転防止および交換を防止び交検討する。	4. 個人活動中・子どものみ	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	給食の片付けを行っている為、見ることは困難である。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の片付けを行っている為、見ることは困難である。	なし	なし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面																
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7189	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	39			11	15	13				5	5	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆状骨折	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	上腕骨顆状骨折（ぶつけた場所が違った場所が違う）のよな骨折についての知識が浅かった。	研修について、子どものけがについての内容や増や、様々な可能性を考える。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	—	歩道での事故	歩道を現場検証し、突発見られなかった。また、スペース的にも十分にもあった。	1. 集団活動中・見守り	・友だちの足がひっかった、歩道のちょっとしたくぼみにつまずいたなどの要因が挙げられるが、特定出来ていない。・友だちと手をつないでいたため、転倒時にうまくバランスをとることが出来なかったのかもしれない。・上腕骨顆状骨折が未発達の乳幼児に多い骨折であると医師からの説明があった。	・様々な可能性を考え、出来る限りリスクを減らせるよう、今後も散歩コースの下見や行程修を行う。・危ないときには、つないだ手を放し身を受け止めるなど、子どもにも伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	散歩から帰り道、友達と手をつないで歩道を歩いていた。体調・機嫌など普段と変わりなし。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子どもが5列になって歩道を歩いていたお、担任は列の先頭付近で引率した。職員が5名で間隔を取って子ども達の列に付き添いた。	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	転倒の瞬間は見ていないが、すぐに転倒したことに気が付いて様子を見に行った。自分上がったがが、腕を痛そうにしていたため声を掛けた。	腕に外傷がなかったため、肘内障脱臼を疑った。	上腕顆上骨折のような骨折という事を知り、可能性を考えて対応する。	
7190	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	117			22	33	32	30			41	29	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎部挫創	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころる	2. 不定期に実施	8	1. 基準以上配置	—	事故が起よ危なとこあった場合はすぐに職員に把握し、日子頃どもの遊ぶ姿を予測し、事故防止に努める。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	—	施設や遊具、玩具の安全点検は必ずいで行ったのでも実ていく。	1. 集団活動中・見守り	ジャングルジムで遊んでいる時に手が滑った。肘でジャングルジムを掴んだが、顎部を打ち、出血し、切りできた。危険なことはしていなかったが、手が滑り、が怪我をした。	遊具の遊び方を改めて確認し、遊具で遊んでいる時は手を離したり、危険なことをしたりしないとを改め伝えた。また、保育者も子どもが遊んでいる様子を把握するようにする。	1. いつもどおりの様子であった	日頃と変わらず、元気に過ごした。	3. 対象児から離れたところで対象児をていた	ジャングルジムで遊ぶ様子を遊ぶ離れたころから見ていたため、手が滑った時の状況は確認することはできた。手を出す距離ではなかったが、すぐに駆け寄り、対応ができた。	2. 担当者・象児の動きをていなかった	当対象児の動きを見なかた	園庭で職員で見回る重い行っている他で遊ぶ様子を見ていた。	職員の遊び方や約束事を確認して、子どもが怪我をさせずに遊べるように見守る必要がある。	—	遊具の遊び方や約束事を確認して、子どもが怪我をさせずに遊べるように見守る必要がある。	
7191	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	15									3	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころる	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	—	職員会議確認を再度する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	裏山での危機管理について職員間で確認し振り返りノートに危険場所を記入	1. 集団活動中・見守り	慌ててしまった。	慌てないように声掛けをする。靴のサイズを確認、足腰を鍛える。	1. いつもどおりの様子であった	集合の呼びかけでてあわてしまい転んでしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児をていた	集合場所に一人、全体を見渡せる場所に一人下に一人	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	裏山には3人他の職員は園庭、園内にいた。	—	裏山での危機管理について職員間で確認している	
7192	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	6									4	4	9. 8か月	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	1. 頭部	右後頭部陥没骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	事故防止に関する研修内容を充実を必要がある。研修内容に関する図る。（新年度、新体制時等に見合った内容性がある。）	ヒヤリハット、軽度事故報告、日々の振り返り現状を常時把握し、職員間で共有する。また、事故防止いて、常々の場面やその時期ならではの危険を想定し、対応策を検討する作機会を設ける等、研修内容の充実を図る。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	0歳クラス児は、発達上、衝突多いと考えた、しては、護者に行う等、の事故を防ぐ為、保育者は過程の子ども達に対する配慮や、入園児童の予測が難しく、入園児童の予測が難しく、保護者から聞き取りを行う等、児童や発達や癖、特徴を意識して注意深く見て必要がある。	子どもの発達に応じた環境及び安全に配慮した物品を見直し、改善を図る。また、子人ひとりの発達・発達過程について深く理解し、職員間で共有していく。	3. 個人活動中・守り	保育士が子どもらしい生活を送れるよう、保育士が子どもの発達に応じた環境を整え、子ども一人ひとりの発達・発達過程について深く理解し、職員間で共有していく。	子どもを抱き上げる際や抱き上げる際は、移動する際は、周囲の状況を注意深く確認した、危険や突発的な行動を予測して安全に抱き上げることを意識する。	1. いつもどおりの様子であった	翌日から家庭で保育園で経過観察中。嘔吐や食欲不振等にな特にない、あまく変わった様子はないと報告を受けている。	1. 対象児とマンマンの状態（対象児に接していた）	対象児とマンマンの状態で接しており、転落後すぐに対応した。	2. 担当者・象児の動きを見なかた	当対象児の動きを見なかた	他児のあ保育にあっていた。	入園直後は児童の配慮が必要であることと同時に、危険伴うことを認識しておく必要があると分析する。	入園前に保護者から児童の様子を詳しく聞き取る等情報を共有し、新入園児に危険事項を再確認する。また、職員間の連携や子どもの発達状況を把握する日々の振り返り等を大切にし、安全意識を高めていく。	
7193	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				16	14				2	2	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころる	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	—	マニュアルや研修を定期的に職員で確認し周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	事故防止のため、事故再発の確認が起きた場所の確認、職員周への知。	1. 集団活動中・見守り	—	ちょっとした一日をごしたれが出過ぎる時間帯であり、特に配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず活発で走ったり、遊ぶが、遊び中になり周りが見えなくなることもあるため、注意が必要だった。	3. 対象から離れたところで対象児をていた	全体を見守るほか、衝突危険が予想される場合は、状況に応じて声かけや制止がや必要だった。	2. 担当者・象児の動きをていなかった	当対象児の動きを見なかた	普段の様子から怪我などのリスクが起こりやすいことを予測して対応し、職員間で連携を図り、決定など間を担当として見守ることが必要。	人数基準は満たしているが、年度最終日の年度末であったため、卒園児、保護者への挨拶や次年度の準備で落ち着かない	基準の範囲ではあったが、年度最終日の年度末であったため、卒園児、保護者への挨拶や次年度の準備で落ち着かない	子どもの安全を最優先にし、特に夕方の時間帯の安全への配慮について職員一人ひとりに周知する。	
7194	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	33									3	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折（右足小指）	2. 自らの転倒・衝によるもの突ころる	1. 定期的に実施	1～2	1. 基準以上配置	マニュアルおよび周知・徹底の必要性。	職員に対してマニュアル・周知・徹底を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	定期的な点検をしっかりと行う。	引き続きな点検や行う。安全に使用できるよう確認する。	1. 集団活動中・見守り	午睡後の本児の様態。	午睡後、完全に目覚めるか等本人の状態の確認をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	寝起きにぼーっとするが。	4. 対象児から離れたところで対象児をていた	布団から出て歩き、ぶつけるなど、足をつまずいた瞬間は見なかった。	2. 担当者・象児の動きをていなかった	当対象児の動きを見なかた	着替え等、それぞれ所で子どもたちと関わっていた。	職員間の連携の確認。	職員間の連携の確認。	子どもたちが全体的に入るように見渡せる職員同士の声掛けを行っていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面						環境面						人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
7195	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	20									3	2	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	担任保育教諭2名うち1名が振替休日のため、他保育教諭と保育補助の3名で保育していた。	・担任保育教諭同士だけでなく、他保育教諭も連絡を密に。 ・ヒヤリハット研修の回数を増やして事故予防への共通理解を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	ロッカー角が張っていた。	ロッカー角ッション性ある保護材を装着する。	3. 個人活動中・見守り	園児テーブルの置かれ方がカーロッカーに近くにあり、遊ぶ場所が狭い状況にあった。	テーブル数を少なくし、置き場所がロッカーから離して遊び場所のスペースを広くする。	1. いつもどおりの様子であった	朝、登園して準備物整理をし、遊びていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	担任は他園児の準備物整理や連絡帳の確認をしながら、本児の様子も見ていたが、他園児との衝突を回避できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育教論1名は、本児や他園児の遊びの状況を見守りながら、遊びの環境を整備していた。	なし	担任、他保育教論、保育補助と連携を密にし、部屋全体の園児の動向を把握し危険回避に努める。	
7196	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	54			14	15	25				11	7	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	どのような状況で危険があれば遊び方を伝えるのか、子どもの想定する経験値やヒヤリとした場面の確認や検証が足りなかった。	固定遊具はもちろんもっと周囲にいる子どもたちが遊具に夢中でとしびれを切らしてしまうことを確認できるよう立ち位置を保育士にすぐ育うるようにする。マニュアル整備は今のところ予定はないが、職員で検討する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	事故当日は雨上がりで芝が少なくなっていて、滑って転ぶ可能性がある。	芝生が乾いていて滑ってないことを確認し、職員安全で、遊び方を共有し、同じ上で遊ぶ園庭にすることを心がける。	1. 集団活動中・見守り	職員は基準配置していたが、一人一人への目配りが足りなかった。	職員の立ち位置の確認や目配り行き届いていなかったため、会議で遊び方を共有し、職員で声かけ合いながら、一人が安全に遊ぶことができるように配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいて、気をとられていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	気付いたときには、ぶつかってしまったところを見った。	誰か見ているだろうという安全に対する意識の低さ。	どんな場所、遊びでもけがや事故につながる可能性があることを念頭に入れて、職員間で声をかけ合いながら、立ち位置を考えて子どもと向き合うようにする。	
7197	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35				17	18				4	4	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	10	1. 基準以上配置	—	一対一の関わりも重中でも重大な事故が起こることを再確認し、保育者が起こりうる事故の想定をくぐる対策を、園内危険箇所やつ行動ふまえ、職員で共有する。（ヒヤリ・メモの活用など）	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	—	木登りの補助となる物の設置位置、安定性や必要な補助補装置を設定し、経験を積ませずに、安全な活動を行えるよう、安全な活動が遊具設置する。	1. 集団活動中・見守り	子どもを活動次に誘導する際も、まざまな状況に留意し場面わりを把握できるようにする。	2・3日前から鼻水は出ていたが、元気がないとほどの体調不良はなかった。前日は母休暇の為、欠席している。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児にした）	自分で木から降りたいという意欲を大切にし、本児のタイミングで降りられるように声をかけながら隣で見守った。ロープの存在は確認していたが、他の女児がそばに寄る時にロープにふれ、本児が立木から降ろうとした瞬間にロープが足元に絡まってしまったため受け止めることができずケガにつながった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の為、他児を園舎内に誘導し、給食に活準備に移行しようていた。	—	そばで子どもと一対一の関わりをしていたが起こってまったので、子どもの意欲を大切にしつつ、取る・他児の動きを把握するなどの身体的な接触による安全確保をする。	
7198	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	74		3	26	22	23				6	6	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	12回以上	1. 基準以上配置	足がかけられる棒は普段は出さないと周知していた。	足がかけられる棒は普段は出さない。 足がかけられる棒は出さない知と周知した。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	体育遊びキッサートの時間以外は足がかけられる鉄棒をしまった。	移動式の鉄棒は、足がかけられるので体育遊びサーキットの時間以外は出さない。	1. 集団活動中・見守り	園庭遊びは異年齢なので特に注意が必要なので、研修をした。しかし事故が防げなかった非常に残念である。	前回り禁止、を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒で遊んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	鉄棒と雲梯で遊ぶ子どもの様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）	全に子どもが遊べるように、それぞれが違う位置で見ることにしており、当時は、園庭中央にいた10数人が鉄棒と雲梯と子どもを目の中に入れていたが、他児の対応をしていたため、落下した瞬間はみていない。落下直後は見ている。	全ての職員が、3秒～5秒に1回周囲を見渡せれば、未然に事故を防げと反省し、研修が活せていなかったと分析、反省した。	3秒～5秒に1回は園庭全体を見回す視野の広さを目指す。	
7199	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	51									4	4	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻の骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	特になし	高さのある遊具の周りに保育者が配置できるようにする。	1. 定期的に実施	51	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	特になし	事故のあったボールから離れた位置に遊具を設置し、接触が発生しないように変更した。	1. 集団活動中・見守り	遊具の高い場所からの飛び降りは危ない行為ため、禁止とていたが、徹底していなかった。	遊具での使い方、あそび方を改めて考察し、禁止事項について子どもたちに伝えて、徹底を図る。遊具で遊ぶ際は視察と声かけを徹底していく。	1. いつもどおりの様子であった	走ったり、跳んだり体をすこ動かすことを積極的にしている。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちのあそびにの関わりながらも全体をみまもっていたが、事故発生時は対象児のそばにいなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	全体を見守りながら子供たちと関わっており、対象児の動きも見ていたが、事故発生時に子どもを止めるのが間に合わなかった。	特になし	様々な場所を意識しながら全体を見守れるようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面				人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7206	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	3				2	1			2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果裂離骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	職員配置は基準にていが、ひとり児の至近にいが走りを防止することが可能であったかもしれない。	園児が屋内を走らないよう指導を徹底する。そのような状況になった場合には、職員が間に入って止めるなど防止に努める。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	残っている園児の人数に対して、保育室が広い状況だった。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったりにつやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。	3. 個人活動中・見守り	残っている園児の人数に対して、保育室が広い状況だった。そのためふざけて走り出すことが誘されて発可能性はある。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったり事故につながりやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。また、人数や時間帯にとっては、2部屋の間の仕切りを閉めて、面積を区切る（適切な範囲で、狭くする）ことで落ち着いた環境を作るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	普段から屋内、屋外ともに活発であり、この時もそうであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児3人の動きを視界に入れ、把握をしていたが、距離が数メートルあり、走りを止めることができなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	園児3人の動きを視界に入れ、把握をしていたが、視元に手を手に落とした瞬間に転倒した。	園児にさらに近い位置にいれば、走り出しを止められた可能性はある。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったり事故につながりやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。	
7207	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	240	3	8	10	71	76	72			19	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	—	現在、研修の頻度が少なく、学期内で起きた事故内容を取り上げて研修を行っているため、事前に予想される事故を想定する機会を設けるようにする。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	—	平坦な道（コンクリート）や園庭等の障害物が場も子どもが転倒した時にどのような怪我に繋がるかて予想して点検を行う。	3. 個人活動中・見守り	—	子どもが遊ぶ場所だけでなく、移動する道、子どもの動線を見守るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	室内で過ごす子どもたちを見守っていたため。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での自由遊びを見守っていたため。	—	子どもの姿を予想しながら常に全体把握を心掛けて見守る。また、必ず複数の目で見守るようにする。	
7208	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	240	3	8	10	71	76	72			19	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	打撲	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	—	現在、研修の頻度が少なく、学期内で起きた事故内容を取り上げて研修を行っているため、事前に予想される事故を想定する機会を設けるようにする。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	—	平坦な道（コンクリート）や園庭等の障害物が場も子どもが転倒したどのような怪我に繋がるかて予想して点検を行う。	3. 個人活動中・守り	—	園庭で見守る職員の立ち位置を細かく決めておき、職員間で連携をとりながらその日の状況に合わせて見守るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	室内で過ごす子どもたちを見守っていたため。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くには行いたが、他の子供の対応をしていたため。	—	子どもの姿を予想しながら常に全体把握を心掛けて見守る。また、必ず複数の目で見守るようにする。	
7209	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13									4	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙打撲	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置	園内に緩なみがたかったか考察する必要性を感じた	園内での事故予防に関して、職員間での共有を図っていきたい	2. 不定期に実施	2〜4	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	2〜3	—	改善策なし	1. 集団活動中・見守り	見守りのある中でのの活動ということで、事故の予測を遅らせてしまったが可能性が考えられる	より適切な見守りを考慮する意識を持てるようにしていきたい	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	生発生子ど達全体ていたが、対象児童かな事故の細かさまで事故は把握できていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	—	保育活動中、対象児の行動を十分に把握できていなかった可能性がある	職員の配置等、常に事故の危険性を考慮しながら保育にあたるようにしていきたい	
7210	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16									3	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首と尺骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	動きはゆっくりマイペースである。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園準備の全体の様子を守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた	特になし	慌ただしい時間ではあるが、子どもの様子を見しっかり見守り、連携をとりながら対応していく。	
7211	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36				17	19				20	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果刺離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	—	保育中に気がかたこと、子ども達の動きから予ることを、子ども達の動きから予ることを測できる事故について話し合う。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	—	定期的に環境整備を行い、十分なスペースのある園庭なので環境的な改善は必要ない。	1. いつもどおりの様子であった	他児と園庭や築山追いかけっこをしていた。築山奥に設置あるタイヤから飛び降りた際、他児の甲の上に乗ってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園児が安全に遊べるように見ていた。対象児が、対象児とあり距離がいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の園児が遊ぶのを見ており、対象児は見ていなかった。	築山は園庭の奥にあり、保育士からは見えない場所にあるため、対象児の動きが把握しにくかった。	保育士は、子どもたちの安全確認をしっかり行う。本児には、周囲に目を向けられるよう声をかけるとともに、全体にも遊びの約束を確認する。	
7212	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	28									2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨・尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	今後も子供の発達に応じた運動遊具の設定、介助についての研修、職員配置を継続する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	今後も安全点検を継続する	1. 集団活動中・見守り	特になし	今後も子供の運動発達に応じた運動遊具の設定を実施する	1. いつもどおりの様子であった	跳び箱3段が跳べるようになり、事故当日も意欲的に取り組んでいた	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱着地点すぐ横にいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の跳び箱を跳んでいる子供の指導していた	特になし	子供の動きから目を離さないことを今後も周知、徹底する	

No	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7213	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	16								3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右瞼裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	—	全職員に、子どもの動きを予測し対応することを周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	遊びの前に危険がないか安全確認を行う。	1. 集団活動中・見守り	—	保育室や使用する物に危険がないか安全確認を行う。椅子の扱い方を子どもに知らせていく。	1. いつもりの様子であった	椅子に座る際、他児の椅子を移動させようとしていた。	2. 対象至対児の近で対象児を見た	見ていたが、本児の転倒できこの予測ずとができなかった。	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	おやつ後手に洗い場に1人、混雑防止のトイレに1人分かれており、本児の近にいなかった。	—	子どもは予測できない動きをする為、普段から気を付けて見守り、怪我や事故の防止に努める。椅子の正しい扱い方を知らせる。	
7214	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13								3	3	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	顔面外傷性瘢痕	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	5	1. 基準以上配置	クラス内でヒヤリ・ハットの共有と、各自の危のハット危険予測の見、各自の危機意識に保育士任せで保育が行われている部分があった。	全職員危機管理研修を行う。6月からヒヤリハット記録を各クラスにて実施する。記録用のボードはクラスに常設し、誰もが記入、誰もが過去の記録を見られるようにする。ヒヤリハットも記録としてにクラスでは話し合いを行い、安全に関する統一事項（保育者の立ち位置や玩具の使い方等）を決めて実践する。また毎月安全係によりヒヤリハット分析し、結果を園全体で共有する。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	毎回	1. 定期的に実施	毎回	室内の安全点検、玩具の安全点検をクラス毎に任せになっていた。	事故防止ガイドラインのチェックリストをもとに、毎月安全点検を実施する。チェックの観点を理解するため点検は指導者と共に行い、改善策を確実に実施する。玩具の点検については、日常的に職員が点検をする中で当たっての留意点を明確に指導し、特に事故要因となった牛乳パックロックは手作り玩具のだけでなく、ごみ、柔らかさなど劣化の点検を必須とする。	1. 集団活動中・見守り	室内には木製の棚やテープが配置され、コーナーごとに玩具が設置されている。その中で牛乳パッククロックは、保育者がブロックコーナーに一本橋を作って渡る等の遊びに使用し、日頃から子ども自身も保育者の模倣をしながら遊ぶ。その為、遊びが誘発されるだけの量のブロックが棚に用意されていた。しかし、事故発生時は、保育教諭は棚の側で、子どもが無造作に出した状態で使用するのを見守っていた。	3歳児保育室のレイアウトを変更し、ブロック遊びに十分な空間を作る。ブロックで遊ぶ際は、棚から離れた場所（コーナー中央から壁側）までブロックを運んでから行う。ブロックの上に乗って遊ぶ場合には、保育者が足場となる前の四点や安全性が3歳児の発達に適切であるよう事前設定し、また側面の安全を確認してから行う。牛乳パックは、安定性を確保する場合は、種が14cm以上の物を使用する。高さは、3歳児クラスのバランス感覚に鑑みて、子どもが大人の手助けなくとれる場合は1段までとし、2段以上は必ず保育者が介助する。その際、保育者は棚への衝突を防げるよう棚側につき、また棚を背にしてコーナー一遊ぶ子ども全体の動きを把握する。	1. いつもりの様子であった	日頃より、バランスをとりながら体を動かす遊びを好む。この時も、無造作に重積みなった牛乳パックブロックの上に立つ遊びをしていた。	2. 対象至対児の近で対象児を見た	遊びを見守ろうと、すぐ側にはいていた。しかし、棚側ではなく、棚から離れた方から見ていた。	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	王様は部屋の反対側の位置から、全体を見る位置から見守る担当職員を遠くおいて、当該児の様子がお目で見ていた。当該児の様子から、その際に見守る担当職員は棚側からの良い方がという思はなかった。もう1名の援助者（妊娠中）は座って、周囲で遊ぶ子ども達の保育に従事していた。	事故発生時に側にいた担当職員はクラス担任ではあるが、入職2年目で経験は浅く、また2歳児クラスを受けは持つのは初めてである。対象児で側で、何かあれば手が伸びる距離で見守っていた為、全体を見ていた。主体は担当職員が棚側に立ち位置を変えるまでは思わなかった。	全体を見る職員は、子どもの動きだけでなく、特に新人や普段とは違う援助者が配置される場合には、職員の動きまでも把握し、立ち位置を指示する等の安全に配慮した環境構成を行う。	
7215	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	67	9	11	12	14	10	11		18	15	16. 4歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	合同保育（3・4才）での過ごし方、室外から室内への場面への変化への注意点の整備不足。	事故防止マニュアルの整備と職員への確認・周知を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	3	園児数に対し、遊びの場が広すぎであった。	適した広さを考慮し、安全を過ごせる範囲の見極めが必要である。	1. 集団活動中・見守り	本児の1日の活動・休息が適していなかった。園庭遊びから片付け・入室へ促す場合の配慮不足。	長時間過ごす園児への活動。休息の見直し。遊びから、片付け・入室への切り替え場面での点の見直し。	1. いつもりのお様子であった	標準時間保育内合同保育時間園庭遊びから片づけへ促がしていた	2. 対象至対児の近で対象児を見た	鉄棒と遊具を行き来する本児だち3名を友だ名をつけ、落下する瞬間はなかった。泣いている本児に駆け寄った。	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの園児をみていたため。	遊びから、片付け・入室への切り替え場面の注意が不足していた。	子どもへの言葉がけ、見守りの強化。遊具に遊んでいる園児への援助・配慮の徹底。	
7216	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15				4	5	6			2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	毎月、季節に合わせて玩具・固定について話合いをしていない。	毎月、季節に合わせて玩具・固定について話合いをする。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	ここから上には登らないということを職員に徹底的な理解を得てた。	ここまでは登っていいという印を付け、保育者も理解する。	1. 集団活動中・見守り	ここから上には、登らないというわかりやすい印を付けず、なぜ危険なのかを知らせることが確実にできていなかった。	ここまでは登っていいという印を付け、園児にも理解させる。	3. いつもりお子もと活発で活動的であった(理由を記載)	友達と一緒に登って一緒に登っていて、降りる時い合ってまっ眺てた。	2. 対象至対児の近で対象児を見た	見ていたが、急に本児が飛びてった手無び降りてしまった。立ちかった。	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいた。	職員同士声をかけあい、危険を感じ傍にいて、安全に見守れてなかった。	職員同士声をかけあ い、危険を感じ傍にいて、安全に見守る。	
7217	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	37			15			22			3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘 ひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	遊び方についての理解	座ってシーソーで遊ぶ	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	250	大型積木場の設置遊び所、遊び方	安全に遊び場所設置を全べる及び仕方ていの考えく	1. 集団活動中・見守り	普段遊びていない大型積木で遊び慣れて、ルールがまだんでいて伝わっていなかった	使い方を子ども達と考え、約束を守ようにするした	1. いつもりお様子であった	遊び慣れていないシーソー作って遊びしていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者対応をしていた為本児に気がつかなかった	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	迎えにきたお子さんのカックのチェックと、おもちゃのおもちゃのお子ども処理をおこないた	全体を見る届けが見るいなかった為	全体を見届ける人を必ず一人つける	
7218	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	26									3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	腹部打撲による腸からの出血	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	水筒を持って園庭へ移動する経験が初めての日であった。	・事故発生後に生活会議を行い、事故の概要と対策方法について話し合いを実施した。 ・園庭での水分補給のため水筒がなので、園児に水筒を必要で、園児のが運ぶのではなく、職員などがに入れて持ち運ぶ	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	—	・ログハウス内に水筒を置くと密にやすくなりなく、また紐が水筒に分けるため、園庭に出る近くに机と水置き場を設置し、適時補給する。	1. 集団活動中・見守り	—	園庭での現実活動は現実行通り施する。	1. いつもりお様子であった	負傷前はいつも通りりだった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児が離れた対象児から所で対象児を見ていたが、他児した他児を、他きたり、他応じ対象児を見ていた。	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	園庭内には複数の保育教諭がいて、各々担当児を観察し、保育していた。ため、保育者が、子どもの動きをみていなかった。	—	4歳児26人に対し、保育教諭3名の配置があり、現状維持に対応する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面				遊具の安全点検		玩具の安全点検				環境面			人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						発生時状況	死亡	負傷	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7219	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45			21		24				5	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	—	事故の状況を共有し、危険予察知で意識をきる意識付けを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	ほぼ毎日	鉄棒下のゴムマットだけでは怪我を防ぎきれない。	ゴムマットの下に、砂を敷くようにする。	3.個人活動中・見守り	友達の真似をしたいという心がまもの動きあった。	一人一人の動きにも目配りして活動に関わることを徹底する。	3.いつもより活発で活動のであった(理由を記載)	他児が出とられたことを自分も同じようってやってみたいという気持ちが強かったので、片付けを呼びかけても活動を止めなかった。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	片づけて入園内に入る時間となり、周りの子どもが遊に声を掛けていたので、気持ちが本児に集中していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一番近くにいた職員は、道具の片づけを行っていた。	—	先に園内に入った複数担任クラスから一人、外の片づけの見取りを行う。	
7220	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	95			32	33	30				9	9	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨幹部骨折及び左橈骨幹部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	禁止している遊び、ルール等を定期的に盛り込んだ。職員全体で共有していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	一	付近にある台よりの踏なるものを撤去する。	1.集団活動中・見守り	塀に登らないというルールが転園後も当該園児にも周知されていなかった。	遊べる場所遊べない場所、危険な場所等明確にルールを決め、園児に共有する。	3.いつもより活発で活動のであった(理由を記載)	活発な性格であり、4月より園児のある当園に転園されたことから、朝から活動的であった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	見守りの配置職員は満たしていたが、塀に乗っていることを確認後、下りるよう呼びかけたが実際に寄って抱きすぎ下ろすには間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	見守りの配置職員はいた、他のみが、場所をおり、怪我の現場を見ていなかった。	—	呼びかけに留まらず、必ずそばに行って抱き下ろす。職員同士でも声をかけあう。	
7221	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			3	10	2				2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5中足骨骨折、右母趾(第1)中足骨骨折	5.他児から危害えたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	子ども・職員間土間は遊ぶ場所で徹底がこういう周知ないこと足りていたがいるわるもいが合はよう話し合足りなかった。	職員間で合話し、遊ぶ場所ではないことを共通認識、マニュアルを改善した。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	本来、外(園庭)と中(室内)なっと用り、自由に行き来が出来る状況であった。	1.集団活動中・見守り	子どもの主体性を尊重つも、環境面の配慮が出来ていなかった。	遊んでいた場所は通路として子どもが出入りできる場所ではあるが、遊ぶための場所ではないという共通認識を教職員に周知し、今後場所で遊び始めた場合は声掛けし、環境を整えていく。	3.いつもより活発で活動のであった(理由を記載)	ごっこ遊びをしされる本児が作った玩具の取り合いっており、その後のトラブルが発生しやすい状況だった。	4.対象児のきていなかった	対象児を見取れる環境ではあった、他の子どもの合子様子もみたいたため、瞬間は背を向け、目を離していた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他のもの子どがいたため、対象児はいなかった。	子ども前後の言動から次の行動を予測したり、子どもの興味関心や上問題の遊び方取ることが不足していた。	遊び方等の見取りに関して、現場に関わる保育教諭で共有できるように話し合う。危険が予想される子どもに声掛けするタイミングや危険な場面の共通認識をもるよう配慮する。	
7222	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	研修も職員配置も十分に行っている為改善点なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	12	特記事項なし	点検は十分で改善なし	1.集団活動中・見守り	本児が遠くを見ていたため、足元を見ていなかった可能性がある	遊びに夢中になっていて立つなどを付けられに声を付け、自身で気を付けるように指導を行う。	1.いつもお様子のりであった	特に変はなく、普段わらと変わっていた。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	運動場全体を見ていた為、園児が落園下する瞬間が見れず、補助に間にわなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	運動場で他児の対応を行っていた	見守る園児の優先順位が極め出来ていなかった。	年長児だから大丈夫と思わず、遊具などの危険が伴う場所を重視して見れるようにする。	
7223	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	10									2	1	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左拇趾／第2足趾間裂創 左母趾剥離骨折	2.自転車事故例・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	園で発生した事故内容を振り返り、事例に基づいた研修を取り入れていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	一	安全点検内容を再検討し、必要箇所等を追加していく。（今回の事故現場は安全点検箇所に含まれていた）	1.集団活動中・見守り	—	活動に入る前の環境認員の確認や、職員の配置箇所など、事前確認を徹底する。	1.いつもお様子のりであった	おとなしい性格で、ブロックそびえ中ぶ。歌たり、指遊びでの模倣を楽しむ。一人おしゃべりが止まらなる一方、返すと小さな声になったり黙ってしまう事も多い。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	対象児がってをい走るの待った。転倒箇所がちょうどカーブになっり、死角なる場所だった。立ち位置からは約1～2メートルの範囲内だった為、泣いていることに気づくことが出来た。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の保育者の視界死角場からの転倒所での例だった為、見えなかった。	—	活動内容に応じて、靴を履かせるなどの対応をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面						環境面					人的面													
								人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7224	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	51			26	25				5	5	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折(全治2か月との診断)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	数	1. 基準以上配置	ジャング様遊ルジムの大型遊具からの転落事故。これまでも当該遊具を「近くにいる職員が監視担当すること」としていたが、誰が担当か、あいまいな部分があった。	・今回の事故を受け、大型遊具専門の担当者を配置。担当者はビブスを着用し、誰にでも一目で分かるようにする。 ・子どもにも「ビブスの先生がいない時は大型遊具は使えない」ことを徹底、子ども と大人の両面からの安全対策を図る。 ・上記の件を安全管理マニュアルに追記、職員に周知する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	1	事故後、大型遊具を点検自検したが、定性が不見つからなかった。	大型遊具担当職員は、遊具前直前にも遊具安全確認（用で濡れていないか・安定しているか等）を行う。	1. 集団活動中・見守り	事故当時、多くの子どもが園庭に出ていたが、明確な担当者がいなかった。	・大型遊具には必ず担当職員をつける。 ・すべての人から担当者が誰かわかる専用ビブスを着用する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもとなんら変わらない様子で園庭で元気に遊んでいた。	3. 対象から離れた児の場所にいたことで対象児を見ていた	大型遊具周辺にいたが、他の子ども行方が分からなくなったが、（数トル）離れた際に落下事故が起きてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスに園児を見ており、担当者・対象児を見ていなかった。	それまで特段問題がなかったことから、職員全体で大型遊具の危険性への認識が低かったことが考えられる。	事故後、各種会議（以上児職員会議・責任者・全体会議）で事故を検証。 対策案（大型遊具担当職員の配置等）を講じた。	
7225	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	34								3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施		1	2. 基準配置	—	職員間の連携を密にし、安全面に見落しのないよう職員配置に配慮する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	園庭に出陽付近に障害物や破損等がないか毎日点検する。	1. 集団活動中・見守り	午後の時間帯は集中が切れやすく、足元の階段に注意が向かず、ぼんやりしていた可能性。	注意散漫になりやすい時間帯の戸外遊びが事故につながりやすいことを確認したうえで、戸外での職員配置・活動内容を考慮する。	1. いつもどおりの様子であった	下足置き長靴を履き替え、戸外場で長靴に出る階段を降りようとする。	2. 対象至対象児の近く見ていた	（担任が先に園庭に出て）階段下で本児が階段を下りてくるのを見ていた。本児が階段を降り始め降り時、一瞬で転倒し手を出したが間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	園庭で遊んでいる子ども全体を見守っていた。本児が階段を下りくるまで見ていたが、一瞬で転倒し、すぐ本児に駆け寄る。	本児が靴をしっかり履いていたかどうか。（靴の中が不安定だった可能性）	下足置き場周辺で声掛け指導・安全確認をする。	
7226	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	34								3	3	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内顆骨折	1. 遊具等から転落・落下	2. なし	1. 定期的に実施		1	2. 基準配置	—	事故予防マニュアルを作成し、職員への周知を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	丸太遊具の高さを切る半分に。(約100cm➡50cm)	1. 集団活動中・見守り	—	職員を丸太遊具などの段差のある遊具周辺に配置し、安全指導を行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも自分で丸太遊具に登ったり降りたりして遊んでいたので、特に変わった行動はなかった。	2. 対象至児の近く対象児見ていた	本児が丸太の上に座っている姿を見ていり立ちながら足から降りたが、着地の際バランスを崩した瞬間すぐに手を伸ばしたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見守っていて、本児が丸太に座っている姿を確認していたが、降り瞬間気づかなかった。	本児が足元を見ずに降り可能性。	戸外に出る前の安全点検。園児に安全な遊び方を指導。	
7227	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13			1	8	4			3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		1	1. 基準以上配置	鍛錬を必ずしも必要なことが足腰を鍛えること、教諭等も興味を感じる体操に関心を持つこと	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	障害物等ない場所であるため原因となるものがない。	ハード面で改善ないまま対策を考えます。	1. 集団活動中・見守り	当日、入園式であった。この日は前日行っていたお昼寝を終了していたので、疲れが残っていたと思われる。	お昼寝がとれない日は、活動の内容を考え、室内にゆっくり休める場所を作り、身体を休ませることができるようにする。	2. いつもと元気かった（理由を記載）	前日、休みで病院で通っていたため、万全の体調でなかった。	2. 対象至児の近く対象児見ていた	当日保育園児を連れて来たが、一緒にごっこ遊びをしたいと行ったが、お迎えに来た子どもたちの対応を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	4月7日当日入園式の園児、入園式を行い、片付け、次の準備日にあたっていた。	体調不良・疲れが残っていたかもしれない。等なかったかもっと確認すべきであった。	体調不良で欠席の日、長時間預かりの子どもには、15：30頃体調をもう一度確認するようにする。	
7228	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14								1	1	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施		3	2. 基準配置	アプローチの仕方は土で比較的柔らかいが、下の部分に下の部分は硬くて危険と識る。	今回の事故を参考にし、完実した研修を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		鉄棒の下部分は柔らかい識した。	はなくゴムチップや芝生を敷き、鉄棒の落下にも安全できるように、業者と検討する。	1. 集団活動中・見守り	環境面には特に問題なし。	活動内容や活動環境は適切だった。	1. いつもどおりの様子であった	体調に変なくなりわり登園した。	3. 対象至児の近く対象児見ていた	他の遊具のジョイントの近くに、全体のジョイントを見ていたが、鉄棒のくにくなった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日クラス担当が一年中1人で見ていた。	鉄棒がお好きな多くの児が、瞬間的に児が鉄棒にたくさん集まることも多くある。	鉄棒遊びのルール（一人ずつ、鉄棒の上に座るためにに登らない。）を明確にし、園児もが理解しやすいように保育教諭から伝える。	
7229	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	6		3	3					3	2	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	送迎時でが出入りかった激しした。	送迎時の人事体制を見直す。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	おもちゃ箱の配置	箱の撤去	3. 個人活動中・見守り	遊具の置き場所	遊具の撤去と環境見直し設定の見直し	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象至児の近く対象児見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にい	—	子どもが背後にいてしまった。	子どもが背後にならないような人的配置を行う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7230	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									1	1	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A AB 外傷性亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	こども達の活動移行の際の職員の動線と、こどもの歩き再度伝えていく。こへ達へ廊下の方を	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	長い直線の廊下は心理的に、こどもも達の走りたいという気持ちを生む	廊下の中央にマーカーを置くなどして走りにくい環境を検討。また、翌年度の教室配置の変更も視野に入れて考えていく。	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	15：00頃おやつを食べ終わり、うがいへでかけた。うがいが終わり、教室へ戻る為、廊下を歩いている時に、後ろ向きに歩いていた子と衝突した。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつ後の清掃・片付けを行っており、本児の怪我をした瞬間を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当クラスは一人担任であった為、他の職員はいなかった	進級間もない時期でもある為、うがいや排泄に向かう際の、廊下の歩きの伝え方の不足や保育教諭の配慮の不足	日頃より、全職員が廊下を前を向いて歩くことや走らないことを徹底して伝えていくと共に、保育教諭も十分配慮する。	
7231	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59			18	20	21				5	5	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部外顆骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	大型遊具の職員配置１名のマニュアルのが不十分とだと考えられる。	大型遊具配置を１名に見直し、マニュアルに記載する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		特になし	遊具提供とケガの情報共有して、対応を仰いだ。	1.集団活動中・見守り	特になし	職員間で対象遊具に起こりうる危険性について再度検討し、共通理解した。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	別の危険個所（トリックラダー）を見ており、対象動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の個所しを担当していた。	大型遊具に職員を１人配置していたが、別の危険個所（トリックラダー）を見ていた。	大型遊具使用の際は、職員を２名配置し、クライミングウォールとトリックラダーの危険個所２箇所を見るようにする。	
7232	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	63									4	4	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故発生時転倒の見ていなかった。	職員間で連携し、子どもの活動の把握を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12回以上	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守り	特記事項なし	転倒しやすい場所や怪我につながり場面もたちと確認し合う	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は近くにいたものの、他の園児に対応していた時、本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配担当者は加配児を見ていた。	対象児が転倒する間を見ていなかった。	他の職員と連携し、園児の細やかな観察を行う。	
7233	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	101				42	59				9	9	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕尺骨骨折、橈骨脱臼	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準配置	本児が他の様子見て、本児を鉄棒をやってみたいという気持ちが高ぶっていた。	やってみたい気持ちを受け止めながらも、気持ちを落ち着けるように言葉をかけていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本児に対し鉄棒として高さが高かった。	固定遊具を使う際は、園児の発達や大きさに合ったものの確認する。	3.個人活動中・見守り	危険性を考慮し、保育内容を考える固定遊具を使う制限する必要があった。	子どもの発達をよく把握し、発達に合った遊び方を提案していく。	1.いつもどおりの様子であった	他児が鉄棒をいるを見ていた。興味をもっていた。	1.対象児とマンマンの状態（対象児に接していた）	保育教諭が本児を支えて、前回りをさせるため鉄棒に乗せた。回ろうとしている際にも、近くで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれクラスの園児の遊びを見ていた。	保育教諭1人に対して、3人園児が鉄棒で遊んでおり、他児も見ていた。	鉄棒の内容によって、個別にしたり、園児の人数を制限する。	
7235	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5			3	2					1	1	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし。	勉強会や安全委員会で事故の検証を行い改善・予防に努めているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし。	破損等今回の怪我につながる原因はなし。	3.個人活動中・見守り	待つに飽きて遊びはじめ、ことしまった園児に注意の声掛けが足り、立っている不安定な衝突という危険予知ができなかったこと。	待っている時間が長くなることが予想されるときは、座って待ってもらうことを提案し、園児が落ち着いて待てるような言葉をしていくく。	1.いつもどおりの様子であった	身支度を他の身終え児の支度が終わるのを待る時間だった。	2.対象児の至で対象児を見ていた	本児を含め当時5名の園児の降園準備の様子を見守っていた。	他の職員はいなかった。	ほかの児が支度を終えるまでの待ことになっていたが、おもんしんぶんの園児への注意の声掛けができていなかった。	遊ぶ時間、準備時間、待ち時間などその時々のルールを子どもたちへ伝え、けじめある態度がとれるように指導していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7236	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	—	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		—	特になし	3.個人活動中・見守り	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当対象児の動きを見ていなかった	—	転倒による事故防ぐことはできなかったが、担任が本児の様子に気づいたら、もっと早い対応が取れたと考える。	園児の様子にもっと気を配る、また何でも話せる関係づくりに努める。	
7237	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			10	10	10				2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	—	全職員に事故の報告をし、検状況や検証内容も伝え、危機意識を高めていった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	こ安全するなスペースの保証。鬼をを全ペースの保証。	今回はってき三輪車突っ三輪車衝突した三つケースのあるので、三つケースのあるので、連や片よにけるう、職員同士で徹底した。	1.集団活動中・見守り	鬼をるとにこの三輪車道通りがあった。	いろいろなあそびかがそこで行われていた。三通りの鬼ごっこの配置を変更したり、見れるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	取っこ鬼ごっこで、鬼に追いかけられて必死で逃げていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから、見ていた。	1.担当対象児の動きを見た(至近距離にいた)	当クラスが現在の職員は見ていた。他の職員の衝突の様子は見ていた。	—	あそびの見守りと危険の察知について職員の配置を見直す。	
7238	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				20	30				3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	人工呼吸器ユニット118番を設置し、定期的に園内研修。	園内研修にて全職員で事故防止マニュアル、事故発生時の再確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	玩具の破損は、その態度、修理している。	全職員で、子どもの安全でも達の安ついても心、安全についてつ配慮し、携連携していく。	1.集団活動中・見守り	—	園内研修、職員で会議にて子ども達一人ひとりの発達状況や発達状況を把握し共通理解を深める。全職員の改革に取り組む。	3.いつもどおり活発で活動的であった(理由を記載)	日頃は、虫探しや砂場遊びを好んでしていた。3歳児クラス時は、一歩橋に興味を示し座ることを繰り返しで楽しんでいたが、4歳児クラスになっても挑戦する姿は見られなかった。今回、関心を示し一歩橋の途中から座ったが、転倒して今回のけがになる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	A職員：15時30分頃から園庭遊びは、お迎え者のもしつ、全体的な見守りを行っていた。また、対象児が一歩橋に挑戦する姿も把握し、ところ見ていたから守った。B職員：園児の着替えで、園庭にはいなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	C職員、D職員は園庭全体の子ども達を、見守っていたが、A職員の位置は、対象児が見えた、他のからは見ていなかった。	—	保育教諭が子ども達一人ひとりの日常の言動、生活などの状態や家庭との連携を通して、発育や発達状況を把握共有し、園内外活動を見守り、場合によっては制止する。	
7239	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	116			38	34	44				13	9	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上上腕骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	—	木登りを行う際、落下防止為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	引き続き点検を行っていく	3.個人活動中・見守り	—	園庭が広い為、見通しが更に良くなるように園庭整備を進めている。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に過ごした	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに居たが、転落時駆けが寄った間に合わなかった	2.担当対象児の動きを見ていなかった	木登りを行う際、落下防止為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	木登りを行う際、落下防止為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	園庭で活動の職員の人数により使える範囲を決めていく。	
7240	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	今年度、職員会議等で危機管理マニュアルの共通理解ができていなかったため、職員管理に対する意識が薄くなっていた。	危機管理マニュアルをもとに園の危機管理について会議を行い共通理解をする。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	園児のサーキット遊びの経験の差があることから、保育教諭には全体にも目を向けていたため、本児が巧技台から飛びマットから降りいうち、次に飛ぶ巧技台の児が降りると危険ということの指導、援助ができなかった。	保育者の補助が必要であったりや平均台を保育教諭が付かなくても遊べる遊具に組み替え、全体を対応する保育教諭を増やすことで巧技台に付く保育教諭は巧技台ジャンプと安全に集中する。	1.いつもどおりの様子であった	サーキット遊びを繰り返し楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていたかった	巧技台のには近くに居たが全体の園児の様子を見ていて巧技台を見ている本児に注目して見っなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	はしごとの平均台のところで1名ずつ補助を行い、1名は危険な遊び方をしていたり、走り回る児を遊びにたりしていたり誘っていたりしていなかった。	巧技台に付いている保育教諭は、サーキット遊びに慣れていない児のことが気になり、安全に巧技台ジャンプがよ児を指導、援助できていない時間があった。	保育教諭は担当している巧技台で安全に遊ぶ補助を行うとともに、かつ全体にを向ける意識を持つ。また複数の保育者のそれぞれの役割を見直し、必要であればサーキット遊びの組み合わせ内容を見直す。	

No	概要				発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7241	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21	3	18						8	8	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	上口唇部裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	子どもの発達に応じた職員間で確認し、危険性を事前に共有する。予測しない事態への対応を必ずする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	床が滑りやすい場所であったか、事前に確認する必要がある	滑りやすい部分には、処置を施す	1. 集団活動中・見守り	一人一人歩行の発達状況にあわせた動きを予想できていなかった	一人一人の見守り方を周知する	1. いつもどおりの様子であった	本児が好きなこと へ行き、探索を楽しんでいた	2. 対象至近で対象児を見ていた	各所に配置していた遊具に保育教諭は配置していたが、本児に手を差べ伸しを伸べることができなかった	1. 担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	離れた場所についたので、手を差べられなかった	保育教諭の人数は揃っていたが、事故が発生したので直し必要	子どもたちの行動や事故予測に対し、日頃から職員間で話し合い安全に遊べるようにする	
7242	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	93								10	10	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈小指中手骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	園外保育も1歳以上に子どもが見て子ども一人ずつ意識があるという意識が低かった。	1～2	1	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	特になし。	遊ぶ前に点検をしたが異常なく、遊具には問題はなかった。	1. 集団活動中・見守り	いつもより興味も増すが、事故に注意する声掛けが不足していた。	事前に子ども一人一人の発達を落ち着かせて、約束事を行い安全に遊べるように見守る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育でいつもと違う環境に興奮しており動揺した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	滑り台でいつもは遊んでいることは認識しており、本児がいつもより興味深く、急い台で滑りを登ることは見ていたが、転倒の瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具には最低1人の保育教諭がつき、その保育園の中をそれぞれ見回っていた。転倒の瞬間は見ていない。	2方向のすべり台に対して1名の配置だった。1名では角りとしては不分であった。	2方向、それぞれに付くよう2名の配置にする。遊具に適した人員配置にする。	
7243	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19			7	5	7			4	4	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	特になし	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	戸口付近に遊具を置かない。	3. 個人活動中・見守り	特になし	気温や園児の状況を見て、早めに扉を閉めて冷房を入れる。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでおり、これ事故は全くなかったまでに事全くなので、今回の事故の予測がつかなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の組の園児を見守りを行っていた。	特になし	高い所等危ないない場面になりそうな子どもへは早め早めの声掛けを行う。	
7244	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	5								1	1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	事故発生の場所、時間などを記録し、共有化する	2	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1. いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	隣にある鉄棒を使っていた園児がいたので、そちらの補助と見守りをしていたため、該当児を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも園庭で遊んでいる園児がいたため、そちらを見ていて該当児は見ていなかった。	特になし	雲梯を利用するときには必ず保育教諭がその場につくようにする。滑りやすくないか点検する。	
7245	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	27								2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	—	園庭での過ごし方を再度検討し、職員にも伝えた。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	園庭が滑りやすい箇所があった。	園庭の砂の部分は小石があったり滑りやすくしてあって、所々の点検を日々するようにした。	1. 集団活動中・見守り	—	園庭での子どもたちの見守り再方も再検討した。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと同じように園庭で遊んだ。友達を追いかけ転んだ。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	園庭で遊んでいた他ども園の子とを達みていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当—	—	園庭での過ごし方など話し合いをした。改善	
7246	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	95			32	31	32			9	9	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	保育教諭が片付けをしているが、他の子どもたちと一緒に片付けをしていない箇所を目を配らなければならない箇所まで目を配せていった。	総合遊具等怪我をするリスクがある遊具がある箇所では、保育教諭が見守る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	雲梯の使用時の落下を考え、地面にはマットを敷いている。本児の発達状況も運動面は問題なく、特に問題は無く、雲梯遊びをしている。雲梯に使用時ついては、ぶらいていた時に落下コントロールがうまくかず肘を形ついた体のでで落てしまった。	園児の落下を考え、地面にはマットを敷いており、ハード面では特に問題はないと考えている。	1. 集団活動中・見守り	全体を見ながらはある、各コーナーに保育教諭が分散していた。	子どもたちがそれぞれの部屋へ入る前へ入る、全体を見る保育教諭を配置する	1. いつもどおりの様子であった	雲梯で2本とりをしてとつけた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	各コーナーの片子を達した雲梯として本児いた、ぶりを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各コーナーの片子とした雲梯として本児いた、ぶりを見ていなかった。	各コーナーの片づけをしていたため、総合遊具など遊んでいるを見ていなかったため。	子どもたちがそれぞれの部屋へ入る全体を見る保育教諭を配置する。また、雲梯遊びの方法についても、子どもの力量にあった活動かどうか確認し、危険なようであれば声掛けをして行動を抑止をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7247	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	49				20	29				4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施		1. 基準以上配置	—	園庭で遊ぶ子どもの監視、保育者の配置を改善する（危険な遊び方に気付ける配置）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	—	特になし	3. 個人活動中・見守り	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	遊具から隣にあるテラス砂場テントの梁を目掛けて高くジャンプする遊びをしようとしていた。ジャンプした際、体勢を崩し、左腕から着地する状態になっ	4. 対象児の動きをしていなかった	・本児からは離れた場所の遊具で遊ぶ園児の見守りをしていた・他の職員に呼ばれ、本児のケガを確認した・保護者に連絡し受診を依頼した	2. 担当者・対象児の動きをしていなかった	・本児が転倒した音し、すぐに状況把握に努めた・担当職員を呼んだ	—	子どもたちが死角に入らない位置、全体を見渡せる位置に職員を配置し、監視をする	
7248	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	105			52	53					8	8	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	戸外遊び中の遊具の監視における危険察知の甘さが要因であると思われる。	職員の立ち位置、見守りの方法を再確認	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	—	戸外遊びの際、園児の年齢や配置職員の人数に応じた使用を禁止の掲示を行い注意を喚起する。	1. 集団活動中・見守り	戸外遊びと給食配膳の時間が重なり、園庭配置が午前11時30分より2名減っていた。	午前11時30分からは危険が予測される遊具の使用を取りやめ、ブランコも取り外すこととする。	1. いつもどおりの様子であった	●●によじ登り、滑り降りようとしていた。	3. 対象児から離れたところ対象見ていた	ジャングジムルジム●●の2か所を見ていた。他の遊びをしている園児にも取られていた。	2. 担当者・対象児の動きをしていなかった	それぞれにいが側にお見り、該当児遊ていなかった。	比較的低い遊具で事故の例が多いこと、危険性の認知度が低かった。	不自然な動きをしている園児を見つけることが出来るよう、少し離れた位置より全体を見渡す役目の職員を配置する。ヒヤリハットマップの内容をさらに精査する。	
7249	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	63			39	24					3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左下腿骨幹部骨折らせん骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施		1. 基準以上配置	特記事項なし	研修も職員配置も十分に行っていた為改善点なし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	特記事項なし	点検は十分に行っている改善点なし	1. 集団活動中・見守り	年齢的にまだ危険かどうかの判断できない部分があり今回の行動をとってしまった	どのようなことが危険行為になるのかその都度伝える	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく普段と変わらない様子であった	2. 対象児の至近で対象児見ていた	対象児がいる場所は把握していたが、全体の見守りも行っていた為、落ちる瞬間には気付かず落ちた後の声気が付き間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きをしていなかった	運動場で他児を見ていて守った為気付かなかった。	全体を見ながらも、個々の動作で危険要素があるか確認できていなかった	危険行為だと分からずに行動することがあるので十分に気を付けながら見守りや声かけをする	
7250	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	5. 4歳児クラス	20									3	3	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		1. 基準以上配置	—	事故発生時の職員配置は十分に配置されていた。担任を含む全員の走っている状況を確認していた。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	—	ホールの柱などの危険な箇所にはマットを置きしなやかな衝突ように環境構成を行っていた。ホールの広さもあり、十分なスペースでリレーを行った。	1. 集団活動中・見守り	—	担任全員で運動会練習を、転倒守り、倒れすぐに駆け寄った。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの練習が行われていた際転倒し手を床にぶつけた	2. 対象児の至近で対象児見ていた	リレー競技練習でだったフィールド内で子どもの様子をみていた	1. 担当者・対象児の動きをしていた（至近距離にいた）	リレーだでルの競技練習中のフィールド内で子どもの様子をみていた	—	担任がすぐに駆け寄り、負傷部分を確認。その際手の動き、痛み、手の動きを確認し、在中の師にも負傷個所を見せ個所に行き、手の動き、痛みなどを再確認した。	
7251	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	21	1	20							3	3	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2〜3	2. 基準配置	園児が自ら好きな遊びをするのを見守るのも大切だが、安全にもっと配慮が必要だと面と必要だった。	園児の行動範囲や職員配置を常日頃からきめておく。	2. 不定期に実施	数回	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	満児にとは危険な思われる高い方の雲梯のステップに自登れ状況で、園児の予想される行動危険な行動認識不足だった。	高い方のスに園児が登れ雲梯のステ園児由にるい方の雲梯のスに自登れ状況で、園児の予想される行動危険な行動認識不足だった。	1. 集団活動中・見守り	向こう側の高さ雲梯の側以上児のある園児だけで遊んでいた。	固定遊具には必ず職員がつき、以上児向けの遊具には、小児なさな園児は行かないよう配慮・工夫をする。	1. いつもどおりの様子であった	クラスの片づけが始まり、担任に声をかけられたが、姉（年長児）と一緒におり、そのまま一緒に大きい雲梯で遊び続けた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	片づけとグループごとに園児を入室させるため、順番に数名ずつテラス導へと誘導した。ほとんどの園児が入室した為、職員1名を残し、他のクラスへと入っており、事故が起きた時間は、園庭には担当職員は1人だった。	2. 担当者・対象児の動きをしていなかった	他のクラスのたち園児園庭遊びをしていたので、園の庭には職員、小児名が雲梯から離れ雲梯の場所におり、その滑り台は年長がいた。その雲梯は担任が、雲梯の側で2名ずつ遊んでいるが、雲梯のテップから外れた瞬間には、視界に入っていた本児が雲梯のステップか足を踏はみ外した瞬間には、間に合わなかった。	片づけからの室入室の時間で、グループごとに園児をさおほどんどの職員が園児と一緒に園内に入ってしまい、園庭には十分な人数の保育教諭がいなかった。	入室の際は、クラスグループごとの園児をグループに入室させるので、全員を見るくテラスに集め、揃ったことを確認し、みんなで入室する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面						ハード面						環境面				人的面									
									人数	異年齢構成の場合の内訳															事故誘因																												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7252	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13									3	3		14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	1. 頭部	後頭部打撲傷 後頭骨骨折	2. 自転倒・衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	24	2. 基準配置	寝起きの背負った状態から降ろすときの配慮が十分ではなかったのではないかと考えられる。	危険事項について、何が危険なのか具体的に見直しを保育の中で生かせるようにする。	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	事故があった場所の床面は固いことから、2歳児が使用する幼児用便所として、転倒した場合を考えると、マットの敷きが不十分であった。	床面全体に屋内用マットを敷き詰め、危険と思われる場所を覆う。	1. 集団活動中・見守り	午睡後、子どもを起こし排泄をし促した中で、少し注意を怠った。	排泄指導時の職員連携や他学年との便所利用方法他再検討する。職員連携や危機管理について、全職員に周知を図る。	1. いつもお様子であった	いつも通り元気に遊んだ。	1. 対象児とマンマンの状態（対象児にした）	自分から背負おうと好むことをもであったため、午睡後負所に連れて行き、排泄を促そうとした。	2. 担当者・象児の動見ていなかった	1人は同じ便所に他排泄指導をしたため、他は部屋でごろごろしていたりすると午睡後の片付けをした。	完全に覚めていない子どもは、後からいくと、職員同士が個々の状態に合わせて応ることが必要だった。	午睡後、いろいろな状態の子どもいるので、完全に目が覚めるまで待つなどの対応をする。	
7253	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27									2	2		17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	2. 自転倒・衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	スタート、ゴール地点に職員を配置した子どもが、状態のものに職員間でが声掛け不十分だった。	ゴール地点での動きを予測し、声をかけ、安全にゴールできるよう速さを伝える必要性があ。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	毎日	地面が乾燥していた。	地面が乾燥した場合は、適量まを水き、地面の様子を確かめる。	1. 集団活動中・見守り	ゴール地点で足が転もつれ倒につった。	安全にゴールするため、ペードなスピードを下げなるるスピードを伝えるようにする。	1. いつもお様子であった	4人1組でランニングしていた。3番手で走っていて、前にいた児童のように走っていた。	2. 対象児の近で対象児を見た	保育教諭はランニング出発地点に1名、ランニング終了地点付近に1名がいて、ゴールで走ってもたちを見ていた。地点に保育教諭を通りすぎたころで倒れた。あまりにも急だったので支えるなどの対応ができなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスの職員がテラスにいたが、4歳児の行動の見守りを行っていたの対象児で、時の動きは見ていなかった。	ゴールで直前でバランスを崩しがれて転倒した。	その日の子どもの気持ちの高揚の度合いを把握し、早めに声掛け無理な組め配慮をしていく。	
7254	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15			3	7	5				1	1		17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	2. 自転倒・衝突による	1. あり	2. 不期実施	1	1. 基準以上配置	遊び自体に極端に危険な要素はなかった。	遊戯室の環境、遊び方を再度検討する。	2. 不定期実施	2～3	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	木製の長椅子に破損部分は見られなかった。	無し	1. 集団活動中・見守り	ベンチ型の木製椅子は、普段から子ども遊びの中で使用していた。	長椅子の構成、椅子の使用方法の見直しを行う。	1. いつもお様子であった	本人は、日頃から活発で小さなけがが多い傾向にある。6月●日には、鉄棒遊びをしている最中、ピョンピョンと跳び上がり前歯を強打。前歯は、指で押すと揺れる状態だったので、●●歯科を受診。レントゲンの結果、永久歯が乳歯の下にみられたため、ぶつけた衝撃で少し揺れた。生え変わる時期に重なっただけで問題はないとのことだった。危篤は無し。	2. 対象児の近で対象児を見た	子どもの全で近くで体を見ていた。対象児が警察ごっこをしていることは認識していたが、けがをする様子はないと判断し特に注意する状況はなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	けが人数なく当時も一当ては少人でした。	普段からけがの多い対象児の行動をもっと観察すべきだった。	今以上に対象児の行動、遊びの内容等を注意深く観察する。遊ぶ場所・保育士の配置等を見直す。	
7255	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58			17	21	20				4	4		16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折(左肘)	2. 自転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期実施	2	1. 基準以上配置	太鼓橋についての記載なし。	事故防止マニュアルに、太鼓橋につ追加記載。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	事故が起こった場所（太鼓橋）、コンクリートと石で出来ている。	太鼓橋で危ないと転ぶと危険なため、「走らない、気を付けて渡る」ということを伝えていく。	1. 集団活動中・見守り	子どもたちは、砂遊び、虫とま遊び、集団遊び（かくれんぼ）等、人数の少ない時の遊び、かくれんぼは適さない。	かくれんぼは、職員も隠れてしまうので、子どもの把握ができないので、やらない。子どもたちに、太鼓橋では走らないで渡る事を約束する。安全教育。	1. いつもお様子であった	担任と10名ほどの園児とかくれんぼをしていたが、抜けてしまう。一人で走ることが多い。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任は、園児らと一緒にかくれんぼを楽しんでいたが、本児が遊びから直前で抜けて野まった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	1名、●●川付近で虫探し。1名はおまとをしていて児に気付かなかった。	時差出勤であり、この日の休暇の職員がいたため、員数が少なかった。その人数での人数連携が取れていなかった。	園庭での配置、役割等、職員間での連携を取る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									ソフト面					ハード面						環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7256	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	48								2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2～5	2. 基準配置	遊具の遊び方のルールの不徹底の不足、目を向ける職員の立ち位置の配置不足	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン・園児・職員に事故から災害から安全守る対策手引き	1. 定期的に実施		3	1. 定期的に実施		220	2. 不定期に実施		12	滑り台の地点着地地点中間地点に衝撃を和らげる素材にはなっていたが、落下した場所には、衝撃緩和が出来る地面にはなっていなかった	遊具の安全マット台サイに敷き詰め、衝撃吸収マットの緩和が出来るように改善した	1. 集団活動中・見守り	コーナー全体に職員が目が向けられるようにしていたが転倒をよけるように防げる立ち位置には職員はいなかった	遊びのルールが定着するまでは、滑り台の見守り職員を配置する	1. いつもどおりの様子であった	9時から通常保育	3. 児童が離れたところで対象児を見ていた	全体が見える位置にはいたが、他の遊具につられていたため、そばにいることができなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭にいた他児向けに目をつけていた	園児に遊ぶ約束を周知徹底出来ていなかった事、鬼ごっこの直後に遊具を使用した事で、他児に押されたことにより転落してしまった。活動の切り替えが出来ていなかった。	遊ぶ活動に移る際に、活動を一度止めてについて園児に伝える。ルールが定着するまではすぐそばに目を向け見守りを行い、ルールを伝えていく事で、ルールの定着させる。	
7257	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								3	3	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝よ突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		1. 基準以上配置	3名保育者がいたが、担当の列しか見れていなかった	全体を把握したう担当の列の補助を行う。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	マット上で行っていたが、勢いついてしまった。	エバーマットを使用しやわらかいマットの上で練習する	1. 集団活動中・見守り	担当列の保育士が保育段関わり普りのこどもこだったので、子供の状況判断が適切に行えなかった。	こどもの言葉だけではなく、保育士の言葉にも補助方法を聞く。	1. いつもどおりの様子であった	一人でいるという自信があり、保育士の本人の補助が拒否した。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	態勢が崩れそうになったり補など助にしようとしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	対象児以外のみていた	態勢が崩れた時にとっさに補助の手が出なかった。	こどもの言葉を信じずにこどもレベルを見て判断する	
7258	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19			9	4	6			3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施		1. 基準以上配置	発生当時迎えが相次いだことのトイレあった対応があったが、職員お互いの動きが十分把握できていなかった。	迎え等の対応があって離れる場合は必ずが声をかけあうリーの職員にヘルプを求めるる等職員同士の連携を密にする。	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		12	おもちゃの取り合いが事故発生の前段階に起きていたため、おもちゃの種類や数も検討すべき。	おもちゃ合故が事故発生の前段階に起きていたため、おもちゃの取りの種類や数を適切になるよう配慮する。	3. 個人活動中・見守り	室内にコーナーを設け自由遊びを行っていたが、必ずしも職員が目を通いコーナー配置となっていなかったと思われる。	コーナー配置につ職員が目を通いるように改善する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりであったが、最近自己が強くなりあり、見知同士のお互いが十分把握できおらず、結果室内の子どもの全体の動きを十分ていきに見ていなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	複数名で担当していたが、発生当時迎えが相次いだことや園児の対応が重なった中で、職員お互いの動きが十分把握できおらず、結果室内の子どもの全体の動きを十分ていきに見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者以外の職員は隣の職員室等でし作業をしており、見ていなかった。	目の前の対応に気をとられ、常に子どもの注目意ることが必ずしも十分ではなかったことが考えられる。	担当職員同士の声かけ・指示をお互いの動きを把握して徹底することに、園児全体の動きを把握するように努め、トラブルが起こりそうな遊びや事前に注意を促す等、園児への声かけも徹底する。	
7259	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	19								2	2	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	ひだり上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	2. 基準配置	—	今後もヒヤリハットはその都度提出し、当月には対策、翌月には検証を策、には会議を実施していく	1. 定期的に実施		12	1. 定期的に実施		12	2. 不定期に実施		280	雲梯の掴の棒分が鉄の部分が滑りやすい状態にあったのではないか。	公共施設遊具である遊具の際には保育教諭が使用先にし、安全性を確認する。	1. 集団活動中・見守り	よく遊んでいる複合遊具であり、園児たちも慣れて遊び方のルールも伝えていたが、楽しい気持ちが高ぶっていたのではないか。	落ち着いて遊ぶことのよう小休止を設けたり、他の子が遊ぶ様子を具体的に見ながら、危険のないような遊び方を園児たち自身で確認していく。	1. いつもどおりの様子であった	本児自身が出来る事が雲梯を得意であるが、雲梯の棒に右手でつかまり左腕を勢いを後つけて後ろに振り上げた時につかんでいた右手がその勢いで離れた。	2. 対象児が出来る事が近で対象児を見ていた	本児は雲梯が出来る事が得意であり、保育教諭が補助するのを嫌がる傍っていたが、落下する瞬間手を受け止めようとした方に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	反対側の遊ぶ園児たちについていたため、見ていなかった。	本児が雲梯が得意なことあり、保育教諭自身“出来るだろう”と過信があった。	本児自身の気持ちを認めつつもどの子に対して危険な事も起こりうるという事を常に考えていく。	
7260	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	26								2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手指指骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	2. なし	2. 不定期に実施	都度	2. 基準配置	—	事故予防研修等の研修を受講する	1. 定期的に実施		24	1. 定期的に実施		1	1. 定期的に実施		12	靴箱の角を斜め辺りから強いか力で押すと不安定になる	並列に3台ある靴箱を寄せ置くことないように固定	1. 集団活動中・見守り	—	保護者が保育室前テラスにまで迎えること保育室内で待つことを徹底	1. いつもどおりの様子であった	迎えが時間が近づいてきたため落ち着かず保育室と廊下を行ったり来たりしていた。また、母がいつもより少し早めに来た姿を確認したため気持ちが高揚してしまった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	保育室内で待っている他の対園児の対応に追われていたため廊下に出ていた付けができなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内児のトラブルの対応をしていたトの対応をしていたため	—	保育室内で迎えを待つことを徹底	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項		死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7261	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	48			17	14	17				3	3	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右肘関節部骨折（上腕骨下部骨折）	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	子どもは、安全に全中で遊びの指導を行っている棒を前に具体的な。	・どこまで遊びの可能をするか、遊び毎に間で決め共通を図る。・子どもの遊んでいる状況に応じ、その要思う方のをにいく。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	鉄棒の下安全マットは敷いたが、劣化が固くなっていた。	マットを安全性の高いものより柔軟性に変更する。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもの興味や関心による主体的な活動を行っていた。鉄棒の上に座って遊ぶ姿は、年長組の子ども達に以前から見られていて、運動機能の発達に伴い、その上のような遊びに挑戦したいという気持ちに共感してあげたい反面、危険が伴うのではと感じてしまい、子どもにどこまでの遊びを保障してあげたらよいのか悩むという段階での事故だった。	色々な固定遊具があるが、子ども達が年齢によっての段階までの遊び方をさせるのか、とどまらせるのか、どこまでの遊び方をさせるのかを職員間で話し合い、共通理解をする。	1. いつもどおりの様子であった	戸外に出て友達と一緒に縄跳び返し鉄棒で遊んでいた。鉄棒でずっと遊んでいた中での出来事であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達全体の見えるような位置に立ち、見守っていたが、鉄棒から落ちる瞬間にはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	子ども達の様子を見守りつつ、登園してきた子どもの対応や、環境を整えた。	ずっと遊んでいたので鉄棒を握る力も、転落へ注意力も落ちていたと思われるが、それに気づくことが出来ていなかった。	運動機能の発達と共に、色々な遊び方へチャレンジする大切にしながら応じ、子どもに適切な働きかけができるようにしていく。	
7262	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	28									2	2	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	都度	2. 基準配置	—	事故予防研修等の受講をする	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	安全な遊び方に子どもと職員共に合う共通理解する	1. 集団活動中・見守りあり	—	芝生の上に設置してあり、環境的には問題なしのため	1. いつもどおりの様子であった	仲良い友達と2人で鉄棒に腰掛けおしゃべりをしていたが、鉄棒を握った手をたしたバランスを崩し鉄棒から落下してしまった	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	鉄棒をしている園児の安全を確保していたが、他児助の補助していた咀嚼したにし伸ばしできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他の遊び守っ児を見ていた。	—	遊具を使う事の約束事を子どもに再度確認し、職員間でも周知する。	
7263	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	6			3	2	1				6	4	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右手首骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	乳児用遊具ということで、共に保育教諭も無条件である。本児と安全と心理的に安心が働いていたのではないか。	園庭での活動の際、全体を把握する職員を一人確保することした。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	落下防止マットが敷いてあるが、マットを高くしたことに段差が生ずることにより段差の箇所がでて手をついた可能性がある	マットが高くなるが、設置ではなく段差が生まれる。地面に埋形に埋め込むことで段差を軽減にとの行った。	1. 集団活動中・見守りあり	活動の切り替えのタイミングであり、同時に、保護者の方の時間にとの重なるので、人がなの動き発に活る状況あった。	時間に余裕を持ち、早目に園庭に出ることで保護者の方の迎時間のえのとイミングをずらし、落ち着いた雰囲気の中で活動の切り替えを行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	午前中の給食も通り活発に過ごしていた。	4. 対象児の見ていた児の動きが	園庭に出ることで、他児の靴や衣服の脱ぎのチェックを行っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員クラスの児童の靴の着脱を見ていた迎時間にも職員クラスの児童着てみたり、時のえのいう子どもあり保護者ことにより対応にあたった。	園庭にタイミングと保護者の迎方のタイミングが重なるといい時帯ること	出来るだけ時間をずらすこと、また全体を見る職員を確保することの2つを行っていく。	
7264	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5. 4歳児クラス	24									2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	顎上骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	今回、クラスの中でも運動神経の良いこどもの事故でもあり、友達とぶつかったことで骨折してしまうことは、クラス全体の運動の方法や乳児からの転倒時の受け身の仕方等、身に着けていないことが考えられる。また、職員2名がたまたま、衝突時を見ていないということは、職員の外遊びでの立ち位置や子どもの様子を見守る点など職員同士で話し合わなければならないと思う	職員の外遊び時の配置のルールを決め、マニュアルを作る。また、乳児から身の受け身に着け、運動量を増やす	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	—	子ども同士での死角の事故ハード面のための改善策はなし	1. 集団活動中・見守りあり	—	保育士の立ち位置より死角ないように作らようにする	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく元気で活発的に遊んでいた	4. 対象児の動きを見ていなかった	ブランコ見守りをしていたため本対に対にの児で視界をに入っていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	門扉を開けるため視界から外れたため	—	園庭での外遊び時の保育士の立ち位置を考える	
7265	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	5. 4歳児クラス	21									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷（切創・裂創等）	2. 顔面（口腔内含む）	下顎挫創 皮膚感染症	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	予測しき事態への対応を心がけるがある	子どもの応じた動きを確認し、危険性を事前に共有する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	床が滑りやすい場所でなかったに確認する必要ある。	滑りやすい部分は、処置を施す。	1. 集団活動中・見守りあり	保育室での遊び方について、約束や音楽かけがでなかった。	園児に危険な遊び方について指導を行っていく。また、床にが玩具等が散らばっていないか、足元の安全を確保する。	1. いつもどおりの様子であった	本児の好きな遊びしんでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児に手伸をさることができなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士の教諭はいなかった	言葉かけはしていたものの、事故を予測することができなかったので危険予知が十分ではなかったと思われる。	保育室での遊び方を園児と再度確認し、教諭の見守りも徹底していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
																											ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置		改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			改善策	教育・保育成支援の状況		改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか		
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】				その他要因・分析、特記事項											
7266	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児にも先生離れから一旦雲梯はしないよ！と伝えていたがきちんと伝わっていなかった。	全職員のルールの徹底、理解確認が出来尚且つ園児の遊具扱いの安全理解が確認出来るまで雲梯の使用を禁止致します。また、全ハイヒリッヒ法則のアンケートをとっており、第化し次章化し安全再度研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本児にも先生離れから一旦雲梯はしないよ！と伝えていたがきちんと伝わっていなかった。ただ、職員がいない場合は使用禁止児も日本理解は日出来ている。	園児に再度雲梯をするルールの徹底を実施した。（●日本児は欠席）	1.集団活動中・見あり	テンションが上がりいつもなら守れていたルールが守れなかった。	何度も何度も戸外に出る前に約束の徹底をする。	3.いつもも活発で活動的であった	給食も完食、体温も平熱で元気いっぱいだった。いつ上に記したの、本来なら職員がいない時には雲梯はしないことは理解出来ている。	4.対象動きを見ていなかった	お茶休憩を促す為、テラスに20名の集合を掛け声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	この時は1クラス20名が園庭に出ていた為	5歳20名の戸外遊びの際でも職員室スタッフにも巡視をお願いする。	5歳20名の戸外遊びの際でも職員室スタッフにも巡視をお願いする。	
7267	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16									3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	特になし。	園庭遊びに関する怪我予防マニュアルがなかったため、●●_怪我発生時マニュアルを「事故対応・防止マニュアル」として改訂した。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特に遊具自体の問題はなかったと思われるが、「人的面」記載しているように、年齢に応じて使い配置していた。	これを機年齢に低年齢使いにくい、危険な遊具場所を、高年齢児が遊ぶスペへ移動した。	1.集団活動中・見あり	事故が発生した瞬間は、合間が移動中で園児が事故が発生した場所は園庭の園児14名で、基準2.3名のところに2名配置と、通常より目が届きにくい状態になっていた。	今以上の職員配置は現実的ではないため、事例を共有して、合時間の危険度が高いことを自覚して動くように職員へ周知した。	1.いつもおお様もりの子であった	体調はいつもと変りで、問題なかった。	3.対象児が離れたところで対象児ていた	事故の場所から3mほど離れた場所で対象児を見ていたが、落下の瞬間の補助には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時の受け持ち場所で、他の園児を見ていた。	それぞれ持ち場で、他の園児を見ていた。	園児は、太鼓橋の頂上付近で、（平坦部分に入ったと判断して）手を離したが、まだ斜度があったため、バランスを崩して落下した。年度当初は慣れていなかったため、職員が停止について利用させていたが、慣れてきたために、停止つかないようになってきていた。そのように変更した際の、園児の判断力、注意力の見極めができていなかった。	対象遊具を2歳児以下は使わせないように職員のルールを変更した。併せて、「ハード面」に記載したように、他の遊具についても配置等の見直しを行った。	
7268	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17									2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折　左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	—	子どもの特性を十分に理解したうえで、起こりうるリスク対策を検討し、事故防止のために、事故発生の可能性を予防に取り組んでいく。マニュアルは整備してあるが、遊具の利用時の注意点について見直しを行い、園内研修を実施していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	遊具自体は問題はなかった。遊具に見られても、より安全点検を行った。引き続き詳細なチェックリストを用いて安全点検を実施していく。	1.集団活動中・見あり	—	子どもの人数によって遊ぶ場所、遊具、職員配置を熟慮して保育にあたる。	1.いつもおお様もりの子であった	夕方、中庭で他の3歳児と一緒に遊んでいた。	4.対象動き見ていなかった	中庭にはいたが他の場所で遊ぶ3歳児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	中庭には、いたが他の場所で遊ぶ3歳児をみていた。	—	落下すると危険であるという危機意識を常に持ち、予め危険を予測して、職員の立ち位置、取り組む時間帯、保育内容等を考え安全に取り組めるようにする。また、教職員全員が保育について情報を共有する。	
7269	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55			24	31					5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	転倒等のものは常に予測され、転倒子動きは予測されたピロティは死角もある為、意識的にピロティは死角もある為、意識的に近になるようにする。	転倒時の処置や、連絡・報告の仕方などについて共通理解を図る。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	転倒した場所は、軒下の柱があり、多会が死く、出会いの頭にぶつかりそうになったりつまづいて転倒する危険がある。	危険が予想される場所について、掲物などを通して子ども達に示物などを通して子ども達に行動するようにすべきか、日から認する。	3.個人活動中・見あり	園庭の砂場が風によりピロティに流され、ピロティの素材が滑りやすくなる可能性がある。毎日、職員が掃いているものの、今後新人職員も携続して行っていきたい。	園庭の環境にも慣れてきて時期いるが、危険な場所について、適宜話し合ったり、掲示物などで注意を促していく。	1.いつもおお様もりの子であった	園庭で友達数名と保育教諭一名と鬼ごっこをしていた。	2.対象児の近で対象児見てた	一緒に鬼ごっこをしていた本児に近くに本児はいたまま、事故ぶつかった箇所に本緒ごっこをすぐ後、けたを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時の受け持ち場所で、他の園児を見ていた。	園庭で子どもたちに遊具などを使って遊んだり、固定遊具の傍りして守りをした。	子どもこちらが行動を予測して、安全面を引き続き行いく。	危険が予想場所では、こまめに声掛けをする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面			人的面													
								人数	異年齢構成の場合の内訳															事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名																												
																							死因	負傷状況	受傷部位																	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7276	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	161	5	9	15	45	39	48			23	20	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	体操指導のマニュアルがあるが、一つ一つ子に方を指示しているもっと必要がある。問題や供やしっかり細かく導しっかり注意して違ったりしている子方をしっかりしている。徹底する必要がある。	体操の指導方法など、より指導できるよう定期的な研修や情報交換などをスムーズにするキルプが必要である。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	体育用品場の置き場や、危険かないか認をする時に、危険なものは排除したりカバーなどの安全管理の工夫が必要。	1.集団活動中・見あ守り	全員で安全に活動できるように環境構成の工夫が必要。	環境構成の工夫の職員間で共有していくこと。	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	体操終了後、楽しさから、まだ止めずに挑戦しようとしていた。	対象児の近で対象児を見ていた	本児のや尊い気を重ねたが、本の活動にをすぐ止めることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の動きを確認していた、他子どもたちが近で見ていたため関わっていた。	—	子どもたちにも、活動と終わりのメリハリをつけられるよう、工夫した声掛けが必要である。	
7277	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5									2	2	13.1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部の尺骨と橈骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	滑り台の最地階段の下段と地面との段差が大きい。	滑り台の最地階段の下段と地面との間に、補助段を追加した。	1.集団活動中・見あ守り	なし	なし	1.いつもおりの様子であった	保育士が戻園内に園内にいる時間だと告げた。いつもは降りない階段を慌てて降りた。	対象児の近で対象児を見ていた	滑り台の距離で対象児を見ていたが、対象児が転倒する瞬間に手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	担当職員に園内に園内にいる時間だと告げられ、他児に転倒しないようにと慌てて降りまった。	園児が慌てずゆっくり行動できるように、保育者が声掛けをする。	
7278	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	前日の天気（雨）の朝当日の天気で遊具で濡れる場合がある。	目視した職員が他の職員へ連絡をし、濡れたところ拭き、ないにすぐ滑らようる。	1.集団活動中・見あ守り	—	特になし	1.いつもおりの様子であった	いつもと変わらず園庭で遊んでいたが、遊具に慣れてきていたのか注意が散漫になったと考えられる。	3.象児が離れたとで対象児を見ていた	園児同士が、少し離れたところでトラブルになったため、保育教諭はそれぞれの対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	本児は、普段から遊具にこだわっていたため、保育教諭が大丈夫だと思ってしまった。	慣れてきている時が一番危ないため、年齢に目を離さないようにする。	
7279	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	54									4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	経験が足りないために対応が足りていなかった	経験が足りないために対応でのサポートを強化していく	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	●●ボンを使ぶのに踏み台（ベンチ）が必要であった	器具が必要に応じに設置されるが確認する	7.その他	異年齢の園児が園庭にて自由に遊ぶ時間で間たり因がにわたる	1.集団活動中・見あ守り	こりを要因を見回る起る考えりをする	1.いつもおりの様子であった	他児と迫けてかいこをいた	4.対象児の動きを見ていた	見てはいるが、職員と距離たが届くにいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	注意力が散漫になりがちな時間帯や時間帯によって注意深く見ていなければならない	園児が取り組んでいる、目の前の状況を見ることを教えていく	
7280	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45	2	7	7	9	7	13			13	9	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	50	1.基準以上配置	今回の事故の発生時間帯における廊下の仕切り扉は通常は閉まっていて、残っている園児達は動き回れる場所・スペースが限定され、保護者のお迎えまで、限られたスペース（屋の内側）以外へは自由に出入り出来ず、担当保育者等の見守り等も機能するよう。保護者や教職員の出入りの際も“扉の施錠・開錠”を徹底する“仕組み”としていたが、たまたまスペースに入ろうとして開いたタイミング（2）対象児たちがエリア外に出てしまい、同時に（3）名が走って戻って来たときに起こってしまったもので、結果的には“仕組み”の機能が十分に働かなかったケースと考えられる。	保育時間帯だけでなく、廊下に設置してある“仕切り扉”の使用方法を徹底し、お迎えの保護者等へも周知し、再発防止を図る。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		特段なし	仕切り扉方法を徹底。	7.その他	保護者のお迎えお集中する時間帯の見守り等見の不徹底。	仕切り扉て閉める場合の見守り仕を閉める等の強化。	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	対象児及び一緒に遊んだ園児は年長児であり、活発に動き回った。	4.対象児の動きを見ていなかった	閉めていた“親音の半分開き”で、対象児たちが児が出て行ったことに気付いていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	事故発生半分いた時の内側開いた扉の側児の対象児たち3名が走って入って戻って来て、対象児たちが転倒した傍に保育士が倒れていたが、担当保育者が、転倒するまで対象児の動きに気付いていない。	特段なし	保護者のお迎えが集中する時間帯は、これまで以上に見守り等を徹底する。	
7281	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左拇指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	担当保育者が教諭の気を周れ、机の脚を折り曲げるのに困っていたも達に、注意喚起の声をかけることが助けることができなかった。	事故が起こった原因や予防策について、職員間で共有し、それぞれの職場で危険性について認識を高めるクラス対応に対応していくことを持ち、全体で共有する。	1.定期的に実施		36	1.定期的に実施		36	1.定期的に実施	毎日	折りたみ式机の脚がなっていたため、子どもが故がが予想ができなかった。	机の脚の固はバネものは子片づけることのないよう、職員が机を片づけ年齢のクラスのものと交換した。	1.集団活動中・見あ守り	机を片づける前に本児は絵本を読んでいた、遊びたいに戻り気持ちに、片付集中できなかったためにいないかけのではないか。	子どもが始め遊び前に机を片付けることがよるできるとできるを活動うを見直す。	1.いつもおりの様子であった	健康面にも問題もなく、情緒安定しておりもでつも通りであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	机を拭いのち、他児に話けられ応答していた。視線の端に姿はいたが、見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	机を片付けている時子ども動き意向けを意識が薄く、両手で支えることが望ましい机を本片手で支えることに気づかなかった。	机の片付けをクラス全員に丁寧に指導し、確認をする。片付けている時は、常に見守り、危ない様子が見られたら、すぐに注意するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故の転帰					ソフト面						ハード面						環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																								
7282	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	20								4	4	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕鞭上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1～2	1. 基準以上配置	—	職員配置は基準をたしていたが、職員は常に事故がおこるしれないという子どもの見よおもいと意識どもをいくう、職員強化していく。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	毎日	今回ぶら下がっていたバーはジャンプすれば手がすぐつく高さではあったが、バーの太さが親指をかけて掴れないため滑りやすかったとも考えられる。	遊具の点検は毎日行なっており破損箇所などはなかったが、遊び方によっては危険も伴うということを全職員が意識して用う改めて確認していく。	1. 集団活動中・見守り	—	安全なよ危険えとこ思ことも伴うこと念頭に厳しくこと要で安全ないるを必ずあると職周ていがある員間で知して。	1. いつもお様りの子であった	活発な本児で運動神経も抜群で遊んだ。	2. 対象児の近で対象児を見てた	すぐに近くにおり本児も見守っていた。なら大丈夫と思っていた本児大丈いで見てまった。	当担対象児の当者・象動見なかった	担当対象児の当者・象動見なかった	同じ別の職員がいすでたため担当者・対象児の当きはなかった。	立体的な遊具のためのそれの職員が離れてくのどもを見ていた	近子をつ合った	職員同士でとり連携ながら全体の動きはどうか、危険はないか・確認しあうことが必要。園内で事故を検証し遊ぶ際具で見守りに確認した。	
7283	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	15								2	2	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	玩具が何種類も出ていた。床にちらばっていて、散乱たくでとのではないか。	遊びの種類を考えて出し、広く室内を使用するようにする。	1. いつもお様りの子であった	床に座って一人でブロックで遊んでいた。他トもいた児とのルプはなかった。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	本児の子ども手遊びをしたりしていたん為見ていない。	近くで見ていた事故発生の瞬間は銃を持った児が、滑り台の上で、足を滑らせ、滑り台の手すりを掴んで反対側に体を伸ばしていた。	当対象児者・象動見なかった	2. 担当者・対象児の動見なかった	職員は、どこまで他のもとこ本で見ていない。	子どもたちがそれぞれ好き遊びをしていた為、大丈夫と思っていたこと。	落ち着いて目一杯遊んでも全体を配り、人一人が何をして遊んでいるかを常に把握しておくにする。	
7284	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16			6	6	4			1	1	17. 5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	24	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7. その他	日頃から中の降園の挨拶後は日保で降園で遊降園庭で遊降ばず子に降する園のしばず子園いう園約束ているが、当日はしていはなかった。	降園挨拶は遊ばないことを確認し、事項説明書（入園のしおり）に掲載しているが、より保護者にわかりやすく掲示板等に、園児への安全意識を持てるようにするとともに、園児への指導も行う。	1. いつもお様りの子であった	普段通りご過し、保護者の迎えが来たので担当の職員と挨拶を降園とした。	4. 対象児の動きを見ていた	保育室で降園前の保育をしていた。	当対象児者・象動見なかった	2. 担当者・対象児の動見なかった	それぞれ保育室の保育を行っていた。	特になし	特になし	
7285	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	56								2	2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1 ～ 2	2. 基準配置	遊具そのものには問題はなかった	雨等で遊り時使用のついては、職員が見守りのみ使用させた時、使用を制限をする。併せて子使用方に仕方をしてもの指導いく。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施		雨上がりの状態で遊具が滑りやすかった。	遊具が濡れている時は、こまめに遊具の拭き取り、遊び場は使用しないようにする。	3. 個人活動中・見守り	園庭が芝生育成中で使用できず、遊具に集中してしまった。	混雑している場合は、他の遊びに誘った、順番守りに使用するように指導する。	1. いつもお様りの子であった	登園後、自由遊び中。	2. 対象児の近で対象児を見た	遊具の鎖を登った児で見ていた。足を滑らせ、瞬間は鎖を挟んで反対側に手を伸べ、さることができなかった。	当対象児者・象動見なかった	2. 担当者・対象児の動見なかった	同じ遊具一人も人員がいたが、別の園児にも気にり、目ため対地にいた児が横になる状態で気が付いた。	高い所に登るをしていた近く見ていが、ちると定見守ること意識しなかった。	遊び守っ落ことを想してるを	雨上がりで遊具を使用する時は、滑りやすいから、上っている近くで守側の職員をする。	
7286	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21			5	7	9			2	2	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	なし	室内で直線に走り出すスペースに机を配置し、子どもの動線に配慮していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	落ち着いて遊び環境を作り行う。制作コーナー、ブロックコーナーなど散らばる子どもが分遊べるようにした。	1. 集団活動中・見守り	走ってはいけない、広くしまうスペースであった。	直線的に走ることのないように、保育園の玩具等を配置する。	1. いつもお様りの子であった	3日前に園児にて転ぶ	4. 対象児の見ていた	保育室にいた他児をみていた	本児が急に走り出し机に激突したと突ころを見ころを、そのはみなかった。直前ていた	2. 担当者・対象児の動見なかった	同じ児士でふざけりっこしたりすることが多い。	3歳児ふたつ	室内では静かに遊ぶように声をかけていく。	
7287	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	27								2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕の骨折（骨の中に血液が入った）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	園庭の少し離れた場所に職員がいるが、発生場所付近の職員は視配置で、入る位置の無駄な対応ができる位置はなかった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	特になし	不具合等は無かった。	1. 集団活動中・見守り	本来登る場所ではない所を登ろうとした。本来登べきではない所を登った。	約束事として知らせていることも、危険を発見できるように職員の配置ていよう員をしく。	3. いつも活発で活動であった(理由を記載)	本来、登るべきではない所を登った。本児は約束事に対する理解が難しい部分がある。	4. 対象児の見ていた	異年齢で合同活動中であり、他児場活発で、別の所での動きをしていた。	2. 担当者・対象児の動見なかった	付近での見活動中であった、事故発生場所の本児に付での動きは気がかなかった。	近くに職員がいなかった。本児に理解が難しい部分がある。	事故発生場所（築山）に子どもが近くに職員が配置できるように、子ども達には築山で遊ぶ際は階段を使って登るなど、遊び方について伝えていく。また、本児には繰り返しその都度伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面						環境面					人的面									
			施設・事業所種別	事故発生時				人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】														
																							死因	負傷状況	受傷部位																													
7288	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12									1	1	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	看護師の不観察が不十分であった。時間をかけて左上肢挙上どきかの観察を行うべきであった。	けが発生時は、その時外見上異常がないようでもを確認するため、複数回観察を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	水拭き後の乾拭きでは、床が滑りやすくなっていた可能性がある。	水拭きの雑巾は、子どもたちが絞った後担任が絞して使用ため、直接触れることはないよう、今後も徹底していく。	1. 集団活動中・見守り	真面目に取り組んでいた。	このようなけがが起こる子どもたちに、ふざけたり、走ったりしながらのやうう指導していく。	1. いつもどおりの様子であった	真面目に清掃活動に取りんでいた	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	ホールで、全体を見渡せる場所に立ち、清掃活動を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員1名のみで清掃活動を見守っていた。	5歳児12名と多い人数ではなかったので、ぶつかりも合うスも少なく、清掃活動を行えていた。	今後も職員1人がけがのないよう見守っていく。	
7289	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	25									4	2	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	特になし	子ども、「でとたいきちもとらえら、勢いをコントロールするための指導が必要であった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	290	特になし	適正に運動用具の人員を配置していた。	1. 集団活動中・見守り	特になし	園児一人一人のフォローの距離を検証する。	1. いつもどおりの様子であった	事故当日、本児は、跳び箱を飛べメダルもらっていた。そのため何度もチャレンジしていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	スタート・着地地点へ、職員を配置し、危険予知及び安全確保に努めていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の見守り。	特になし	適正に人的配置を行っていたが、跳び箱のフォローのタイミングなどを検証していく。	
7290	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	17									2	2	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	事故を未然に防ぐための園児に対する指導不足。	職員間で発生時の状況を把握し再発防止に努める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園児自らの転倒による事故あり、その他考えられるその要因はない。	園児自らの転倒による事故あり、ハード面のよるでの改善策はない。	1. 集団活動中・見守り	何もないところで転倒であり、環境的には不足はなかった。	園児に対しての注意喚起。	1. いつもどおりの様子であった	上履きを行取りに行く際に転倒。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他園児の身支度等をしており、視界に入らなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他園児の等の身支度等の世話をしており、視界に入らなかった。	職員配置・環境面においても不足はなかったが、登園後の身支度等に集中し、他園児への配慮が不足した。	園児の身支度等をしても、他園児への目配りを行うよう改善する。	
7291	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	24									3	3	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3～4	1. 基準以上配置	最初に転倒時、「手をつかんだから大丈夫」とみまっことをきる大丈ろう様子をしてた。	転倒や落などを負ったことは軽視すること、医きなく、療機関を受診し、判ぐす医師の仰ぎ断をしまう。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	怪我の報告の際、靴を脱いで脱いでしまい、段の段差につまづいてしまった。	二段のあり高さ段ありまりないの修繕象ないの対応ないの声掛対応ないで、ないとしてしく。	1. 集団活動中・見守り	ごっこ遊び床ごっこ遊びなど室内遊びで滑りやすくなったのためが敷いたあってのやすくなった	ローリングの上にござを敷くことで滑りやすくなってしまうので、敷いてのござの活動ないてはしない	1. いつもどおりの様子であった	ローリングの上にござを敷いた上を走ったりローリングの上にござを歩いた上を走っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが、他の園児を見ていたので、どのようにして転倒したかは見ていない。対象児が痛みを訴えてきた時に、指を動かすことができない為、すぐに対応せず様子を見てしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の2名の保育教諭とも論とも、他の活動を見ていたため、対象児の動きは見ていなかった。	フローリングの上に敷いたござの上を走りしていたときに制止させなかった。最初の転倒の際、様子を見てしまった上、再度段差につまづき手をついてしまった。	転倒する前にござの上ではゆっくり靴を脱ないことやゆっくりことなど、声掛けをするべきであった。	
7292	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	25									2	2	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	1. 遊具等からの転・落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	着地したマットの所にトを敷くべきだった	着地したマットの所にトを敷く	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	毎月1回点検と安全点検を行っている。改善策なし。	1. 集団活動中・見守り	3歳児の為、自分が思い上に伝えず、相手にトラブルとなることが予想されるとされた	遊戯室でのコーナーの遊び所を何ヶ設け、子どもたちを分散して少人数でゆっくりと遊びたべにきた環境する	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室で回った走りたり、サーキット遊びをする	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	別の場所で他児の対応したトラブルに対していた、見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が落下する瞬間、至近距離ではなかった為に合わなかった。	担任間での連携が取れていなかったことが考えられる	担任間で連携をとる	
7293	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									1	1	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	1. 遊具等からの転・落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	特になし。	特になし。全園児が見渡せる場所に職員を配置していた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし。	特になし。毎日点検を行っており、お子供が遊んでいた遊具は異常はなかった。	1. 集団活動中・見守り	気温が高く子供がかく汗をかく環境だった。	手拭きやオルゴンバックを準備しく。日中時間は暑い中で遊ばせる。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	参観日が近く、本児も活発に遊んでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	対象児が落下する際に手を伸べた際に差したに合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では4歳児クラスのみ遊んしかっでいなかった。	対象児がいつもより興奮状態であった。	子供状態の時に興奮は一度遊びを中断させ落ち着かせるから遊ばせる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																									
7294	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9									1	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左尺骨骨折・左上肢打撲傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	—	事故防止、危険予測してグループワークを行った。(8月)	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	今回の事故には、施設や設備原因ではないと思がしました。	1.集団活動中・見守り	夏休み初日ということで、普段と違う保育の環境(異年齢保育中心となり、活動のみクラス単位となるなど)であった。	普段と違う環境のため、1日の流れを丁寧に話したり、夏休みのに馴染めていない子どもへの見極めや声掛け援助をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の近くで対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホールに園児9名だったため他の職員はついていなかった	走る子がいる中で他の児がしゃがみこんでいること気が付き、危険を感じたが移動せずに出来なかった。	危険な動きをしている子を見つけたら、止める。止められない場合は、周りの子の動きを止める。	
7295	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	29									4	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左眼瞼裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	—	全職員に事故報告を周知し室内環境の安全徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	教室内の位置や子供の動線に常に観察し、危険のないようにしていく。	点検結果に応じ、修繕を行う。	1.集団活動中・見守り	—	教室のコーナーの配置を整える。	1.いつもどおりの様子であった	慣れた環境の中で不注意による起きた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	教室内での動きに注意を促したもの、一瞬の出来事に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応を行っていた。	教室内で遊んでいる子供たちの状況に常に気を配っていく。	子ども達に教室内での遊び方や動きについて、再注意を促す。	
7296	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	18.6歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	10	1.基準以上配置	—	全職員に事故報告を周知。遅番における、子どもの位置確認の徹底。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	12	—	点検結果に応じ、修繕を行う。	7.その他	—	子ども、遅番過ごし約束を再確認、職員へも周知徹底を図った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	環境が変わることで落ち着きが見られた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	切り替えの時間で対他児応を行っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応を行っていた。	遅番への移動時間であり、職員数も減り子供たちへの気配りが足りなかった。	遅番での過ごし方の約束を再度徹底した。	
7297	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	6	9	10	12	8				7	7	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし。	外部の事故防止のための研修への参加などを積極的に取り入れていく。	2.不定期に実施	不定期	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	不定期	特になし。	遊具の安全について、職員が点検し情報有しく。	1.集団活動中・見守り	夕方、幼児合同の時間帯だったため、本児にも一日の疲れがあったのか、油断が離れてしまった。	合同の時間は特に、保育者同士で声を掛け合い、怪我の起こりる場面について予測を立てながら対応していく。	1.いつもどおりの様子であった	特に興奮していたわけなく、いつも通りであった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	隣についていたが、落下の瞬間に合わず、落ちるのを受け止めれなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具などその園児を見ていた。	特になし。	改めて事故防止の意識を高めるため、職員内で注意喚起を行う。鉄棒に関しては、「手を離さない」などの約束事を改め、子どもたちに伝える。	
7298	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし。	職員の研修を定期的に行っていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	1	特になし。	点検を継続して行う。	1.集団活動中・見守り	特になし。	玩具の使い方や置き方について再度伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	活動中に子どもが持って来て戯いていた手押し車に足が引っかかりした。(対象児の状況説明による)	4.対象児の見ていなかった	職員は近くにいたが、対象児がどのように転倒したかは見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に1人(室内にいた子どもの荷物の片付けについていたため)	特になし。	子どもの遊びや活動を予測しながら、職員の配置(立ち位置)や動きを変化させ、職員同士で声を掛け合っていく。	
7299	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			8	6	3				1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～	2.基準配置	職員間の不足連携及び怪我発生時の対応知識不足	事故の振り返り行い、分析・研修を行うサーキット遊びにおける怪我防止マニュアル作成を行う	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	●●。サーキットの周囲には運動用マットが敷かれた状態であった。	保育提供前に事前に保育環境の安全確認の徹底を行う。	1.集団活動中・見守り	遊びの内容やサーキットの環境構成すると、保育教諭1名で保育を行うことが難しい状態であった。しかし、現場の職員が判断をすることができなかった。	サーキットなどの使用前に複数の職員で環境を確認し、必要に応じて環境の再構成を行う。	1.いつもどおりの様子であった	児童ではいつもとなく変わらない様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	活動全体を見守っており、本児童に注視できていないタイミングでの事故だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う部屋(1Fホール)にて次の保育環境を準備しており、事故が起こった部屋には担当職員一人での見守り中であった。	保育教諭1名で保育をすることが難しいと感じていたにもかかわらず、10分程度の遊びの為、大丈夫だろうと考えてしまった。	職員間での密に連絡相を行うことで事故の可能性の低減に努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳											発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面						環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7300	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19									5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	4	その他要因・分析、特記事項：事前に下見し、安全確認をしていた。活動内容に合わせて安全遊び場の範囲や環境（危険はないか）や周りの安全確認をし、危険なものや不審者がいないかなど周りの環境を確認し、対策を行った。子どもたちの動きを見て意識する内容が不足していた。	改善策：活動の内容に対してどのような事故が想定されるかを検討し、安全に活動できる範囲や職員の配置、配慮点についてしっかりと事前に合意し、事前に合意できる話し合いを行う。事故にあったときのフローチャートの改善を行う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	毎日	その他要因・分析、特記事項：施設、遊具、玩具安全点検の検討を行ってきました。破損している箇所や破損した箇所を修繕するなど、一人一人の安全を確認し、どの行動に対する意識を高めるとともに、一緒に行動する機会を多くもうようにする。	改善策：園児の安全を守る行動をとれるようにする。	1.集団活動中・見守り	その他要因・分析、特記事項：走って回るなど広い場所を使用するようにしっかりと行うことが大切ですが、その時の園児の行動に対する予測や対応策が十分でなかったことが不安でした。	改善策：園外活動の場合は、事前に安全確認等のために下見を行い、確認チェックを準備しておくなどの対策を行ったり、活動の内容によっては、危険を回避する環境設定をしたり、事前に数名の視点で検討する体制をとるようにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由記載)	園外活動を楽しみにしていたので、いつもよりも多く、張って活動する姿が見られました。	4.対象動児の見ていた動きがなかった	水鉄砲で遊びを行っていたので、動き回る全体の姿を見守る状態であったが、対象児の瞬間は見れていませんでした。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	写真撮影職員が園児を撮影し、水を見る職員それぞれ対応する職員、準備をしながら園児の姿を見ることができるものの、全体を見守るそれぞれの前の対象児の姿を見守ることができたものの、ずっとモニターをケガや事故の対象児の姿を見守ることはできていませんでした。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	園児が回る中で、怪我が発生した時に意識がなかったため、職員が近くにいて、動き回る園児全体を見守った形であったので避けきれませんでした。	特になし	走ったりする活動で、園児が皆で楽しんでいる中での一対一は難しいので、危険個所を事前に抽出しておき、その場所に職員がつけるようにする。	
7301	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14			4	4	6				2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	2	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	自由にボールでだんだん遊ぶ、投げる子が入り乱れてしまった。	人数が少ないことで、自由にボールで遊ばせてしまったが、サッカーゴールを設置したり、投げる子、蹴る子、とスペースを分けたり集中して遊べる工夫があればよかった。	1.いつもお様子であった	ボールをとると失敗してしまった。	2.対象児の近児の見た	いつも活発に動きっている子なので、安心して見ていた。	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	いつも活発に回っている子で、安心して見ていた。	特になし	特になし	
7302	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			7	8	13				4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	右手首刺離骨折	3.子ども同士の衝突によるものにも	1.あり	1.定期的に実施	2.基準以上配置	4	本児はとのトラブルがあったが、中でのいが、鬼ごっこ遊びの鬼エリアがカレーのたのしもい。友だちとのトラブルはなかったが、鬼ごっこ遊びの中で、鬼エリアをはみ出したり、捕まえられたり、捕まえる側と捕まる側の方、追いかけ（捕まえる側）（捕まえられる側）（捕まえられた方、掴むタッチする）ルールを理解し、ルールを守りながら、ルールを話し合いで、着かせたり、ルールを話し合いで、着かせたり、ルールを話し合いで、着かせたり

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面					人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
7304	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19									2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4～5	2.基準配置	想定外のパターンで対応策を考えておくこと。	身体的な発達の遅れがある本児なので整列の際は他児との接触を防ぐ為、必ず保育者が常に側につき安全の確保を保つ。十分と間隔をとる。	1.定期的に実施	580	1.定期的に実施	580	1.定期的に実施	290	広い遊戯室で集まった子達が放感や活発に動きやすくなってしまった。	活動に入る前に一度全体的な座席の確認や説明など落ち着かせて行うべきだった。	1.集団活動中・見守り	午後のお気持ちがやや後ろ向きで、そのままホールに集まること	子どもの状態を十分に把握し、もう少し広くスペースをとるべきであった。	1.いつもお様子であった	遊戯は好きなので始まる前はご機嫌であった。	2.対象児の至近で対象児ていた	本児の側についていたが、ぶつかった他児の行動や周りと間隔の取り方が十分でなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他クラスの職員は盆踊りを前で教える、又は全体的に見ていた。	各クラス担任は各クラスの児の同行動はよく把握していたが他クラスの児の把握は十分ではなかった。	遊戯室での集会の際は、同士で連携をとりながら全員で本児の安全確保に努める。	
7305	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				2	8				2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	前頭部打撲傷 眼球運動障害 右滑車神経麻痺 脳挫傷疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	年度初めは研修だけの定期修修くて的な実施だった。必要	危機管理意識（リスクマネジメント）をもとに全職員で園内研修を実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	毎月1回の安全点検にて安全を確認済み	毎月1回全点安全職の検に全員で確認する。	1.集団活動中・見守り	子どもがそれぞれの活動からしし、園児のきが活発になる時間帯に子同士のかけが十分であった。	活動の場所の移動があり、職員は、職員同士で声を合い合員同士で必ずかけ合い必ず職員の立ち位置と園児の動きを確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもど気の合う友達と一緒にソフトマット(61.5cm×61.5cm)を床に敷いたり型にして中に入って遊んだりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	その場に職員がいた職員と一緒にソフトマット収納の箱にマットを入れながら、園児の様子見た。その児の様子を見ていない瞬間があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園する対応のため園児の遊戯室ではなく、横の廊下にいた。	活動が、遊びから片付けへと切り替わる時間帯で、絵本の部屋へ行っていた職員と園児が遊戯室へ戻ってきて、園児の数を数えた。その時に降園する園児もいたため、職員が園児一人一人の動きを把握するように	職員は、活動が切り替わる時間帯は、子ども児が遊ぶ場に目を離さないようにする。また、お互位置が変わるときは必ず声掛けし、園児の安全を確認をするようにするる。	
7306	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	4									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足中指ひび先にひびがはいる。テーピングをして、2週間ごとに診察。●月●日に完治。	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	遊びに夢中になると、早く進みたいという気持ちから、狭い間隔がもまった。	サーキット遊びを楽しむには、前のやりてから進むというルールを、子どもたちに伝えて改めて。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	業者年1回	1.定期的に実施	毎日	常設ではないサーキットあそびでは、遊んでいるうちに物が移動しがちである。	物と物との間隔が十分にとれているように適切に位置に戻す。	1.集団活動中・見守り	クラスに戻り始めている4才児を見送りだった。5才児の動きに十分注意を払えなかった。	子どもたちが終る頃に別のクラスの子たちが入ってきた場合は、そのままで、別のクラス大人に活動を引き継ぐ。	1.いつもどおりの様子であった	自分のクラスや廊下で遊び、遊戯室で呼ばれて友達と一緒に、4歳児の遊びに加わってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	4才児の担任は、活動を終えようと、少しずつ促すようにしずつラスしていろ。ところだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5才児の担任は、クラスや廊下で、遊戯室に行かなかった。	別のクラスが使用していると入ってしまった（異年齢で状況になった、動きが違うので）担当教諭も付き当も話すべきであった。	遊戯室を時間帯で利用するクラスが決まっているので、利用するクラス以外は入室しないように決める。	
7307	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22			8	7	7				2	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	園児への遊び方の周知が出来ていなかった。	遊び始める必ず約束事の確認を行い、危険な遊びをしている際は直ちすぐに呼びかけ、危険だと知らせる。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	滑り台を登ることを想定していたので、階段部分から飛び降りることを考慮しなかった。	基本、滑り台等で遊ぶ際は、補助視員が監視しながら指導する。	7.その他	年中児なので室内遊具は、年少児向けのものが多いので、物足りなさを感じる。	雨の天候だったので、もう少し発散できる考えできる。	活発なこどもたちで、普段通り遊んでいた。	2.対象至で対象児の近で児を見ていた	隣でみていたが、違う園児を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	降園時の対応で、見ていない。	降園時の忙しさで、遊びの見守り児が1人になり、注意不足だった。	降園時は、見守りを特に注意して園児を指導する。	
7308	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24									3	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨骨折	2.自転車転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	他もに寄り必要があるため、職員の連携間の不足していた。	事故防止対策や事故ヒヤリハットを参考にしながら研修を行ない、再確認する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎回	点検後にはし確認はしている。今回は遊具には問題はないため、今まで通り点検し確認する。	今まで同様、安全点検は行なは、不具合の箇所ある場合は主任や、運転手、事務長にし、運転報告点もしてもらう。	1.集団活動中・見守り	交代のタイミングで出口に移動するのが勢いがつきぎたと思われる	ジャンプストップする指示を出した後に出口への移動を促す	1.いつもどおりの様子であった	交代するためで出口ジャンプしながら移動	2.対象至で対象児の近で児を見ていた	遊具出口で出口に手を差で出し、ひとりず外へ誘つ導	ホール内遊の他のそれぞれ活動を見守る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		他の子ども児に寄り必要があるため、職員間の連携不足していた。	終了の合図とともに静止させ、ジャンプせず移動するよう指導	
7309	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	14									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった	動きはゆっくりでマイペースである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児へのし対応をしていた	特になし	職員間で連携を とりながら子どもの様子をしっかり見守り対応していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面					ハード面							環境面					人的面												
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者数									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名								実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由				具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		
7310	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	27								3		17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	死亡原因	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自転車転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	子どもたちが久しぶりに雪遊びをしていたので、気を付けていたのだが、高揚し、ちょっとした隙に、子どもたちが一緒に滑り台を滑っていたところ、一人の子どもが、滑り台の下に向けて、勢いよく滑ってきたことから、衝突し、右上腕骨顆上骨折の怪我を負ってしまった。	子どもたちの安全を確認するとともに、滑り台の下に向けて、勢いよく滑ってきた子どもに対して、一旦、滑り台の利用を中止させ、子どもたちの安全を確認した。また、滑り台の利用を再開する際には

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面								環境面					人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7315	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	10									1	1	15. 3歳	2. 女児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	指挫滅創	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	演奏後、ピアノ鍵盤の蓋を閉めないまたは事がもらす結果を推察できかった。特に支援の必要な園児であることは認識していたが、行動を予測するところまでは至らなかった。	職員会議において、事故の状況を説明し、対応策を話し合い、共有を行なった。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	プラピアノの構造上重量などの重がかかった。	プラピアノをやめのピアノ鍵盤にバーを取り付けて、蓋のキーにしてないボード交換。存在するピアノ鍵盤にクッションを取り付けて、ゆっくりと閉じる衝撃を緩和する処置をした。	6. 食事(おやつ)中	支援の必要な園児に対して、一対一で付くなどが出来る支援に対して、一対一で付くなどだけでは足りない。事故防止につなげていく。	現在も補助者を配置しているが、時間に制限があるので加配の保育士をできるように配置する申請を行う。	1. いつもどおりの様子であった	発達支援センターに保護者が相談していて、発達に1歳の遅れがあると保護者へ上申を受けた。児は皆と同一の行動をするのが難しいところまでは認識していたが、行動予測できなかった。	4. 対象動児のきていなかった	3時のおやつの時間で、他児にて、背中を後ろにしていた為対象を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動き見ていなかった	事故発生時は部屋の中で、10名の子ども人数が一つ。ピアノ鳴を聞き、他の保育士が駆け付け、止血、応急処置を行った。	直接のきっかけとなった鍵盤の閉ないことより起き得る事態を推察する等を察する力をつけるための研修を行うとともに、保育環境危険場所について改めて見直した。	配慮の必要な園児に対し、手厚い支援が出来るように加配の保育士等の配置を申請する。	
7316	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20									2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	1. 頭部	脳出血	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	今年度4月からは頭痛があった（昨年度は時々）。身体検査の結果で令和3年2月で保護者に肥満指導面で伝える。当日水分補給を促す声かけを担任がしていたが、本児に適切な摂取量であったのかは不明である。令和3年度春、定期健康診断事前調査票で頭痛ありの記録をする。	頭痛があった時には保護者には伝えていたが、はしらっていなかった。個々の水分量の適切な量を確実に摂取しているか確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	当該事項に関連無	当該事項に関連無	1. 集団活動中・見守り	朝の登園時受け入れ時に保護者から家庭での様子についての連絡はなく、当日の情報がなかった。プール可の保護者からの記録（プール可）あり。登園時での検温は平熱であった。※登園時・・・園児の検温、消毒、保護者からの申し送り事項確認を実施。	毎朝登園時での検温認の体調視診はしているものの、何かの様子があった時の些細な点について連携とっていくとうように保護者にも、もう一度周知していく。	1. いつもどおりの様子であった	登園時から食事時まで普段通り、元気いっぱい様子であり、頭痛を伝えられる検温と摂取を行った。食事時に机を叩く、体調悪化の変化までが短時間であった。	2. 対象至近児を見ていた	朝登園時からの様子の引継ぎはなく、普段通りの保育を行う が、プール内での様子には個々の変化は見受けられ、プールの中にも一緒に入っていた。監視員はプールサイドにて監視。保育室内では担任の他に加配者も見ていたが、加配保育者と二人での保育を行っていた。保育室内で頭痛を伝えてきた時に保護と水分補給の摂取確認を行う。食事の量も本児に食べられる量を聞き様子を窺っていた。顔色変化に気が付き、職員室に内線を入れる。	1. 担当者・対象児の動きでい（至近距離にいた）	加配対象児の保育にあたっている保育者も一緒に保育を行っていた。本児が担任のやり取り、水分補給と給時をとっていた。	対象保育士一人一緒に保育を行って見て育者も一緒に保育を行っていた。本児が担任のやり取り、水分補給と給時をとっていた。	園児・子どもの頭痛の訴えに対して季節上、熱中症をすぐに思い浮かべて対応しがちであるが、体調変化の確認の中でいつもきをかく様子や嘔吐をたら平様子の他、日頃からの本児の頭痛の訴えがあったことから他の病状の予測を瞬時に判断し、いち早く救急車の要請をする事の大切さを感じた事から、頭痛を訴えていた時に保護者に病院への受診をお願いする事を改善とする。	園児・子どもの頭痛の訴えに対して季節上、熱中症をすぐに思い浮かべて対応しがちである。	園児・子どもの頭痛の訴えに対して季節上、熱中症をすぐに思い浮かべて対応しがちである。	
7317	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	30									3	3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部・尺骨骨幹部骨折（観血的整復固定術）	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	十分な見守りの中で、運動遊びをしていた。	引き続き、十分な職員配置の子供の様子を確認し、必要じて応じてそのやりを都度方などを確認し、見守り担当間で徹底していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	運動用マットは適切であり、状態も良かった。	遊びの前後で運動用具の状態を確認し、使えるようにしておく。	1. 集団活動中・見守り	事前の準備体操を行い、対象児もしっかりと行っていたことを確認済である。	準備体操をしっかりと行い、子供や職員間で遊び方を確認をし、引き安全にすし、安全べるように遊びに遊べるようにする。	3. いつもよく活発で活動的であった(理由を記載)	当日は、保育参観で母が参観しており、いつもより持ちが高いまったに恥ずかしさもあった	2. 対象至近児を見ていた	対象児の見パパをこの気がいたいていスンスしたと付いが、補助に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きでいなかった	他のループの子供動遊びの側で対象児は見ていなかった	母親の保育参観中であり、気持ちが高まり恥しずかしさがあり、つもよ手足がらずバランスを崩した。	対象児の気持ちの変化をくみ取り、普段と比べて高揚時には、一旦落ち着かせてから取りに組むように する。	
7318	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21									2	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足第5趾骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	不定期	2. 基準配置	—	午後の子どもの動についてヒヤリきでハット回数や測られるにすうる。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	複数	やわらかいマットの上で同じ姿勢をとった事で姿勢がわったにバランスを崩しうる可能性がある。	今回の怪我をうけて、マット子様トでもの子様をに観察し、裸足で過ごす時には、予測をた声掛行ったたけをていく。	1. 集団活動中・見守り	裸足でいたため、バランスを崩した時、小指が体重がかかった可能性がある。	子ども達足での時の安全な過ごし方を指導すると同時に、保育士が裸足の危険性を意識して過ごす。	1. いつもどおりの様子であった	他の子どもも静かに過ごした。	2. 対象至近児を見ていた	マッ空間子達をにて見たり話していた。	1. 担当者・対象児の動きでいた(至近距離にいた)	マッ空間子達をにて見たり話していた。	—	個々の対応に集中せず、全体監視を意識する。	
7319	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	16									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折右上腕外顆骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	適正な基準で配置し、保育を行っていた。	職員の見守り方や、手厚仕体制をするようにしていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	遊戯室も適切であり面積も満ちており適切と考える。	特になし	1. 集団活動中・見守り	部屋の広さと人数を考え、混雑をさけるため間隔を開け裸でこかけっていたを行ったが、始まる前に十分な準備運動を行っていれば防げたのではないか。	活動前に身体をほぐすための運動や、走り方の説明を行うよう改善していく。	1. いつもどおりの様子であった	長期雨天のため、家庭でも園でも内遊びが続いていたため、遊戯室での活動を喜んでいた。	2. 対象至近児を見ていた	こうかけを際、子どもも同じ声掛け、子ども同じ方向にたち、同じ方向に声掛け、子ども同士の間隔や人数に配慮したが、対象児が転ぶことなどを防ぐことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きでいなかった	複数担任があるが、遅番だったため活動終わりの出勤であった。	—	活動内容に応じ、危険を伴う場合には複数配置で園児を見守るよう改善する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
																										ソフト面					ハード面									環境面					人的面										
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者							事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷		診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】											
																							死因	負傷状況	受傷部位																														
7320	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48			10	18	20			3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	3	2. 基準配置	保育教諭に園児の危険な行動に対する予測が分かる不十分だった。	個々の園児の特性、のことを知り、子どもの行動に対して予測を深める	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	特になし	遊具の破損や故障はなかった。今回の事故にはないとは言えない。	1. 集団活動中・見守り	身近な遊具で子どもが上る危険な行動に対して危機の知識が足りなかった。	いつも通りの動きでも、大きな怪我につながりやすいことを指導する。	1. いつもどおりの様子であった	●●の雲梯で遊んでいた。	2. 対象児の近くで見ていた	●●で遊んでいる子ども達に声をかけながら見守っていた。雲梯にぶら下がっている状態から降りる様子を見ていたが、着地に失敗した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	●●に園児4名がいたのに対し、職員1人が見守っていたため、近くに職員はいなかった。	普段の子どもの行動から、危険につながるかという予測が不十分だった。	遊具内でも、危険が予測される箇所で見守るようにする。	
7321	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	17			10	7				2	2	15. 3歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	後頭部創傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	1	2. 基準配置	降園することも、まだお迎えに来ていない子どもが多い子どもが人が多かった。	入口近く多くなるように入口の見通しをよくする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	雨上がりの為、靴についた土がすべりやすかった。	円柱は使用禁止	3. 個人活動中・見守り	夕方は滑り台なしで、園庭で遊ぶ約束だった。迎えが来ても遊んでしまった。	遊ばないように声をかけ、円柱はご使用禁止	3. いつもと活発で活動的であった	お迎えが喜んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の様子を見ていた。対象児はお迎えが来ていた為、見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢児の活動だった為、担当クラスを見ていた。	—	降園後は遊ばないように声掛けを徹底	
7322	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	361			22	114	118	107		30	28	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	切創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	6	1. 基準以上配置	自由時間・カリキュラム時それぞれに設定されて応じて職員を配置	怪我のあった場所で監視員を増やす。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	デッキの滑らかあれば、傷が浅く済んだと思われる。	ぶつけたと思ったところキ角を削るとデッキ角を削ら滑らかにする。	1. 集団活動中・見守り	特になし。	転んでもしっかりと手を付けるように、受け上手身にとれる運動遊びを多く行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り登園し、元気に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間は他に目を向けていた為、転んだ時で泣いた声で気が付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をした場所の担当職員は1名だった為、見ていない。	特になし。	職員は配置していたが怪我の瞬間を見ていなかったので人数を増やし、あらゆる所に目を向け、徹底して監視する。	
7323	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13			6	5	2			3	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨頸部骨折	5. 他児危害を加えたもの	1. あり	3. 未実施	2	2. 基準配置	事故発生時の連絡経路に共通が認識なく、危機対応が判断基準が現場任せになっていた。外部の保育者配置位置、及びお迎え対応についてのルールが曖昧であった。	・第三者を含めた本事故の評価・改善策指導委員会の立ち上げ ・安全管理の専門家による研修を定実施し、園の危機管理体制の評価を依頼 ・ヒヤリハット・ハザードマップを管理するICTソフトの導入	3. 未実施		1. 定期的に実施	12	3. 未実施		高所遊具であった。手すりが片側のみであった。階段板の角に緩衝材はなく、木材のむきだしであった。	・遊具に手すりを新設、階段マットの取り付け/取替 ・当該遊具撤去の可能性を含めて専門業者に点検を依頼 ・5/●転落箇所に高さある階段を撤去する。	1. 集団活動中・見守り	預かり保育の時間であり、ランダムな保護者対応により保育者の意識が拡散していた。砂場にいた保育者、手洗い場にいた保育者から事故現場は死角となっていた。	・預かり保護児の保護者対応は園舎内の職員が行う ・園庭見守りカメラ導入の検討	1. いつもどおりの様子であった	事故直前、本児を含める数名が平地で揉めていた。保育者が声掛けをしたが、園児同士にわだかまりを残ままこの高所遊具に向かわせてしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育者の一人は砂場に集まっていた園児を注視、人は手洗い場で注視、一人は保護者対応のため、当該遊具に背を向けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任を含む多く保育者会議に出席しており、最低限の事対応をしようとした。	怪我の程度を判断する基準が保育者個人の感覚に依存していた。保護者呼び出し・緊急搬送等の重要な判断に、役職者や養護教員が即座に関わる仕組みが形骸化していた。	・園児との遊び・保護者対応を行わない監視役を配置 ・危機対応マニュアルを細分化し周知徹底	
7324	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	77		8	20	26	23			13	11	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	5	2. 基準配置	当時クラスに園児が全員園庭にいた。運動会のリハーサル中の職員配置について、全体を見渡す職員配置について共通理解をしていなかった。	全体を見渡す位置の職員配置の共通理解を図り、見守りの作いるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	3	園庭での活動に際し、園庭の状況をしっかりと把握するあった。	園庭での防転倒ぐために、土を平らにし、小石の除去を行う。	1. 集団活動中・見守り	園庭にトラックを作り、コーカーがかった狭いが、意識が勢くあったことから、前方に障害物を走ることなどを習えるであった。	活動の内容と環境が適しているかきちんと確認し、予定される行動を把握して行動を束ねる。	1. いつもどおりの様子であった	リレーでいろいろ気が大きいという興味持ち、蓄気味であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	次に走る並び園児を並べばせていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	応援として他の園児の世話や、対象児の見守りを応援していた。	リハーサルという状況のなかで、園児の心を考え、声掛けや援助を行うべきであった。	打ち合わせの際に、職員の配置まで細かく設定する。	
7325	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18			6	4	8			3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2	2. 基準配置		園庭でのヒヤリハット事例を集約し、マニュアルに付け加えた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	子どもがこうした危険行為の想定が不十分だった。	慣れてきている子どもたちの安全ども への指導の徹底（遊具の使い方等）	1. 集団活動中・見守り	人数が少なかったことで、ドタバタ人なかったことを出し、環境スピードをすいにくいた。	人数が少ない時に事故が発生する可能性があることの認識	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	人数が少なかった為、特に危険を意識していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に2人が、他児を見ていた当の動きを見ていなかった。園児の動きを見ていなかった。	三輪車の扱いに慣れており、スピードを出しすぎていたため、該離を離れてしまった。また、教諭の遊び方指導が不足だった。	外遊びに入る前の指導の徹底	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面								環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7326	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	85			30	30	25			6	6	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	園庭でのヒヤリハット事例を集約し，マニュアルに付け加えた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	日頃の個々の遊びの状況把握の不足	子どもへ安全指徹底の導の徹底（遊具の方使い等）	3. 個人活動中・見守りあり	大勢の子どもたちが遊んでいたことで目が届かない部分があった。	職員の配置を意識分散にする。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	危険な行動をする子どもではないのはいて、注視していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では子どもたち多くの子どもたちが遊んでいたことから，担任は全体的に見ていたので，該当児の動きを追っていなかった。	キックボードに慣れていなかったので，スピードを出してしまった。怪我をすることを想定できなかった。	用具を使っている子どもの動きには，特に気を付けて見守る。	
7327	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	59			20	19	20			6	6	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手中指第2関節刺離骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	300	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	ドッチボールが大好きで、楽しく取り組んでいた。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	審判をしながら守った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具で遊んでいるを見ながら全体を守った。	全体にルールやボールの受け方のとした話をしたが理解していないようだった。	外遊びやドッチボールをする前に全体にきちんと話をしない、安全に気をつけるようにする。	
7328	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15			2	6	7			2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	肘の剥離骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	マニュアルの見直し、周知徹底	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	3		設備面でケガに繋がるのは改善要と判断した	1. 集団活動中・見守りあり	一斉保育にはならず自由保育の為、同じ場所で遊び方が違う遊びが混在する状況であった。	異年齢で活動する際の指導計画作成	1. いつもどおりの様子であった	この前中に遠足に行っており、もしかしたらもいつもも疲れはあったかもしれないが、元気でいつも通りの様子だった。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	5～6メートル離れたところ児童一人の児童と対象児を見て、それぞれに注意を促したが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い遊戯室を守るために、2人の職員がそれぞれ違う所を見守っていた。		子どもと遊びながらでも広い視野で子どもを見守る保育を心がける	
7329	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	17								3	3	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手中指の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置		1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12			1. 集団活動中・見守りあり			1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近く対象児を見ていた	専任講師の指導のもと、跳び箱の横跳び補助を行う	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	順番を待つ園児の見守り行う	補助の仕方についての専任講師との打ち合わせが不十分であった	事前にその日に取り組む種目の注意点についての打ち合わせを十分に行う	
7330	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	30			12	18				3	2	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	マニュアルの作成をしており、職員は指導は行っている。職員配置にも問題はない。	1. 定期的に実施	300	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	いつもと部屋で服を違う多少通常とは異なる雰囲気となっていた。（下着のみ着用）	慣れている保育室で受けられるのであればそのようにしたい。	1. いつもどおりの様子であった	服を脱いで開放感があり、やや注意力にてしまったため、転んだ時うまく手をつけなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラスの子達は一旦並ばせて座ったが、他のクラスの子が着替えている方が大変になりかけて中間で目配せしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	任より児にも対象の近くはいるが、子対応をしていた。	通常から動き多いが子どもたちが子ではあるが気ってあるが見守る必要があった。	声掛けは行っていた。更に見守りが必要である。	
7331	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	45			11	16	18			9	9	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	53		点検方法について教職員で確認し、事故防止マニュアルに沿って全危機管理について再確認した。	1. 集団活動中・見守りあり	天気が良く、気温も高かったため、日陰で遊んだり、水分補給をしたり、園児は思いの場所で過ごしていた。園児の居場所が分散していたため、職員も全体のを把握をしようとしていたが、全ての遊具の傍に付いている状況ではなかった。	園児が使用する遊具には、必ず職員が付く。園庭で遊ぶ前に、職員同士で遊具使用について確認し、園児には傍に付いている遊具のみで遊ぶことを知らせる。	1. いつもどおりの様子であった	普段通り落ち着いて遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員4名のうち2名は遊具離れから位置にいた。全体を把握しようと、園児場のいる場所を行き来していたが、立っていた位置から園児が転倒するのを見かけたので、すぐに駆け付けた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の園児は園の遊びに関わっていたが、泣き声で事故に気付いた。また、園庭にいる4名とは別に、園庭を気にしながら下を移動していた職員も泣き声を聞いて駆け付けた。	ブランコや鉄棒などは必ず職員が付いていたが、つり橋は危険認識が不足しており、必ずしもつり橋に付いていなかった。	どの遊具にも必ず職員が付く。職員会議を行い、どんな可能性があるか、どのような付き方をするかなどを職員全員で共通理解し、安全面について危機管理意識を高める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面					人的面											
			施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時 月	時間帯	発生場所		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7332	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成				13	0	7		3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2 1. 基準以上配置	普段は登棒には棒を配置していたが、プール活動等で園員に手薄になったこと、また、全体庭の位置からはづれた所で手を把握し見えない場所があった。	引き続き高さの遊具には必ず職員を配置し、相応の遊び方をするよう声をかけていく	1. 定期的に実施	4 1. 定期的に実施	3 1. 定期的に実施	3	職員がいても自由に登り降りできるよう環境があったため。	職員がいない場合には遊べないように囲い設置し、子どもだけで遊ばないよう徹底する。(現在、すでに設置済)	3. 個人活動中・見守り	異年齢で自由な活動あった。年長児の姿に触発され、自分のものも挑戦してみた。	年少組を中心に子ども達と一度遊具の遊び方・約束を確認し、担任でなくとも、その職員が束ねて、だれが、他の職員とも朝礼などで子どもの情報共有をする。	1. いつもおお様子であった	朝の預かり保育や、部屋で過ごした時間は通いつも落ち着いた様子であった。※時系列は表面「発生状況」参照	4. 対象児の動きを見ていなかった	異年齢で活動中の自由であった。個人の動きに担当はついていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	3名の職員は全体把握はしていたが、それぞれが他の園児の対応をしており、見えづらい位置にいた時間もあった。	園庭で遊んでいた園児は20人程度ではあったが、割合としては少なく、より危険な行動への危機意識を持って全体を把握できなかった。	マンツーマンで見る事ができる状況を設定し、それ以外の時には封鎖しておくようにする。	
7333	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成				20	21	19		7	5	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	5. 他児から加えられの害えたもの	1. あり	1. 定期的に実施	2 2. 基準配置	マニュアル作成してお通りもり、職員の指導は行っている。職員配置にも問題はない。	マニュアルを再度見直しし、さらなる故防止事故に努める。	1. 定期的に実施	300 1. 定期的に実施	48 1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	園児の見守り、かけが足た。	園児の見守り、声かけを徹底し再発防止に努める。	1. いつもおお様子であった	クラスでお始まりのお前の自由遊び時間で紙を使って遊んだり、走り回ったりして遊んでいた。	4. 対象児の見ていなかった	廊下や保育室など、行きしながら、子も達もていたお始まりお前にスに対象児がいたかったので、対象児を探していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下では、他のクラスの担当クラスの見守り、対象児が立った保育室では、そのクラスの子どもの見守りをしていた。	廊下はお走らない、ドアではばないという声かけ不足。	自由遊び時間の見守りを強化する。	
7334	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成				3	7	4		2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	2 2. 基準配置	事故予防マニュアル(園内で事故が予想され想される物、遊びつ)について配慮が足りなかったと考える。	子どもの運動能力や予想できる子どもの動、怪我について職員間で共通理解し合える場を設けるようにする。	1. 定期的に実施	12 1. 定期的に実施	12 2. 不定期に実施	1	低い位置からの下下に折とり、職員がかかる。	遊具の点検も使怪をしていて方を安全ため、教師も子どもも安全な遊び方々遊び日しよる。	1. 集団活動中・見守り	年齢別にでいて遊んでいたり、異児がいる場面でも遊びが続かずトラブルになるなど、場面に応じて関わりがまざまである。	合同保育ということで、人ひとの特性を理解した保育が必要になる。また、通常とは違う様子に注意して見守っていくようにする。	3. いつもお活発で活動であった(理由を記載)	担任の話によると午前中通常保育の時とは違い、気持ちがふったとのこと。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びにかわり、遊びのルールを理解できずに泣いた子に援した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びにかわっていた。	2名の職員で担当していたが、事故発生時は他の園児を世話しており、対象児に対して背を向けていた。危険を察できていたら事前に声をかけることができたと思う。	広い遊戯場など子どもの活動が活発になる場所では、全体が見渡せる場所で他児とかかわるようにする。対象児が通常とは違う様子に注意して見守っていくようにする。	
7335	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		6	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	22								2	2	16. 4歳	1. 男児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	前歯2本の脱臼	2. 自転車・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3 2. 基準配置		職員が給食中も広く視野を持つ食べ、給食室ごとに指食べ、また、食中の教室過ごしかたいて指導していく。	1. 定期的に実施	12 1. 定期的に実施	12 2. 不定期に実施	12		今回の件は、施設の設備の不具合から起こったものではないが、これも変安からず全面の徹からわ全底に努めていく。	6. 食事(おやつ)中		万が一転んだときもが子どもがティッシュを取りに行くなどの動線には子席の配置を作らないようにする。また、つまずきそうな物がないか常時確認する。	1. いつもおお様子であった	歩いてティッシュを取りに行っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	教室の前の方に他の職員と一緒に座って給食を食べながら食べながら子どもたちを見ている態だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じく座って給食を食べながら子どもたちを見ていた。		給食を食べながらも子どもたちの状況を把握できるように座る位置などを工夫して連携を図り見守っていく。	
7336	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	3								25	22	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左側上顎乳切歯;歯根破折・外傷性亜脱臼 右側上顎乳切歯・乳側切歯;外傷性亜脱臼	3. 子どもの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3 2. 基準配置	子どもの登園後の身支度への取り組み方への言葉かけ不足	巡視の徹児への言葉かけの強化	1. 定期的に実施	12 1. 定期的に実施	6 1. 定期的に実施	6	特になし	特になし	4. 個人活動中・子どものみ	登園後の身支度中遊んでいる子どもに対しての言葉かけ不足	約束事の再確認をクラスや園全体でしっかりと伝える。	1. いつもおお様子であった	登園して15分間友達と戯れて遊び楽しんでハイテンションなっていた。	4. 対象児の見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育にいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育にいた。	巡視時に危険に関して把握や言葉かけができなかった。	「水筒は座って飲む」「ウッドデッキは走らない」「ウッドデッキで水筒を飲まない」などを全園児での朝礼で園長から、また各クラスで担任から子ども達に促し、再発防止の徹底に務めた。	
7337	令和3年12月17日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園		2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	19								2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2. 自転車・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3 1. 基準以上配置	なし	なし	1. 定期的に実施	200 1. 定期的に実施	200 1. 定期的に実施	200	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	対象児が危険な遊びをしていたため、場離れた場所から全体の把握をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	子どもの遊びに応じた配置場所について、職員間で声を掛け合い、連携を取り合い進めていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7338	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				13	12			3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左頭橈骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	春季休業年中で異年齢構成の保育であった。あめ、通常は保育とは異なっていた。	長期休業や教育時間後の預かり保育では、保育の進め方や危機管理について再度共通理解を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児が危険な遊びをしていなかったため、離れた場所から園児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	なし	
7339	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	51								16	14	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		ケガの応急処置の再確認。園内のヒヤリハット確認。もっと気軽に救急車を呼ぶなど受診時の確認。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3		1.集団活動中・見守り		遊具での遊び方を、今以上に工夫をしていくとする危いか、かからすぐにかけられるうにしく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通常で、いる状態や、最近特に興味をもった鉄棒をいて、担任の先生ともとにらおうしした。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児の「鉄棒を見てて」「逆上がりやって」という言葉に寄り添い、傍で援助した。本人が手をしっかりした時、受けこめることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児と関わりながら、ケガ児の状況の確認と観察、職員室へ連絡。		今回は、とっさに体を受け止めることが出来なかったので、落下するかもしれないという危機感を常に持つようにし、保育者自身の立位置も気を付ける。	
7340	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	8								2	1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置			1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	–		1.集団活動中・見守り			1.いつもどおりの様子であった	捕まえなくたため、慌てて逃げてバランスを崩して右肘から転倒してしまった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	担任は、一緒に遊び入りながら他児の見ながら園の動きを守りも見ていた。対象児が転んだ瞬間に手を差べる等にし伸ばした対応に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	支援員は、支援なっていたため、時は見ていなかった。	転倒時に手をつくことがなかった。	転んだときには手を地面につくように活動内容を工夫し指導をする。	
7341	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54								4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	研修等、年度初めに行う。園内の事故防止のため、予想される事故(すべり台、三角ターザン、ジャングルの足引っ地球儀)の確認がなかった。	所はどんが場所はどんが必要かどもに遊ぶ方のルールを全確認。このようなことが起こるのは、配慮が想定されるのに、どんな子ども伝えるのかを改めて職員で改め職員認。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	雨はぬれやすく、ホールの下はありたち危険高くこと登った動りためこと。	雨があがりは十分注意すること、雨は意ちもみ上に葉が固い、落ちこと際のがなる後ら登って来振わすい揺れすくやめやすく。	3.個人活動中・見守り	もたちも遊び夢中ので、くいとが高ろかあったのであるか、意識薄れまってしまう可能性もあった。	今一度、子どもに「木を登る際は必ず人を見ようと」「登る際、降りるときは焦らずゆっくり動くこと」「木の上でのりしたら、上の押したりけんかしないこと」のルールを確認した。	1.いつもどおりの様子であった	木に登まとさ登る高くまで登る高くまとさ少しのあるところから飛び降りをした。	2.対象児の近くで見ていた	側でぬれるのんだ手入れをしながら、対象児が童を見ていた。対象児が落下する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	屋外の弁付かの片付声や他児トラブルに対応したため、見れなかった。	今回は同じ子どもも多く意見が広がった。よって、職員同士連携が必要となる場面があった。	保育中、職員同士誰がどこにいるかついて識ができるよう「木登り人のたちのところにつきます！」「私は～の場所です」「よろしくお願いします」と伝えることで必ず行う。これは日頃のどの活動においても重要なことなので、今一度他の職員にも共有再確認した。	
7342	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15								2	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腎部)	胸骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	担任が、怪我の園児がしてことか我をいるに気付なった。	今までの経験や、園医から指導記録を研修資料として、1修回の回も取り上げ、回の今回も事態に事態に複数の目でのあを事例りて、最悪の備えて確認必要ことを伝えた。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	傾斜地に石畳が配置されているため、スピードが調節しにくい。	石畳の角が鋭角で、石の角が丸くなっている。	3.個人活動中・見守り	石畳などの段差を乗り越えたり、段差を乗り越える少経験がない。	足・腰をくさんくたくもすに使う活動を入れる。子ども入れて来ようすによくる。	1.いつもどおりの様子であった	本児は園舎裏付近で枝拾いした。	2.対象児の近くで見た	本児の近くで枝拾いをしていた。本児が転倒しているところを見た。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	3～4メートルの枝離れたところで拾いた	当該事故について保護者への連絡をした。また保育後、話に連絡をった。	痛みが治まっていてもあっても、そのまま様子を見ていることで、担任・補助だけの確認ではなく、何人かの大人の目で確認をした。	
7343	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	118			16	27	33	42		6	6	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	丸太の遊具の近くに職員が配置されていなかった	職員の配置を拡大する	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	遊具は園に総合遊庭遊つ梯場・固さ物の遊具。家型の固定された二ライグ・丸の集合の遊具が園庭の周りにされる。	複数人数で遊んでいる際は、人数の制限をする	1.集団活動中・見守り	ほぼ全員ほぼ全員の子供たちが遊んでいたに個別がめに対応ができなかった	全体の確認がエリアでいたのでの確認なのアを怠らない	1.いつもどおりの様子であった	同年齢の友達と丸太に遊んでいた複数で一緒か所に乗めて、たは落ずみで下する	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	丸太遊具で遊んでいたことは確認していたが、落ちた瞬間に間に合わず援助ができなかった	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	泣いている園児に気付き、泥を拭いたりする	当該遊具あるため、ほかの遊具比べて危険度の認識が足りなかった。	遊具の利用時には職員を配置する	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7344	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨幹部骨折の再発	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	同じ保育室内にいたが、転んだ瞬間を見ていなかった。	常に全体を見渡し、危機管理に努めながら保育を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	特になし。	今後も危ないあそこのようあそこ前に、安全点検に行うようにする。	3.個人活動中・見守り	２つの教室を利用して保育を実施することにより、児童が自由にできるようと感じがまった。また、職員の目届く境をつくってたことも要因の一つと考えられる。	事故予防マニュアルを職員全体で直した。また、日常の保育の中でヒヤリハット体験等をピックアップし話しあい事故を起こさないよう仕組みづくり、組織的に取り組んで中で、環境設定の在り方について再度見直していく。	1.いつもお子であった	昼食後、仲の良い友達と一緒に誘い合って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	教師は同室で保育していた。転んだ瞬間は確認できず、泣き声で気が付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の保育室に1名配置し、他の幼児の遊びを見守っていた。	子どもたちの遊びの状態に応じた声をかけ頃から心がけてはいたものの今回のケースのように仲の良い友達とのじゃれあいの中でも転び方によっては、骨折してしまったケースである。	ちょっとした場面でもいろいろな要因が重なり事故に繋がるケースも考えるため普段の行動であっても、常に子どもたちの危険を察知し、注意喚起を怠らないよう努める。職員の危機管理意識を高めるとともに、子どもたちにも、危険を予知・回避できる力が育むように声掛けをしていく。	
7345	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									2	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置			1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200			1.集団活動中・見守り	幼児の状況を危険がないか全体的に目を配りながら保育する。	幼児の行動を面白面で予測して、見守ることが必要。	1.いつもお子であった	固定遊具や、滑り台で意欲的に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の遊ぶ場所から、3メートルほど離れた場所で、他児台の滑り台を滑る様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児を近くで、他児と関わりながら、本児の様子を確認していた。	入園間もない年少児のため、体幹がしっかりしておらず不安定な面がある。しっかりと前を見ていないと出り、ぶつかってしまうことによる、衝突の危険は考えられる。	危険を察知して行動するよう、危機管理について幼児と日ごろから話し合うようにする。また、危険な行動には、あらかじめ声を掛けられるよう、全体を見ていくようにする。	
7346	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25									3	2	15.3歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	前歯強打による破損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	安全教育全体毛筆計画・年間計画づくの指導計画に基づく計画・実践・評価・改善のサイクルによる見直し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	15	特になし	定期的に点検加え、遊具・玩具など保育活動で使用する必ずには検するようにしているが、今後一層の徹底を図る。	7.その他	男児Aが初めてお誕生会に参加して気持ちが高ぶり、周りの状況を考えずに場所に座ってしまい、自分の座ろうとして勢いよく滑り込んだことが考えられる。	園児に、室内での方ごしや集合の仕方などを定期的又は随意に指導する。	1.いつもお子であった	本児（女児）は、自分のことはできるこ子であり、誕生会後に着替えるこの場所に座り、みんなの着替えが終わるの待った。	4.対象児の動きを見ていなかった	入園当初は着脱なの服が未熟め、個々に制服から運動服に着替えの支援をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同様、それぞれに個別に着衣服の支援をしていた。	３人の職員がそれぞれ個別に支援し、全体の児の全園把握が不十分であった。	個別指導者全体指導者など、担任と補助教諭との役割分担を明確にする。	
7347	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折転亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	担任の２名のうち1名は新任というこ見とで、危険を察知や声かけする対応の対応が不足だった可能性も考えられる。	事故防止マニュアルを令和３年度中に見直し、再作成するとともに、職員間でケガや事例や危険な状況を想定した共通理解を図る為の研修を重ね、ケガ・事故に努め防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	今回は環境における要因は挙げられず、あくまでも人的環境による発生であるため、特になし。	ハード面ついては特になし。	1.集団活動中・見守り	遊び環境における配置が玩具などの適切であったかが要因と考えられる。	遊び環境における静と動の配置、子どもの動線を意識した環境作り。	1.いつもお子であった	床に座り、レゴブロックで遊ぶ。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	登園児の入受け入れ、視診などを兼ねながら、自由遊びの姿を見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園後のうがい、手洗いを促しながら、自由遊びの姿を見守る。	保育者の見守り位置について適切ではいえるケガ繋がりそう行動を予測または知るよう見る必要があった。	発達状況や自由な遊び空間等における見守り位置の視点や適切な位置等、経験・担当に関わらず全職員が同様の意識を共有を図る為、学期末の振り返りを基本とした研修を実施し、改善に努めたい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
7348	令和3年12月17日	1. 認可	5. 幼稚園	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17									3	2. 地域子ども・子育て支援センター	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	4. 玩具・遊具等施設・設備の不具合	2. なし	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	3	令和3年度中に事故防止マニュアルの見直しの作成、室内外における遊具の安全点検、種別ごとの不具合の

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7360	令和3年12月17日	1. 認可	5. 幼稚園	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	53			16	19	18				7	6	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	頭蓋骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	6	1. 基準以上配置	特になし	遊具の遊び方の見直しと、園児への指導を行う。	1. 定期的に実施	5	1. 定期的に実施	5	1. 定期的に実施	5	近年の幼児全般の体力低下にもかわらず、遊具が古いため幼児個人の危険回避が難しかった可能性がある。	8/●　遊具業者Bにより安全確保のための改修等の提案を受ける。9/●　遊具業者A（事故遊具設置業者）より遊び方指導を受ける。9/▲　理事会にて安全確保のための安全チッの埋の入、遊具の改良のため¥2,000,000程度の支出を決定、業者に工事を依頼した	1. 集団活動中・見守りあり	対象園児を見ている職員が一名だけだった。	定期的な職員研修で改めて事故回避の指導を行う。特に園庭遊びでは園庭中央で園児に園庭遊ぶ園児を、複数の職員が園庭側面から見ている体制を基本を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	元気に積極的に遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にて児の園児に対応しながら、対象児の動きに注意を払っていた。最上段に登っていた遊具の段上段登ったこと、危険回避のため、園庭側面から見ている体制の指導をする園児に近づいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて他の園児に対応していた。	保育者は対象児に近づいたもの、対象児が背を向けていたため表情が見えず、緊急性を把握できなかった。	遊具の使用法について見直す他、異常時に園児から報告が出来るよう指導する。	
7361	令和3年12月17日	1. 認可	5. 幼稚園	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	15									2	2	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	右上B外傷性歯亜脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	4	2. 基準配置			1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	40	床に支度をしている子たちが座っていたり、身支度した各所にいること因考える。	片付けの際に、支度をする場所を定位置とし決める。	1. 集団活動中・見守りあり	手助けしている際、個々にかかわっているため、全体を見渡せていない時もある。	一人が偏るに関わる際は、もう一人の全体を見渡す。	1. いつもどおりの様子であった	特に帰り支度の際も、ぶつったりみてきたりは見られなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園時、全員が帰支度をしている他児に助けをしていたため、必要な支援を要する園児についた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児が多数いるため、それぞれに対応していた。	担任にゴ言いず状況にあったことも予想される。	困ったことや痛かったことなどは、すぐそこの場で伝えや、帰る職員の際に、個々とやりとりして怪我などの状況を確認して帰ること。	
7362	令和3年12月17日	1. 認可	5. 幼稚園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	26									5	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	巧技台の周囲にマット敷いなかった。	落下の可能性を考え、周囲にマット敷き、安全に配慮に面する。	1. 集団活動中・見あり			1. いつもどおりの様子であった	他児と共にし楽しんで参加した。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	巧技台の場所で安全にのぼれるよう見届けた。順番を待つよう導いた。対象児が崩れて落下した時、対体勢を崩した時、職員が交代して他と場を代えした。	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）	巧技台の担当職員に交代した。	職員が交代する時に、対象児や、次にのる子を制止なかった。	職員が交代する時に、職員が交代で子供に待つよう指導する。	
7363	令和3年12月17日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9	6	3							6	4	13. 1歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	2. 基準配置	職員の立ち位置、役割分担の確認不足	全体が見渡せる位置を、怪我がよせる立つなかないようそれが立ち、声掛けながら園児を安全の見守る	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	毎日	複数の遊具を出しまいもの子て行動範囲がっしまってた	行き遊具定遊ぶ遊具方を皆が確認、し始日環境整備は危勿論、思わ個所し発ま保れる対齢を踏て、環境を整は年達えて、育安全に安全える	1. 集団活動中・見守りあり	・集団遊びでの自由で遊ぶ中ぞれぞれが遊べていて見守っていた・安全に遊べていると過信、他児に気を取られていた	常に人数把握をし日のそれぞれの子どもの様子など報告し合い危険防止の確認をする	1. いつもどおりの様子であった	元気で、室内に出ていた。園庭に出ると活発な子ども落ち着いて落った座って遊ぶ様子を見ていた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	滑り台のステップにつかまりながら立ちを確認。近くでの認。遊んでいた子の気を取れ目を離れしたその間に場から転倒。	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）	本児が泣いて立ちいて上がらないたため、もう一人の職員が抱きかかえ抱きクッキッドにたれながら、抱きあやしていた	他児の行動に行き目が傍児で見ることが出来なかった	特性の理解と周囲の環境整備により事故防止できるため、少しでも伝えできるように対応できるよう。その他の遊具の使方なども指導する必要がある	
7364	令和3年12月17日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	27	5	4	3	11		4			10	7	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施		1. 基準以上配置	開園子どもたちしく、ちもしたち持ちまっ高まっ新園ども見慣れない興味が気持ちが高まった。見慣れない興味遊具があった。	事故予防マニュアルの作成。研修に参加する。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	開園直後の為	トンネルの上の飛び出しの柵を、安全に点検する	1. 集団活動中・見あり	降園前の戸外活動中	トンネルの頂上からジャンプするトンネルを下くぐって友達とぶつかることも子どもたちに説明し、トンネル出口でトンネルの入り口はジャンプしないと約束をする。柵には鍵を付けた。	3. いつもと活発で活動的であった（理由を記載）	見慣れない遊具があり、興味がいつ気舞もより持ちが高まっていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	鍵がついていない友達が柵でお友達が開門の姿勢するあった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で児のトラブルに対応していた為、見ていなかった		トラブル対応の際もこまめに様子をみる。保育士同士、声を掛け合い連携していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
				事故発生時			発生場所	発生時の体制								教育・保育等従事								事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面				人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7365	令和3年12月17日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	45	7	11	9	11	4	3			11	9	14. 2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	右撓尺骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3回/年	2. 基準配置		職員配置は、園の立ち位置を考え、視野で遊び（活動）を見守る。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	12回/年		危険個所はないか、遊び（活動）の前にも常に行う。	1. 集団活動中・見守り	あり		今回の事故の直接要因ではないが、転倒した場所近くにブロック壁があるため、事故防止予防策として、角にスポンジクッションを設置する。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内に片寄ようにに立ち、園児の遊びを見守っていた	対象児がやせ型、日頃から転びやすく、わざと転ぶ遊ぶ様子もあった。	表情や泣き声等で見えない傷に、いち早く気付けるように対応する。	
7366	令和3年12月17日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	10									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	下前歯破折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12回/年	1. 基準以上配置	テーブルが隅に寄せられ配置した環境では。しかしクラスルームについては、スペースとしてレッチだともも幼児クラス動遊び対応し狭い環境だった。	クラスルームの使用法、対象年齢を見直し、それに合ったマニュアルを作成する。	1. 定期的に実施	1回/月	1. 定期的に実施	30回/月	1. 定期的に実施	30回/月			1. 集団活動中・見守り	あり		全体を把握する意識を持てる様にする。	1. いつもどおりの様子であった	動きが活発な幼児Aが、保育者からの指示が出される前に動き出したれた立ち上がったフラフラと動き出した。	4. 対象児の見ていなかった	お子様から目を離さない様に、必ず1人以上配置している。発なお子様と、気持ちが不安定な様へ保育者が集中してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	気持ちが安定なお子様の他のお友だちが、お子様に手をだしてしまうのを中心にみた。また、事故起きた際は、気持ちが安定なお子様にお留意しながら、髪の毛を踏まれた幼児の話を聞いた。	担任と一人の保育者が、連携を取って全体を意足みる識りかった。	状況を見て役割自身の職員を確認し、保育者同士声に出して連携を行う。	
7367	令和3年12月17日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	22			9	8	5				4	4	16. 4歳	1. 男児	発達面や持病等は、特にない。	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左脛骨骨折 左足関節捻挫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～2回/年	1. 基準以上配置	施設環境安全面の確認をする資料がない、対応の流れは国全体でできていない状況がある。	施設環境の安全面の注意点、チェック箇所の確認できるものを作成し、園全体で確認をする必要がある。	2. 不定期に実施	約12回/年	2. 不定期に実施	約12回/年	1. 定期的に実施	週1回程度	屋上の日除け（ターブ）が、段差のもとどもが手をばすれられたもぶらら束をした。上立ちたち下がと触るだっ子たち下が約して高さ。ぶらい。	日除け（ターブ）の高くさし、ターブにられようる。	1. 集団活動中・見守り	あり	屋上の全体の様子を把握ができる位置で保育士は見守った。人工芝部分は、小さな空調や空調設備を囲う柵があり、見えにくい死角や部分がある。	子どもたちの人数により、屋上の遊ぶスペースを制限（環境調整）や玩具や遊びの提案をして保育環境を整える。	1. いつもどおりの様子であった	対象児は、友だち4，5名と一緒に人工芝部分で身体を動かし、まねっこ遊びをした。ろぐる描ながら走り、20cm程度の段差をジャンプ飛び越える遊びをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	担当職員は、屋上の中央にある遊具付近で、屋上全体を見守っていた。対象児は、屋上の奥（人工芝部分）で遊んでおり、走り回っている様子は把握していたが、転倒した瞬間は目視できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋上には、保育士1名で対応をしていた。他の職員は対象児子は見ていない、屋上から受連絡を受け、対象のケガの状況確認、ケガの処置の対応をした。	夕方の過ごし方。保育士の体制について再度確認をする。	子どもの人数、遊びの様子等を考慮し保育士を2人体制が必要となる場合は、屋上の体制を2人体制にする。	
7368	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	18									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	雨天の為室内遊びが続いていたことで発散ではなかった。普段使用しているはなかった為、気持ちが高揚していた。	粗大運動の前は準備運動とルールの確認を行い、一度落ち着いた状態でスタートをするように声を掛ける。	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	250	1. 定期的に実施	12	テンポよく飛んで跳ねる事がでいるが、勢いがつい過ぎてしまった。	気持ちが高揚した際、ダイナミックな動きを想定なる。気持ちを落ち着かせてスタートをする。	1. 集団活動中・見守り	あり	見守りを保育する教諭が1人だった	粗大運動の際は、見守り・補助を含め、2人で対応する	3. いつもと活動的で活発であった（理由を記載）	普段身体を動かす遊びには参加することは少ないが、この日は時々跳び箱に興味をそそられ、友だちの誘いを受けて意欲的に挑戦していた。	1. 対象とマンマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱の横につき、走行方向の右側についた。着地までは見ているが、左手側は死角になっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に1人、ホールに1人の体制で、対象児は見ていない。本児から訴えがあったので、保育室にいた保育教諭。	若木骨折は子どもに多い骨折である。生活習慣も関係している。	バランスの良い食事と身体健康な身作り。	
7369	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									1	1	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認を行う。	1. 定期的に実施	252	1. 定期的に実施	252	1. 定期的に実施	252	特になし	室内の環境の見直し、動線を考慮した環境設定に努める。	1. 集団活動中・見守り	特になし	室内では走らないように声を掛ける。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、所持品の始末をした。	2. 対象児の近で対象児見ていた	登園時間だった所持品の始末を見ながら、運時の受け入れをした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園時のため、保護者対応を した。	特にな し	室内でもいつどんな時でも怪我をすることがある念頭に置き、保育に努める。室内では走らないように園児に伝える。	
7370	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30			11	9	10				4	4	16. 4歳	1. 男児		7. 登園・降園中（来所・帰宅中）	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不期に実施	1	2. 基準配置	遊び方の見極めや日のなどその様子な各園児の状態の把握。	園児の状態を確実にし、適切な補助体制と環境整備を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊具には不備はなかった。	遊具自体不備はなかったが、使用した安全マットは高いものよりになる。	1. 集団活動中・見守り	使用頻度の高い雲梯であり、マットも敷いてあるとても危険性を認知していなかった。	ソフト・ハードでの対応に加え、児童ても方のなどを行う	1. いつもどおりの様子であった	外遊び中、複数児と園児と一緒に複合遊具の雲梯部分で遊んでいるうまくかめず落下。手を着いた時に肘辺りを骨折した。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	他児の対応をしていた為、すぐそばにはは駆けなかったが、にいて全体を見ようにしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応など、対応する体ようにしていた。	降園前の外遊びであった際で疲れた体力面で不安や、園児の様子等の状況把握	今後は当該遊具での際は職員を近くになどし、他の複合遊具のような高さのある場所での遊びでも特に配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面										
			施設・事業所種別					人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学校	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所																	死因	負傷状況	受傷部位	診断名		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																		
7371	令和3 4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝（始業～午前10時頃）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	31			12	9	10			2	2	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左足親指付け根骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	2	遊びの活動は危険な要素はなかったが、片付けの際、注意事項は伝えたが、その見守りに配慮が足りなかった。	平均台等の運動器具を使用した際の片づけ方討を行い、子どもには平均台等金属製や重たい片づけの器具は運ばせない等、事故防止取り組みを行う	2. 不定期に実施	2・3	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	事故発生時に子どもたちは平均台の上で金属製で重さがあった。	活動後の後片づけの際に金属製の器具はたちせないこと、また目さなければ子どもから離れないようにする。	1. 集団活動中・守り	朝の自由遊びの活動は玩具や平均台等の遊器具を使用していた。	自由遊び内容の再検討及び金属製の運動器具の使用した片付け方法の際け見直しを行う。	1. いつもおお様子もりの子であった	朝の遊び片付けが平均台を足足親指付近に倒してしまった。「ガシン」という音で気が付き、振り返ってみたら、本児が平均台中央付近で小さな声で泣いていた。足の指を確認したが、特に痛がる様子はなく、その後は普通に歩行していた。	3. 対象児から離れたところ対象見児で見ていた	担当職員ともたち子どもの片付けと一緒に跳び箱等の重く大きな運動器具片付けをていて、まさか平均台片付けると子どもがいるとは思いなかったこと、全く見回す余裕がなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	朝の遊び担当職員2人め、他の職員は其の場にいない。	普段かどもたちの行動に対して先入観や思い込みを持たないよう観察する。	今後の遊び片付けの仕方等を再検討するとともに職員の配置等も検討する。	
7372	令和3 4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5. 4歳児クラス	66								5	5	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	螺旋骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	1	●●ごっこがエスカレートしま遊びが激しくなりケガにつながったのではないか。	子ども達に対する教育的な安全見直し、子ども達自らが安全に展開ようにする支援や声掛けを行うようにする。また、職員防止に事故防止対策の定期的な研修へ参加を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	人工芝の広場では4歳児●●組の園児のみが遊んでいて充ん広さがあったが、雨上がりやすかったこと分とりの配慮が足りなかった。	外遊び際は、気象状況による地面化に配り、全に対しての安全を検討してにすることを担任は把握していなかった。	1. 集団活動中・守り	雨上がりで芝が少し濡れて滑りやすかった。本児が長靴を履いていたことを担任は把握していなかった。	長靴は足元が不安定なので注意必要がある。	3. いつも、より活発で活動的であった（理由を記載）	友達と●●ごっこで遊んでいる時に勢いよくトンネルをくぐり、頭をトンネルにぶつけてしまう。	3. 対象児から離れたところ対象見児で見ていた	トンネル内側の反対側にいた為、本児と一緒に遊んだ友達が怪我の報告してくれ見に行った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	クラス担任は一人が戸外、他2人は室内で給食準備、発表会準備をしていた。	4歳児人の担任が2名のうち1名、3組の担任が3名のうち1名、しかし園庭に複数出ていなかった。また、長靴でいたことを把握ていなかった。雨上がりであったので濡れていた為滑りやすかった。	職員の配置は、可能な限り子ども中心にし、戸外（子ども担当）は3名の園児のうち2名、準備等は1人にし園庭に複数出るようにする。職員が複数出られない場合は他のクラスの先生に頼み だりして協力を仰ぐようにする。また、長靴で遊ぶ場合は滑りやすいので注意をし必要に応じて裸足になったりする。たり注意深く見るようにしていく。	
7373	令和3 4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	7. 午後	1. 施設敷地内（室内）	1. 0歳児クラス	5								3	2	13. 1歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	右大腿骨遠位端骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備全上の安の不備にもよる	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準以上配置	12	エリアを分けて仕切りが牛乳パックでも作ったので使いやすいように傾いた。	ぐらつきなく安定な配置を変えず、新仕方いものに交換した。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	点検の時に不備が発注が、いつ届いても為取り替えなかった。	不備を見つけた場合は速や代替かにとなるに交換のする。	3. 個人活動中・守り	仕切り（排泄と遊びのエリアを仕切る）が不安定だった。	しっかり安定した性のものに取り替えた。	1. いつもどおりの様子であった	保育者に抱き上げられた。	1. 対象児とマンマンの状態（対象児に接した）	オムツ交換をしようと対象児を抱きあげた所、足元が仕切りに触れた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	対象児以外の子どもの保育	オムツ交換の際の職員配置	各々がサポートできるよう声を掛け合い配慮につく。	
7374	令和3 4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	55								4	4	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	1	その時の学年の職員人数や職員配置は、問題はなかったが、それぞれ応じたれども届かない場面をたった。	園庭全体を見守る役割の職員は見守ることに専念する。	1. 定期的に実施	41	1. 定期的に実施	205	1. 定期的に実施	3	雲梯下の地面等は、定期的に耕運機で柔らかくしているが、雨により硬くなっていた。	ただちに雲梯等、転落の恐れのある遊具の下にゴムマットを敷いた。	1. 集団活動中・守り	午後という時間で体が疲れていたため、いつもだったることができず落下してしまった可能性も考えれる。	午前中や元気な時間に体の運動遊びの時間を計画するようにする。雲梯をしている時に疲れを感じた時に無理をせず途中でやめることも、防止は大事という子とけが防止にはだことを連絡合ども達と話し。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子は見られなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	主担任は、園庭の芝生の上で他の児と鬼ごっこをしていたため、瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員の名も、それぞれに配置していたが、他のもをしり、瞬間は見ていなかった。	雲梯をすることは把握していたが、落下するかもしれないという危機感が足りなかった。	雲梯をする時には、子ども担当が見守るように近くで職員にする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面					人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7375	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	10								3		3	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	クラリーダー動でだっが不ただ為、保育に保育を代理して配置した。	配置人数に問題はなかったが、こどもの及び職員の状況把握も必要。新しい遊具を使用する場合は、正しい使い方、留意点、設定の仕方を職員の全周知、理解してから実施することとする。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	今回使用したトは用のマットではったが、使用方法に理解不足があり検討後、今後は使うとしてはいけないという職員に徹底した。	事前に保育教論が体験、問題点はないかの検討を行ったうえで提供する。	1. 集団活動中・見守りあり	山型で成長段階に合わせて成長段階に合わせて環境設定をし、職員が細心の注意を細心の注意をして活動する。	初めて体験する活動については事前に設定し、職員間で役割分担を話し合い、危険な箇所はないか、職員の配置等しっかり検討した。	3. いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	広い場所、初めての体験に興奮し落ち着きが少し見られた。	2. 対象児の近くにいたが、一瞬他の子に気をとられてしまった。密を避けるため小規模で遊ばせたので、他の子が広いスペースで遊んでいた。	担当職員は対象児の近くにいたが、一瞬他の子に気をとられてしまった。密を避けるため小規模で遊ばせたので、他の子が広いスペースで遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具を多くの子どもが使うので、グループに分けて安全に設定し、グループごとに安全を確認できなかったため、全体はできていなかった。	多くの遊具や広い場所を子どもや職員の状況把握をしないまま安易に提供した。初めのグループ(8人)は遊び方や約束を伝えてから遊び始めたが、後から参加した本児と一名の子はしそうしそうやりたい気持ちですぐに遊び始めてしまった。誘導の方法に問題があった。	個々の子どもの心身状況を的確に把握し、また職員の状況等も考慮し計画性を提供する。今回、後から加わった二人は使い方や約束を聞かないで遊び始めてしまったので、一人ひとりを始める前に、落ち着いて話をしてから活動を始められるようにする。また、後から加わった二人を引率した職員が、職員の安全に引き渡しを行う。	
7376	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	59				20	19	20		6		5	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	5. 他児から加害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	2～3	2. 基準配置	本園では「戦いごっこ」は暴力を遊びと捉え、園内では誰かけるのと認識していると認識している。	4・5歳児になると「戦いごっこ」はルール違反だと自覚している為、遊びの中で擦り傷や痛い所があっても先生や親に黙っている場合がある。原因が何であれ子供達には異常があろ時は必ず先生に知らせるように指導する。また、見守っている職員同士は連携や声かけを密にし大きな事故に繋がらないようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	固定遊具については職員配置ができない場合は使用は止いるが、園庭での自由遊びも職員が見通せる範囲を決めないようにしている。	その日の配置に職員死角ないか常に確認しながらの注意する。	1. 集団活動中・見守りあり	帰りの会の後は室内、園庭、保護者対応など広範囲の見守りが必要な為、職員割で役割分担を見守っているが、突発的な事が起きた場合は職員は常に意識した安全な見守りが必要がある。	突発的な事が起き場合は職員間で声を掛け合っており、お互いに状況を確認し安全な見守り体制が取れてから動くようにした。	1. いつもお様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の園児の当てを目的に室内に入った	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具に対応した保護者の対応をし、お迎えに来た保護者の対応をし、付近の見守りをした。	広い範囲で遊んだ	遊びの場所の制限をして、見落とし、しや死角になる場所は職員が注意をしておく。	
7377	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	1			5	5			5		5	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	保育教諭の役割と配置について、受け入れ時間帯、または人数に見合った遊具の選定が必要だった。	受け入れ時間帯の遊具を選定し、安全に活動できるように体制からは設置をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	365	1. 定期的に実施	365	特になし	引き続き、鉄棒使用時は、落下時予防のために、鉄棒下にマットを敷き、見守りが出来るように環境施設を実施していく。	2. 集団活動中・子ども達のみ	受け入れ業務と重なり、本来の見守りが不十分であった	保育活動の実施にあたり、現状の環境で可能な活動か不可能か具体化して判断できる環境を整える。	1. いつもお様子であった	普段通りの様子であった	4. 対象児の動きを見ていなかった	登園児の入れ受け入れお便りや帳をした	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園児の受け入れ入れやお便り帳の確認、他児を見ていた。	異年齢での受け入れを実施している時間帯であり、役割分担や保育内容の判断が不十分であった。	安全に配慮した環境の設定と役割の明確化を。徹底のリスクが高い遊具などを分類できるよう、可視化に努める。	
7378	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16				4	7	5		3		2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし。	事故の要因となった遊びに、必ず職員を配置する。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	12	特になし。	ジャンプした時の衝撃を穏和するマットを徹底する。	3. 個人活動中・見守りあり	マットを敷いて、職員1名の配置を見守りしていた。	日常的に、子どもたちと安全な遊具の安全方について確認する。	1. いつもお様子であった	午後の遊び時間で、本児も落ち着いていた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	ジャンプの遊びを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに配置	特になし。	ジャンプする時に、落着いて地できるように声をかける。	
7379	令和4年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	19								2		2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	6	2. 基準配置	特になし	ヒヤリットの事例を出し合い、その都度確認し、改善策を考える	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	日々の点検を確実に行い、その都度問題点の問題解共通理解をする	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	役割確認の徹底	1. いつもお様子であった	園庭遊具の鉄棒で遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で他児とかかわっていた。園庭全体を見ていたため、本児の動きを確認できていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ子ども全体を見ていたため、本児の動きは側で確認できていなかった。	特になし	役割確認の徹底	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7380	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	54			13	18	23				11	10	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕両骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	複数クラスの活動で他の職員の援助があると助かる。	職員一人ひとりが全体を見ひ全体を見る意識と配置基準より場合は、総合的な職員を配置する。また、声の掛け合いを行い、全体を死角をなくす意識する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	ハード面に関しては、安全実施点検と遊具の点検を引き続き行っていく。	固定遊具使用すべき遊具の整備を行い、安全管理をしていく。	1. 集団活動中・守り	活動と活動の間の時間は、子どもが集中力がなくなり、また、開放的にもなるため注意散漫になりやすい。	活動の合間など子どもたちが落ち着かないときに、全体で落ち着かせたり、普段より休憩をとるようにする。	1. いつもお様子であった	集団活動から好きな遊びへ移行。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちが分散して遊んでいた。全体を見渡せる場所に移動した。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	運動会練習をしている方が行き過ぎていた。	遊具で子ども遊ぶ場合は、我のスクリスクがあるため、運動会練習をしながらも遊具を意識し目を向けた。気持ちを持ってこにくいことをけた。	いつ・どこで・何が起こるかわからないことをそれぞれが再認識する。また、行事の取り組みと普段の自由遊びの子どもたちの心理状態を考え、活動を縮小したり休息取り方にのも気を配る。	
7381	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎歯肉挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	正規職員が、降園時保護者対応をしていて他の職員対応起き丁寧見ていない瞬間で為度見ていた。	今回の様な場面は、あり得る事なので園児声かける対策を予め考えておくことが必要である。他の対応中であっても、すぐに動けるようにする。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	1	不備な場所があった場合は、直ぐに対応。及びヤットリハットなどの声を聞いた所は、園全体で注意喚起及び周知をしていく。	今回転んでしまった遊具の所は、引っかかりやすく細かい物まで見て、そこでは、走ると危ないので注意の喚起ています。	1. 集団活動中・守り	少し興奮状態であった園児が遊具の網目の所を走りでしまった。	疲れてくる時間帯でも、あるので遊ぶ前に注意喚起を更にしていく。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	遊具の網目状の所でくぐり、口元に遊具をぶつけてしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園時、保護者対応中であった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	他の園児中の対応中で本児から目が離れていた。	保護者対応中であっても目を離ないよう工夫が必要であった。	活発な所があるお子さんなので、更に注意喚起だった。	
7382	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	16									4	4	13. 1歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	本児は●月にも自宅で足を骨折し、1歳児が転んで骨をあまりあまりの十分な配慮が必要で思われる。	月齢の高い子どもたちと同じように遊んでいるが、●月で他児より小さく、また生まれ小さく、骨が折れやすいと思われる今見守りが必要である。	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	48	事故時1名の職員が4名ずつの子どもを連れて園庭に出ていた。本児は1番初めに園庭に出て、遊び始めて間もなく転んでしまった。園庭に出た時、すぐに遊びだせるように三輪車等用意しておくが、職員が複数になるまでは、三輪車は出さないほうがよかったのではと話し合った。●月にも足の骨を折っていることから、本児に対して十分な見守りが必要であった。	子どもを待たせないように数ずつ行動することが多い。目がいつもとっかりないもので、戸外遊び、準備する検討本が骨やすいと思われるため慮要で園員全員知っ周た。	3. 個人活動中・守り	すぐに遊びに始められるように遊具を出準備しておいた。	職員全員園庭にで全員が分の遊具を出しておかないよかった。三輪車用のなものを使用して遊び分なりを見した中十守りをしたい。	1. いつもお様子であった	いつものように、かっこいってあたかなったこと楽しんで輪車に乗をすることしんでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	一番初めに外に出たこどもたちがそれぞれ遊び始めを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	少人数ずつ子どもたちを戸外に運れ出て出ていた。2番目の職員が次の4人を連れ出時に本寸児が転んでしまった。	安全観察が不十分であった。	遊びを見守危険に注意喚起をした。	
7383	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	30									4	4	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	個人の運動能力からの個別の声がけが必要であった	ケガをしないために、なぜルールが必要か、裏側にある意味やも危険性も子ども一緒にに伝える	1. 定期的に実施		1. 定期的に実施		1. 定期的に実施		勾配の斜度に注意を向けることも必要であった	勾配の緩やかな場所を選び、個々に応じた場所の提案	1. 集団活動中・見守り	普段から体を動かして遊んだり、遊具で体を使った遊びが苦手な児だったこともあり、ランスを崩した際への対処法が不十分だった	子どもの個人差があるので、苦手に思われる子・気になる子にに細心の注意を払う	1. いつもお様子であった	昼食時も変わった様子もなかった。昼食後の自由時もお友だちを誘って遊びはじめたり、本児はいつもいつもの様子であった	2. 対象児の近で対象児を見ていた	ソリ滑りをする手の上と下に配置。の動きを全て目視していた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の集まっている場所から見ていた	声がけをしつつ遊び開始する子に対応していたが、恐怖はないかという心的な面にも配慮が必要であった	恐怖心を持ってしまう声がけを意識しながらも、心的なアプローチをする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7384	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	33								7	7	17. 5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	基準以上の職員はいるが食事の片づけや個々の対応等で一人かまが割しることが時員れうある	出来うることならに多員職員の雇用をたいろだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	出来うることならに多員職員の雇用をたいろだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	手すりなどに対する上の等もく、見られて	破損や当該手持ってから、安全を確保する可能性もある。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	逐次	7. その他	基準以上の職員配置はいるが食事の片づけや個々の対応等で一人かまが割しることが時員れうある	出来うることならに多員職員の雇用をたいろだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	1. いつもどおりの様子であった	食後、室内の格状遊んでいた	4. 対象児の姿を見ていたかった	食後の片づけ及びランチルームの清掃を、子どもたち（当番）としていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	他のクラスの子どもと午睡の2階にいた	昼食終了から午睡までの接続時間ということもあり、子供たちも各々で動している上、大人は食事の片づけや個々の対応等で一時的に人員が割れてしまうことがある。	出来うることならに多くの職員を雇用したいが、現在の予算規模ではそれも困難である。での改善が必要	
7385	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	25								5	5	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足前足部趾骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	—	該当なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	該当なし	1. 集団活動中・見守り	子どもの遊んでいる様子を見て調整し、遊びの様子を見ながら、怪我に繋がった。	怪我に繋がるような遊びをしないよう安全に配慮し環境を整える。	1. いつもどおりの様子であった	登園から昼食後まで変わった様子はなく、普段と変わらず歩いていた。	2. 対象児の近くで対象児見た	対象児を泣いている他児を替えをおもしてすぐに気付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	泣いている子の対応、給食の援助や、かたずけ、お着替えをむっかの対応を行った。	遊びを見ながら、他児の着替えを行っていたため、すぐに動けなかった	子どもと一緒に遊ぶ職員は着替えを他の職員に任せて遊びに専念する	
7386	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	19			8	4	7			2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	思いがけないことが起きる	関連の記事を読む研修などを重ね、職員間で事故を未然に防ぐよう周知徹底をはかる	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	施設や設備の状況は適切だったため改善点なし	1. 集団活動中・見守り	転ぶ	子どもに慌てずに慌てて行動するよう園児に指導する	1. いつもどおりの様子であった	水を飲みに外水道に走って行った際に転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	泣いて痛みを訴えるので、職員がかけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	水道の場所まで走っていてしまった	慌てて行かないことを事前に子どもに伝える。全職員が同じ対応をする。	
7387	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	39								2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨患部骨折・左モンペジア骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	特になし	見直しを行う	1. いつもどおりの様子であった	動きはゆっくりでマイペースである。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた	特になし	職員間で連携を とりながら子どもの様子をしっかり見守り対応していく。	
7388	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	144		10	42	32	29	31		19	19	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	—	リスク会内容を全職員に周知し、危機管理意識を高める	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	—	落下位置の地面に安全対策を施す	3. 個人活動中・見守り	—	子どもへの安全指導を繰り返し実施する	1. いつもどおりの様子であった	—	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	—	—	子どもの動きを予測して、危険な箇所への見守りについて職員間で連携を徹底する	
7389	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	2								2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	職員間でのマニュアルの確認を怠っていた。	職員間でマニュアル確認を定期的に行い、遊具の安全な使い方が意識できるようにする。	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	240	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	滑り台の階段を上から降りてきたことで、バランスを崩し転落してしまった。	滑り台の使い方をクラスごと話をしてもらい、安全に遊べるようにした。	1. いつもどおりの様子であった	友達と一緒に滑り台の階段を上から下っていた。	4. 対象児の姿を見ていなかった	本日関わりたい遊びにかかわっていたため、遊具で遊んでいる子どもの様子を把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を要する子にかかわっていたため見ていなかった。	遊具で遊んでいる子どもの周りに職員が配置されていなかった。	職員間で連携を図り、遊具周辺で子どもの様子を見る職員を配置する。	
7390	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	34								2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	脊髄梗塞	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	2. 基準以上配置	落下の危険もある。という意識の欠如があった。	落下時の考えも高めることも慮した補助をする。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	使用して運動用具 鉄棒・マット 製造元●●	使用していた運動用具は破損・不具合はなかった。落下対策のためマットを2枚重ねて使用していた。特に改善策なし。	1. 集団活動中・見守り	鉄棒を2カ所設置し、担任と講師が1人ずつ補助についていた。	鉄棒の設置を1カ所にし、講師は落下時にも対応できるように補助に専念する。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の活動も経験を重ねる、自信がつきた様子であった。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	鉄棒の側で指導していたが、対象児が落下する瞬間、補助が間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の鉄棒の補助について。（2カ所鉄棒設置）	補助が出来る位置に着いたが、指声と手で掛けと出来ないへの援助を重点にしていた為、落下時の配慮が足りなかった。	手が離れても落下しても支えられる常に手を添えた補助の仕方を考え、職員と講師とで共通理解する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																				ソフト面						ハード面									環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7391	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	21									3	3	16.4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	24	1.基準以上配置	特になし	公園など園以外の場所では、職員の人数に応じた範囲の設定を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	●●に付ている公園の園属るため、改善をすることはできない。	1.集団活動中・見守りあり	松の木の下は、砂地であり、高さもたかいため事故につながることができなかった。	どのような場所であっても、事故が起こる可能性があることを職員間でも一度共有する。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの友達が松の木に登っていて、本児が登ってみようと思った。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	松の木には2名が登っており、上部の1名を抱いて降ろそうとした時、本児は、四肢を使って木の下にいた松の木にしがみついていた。本児が落下するときに合わず間に合わなかった。	2.担当対象者・児の動きを見ていなかった	そのほかの場所でいても対ちに応じて遊んでいることは認識していたが、動きを見ていることはなかった。	特になし	園庭以外の場所で遊ぶ際には、職員同士が声をかけやすい位置であるよう、職員間で確認する	
7392	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	18.6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ軟骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	そり遊びについてのマニュアルや特別の研修を設けていない	本事例を会議の中で共有し、そり遊びの危険についてKYTを行う	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		2.不定期に実施		自作の遊具を用いて遊びたいその性をしていかった	自作遊具について、前には必確認を行う	3.個人活動中・見守りあり	自作遊具を用いて遊んだ	自作遊具を用いて前には大人がその安全性を確認する	そりいてことは意欲的ではあったが、興奮状態にはなった	自作遊具を用いて遊ぶことは意欲的ではあったが、興奮状態にはなった	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	見守りは性的に、安全への性づきはなかった	2.担当対象者・児の動きを見ていなかった	昼食後のの担当時間で、職員以外は食錠や片づけの解除や行なった	—	児童の遊びは時にダイナミックになることがあるため、常に頭の中で危険予知を行えるよう、職員に対して周知を行う	
7393	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35			19	16					3	3	15.3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	単純骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故防止に対して、職員に対して周知が足りなかった。	事故防止マニュアルの一部は正職員に配布していたが、改めて職員全員に配布し再発防止に努める。研修には正職員はよ受けるようにする。	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施		1.定期的に実施	毎日	老朽化の遊戯の床戯室の床硬いため、遊戯室の硬い面にところ、少し上ていとこや、盛がるところがある。	施設、玩具の安全の点検表の作成。不備があった時、すぐなどできない修繕が場合は周い職員知しない。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びでの動きた体を遊び後に、遊戯室へ行また動かし遊び、動の活動が続いていた。	遊戯室も広いため、目が届かないと感じたら、保育室を変える。外遊びから室内遊びへ移る場合は、保育室内で遊ぶ等、動のびから遊びに移るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	積み木でみぶたり遊ぶ走った体を動かして遊んでいた。	4.対象動児の動きを見ていた	3歳児担任は私用で休。4歳児担任は個別配慮必要クラスでテーブルの道具を触ろうとしたため抱っこしていた。	2.担当対象者・児の動きを見ていなかった	調児職助員が補助ていに来たが、手が出っていたことにもってもう職員が、排泄を子どものトイレをトレ付けていた。	運動会練習の補助、急な担任休等で、職員の人数は余裕なかった。3人それぞれの対応をしていたため、ケガをした時見ていなかった。	全体を見ている職員が必ず必要。トラブルの対応の時も周りをみながら、対応が足りない時は、園長や事務職員に声をかけ呼ぶ。遊ぶ前に役割分担を職員間で確認する。	
7394	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	40	8	9	5	5	10	3			17	8	17.5歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指第一中足骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルを見直しを行う。	事故予防の研修回数を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	月には1度安全点検を行っているが継続して行っていく。	継続して安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもも職員も朝の受けれて落ち着く態ではなかった。	受け入れ職員と見守りの分担を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	前日休んでおり、いつもよりが高ぶっていた。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	対象児が様子を見てたんめる間に合わなかった。	2.担当対象者・児の動きを見ていなかった	他の園児を抱いた為、づかなかった。	対象児会話キッスンを増やし、対とやや気を持ちを着せる落ちかせるべきであった。	園児の特性を再確認し、発育、発達の段階等を配慮した指導を行う。	
7395	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32						32			3	3	17.5歳	2.女児	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部割創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	室内での過ごし方や安全ごし子事こしなかし、どのような状況について検討し、ようなをたらかを指導を行うよい研修する。	発達段階に応じた安全指導、室内安全ごし指導に過ごしでのな方の事故を基にした具体的な事故防止策の検討	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	保育室への出入り口や廊下や安全行の歩行等に、どのような指導を行っていかを研修する。	発達段階に応じた安全指導、保育室への出入り口や廊下の歩行の仕方等の徹底。事故事例を基にした具体的な事故防止策の検討	1.集団活動中・見守りあり	廊下で磨きたい場合が混雑したり、保育室内や廊下を走ったりする園児がいる。	保育室内や廊下では、走ることや、混雑しないようにする。雑巾を絞る面で譲り合うことを指導とする。	1.いつもどおりの様子であった	給食後歯磨きをするため、廊下に手洗い向かった。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	給食指導を行いながら、子ども見ていを守った。	1.担当対象者・児の動きを見ていなかった(至近距離にいた)	給食指導をいながら、子ども見ていを守った。	園内の事故が発生しやすい理解や安全に動うるが低い。	室内での安全な過ごし方や事故を想定しての指導・支援の在り方について具体的に研修する。	
7396	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	4	9	11						6	5	14.2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	転倒しや年齢すいるもあるに常にでもで気を配るようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもたちに危険箇所があるときは報告がしたり、すぐに報告をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	—	動き回ることが中で遊び集ごろ環境をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	普段どおり部屋を歩いでいるたの守りをおこなっていた。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	他児と関わりなら見守っていた。	1.担当対象者・児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と関わりなら見守っていた。	—	転倒や他児とぶつかることも多いので常に声をかけながら見守っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面					環境面				人的面																	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7402	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	20									1	1	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	5	1. 基準以上配置	個々の発達の違いの認識不足	事前に園児に予想できる危険な行動やけがを伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	特になし	積み木設環境において子に合った高さ低と広さを考慮する必要がある。	1. 集団活動中・見守り	ウレタンをもさた木の積み重ねたにあっ5cmの段差に手をつけたことがバランス崩した保育者と反対側に落ちこと、1段の保育者と反対側にらにマットを敷く等環境設定の見直しを行う。また、日頃からの上り下りに慣れる等運動能力の向上に努める。	準備運動を徹底すること、1保育者と反対側にさらにマットを敷く等環境設定の見直しを行う。また、日頃からの上り下りに慣れる等運動能力の向上に努める。	1. いつもおりの様子であった	健康状態に問題はなかったが、初めて設定した環境だったため、高さや階段の上り下りに慣れていない様子が見られた。	2. 対象児の近く数児を見ていた	最上段の横に必ずすぐ付き要は手を援助できる位置にいたが、保育者と反対落下した手を伸ばしても受け止めることができなかった。	3人の保育者のうち1人はクラスで終食を食べていない子の様子を見ていた。もう一人は食器の片付けを行き、事故ゆえ直ぐ室に入室の後、そのうぎ室でうぎ室にいる子どもの様子を見ゆうぎ室は20名の園児を1人で見ていた。	2. 担当・対象児の動きをていなかった	3人の保育者のうち1人はクラスで終食を食べていない子の様子を見ていた。もう一人は食器の片付けを行き、事故ゆえ直ぐ室に入室の後、そのうぎ室でうぎ室にいる子どもの様子を見ゆうぎ室は20名の園児を1人で見ていた。	—	周知されているはずの準備運動を怠っていた。	
7403	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	73			26	25		22			7	7	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3 ～ 4	2. 基準配置	遊具指導については、園児への指導をいけないジャンプをしていけない場所がちんとわっていなかった。	事故予防に関する研修については、正規職員が受講内容を短時間職員等に伝達するだけでなく、同様の研修を時間調整など工夫しながら全員参加できるよう行う。また、発生の次の日には、全職員でハインリッヒの法則の話し合いを行い、事故予防の意識を高めたが、全職員の意見を文章化し再度安全研修を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	12	遊具指導については、園児への指導をいけないジャンプをしていけない場所がちんとわっていなかった。	遊具設置業者月●日現地にも●日へ来てもらいジャンプした箇所遊具設置業者による遊具点検内容は、口頭報告だけでなく、書面での安全点検の報告書の提出を徹底する。	1. 集団活動中・見守り	園児が遊びのを遊具遊びのルールを理解いたと思う、今回プレ所からは、以前にもにも良いとプを降りたとたいう。	●月●日幼児ス全園児に、各担任より発表を伝え、遊具遊びのお約束の確認を行う欠席)。遊具遊びをする前には、何度も何度も約束を伝え徹底する。	1. いつもおりの様子であった	いつも通ってい遊び。この遊びは得意として、仲良い友達と遊んでいた。	2. 対象児の近く数児を見ていた	他児が遊ぶで本番をしおり、後ろが順番待ちをして、近距離に保育教諭が「待って!ね」と声をかけていたが、本児は待ちれずにその場所からジャンプで飛び降りてしまった。	2. 担当・対象児の動きをていなかった	クラスも園児同時間遊具を使用したんが、他の保育教諭1名は別で幼児の見守りをしていた。	複合遊具守るべき範囲が広い為、保育教諭一人の場合には、遊具の使用規制を行ったり、他クラスと同時に遊ぶことで見守る保育教諭の人数を確保する。	複合遊具の見守るべき範囲が広い為、保育教諭一人の場合には、遊具の使用規制を行ったり、他クラスと同時に遊ぶことで見守る保育教諭の人数を確保する。	
7404	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	53									7	7	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3 ～ 4	2. 基準配置	職員は園児の遊具を使用する適応年齢や発達状況の把握をさらに深め、遊具の使用可否を見極める。	全職員のルールの徹底・理解確認ができ、尚且つ園児の遊具扱いの安全理解が確認できるまでジャンピング遊具の使用を禁止致します。事故予防に関する研修については、正規職員が受講内容を短時間職員等に伝達するだけでなく、同様の研修を時間調整など工夫しながら全員が参加できるよう行う。また、発生の次の日には、全職員（短時間職員含め）でハインリッヒの法則の話しあいを行い、事故予防の意識を高めたが、全職員の意見を文章化し再度安全研修を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	職員は園児の遊具を使用する適応年齢や発達状況の把握をさらに深め、遊具の使用可否を見極める。	遊具設置業者による遊具点検内容は、口頭報告だけでなく、書面での安全点検の報告書の提出を徹底する。	1. 集団活動中・見守り	本児の「やってみよう」の気持ちが高まり初めてのチャレンジだったが、着地のバランスをとる経験値が初めてのの体験であり不足していた。また、見守っていた職員では両足で着地できていたが、医師の診断から、微妙に片足への体重負荷があったことも考えられる。	職員は園児が遊ぶ年齢や発達状況の活動の中で、遊具の高さよりも低い跳び箱などからの飛び降りを取り入れ、子どもが両足着地を力を育む。	1. いつもおりの様子であった	いつも通ってい複合遊びにも、遊具あり、前日にはジャンプすることをためらっていたが、当日は他児ジャンプの姿に続き、初めてジャンプで飛び降りた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接した）	本児のブタイやるミングや着地する姿をずっと見守りと続けた。	2. 担当・対象児の動きをていなかった	クラスも園児同時間遊び他の園児同時間遊具を使用したんの見守りをしていた。	遊具のある園庭については、複合クラスで使用し園児を守る員の数を保する。また、職員1名で見守る園児に限界がある場合には、子どもにも達に遊具の使用制限をする。	遊具のある園庭については、複合クラスで使用し園児を守る員の数を保する。また、職員1名で見守る園児に限界がある場合には、子どもにも達に遊具の使用制限をする。	
7405	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27									3	3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2， 3	2. 基準配置	・園児へ指導の職員配置場所と連携。	職員の危険予知と対応力	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	園内環境個の危険の点検・及び予測し、改善修・改善	ピアトーピの危険の改善個所修・改善ピオトーピ内ないに入らない掲示ら掲示は、職員指導する。	1. 集団活動中・見守り	園児の遊びの範囲や遊び方の把握の曖昧だった	遊び方や範囲の把握を、危険が予測されることに対し遊びの指導をする。	1. いつもおりの様子であった	勢いよく橋のジャンプ橋のビオトープ飛び降りようとして、石で膝を打つ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れた場所で他児遊びをていたが、ためられなかった。	2. 担当・対象児の動きをていなかった	場所の見たオ対象児が飛ぶを見ていなかった。離れた他ぴで遊ぶ	規定通りの人数で保育園児の行動についての把握ができていないが部分があった。	クラス間、学年間で連携を取り、協力体制を保育とってにあたる。また、子どもの行動を把握する意識を高める。	
7406	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57			20	18	19				3	0	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	３歳児が遊ぶ際には、側に職員を配置する。定期的に遊具の正しい遊び方を職員及びもに周知をする。	３歳児が遊ぶ際には、側に職員を配置する。定期的に遊具の正しい遊び方を職員及びもに周知をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	290	—	芝生の上鉄棒を設置し、設備面では問題はない。	3. 個人活動中・見守り	３歳児は、年長児の真似や足児を上回り掛けなどで遊ぶので注意する	以上児の合同園庭では、3歳児や個人差を考慮し対応。	1. いつもおりの様子であった	現在鉄棒に興味を持ち、保育教諭や、お迎の際保護者に見ることを喜んでいる。	2. 対象児の近く数児を見ていた	対象児とその付近その子を見ていたが、対象児が鉄棒から落下した瞬間、手を差しのべたが、受け止めに間にあわなかった。	2. 担当・対象児の動きをていなかった	園庭で遊ぶ以外の子ていん対象外見た。	児童の動作分析し、鉄棒のルールを指導し、職員間共有する。	園庭遊びの際は、鉄棒やうんてい遊び棒などの遊び方を子どもに指導を徹底する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7407	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	25									2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	様々な場面での、事例検討をしく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園外活動の際に遊具を使用する際は、園児が使う職員が、瑕疵等がないか確認する。	気付いた時に遊具の安全点検を行い、その都度報告しあうことで、事故の発生抑止に努める。	1.集団活動中・見守り	公園の広さの想定を考慮し、職員の人数を配置する	状況によりでの制限する	1.いつもお様子であった	いつも通りもり遊びに活発に遊んだ	2.対象児の近で見ていた	遊具のそばで、他児と順番を守って遊具で遊ぶ姿を見ていた。下がったり、降りを繰り返していた。降りバランスを崩した時に、転んだ、すぐ崩かに駆け寄った、既に怪我をしていた	2.担当者・対象児の動きをていなかった	別の場所で、ごっこどもたちを見ていた	鬼ごっこなどを遊ぶ	他児とのいざこざがあったかもしれない	遊具で遊ぶ時は場合により、気をつけるように声かけをする	
7408	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	76									10	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	48	なし	なし	3.個人活動中・見守り	跳び箱に挑戦中、いつもよりスピードが速かったため、勢いがつきすぎてしまった。	跳び箱に手をつくと良い場所を、手をつくことをできるようにできるよう子どもたちに話をし、保育者は助走スピードに気を付けるよう周知した。	1.いつもお様子であった	いつもよりスピードが速く、手をつく時手がバランスを崩した。	2.対象児の近で見ていた	近くにいたが、スピードが速く、上マットに落下する習慣に手を出したが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた場所にいた。見ていたが、間に合わなかった。	なし	保育者は、園児の助走スピードが速いと思ったら跳ぶ前に止める。	
7409	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20			6	6	8				9	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	鉄棒の使いて再度指導・確認をする。(手を離さない)	特になし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	鉄棒本来の遊びとは違う遊びをしていたこと。	鉄棒の遊び方や、やってはいけない遊び方の行為を行う。	1.いつもお様子であった	対象児は普段から鉄棒でもや前回り足掛け回りをして楽しんでいるこもであり、鉄棒の保育も行ったことから、十分に能力を有していた。しかし鉄棒の上でバランスをとるという本来の使用方法と違う遊び方を始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室で3名の保育士が見守りの対応をし、1名は保育室の子どもを見ており、遊戯室の見守り体制が1名になった瞬間の出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内子ども見守りをていた。	事故の原因は子どもが鉄棒本来の遊び方とは遊び展開したためだが、見守り保育士が遊び変化に気づかなかった。	見守り保育士が見守り以外の業務に気を取られ、子ども目を逸らさないような配置や仕組みを見直す。	
7410	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57	0	0	0	18	20	19			6	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨ひび	3.子ども同士の衝突のにもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	砂場には園のお砂場名の園児がり、落ちて着いて過ごしていた。少し離れた場所に保育教諭がいた故の瞬間は見えず、砂場で倒れている状態で気付いた。	幼児の職員5名が配置箇所にについては問題ないと考えろ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	砂場の枠にが見えた。	砂場の枠かるがりよう整えに備えを行なう。	1.集団活動中・見守り	砂場には園児数名の危険がいた児が、危険な遊びはしていなかった。ぶつかった園児年齢が高く大きかったためぶつかった衝撃に本児らより年齢も大きかったため、体格もが耐えなかった。	園児全てが自分の周りの状況などを気に掛けながら遊んだり、周り切なぶつかったりすることを意識できるよう日頃から指導する。	1.いつもお様子であった	砂場の傍に立って遊びや他児の遊びを行なっている様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が走りまわっているなど危険な状況ではなかったため、職員はそばにはいたが転んだ瞬間は見れなかった。転んだことに気付きすぐに駆け寄り状況の確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には幼児の職員(5名)がおり、それぞれが園の危険な箇所についたり、必要な引き継ぎを行なったりしていた。	特になし。		同じ遊びを行なっていても子供によって怪我可能性がある子供に繋がるため、遊んでいる子供に合わせて職員配置を変える。	
7411	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27			5	10	12				6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上　歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	階段の上り下りの際は近くで職員が見守り、ゆっくり上り下りできるか確認する必要があった	階段は慌てず落ち着いて上り下りすよう声を掛け、職員が階段のそばについて見守るようにする	1.いつもお様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	階段でったまずいた見ていた瞬間を	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	至近距離にはいなかったが、様子を見守っていた	園庭を走り、そのまま勢いで階段を駆け上ろうとしていた	階段の上り下りはゆっくり行うことを再度子ども達に指導した。また、慌てると怪我につながることを知らせるようにする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面										
			施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7412	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園		10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42			14	15	13			3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	看護研修にて、改めて事故発生状況の状況見直しを行なう（年間事故案件）。	看護研修について、看護師と再度検討	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	水絵台がことしたでは登るに形状でなかった。	上に登らないルールを再設定	1. 集団活動中・見守りあり	考えられる事故として、事前に活動で使用した、玉入れ用のゴが出たまま、玉入れ用のゴが入れなくなった、水絵台のルールに曖昧さがあった為、上に乗って遊ぶ子どもがいた為	・水絵台のルールを職員で再度話し合い、検討する（現在、園庭裏に収納済み）。 ・活動後の備品片づけを徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	園庭にある玉入れ用のカゴに、玉が入れなくなり、その場にあった台に登った為	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	・全体を俯瞰的にみるため少しとろから見ていた。そのため、子ども達が遊び守ったため場に近くに幼児の近くにいた担任が職員に直接連れて行った。	2. 担当者・対象児の動きをみていなかった	全守ること、保護者を要クラス対応あった対応が必ずあった為	クラス担任のどのように守っているのかを把握できていなかった	延長クラスも担任が、一度子どもの見守り方について話し合い、子どもたちにも遊び方を再度話をする。	
7413	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園		10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	37				15	22			6	5	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	自転倒事故ら転によるのある事を踏まえると、身体のバランスを調整のスムズに来す体重がかってしまったと思われる。コロナ禍において動かす機会も減った事も一因と捉える。	運動能力の低下や自己調整力の低下を懸念して、毎週1回の運動遊びの計画を練り直し、運動場を活用した走り競争や、運動遊びゲームをエ夫したり、運動チャレンジに毎日挑戦する等、身体が自由に動かせるように動きを取り入れている。保護者には、園便りで運動遊びの重要性を伝えている。	1. 定期的に実施	15	1. 定期的に実施	18	1. 定期的に実施	18	転倒した箇所は、固定遊具の側のカーブの曲り切り所で事故が多いと捉えられる。	固定遊具側では、ピードを走り出らないことは中央用等を利用する事を共有し、園庭をる園児共通理解出来るよう、全体で周知する。	1. 集団活動中・見守りあり	要因として、タ方は時間は疲れの園児のたっている事や、午前中に比べ遊び年齢が多くなる事や、午後にかけて、行動が活発になる子ども達が多くなる為、ごっこ遊びが開放的になりすぎている事も想定される。	自園明けもあるから、事当面の問題は、おしっこ、クラスでの単位は、ス午前中に行うにを全体で把握する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りおにごっこをしていた。特に変わった様子はない。	2. 対象児の至近対象児を見た	・担当職員がおにごっこの様子を見ていて、こども達をこどもの動き把握いた。特に問題なと思った瞬間に転倒、危険を感じるような状態なかった。（現場を見ていた職員2名）	2. 担当者・対象児の動きをみていなかった	職員対象児の動きて、危険な行動はないと把握していた。	おにごっこ数増えたこと、さらに、ごっこ増いとしたことを怪の要ごのが人ができ事楽しかっも一面を増えるこ違動したが我の因になかもれない。	今回の事故を振り返り、様々な面から事故を分析する。全職員が危険な遊び方にならないかを察知する力をつけると共に、一人一人のその日の状態を把握する事が必要と捉える。	
7414	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園		9	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	67								3	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	左目眼底骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	1. 基準以上配置	特になし	教師の配置等を考え、子ども達が遊んでも危険がない様に見守る。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	3	園外活動の際は、職員で安全性に不安がないか確認し園庭で遊ばせるようにする。	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	教師の配置等を考え、子ども達が遊んでも危険がない様に見守る。	1. いつもどおりの様子であった	特になし	2. 対象児の至近対象児を見ていた	ごっこ遊びや突然の行動を予測できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当初子ども達と食事していなかった。	特になし	特になし	
7415	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園		9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	30		8	11	11				4	4	15. 3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	事故現場の“●●”及び雲梯の場所は、普段は園児にとって人気のスポットであるが、事故当時は当該園児を含めて3名程度と少なく、その場には、職員がついていない状況であった。これまで同所で活動させる場合は少なくとも1名の職員を配置する申し合せをしていたものの、少人数であったことから、他の園児につきながらの見守りとしたことで、事故発生の予見ができなかった。	上記の要因から、当該場所について職員が対応できない場合は、活動を見合わせるか、活動する園児がいる場合には、必ず1名の職員がつくことを再確認した。また、「事故防止・安全マニュアル」の事故防止に向けての取り組みの項目を再確認するとともに職員間で自由遊び体に対する制について話し合った。	2. 不定期に実施	12回以上	2. 不定期に実施	12回以上	2. 不定期に実施	12回以上	特になし	当該場所については、設備的な要因は見られないが、今後も劣不ないが、等の化備がか確認を行い、その状況を職員間で共有する。	3. 個人活動中・見守りあり	約30名の多面的な遊びの多い中で、人数が多くの職員動に職員なと配置し、雲梯位置など高の可能性があるの落下の活動に職員がついなかったことが要因とも考えとる。	多面的な活動を場合には、園の人数に対する職員数に見合う活動内容に制限するか時間などる。また、●●や雲梯などの高位置から落下の恐れのあるろ動なら員がつくこととした。	1. いつもどおりの様子であった	この日も至元気園る。から活発な子でありきな“●●”や雲梯で遊んでいることが多い、今回も自分で大丈夫と思って大きな“●●”からに雲梯うと鉄の棒にと捕まったタイミングで失落した。	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	事故現場やから離れる場所で長縄跳び対応をした職員が気づき、その別付近くで子に添った職員に大声で伝えた。	2. 担当者・対象児の動きをみていなかった	鉄棒ブランコに1名、大型ブロック1つ事撃遊びがついて目撃遊び名称で故をしなかった。また、別の付きクラスが近くせ合せ後、居合せた場向きのとかく付遅れが、直ちに園児の下に駆け寄って対応した。	当該園児は、●●や雲梯の遊びが大好きであり、普段から活発な園児であると常もい人数だったことあり、職員の中で若干の油断があったものと思われる。	ソフト面・環境面と同様に、●●や雲梯付近させる場合には、必ず1名の職員が付き、落下することがないように遊び方の安全指導を行う。また、職員間の連携により、多面的な活動をする際は、互いにどこを見守声かや声を掛け合うなどして事故防止に努める。	
7416	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園		10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	37								4	4	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	雲梯の使用年齢を安全面から4.5歳児のみ使用というを決まりていたが、興味を持ち始めた3歳児の行動や、危険性についての予測が不足していた。	日々変化していく児の状況をしっかりと把握し、行動をとらえ予測しての対応策や対応できるように保育者の安全に対する意識を高める話し合いを行う。	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	興味を持った3歳児が雲梯で遊ばないよう環境にする環境が整っていなかった。	子ども達が遊具使用の決まり等を常に意識できるように青いラインやコーンや、表示などを置いたりして、視覚的にわかりやすくした。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で楽しく遊んでいた。	4. 対象動児のきていなかった	片付けに気を取れ、全体の様子の把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きをみていなかった	遊びの片付けや障害児の対応等をしていた。	使用を禁止している雲梯で遊ぶ3歳児の姿に気づかなかった。	複数の職員で戸外遊びの保育を行う場合、遊び中や片づけ中など、常に全体を把握する職員を決めておき、全体を見渡せる場に立つ。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7417	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65				20	19	26			6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	職員間で発生の事故対応研修や、事故後の周知徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	太が子手つかみ遊ぶなどでつかんはきない。	丸太の隙なくすき間をなくすための柵をしっかりと固定し、これも定期的に点検し安全を行う事故防止に努める。	1.集団活動中・見守り	特になし	すぐに駆けつけができるように職員の立ち位置を決めるようにすぐに誰がいるかを把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	気の合うと友だちと日頃から一緒に遊ぶチャンスを順番に作り遊んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	アスレチックの2階で遊ぶ子どもが下から全体を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受け入れを行った。	特になし	アスレチック2階に子どもの職員を配置する	
7418	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	56									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特には本児は集中している活動中は集中しているが、活動のあい間が緩やかで、待つことが苦手なのは気がみる。	1〜2負傷のある時間の休憩時間のこと方を配慮し、走ってしまいなる過ごし方を配慮し、走ってしまいなる事を注意してそうした児に声かけを注意をする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		芝生であるため、つまずきやすいことも考えられる園庭がつまずきやすい生ため、つまずきやすいことも考えられる	常に短く管理されているが、今後も定期的に短く管理していく	1.集団活動中・見守り	年長児クラス合同で鬼ごっこ、ごっこ遊びを行い、混雑した状態だった	クラスごとに行う人数制限を制限して行う。遊戯室を使用するクラスを決めた、活動をクラスごとに分散して行うようにした。	1.いつもどおりの様子であった	当日の健康状態に問題はなかった。ごっこ2回戦ごっこの遊びを行う時間がとる間に本児は話をしていて聞き走まった。	4.対象動きを見ていなかった	全体に目を向けて説明をする。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	一方クラス担任(説明する教師の横に立っていた。)がもうクラスの対応に注向けてきたもの(説明する教師の横に立っていた。)がもうクラスの対応に注向けてきたもの。走る園児に対して意をあった。	2回戦目の合図先走ってしまいこと把握していたがま説明をしまった。	全体を落ちつかせて次の活動に移るようにしてメリハリをつけた指導をする。その後園庭で毎回、遊び方や走る時のルールを確認している。	
7419	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	競技練習が終わった後に、痛い所がないかこどもを確認する。	その都度使い方を伝え、使用はしっかり見る。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	落ち着いて練習できるような配置を考える。	運動具を点検する。	1.集団活動中・見守り	跳び箱が跳べるようになった子が、油断もして、跳び方が雑になっていたので、こどもたちに注意喚起する必要があった。	怪我に繋がる事故が再度も伝えるとともに、運動具の使い方を再度丁寧に教える。	1.いつもどおりの様子であった	勢いよくでいて転倒跳んだや落下はなかった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	マット・跳び箱すぐ横で鉄棒が見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任は待機中の保育のものの付き、マット、鉄棒、箱を至近見ていた。	練習中跳び方がびに雑になっているには険を伝える。	運動具を使用する前にその都度使い方を確認する。	
7420	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24			8	7	9				3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアル検の点検への周知徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	園庭には、2名の職員が出て、見守りをしていたが、雲梯のすぐそばにはいなかった。	雲梯を使用するときには、できるだけそばにつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特に変わっていたのは的に疲れていたかもしれない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2名の担当職員は、対象児から、少し離れたところで、様子をうかがいながら、それぞれ児のを見ていた。(喧嘩・お迎え)	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	屋内の中で掃除や、翌日の保育の準備を行いながら、部屋にくるへの対応を行っていた。	ひとりでで雲梯ができるようになり、得意になってきており、緊張感が薄れてきたのかもしれない。まだ、できることが多くて、何度も繰り返すうちに、腕が疲労し、腕に力が入らなくなってきたのではないかと考えられる。	常に声をかけ、注意を促す。	
7421	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷(前歯)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	—	マットの上以外はシューズを履くことを徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	座ってようしっかり約束を細部とし声掛け遊びを目にをしていく。	1.集団活動中・見守り	マット以外の場所で遊んでいる時にシューズを履いていなかった為。	マットに座って遊ぶか、シューズを履いて座ぶかを遊ぶかを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	子ども一人一人の行動に目を配り、声掛けを行っていく。	
7422	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	88			34	27	27				9	9	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	—	遊具の使い方や職員配置の見直しと対策をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		—	引き続き定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守り	●●から飛び降りることまだ慣れていかったため。	戸外での職員配置を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の練習に他児も●●から降りをしたので、本児もそこに向かっていった。	3.対象児から離れたとで対象児を見ていた	本児が着地に失敗した瞬間はそばにいなかった。本児が泣くまで気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児と別の遊具で運動をしていなかった。	—	子どもが道具を用いて遊ぶ場合はそこに職員が見守るようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
								異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7423	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	54								3	3	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	安全管理マニュアルにのっとり職員の危機意識をもって関わっていた。	引き続き安全管理マニュアルにのっとり関わっていた。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	遊具の設置に遊定の際に床及び遊具をしたが劣化・破損等はなかった。	安全に遊ぶための安全点検も今後も今を徹底していきたい。	1. 集団活動中・見守り	十分なもうけ、遊び間を安全に展開できる工夫をしていた。	空びにを安全にできるよう空間を仕切り、遊び混在しないようをした今後も環境や空間を配慮した保育を心掛けたい。	走り回って衝突や無遊具等で空間を仕切ったり、遊び混在しないようにしたので、今後も環境や空間を配慮した保育を心掛けたい。	1. いつもどおりの様子であった	「はい！どうぞ」の保育者の声掛けで一斉に自分の好きな玩具の元へ走っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体の子ども達の動きを確認し、前で倒れた子どもに追随した子どもが覆いかぶさるようになるのを見ていたが止められなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児のトラブルに対応していたが、話がこじれ本児が怪我をしたジャングジムの子ども達の動きを見ていた。本児の不自然さに気付き注目していた。	子ども達が焦らず落ち着いて、遊具の所まで向かうような言葉掛けが不十分であった。	子どもが落ち着いて移動し、安全に遊びだせるように、子どもの気持ちをクールダウンしたり、少人数で区切って移動出来るなど、子どもへの声掛けの工夫をしていく。	
7424	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	7								2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指の関節部「基節骨」の骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	「危機管理マニュアル」にある安全管理について、「状況に応じて遊ぶ範囲や道具を調整する」ことへの配慮に対し、今回は改善の余地があった。	全職員対象で園内研修を持ち、「危機管理マニュアル」について再確認し、事故再発防止の徹底を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	なし	1. 集団活動中・見守り	ボールを蹴っていた子が、本児へパスを送る際に近距離から蹴ってしまった。	安全な遊び方やルールについての約束事を子ども達と確認する。	1. いつもどおりの様子であった	サッカーを7人の友達同士でした。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	サッカー遊びが見える位置で、他児の運動遊びの対応をしており、ボールが当たった場面は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の運動遊びの対応をしており、ボールが当たった場面は見ていなかった。	園庭に数種類の運動遊び発にがおり、フリー保育教諭1名もサポートし安全管理をしながら保育を行っていたが、サッカー遊びは子ども達だけで行っていた。	職員の立ち位置や活動の整理について、職員間で確認や見直しを行いながら運携して安全管理に努めていく。	
7425	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	67			23	23	21			4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	スターの正しい使用法を園児に伝える。	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	245	1. 定期的に実施	245	特になし	点検には一層の注意を払っていく	1. 集団活動中・見守り	特になし	降園時は、気持ちが緩みやすいので見守り強化する	1. いつもどおりの様子であった	友達と楽しそうにスターを走らせていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	足を滑らせ転倒するのがおかり、直ぐに駆け寄ることはできなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒した園児の周りに集まってくる園児に安心させ声掛け遊びを続けるように促した。	特になし	いつものように遊んでも、滑あることも多いので今一度、園児に気を付けるよう上にお話をした。降園児の見守りを強化する。	
7426	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)												15. 3歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	亀裂骨折	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	階段からは飛び降りない(ジャンプ)しないよう園児にかける。	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	245	1. 定期的に実施	245	特になし	今後もしっかりを点検していく	7. その他	手すりを持つ又の手を繋いで階段を下りるべきだった。	手すりを持つ又は、母親の手を繋いで階段を下りるようにする	1. いつもどおりの様子であった	2階の保育室でいつものように遊んですごす	4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後でした。階段付近には保育者はいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に気付き、近寄った	特になし	階段からは飛び降りない(ジャンプ)しないよう園児に声をかける。階段では、手を繋ぎ下りるよう保護者に伝える	
7427	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21								2	1	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	活動の後、走っても走っても際にバランスを崩して転倒	たいそう教室の外部講師には状況を説明し、注意喚起をお願いした	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	12	園庭の環境として若干の傾斜があるため。	活動以外の園庭あそびの際に十分気をつけて遊ぶように注意喚起を行った。	1. 集団活動中・見守り	若干傾斜園庭がある園庭で走らして足を滑らして転倒した。	活動以外の園庭あそびの際に十分気をつけて遊ぶように注意喚起を行った。	1. いつもどおりの様子であった	たいそう教室の活動中。	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	逆上がりの練習を順番に行っている時、自分の順番が来て演技を行い、元の場所へ戻り時に転倒。すぐに事務室に来て子に事情を話した。本児が、との話の中で様子を見ていたことを普通に取り、午睡入眠したが、午睡明け、再度痛みを訴えたため、通院することにした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外部講師中の活動であったため、園庭には、外部講師と担任の2名だけであった。	—	本児とも話をして、しばらく様子を見ることにしたが、体の中については、見えないので、気になる時には、早目の通院判断をする必要がある。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7428	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21			7	7	7				31	24	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨断裂骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の不具合による	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	走っている際に園庭にある植樹用アーチに掛けてあったネットに足を取られた。	ネットは取り除いた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	子どもを巻く環境がいつも安全かの確認不足	特に園庭においてごとに管理責任を決め、管理を実施している。	3.個人活動中・見守り	植樹用アーチに掛けてあったネットのたるみに気づかず、対処が遅れた。	日々危険がないか、意識をする。	1.いつもお様子であった	鬼ごっこ遊をしていた。	4.対象児を見ていなかった	9：00　園庭で転んで泣いている本児を発見し、声を掛ける。本児は、泣いていて「疑示痛い」と言い、立てないとの事。事務室に報告し、保健室にて様子を見る。（保冷剤で冷やす。）安静に過ごし、遊ぶが、右手を痛がり、横になったため、保護者へ連絡を入れた。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	6名中3名グループ室内へ入室。残りの3名は園庭にいた。	転んだ際に、大人が把握できていなかった。	大人の配置、役割を明確にした。（全体を把握する人・個別対応する人）	
7429	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	103		16		28	41	18			12	12	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨内顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもお様子であった	普段通りかわりなくし、遊具に連結しているネット式太鼓橋で遊んでいた。	4.対象児を見ていなかった	通常の活動であり、担任はクラスの子どもの様子を見ながら、砂場で子どもと遊んでいたが、他の子ども同士がトラブルになり、個別に対応していた。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	園庭に出た他のクラス担任は、担当のクラスの子どもたちの見ても遊びを見ていた。	担任が他児のトラブル対応を行っており、クラス全体の子が届かなかった。	担任が個別対応を行うときは、周りの職員に声をかけ連携を図り、全体の様子を常に確認するようにする。	
7430	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨末端骨折	2.自転車・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～5	2.基準配置	目を向けるべき職員の位置不足	教育・保育施設等における事故防止及び発生時のガイドライン・園児の事故・災害から安全守る安全対策手引き	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	220	2.不定期に実施	12	子どもが密集する状況があり、適正人数での活動はなかったと考える	グラウンドでマソン時は、子ども人数を8名までとし活動を行う	1.集団活動中・見守り	全体に目を向けて活動を行ったが、一瞬背を向けるお子様がいた状況があった	子ども全体が全体に入る位置で活動の見守りを行っていく	1.いつもお様子であった	9時から通常保育	3.対象児の離れたところ児を見ていた	全体が見える位置にはいたが、背面へ子ども全体が移動した際に角てしまったため、転倒時に目を離ることができなかった	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	グラウンドとホールで分かれてをたったホールで他児の動きをしていた	全体が見える位置にて見守っていたが、グラウンド内で見守ることで、背面に子どもが移動した際に、死角となってしまい一瞬目を話すことになった。	グラウンドでのマラソン時の職員位置は、フィールド外に立ち、死角を立ち作らない位置で子どもの見守りを行う事を職員周知し徹底していく。	
7431	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8									3	3	13.1歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2.自転車・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	子どもの行動予測が不十分であった。	職員相互をとの連携をとり、子どもに、子どもの動を予想対応できをしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	危険な箇所や障害物となるものがないか常に確認する。	5.睡眠(午睡)中	本児への見守りが不十分だった。	危険を回避できるよう保立育者の位置を常に意識していく。	1.いつもお様子であった	—	4.対象児を見ていなかった	衣服の着脱し本児の他補助をして本児の動きを目を離した。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	他児の排泄補助、片付食事の等をづけした。	—	常に全体の様子を見ながら、危険声掛け、注意時にはしていくことを心がける。	
7432	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	14									4	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自転車・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	低年齢児はバランスを崩すと大きな事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	幼児用のハーサッカーボールを使用していたが、2歳児には大きかったのかもしれない。	ボールの大きさを検討する。	3.個人活動中・見守り	職員（保育者）がお迎えの時間帯に対応をする場合、子ども見る職員が手薄となる。	職員全員が届く場所で活動するようにする。	1.いつもお様子であった	ボール蹴りが好きで保育者を誘ってボールのあいてい蹴りをした。	2.対象児の至近対象児を見ていた	保育者のった蹴ボールを本児が右足で思い切りキックをしようが蹴りそこない、その（右足）足がボールの上に乗ったバランスを崩ずして倒れ本児に「もっと離れて」と言われ、5メートルくらい離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを ていなかった	担当職員が背中側にいたちと関わって遊んだりしていた。お迎えに来た保護者や保護園児への対応をしていた。	職員（保育者）がお迎の時間帯に保護者対応をする場合、子ども見守る職員がとなる。	子ども全体見の動きを見る保育者が一人必要である。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7433	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13								3	1	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	24	1.基準以上配置	特になし	職員同士の連携やあそびの工夫についてのクラスミーティングで話し合いを行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ミニカーなど硬いものを持っている時には、より注意して見守る。	1.集団活動中・見守り	床には何も落ておらず、本人は歩いている状態であり転倒するとは考えていなかった。	どのような状態であっても、事故が起こる可能性があることを、職員間でもう一度共有する。	1.いつもどおりの子であった	両手にミニカーを持ち、円ようを描くようにゆっくり歩いた。	4.対象動児の見ていなかった	事故が起きた瞬間は、3人の職員のうち対象児以外の子と遊び展開していたが2名、降園の準備をしていた職員が1名であった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は、3人の職員のうち対象児以外の子と遊び展開していたが2名、降園の準備をしていた職員が1名であった。	特になし	子どもの遊びは常に変化していくので、その都度声を掛け合い、動きを見ていないことがないように気を付けていく。	
7434	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23								3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	BA┘外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	他児が遊びを走り回らない様、静かな遊びの設定を取り入れるべきだった。	遊び始めに絵本の読み聞かせ等を行い落ち着いて遊び始められる様設定する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	毎月一回安全点検を行っている。改善策なし。	1.集団活動中・見守り	楽しい気持ちから持ち遊具を走り回る等予想された。	ホールへ移動し遊び始める時は絵本の読み聞かせ等から始め、落ち着いて遊び始められるよう設定する。	1.いつもどおりの子であった	ホールで滑り台・滑り台の上で絵本で遊ぶ。	2.対象至対象児の近で象児見ていた	滑り台のマットを直していたので、対象児の近くにいたが、間に合わなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児のトラブルに対応していた。見ていなかった。	担任間で取れなかったことが考えられる。	担任間で連携を取る	
7435	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	85			29	27	29			9	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	マニュアルの認識が出来ていなかった。	危機管理マニュアルを再確認。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	子どもの安全点検、危険な状況を予測して保育をする。	2.集団活動中・子どもの動み	異年齢で集団活動し、遊び方が異なる。	園庭で子どもの人数が多いときには、担当職員が子どもの安全を考え遊び方を考えていく。	1.いつもどおりの子であった	いつもとおりに遊んでいた。	4.対象動児の見ていなかった	全体的には見ていたが、そのクラスの女児に声をかけられ対応をしていたので、その瞬間は見ていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	砂場で、子加配のども、スもと遊んで、本児の様子をみていなかった。	視診の保育教諭以外に、9時1５分勤務の職員が全体を見てもいる見る（危険な状況が無いか把握する）	視診が園庭で子ども遊んでいることを見ることにてなっているが、保護者対応に重きが置かれ全体を見ることが難しい状況があった。	
7436	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	109			32	39	38			13	10	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	3.いつもり活発でのあった(理由を記載)	朝から気分がやや高揚していた。友達の刺激を受けて前回りができるようになってしくれなりもしていた。次の遊具に移動する際、芝で滑り倒し手が出ず肘から落ちてしまった。	2.対象至対象児の近で象児見ていた	至近距離で見守っており、すぐに駆け付けた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	本児の活動は見ていなかったが、すぐに駆付けられる距離にいた。	特になし	気分を落ち着かせるため、必要に応じて休息をとらせる。咄嗟のできる日ごろから体を動かす遊びを積極的に取り入れる。	
7437	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56			17	19	20			9	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折の疑い（レントゲンの所見はなし、痛みがなくなるまで固定）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	—	職員会議、各種ミーティングで検討する	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	—	遊具や物の配置・管理を改善する	1.集団活動中・見守り	—	安全確認と子どもの見守りを強化する	1.いつもどおりの子であった	園庭遊具（雲梯）の下のバー（地上40cm）の上に立っていて友達とバランスを崩し落下する。	3.対象児離れたで対象児ところ象見ていた	子どもと関わり、園庭全体の見守りを役目を担った。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	園庭の子ども達と関わり、共に遊ぶ。	—	周囲をよくよく見て遊ぶように促す	
7438	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	62			19	20	23			5	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘尺骨肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	死角を作らないようにしながら、対象児がお体が出来ごっこ制で見ていた。独自で転倒しまいて守ったが、単倒しまいて補助ができなかった	たもとおこっこ時点ごっかけつつ注意点をするで合っのについて話した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	石や枝葉や怪我など原因になる物がなく落ちたかを見直す	再度安全点検を危険な物を点検し不衛生物は取り除くようにする	1.集団活動中・見守り	園庭の遊具や砂場付ある物はの近でこをしていた	走った、体を動かして遊んだり遊ぶ時は運動場など広い場所で遊ぶように配慮する	1.いつもどおりの子であった	友だちとおにごっこして走っておにごっこをして回った	2.対象至対象児の近で象児見ていた	死角を作らないように、子どもの動きを移動しながら見守っていた	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	広く、子ども人数が多かった。園庭もたくさんもたれて見ていて守った	対象児も普段からあまり活発ではないが、時はおこっごっこということもあって気持ちが高ぶっていた	子どもの特性を理解し成長に伴って子ども自身が安全や危険を認識できるように伝えていく	
7439	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7	1	1	1	3	1			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	—	職員配置は問題はなく、園全体で事故の研修を行っている為。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	全職員で安全点検を定期的に行っている為。	1.集団活動中・見守り	—	自ら練習できる環境を作っている為。	1.いつもどおりの子であった	日頃から遊具の使い方を指導され、事故発生時もいつも通り遊んでいた。	2.対象至対象児の近で象児見ていた	職員が滑り台の上と下から見守っており、具の方のもとで。	1.担当者・象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	当対象児の動きを見ていなかった	滑り台を園児一人ずつ見守っていた。	—	職員は近くで見守っており、遊具の使い方も指導している為。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰			事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他						死亡	負傷			マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		実施頻度【回/年】			改善策	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					改善策	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		改善策
7440	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	24								5	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨わけぎ骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	遊具での遊び方や安全や事故を起こしがちな状況について検討し、どのような指導をしたらかを行っていくようにする。	発達段階に応じた遊具での安全な遊び方の指導を徹底する。事故事例を基にした保育士の見守りや支援のあり方等を検討する。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	発達段階に応じた安全な使い方等について、遊具の使い方を検討し、どのようなことに使ったらよいかを研修する。	発達段階に応じた遊具を選定し、安全な遊び方や予定される事故事例等について示す。	1.集団活動中・見守り	遊具での活動技能が未熟で、個人差がいため、転んだり落下したりするなど、重大事故につながりやすい。	園児の技能を考慮して使える遊具を限定し、園児一人一人に目を配り、危険な時はすぐに援助・支援したり、体制を整える。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台の階段を上ったり下りたり、一人で活動していた。	4.対象動児の見ていなかった	対象児には近いたが、対象児から目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児とともに活動し、他の園児を見守っていた。	遊具で発生しやすい事故事例や発達段階に即した安全な遊具の利用のさせ方、保育士同士の連携・分担指導のあり方等について理解が分かっていない。	遊具で発生しやすい事故事例や発達段階に即した安全な遊具の利用のさせ方、保育士同士の連携・分担した指導のあり方等について具体的に研修する。	
7441	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20								2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	急性硬膜外血腫 頭頂骨骨折　左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	遊具での安全な遊び方を園児に指導	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	—	遊具周りゴムマット製インターロッキング厚み5cm敷設し遊具にチップのクッキングで敷設した。	3.個人活動中・見守り	—	遊具での遊び方を園児に指導	1.いつもどおりの様子であった	元気に遊んでおり、突発的の事であった	3.対象児から離れたところで対象児ていた	園庭で遊ぶ園児の安全を確認する為、職員を配置していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び全見ていたが、事故の瞬間は、見られなかった。	—	保育教諭が戸外遊びを見守り、遊具で遊ぶ際には、子どもの動き、行動を予想し、危険な事をしている場合は、注意して止める。	
7442	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	67								4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左第4指爪下血腫、受傷後の化膿	8.その他	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	—	『入室時間は事故が起きやすい時』という認識で、改善策や大人の目を増やすなどの対策をしていた。大人が届かない場所のコントロールなど、引き続き改善組み取り組む。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭改造に夏にしてを動かすと虫がかるになった。、虫は虫探コーナーに石を動かすことが多い。遊びがいないことで、かご石を動かすことが変わった。見晴境で季節に秋に、虫の遊び節がたった。性がある。	7.その他	入室に伴い、大人も固定した位置にならず、2人の場所は角にていた。	見守りが難しい場所で使用する入室前に入室人数の目が届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	入室時間であり、他の園児は遊びを終了して自分の水筒を持って並び、2階保育室に移動を始めている。当該児は、隣のクラスの園児とともに、虫探しコーナーに残っていた。けがの発生直後は、泣いていて状況をうまく説明できなかったのため応急手当てを優先し発生状況を聞かれるうちに、記憶が曖昧になっている。	4.対象児の動きを見ていなかった	入室の時間のため、当該児の担任は先に外階段から2階保育室にあがっていた。また、隣わった園児は隣のクラスで、担任は泣いているところを気付き看護師のとこ見せた後、そのまま先にクラスにあがる。看護師は応急処置後、通常であれば発生現場で状況の確認をするが、寄らずにそのままクラスへつれて上がり、担任に処置の状況を伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	けがの発生現場は、入室の時間以外に人の目が届く場所だ。遠目でいたが、児の状況を見ていなかった。	大きくなる。	受傷当日は、降園後サッカー教室に加している。	・入室時間の前に、死角になりそうな場所の使用を終了し、切り替えの準備をする。 ・発生後時間が経つと記憶が曖昧になるため、可能な限り発生直後に現場を見る、担任が話を聞くなどして、事実を確認する。	
7443	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	・活動前に学年で見守り方法が定のわせがわれなかった。 ・『跳び箱』は事故発生リスクの高い活動という認識が共有されなかった。	・跳び箱・鉄棒など、転落の事故リスクが高い活動をする時には、大人名固定で見守れが1人が定でるところ（職員は優先配置順位をつけて行う。）マニュアル・安全に事故発生リスクの高い活動を追記し改定予定。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	跳び箱の敷周囲に、簡易マットを、くるくるものが、的なもの となっていた。	体育用品の安全な使用方法は、配置前の学年で、経験ある職員が意味・方法などを情報共有する。	1.集団活動中・見守り	参観に合わせて、鉄棒・跳び箱・縄技び の4種を設定して選ぶ方法をとった。しかし、担任1名で初めての活動を安全に見守る事が難しい設定。	複数の活動が時、特に初めての活動は、活動の優先度をつけ、全な方の約束をする。	1.いつもどおりの様子であった	設定されたものからやりたい運動を積極的に選んで取り組んでいる。週末に習い事の体操教室で発表会をおこなわれ、跳び箱の発表も予定していた。担任が指示した内容とは違う方法で、飛べる経験があった。	3.対象児から離れたところで対象児ていた	事故があった跳び箱の他技に、巧技棒台・鉄棒が設定されている。担任は巧技台・鉄棒の方について、離れたところから、時々跳び箱に行く園児の様子を見守っている状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配担当の非常勤職員1名が同じ場所で活動に参加していたが、加配児についていた全体のはめ見守りはお行っておらず、当該児の様子を見てはいなかった。	職員により『跳び箱』の活動に対する危険度と安全の認識が異なる。	体育用品の安全な使用方法・配置は、活動実施前の学年のある職員が意味・方法などを情報共有する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7444	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4		1	1	2					2	2	13. 1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右母指末節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	特になし	事故防止マニュアルを再度確認・徹底する	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	2	2. 不定期に実施	2	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	開閉園時間帯園児数が少ないうちは、事務室でテレビ視聴をしている。	常時保育室で過ごすようにする。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の受け入れにあたっていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに行っていた	事務室で受け入れをしたことで、かぶ園児ら離れる時間ができてしまっていた。	常時保育室で過ごすことで、受け入れ時等も目が行き届くようになる。	
7445	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	3. 昼食時・おやつ時	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	35									3	1	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	●への連絡は診断終了が17時以降だったため、翌日の登園に書類を持参し報告した。報告が遅かった。	安全管理ができるようにヒヤリトを共有し、怪我対応の園内研修を行う。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	園庭にあるジャングルジム(●●鉄製、高さ240cmの下から3段目(120cm)から転落。地面にマットなどのクッション材は使用していない。	ジャングルジムの底面に砂を多く敷き、落下時の安全性を確保する。必ずマットや人工芝の設置についても検討する。	3. 個人活動中・見守り	部屋に入ろうとして上靴を脱ぐ際、走って上靴を履こうとした際に転倒し、顔面を床に強打した。	子どもの予定ながら行動を遂行する。	1. いつもどおりの様子であった	普段から気持ちの切り替えが難しく、活動が変わる時は個別対応が必要で、気持ちに寄り添いながら支援をしている。今回も外遊びから部屋に戻れなかった。保育士の声掛けで部屋の前まできて、外靴から上靴にかえた途端に走り出し、ジャングルジムに上靴のまま登り、滑って落ちる。	2. 対象児の近くで見ていた	児の近くで個別対応で支援したが、素早い行動に対応しきれなかった。急いで追いかけたが、追いつくジャングルジムに登り落ちた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児、担当保育士以外園庭にはいなかった。	普段より本児のクラスを補佐している育士が添いをしていた。	担当保育士は子どもの予測行動を予測し、危険行為をさせないことを徹底する。	
7446	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	53									3	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	2. 基準配置	遊びの危険性を認識する研修を年度に行っていかない。令和3年11月に園職員で事故防止等について研修会を行う。	園内研修を行う。遊具を園児が人数を制限するルールを作り、職員体制を見直す。	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施		遊具には問題はないと思われる	滑り台のローブ滑りスが、近くにある木ヌギの樹液の滑りくなっている場合あり、朝、雑巾でふいている。最近も樹液なく少なくを拭いて、ていたが、の続けくする。	1. 集団活動中・見守り	最近は、滑り台の下からを登らないことが徹底できなかった。	新学期が始まる時に学年ごとに遊具の使い方を指導しているが、時間がたちルールを忘れたり守れない状況があったため、気になる遊び方があった場合は、常時指導する。改めて指導の場を設ける。	1. いつもどおりの様子であった	登園後の自由遊びの時間。追いかけっこを遊んで延長して滑りでいる長台を使い、いつもよりテンションが高めであった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭の鉄棒くぐりの近くに職員が棒を見ていて瞬間を見ていない状況だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出て遊んでいるのがクラスだけであった。他の年中クラスだったため、職員は、園庭室内にいた。	園庭で際は、フリー保育士ポートに視野を広く見守るべきだった。	落下が考えられる遊具には近くに必ず職員付き、正しい使い方で遊んでいるかを確認する。フリー保育士が付き添うように配置する。	
7447	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27									2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首外側ぶくるしの骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	子どもの身体につ認識不足のため	遊び始め前に自危険を予測が意識できるよう呼びていく。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施		24	遊びの環境を整え、十分な見守りの中で体力を動かして遊べるようにする。	4. 個人活動中・子どもとみ	登園後、遊び出そうとして慣れた場所でのジャンプをしたり着地がうまくいかず、足に負荷がかかったためではないか。	人工芝のマットを敷いていたが、さらに安全面を強化する。	1. いつもどおりの様子であった	バスで登園後、園の回りの始末をして、単独で遊びを探していた。	4. 対象児の見ていた	保育室で登園児の受け入れした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で登園児の受け入れをしたが、他児とかわっていた。	いつもの通りの本児の姿であったため、その時は特に気に留めていなかった。	複数の職員がいる場合の保育者の配置に留意する。	
7448	令和3年4月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19									2	2	18. 6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕尺骨骨折	1. 遊具から転落・落下等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	24	2. 基準配置	年度に積用の約束の決めもに世が、繰り返し知でした。	当初ソフト使時をする子ども約束を知らいた繰り返しの十分かった。	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつも通元気に遊り元んでいた。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	遊びの設定をしたがら全体を見ていたが、急な本児の動きを予測できず、対応できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室にいた、降園児が、降園児対応するものを。	いつも使っている遊具で、使い方は理解できているだろうと思い込み、遊び前に使用時の約束を確認する意識づけをこと怠った。	使用時の約束を繰り返し子ども達に伝え、安全に対する意識を育てるよう職員間で共通理解する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7449	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15									2		1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	事故予防のマニュアルについて、全職員に周知する必要がある。	全職員が周知できるよう、定期的に最低年2回は行う。	1. 定期的に実施	12	3. 未実施		1. 定期的に実施	12	園庭が狭くて、柱が3か所に立っていて、角になりやすい作りである。	狭い場所には、園児が抜けようと水筒かけなどを置く	1. 集団活動中・見守りあり	園庭には大きな柱があり、柱側に隠れていた子とぶつかってしまった。近隣の工事等もあり、現在は、思い切れない限りは、切るスペースが限られている環境であるため、全職員と園児の場所で方ごとの遊び約束しし、改めて共通理解している。かし、再確認する必要がある認識と考えられる。	園庭では、保育教諭は常に子ども全体が見える位置に立ち、安全を確保する。庭での方に出て子どもたちに遊んでいる。園過ごしについて一緒に確認させる援助をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	おやつの後、園庭に出てごっこ遊んでいた。	2. 対象児の近く	対象児を見ていた	ごっこ遊びを見守っていた。柱の陰からの鬼を瞬間的に止めることができなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児に対していた。	園庭で遊ぶ場合、保育者が2人以上いるが、立位置について確認が必要であった。	個の幼児に、その関わり、その他の幼児に背中を向けることがあるべく大勢を背にするのを避けなければならない。	
7450	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													18. 6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	1. 基準以上配置	—	お迎え後におきた事故であるが、職員に周知する。園庭開放のルールを保護者にのを周知する。	1. 定期的に実施	数	1. 定期的に実施	数	1. 定期的に実施	数	—	注意喚起の張り紙をする。	7. その他	—	遊具で危険をよじ方の導をする。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の見ていなかった	お迎え後におきた事故のため、対象児を保護者がみていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え後におきた事故のため、対象児を保護者がみていた。	—	園庭開放のルールを保護者に周知する。	
7451	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	14									1		1	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	①左手関節捻挫②左橈骨頭骨折③左橈骨近位骨端線損傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	3. 基準配置	5歳児で遊具に慣れていて、少しの油断が事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	鬼ごっこしながら、遊具で遊んでいた。	遊具での安全な遊び方を知らせていく。	3. 個人活動中・見守りあり	園庭で3. 4. 5歳児が遊んでいて、子ども行動が広範囲が広くも目がきにくい。	常に子ども全体を保育者がいるように見る。	1. いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしながら走って、遊具に登り、下がりした。	4. 対象児を見ていなかった	対象児から約2メートルのところにいた、別の竹園児の補助をして、その園馬を、時は対象児に背を向けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの職員名も園庭にいたが、違う場所にいると遊んでいた。	担任1名のすべての子どもの様子を把握できていることがある。	他クラスの職員と連携していく。	
7452	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12	1	1	2	3	2	3			16		15	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置	園庭には2人、鉄棒で遊んでいることを把握しているが、そのことをしていなかった。	鉄棒や遊具で遊ぶときは、職員が必ず傍に付き、子どもたちが鉄棒から落ちないように、職員は必ず職員が下で見ていて、そのことを徹底する。子どもたちは、職員が見ていない状態で遊ぶことは必ずやめるように、職員は、そのことを子どもたちに話をする。	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	1. 定期的に実施	4	鉄棒のクションをふりのマット敷き転倒防止策をとっていなかった。	鉄棒の周りの骨組みにクッション材をまき、かつ衝撃の和らぐようにした。鉄棒の下をふった際の撃をげるした。鉄棒に倒転落防止のためのマットを敷いた。	1. 集団活動中・見あり	—	異年齢児で活動する時は、同年齢児だけで動きする。	3. いつも活発で活動的であった	普段の保育中では、鉄棒を積極的に行ったりする姿はみられなかったが、異年齢の園児が鉄棒で遊んでいるのを見ても、いつもより活動的になったと考えられる。鉄棒で一わったことはなかったが、異年齢の他児から刺激を受け、前回りに挑戦したところ、初めて行ったためしまい、鉄棒から手が離れて転落してしまったと考えられる。	4. 対象児を見ていなかった	鉄棒で遊んでいる対象児を含む園児たちを注視で確認しやすいように、砂場で遊んでいた他児たちに対応していた。対象児のいるところには、対象児の鉄棒のいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	担当職員同じ鉄棒で遊ぶ対象児たちを確認でき、園児高と他の小丘の対応で、子ども目視をしていた。対象児を目離れたところ、鉄棒のとはいなかった。	後で園児に乗る職員、迎えお送りに来た保護者に対応する職員、職員の動線が大きく、園庭での外遊び対応する職人数が少なかった。	遊び応での職員の人数が少ないときは、遊ぶものを職員が見られる範囲の中で遊ぶようにする。	
7453	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	194	10	25	32	35	45	47			23		21	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	人中部挫創(診療明細書に記載なく、負傷部位等から記載)	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	—	これまでのヒヤハット事例を周知し、各事例において職員がとるべき行動を認識する実施のハット事例を直し、各事例において職員がとるべき行動を認識する研修をする。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	数	—	引き続き安全点検を定期的に行う	3. 個人活動中・見あり	—	特別な支援を要する園児への目配りの度合いを高めるグループ必要があるため、グループ職員で対応策を協議し実行している。あわせて、保護者に療育機関の利用を勧め、●月中旬に第1回受診の予定。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の近く	加害行為の1分前に当たるグループ机に近ずいて声掛けしたが、その時点では異変はなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	別の職員が近くにいたが、他のトラブルに応じた対応した該事案への関与は困難だった。	—	特別な支援を要する園児への目配りの度合いを高めるグループ職員で対応策を協議し実行している。あわせて、保護者に療育機関の利用を勧め、●月中旬に第1回受診の予定。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7454	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	21								6	4	14. 2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的実施	12	1. 基準以上配置	特になし	今後もマニュアルに沿った研修や話し合いを通して職員の知識・判断力を高めていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	・子どもたち全員が密接にならない環境構成を行う。 ・気持ちが昂っている子どもの側に保育者が必ずつく。	1. 集団活動中・見守り	・リズム感のあるDVDだと跳んだりり踊ったり。1歳児で身体のバランスが未熟であるため速やかに見守る体制をとる。	走ったり歩く立ち歩くが子どもらがいたらすぐに座らせたり落ち着かせる。	1. いつもどおりの様子であった	リズムに合わせてうち合いるように気持ちが昂りジャンプを始めた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	離れた場所にいたため本児の気持ちを落ち着かせることが出来なかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ジャンプしている子どもを見ていた職員が速やかに行って対応することが出来なかった。	保育教諭がスペースから出際、保育補助が入る前にしまったため子どもが目が離れた。	保育者間で声掛けをし連携を取り行動する。	
7455	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	16								2	2	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右親指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突にも	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	毎日使うタオル掛けに対し、いつもと違った掛け方をしようとしたことがケガについてのケガである。園生活に慣れ、様々な経験を積み重ねる中で、過信や慎重さに欠ける姿が多く見られる時期（園全体が）だったため、毎日の打ち合わせや子どもの遊び方や行動に気をつけていこうと話し合ってはいたが、防げなかった。	タオル掛けに破損等はなく、今回の事故原因ではないため、改善策は無し。	2. 不定期に実施	使用時	2. 不定期に実施	使用時	2. 不定期に実施	使用時	無し	タオル掛けに破損はなく、今回の事故原因ではないため、改善策は無し。	1. 集団活動中・見守り	無し	タオル掛けは可動式で、自由遊びや設定保育中は保育室の端の方（水飲み場近く）に置いたり、登降園時はタオルを掛けし外しがしやすいよう保育室の中央付近に置くなど、子どもたちの動線を考慮して設置していたもので、環境構成に問題はなかったと考える。	1. いつもどおりの様子であった	すでに登園していたが、登園時に忘れたタオルを掛けにかけようとしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	自由遊びから戻ってきた子どもに向かって、朝の身支度を行うよう声をかけ、排泄の対応や見守りを行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室以外の場所で遊ぶ園児を見ていた職員が速やかに対応することが出来なかった。	子どもたちの園生活への“慣れ”や育身の過信し動が目立つように保育にあたっていたが、タオルを掛け忘れる際の行動については大丈夫だろうと子どもを信じ、特別な注意をしていなかった。	園生活の中で繰り返し行うものに対し、子どもは違ったやり方を試そうとすることがある。しかし、違った行動（扱いを変えるなど）をとることで、危険が生じ、思わぬケガにつながることがあることを繰り返し伝え、子どもたちの危機管理能力を育んでいく。 また、タオル掛けのような扱い方によっては思わぬケガにつながる物については、子どもたちの様子（慎重さに欠ける行動が目立つなど）に応じて注意を払うようにする。	
7456	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	58	4	7	7	10	9	16	5	13	10	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	歯槽骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	数	2. 基準配置	—	日頃からの部屋では走らないことの習慣化。	1. 定期的に実施	遊ぶたび	1. 定期的に実施	遊ぶたび	1. 定期的に実施	毎日	—	床もものがないよう部屋の状態を整える。 今後も乱れることの散らかし	1. 集団活動中・見守り	—	怪我はどんな時でも起こる可能性があり、一人ひとりの様子を見て、常に子どもたちの様子に目配りをする。	1. いつもお様子であった	担任からもう少しで片付けを掛けがあった為、絵をすすめようと急いで席を立ち、ケースに入った色鉛筆を替えて席を立った。（共用の色鉛筆を使用しており、ケースには3本までというきまりがある。）	3. 対象児の近で対象児を見ていた	特定の子どもにとくに見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見ながら他児に関わっていた。 備考：対象児の動きをみていたが、担当職員と同様離れたところに座っていた。	片付けの声掛けは児が急いで本しまった可能性。当日上靴はかりはいた。	職員の立ち位置・連携仕方の再確認。	
7457	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	22								2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士衝突によるにもの	1. あり	2. 不定期に実施	2～3	1. 基準以上配置	遊び初めは1グループだったが、鬼が一分かたグループにかれたとき、職員が全体に声かけ・安全への対策をとっていた。	遊びが変化していく場合、予測される危険が増した場合は必ず対策を講じたあらためて子どもたちに遊びのルールを知らせる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし(遊戯室に異常はなかった)	特になし	1. 集団活動中・見守り	ごっこグループにした遊びが2グループに分かれたときに遊戯室内を区切った。 鬼ごっこグループに分かれた遊びが2グループに分かれたときに遊戯室内を区切った。	ごっこスペース1グループにし、2グループに分かれた台ときに均台にるとは平均でスペースを等区切るなど、視覚・障害物っかり分かりきりる区切りをする。	1. いつもお様子であった	—	2. 対象児の近で対象児を見ていた	ステージを作るとなく、全てで、近くお手伝いをしている子たちが、関わりながら、全体を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援が必要な子どもたちに友だち中心に、ミニボルダリング付近で遊戯室全体を見ていた。	鬼ごっこが2グループに分かれたときに一旦止めて、遊びのルールを改めて確認した。	遊び初めの安全確認だけでなく、遊びの様子や安全対策をとるよう、日頃から危険予測を職員間で共有し、情報を更新していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7458	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	18									3	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折・右足関節捻挫	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	特になし。	特になし。遊ぶ前、上には、特に危険な草や枝等ないことや、外のサイズがあっているか、履物が対応していないか等、確認しておりんでいる時もあり、傍で職員が見守った。	1. 定期的に実施	52	2. 不定期に実施	80	1. 定期的に実施	1	特になし。	特になし。園の隣の草は刈りが行われて、町しっかり管理されている。赤ちゃんたちが、0歳〜2歳）も、毎日の遊び場で、安全性に、草が濡れていないか、石や枝や点ころがない様に行っている。	1. 集団活動中・見守り	特になし。	特になし。職員の見守り中、特に危険な箇所や危険な遊びをする子たちや、好きな遊びをのびのびと自由に行える環境だった。	1. いつもお様子であった	元気にいつものように友だちとお友だちとかけっこ等をして遊び。その後、築山に登って、お友だちの後に続いて、駆け下りて行き、それ程スピードが出ていたもなかったが、駆けたところで、足を絡まれて転んだ。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	1. 担当者・対象児のきを見た（至近距離にいた）	対象児と一緒にいた職員の他に、2名が、公園内で見守っていた。1名は、大型遊具の下で、1名は、築山にいた。1名は、築山の下少しあり離れたところで、は、本の降りてくるスピードが、程早くかったが、それなた児が、転倒が大きな怪我につながる。	対象児と一緒に、同じ公園内で見守っていた。1名は、大型遊具の下で、1名は、築山にあり離れたところで、は、本の降りてくるスピードが、程早くかったが、それなた児が、転倒が大きな怪我につながる。	特になし。	今回、このような怪我したことによりこのようなことが発生したことが分かったので、出来る限り、危なく転び方をする瞬間、手を差し伸べられるよう、職員の見守る位置を工夫し、検証して行く。	
7459	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)												17. 5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	3. 未実施	1. 基準以上配置	降園後なので、保護者の目の元で視のあった。	保護者に降園後の遊び方（しっかりと見てもらうを伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	鉄棒の設置場所の安全領域（種が領域いが）がなかった。	鉄棒を撤去した。	7. その他	迎えの多い時間帯だったので、園庭で遊んでいる園児が多かった。	迎え後の遊び園庭遊びの時間を短縮する。	3. もっと活発的であった（理由を記載）	降園後、保護者に鉄棒がでのるのてらくを見ていたて、気持ちは高揚していた様子。	4. 対象動児の見ていなかった	降園後なので、職員は配置しいなかった。	2. 担当者・対象児のきを見ていなかった	掃除をしていた職員が異変に気付く。	特になし	特になし	
7460	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	56									4	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右腕側鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	本児は歩き多く着動とが、午睡なくれあったかもしれない。	立ち歩きが落ち行こして睡眠れもかのし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	本児は静的な活動の場面で立ち歩きが多い。静的な活動で起きることを知る。	活動が始まる子前にも元に気で活動に声掛ける。	1. 集団活動中・見守り	クラスで楽しめた子どもたちが加わったことで、にぎやかな雰囲気になり本児の気持ち落ち着かなくなったのかもしれない。	児が疲れると感じていることを保育者は察知して、本児が落ち着く場所はこなのかかけることも必要であったかもしれない。	3. もっと活発的であった（理由を記載）	登園時から、気持ちが落ち着かない様子であった。お遊戯会のリハーサル集中力が全く勝手な行動をしていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児の行動から、常に「どうすればいいのか」を本児に問いかけた。「疲れているだろう「家庭で何かあったのだろうか」などが思ら声をかけていた。	1. 担当者・対象児のきを見ていた（至近距離にいた）	他の職員また、常日頃の本児の状況を把握しているので気に声を留をかけ守り続けていた。	日ごとの休日が祝日だったこともあり、このような休ごしかたが不明であるが、本児には本児の様子を伝えてもらえるようにしたい。保護者との連携を強化する。	本児の体は疲れていたのではないか。また、体増してこあり重加いるともりなかったのはないか。	前日が祝日だったこともあり、このような休ごしかたが不明であるが、本児には本児の様子を伝えてもらえるようにしたい。保護者との連携を強化する。	
7461	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18	5	3	4	2	2	2			14	12	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A歯根破折、右上B歯根破折、右上更新裂創	2. 自らの転倒・衝によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	—	事故予防マニュアルは現在作成中である。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	2. 不定期に実施		コンテナ代わりにきな位置がこぼれた。	コンテナ室にはいるが保床に置かれる。	4. 個人活動中・子どものみ	一人ひとりが好きな遊び取り自由中でのたが、児が自分と集中して落ちて遊び組むあっ自然に着取りるこの空のだっ態た。	一人ひとりの興味関心づいて、室内で集中して落ちる環境を工夫する。	1. いつもお様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭で外遊びしている児も並行している時間帯で、担任一名は園庭にいた。担任一名は室内にいたが、ちょうど発生事故直前に、室内にいた他児からお茶を飲みたいと言われ外に水筒を取りに室内から出ていた。	2. 担当者・対象児のきを見ていなかった	—	保育者が目を離した時に起きた事故。この事故に関しておいては、保育教諭が簡単に行く必要はなく、見守りの空白時間をつくるべきではなかった。	保育者の目が届かない時間帯・場所がないようにする。	
7462	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	33		1	7	12	13				4	4	18. 6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第4指骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	親子で遊ぶ5-3、4、5歳児に、保育教諭4名で、安全確保をしていたが、慣れない環境で気分が高揚していたためてしまった走まった。	保育教諭の立ちの腰をかり、移動際にら走ようこと合う。するは、ないにとを親子で確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	下見をして安全確認していた子どもの動き捉しきれなかった。	安全確認を行い、全確認な箇所等を危険所を把握し、保育教諭配置し注意を促す。	7. その他	慣れない環境で、友達の所にに急いで行こうとして転倒してしまった。通路のアスファルトで、表面がざらついており予期せぬ動きになり転倒したとき手なかが付けなかった。	公園内での遊び方、移動の仕方などについて指導する。	3. いつもっと活発的であった（理由を記載）	親子で遊足や親子で友達と遊ぶことが、嬉しくて気分が高揚していた。	4. 対象動きていなかった	周りに有資格者がいて、気付いた時には、対応が遅く、対応が合わなかった。	2. 担当者・対象児のきを見ていなかった	保育教諭が配置されていたが、対応が合わなかった。	—	保育教諭の配置を確認し合い、適切な援助ができる環境児の下で園児が遊べるようにする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7463	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38				20	18				2	2	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	—	職員配置基準は満たしているが、子どもの降園に伴う対応の保護者がことが多いので、可能な範囲で職員が配置できるよう配慮する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	定期以外でも危険を持つ箇所も、気づいたときに報告し迅速な対応をする。	3. 個人活動中・見守り	—	日頃より、運動遊びを通じて子どもの運動能力や柔軟性、体幹を鍛え、転倒時にうまく手をつくなどして怪我を最小限にとどめる出とこが来るよう促す。	1. いつもどおりの様子であった	普段のとおり、特記事項なし	2. 対象児の近で対象児を見ていた	普段のとおり、特記事項なし	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	普段のとおり、特記事項なし	—	子どもたちをよく見て、遊びに集中している子どもの動きを予測し声をかけ早めに。	
7464	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	52		9	13	13	17				5	5	16. 4歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不期に実施	4	1. 基準以上配置	—	転倒することも多いので常に気を配った声かけを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	どもたちに危所が子ども場合ていく。	1. 集団活動中・見守り	—	すりなど注意な箇所の確認を行い、気をつけながらあるように声かけ・見守りを行っていく。	1. いつもどおりの子であった	普段どおりで遊び(走り回っていた)ので見守りをおこなった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	他児と関わりから見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各場所に分かれ、他児と関わった、見守りを行っていた。	—	転倒や他児とぶつかることもあるので声をかけながら見守っていく。	
7465	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	22									2	2	18. 6歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施		2. 基準配置	戸外活動の遊び方における、事故予防マニュアルがない。	事故予防マニュアルを作成し、定期的な研修。また、園外活動内容によって、保育士複数名配置とする。	2. 不定期に実施	数	1. 定期的に実施	数	2. 不定期に実施	数	なし	施設・設備に関し改善点は認められない。	1. 集団活動中・見守り	個人の活動量や技量を想定しての取り組みが必要であった。また、怪我のリスクを回避するため、園外活動の際は保育士複数名配置をする必要性があった。	鉄棒や雲梯などの活動場所によっては、保育士1名または複数名による見守りをする。	1. いつもどおりの様子であった	普段鉄棒を飛び越えるなど指導していないが、本児の好奇心から鉄棒を飛びてしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士2名とも、本児と距離があった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は本児を背に向けており目視できず。また、もう1名は本児が視界に入る状態ではあったものの他児へ声かけ等をおこなっていた。	—	個人の活動量や技量を想定した鉄棒の取り組みが必要であった。また、怪我のリスクを回避するため、鉄棒や雲梯など、園外活動の中でも特定の場所は保育士1名または保育士複数名配置をする必要性があった。	
7466	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	22									3	3	15. 3歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	適正な基準で配置し、保育を行っていた。	職員の見守り方や、仕体制をくするように厚よしていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	固定遊具のクッションや人工芝あり、問題ないと考える。	特になし	3. 個人活動中・見守り	遊具の遊び方や遊び方を約束しての自由遊びだったが、遊んでいる時の声かけをもっと行っていれば、防げたかもしれない。	子ども同士の遊びで夢中になると、気づかずなどがあるので、落ちて着いて遊ぶように見守りつつ、声かけを増やしていく。	1. いつもどおりの様子であった	気の合う仲間の友達とつこつで良くこ遊びをして楽しんだ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具の反対側にいたため、対象児の防ぐことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の戸数人で、児ではなく、見ていた。	—	活動内容に応じ、危険を伴う場合には複数配置で園児を見守るようにする。	
7467	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	19									2	2	15. 3歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	—	事故(防災)防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	240	特になし	施設・設備には問題は無し	7. その他	通路の歩き方	通路の歩き方を見直し、園児てもと走っていけないことがあることを伝え職員全体で、危険箇所を把握する	1. いつもどおりの様子であった	お支度を時間に外へ出して走って遊んだ。際、躓いて手が出ず全体重乗ってし形で転んでしまった。	4. 対象動児の見ていた	お部屋で他のお支度を手伝っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のスでクラ保護者対応した。	他の園児の受け入れを行っており、保育者のがいき目きわたいかった	受け入れ時等、保育者の目が偏りがちな場面での配置を見直す	
7468	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9		6	3						4	4	14. 2歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	—	特になし	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	6	2. 不定期に実施		机の配置等子ども人数を考えて方がよかった	今後合同保育になった時は、机の位置等を考えて移動する	1. 集団活動中・見守り	保育教諭は人数のいたに、目が届いていた行き届なかった	保育教諭の人数が多いから、しっかりとはなく、子ども子よく、かりものをうに見る気を付ける	1. いつもどおりの様子であった	別段通常子どもの様子と変わりなかった	4. 対象動児の見ていた	他の子どものに気をられ、ちょうちと本児ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どものに気をられ、ちょうちと本児ていた	保育教諭の人数が多いからではなく、しっかりと子ども様子を見ていなかった。	保育教諭の人数がいるからではなく、しっかり子どもの様子を見るように気を付ける	
7469	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									1	1	16. 4歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明		てんかんの疑い	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	—	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		—	特になし	3. 個人活動中・見守り	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	4. 対象動児の見ていた	職員は同じ室にいたが、け等をクラスの子倒れ掛かった気付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は清掃等をし室に居かった。	—	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
							死亡										死亡						死因	負傷状況	受傷部位																											
7470	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	11								1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明		てんかんの疑い	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	—	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		—	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	2. 対象児至対象児の近で対象児を見ていた	—	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は同室に居なかった。	—	特になし	
7471	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12								1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明		てんかん	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	—	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		—	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	4. 対象動児を見ていなかった	職員は同室にいたが、倒れた音で気が付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は同室に居なかった。	—	特になし	
7472	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50				17	14	19		5	5	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2〜3	2. 基準配置	行事（保育参観）において、園庭担当の職員2名で、保護者対応と他の危険が予測される遊びへの見守りに気を取られ、全体への注意が不足していた。また、遊ぶ時のルール（鬼ごっこ等スピードが出る遊びの際はすべり台には登らない）が守られていないことに職員が気付けなかった。	職員は、研修や会議を通し危機管理意識を高め、行事の際は職員配置に余裕を持せ、常に職員間での情報共有の時間を確保し、配置を検討する。遊びのルールを職員間で共通理解し、子どもたちとのルールの再確認を行う。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	適宜	台やすべり台の高さやスピードに注意し、必ず守るよう滑るに見守る。	引き出し点検を怠らず、複数の職員で視野を多くもつ点を心がけて遊具の管理を行う。	1. 集団活動中・見守り	保護者対応をする必要があり、普段と異なる環境だったため、見えないところがあった。	職員の立ち位置、見る視点を考え、意識して子どもを見守る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこ、スピードが出るすべり台に登らないようにしたが、しっかりと約束したが、しっかりと別のあそびだったためすべり台に登ってしまった。	4. 対象動児を見ていなかった	園庭には二人の保育者がいたが、それぞれが別の対応をしの目けらを向けずためず対応できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	令和２年度はコロナ禍、行事が出来ず、当日はうやく開催した保育参観日で、密にならないように、日程を分けて実施していたが、いつもより保護者対応に時間がかかり、保育室担当に３名で、園庭担当に２名配置となり、園庭担当が少なかった。	環境がかわると、事故が起きる可能性がある。	環境の変化により、児童が予想外の行動をとることがある。また、「しっぽとり」など動きにスピードが出る遊びは児童が興奮することもあり、危険につながるもある。その点を、再度職員間で共通理解をする。また、子どもたちが何の遊びに興味を持ち、何の遊びが流行っているかを職員間で情報共有をする。	
7473	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	28					12	16		2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	—	改善点なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	乗り物（三輪車の動作確認を安全点検を含む点検する	1. 集団活動中・見守りあり	—	転倒時に受け身を取れるよう、運動機能を高める活動を検討する	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象動児を見ていなかった	他児との遊びの輪に入り、他児の見守りを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児数名とサッカーを行っていたため、本児が転倒する瞬間をみていなかった。	—	遊びのルール確認や動作確認をクラス全体で行う。現場での全体の見守り強化を行う。	
7474	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	27								2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	・体育教師の講師の補助を教わっていたが、保育室に補助をおくべきで仕方を教わっていたが、保育教諭も積極的に参加しなどしい研修を学んでおくべきであった。補助を回すなら基本的なウォーミングアップはしたが、時間が不十分だったのかもしれない・手遊びなどの一つ一つのウォーミングアップはしたが、時間が不十分だったのかもしれない	・跳び箱の安全な仕方を研修で習得する。補助の仕方が分かない時は経験ある教諭や体育教師に、教諭の正しい補助のできるようにしっかりと補助をするようにしっかりとウォーミングアップができるよう広いスペースで十分な時間を設けて行っていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	十分に設定してある	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特に問題はなし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	—	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	２台跳び箱を出していてそれぞれ保育教諭が補助についていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一台箱を跳び箱の補助をしていたため見ていなかった	・運動会の発表を想定して、普段の補助の逆からの向きと側補助をってしまった。・すぐに差し手を伸べたが支えるまでの力がきなかった・子どもたちも慣れてきたことで気が緩んでいたのも原因にあげられる	・補助の利き手がある職員で、職員間でよく話し合いながら補助の仕方や担当を考えていくこと・子どもたちにも緊張感を取り組めるような音楽がけを繰り返ししていく	
7475	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	9								2	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	事故予防の意識を職員で統一する。	事故予防に関する研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊具の対象年齢が幼児用だったので、転落した梯子は２歳児ぶのには危険性があった。	転落した箇所の上梯子を撤去した。	1. 集団活動中・見守りあり	前日の雨上がりだったので、滑りやすい状況であった。	雨上がり時での遊び具は滑りやすいので使用しない。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、園庭びをしていた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	対象児の見ていく守ったが、他児の近くの園児の対応をしていて、転落に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児は離れた場所で他の園児対応していて、対象児が転落周囲の様子があわただしくなって気付く。	職員配置は適正であったが、こういう事故がおきるであろう意識がなかった。	遊具は危険箇所を改修したが、園庭内に危険箇所が他にないか見回りを、対応する。	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
								発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面					ハード面								環境面				人的面												
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所			人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯					0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他					死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
7476	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				5	10			4	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		12	1.基準以上配置	—	毎月の職員会議で「ヒヤリ・ハット」や「リスクメジメントの報告の際に、保育の具体的な場面について、全員で確認し改善する機会を持つことを徹底する。	1.定期的に実施		313	1.定期的に実施		52	1.定期的に実施		313	—	引き続き点検を行っていく。	1.集団活動中・見守り	—	・高い段を跳べる子どもは、跳べる段に近い段数の跳び箱から跳ぶようにする。・子ども達に低い段のジャンプや着地の足の踏ん張りや勢いがつきすぎることのないように等話をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で特にかわりはない。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	適切であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	適切であった。	—	日常的に体操教諭が、子ども達へ向けて指導を行っている。保育者へも合わせて指導の仕方、補助の仕方を指導している。その中で、着地まで幅広く補助できるように、また朝の子ども達の気持ちや体の動き等も考慮する等、朝の雰囲気づくり見直しをする。	
7477	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	3	11						4	4	13.1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面擦過創	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	1.定期的に実施		1	1.基準以上配置	—	保育教諭同士が連携をとりなお角のないように立ち位置を考える。	1.定期的に実施		24	1.定期的に実施		24	1.定期的に実施		24	—	引き続き、怪我につながるが恐れないか十分に確認する。	3.個人活動中・見守り	—	安全に過ごせるよう、環境構成を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好。ひとり遊びをする。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐに声をかけられるよう見守っていたが、手のとどかないところにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐに声をかけられるよう見守っていたが、他児と遊んでおり、手の届くところにいなかった。	—	保育教諭同士が十分に連携をとり、咄嗟の時にも止められるようにする。	
7478	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				17	16	17		5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて、今後の安全管理の役割について話し合い、職員間で共通確認をする。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	—	乳児用の台の配置を見直す。	1.集団活動中・見守り	—	前方を見ていない時は特に注意する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児組3クラスが遊んでいて、園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ固定遊具についたり、全体を見守っていたり、登園児を受け入れたりするなど役割分担して配置した	—	人的にには特に問題なかった。	
7479	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				15	16	16		4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて、今後の安全管理の役割について話し合い、職員間で共通確認をする。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	遊びごとに空間を分けていかなかった。	ボール遊びのスペースや時間を決めたり、大型遊具で遊ぶなど、遊び分散するようにする。	1.集団活動中・見守り	—	登園児を受け入れている時間は、遊ぶ内容を考える。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児組3クラスが遊んでいて、園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ固定遊具についたり、全体を見守っていたり、登園児を受け入れたりするなど役割分担して配置した	—	担任もその場にいたのには特に問題はなかった。	
7480	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	36								2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2	2.基準配置	—	ヒヤリハットを作成し、職員に全職員に周知。園内外の危険な箇所について話し合う。	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		13	2.不定期に実施		48	—	危険箇所については、職員間で共通理解をする。修繕については●に相談する。	1.集団活動中・見守り	—	危険を予測する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	片付け中でダンボールの仕切りを運んでいたため、大きな動きではなかったゆっくり歩いていた。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	保育室には2名の居付け中で全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	大きなものを片付ける時には必ず保育者が付き添う。	
7481	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	66				21	23	22		7	7	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1	1.基準以上配置	—	高所で遊ぶ児童に対しての監視位置の改善	1.定期的に実施		3	1.定期的に実施		12	1.定期的に実施		12	渡りローブから踊り場へ危険な体制で移動しようとしたこと原因	落下の可能性のある地面部にさらに5ｃｍ（合計10ｃｍ）の厚さでゴムチップ舗装を施した。	1.集団活動中・見守り	保育教諭が遊具の至近距離にいたが、事故発生時は他児の体を支え補助対応をしており両手がふさがっていた。	特に配慮が必要な児童の保育体制についてできるだけ1対1の環境をつくる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	指示を聞き入れず、自身の興味優先の傾向に表れている時間帯であった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	遊具の至近距離にいたが、他児の補助をしている最中であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具し対応へ移動した児のをしていた。	保育教諭が減る段階で危険を予見し、遊具遊びを止めるようさせるべきであった。	高所で事故に繋がる危険事が多い事を再認識する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面				ハード面				環境面				人的面																	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7482	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	31			3	5	14	9		8	8	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	第４指の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準配置	—	研修会は全体会議で行っているが、会議に参加しない職員への周知が不十分であるため、伝達や会議録の確認を会議の確認を確実に行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	なし（安全な設備環境であるため点検は確実にされるため）	4. 個人活動中・子どもみ	５歳児クラスは遠足の日だった。当該園児も遠足に行って、３時半ごろ帰園した。	時々廊下かけっこをしている姿があり、その都度子どもに話しているが、注意しても切れてしまうことが多かったので役割を決め、事前に防ぐ。また子どもたちに話をし約束事とする。	3. いつもお子どもの活動を記録	保育をしていたクラスではなく、廊下で他児とかけっこをして追いかけっこをしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	２名の職員が保育実施中のクラスで子ども複数の見ていたため、受傷時は誰も見ていなかった。一緒にかけっこをしていた子が『泣いてる』と報告に来て、ケガが判明した。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	幼児クラスの担当職員は、この帯は３名。他の１名は別の幼児クラスの終清掃をしていた。また、１時に勤務が終わった職員１名、まだお残り幼児クラスを回っ務をしていた。	危険予甘測が、周りを見、他の事に気付く視野になっていなかった。	保護者に連絡する担当者が、子ども全体も見てを感じたり視野に入らなくなりそのようなときに他の職員に言葉を掛け、子どもにそばにつく。	
7483	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60					32	28		2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓出血	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	遊具の使い方や遊び方の徹底が不足	遊具には全体に正しい使い方や遊び方の徹底を指導した。正しい遊具の使い方や遊び方の徹底を指導した。監視職員の増員強化	1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施		今回の遊具は落下防止策はそのままで欠陥はないと考えます。	1. 集団活動中・見守り	遊具も多く、広範囲にわたっている中、注意すべき視点が定まりにくい点	時間帯による使用場所（環境）を限定を決め、見守り視点を集中させる	1. いつもお様子の子であった	遊具のうえで体制を変えようとしてバランスを崩し転落した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故の瞬間は他児童の（擦り傷）にあいたった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	年齢毎に分かれての活動も分かれての園庭や室内で育園に分散している。	象エリアが対象広範囲であり、見視守る点散いたと。	児童の活動エリアを見守り人数に調節よっする	
7484	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	11								3	3	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折（右 脛 足 部）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	保育の中で内容や遊びの環境について詳細に、反省ているが、予定の安全についての具体的な配慮・指導を行っている。十分ところ危険の不十分な点があった。	子どもの姿や個々の力量を見極め、行動測しら、内容的な配慮を考えながら、予測から、内容的な具体的な配慮を考えて活動とかを指導を考えて、日々の見直しをくった。日々の保育の見直しを図り、職員の中でを共有しにる。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	遊具には破損はなく、滑り下りは地面ではないが、カーペットであることもあり、滑ることはある。	定期的な安全管理を行うことに、子ども姿勢の見守り方や安全見守りなど安全に配慮する。	1. 集団活動中・見守り	遊び場所を限定していなかったこと、他学年が他の場へ移動したことも、子ども多くの活動が広がりくくなり、安全に遊べる環境ではなかった。	個々の発達から子どもの行動や危険を予測し、安全な範囲で活動を容を検討する。また、合間には危険が増しやすいことも自覚し対応する。	1. いつもお様子の子であった	園庭をつた走り、築山下を上り、池周辺を歩いたり、辺を遊んだりし合遊びしていた。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	2歳児クラスの保育者3名は子どもたちの動きに合わせて砂場・築山・総合遊具等を見回っていた。総合遊具で遊びを見守っていた保育者が子どもが誰もいなくなったため、その場を離れ違う場所へ移動した。しかし、その後、本児が別の場所から走って遊具の方に向かう姿を確認したが、5歳児の砂場で他の園児の見守り中であったため、すぐには動けなかった。隣の4歳児の砂場で遊んでいた同クラスの保育者が他の場に移動した時にうっぷせに転んでいる本児に気づいて駆け寄った。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	園庭には他学年の職員もいたが、付けて、本児に動きを気づく職員はいなかった。	遊びの回数を重ねることで、慣れによる危険性も出てくる。子どもの動きに対して、遊び方の見守り場所等も不足していた。また、クラス同士掛け、遊びの連携も不十分あった。さらに他学年への安全配慮する対応方法などの連携も必要であった。	戸外で遊ぶ際の見守りの仕方や全体把握するための連携の仕方を十分に検討する。戸外活動の危険性について具体的に把握し、自分が対応でき対応ない時の対処（応援・協力要請等）子どもの動きや危険を予測した具体的な対応方法を考え、共有する。	
7485	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50			17	11	11	11		7	7	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	粉砕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	子どもの異変を重要視した。連絡やかなかった。報告がなかった。	小さなことでもまず報告する。大人の全体把握。（子どもの異変に気づくように）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	—	環境整備は毎日行なく行う	1. 集団活動中・見守りあり	大人の見守り、報告が不十分	園庭あそび中の子どもの怪我への大人の意識向上。連絡やかなかや告。子どものあそび、動きを把握する。	1. いつもお様子であった	友だちと追いかけっこをして走っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	出入り口にいた。保護者対応をしていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	7名園庭遊び見守り、お片づけ等もちゃ1名事務仕事	くじい時に大きなことを把握できていなかった。	大人の配置、子どもの見守り等、連携をする	
7486	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	21								1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折、左橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	環境設定	子どもが設定した場合、今後も必ず確認の徹底。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	環境設定時の確認	1. 集団活動中・見守り	環境設定	子どもが設定した場合、今後も必ず確認の徹底。	1. いつもお様子であった	スポンジで積み木で迷路を作りその上を歩いてあそんでいる時に転倒、手を時ついた痛がり泣いた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	直ちにナースに連絡、冷やし様子をみるが、涙が収まらず母親に連絡その後病院受診。	1. 担当者・象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	補佐の職員も見届けた。	—	環境設定時の確認。	
7487	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25								2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脚くるぶし骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	特に考えられない	子どもたちへの注意喚起。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	床の確認。	1. 集団活動中・見守り	—	床の確認と、子どもたちへの注意喚起。	1. いつもお様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任も園庭にいて行動を待っていたが、転倒のタイミングは確認出来なかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	クラスでの移動があった為、対象児のうごきを確認できた職員はいなかった。	—	床の確認	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面						環境面				人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所											年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																						死因	負傷状況	受傷部位																											
7488	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15				5	10				1	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	遊具で遊ぶ際の園児に対する指導不足	職員間で発生時の状況を把握し再発防止に努める	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園児自らの誤った手のつき方による事故であり、その他考えられる要因はない	園児自らの誤ったつき方による事故であり、環境面での改善策はない	1. 集団活動中・見守り	園児自らの誤った手のつき方による事故であり、環境的には不足はなかった	園児に対しての注意喚起	1. いつもどおり様子であった	滑り台を滑る際に誤った手のつき方をした	4. 対象児の動きを見ていなかった	他園児の関わり、視界に入らなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	事故発生時の園児数から職員配置・環境面において不足はなかったが、活動終了時に園児の怪我の有無を確認する等の配慮が必要であった	遊具で遊ぶ際の注意事項を改めて園児に指導し、活動後の園児の怪我の有無を確認する	
7489	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46			21	14	11				7	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	遊ぶ前に子ども達と鉄棒の使い方を確認していなかった。また大きな事故が起こる保育者がいなかったため	保育者の配置などを改めてするとともに再発防止に努める	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	特に無し	鉄棒の下安全マットは設置してあるため、特に無し	1. 集団活動中・見守り	子どもたちに遊具の使い方や約束事をこまかきくく伝えきれていなかった	遊具の使い方を保育者間で確認をする。遊ぶ前には、子どもたちに使い方・約束事をその都度伝え、保育者の配置も改めて話し合い、遊具には必ず保育者がつくようにする。	1. いつもどおり様子であった	運動会に向けて本児も鉄棒に挑戦し始めていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊びということもあり、全体を把握するため、鉄棒の傍を離れて保育に当たっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びということもあり、全体を把握するため、鉄棒の傍を離れて保育に当たっていた。	運動会が近くて子どもの興味関心が鉄棒に行っていた	運動会が近くの子ども興味関心が鉄棒に行っていた	
7490	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	98				74	24				7	5	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折、左肘関節打撲傷	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	1. 定期的に実施	36	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	職員が側で見守っていたが、担任ではなかったため、本児がどういうんで経験があるのを掴なかこと因と考えられる。	職員を配置するだけでなく、一人の園態伝達お十分に応じに援助が行えるようにする。	1. いつもどおり様子であった	友達がうんで遊んでいる様子から刺激を受け、数日前からうんでいに挑戦し始めていた。いつもは担任に体をえてもらっていたが、この日は担任が他のいい場所にたため、担任以外の職員に見守られながらうんでいに挑戦していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	うんでいで遊んでいることは把握していた。職員が他の様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児がうんでいに挑戦する姿を守っていたが、落ちる際には下すぐには出せず手が出なかった。	園児の一人の経験を踏まえ、必要な援助を行うよう、職員間の連携をしっかりとるようにする。	園児一人一人の経験を踏まえ、必要な援助を行うよう、職員間の連携をしっかりとるようにする。	
7491	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	43			11	6	9	17			5	5	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	3. 子ども同士衝突するもにも	1. あり	2. 不定期に実施	数	1. 基準以上配置	学童の子どもたちに園児のいるときの遊びを再度伝える。	今後はヒヤリハット報告書をつくり予防を事故予防につなげる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	運動場が広いので園児と一緒に遊んでいた。	運動場と芝生の園庭で遊ぶ交互日を交互にする。	3. 個人活動中・見守り	学童も遊びに夢中になるまわりが見えない事がある。	夕方の運動場使用学童(月・水・金)園児(火・木)芝の園庭学童(火・木)園児(月・金)	1. いつもどおり様子であった	園生活がくてをえるよおしぶるようにおしまいお迎えとなっていた。	2. 対象児の近で対象児ていた	後ろ下がボールを追いかけた子が、歩いた対象児にぶつかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危ないと思にはぶつかった。	迎えの時間重なり員が十分ではなかった。	複数名が運動場で遊んでいる際は見守りの目を強化し、子ども同士の距離感に充分配慮する。	
7492	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	26									2	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	職員の事故防止に対する認識の甘さ	必ず職員の遊具に配置し見守り近くに見ることの徹底	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	なし	職員が配置できないとき使用禁止	1. 集団活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおり様子であった	雲梯に興味があった為	4. 対象児の見ていた	全体を見ていた為	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	障害児がおり、その園児についた為	付いていない時に行ってしまった為	雲梯のやり方やルールを園児に伝える。	
7493	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	4	5							3	3	13. 1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	A歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	危機意識の不足	反省検討会・乳児救急研修	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	24	たわんだをマットを敷いていること	たわんだをマットを廃棄し、ショット詰保クッンマットを敷き、育室の環境改善	1. 集団活動中・見守り	保育室のにがゆみがたあったとつけるのに時間がかかった	蹴くようをこくものすくなくなと	1. いつもどおり様子であった	自由遊び中に外からの声掛けにドア側に移動中にたわんにマットに蹴き転倒	2. 対象児の近で対象児見ていた	本児の傍に居たが、止められかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	わんだくことでマットを予測できなかった	本児の動きや保育室の環境に、もっと注意を払う必要があった職員が抜け歯を保存液や牛乳に浸し歯科持っていく知識がなかった	蹴きにくい環境作り(保育室の整理整頓、凹凸を少なくする、子どもの行動を予測し、危険を察知する力を付ける)	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面					ハード面							環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																							死因	負傷状況	受傷部位																									
7494	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41			11	11	19			1	1	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	3. 未実施	0	2. 基準配置	—	異年齢に体力差を鑑みの内容を配慮する必要があった	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	向かい、両手繋ぎでサイドステップでの競走を提案をしていた	年齢差のある中で同じ活動や競走を取り入れるべきではない	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りに登園してきてグランド遊びに参加してた	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	登園人数増加のため自由遊びより目きやすい集団遊びに変更し、スタートとコーン間の競走を保育者一人で見ていた	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	全体を見ていてはなくなる様子は目に入りることはできた	活動の様子は確認できて保育者は特に危険を感じてはいなかった	異年齢による体力差を鑑みて活動の内容を配慮する必要があった	
7495	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	23								2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	左鼻骨骨折・眼底出血	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	ヒヤリハットの報告書や事故報告書が上がってきたら、職員会議にて状況を報告し改善策について検討している	今回の事故についても、職員間で情報を共有し、改善策について話し合う。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	園児２６対し人で、机は５台、椅子は２９脚設置。机同士の間隔も広くとってあった。	机の配置や部屋の環境には問題は見られず、椅子もしっかり机に入っていた。椅子の数も適切だった。	7. その他	—	荷物を置いた子も廊下で待ち一緒に入り部屋に入ればよかった。	1. いつもどおりの様子であった	部屋の移動で遊びをまでの間飛び跳ねていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	部屋の移動の時間だった為、移動している様子を廊下で見ていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他児に目が充血がみられるので連絡を入れる為事務室へ行っていた。	—	本児の普段の行動を理解していながら、飛び跳ねていることを止めることが出来なかった。いつも以上に声掛けをすればよかった。通常であれば２人体制のところ、他児で保育士が部屋を離れており、一人で対応している状況だったが、通常どおりの動きをしてしまった。状況を見極め、子ども達から目を離さない動きを行うべきであった。	
7496	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	29				6	12	11			2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	—	遊具周辺の狭い場所を走らないことや遊具の周辺を走ってのり降りしないことや遊具の乗り降りしないことを徹底していく。	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	—	2. 不定期に実施		—	引き続き安全点検・点検を実施する。	1. 集団活動中・見守りあり	—	園児に対し、遊具周辺の狭い場所を走らないことや遊具の乗り降りしないことを普段の保育や自由遊びの前に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	—	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	—	—	事故が発生したことのある遊具の近くに職員や監視員を配置する。	
7497	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	30								6	5	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右瞼部裂創	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	事故発生で予測で発生の可能性に対する意識が足りなかった。事故を予測、発生の可能性に対する意識と足りなかった。	職員間の連携を図り、子どもの行動の予測をし、事故が起こってしまうことをもしばしばしば

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析					ハード面							環境面			人的面							掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7498	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	14									3		3	13. 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	舌の裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～	2. 基準配置	—	職員間で今回の事故の情報を共有し、事故の分析を行い、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	開園日数	1. 定期的に実施	開園日数	1. 定期的に実施	開園日数	—	今回の事しは、施設・設備の故・改善のな善のなし。	1. 集団活動中・見守り	段ボールが固定されていなかったことと/周囲にも段ボールが設置されていたことと段ボールに高さがあり、転倒した際に手をつくことができないくらいの高さであったことと	段ボールを床面に固定する/転倒を想定し、周囲のものとの距離をあける/高さの低い段ボールを使用する。	1. いつもどおりの様子であった	もともと活発な姿がみられる 積極的に遊びに関わる姿	1 m離れた箇所から、他児と関わりながら、本児も視界に入っている状況であった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きをていなかった	他児と関わってた	段ボールが転倒するこを予測ていかっなた。それによって、段ボールのすぐに近く職員配置ていなかった。もしくは、段ボールが転倒しないよう環境を用意ていかっなた。	危険を予測した保育環境の設定。職員の配置位置の確認を行う。	
7499	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25									3		3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	不詳	3. 子ども同士のものによるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	具体的によって今後ありることが、必要である	今回のケガについて職員連絡会で話し合いをする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	定期的に安全点検し安全を確認し、活動改善場全点検を実施する前に運動の検を実施する	1. 集団活動中・見守り	１つのボールに対しゲーム人数は合っていたか	当日の流れ、補助の仕方について、丁寧に打ち合わせを行う	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ドリブルや講師の話に意欲があり、ミニゲームでは積極的にボールを追いかけていた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	人数が集まりボールを追い時かには声かけし、広い場所へ誘導するようにしていた。接近し友達すれたった時には、止めることが出来なかった	当対象児の動きを（至近距離にいた）	1. 担当者・対象児の動き見た	友達と接触した時、すぐに駆け寄り応	職員の人数には、問題がなかった	ゲーム中の立ち位置、人が密集する場合の配慮について、サッカー指導者と密に打ち合わせを行う	
7500	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34			16	18					3		2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		1. 基準以上配置	当日看護師が欠席していること、処置後に本人の「部屋（保育室）で遊びたい」という申だがあったことや迎えまでお出かけ1時間ほどたったことで病院に連れて行かなかった。	・園庭遊びの際は全体見渡しの職員を配置する。 ・職員会（月1開催）時にそのヒヤリハット報告と共に安全ハンドブックの読み合わせを行う。 ・16:12時点で保護者への連絡をすぐできあった。今後はすぐに保護者への連絡を取り、本人が大丈夫そうであっても念のために受診をお願いする。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	—	3. 未実施	—	今回の事故には、施設・設備の影響はなく、改善のなし。	1. 集団活動中・見守り	・午前に身体を動かして遊び、午後には制作等落ち着いた活動を取り入れる等、遊びの内容を変えるよう対応しているが、遊びがマンネリする事で集中できずふらふらしている子も出てくる。 ・現在では外遊びに関してはどもも連の遊びたいものをそのまま行っている。例えば鬼ごっこ、縄跳びやボール遊びなどが一斉に行われているので、園庭の広さも鑑みて遊びを選択して行えるようにする。	・玩具や入れ替えを遊び行うなど、午前後とのの遊びの環境を変える。 ・園庭でのコーナーを保育実施し、活動によるゾーンを内容に分けを検討する。	1. いつもどおりの様子であった	もともと活発で、走り回ることを好む傾向にある	4. 対象児の見ていた	事故寸前対象児も視界に入っていた、他児と関わっている分の間でこまった	当対象児の動きをていなかった	2. 担当者・対象児の動き見た	事故寸前対象児も視界に入っていた、他児と関わっている分の間でこまった	—	子どもの動きや職員の配置に偏りが監視する職員を1名配置する。	
7501	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	51									8		8	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	発表会の衣装を着用して、子どもの気分が高まっていた	落ち着いた雰囲気で過ごせるよう、注意喚起や声かけを行う	3. 未実施		1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	2～3	—	今回は下面ハーでの改善策なし	1. 集団活動中・見守り	実際に衣装を着用した子どもたちの気分が高まった	落ち着いた雰囲気で過ごせるよう、注意喚起や声かけを行う	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段よりも動きがダイナミックで、多少落ち着きがないように見られた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	衣装の乱れがないか、テージ下全体をテージで全体を見た為、転倒の際に助けることは出来なかった	当対象児の動きをていなかった	2. 担当者・対象児の動き見た	他児の衣装や着付けをチェックしていたが、テージに向けて目ていなかった	—	衣装を着けていもよ張り切っていた様子だったので、落ち着いて踊れるよう声をかけるべきだった	
7502	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24			10	4	10				1		1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士のものによるもの	1. あり	1. 定期的に実施		2. 基準配置	—	配置基準は満たしていたが、異年齢の1人の保育者では難度が上がることをふまえてを	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	52	—	危険個所対チェックだけでなく改善案と時期を明確にする。	1. 集団活動中・見守り	—	人数と面積と活動内容が適切であるかを検討する。	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	当対象児の動きをていなかった	2. 担当者・対象児の動き見た	—	—	遊びを展開するときには周囲の状況をふまえ、危険性を判断できるように研修を重ねる。	
7503	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	30									2		2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		1. 基準以上配置	—	思いがけない場面でも骨折につながることを周知し、安全について再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	52	—	危険個所対チェックだけでなく改善案を時期を明確にする。	1. 集団活動中・見守り	—	ステージを上り下りするときにはマットを設置する	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	当対象児の動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動き見た	—	—	階段など段差のある場所を移動するときには子どもが焦ることのないように気を付けて保育を行う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面								
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							具体的に何をしていたか			具体的に何をしていたか			
7504	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	2									1	1	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	300	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	キャスター付きのサイドボードやピアノの保育室の出入口に移動し、子どもの通り道にならないよう改善した。	キャスター付きのサイドボードと横にいたサイドボードに座っていたちすその間を抜けようとした。	1. いつもおお様もりの子であった	特別教室終了後の降園準備をしている時でもあった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	特別教室終了後の降園準備をしている園児名を見守っていたところだった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られている保護者の対応をしている保育教諭と送迎に出ている保育教諭がいた。	特になし	特になし	
7505	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	25				10	15				2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊具の配置設定の不備。（滑り台の壁面から壁面までの距離）	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。	1. 集団活動中・見守り	遊具の配置設定の不備。（滑り台の壁面から壁面までの距離）見守り職員の同じ方向を見ていた。事故発生場所に背を向けていた。	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。滑り台の（床面）マットを敷き転倒落転防止を行ったが、滑り台の配置とのが不十分であった。	1. いつもおお様もりの子であった	開放自由遊び中であった園の人の子ども数児とこ遊び（家族ごっこ）をしたち、落ち着いて遊んでいた。	4. 対象動児の見ないきていた	開放自由遊び中、ホール（2名）、保育室（2名）、広場（2名）、廊下（2名）見守り中であった。ホールでは全見な名がルでは全体を見ながら2名が見守り中であったが、2名とも事故発生場所に背を形向けで全体を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら園児と遊んでいたが、事故発生場所に背を向けていた。	特になし。	先の見通しを持って危機管理を行う。遊び方などに危険がないか常に配慮し、少しでも危険要素がある場合は対応する。遊びを見守る職員の配置。	
7506	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	53				22	31				3	3	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	7	2. 基準配置	特になし	その子に、遊びなどの応じて、をボールをトもっネルをくぐる際もンくぐるは、注意した、職員りの配置に気をつける。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	295	2. 不定期に実施	295	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	その子に、遊びなどの応じて、危険ないか確認する	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつけるよう指導し、保育者にも更に気をつけて見守る。	1. いつもおお様もりの子であった	録画してカメラで確認していたが、いつも通りであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでいる様子をみていたが、事故があった際、その後も、特に痛みをこ訴えることがなかった為、特に声をかけていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室全体を3人で見守っていたが、死角の部分もあった。	特になし	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつけるよう指導し、保育者も更に気をつけて見守る。	
7507	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									1	1	15. 3歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	A｜A外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	全教職員の危機管理マニュアルの周知・徹底（研修によるアップデート）、保育者個々の経験年数による課題（保育の方のあり方や安全意識・環境設定等）を会議・園内研修等に共通認識し取り組んでいく	教職員に危機管理マニュアルの研修必要、事故予防すると環境設定や保育定の取り組みを討。会議・打ちあわせを定期的に実施。危機管理マニュアル・環境等の研修実施。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	点検状況・課題・問題の周知・検討、研修実施	定期的点検の毎回数を定めに行う・園長点検を約1月日ヶ月ごとに検実施リーダーの確認・園用務員・バス手による安全点検実施、教員による直検実施	7. その他	外遊びから保育室に戻ってきた際の流動的な保育の流れでの全確認と指導の徹底→事故発生後から保育環境に見直し（とくに机の配置）	保育中の怪我・事故防止の研修、園内研修を繰り返し、安全・安心についての実施について周知・徹底を行う（事故を未然に防ぐ為の検証）→研修実施、各クラスにおける担任によるクラスでの園児との遊び方等の安全確認	1. いつもおお様もりの子であった	外遊びから保育室に入った際、指定されている自分の机に座らず、別の園児間の机の下遊でぶらぶつ遊ぶ。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室で事故発生場所（保育室後ろ）から保育室の黒板の正面入口近くおお帳面でを確認していた。他の児が泣いていることを伝えて気づきくく。事故様子は見ていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生は クラス3人体制であった。発生時の1３時は、担任：保育室（12名程）、リーダー：①：トイレ・着替えフリー②：外遊び役割分担で場びと分担で所が分かれていた。事故発生後、職員室で他の職員が確認。	保育者が園児の動きに気づき、注意喚起・指導する必要な環境構成に一気づく事故発生後～人員配置・教職員同士の声かけなど園長が指導	その日の子どもの動きだけでなく、日頃の様子から危険回避できるよう、保護者にも日常を伝える方法を検討し、教職員で共通認識・理解・周知徹底していく。担任からのヒヤリハットを周知し対策していく。検討チーム構築→毎日園長・主任による人的配置・保育の指示・教職員の実行の確認	
7508	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13			5	3	5				1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	第3趾骨骨右基節骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	保育の担当は2名の配置だが、事故発生時、他の1名が別クラスに行って担当が保育士しかいなかった。	保育時の保育士の配置人数の改善。園児の導線にじゃまなにならないように机、椅子配置する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	保育士の配置が1名であった。	保育士が1人の保育士で保育児をくみこうる。保育は必ずの保担当、保育の様子なよう注意す	1. いつもおお様もりの子であった		2. 対象至児の近で対象児を見ていた	保育士は至近距離にはいた様子を見切れなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	保育士の配置人数不足	園児の人数にかかわらず、預り保育の担当は2人配置にする。	
7509	令和4年3月16日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									3	3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎皮膚欠損層真皮	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	—	—	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	段差がある近くに具置く玩具の確認不足	保育環境直段の見直し、角の玩具ども差、あるについて子ども一緒に確認する。	3. 個人活動中・見守り	マットとカプラの配置箱箱に危険箇所があった。	環境を見直し、配置替え、子ども一緒に危険箇所の確認をする。	3. いつもより活動的であった(理由を記載)	機嫌がよく、いつも活動的であった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	走ると危ない、と声掛けをしていたが、トにつずまで想定できなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児に声掛けをしていたが、もっとしかもるなかった。	普段から機嫌がよく気持ちが高ぶると行動が激しくなるので、危険を具体的に伝えておけばよかった	該当園児を含め全園児と危険個所について日頃から話さなければならない。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面					人的面								
								人数	異年齢構成の内訳							教育・保育等従事											事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷						実施頻度【回/年】	職員配置			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7510	令和4年3月16日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	127			64	63				6	6	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨にひび	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	当日事前が約束していなかった。	園児の約束事は掲示していたが、この事故をきっかけに事前の約束ができるよう心がけていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨で土がぬかるむことが多い。	雨で土がぬかるむことが多い。	3.個人活動中・守り	職員は配置されていたが、ドングリがたくさん落ちていた。ドングリが落ちやすい気候であったため、ドングリを持っていなかったかもしれない。	なるべく3か所の遊び場に分散できよう、職員で周知。	1.いつもお様子のもりの子であった	どんぐり集めを楽しんでいた	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	子どもと一緒に集めをしながら守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	池（ザリガニ）、ままごと、色水遊び、魚（3か所）。時々広く着に付き替えに付き添う職員もいた。	両手にドングリを持っていたため、転倒した際に手をつくことが出来なかった。	どんぐり、落ち葉等を採集する際には観察カップなどの道具を使用することを知らせていく。職員間でも周知。	
7511	令和4年3月16日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18			3	7	8			3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	該当なし	廊下での危険な行為があった場合は、指導をする。病院の受診を勧める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	該当なし	施設・設備の不備ではないため。	1.集団活動中・守り	降園時、保護者がお迎えにきて興奮し急いでいた。	落ち着いて行動するよう声掛けする。	3.いつもより活発であった(理由を記載)	友だちと跳び箱を跳べる話をしていたところ、自分も跳べるを見せたかったため、かえる跳びをし、着地で失敗した。	2.対象児の近で対象児を見ていた	玄関で他対応していた死角で事故により、見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ担当場に持ち場ついていたため、見ていなかった。	該当なし	玄関先は、お迎えの混雑が起こると目が届きにくいこともあるので、必ず、プレールームの担当の先生が帰りの支度をしてくるようにする。	
7512	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	74				33	41			6	6	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)6～8回/年	2.基準配置	子どもの動きか事故を予測し、事故防止を努めた	今回の事故を含め、以前の事故事例を再確認し、子どもの動きから、危険個所や場所になりな場所を予測し事故防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	遊具の破損等ではないが、設置されている遊具の場所、空間から事故がの想定ができていなかった	狭い場所の角等を目印にしておかりやすくお周りと、コーンの置かりしてください	1.集団活動中・守り	けがをした場所は、フェンスと遊具の間でくなったため園児同士の衝突を回避しづらい場所だった	狭い場所や遊具の周りなど、三角の目印園にもわかりやすく、危険がないようにする	1.いつもお様子のもりの子であった	友達と鬼中ごっこ、鬼役ごっこに、鬼役の子の動きを見ながら走ってきにげていた.	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児童が鬼ごっこをしていることを確認し全つつ、見守っていた体を守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ持ち場で、園児全体を見ていた	園児が走ってきたら、衝突回避しないと危険な場所と想定ができていなかったため、両方向から園児が走ってくる姿に職員が間合わずぶつってしまった	職員間で園庭での危険箇所の周知。子どもの動きから危険となりる事や場所を想定して保育をする。園児にも、狭い場所や遊具の上などは走らない、走ってる時は前を見て走るなどの約束事を伝える。	
7513	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15								1	1	5歳	1.男児	持病・アレルギーなし発育良好天気晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右モンテジア脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員は、1人ではなく複数で対応すべきであった。	園庭遊びは必ず複数で対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	手や足のすべり滑りや場所が潜りないか確認して注意しいく	普段安全に利用できるもの年齢によって危険でいるかもいつも使いつも使用ていしいと違がいるかもいつも使用ていしいと違がいるかもいつも使用ていしいと違がいるかもい

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7516	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	36									4		3	4歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	5.他児危から害をえたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	―	これまで以上に、事故予防マニュアルに沿って危機管理を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	―	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	―	今後も、毎日の点検・消毒を行なっていく。	1.集団活動中・見守りあり	戸外活動、大好きなリレーの練習、週明けも重なり子ども達たちが気持ちが高ぶっていたのではないかと思う。	一つ一つの動きを一緒に確認しあい、もっと落ち着いて進めることを意識していく。	1.いつもお様もりの子であった	リレー練習中で、走る順番で座り、お友達と一緒に待機中であった。	4.対象動児はいなかった	リレーの練習中で、全体の列を整えさせるため一人ひとり順番に詰めていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	事故が起こったグループのもう一人の担任は、加配時の子を対応中であった。別のグループの担任は、離れた場所で別のグループ対応していた。	リレー直前ということで、全体に気持ちが高ぶっていた。	担任だけの判断ではなく、主任に状況を説明し対応を相談すべきであった。	
7517	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									1		1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘不全骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置		今回予想しなかっけががあったが、リハット証を職員一とりの危険予知力、安全感覚を磨いて研修けていく	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		3歳以上靴は上靴を生活をしており、しなくて転倒いよをいにもちんと履掛けるもちける声掛け後も続いく	1.集団活動中・見守りあり		家庭生活でも、園生活でも歩く走る体を使った遊びが少なくなっているので、今後も十分気をつけてリズム遊び等入れる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りに過ごしていた。	2.対象至児の近で対象児見た	リズム遊びをしたいめ、ピアノを活動で、ピアノ子ども同士で突る数し（チーム分けをし活動てしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	クラス別で活動であったため、担任一人で一クラスの活動中だった。		運動遊びなどは、できるだけ複数配置して、今後も体幹を鍛えるような遊びを取り入れていきたいと思う。	
7518	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9				3	2	4			2		2	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	鉄棒遊びのルールが明確に定められていなかった	鉄棒は1人ずつ順番に遊ぶ、鉄棒に職員を配置できない場合は鉄棒遊びは禁止等のルールを明確に定める	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用前)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	破損や劣らは見られなかった	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒遊びのルールが明確に定められていなかったため、複数の園児が同時に鉄棒で遊んでいた	複数の園児を同時すに介助は難しいので、鉄棒は1人ずつ順番に遊ぶルールを定めにさるにする	1.いつもお様もりの子であった	特に変わった様子はなく、いつもと同じように鉄棒で遊んでい	2.対象至児で対象児見た	対象児が鉄棒で遊んでいる横にいて見ていをした	2.担当者・対象児の動きをていなかった	担当職員児ていたため、他の対象児の様子を見ていた	鉄棒の横に職員を1人配置しており、鉄棒から落ちると危険という認識はあったが、棒の高さが低かったことも油断していた	園児が鉄棒から落ちないようになった時に支えることができるよう、園児1人に職員1人を配置し、しっかりと介助しながら鉄棒遊びを行う	
7519	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									6		5	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員同士の立ち位置や援助の仕方を確認し合う。子どもの発達を理解し、発達に合わせて保育者が側で見守ったり手伝っったりするなどの関わりをする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		平担な場所で転んだため、ハード面での改善策は特になし。	3.個人活動中・見守りあり		遊びを担当する保育者の人数に合わせた自転車の数や、順番を待つベンチの数について配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で自転車遊びを楽しんでいた。本児が乗っている自転車の前かごを1名の支援者が支え、後ろにも1名の友達が支え、3人で活動していた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	園庭で鬼ごっこを東の子ども達と鬼ごっこをしながら、園庭で遊んでいる子ども達の方もいる姿を全体的に見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自転車に乗っている子が、トラックを一回りしたら交替し、順番に乗れるように園庭の援助していた。		遊具で遊ぶ中、自分の力だけで難しいと思われる時は、子ども同士での援助は危険なので、保育者が関わるようにしていく。	
7520	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2		2	5歳	2.女児		8.その他			1.意識不明		てんかん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			5.睡眠(午睡)中	午睡中だった為、当該園児の変化に気づいている人数がなかった。また以前にも同様の事故があったのだと考えられる	職員の目が届きにくい場所（屋外など）での活動中に、発作をおこしてしまうと危険が高まること（大型遊具使用中に落下など）を意識した対応が必要である。また、意識が消失した状態の当該園児を他園児が動揺して、体や頭を揺さぶってしまうなどの二次災害が起こらないように、速やかに職員以外は近づかせない声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児見ていた		2.担当者・対象児の動きをていなかった		てんかん	睡眠時の嘔吐の際は、吐物で窒息しないように、体幹と横に向け用手的に口腔内の吐物を除去する。診察時に医師よりてんかん発生時の動画撮影依頼と発作時にどのような動きがどのくらいの時間続いたかの記録をして、大きな声で呼びかけたり、頭や体を揺さぶったりしないよう指示があり、対応することとなる。低量内服治療から薬を増量して、2週間後に治療結果を報告するとの事。てんかんが原因で当該園児や家族が周りから差別や偏見を受けないよう、職員はてんかんに対して正しい知識を理解し、対応することが重要である。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7521	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			20	19	19				5		4	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身のための。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身のための。	1.集団活動中・守り	自由遊び時間で、対象児童も、砂場や築山、土管、虫探しなどを楽しんでいた中で事故だった。職員の配置はしていたが、他の園児も多く、今回の事故のように未然には防ぐのは難しかった	遊具や障害物等での衝突はなかったが、ケガにつながる行動があるはその際は都度声掛けをしていく。遊ぶ時間の前に危険なことなどは伝えていくことが必要。	1.いつもお様子であった	お友達と走り回ってあそんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児がいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児がいて、全的に子どもをみていた	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	
7522	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	15									10		8	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明	2.顔面(口腔内含む)		8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	対象児（職員側）と職員１名（職員左側）計２名職員がおやつに対応。職員は両サイドに園児が座り、左側の園児への援助の要為、対象児には背を向けた状態であった。	食事・おやつの際は、職員間で連携を取り、助すする園児に対して、可能な限り集中できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	机を囲む形での椅子の配置、その椅子の間に職員が付く。職員の援助が仕方が慣習となっていた。	園児と職員が常に対面配置になる。園児と職員が常に対面配置にする変更する。	6.食事(おやつ)中	銀紙包装を取り、対象児にピーチーズその大きさのまま手渡した。	給食室と連携し、食べ物によっては、一口大きさや切る、大きさや大きさ、提供の仕方、食材の入れ替えなどを考慮し、園児の発達に応じた個別対応を行うようにする。また、事前に献立表を掲示し、気になる食材については、その都度検討する。	1.いつもお様子であった	普段と変わらない様子でチーズを食べ、おかわりを催促するような表情が見られた。	2.対象至対象児の近く見ていた	対象児の様子や口の中を確認した後、普段の様子から「チーズを食べるだろう」という思いが込みあった。その後も職員の左側の園児の援助をしていた。職員の援助を立ちながらと、対象児に気付いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も対象児の様子を見ていたが、対象児を継続して見ることが難しかった。	8月3日幼児食に移行し、好き嫌いなく食欲旺盛な対象児であったが、「チーズも普通食べられろう」という意識があった。	思い込みせず、常に、咀嚼や表情などの様子を確認しながら援助を行うようにする。	
7523	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	13	6	7	0	0	4		4	5歳	2.女児	特になし	6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左５趾基節骨骨折左足挫創(全治2か月)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	研修の実施頻度低く、職員間での知識や情報の共有が徹底されていない。	園内研修において、マニュアル、フローチャートの周知や事故発生時のシミュレーションを行う、日々の活動の危険な所等の情報共有を密に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	水道場の排水がグレーチングで、水道を使用する際、裸足であるというグレーチング構造で、水道部分が全面が危険と認識がかった。	グレーチングにクッション材を敷く、元の緩衝材を元いに戻る。	1.集団活動中・守り	屋上の水道場がある側の隣りの住民よりの苦情があったため、水遊び場を別のスペースに設置したことにより水道場までの距離が長くなり、水遊び児童がみたみ、当該児童が早く汲みとって走ってしまった。	水道場には3cm程の段差があり、これまで躓くことはなかったが、それも踏まえて水道場付近を走ることの危険性をもち子どもたちに伝える。水道ホースを使用して水遊び場のところで行う。水道場を使用する際は職員が至近で見守りをするようにする。	1.いつもお様子であった	水を汲むために遊んでいた場所から向かい場へ向かって走ったり、水遊びを行っていた際、勢いがついて止まらなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	屋上のほぼ中央、ビニールプール付近の全体を見渡せる位置で対象児の見守りをしていた。水道場から離れていたため事故の瞬間は把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員①屋上出入口付近で水遊びを終えた児の体を拭くのを手伝っていた職員②ビニールプール脇に就いて水遊び児の見守りをした職員③固定遊具で遊ぶ児の見守りをしていた職員遊ぶ児の見守りをしていたが、水道場からは死角となる位置だった。	適当と思われるポジションに職員を配置していたが、それぞれ動きが異なる死角なる瞬間がなってしまった。	本件も含め事例過去の事例を振り返り、活動内容に応じた配置安全面の配慮を職員会議等で共有する。職員同士声を掛け合い、児の動きに合わせ臨機応変に対応する。	
7524	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									1		1	4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	基準はみたしているが、特別支援を必要としている子どもいるので、十分保育が行き届かない時がある。	特別支援保育士の配置が欲しい。探しているが、保育士がいない。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	子どもがみつけて登ってなった。	棚の上に置物を飾りなど、見てもらえる楽しめる環境を整える。	4.個人活動中・子どものみ	手足を洗う、遊具を出れる前や片付けや片付けが、一人一人で子どが室内へ入った事だった。	足を洗う場所を保育室すぐ側に設置し、室内の様子からも目を離さないようにする。	1.いつもお様子であった	開放的な気分になり、つ高い所からとんでみたくなって、実行してしまった。	4.対象児の見ていなかった	テラスでどろんこ遊びを終えた子どもの足を順番にシャワーを使って流った。（最初に終わった本児は着替えのため室内に入った）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育にあたる。	棚の上スッしていた。	高い所に登ってみた	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面				人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位																													
7525	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			2		4	6			2	2	5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	これまで、はしごで怪我をした子がいなかったため、事前研修の園内の修繕も、特に“はしごを使わない”という共通認識をしていなかった。個別に「使わないで」と声はかけていたものの、使わないという声がけをしていなかった。	事故のリスクを保育士で共有し、事故予防についての研修・子どもの行動・声掛け、遊具の見守りなどの役割分担を決めるようにし、子どもの行動を予測し、安全な場所で自分の見守りをしていたが、鬼ごっこの中で起こった事故であり、事故予防のための予測・共有ができなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.集団活動中・見守りあり	プールサイドに水鉄砲やビート板を置いていたため、手を伸ばせばすぐに取って遊べたので、プールからあがって行く必要はなかった状況にある。勝手にあがってはいけないことを子どもたちに伝えておけばよかったのではないか。	特に用事がない限り、勝手に出たり入ったりしないようにおきて、トイレに行きたくなったり、何かたたりする場合の職員に伝えるようにする。	1.いつもお様子であった	プールに遊んでいたが、プールサイドに置いてある水鉄砲を取り、プールの中をめ、プールに移動するより、あがった方が早いと思ったから一度あがった様子。	4.対象児の動きを見ていなかった	プールにいれば、あの本児がふたりのところに入ったが、プールに入ったこの子どもたちの方を優先的に見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者の方は見ていなかったが、本児があってきてプールサイドを歩いて近くに来たに所までは見ている。だが、その後に内にけて、一瞬で、本児には背を向けていない状況になった。		補助職員はプール内だけでなく、全体を見渡せるところで見ていると必要があった。	
7526	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79					40	39			4	4	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保育士で声掛け、遊具ある場所で自分で子どもが鬼ごっこの中で起こった事故であり、事故予防のための見守りをしていたが、鬼ごっこの中で起こった事故であり、事故予防のための見守りができなかった。	事故のリスクを保育士で共有し、事故予防についての研修・子どもの行動・声掛け、遊具の安全点検の徹底を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年		今回の事故については、ハード面に対する改善点は特に改善点とは考えられる。	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故については、環境面に対する改善点は特に改善点とは考えられる。	1.いつもお様子であった	仲良しの友だちと楽しく鬼ごっこをしんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が鬼ごっこを楽しんでいたことは承知していたが、他の児童の様子などを見守っており、事故発生時の瞬間は対象児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	日頃より遊具の使い方・遊び方に関子どもに理解を深めるようにするとともに、あらゆる危険性を予知し保育できるようにする。	遊び方を話す話をしてを「危険」について		
7527	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右第一足上打撲	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故予防に関する研修を定期的に行い、事故の状況・対策を全員で共有する	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年		ハード面に問題なし	1.集団活動中・見守りあり		机の運び方を子どもたちも確認し、必ず職員が一人見守る	1.いつもお様子であった	特に体調は悪くなく、元気に運動をしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	保育士2人で縄を持って園児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			職員配置と職員間の連携を見直す	
7528	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									6	6	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園庭にてくく「あぶった」ごっこをしたの鬼ごっこの際に逃げ、階段で転び、横で右目尻を切ってしまった。	逃げる範囲を指定し、階段へは行かないよう注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	階段では走らない	階段の濡れ安全なゴムのすべり止めをつける	1.集団活動中・見守りあり	子ども達に逃げた為、一斉に担任が全員を一度に見守ることができなかった。	外あそびでは担任以外でも全員が見守る	1.いつもお様子であった	元気で遊びに夢中であった。	2.対象児の近で象児を見ていた	クラス全体を遊びの中心にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて各担当児守りをしていた。	他の園児と違う方向(階段)にた走ので、職員がいない場所で怪我をしまった。	分散して見守りを行う	
7529	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19			8	7	4				4	2	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右上前歯急性外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～6)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	3歳児のクラスの環境配置にしたが長時間の子どもの環境設定ではなかった。	室内の棚の配置をその都度長時間仕様にする。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童にあり遊びを用びしきれなかった。	気持ちが落ち着く遊びや、好きな遊びを用意し対応できるようにする。	1.いつもお様子であった	いつもとかわらない様子であった	3.対象児で離れたところで対象児を見ていた	当該児童の様子は見ていたが、られる所にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のイレ助や保者対応をしていた。	遊びに集中でくなった時に近くに行って言葉をかけたり、その都度室内あそびのルールを確認する必要があったができていなかった。	リーダーの保育者が全体把握しながら、他の保育者の配置を指示し、連携を密にする。また、他の保育士も個々にかかわりながらも全体の子どもの様子を気にかけて対応する。長時間の対応について会議で話し合いを持つようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面					ハード面							環境面					人的面															
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7530	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園		2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19						19		1	1	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	【診断名】	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	行事があったためウオームアップいしないまをしてそのまま園庭で運動をしまった。	運動遊びをする前にはウオームアップをする。	1.定期的に実施	実施頻度(年１３回)	1.定期的に実施	実施頻度(年１２回)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	当日は気温が低かったために体の硬さとかも考える。	気温が低い日はよりウォームアップに十分に時をとって運動遊びを行う。	1.集団活動中・見守りあり		運動遊びの前にはウオームアップをする。	1.いつもどおりの様子であった	。縄を足に回しかけて遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体で遊びを見守ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台のしていた。	本児が「足を捻った」とと言ったので、担任が確認したが異常は認められなかった。「ふしちょうい」いうでして子をみた。	見た目は異常がなく、本人が痛いと言った時はすぐに受診する。	
7531	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18							0	28	25	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部打撲・挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置		事故防止チェック等を活用し職員間で検証、安全面での意識を強化する。また、異動した職員がいろで早急に園内点検や確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	年度末にポーチの安全点検を行っていたが、陶器製の植木鉢を除去していなかった。	ポーチに陶器製の植木鉢があり危険であった。	1.集団活動中・見守りあり	陶器製の植木鉢を使用しており、移動の把握ができていなかった。	活動の切り替え時は事故が起きやすいので、安全に移動できるよう子どもに指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	進級して間もなく、やや気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内からポーチへ移動するときで、十分に子どもの状況を把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での(制作活動)を実施していた。	活動の切り替え時で事故が起きやすい状況だった。	安全に移動できるように指導していく。保育士が声を掛け合う。同士が声を掛け合う。	
7532	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18								1	1	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上右中切歯歯髄失活	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	事故当日は担任1名が週休のため、1名で保育を実施していた。（基準配置）	職員会議にて、事故の問題点・改善策について意見交換を行う。全職員で確認することにより、安全面での周知徹底を図り、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)		引き続き、活動前に点検を行い、年齢にふさわしい扱いについて職員で確認をする。	3.個人活動中・見守りあり	だ丸太運動必ずを行い、発達にふしい方について、職員全体で確認する。不備があった場合、使用可否の修理等の対応を行い、全体周知する。	普段から可動遊具は子ども達で持ち運び自由に使っていた。	1.いつもどおりの様子であった	当該園児はひとりで遊んでいた。他児が至近で同様に可動遊具を見て動使って立てびんでお遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭遊びを始めて10分程度経過していた。可動遊具で遊ぶ様子を確認しながら、鬼ごっこや栽培物の観察している他児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は園庭にいない		どの遊びに援助が必要かを見極め、必要な子のそばにつく。特に可動遊具類を扱う際は、子ども達の力を過信せず無理がないよう見守ったり、援助したりする。	
7533	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	0	1	5	12	9	5	0	9	9	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	雲梯で遊んでいる児に対し、職員がついて、手がとどくことのない位置に職員がとられるように対応がとれるように職員配置がかなこと。危機管理の甘さがあった。	こどもの遊び遊び、職員の人数、立ち位置様々な状況を想定し、危機管理を持ち、職員が共通理解と連携を取っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	雲梯・滑り台・ライムの遊具の総合遊具で、立ち位置では死角場所ができてしまった。	遊具、玩具の安全点検を実施し今後も実施しくこのある遊具、落下の危険があるの下にマットのくについて、厚さのにする。	3.個人活動中・見守りあり	保育者は、それぞれ自分の担当の年齢の園児をいたので、全体に目が向いていなかった。	園全体で見守りが必要なので、常に周囲に目と意識をむけて共をいくと共に、職員間で声を掛け合、誰がどこで遊んでいるのかを把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から遊び好んでいる雲梯をしていた。	4.対象児の見ていなかった	担任保育士も直前まで一緒に遊んでいた「やめる」と本児がその場を離れたので、担任も他児の遊び応じていた。本児が雲梯に戻ったことにかかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士は、自分の担当する年齢のこどもに対応していたため、見ていなかった。	園児を園の職員全員で見ていく事、危機意識が薄かった。	園児の動きを確認し、落下の危険がある遊具使用の場合には、職員間で声を掛け合い共有し、園児から目を離さないようにする。	
7534	令和4年3月16日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	136								10	10	16.4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	3	1.基準以上配置	移動の際バランスを崩して転倒してしまった。	周りをよく見て気付けて歩くよう指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き安全点検を行い、危険がないよう確認をする。	1.集団活動中・見守りあり		園児の行動を観察し危険予知に充分に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	歩行中バランスを崩した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れ場所で少した他の園児の世話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の水筒の片付けを手伝っていたため、見ていなかった。	練習を再開するために慌ただしい雰囲気になっていた。	園児に対して必要以上に急がせる言葉がけや雰囲気をつくらない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面								環境面			人的面						
									異年齢構成の場合の内訳																																										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																								
7535	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20				8	12				4	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	大腿骨骨折	3. 子どもどうしの衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		12	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	45	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	ぶつかること定でのりやシデントが発生することへの意識の足	ぶつかることを想定した上での見守り強化。幼児が危険を察知できる力を育てい く。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に登園し意欲的に参加していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	お祭りごっこの楽しんごっこ活動しるので、本の姿を至近で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の職員も同じペースで本児の動きを観察しており、ぶつかることに気を配ることを声かけをした。	園庭をてぶつかりに、いそうになり、いに回はしたもの。後方を走っていた児でぶつかってしまいう、アシデントが発生した。	本児への見守り関わりを強化する。職員間で、今一度に安全強化について、共通理解を図る。	
7536	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13									3	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		12	1. 基準以上配置	対象児の特性と危険箇所について、職員間の共通理解が十分でなかった。	対象児の特性と危険箇所について共通理解を図った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	240	段差があり、滑りやすい。	まった、昇降口に走り見呼ずと走り込まよ届びかけする。	3. 個人活動中・見守り	次の活動が控えおり、急いで室内に戻る必要があった。	ゆとりの日課を設定考え共に、対象児の特性を考慮し、片付けの予告を効果的にする。	1. いつもどおりの様子であった	気持ちの切り替えができず、戸外遊びを終えることを渋った。支援者の「よういど」の言葉に反応し、走ってそのまま昇降口に走りもうとした。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	別の園児に関わり、戻ろうとしている対象児を守った。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	気持ちを切り替え、友達によって一緒に「よういど」と声掛けし、後ろ戻ろうと向かった。	昇降口段前差り、利比べ多く、滑りやすいが、昇降口手前で止まり届け置に職員がいなかった。	子供が戸外遊びを終え入る時は、昇降口手前に職員を配置し、昇降口に走り込まず、一旦、止まるよう見届ける。	
7537	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23									1	1	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2	1. 基準以上配置	—	—	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	24	—	—	3. 個人活動中・見守り	水筒の入れ物多く使用するようになった人数が集中していた。	人数が分散するよう、入れ物を複数用意し、間でおくなど人数が分散するようにする。	1. いつもどおりの様子であった	運動会の練習が終わり水筒の置き場所まで走っていき、友達と接触した。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	年長児全員に指示をしてどもの後ろう形で守った。対象児が転んだ、すぐに駆け寄り、怪我の様子の確認した。年長児全児全員指示をするのではなく、グループや少人数で動くように配慮が必要であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ年長組に入室しており、ちょうど担任が一人のときに我を見た。近くにいる職員に報告や相談をしなかった。	年長に先に室しており、ちょうど担任教諭の怪我をした。近くにいる職員に報告や相談をしなかった。		
7538	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20				6	11	4			6	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		12	2. 基準配置	—	金曜日のあり、幼児の集中力のやの注意力散漫なども考えられることから、上級以上保育者の見守り位置や幼児の様子の把握に努めにる。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	幼児が遊び環境において、すべり場や危険な箇所、物ないが滑り再度確認することが。	3. 個人活動中・見守り	金曜日のあり、一週間の疲れなどが転倒の要因にも考えられる。	幼児の体調など考慮し、遊び方の工夫をする必要があった。(個々のペースで組べ砂遊びごっこ遊びなど)また早めに室内に戻りたりごこら迎え待つなどの配慮を考えていく。	1. いつもどおりの様子であった	長時間保育児のとおしごっこを通して遊んだ。際に手をつき、骨折したと思われる。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見通しの良いところを児の動きに合わせて移動しながら見守りをしていた。本児がぐに上がり、痛みを訴えることもなく、ずっと遊びを続けていたため気付かなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	3歳児と一緒に過ごし、砂遊びの見守りやは離れた場所で遊ぶ場所で遊ぶ幼児の見守りをしていた。		幼児の見守りをする人数や位置、担当引継ぎ事項を再確認し、幼児の様子に変化があった場合はその状況把握やに経過観察に努める。	
7539	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	273				89	96	88			15	15	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	頭頂部裂傷	4. 玩具・遊具等施設・設備安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施		3	1. 基準以上配置	特になし	今までに児童が入れる場所や隅ずまでの上のうを想定するなどの意識をアルバイトを足す。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	遊具には年前者による補修びリント工あった。関係業者によるメンテナンスや研修等に補修をマニュアルを修正していく。	くれを補修後、児童が安全に勢込まれ高さ滑り分をさ低い姿勢入りないまで台の下、パネル、角のパネル、窓枠、その部分には緩衝材を設置した。	1. 集団活動中・見守り	あそびの中には児童も夢中になり集団で児童が他児周囲に見えなくなることがあるので、目を離さないこと。	ここの集団にはそれぞれ年齢の児童の活動状況に応じて必要な配慮をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	発達の児童の通り。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	担任はいつも声掛けを行いながら、児童と一緒にあそぶ。この日は保育室内の児童に対応していて、他の一職員で駆けつける。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいて他児に対応していたため。	お児団で一斉にあそぶ際実際はひとりを迫っていること見るは不可能に近い。	集団遊び等ではできるだけ児童たちに安全面及び安全危険回避について伝え、他の職員もその話を聞し、遊び中にも声を掛ける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
										異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7540	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	61			15	21	25			7	3	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折　右橈骨遠位端骨折の疑い	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	5	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため、見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がけがをする直前までの(走りまわる)直前まで見ていた。転倒する瞬間は見ていなかった	特になし	特になし	
7541	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	28								1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	240	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	引き続き安全確認を行う。	3. 個人活動中・見守り	机の間隔が狭くなっていた。	これまで以上に全体を見渡せるように職員を改善し、こまめに机の整頓をする。	1. いつもどおりの様子であった	他児に注意が向いていた状態でいた。	3. 対象児から離れたところで対象児ていた	シール帳の確認をしていると、少し目を離してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	こまめにたち子供たちの様子を見ていたが、少し目を離していた時もあった。	周りを見ながら歩くよう声をかけなかった。	机の金具の危険性を伝え、狭い場所はなるべく通らないよう指示する。	
7542	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	85		2	19	21	20	23		10		3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)		1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5　)回/年	1. 基準以上配置	園児が対象遊具を離れたので、他の遊具の対応しまった	職員が遊ぶことが出しない場合には、使用しないことにする　ヒヤリハット報告書を作成、気付いたその度、話し合いを	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年		遊具の設置場所を移動考えた。使用しないカラーン・バー置員が見えるを全で分かるようにする。	1. 集団活動中・見守り	以上児と未満児合同で遊んでいた為	遊ぶ時間帯を分け、遊具の人数を制限する。遊具は交替で使用し、遊具の使い方を園児にも説明する。	1. いつもどおりの子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	二回程、対象遊具一緒に遊んでいたが、他の子供の対応の為、その場を離れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが別の遊具、子供の対応をしていた為	保育士の連携不為、全体を把握出来ていなかった。	今以上に連携を徹底し、子供の行動を常に把握する。園庭、園内の安全確認を全職員で徹底する。活動前後、保育士同士も園児の動きを予測し危険な事などを確認する。	
7543	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19								1	1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置		全職員が、事故防止マニュアルの周知徹底と再確認を行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(1２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/日		教室やテラスなどは走らないこと徹底する。子ども達の行動も予測して対応する。	1. 集団活動中・見守り	普段から保育士の声掛けや指示に注意が向けられない。	今まで以上の声掛けを行っていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	数名の友だちと教室を走り回っていたので、声掛けしたが教室から飛び出し転倒する。	4. 対象児の動きを見ていなかった	声掛けに応じた園児に注意を促している間に転倒	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの子ども達への対応をしていた。		教室での過ごし方やテラスでの行動など、その他の都度子ども達と一緒に考える機会をこと。	
7544	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	45	3	5	6	7	11	13	0	9	7	6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	職員1名ごっこ鬼の様子守っこの様子を見ていた。	などの大きな移動のある活動は職員の配置にも配慮し、子どもの確実なときを見渡せるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４　回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	延長保育子どもの多いのが、4，5歳児は一定時間遊戯室も使い、2～3種のコーナーで区切って遊んでいた。	十分に走れるスペースの確保（人数・見合った遊びの選択）	1. 集団活動中・見守り	延長保育時間で、体が疲れており、怪我等につながりやすい。	状況を見て、危険と感じたら、早め上に切りなげると、職員間で声掛け合って判断する。	1. いつもどおりの様子であった	友達一緒に鬼ごっこで走って遊んでいた。	2. 対象至対象児の近く見た	こっこしてる鬼ごっこ見ている園児を守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の遊びコーナー園守りをしていた。	担当職員は鬼ごっこで園児ごっこをいる児ボールにそなえ、そのクラスのボールになりうるため、そこに行がちもち目きだった。	危険が予測されると、一旦やめるなどの対応を取る。	
7545	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13	1	7	5					5	2	1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	安全管理についてのマニュアルはあるが、事故防止マニュアルは整備されていない。	事故防止マニュアルを整備し、研修に努め、実施に職員の知識を周知を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	他にパーテーションなど、段ボール製のボール仕切りを使用していた。	ダンボール製の仕切りは使用しない。	3. 個人活動中・見守り	ダンボール製の仕切りを使用したが、先倒す可能性があった。	園児の状況を見ながら人数が多い時には0，1歳児と2歳児を分けて保育する。	1. いつもどおりの様子であった	トンネル遊びの所にいたが段ボール製の仕切りで遊びを見ていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者からダンボール仕切りが近がよく見えず、全体の子把握では十分でなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ボールを遊びをしている園児を見て、側の児童ボールに気づいていなかった。	それぞれ場所に職員いた体を把握している員はいなった。	延長保育担当保育士は必ず全体の様子を把握し一人一人が安全に遊びるか見届け必要応じて対応する。	
7546	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	27								2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2. 基準配置		定期的に事故防止マニュアルの確認や、事故事例について、職員間で共有し策をする。また、子どもの個々の活動や、行動の特性を把握し、職員間で共有していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/日		施設内の継続し、危険箇所を発見した場合は速やかに報告・共有を行う。	1. 集団活動中・見守り	保育者の注意が当該園児に伝わりやすい状況でなかった。	園児個人だけでなく、クラス全体に向けて落ち着いて行動するように伝える。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故直前も廊下を走っており気持ち落ち着かせる必要があった。	2. 対象至対象児の近く見た	絵カードを使って廊下を走らないことを伝え。気持ちを落ち着かせた列に乱れて待ちたく並んで待機させていたが、順番が来ると勢いよく出てしまい飛び出しが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		気持ちが落ちが着いた判断列に乱らせたが、突発的な行動が出てしまった。	特に注意が必要な園児には行動の仕方を繰り返し伝える。園児の様子は職員全員で観察し、必要に応じて共有する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面													
							発生時の体制																				マニュアルの有無	事故予防研修					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由			具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7547	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足指付け根）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故発生「見」「触」「動きの確認」をする「休ませる」と「様子を見る」いった対応・処置について再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		活動内容・人数による活スペース適切さ、動スペの適切さを検討する。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ感染症により活動内容が今までと変わってきている。	十分に体を動かす遊びを新たに取り入れていく。	1.いつもどおり様子であった	ハンカチ落としをしている際に走っている友だちを追いかけた。そのが友だちが座ったので本児も止まろうとして転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び全体の進行を見ていた。			危ない動きがないか、遊びに楽しく参加できているかを見ていた。		・一度に遊ぶ人数の制限・場を離れての処置	
7548	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	3	3							11	11	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆状骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故予防について研修を行い、職員間で共通理解を深める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/使用時		点検時以外でも、職員間で気づいた点は共有しているが、今後も徹底を図る。	1.集団活動中・見守りあり		戸外での安全確認を保育士間で連携し、徹底する。	1.いつもどおり様子であった	水遊び、砂遊びをしていたが、2歳児が先に船型の滑り台に上ったため、上ったん自分ろと台途中35cmくらいの高さから足をかけた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	本児が遊んでいた砂遊びの様子を見ていたが、入室時間の確認を担当者に任せる際目を離した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児園庭で0．1．2歳児が遊んでおり、本児の後、2クラ歳児クラス担任が気づき抱き起した。		子ども見が立ち意保育連携、目間の連携し、保育士に努め、目を離さないようにする。	
7549	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									3	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	特になし	会議で事故の様子と支援が必要な本児について共有し、本日の様子を伝える。興奮していたときは注意深く見守ることを職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	落下した鉄棒の高さは（105㎝）下は人工芝が敷かれている。	高い鉄棒に所の意識を補助するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	固定遊具で遊ぶ時には保育士がそばにつくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒に来る直前まで友達と鬼ごっこをして遊んで走っていた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	あるうち鉄棒で遊んでいるため、被災児の棒ですぐに飛び回ろうとする子が見えたが、いるもあり間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の開放で子どもたちが遊ぶ様子を見守っていた。	起床前まで鬼ごっこをしていたので、勢いのまま鉄棒をしようとしていた。また、高いにもかかわらず補助なしで早くつかまった。	鉄棒など固定遊具を使用するときは保育士がそばにつくようにするとともに、子どもたちも鉄棒を含めた固定遊具の約束を確認する。より危険性が予測される、高い方に注意を向けるようにしたい。	
7550	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	職員が担任一人だった。	個別対応が必要な時は全体の職員を見る配置をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	ハード面については事故発生要因/改善策はないと考えられる。	安全点検を行っていて、特に問題はない。	3.個人活動中・見守り	15名が一斉に大きく走り回っていた。	大きな動きが予想される活動の人数を制限したり、時間を短縮する等の配慮をする。	1.いつもどおり様子であった	「周囲の様子を見ながら」「鬼ごっこ」と「逃げる」という動きを同時に行うことが難しかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険な動きをする注意をした他児に意をたため個別に話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、職員が担任一人だった。	担任が個別対応中であった。	保育士が一人の場合は鬼ごっこの動きを中断して、個別に対応する。	
7551	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	57					30	27			6	6	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～3)回/年	1.基準以上配置	特になし。	特になし。4．5歳児に新入児はおらず、保育士も新規採用ではなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12～)回/年	天気良く、公園の遊具は濡れておらず、破損も無かった。遊具下は砂に砂や雑草が生い茂っているため、砂でスニーカーが滑る可能性もある。	公園遊具等が破損した場合は管理自治体に連絡し、濡れた遊具には登らない。登る遊具をのせたり、かけたりさせない。	1.集団活動中・見守りあり	公園の遊具に3名、広場に3名保育士が配置されていた。園児は全員保育士の目が届く範囲にいたが、とっさに助けられる位置にはいなかった。	登る遊具は2名の保育士の配置とし、人手が足りなくなったときは一部の遊具を制限するようにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級して初めての戸外活動で、クラス全体がはしゃいでいた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	園児が遊ぶ遊具のすぐそばにいたが、手が届く位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場や、ブランコ台や滑り台等危険なそばに立ち、全体を見守る。	公園の遊具に3名、広場に3名保育士が配置された。園児が保育士の目が届く範囲にいたが、とっさに助けられる位置にはいなかった。	登る遊具には2名の保育士配置し、人手が足りないときは一部の遊具を制限するようにした。	
7552	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16					11	5			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位部若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	無し	できる限ばないように気をつけ転ばる様に声掛けして周知する	1.定期的に実施	実施頻度(年2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	園庭がコンクリートの為	転ばない様に声掛けする	1.集団活動中・見守りあり	見守り強化する（3人態勢であった。）	遊びの最中も声がけする	1.いつもどおり様子であった	いつも通り元気	2.対象至児の近で対象児を見ていた	対象児と1メートル以内での出来事	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児と1メートル以内にいた	転んだ時び方が悪かった	活動前に怪様に話し合いをする	
7553	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	2	6						9	8	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		定期的に園内研修として実施していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		点検を定期的に行っているが、危険箇所については周知していく。	1.集団活動中・見守りあり		遊戯室での提供する遊びの見直しをする。	1.いつもどおり様子であった	普段と変わらず、機嫌も悪くなかった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	対象児のすぐ近くで一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいた。		子どもたちの普段の遊びから動きを想定し、必要な遊具のみ提供する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面								環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7554	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	10								1		1	4歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左側足関節捻挫右側足関節挫傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突こ	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	ホールで遊ぶ際は、ステージに上がらない事を園児に約束をする。全体を把握しやすいように保育をする。	全職員に周知し、安全対策の徹底を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	ホールのステージは30cmあるささがあるので、登降の際は必ず注意要ですが、その周知にかけた。	環境設定した遊びごとステージは遊んでいるとステで良いにすが、走って遊ぶときは、スペはこれテージは登降はないにすると。遊びによってはがらない約束事ら知せる。	1. 集団活動中・見守り	ステージへの登降は、急いでいるとどのくら上げたらいが鈍る。	追いかけっこになり夢中になり、転んでも遊びを続けたことから、だ転んだ、怪我したりを必ず職員に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	追いかけっこを楽しく遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任がホールで遊ぶ子ども達の様子を見ていたが、別な事を遊んでいる園児とわっていたときそのの現場を見落としまっている。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担当者の一人は、保育室にて子の配保育についていた。	夕方、自由遊びの際は動きや注意が散漫になので、注意して保育することが大事である。	自由遊びの後、リズム運動をすることにしていたので、リズムに向けた柔軟体操等、導入を大事にし落ち着いて過ごせるようなごし方の工夫や注意が必要だった。	
7555	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	3. 昼食時・おやつ時	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28								3		3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突こ	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	保育室から園庭に向かうと、玄関から園庭に向かう時に友達と先を競争したことと	移動時の保育士の声掛けと職員配置	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		各年齢における事故防止チェックの活用	1. 集団活動中・見守り	玄関から園庭までの園児の行動を把握する	園児が移動する際、見守り声掛けをする	1. いつもどおりの様子であった	体調も変わりなく、登園時から元気に活動していた	2. 対象至児の近く対象児を見ていた	給食後、食終了後、食べた終わった園児が一度揃って保育士と共に園庭に行った。その後、給食を食べた園児2人ずつ食べ終わった園児が急に食べ始めたり、身体がぶつかったため保育室テラス前で2人共転倒した。(本児は両手足、友達は片足に傷あり)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊ぶ後来た見園舎職員が1名。見守り声掛けを行った。		先を急いでしまう園児に対して、危険が無いよう声掛けを行い落ち着いて行動できるよう促す。	
7556	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18			5	13				3		2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突こ	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	・担任が2部屋(静的遊び、動的遊び)を行き来しな保育って動的部屋にいた。動的は補助(保育士以外)職員を配置していた。 ・職員間での掛け、声掛、情報の共有が不十分だった。	・担任が動的部屋にて活動を見守る配置し、遊びについて園児に声をかけながら行う。職員間での声掛け、情報共有をいながら行う。普段の活動では職員も考配置数を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	・遊び方安全性について確認。ソフト積みの木でのスクラップ崩しやすいもの物を把握した。	・子ども保育者が遊び方の確認を共有・確認する。遊びの発展に気を配る。	1. 集団活動中・見守り	普段、遊びは慣れても使っていないのを使って遊んで。雨天時の安全を考え足が遠の計画が不十分だった。	遊び方の確認(落ち着いて渡る、足元を見ながら渡るバランスを取ってわたる等)実際渡って見せながら危険な部分を知らせる。 計画を全体の流れを把握しながら立てる。(ホールの活動の時間を区切る等)	1. いつもどおりの様子であった	楽しい気持ちから、渡るスピードが出てしまった(早歩きだった)。バランスを崩した後の転倒の仕方が悪く、肘に全体重がかかる状態となった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	2部屋を使用して遊んでおり、別な子を部屋の見為、様子をていた。転倒の場面を見ていなかった。(泣き声が聞こえ、何かあったに気付いた)	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	●トイレに行った子が戻ってくる、入口から様子を伺っていた為、転倒の場面を見ていなかった。(振り向いた時後に転倒で床に座っていた)●他の子の様子(3歳児)を見ておりも転倒の場面を見ていなかった。	遊びの見守りがおろそかだった。転倒するかもしれないという意識、事故につながるかもという意識が欠けていた。担任が活動場所にいてもすぐ手を差し伸べるようべきだった。	事故につながるかもしれないという意識を持って保育を行う。子どもの動きを配慮し声をかけ合いながら全体が見渡せるようにする。危険な場合に手を差し伸べられる場所で見守る。	
7557	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26			13	13				4		4	4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	事故当時、4歳児担当保育士1名の他に保育士3名、実習生1名が園庭におり、配置基準は満たしていたが、遊具の側に職員がいなかった。	園庭に出た際は、遊具に必ず職員がつくようにする。又は、見守りが出来ない状況であれば、遊具を使用せずに遊ぶよう設定する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	登り棒の敷い人工芝下に敷いている園庭のものの敷いる	園庭の遊具全体の安全性について再度検討し	1. 集団活動中・見守り	直前まで園児は園庭を走っており、本庭をそのまま遊具に登り始めた。他の子どもが走り遊びながら遊具にのぼり降りしたりしていたが、保育士は保育長縄跳び補助しながら全体を見守っていたため、遊具の側にはいなかった	園庭遊びする際園庭を安全に見守れるは、保育士が安全に見守れる範囲を設定する。一人で見は、保育士は遊具で遊ぶ時間を定める、園庭で遊ぶ際は遊具で遊ぶ時間を定める、ついて他の側についてから他の遊びを行うなど、遊びの設定を工夫していく。	1. いつもどおりの様子であった	普段から発この日も元気に園庭を走りながら滑り台や登り棒に登り活活発に動いていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的にいた子どもが走ったり、遊具に乗って遊んでいるは把握していたが、長縄跳びの対応をしていた	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	2歳児は中心に遊ん砂場を使っており、2歳児は担当職員は遊具から離れた場所で見守りを行っていた。	全体を見守ってはいたが、遊具に見守りがついていなかった。また、他の保育士も自分担当クラスについており、遊具の側には誰もいなかった。	職員は全員で全園児を見守るとその都度確認し、見守り箇所を分担する。	
7558	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	53	0		0	13	20	20	0	5		5	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突こ	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		近くにいる保育者が声を掛けたり危険予測をしながら見守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		段差をなくし安全マット砂砂の取り上を除く。	1. 集団活動中・見守り		個別の様子をよく見て予測が必要だった。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の近くで遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	固定遊具で他児を含め周辺で数名の動きを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具以外で遊んでいた(砂場の児(等)きを守っていた。		疲れや体力など、子どもの姿を予測しながら関わりを見る必要があった。	力子どもが見守りを行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き 理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7559	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	37				18	19			2	2	5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左側肘関節骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	保育者の気付き、遊びへの欠けている部分があったと考える。	子どもたちの状態の把握をうえで考え、環境を整えて必要に応じていくことあるこの職員間で共通理解を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	折り畳み式鉄棒(約８０ｃｍ)にマットを敷いた。保育者も位置いい側に位置付いていたが、援助、配慮に欠けていた部分があったと考えれる。	子どもの把握と安心に十状態とともに安全配慮し、遊びを考えていく。	1. 集団活動中・見あり守り	鉄棒の他にもスクーター等で遊んでおり、他にも目を向けなければならないだろう。遊びの組み合わせの考慮が必要があった。	遊びの組み合わせ考慮、時間帯、子どもの人数など考えて遊びの設定をしていく。安全面に配慮した工夫をしていくよう。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒ができるようになって、意欲的に遊ぶ姿があった。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児に接した)	ホール全体を見ながら、鉄棒の側に位置付いていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホール全体を見ながら、他の遊具の位置ていた。	鉄棒の位置付いていたが、他にも目を向けれなければならない遊び状況の定、況になってしまった。遊びの組み合わせ、遊具の出す時間帯を考慮する。	危険を防ぐための保育者の援助、配慮、言葉かけをしていく、遊びの組み合わせ、遊具の出す時間帯を考慮する。	
7560	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	19								1	1	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨内顆軟骨不全損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	担任は、４時３０分主動務。４時３０分からは、補助の常勤保育者がしていた。	事故防止マニュアル整備をし周知を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	本児が転倒した水床の一部が道前の材を張った所であった。	転倒時、床はたりやすい状態ではなかったが、水道前でびの設定には、注意する。	1. 集団活動中・見あり守り	当園は幼児から６月まで８月までクラスからクラスに移行している。ござの上での遊びはせったを裸足となるため、脱ぐ動作がある。ござを敷くさを場所、通路確保が不十分であった。	危険箇所間で把握し、遊びやすいスペースを確保する環境設定する。	1. いつもどおりの様子であった	片付けまいつもの様子であった。転倒時、両手に玩両手を持ちながらいて立っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	担当保育士は全体をみていたが、片付け中の転倒の瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内にある保育士室で保育記録業務をていた。	担当保育士の見守りが不十分であった。日頃から職員間で声掛け、情報共有が十分でなかった。	活動中の予想される危険な要因を再認識しながら見守りをする。	
7561	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35	1	4	8	3	10	9		12	9	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	夕方の遊びは思遊び具遊は危ないかもけは良いと思っていました。	毎日の夕方の職員配置票がありますが、その日の園児数で児クラスからもう１人職員をプラスしたり、種類もっと考慮した遊びの方が良かったと思った。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	園庭全面しを使用していた。	一部分の使用方とし良いまし思いた。	1. 集団活動中・見あり守り	遊びの種類を変え、注意事項を話す。	遊びの種類変え、事前に注意事項を児にわかりやすく伝える。	1. いつもどおりの様子であった	おとなしい、他児にいることが多い	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。遊び死角で見えなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	押す姿をそば状見に行き況を聞いた。	夕方の遊びは危険と思遊い追いかけっこ等は良い思いました。	毎日の夕方の職員配置票がありますが、その日の園児数で未満児クラスから１人職員をプラスしても良かったのかもと思いました。	
7562	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	19								1	1	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折、右橈骨頭部骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2. 基準配置		遊具の正しい使い方を説明する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		遊具の点検を常に行う。	1. 集団活動中・見あり守り		近くにいる他クラスの士力守る保育士も協力して体制を作る。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒に足上かけ座ったが、バランスを崩し転倒し手を地面についた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	保育士も対象時の見様子は見ていたが、少し離れた所にいたため転倒を止めれなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスの保育士も近くで様子を見ていたので、転倒したとき、対象児に近様子を聞いて寄子たいた。		担当保育士は鉄棒のすぐ近くにいるようにする。	
7563	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	20								2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)		2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	1. 基準以上配置	園外保育でのどもきにての士の管理ックがなかった	施設設備安全点検のほか、保育に、保育に時の意識てなかなク項目作っ職員認していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし	1. 集団活動中・見あり守り	該当なし	該当なし	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	散歩の列の先頭と最後尾に一名ずつお職員がお職員、監視していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園外保育のため、職員の他では園内にいた。	該当なし	散歩では子どもが急に走りいよう子どもの位置に配慮して保育士が進む。また、手にものを持ったり、手でつないで走らないよう子ども達に話しをし、保育士も気を付けて見ていく。	
7564	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	17								3	3	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯根破折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 基準以上配置	職員配置の人数は十分だったが、立ち位置や担任同士の連携を図るべきであった。	子どもの動きを予測したり、担任同士の連携を図るために必要がある。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年		子ども達が安全に過ごせるように、園内の怪我がやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。	3. 個人活動中・見あり守り	安全面の約束について、徹底できていなかった。	廊下は走らないこと、生活するルールを守ることや安全に過ごすことと共に、廊下の上に足型を貼った。	1. いつもどおりの様子であった	きっかけは登園し、んのところだった。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	朝の用意をする時間で、子ども達一人一人の様子に合せ援助していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の用意をする時間で、子ども達一人一人の様子に合せ援助していたため、その瞬間の動きを把握できていなかった。	進級し間もない子ども達もまだ生活に慣れていないことを踏まえて配慮する必要があった。	子どもが廊下に出た時には、職員が保育室の付近に立ったり、保育者に出入りしたり、一緒に出たりする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面										ハード面								環境面					人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置																									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】			その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
7565	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									2	1歳	1.男児	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	裂傷(額)	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/1年	1.基準以上配置	転倒しや月齢すい月の動きと予測される危険性について。安全面の配慮に欠けていた。	子どもの動きを予測し、危険個所を保護しておく。職員間での危険個所の確認、保護するなどの安全配慮。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1歳3カ月まだ歩行が安定していない為、転倒することを予測し保育する必要があった。	転倒を予角保護しするものし設置し、また、玩具を歩よ持かいに注意しておく。手を歩よにていく必要があった。	7.その他	職員2人配置ではあるが、片付けや子どもを優先にあたる。排泄の片付けは後にし子どもを優先にあたる。転倒しやすい事も予測しておく。傍について当日の設定に必要な準備を事前にしておくべきだった。	排泄の片付けは後にし子どもを優先にあたる。転倒しやすい事も予測しておく。傍について当日の設定に必要な準備を事前にしておくべきだった。	1.いつもお様子であった	手に玩具をし持っていた時を持って小走りに足がもつれて転倒した。	2.対象児の近く対象児を見ていた	転倒しや為近見て止めることすいくでいためるは難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄後の片付けと園庭へ出る為に保育室へ帽子を取りに職員が1人出ていた為見ていなかった。	排泄の片付け、帽子の準備は事前にしておくこと、転倒しやすい事を把握し保育者がこまめに近くで見てく必要があった。対象児と一緒に片付けや帽子の準備する対考えられた。	保育者が抜けることが座ってあれば玩具を出し、落ち着いてよう遊ごせるような環境を作る方法として考えられた。	
7566	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	12									2	3歳	1.男児	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年	2.基準配置	・2歳児の保育室内で保育をしていたが、数人がテラスに出かけて行ったので、守っていたとこの見ていたところ、縁側までの出かけていった。	・テラスに移動しときに、担任にもついてこの行くようにする。この時間は縁側の方にはいかないようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年			1.集団活動中・見守り	・保育室からテラスに出て、縁側の方にった時から事故が行って起こった。	・保育室と保育室のテラスのみで過ごすようにしていく。	1.いつもお様子であった	・外の方に興味を持っかけて、出かけいった。	3.対象児が離れたところで見ていた	・いつもと通ごろと、通っただろ、ってとの見守っていくて、保育室で思った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	縁側のほうまでは行ったが、落ちる場面は見ていなかった。	・縁側まで行ってしまったこと見守る範囲がすぎた。・小走りをしていったので、バランスを崩してしまったと思われる。	・この時間に過ごす場所は部屋とにしていく。・日頃から、縁側は走らない危険なく通れるように指導していく。	
7567	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	6.午睡中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									1	5歳	1.男児	身長：117.1cm 体重：24.4kg 3月1日天気は晴れ	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.基準以上配置	子どもの瞬間的に起きる事故を予想して、未然に防ぐ対策が不十分だった。	危機管理マニュアル、事故防止マニュアルを活用し保育従事者の安全配慮意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年	下に設置された台の位置や高さ、ボールが飛びやすくなる配置であっ下に乗ったように置た	ボールに設置され台し、飛びたりことよにしたるのないに乗ったようにした	3.個人活動中・見守り	不慮の事故とは言えず、本人が遊びでない事前の注意喚起が必要	本来のボールの遊び方を伝え、大人がきちんと繋がるような遊び方を提示し、全体周知	1.いつもお様子であった	朝に友だちとトラブルがあったが、調等変化なく、いつも通りで過ごした	3.対象児が離れたところで見ていた	本児が遊んでいる所が多く、見守り、保育室で他の子どもと遊びたがる子達をら全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼寝中に他の職員はない	子どもの遊び状況で万が一の予測と配慮必要だった。	危険な遊び操に関する注意喚起、保育士間の申し送り体制の確立	
7568	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19					6	13			2	2	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上B外傷性歯牙脱落	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	事故報告を全職員に回覧し、また、会議で報告し、それぞれ気を保育する意識を持たせていった。	1.定期的に実施	実施頻度(288)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(288)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(288)回/年	—	コーナーの閉じまりと、保育目が届くす隔を、保育者の行きうよる。	1.集団活動中・見あり	しっかりと片付けられているかが職員間で確認していなかった。	片付け場所をしっかりと、子どもたちが約束をしていくことも確認し、職員間でも安全面の再確認をしていく。	1.いつもお様子であった	遊びたい気持ちが出てしまい、足元に置いた縄の存在を忘れていた	2.対象児の近く対象児を見ていた	転倒しや対応。流水です止血。本児を落ちを落ちかせや事務着がら室へ移動。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	周囲の子が動揺しないように声掛け落ちが着かせる。保護者へ歯医者受診の連絡の体制をとりながら本児を対応している職員の補助をする。	別のコーナーに移動する時は、ちゃん片付けを済ませているか保育者の確認不足であった。	縄あそびを含め、玩具全般の取り扱いに注意また、職員間で声掛け合い、安全面を十分考慮し環境を整えていく。	
7569	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13									2	2	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左側 前腕骨折	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	園庭での遊びを終え、室内に誘導している時、監視がしまった。「本児は戻って「声をかけ」は届いていると思った。	主任、リーダー掛け、管理はどうたか返庭ポの危険ポイントは最後まで目ではい、園児の側に伝ずの行って、気せ、安全な場所一緒に誘導しなければならない。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	造山はケ多いあを所でことで行動ガの場所ることを認識する。ものをどけがぐできる。	ボイから離しが要え危険ントを一番ことの考えられ、因ら安全確保した確保に園前にのくから、ずが重要である。	全職員が全体的に目をやり安全面を確保する事。園児の人数や把握し、職員同士声かけあい、個々に対応を行う。	全職員が全体的に目をやり安全面を確保する事。園児の人数や把握し、職員同士声かけあい、個々に対応を行う。	1.いつもお様子であった	活発ではなかったが、一人だけいつだものに造山に向った。	3.対象児から離れたところで見ていた	全体的に手足を洗って室内入る誘導や声掛けをしていた。同時に他園児足りたした補助をした、造山に向かうに対象児をみていたが、個別に声かけを目ていること、離しまった。	2.担当者・対象児の動きを見なった	砂場（逆方向）で園児活動いるに声掛けに、室内誘導している中当職員の声の聞こえから山下ガしまったことにのが遅れた。	お互いに園児を担当してしまった。具体的に声かけこと、声あうことを意った。	常に安全面を確保し、園児から目は離してはいけない、行動を予測することも大切。また、目を離すときは周りに声かけあうこと。	
7570	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	9									2	2	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	早急に事故防止マニュアル作成し、職員間での共有を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	草が長め人工芝の為、走るのには適していた可能性がある。	人工芝で活動の際は裸ではな履くと運動靴着用する。	1.集団活動中・見あり	運動靴ではなく裸足だった、転びやすい可能性がある。	動きが多い活動の場合は運動靴の着用。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	健康面等問題なかったが久しぶりの外活動で、気持ちもぶった	2.対象児の近く対象児を見ていた	コーナーなど、危険ある場所ほか園児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同様にクラス全体の動きを見持っていた。	登園自粛明けの活動のため、子ども達の動きなどに配慮が必要だった。（体力や筋力の低下など）	久しぶりの活動のため子ども達の気持ちを落ち着かせる声掛け等を増やす。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	改善策	施設の安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	他の職員の動き	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位		実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】						具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7571	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15								1	1	5歳	1. 男児	・ギプスでの固定 ・3歳の頃、右腕骨折歴有り	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	事故報告書を記入し、職員で共有している。	怪我や事故があった時はすぐに報告し、処置ができるように連携する。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	施設内外に危険物が無いか、遊ぶ普段から確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	本児が他児をよけられなかった。	普段から前や回りをしっかり見ながら歩行するよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	ドッヂボールに参加する事を喜び、楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は、ドッヂボールの審判として全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ピロティ(地下広場)には担当保育士以外の職員はおらず、施設内に居た。	—	怪我や事故があった時はすぐに報告体制をつくる。	
7572	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	10	6. 午睡中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	13								2	2	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	園庭に4名の保育士がいた。事故が瞬時に起きた間を誰もいなく見ていかった。	危険個所には職員を配置する。タイヤ山からおりおりとは未満児はさせない。		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年			1. 集団活動中・見守りあり	子どもの発達に応じた遊びであったか。	危険な行動をしようとしているすぐに止める。	1. いつもどおりの様子であった	以前もとびおりて捻挫をしたことがあったにかわらず、2回とびおりで2回目で骨折する。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	とびおりたときは、振り向いて他児を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	まごとと付きハウスに近のトラブルに対応した。	保育士に誰かがみでいるのであろうという気持ちがあり、しっかりと見ていなかった。	保育士はお互いに確認をし、持ち場を離れる場合は必ず声をかける。	
7573	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11								2. 5	2	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘内症 橈骨頭軟骨損傷	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置	トイレ誘導の職員配置にする。 トイレ側で見守れる職員配置にする。 トイレ動作手洗い手拭きの流れ一連の着脱洗いの手洗いを職員一人でしていた。	トイレ側で見守れる職員配置にする。 トイレは職員対応とし一人ずつ対応する。 トイレは園児一人ずつ誘導する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	便座の前に洗面台があり便器横からまたがって座っている。手すりがないトイレの身長に高が対め。	足台をおいトイレや座りやすくする。	7. その他	床や便器はぬれていなかった。急がせるような声かけもしていない。	便器の横からでは前かよりなくなら座るよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	自分で便座にまっていてまたがろうとした。	4. 対象児の動きを見ていたか	担任はトイレ以外児を園児のそのいためてみたため場にいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレ動作自立している見守で安定度で園児の手つだ服の着脱をいた。	複数人同時にトイレ誘導しており衣服着脱レ動作手洗い動作一人の職員でみていた。	衣服着脱のトイレ見守で必要に2人つき職員一人一人でトイレ誘導する。	
7574	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	25								2	2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1. 集団活動中・見守りあり	落ち着いて遊べなかったことによるもの	落ち着いて遊ぶよう再度声かけ徹底し、毎回約束事を大切にし、動と静をしっかりとしていく。	3. いつもも活発で活動的でかったを(理由を記載)		2. 対象児の至近で対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の支援をした。		落ち着いて遊ぶよう再度声かけ徹底し、毎回約束事を、動と静を大切にしていく。	
7575	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	28	0	0	0	12	9	7		2	2	4歳	2. 女児	現在の歯(乳歯)については神経に損傷があった可能性があり黒くなってしまっている。このことについては保護者からも了承をいただいているが、今後生え変わる永久歯についても神経に損傷がある可能性があり生え変わりまで経緯観察を要する。	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年			1. 集団活動中・見守りあり	逃げる際の遊具に遊具の狭いスペースをいっとしたため、コントロールがなくそのまま通こったとき転倒する。	遊具等の狭いスペースにはいかないよう事前に声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	年少児にいかけ逃げられていたころ、そのまま前のまに転倒する。	4. 対象児の見ていかった	園児と一緒に遊び緒に遊びながら、一緒に遊んでいた為、見ていかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていかった	園庭で遊んでいる全園児を見守っていたり、登園時の受け入れを行ったり、園児と一緒に遊びことりなった。	衛動動の園に行する児への目配りがなされていかった為、起こってしまう。	保育士間で連携を取り、注意が必要な園児への目配りを更に徹底を更に今後は行っていく。また、保育士は、園見渡せる立ち位置を更に意識していく。	
7576	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55	5	4	10	13	12	11		9	9	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置	登園後の遊び時間帯自由の時間で、それぞれが好きな場所で遊んでおり、危険な行動や危険な危険の甘くなった。	想定される危険行動を職員共有し、近くで遊んでいるものしっかり見合い、危険を予知をし安全で予知を全に守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ブランコ地周辺の面へ	朝の庭掃除の際は凹凸がないよう整地をする。	1. 集団活動中・見守りあり	ブランコをこい、勢いをつけてジャンプし降ることより、ランスを崩れ転倒につながった。	ブランコから降りるときは、必ずブランコが静止してから降ることが、ブランコに供達に知らせる。	1. いつもどおりの様子であった	友達とまごとブランコを交代で遊んでいた。	3. 対象児で離れたところで対象児を見ていた	担任は園庭の見渡せる場所で製作活動をしていた。しかし、事故の瞬間は見ていない。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くの砂場で異年齢のこどもとの相手をし、ブランコの交代を促したり、危険のないように見守りしたりしていたが、いかをとるのは、瞬間がったり、泣いたりことかった。	近くに保育士はいがブランコのところにいかなった。	ブランコをはいすときは危険のないようしっかり見守りできる職員がいるときの人設置する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7577	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60			23	14	23				5	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	本児の行動をしっかり把握し、遊んでいる時の特別の対応が必要だった。	ヒヤリハット等を活用し職員間で共有を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	低年齢児高齢者の低い台で滑り台はあるが、年齢が高い子が滑り遊ぶ時は職員も配置することが必要だった。	遊具の安全な使いかたについて、子どもといっしょに再確認する。	3. 個人活動中・見守り	新年度のはじめ、いつも以上に気をつけておくことが必要だった。	いつもとは違う、新年度での子どもの行動を予測し、職員間の連携を図る。	1. いつもどおりの様子であった	登園して離れたばかりの時間で、友達一緒にしゃべったり遊ぶことが嬉しそうであった。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象児が滑り下で見ていた台の上で、台の上で対象児が、台の上で対象児が腕をぶつけた瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の園児の遊んでいる近くで子どもの安全を見守っていた。	滑り台昇降口、滑り下りてくる位置に職員いなかったので危険な行為を止めることができなかった。	滑り台で子どもが安全に遊ぶための見守る位置を再確認し、職員全体で情報の共有を図り事故防止に努める。	
7578	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13			6	3	4				2	3歳	1. 男児	・当日の本児の体調はいつもと変わらず安定していた。	8. その他	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	左側頭部挫創	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1. 基準以上配置	・ヒヤリハットや事故報告の資料を基に、職員がまで程を分析する。	・保育士同士の声かけや、発達に応じて付き添う。また、クラスで階段の上り下り時の危険について話をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	・普段の中で保育の際予知し、小さなことから記録として研修につなげる。	・保育士同士の声かけや、発達に応じて付き添う。また、クラスで階段の上り下り時の危険について話をする。	1. 集団活動中・見守り	・子どもたちの持ちがたかぶると行動が大きくなることが予想されるので、落ち着かせて行動できるようにする。	・階段の手すりを握り、ゆっくり一段ずつ歩くことを日々伝えていく。また大人が見本を見せていく	1. いつもどおりの様子であった	・普段と変わらず元気だった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・他児の洗いながら、上段がって姿を見守り、本児の先にが姿をいるみえた。見守るが他児はおしゃべりしながら上っていくのが見えた。	・ほかの他の職員も手を繋ぎ階段を上っていた。階段でつまずいたのだため、一瞬の助けがあるできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・普段変わないので危険を予知することが大切である	・危険予知は日ごろの研修等でもしてい年度初めに子どもたちが進び級したあることを踏まえ意識する。	
7579	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25			12		13				2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 基準以上配置		マニュアルを再確認し、事故防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		引き続き施設や遊具等の安全管理に努める。	3. 個人活動中・見守り	戸外には２クラス人数的にはそれ程多くはないが見守りできた。	今後一層、園児の見守りの強化に努める。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	５歳児担任が休みで代替職員として少しはずしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	代替の５歳児担当本児の対すべき手段は本対応が乱れないよう注意は促していた。	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３歳児担当は他児の見守りを任離れた場所で２人の動きになった。	本児(５歳児)が遊び児の加えて、他児(３歳児)がふざけ半分で発的に突突にを押してしまった。	園児の使い指導をしっかり行う。安全に遊ぶ気になる危険な行動がみられた場合は、近くで見守り注意を行い、安全に遊ぶよう指導する。代替職員の場合について、他職員との協力体制をとっていく。	
7580	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	84	1	12	20	20	19	12			15	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	児童の各箇所での動きの想定がもっと必要であった。、危険が伴うへの言葉がけが必要であった。	園庭での始遊びる前に、注意が必要な場所や動きの確認がやすいよう徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	固定遊具のある場所での児童の動きの予測をの予測を立てる。	固定遊具のある場所での児童の動きの予測をの予測を立てる。	1. 集団活動中・見守り	ジャングルジムの狭い間の場所を走って通よりぬけとしたため。	遊ぶ場所には、危険が伴わないか、安全確認に努める。	1. いつもどおりの様子であった	走って後ろから、特に痛みを訴えてくることはなかったが、追いかけごっこを途中でやめた。	2. 対象児で対象児を見ていた	走って転んだ際、「大丈夫？」の保育士の声掛けに「大丈夫」と返事し、特に痛がるような様子もなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他児に対応していたため、見てなかった。	見守り体制危険と安全の意識	多方面で活動する子ども全体の動きが確認できるよう、保育士の見守り、一位置や、一人一人の子どもの行動が把握できるよう保育士間の連携を図る	
7581	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21	0	8	13	0	0	0	0		4	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置	室内で、靴下を履いた遊んで、滑りやすかった。	室内では、靴下を脱ぎ、滑らないようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	靴下を履いていると、滑りやすいことがある。	室内では脱ぎ、靴下を滑らないようにする。	1. 集団活動中・見守り	走ってはいけないが、靴下を履いていて、滑りやすかった。	靴下を室内では必ずぬぐようにし、滑らないようにする。	2. いつもと元気がなかった(理由を記載)	普段と変わらない様子で友達と一緒に遊ぶ様子が見られた。	4. 対象児を見ていなかった	子どもたちと関わりながら見守っていて、転倒後に付き、対応をした。	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	お迎えしている保育者は、他の保育者は、全体が見えるようそれぞれ配置し、子どもたちと関わりながら見ていた。	気の緩みやすい時間帯	安全な環境を整え、子どもたちを見守る。	
7582	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	27						27			4	6歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	子ども同士の接触をできる限り少なくなるよう工夫をだくくなる	ケガ等に配慮した人数の運動遊びと見守る位置の確認	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		使用前の点検事前の点検	1. 集団活動中・見守り		自分の安全とともに友達にの安全にも心がけるの中でもしケガをしたときのケガとした報告をする習慣付けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	足を踏まれた方も跳び箱遊びしている。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	足を踏まれた時は、園児は痛がらなかった。	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	足を踏まれたことは気づかなかった。	園児により近い場所での見守りとケガ防止の指導	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
								発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面								環境面			人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7583	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27						27			2	2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子ども同士の衝突でけが少なくなるような工夫だけでなく、一緒に保育士が見守る位置の確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		使用前の点検 事前の点検	1.集団活動中・見守り		自分の安全とともに友達の安全にお互いに気をつけるようにする。けがをしたときの報告の仕方を習慣付ける。	1.いつもおお様子であった。	いつも通り元気に走り回っていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	2人が衝突したことに気づき、2人とも、様子を尋ね、冷やすなどの処置を行う。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	衝突したことに気づき、様子を尋ねる。他の園児も同様なことならないように注意を喚起する。		園児により近い場所での見守りとけが防止の指導	
7584	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				11	9	12			3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員配置を充分満いたので、改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ホッピングの劣化等による事故では なく、改善策はなし。	3.個人活動中・見守り		ホッピングなどの遊具を使った遊びは、遊ぶ場所を決めるなどして安全に配慮する	1.いつもおりの様子であった	ホッピングで遊んでいる歳児の子をまって見ていた	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	園庭全体が把握できる場所で、子どもの見て、もたちの遊びを見守り、転んだ瞬間に本児に駆け寄る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内の園児他の遊びを見守る。事故には気にすぐに。		職員の危険予測に繋がるように、今回の事故を職員で共有する。	
7585	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16						16			4	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨・腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	前回，川際子体遊びの際に親子で実験で遊んでいたが，園児で川際に再見し，園児で川際に再見していた。当該園児は休みでその為，園児で川際に再見し，園児で遊びを実施した。	前回休んでいた事園テンはていたりあり，以上がっていたり，以上がっも児ションは動きが着いションつもの動きが着いおりつもの動きが着いおりつもの動きが着いおり

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面								ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7589	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10	1	7	2						3	3	1歳	2. 女児	無	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	研修等を充実し、個人の意識を高める。	その都度確認しているヒヤリハット、けが（事故）報告を職員会議などで再確認し、判断力・行動力・連携の意識を高め職員の資質を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		滑りやすくならないよう細目に環境を整え、滑りにくい素材も考える。	3. 個人活動中・見守り	声を掛け合い、常に子どもの動きを把握する。	片付けの際には、職員も一緒に行動する。	1. いつもおりの様子であった	保育士にも読らった絵本を片付けた。	2. 対象児の近で対象児見ていた	仰向けにだのすぐに頭を確認したが、足を痛がった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ所ていを見たので、頭を守ったが、痛がる足を確認した。腫れ、打ち身はなかった。	子どもを見守ると共に安全への気を配る。	転びそうになったら手を差し伸べる等行動に移し、怪我を防ぎ、痛みが軽減できるようにする。	
7590	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	1									1	1	4歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	担任保育士が週休で、代替保育士の保育に携わった。	これまでも、チーム間で話し合いを持ち個別対応やクラスで保育について理解・共有していたが、一層の強化を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	片付けの箱はダンボールで作られ、何度か重ねたため角が硬くなっていた。	角に軟らかい素材や物を、クッションあるようにした。	7. その他	特になし	特になし	3. いつもより活発・活動的であった	保護者のお迎え前で気分が高揚していたと思われる。	2. 対象児の近で対象児見ていた	全園児が見える場所に位置していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	いなかった	特になし	特になし	
7591	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20									3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		職員全員が危機意識を高めていけるよう研修を深めていきたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年		職員間で意識統一を図り、危険個所を見逃すなど努めることのないよう努めたい。	3. 個人活動中・見守り		赤土山は、乾燥すると滑りやすくなるため、その上を走らないよう子ども達に伝え、事故や怪我のないよう気を付けていきたい。	1. いつもおりの様子であった	9：00過ぎから運動場に出て遊んでいた。普段と変わった様子はなかった。	2. 対象児の近で対象児見ていた	5歳児クラスでは、朝の支度の終わった子から順次出て外に出て遊んでいた。クラス担任と加配保育士1名は、運動場に出ての様子を見守ったり一緒に遊んだりしていた。また、加配保育士1名は、保育室で、朝の支度をしている子の見守りを行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で自分の子で担当ども達の受け入れをしたり朝見守ったりしていた。		担任をしているこどものみならず、全職員で全園児の安全を見守ろうと連携をとるとともに、危険個所については全職員で共通理解していきたい。	
7592	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	32									2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折（足指）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	本児が痛がらないかと、特にはなけがはないと考えず、処置をした。	子どもが痛がっていなくても患部の状態を確認し、変化に気づくべきだった。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	足の洗い場が狭く、足洗い用の設備状況	今のホーが長めたため、引っかかり足掛かることが要因のであり、安全に改善する。	1. 集団活動中・見守り	足洗い場が狭く、子どもが、たちもたちが密集してしまうので子どもいる。	今後は、もう一箇所の足洗い場を使用し、分散して流うようにする。	1. いつもおりの様子であった	保護者引渡し時は少し方に変化があった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児の様子を安全に見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		降園時少し方に変化があった。その事を問題視するべきだった。	朝の状態と変化がないか確認する。	
7593	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	20									2	2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘関節部分骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	事故発生時において、「転倒して骨折する」という事態を想定できず、子どもたちの性の「遊び」を遅ばせていた。	安全管理マニュアルの改訂（ポール遊びの危険性について付記）	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室内で、「跳び箱」「鉄棒」「ポール」を設定中であった。担任保育士2名は、跳び鉄棒箱の安全見守りを実施しながら室内を監視していた。	遊び環境多様性を可能な限り排除する。	3. 個人活動中・見守り		可能な限り、見守り保育士数を増員する。	1. いつもおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	より危険性が高い近性遊具の近で安全くを見守り、本児の遊びは遠方よりていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内には、他のクラス児童・担任はいなかった。	保育士は「こどは遊びの方によって転倒し、骨折するかもしれない」という通し予測を持っていなかった。	遊具をあそびの環境として与える場合の、児童に対する「安全な使い方」のレクチャーのマニュアル化とその実施の徹底	
7594	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	32				13	11	8			3	3	5歳	2. 女児	天候　曇り	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 基準以上配置	子どもの予測行動を、突然の事故に防ぐ、未然保育力の強化	KYT研修、4S活動（整理・整頓・清掃・清潔）など、職員の意識を高め、安全・安心を図る。	1. 定期的に実施	12回/年	1. 定期的に実施	約50回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	対象児は、3歳児の時に、手を挟みに、ドアを置いていた指のめに用した。受診ことも。排泄立など含め、動みがある。自ても行、先読さの弱さ	対象児の危険回避が、しい面を、保育者が予測し、細やかな声掛けを行い支援する。	1. いつもおりの様子であった	土曜日保育利用が少なく、かつ当日のお迎えが早い事から、いつもより持ちが高揚した。	2. 対象児の近で対象児見ていた	話し声を聞いており、保育室から廊下へ向かっていることを確認していたが、行動は凝視してはいない。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児者と保育者との距離は、約3mであった。	年に2回実施しているテストにおいて、筋力・バランス能力が非常に弱い面が数値化され、保護者も危惧していた。	体幹など、運動能力をアップできる活動を、保育の中でも取り組む。保育者一人一人の意識が資質につながり、その保育の質の向上により、子どもの安全が補完されているという図式を保育者が目にする場所に掲示する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
								発生時の体制																		ソフト面					ハード面								環境面				人的面											
									人数	異年齢構成の場合の内訳																																													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7595	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10					10			1	1	5歳	2.女児	特記なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		剥離骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.基準配置	特になし	問題はないと考えられるが、再度マニュアル等確認をして事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床面に突起や段差などなく、特にハード面での要因は無し。	ハード面に問題はないと考える。今後も点検等を丁寧に行っていきたい	1.集団活動中・見守り	特になし	各部屋の年齢構成数、活動内容などを担当保育士と話し合って共有していく	1.いつもどおりの様子であった	ボールを使って一人でつくなどして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室の入り口付近から全体を見える位置に立った。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員は隣の机上で遊びの子どもを見たり、お迎えの保護者の対応をしていた。	足元に予期せずボールが転がってきた為、よけることが難しかったと推測される。	日頃から運動させる遊びの工夫や、様々な体験を積極的に取り入れて感覚的な発達も目指す。	
7596	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9					9			2	2	5歳	2.女児	左目（遠視・弱視・外斜視）右目（近視・乱視）　眼鏡使用（平成30年5月～）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3~4)回/年	2.基準配置	特になし	問題はないと考えられるが、再度マニュアル等確認をして事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床面に突起や段差などなく、特にハード面での要因は無し。	ハード面に問題はないと考える。今後も点検等を丁寧に行っていきたい	1.集団活動中・見守り	教育研究所の職員3名が発達支援児の様子を見に来ていた。	部屋の広さに対しての活動内容等を担任保育士間で共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽ取ゲームで走って逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゲームの進行をしていた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの様子が見位置に立っていた。	本児が逃げることに夢中になり興奮しやすい状況の把握が難しかった。	興奮しやすいゲームは屋外で実施、または少人数で行う。	
7597	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12								2	2	2歳	2.女児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	年度当初、新職員も含めて全員で事故対応マニュアル、安全チェックリストの内容等を確認する。園外の事故予防研修に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	ホール内で走ってときいている何もない所で突然転んだ。施設・設備に関しては特別改善はない。	1.集団活動中・見守り	特になし	身体は大きい方がスマートなスピードをムーズに欠けるのでスピードを抑えた行動を至近距離で見守るべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	後ろから追いかけてくる保育士をよりより返った時足が絡まり転んだ。	2.対象至近児の対象児を見ていた	何もない所で突然転んだので止めることはできなかった。対象児は頬をさえていた。児は押泣いた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭で転ぶを見た。	午前の保育活動としては、リズム遊びのあと、続けておいかけ遊びをしたので時間が長すぎた。	保育活動の前に必ずタイムスケジュールを確認する。	
7598	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38			11	13	14			4	4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨部の骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	園全体ではマニュアルで周知し園児の報告を忘れず行うことが、対応場だけがその職員判断になってしまい、上司告の報告が漏れてしまった。	どんなに小さな事でも必ず上司への報告をうえ、どんなささいなことでも必ずすべての対応や判断ならないよう、マニュアルを周知した上で園児の安全確認をするように。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒に繋がるよう凸凹は無当日は無かった。	遊園地庭の必要な凹凸は無いこれも定期的に安全確認を行う。	1.集団活動中・見守り	園庭での遊びのルールを根気よく子どもに伝えていく。ごっこ遊びの際は通常の鬼ごっこの鬼の動きでは無いにが捕まえる考え方を使って走る子ども達に意識をしている。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしている際に逃げ、中庭に山に駆けから下りたにふもと転ぶ。	4.対象動児の見ていなかった	転倒瞬間は目撃できなかったが、直後に気が付いて駆けて駆け寄り対応した。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	1名は他の保育士と援助の子どもを見ていた。2名は排泄の際に手つき、トイレに出かけ、保育士間で伝達を行った。	保育士1名は、園庭全体の遊びを把握し、他の職員はそれぞれ危険と思われる遊び場所に動くようにしていたが、子ども達が遊び場所に集まってしまった。	目の前の子ども達との関わりだけにならないように、一人ひとりの保育士が意識して自分の責任範囲を広げ、安全に遊びが展開される様に見守りをする。また、子どもの達の遊びの危険予測も徹底し、保育士間でも危険個所、危険予測の声掛けを行っていく。	
7599	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			4	4	9			1	1	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(3～5)回/年	1.基準以上配置	遊びを設定するマニュアルで職員が持ち場を離れる際の内容が不足していた。	職員交代の際、職員のわりまで持ち場を離れないようにマニュアルに盛り込んだ。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度/毎日	なし	危険はハード面なし での改善策なし	1.集団活動中・見ありり	進級して初めて使う遊具だったので、子どもが戸板の周知が徹底されていなかった。	4月は、新職員もいること、職員が入ることから、子どもに向けて戸板の方を前に伝えていく。子ども達に遊び方を周知してから遊び始める。	1.いつもどおりの子であった	他のお部屋での遊びを終えて、サーキット遊びをしたが、保育士が離れた間に戸板についた	4.対象動児の見ていなかった	常時戸板の介助についたが、事故発生時サーキットの中のもトラブルに対応した事中に対応した対象児の動きを見ていなかった。	2.担当者・象児の動きを見なかった	他児の対応や職員の入れ替えの時間で伝達を行ったため、ホール内には、いなく対象児の動きを見ていなかった。	9：30で担任が揃う時間帯の為、職員の動きが繁雑だった	・戸板の介助の場から保育士が離れるときは、子どもだけで遊具を使用しないよう、待ってもらう声掛けを徹底し、マットをたてかける等して目視でも使用できないことがわかるようにする。 ・伝達等は部屋・ホール全体を見渡せる場所で実施することとし、手短に行う。 ・子どもの対応等により、部屋を飛び出してしまった子への対応や、排泄失敗の子への対応等で一時的に保育士が手薄になる場合は、職員室にヘルプを出す。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面				人的面										
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	4歳以上5歳以下	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検実施頻度【回/年】		遊具の安全点検実施頻度【回/年】		玩具の安全点検実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7600	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	2	3	4	4	4	0	3	3	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるものにもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年	2.基準配置	遊びに夢中になった一心で捕まえ中に無理やり加減せずに押しまっ	普段の生活場面でも明いたり、押したり、キックないに注意しないに起をかけ	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	早帰りが多く、いつも出ていない、1歳児が出ていることで、小さい子に目がいっていた。	おしっこの失敗や、保護者のお迎え時の対応の職員に対応を任せる。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで遊んでいた。	4.対象の動き児のできていなかった	お迎え時の保護者対応と保育士の連絡で、目を離した。	2.担当者・象児のできていなかった	1歳児を見ていた。	戸外にとときには必ず3人いっぺんに保育士が出る。	夕方の戸外遊びは子どもをしっかり見るため、0、1歳児は戸外に出ずに室内で遊ぶ。	
7601	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1								1	1	5歳	2.女児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保護者へ引き渡し時に油断せず保護者任せにした。	保護者どもを渡しきり後も油断せずしっかり保せしないことを職員にこと周知した。子ども達にが時は必ずかに準備することや靴を履いまま走らないこと下を履いたらないことの約束をした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	転倒した所ホールには破損個所や滑りやすい所はなかった。	ホールには破損個所がなく、特に滑りやすい箇所もなかったので改善点はなかった。	7.その他	ホールは、靴下をはいたままだとすべりやすく滑りく転びやすくなる。	送迎時には靴下を履いたままで走らないなど、子どもの行動に気付け滑りやすい事に気をつけるよう保護者にも声かけをし注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	保護者のお迎え喜び、興奮状態になり靴下のままおまわりる。	3.対象から離れたこで対象児をいた	保護者へ引き渡したが靴本人は離れた下走ったのに気付かない声をかける。	2.担当者・象児のできていなかった	4歳児クラス、入象児を見ていなかった。	本児に靴下を履いたまま走ったら危ないこと声がけのだった。	保護者と保育士が危ないと声をかけていたが実際に手で落ち着かせる対応などが必要だった。後日子ども達に保護者の迎え時はすぐに準備帰りをし更にホールは靴下を履いたまま走らないことを約束する。	
7602	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	25			3	8	4	10		2	2	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折疑い、脳震盪	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	固定遊具から離れる機意識がて薄れていた。	園外の公園で鉄棒をる必ずが付き、離れる時は一度使用を止め他の遊ぶずるこ子は、人ばをえるに人では遊事伝と職員周知する全周	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用前後)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(使用前後)回/年	公園では使用前に問題がないが、特に問題はなかった。	公園では使用前に遊具に問題がないか確認して遊ぶようにする。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒下の地面は、芝生もなく、固硬いであった。	公園に行く際、鉄棒の下に敷くマットを持っていき、方にかない他の迷惑のから範囲で使用する。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の近くで、鬼ごっこをしながら、鉄棒にぶ落ちていたり遊んだ。禁止ていた高い方の鉄棒で遊ぼうとしたりしたので声を掛けた。	4.対象の動き児のできていなかった	保育士は、もう1名の保育士にケガの処置について聞かれ一度鉄棒から離れ3.5mほど離れた至近距離で、そちらに気を取られ瞬間に落下し目を離した。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	転んでを打り膝を擦り、園内の怪我児の処理をしていたむれなかった。	本児は鬼ごっこをすると、時々鉄棒の所に来ていたが、座ろうとした方の（禁止していた）で遊ぼうとする姿があり、その場を離れる時点まで何度も同じように声を掛けていた。その場を離れる瞬間には本児はいなかったが後に戻ってしまったようだ。	日頃から鉄棒には座らない事、高い方の鉄棒は使わない事、鉄棒は必ず大人と一緒の時だけ遊ぶ事の約束事を話し保育士が遊具から離れる場合は範囲を定めて、鉄棒は使わず他の物で遊ぶよう子どもを移動させる。又、その場に子どもがいない場合にも声をかけ知らせる。必ず1名は全体を見ようにする職員に周知する。	
7603	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	66	0	0	17	16	16	17	0	4	4	2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上切歯完全脱臼再植術	2.自ら転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊戯室内の目印枠線のラインをテープで貼ったが、そのラインがだしにくいときにはみたした。園児がすぐに制止することが遅れたため。	遊戯室のラインをはさんで枠線をはさんで出ないよう徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	当該児がブロックで作ったり、せて、しまいわぬこと。	今後は動きが出ることが遊びつき、児ではに注意し、保育士がそばにつき、遊ばせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	自分で作ったものを、ちょっとあげて、工夫して出すものを使って、工夫して出すこと。	子どもたちの創造性を見出すことなので作り上げたものに、遊びの中で大切な子どもの予測し、保育士が重点的に見守るようにする。	3.いつもと活発であった(理由記載)	いつもは約束を守り座動いたり、ロックびで出ずに出ないで最初は自分をせるが立ちがってこに向にその車をせた。	2.対象室児の近で対象児見た	園児とはメートル離れた場所で、ステージ側の園児を重点的に守ったり、ステージ方向に園児の動きを見つけ、寄り止めと間になった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当職員に、事付き、近くに気付き、職員1名と担当該園児の対応（園児への応急処置、認、保護者への連絡）にあたった。	遊戯室の目印枠線は出さないルールの徹底がなされていなかった。	今後はさらに園児の安全管理（遊びのルールの順守）を徹底し、適切な声掛けを行う。	
7604	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52	0	0	9	15	12	16	0	6	6	5歳	2.女児	昨年も一度園児が在園の際に園庭で転倒し足首を捻挫している。	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	事故防止に必要な環境を見直して性をごした。	未然に防ぐ必要過ぎる見直しを	1.定期的に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	園庭に出る前の安全確認のが全確認なった。見足りかった。	職員間でなぜ怪我が起きたかが整理し、安全遊ぶ環境を整えるため合行った。環境えるの話いをした。	1.集団活動中・見守りあり	土の斜面が踏み固められ、急に斜面になって土が滑り状態やすいになっていた。	土を削って段差を作り、階段状にしてくいにした。また、土が乾いている水して湿ったり、固まり合に必要じて掘りしくうした。	3.いつもと活発であった(理由記載)	友だちとこ園でいるごっこして鬼を庭回った。	3.対象から離れて児ていた	玄関についたが保育士見やが、た場所にめたが、ぐことができなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	それぞれが保育士つくるが所ついて、ておりの玄関前にいた保育士のみが対象児を見ていた。	事故発生時は腫れなど見れず歩行や活動も出ていた、病院の受診は行わず保護者がお迎えにきてから伝える手段をとってしまった。	足首を捻った可能性のある子は看護師に状態を診せてから病院受診の判断をするようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7605	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10	0	0	2	2	4	2	0		4		4	4歳	2. 女児	4月17日・24日受診し経過を見る。5月8日完治。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1. 基準以上配置	特になし	子ども達全体を把握できる位置に職員を配置する	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	クランクを使う際の配慮・危険箇所の確認が足りなかった。	予想されるの考え方が危険かを把握する。	1. 集団活動中・見守り	いつもと変わらない遊び方だため、保育士の油断があった。	保育士一人が遊んでいるもの状況を把握する。	1. いつもお様子もりの子であった	いつもと変わらない遊び方だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にいた別の子ども達が遊んだり、守ったの対象児の動きは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室にいた別の子ども達だと遊んだ、見ていて対象児の動きは見ていなかった。	年長児が降り、遊んでいる姿を見ていたので年少児も跳びで遊ぶようになっていた。	年長児も含め、遊具の使い方（跳び降りること）を指導した。	
7606	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	38	2	5	9	7	6	9			5		4	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	小児創傷(7針縫合)	2. 自らの転倒・衝よによるもの	2. なし	2. 不期に定実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	遊戯室にいた移動直後だった児が本カバンをテーブルに置いて、ロックを持ち戻ってきて、四つんなったのそばに戻ってこうに声をかけたが再びかけたところの目でバランスを崩した。	ステージには上がらないように徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	普段から四つん這いの体勢を好み、一度体勢をとると、少なくとも崩れることもないので、場はもたのその急い正しなかった。	ステージは遊ぶ場所ていこと園児意識づけ、目を行き届かせるとともに都度注意をする。	1. 集団活動中・見守り	朝の受け入れが活発な時間帯だったので、泣いて四つん這いになった児へのけをしにしまった。	無理な体勢や危険な体勢をしているときは速やかに修正する。	1. いつもお様子もりの子であった	普段から四つん這いの体勢をとり、一度その体勢になったら気が済むまで4、5分ほど、そのままでいることが多い。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児を含め、園児のカバンの片付けや手伝いやステージ付近に園児たちを重点的に守った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場所に担任が保育士が即座に異変に気付き、連やかに3名程で手分けし園児への応急処置、保護者への連絡を行った。	ステージには上がらないように徹底していなかった。	今後はさらに園児の安全管理（ルールの順守）を徹底し、適切な声掛けを行う。	
7607	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	34									7		6	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨端線損傷基節骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不期に定実施	実施頻度(２)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもお様子もりの子であった	机上でパズルをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	1人で静かに遊んでいた為、少し離れた所から本児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士は他の遊びを見守ったり、食後の片付け排泄、服を着替えた子ども達の着替えを手伝った為、本児の様子に気付かなかった。	本児の足が椅子の脚に踏まれている状態になっていたことに気付かなかった。	食事後の片付け中には、保育士がテーブルに付いて見守れない為、机上遊びは行わないようにする。	
7608	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	14	3	5	3	1	1	1			14		13	3歳	1. 男児		6. 水遊び・プール活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	子どもを移動させること一人で及びがない保育士かつ状況で移動させていたこと	翌日から、複数の子どもを保育士が引率し移動する方法に変更済み	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	プールと保育所の砂場間に砂場があり、場所が離れていて歩行距離が長くなる。そのためもてことのどっしまうもあるる。	施設の配置は変えないので、ソフト面で対応する。	1. 集団活動中・見守り	短い距離ではあるが、子どもを単独で歩行させていたこと。	保育士が子複数の子どもを引率し移動する	1. いつもお様子もりの子であった	移動経路のマット上を小走りで移動していることを、離れた場所で作業中で保育士が視認した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故時は、3人の保育士を配置していたが、当該児は一番最後にプールを出て移動中であり、一番近くにいた保育士は当該児が出たのを確認し、他の業務を行うために移動していることもあり、保育士の視野から外れていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士も着替えや室内子対にいるどもを対して当応おり、当該児は視野から外れていた。	全ての子どもを保育視中士の視野の中に入れていなかった。	必ず、保育士の視野の中で活動させる。	
7609	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	67	0	0	15	19	16	17			11		9	2歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	・左股関節捻挫 ・左脛骨遠位端若木骨折	2. 自らの転倒・衝よによるもの	1. あり	2. 不期に定実施	実施頻度(６)回/年	2. 基準配置	斜面にすら砂とすうと乾いたあるやすと滑りくいるなる不足だっう認識が	自然現象により、園庭の状化が変化していることを再認識し、安全点検をしつかり行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(48)回/年	強風が続いたことで斜面に砂がありやすくなっていることを見ていた。	転倒するあ恐れ箇所があり、保育士は自身危機管理前に声掛けすることも認識をしっかり持ってもらう。	1. 集団活動中・見守り	斜面は転倒のあることから特に注意深くく見守る必要があった。	斜面が滑りやすくなっている時にはスコップで掘りこしらない工夫をする。	1. いつもお様子もりの子であった	ままごとコーナーで土あそびをしていたが、一旦砂場道具を片付けて皆の所にまろうとしていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	皆が集まっている事を伝え、本児と一緒に玩具の片づけを行った後に手を差し伸べた、本児が立ったが不安に足を取られた状態となった為防ぎ切れなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の合同異年齢で園庭遊びを行っていたが、次に移る為に集まりお集をとる状態で、他10人の保育士はそれぞれ本児以外の子どもたちについていた。	特になし。	安全点検を行う際、斜面にも目を配り、状況を確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									発生時の体制																		ソフト面								ハード面							環境面				人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7610	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		0	3	3	4	5	0		3	3歳	2.女児	なし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨々折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	1.基準以上配置	危険な場面がなかったため、予測できなかった。	合同保育中や組の活動等、様々な場面でできない事故がこと員間で周知し、職員の配置・見方を再度確認し、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	床やマットに破損箇所がなかった。	改善すべき点がなかった。	1.集団活動中・見守り	なし。	滑り込んで座らない。静かに落ちに着いて座る園こと児に指導が今後も周知していく。	1.いつもどおりの様子であった	足の痛みについては、保育士には伝えていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	各遊びのコーナーと全体の様子をみたがしたが、ケガをした瞬間はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各遊びのコーナーと全体のみたがしたが、ケガをした瞬間はみていなかった。	園児が痛みなどの申し出がかったこと、段とおりい様子だったため、ケガをしたことに付けなかった。	普変なケガをしたときや痛みがあるときは、そばにいる大人にいる伝えることを指導する。	
7611	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									3	2	5歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	事前のコース確認不足が考えられる。	事前確認及び、危険箇所の共有を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	転倒箇所には路面状況等の小障石等の害は特に無かった。	なし	1.集団活動中・見守り	運動会の初日の長い距離を走ることに慣れない状況であった。また、転倒後、後方が覆いかぶさる状態で園児と接触があった。	距離を走させる際には、距離を段階的に増やすなどの配慮をするようにする。また際には、園児同士の間隔を空けることを周知及び徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	気分が高揚している等の変わった様子は特に無かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該園児の前方のと離れたところで他児とともに並走していたため見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該園児の後方でとと他児と並走ながらもしに様子を見ていた(後方の保育士)当該園児の前方で走行の様子を見ていた(園長)	要所で園様確認児の子を見ていた。	担当の保育士はそれぞれ前方・後方の確認様子を合い、必要の疲労度に応じて声もや様子に掛けをしたり、ペースを落とす等の配慮をする。	
7612	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0		3	3	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	1.基準以上配置	特になし	重大事故につながらないようにするために、毎月の職員会議(研修会)においてヒヤリハットを確認し、職員の意識付けを図る。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	戸が完全にないようにするストッパーがなかった。	ストッパーを用意する。	7.その他	保育室ベランダの戸の近くに保育士がいなかった。	戸の開閉は保育士が戸のそばに立ち、目配りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	児童の健康状態はいつもと変わらず、活動等に特異な点は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内の職員は、対象児童から離れたところで、他児が屋外(園庭)へ出るための誘導を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていた職員は、園庭にいる児童を見守っていた。	特になし	特になし	
7613	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30	0	0	0	13	7	10	0		2	2	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	なし	今後も、ヒヤリハット等を活用し、事故予防に関修する研修を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	地面が滑りやすかったり、つまずいたりする凹凸はなかった。	使用前には、地面に凹凸がないかなどの点検、環境整備を継続して行っていく。	1.集団活動中・見守り	なし	保育状況に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り戸外遊びを楽しんでいたが、日頃から転び、やすく、遊び中に危険を回避できない姿があった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	4、5歳児10名で鬼ごっこを楽しむ見ていた。本児が転倒することはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当遊びの場遊びり砂の見ていた、離れたところで、ためめ転倒防止かった。	本児は、逃げることに夢中になり、周りが見えなくなっていた。	本児の遊び様子を把握し、危険が予測される場合は声をかけていく。	
7614	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		4	6						3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		事故防止マニュアルの見直し・改善を行う。研修の充実、リスク管理についての意識や情報の共有を強化する。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	床から３０ｃｍ程の高さの壁面に段差があり、転倒時に打ったとされる。	普段から、子どもたちには、屋内では指示を行ったり、事故や怪我の起りやすい場所を教え、注意をうながす。また、活動を行う際には、子どもの動きを予測し、事故やケガを予測し、事故の原因を職員で確認し、安全面に配慮しながら活動を行う。	1.集団活動中・見守り	床に新聞紙が散乱していた。	床の上にある物があることによって、子どもが躓いたり、転倒した事を予測した上で、活動の内容を工夫し、安全面に配慮した活動を行う。	3.いつもより活発で活動的であった		1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	周囲にも気を配りながら、子ども達を見ていた。				それぞれの保育士が、子どもと関わりや、新聞紙等での作業で目線が下がり、視野が狭くなっており、全体を見守り、把握することができていなかった。	子どもとの触れ合い、関わりを大切にしながらも、視野を広く持ち、常に全体を把握できるように意識する。保育士間の連携を意識し、活動を始める前に、注意点等を共有し、お互いをフォローできるようにしてお く。	
7615	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	11									1	1	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年		遊ぶ前にないこと、遊ってことをて走らないこと、座ぶ約束いた。	遊ぶ前にないこと、座ってことを毎回約束する	1.定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	手洗い場マット前トが固定されていた。滑り止め付きマットであった。砂し滑りやすくなっていた。	手洗い場マット前トを両面等テープで固定する。	3.個人活動中・見守り	これまで活安全にできた内容と変わり ない。	KYTを実施し危険な箇所を洗い出し事故の未然防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	別の園児ていたを見た				これまで安全にできた活動と変わりなくできると考えていた。	それぞれの活動内容の危険性を検討し、保育者は全体を見て直ぐに対応できる様にする。	
7616	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11									2	2	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左上腕)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		雲梯(ぶら下がり遊具)を使用させる園児の年齢等を検討する。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		検討中	3.個人活動中・見守り		検討中	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至児の近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当園庭にいる		検討中	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面					ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7617	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4	2	4	2	4	3			5	5	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	1.基準以上配置		園内研修をの回数を増やす	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年		全職員が全対策意安をより意できるようにする	3.個人活動中・見守り		大人の近くで遊ぶように声をかける	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が保育室横の廊下にあるマットで遊んでいた。保育室から遊びの様子を見ていた。				廊下で遊んでいる園児がいる時は、廊下にも職員を配置する	
7618	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				13	13				3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折(●/●受診で判明)	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		子どもの先の危険性について意識し、常日頃から職員間で連携を持つ。	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年		着地する部分のシートを衝撃吸収型のに入れ替える	1.集団活動中・守り		子ども自に意識が持てるように対する常日頃から伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員は雲梯の近くにいたが、トラブルをしてトラブの対応のことが本児に本人が落下を防ぐことができなかった。	他の場所でも遊んでいる子も含め見ており、対象児の近くにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		待つよう指示が行動を切れなかった。	その都度遊べる範囲を子どもたちに伝え守れるようにきかけていく	
7619	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28				13	15				2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（ヒビ）	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置		高い所から飛び降りる際には十分気を付けて降りる事前に園児に話しておく。飛び降り際に保育士が目を離さないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年			1.集団活動中・見守り		保育士が２人引率していたので、保育士１人が園児が１人ずつ飛び降りる場所についたり、手を添えたりする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、いつもの通りの様子だった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	園児１人ずつ壁から飛び降りる際に保育士１人が側につき、状況を見ていた。	引率の保育士が２人だったため、１人のう１人の保育士は他児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			高い所から飛び降りる際には十分気を付けて降りる事を事前に園児に話しておく。飛び降り際に保育士が目を離さないようにする。	
7620	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24	11	13							7	7	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎左右A（A A）歯牙打撲、上顎左右A（A A）部歯肉外傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置		マニュアルの遵守、事故予防研修を年４回実施、軽微な事故（怪我）もその都度話し合いを行い、検証する	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		ベンチ前に設置してあった滑り止めシートの撤去	1.集団活動中・見守り		使える遊具を限定し、行動範囲を決めて遊ぶようにする	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		歩行がやや不安定だった	歩行が不安定な児には可能な限りマンツーマン対応 見守り保育者の立ち位置の確認	
7621	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									4	4	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置		職員全員で今回のケガを共有、要因と思われることや改善策を話し合い、危険性の認識を再確認。子どもたちへ安全意識を持つよう導いていく。	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	夢中になって遊ぶうちにおもちゃがばらばらになったこと	おもちゃが室内に広かりすぎることを防ぐ、マットやゴザなどを使用する	1.集団活動中・見守り	給食への移行で急いで片付けをしようとしたことも考えられる	保育士の声かけに、片付けを丁寧に座ってのあそび方や玩具を取り入れる	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近くで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			不測の事態に備え、常に子どもたちの様子から目を離さないよう細心の注意を図る	
7622	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									3	3	5歳	2.女児	脱臼癖のある園児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(複数)回/年	1.基準以上配置		気温の推移、準備体操の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年		なし	1.集団活動中・見守り		園児一人ひとりの体調把握	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の補助をしていたが、着地の瞬間に手出すことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の補助をしていた		運動の苦手な子、骨が弱い子、怪我をしやすい子に注意していく	
7623	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									2	2	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	特になし	これまで以上に遊具・おもちゃ等の安全な遊び方を指導し、子ども達の行動・行動等を注意・確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１～２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	園庭の雲梯使で、他児が押したり車に乗ろうとも言わずに乗ったところ、手押し車を押していた他児が自分の方に車を引き寄せ児がバランスを崩して転倒した。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	園庭の雲梯横のランコ補助をしており、対象児が押し手車に足を掛けると他児の引いたの手が自分にのほうに同時に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他子児を見ていた為。	普段は必ず他児が手押し車に乗ることはかったが、そのは乗ってみたいと思った。	子ども達の予測不可能な行動にこれまで以上気を付け、遊具の使い方・遊び方・友達が遊んでいる際に「一緒にしよう・遊ぼう」の言葉かけ等の指導を徹底していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7624	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28					28				2	2	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝よによる突るもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		配置された職員が、子ども同士の競り合うような遊びには声でかけて注意を促す。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		地面の状態によってはクッションを設置すると、体をガードする用品を装着する。	3.個人活動中・見守り		ボール遊びなど、ゆっくりした動きで慣れさせてから遊ばせる。	1.いつもお様もりの子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)			園児との距離が離れないように注意する。	
7625	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝よによる突るもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	2.基準配置	事故予防マニュアル・ヒヤリハット等の確認	保育活動等の職員の配置をしっかりと行う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ヒヤリハットの確認	園庭の確認等を怠ら	3.個人活動中・見守り	遊びの活動内容の認識	ひとりひとりの様子を把握すること	1.いつもお様もりの子であった	友だちとわりの関係をなかいかけてこをなかいこ遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	本児の動きを見ながら声掛けをしていた	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	戸外遊び(自由遊び)中の鉄棒・滑り台・虫かごを使って遊ぶ活動で、危険を伴う鉄棒を使って遊ぶ中、全体に声掛けをし、動きを見守っていた	本児がつまずいての足のもつれなのか、園庭の砂による滑りなのかの転んだ時、しっかりと手がつけなかった	園児の動きを見て転倒した際も怪我に繋がらないよう指導する	
7626	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	0	3	10	9	0	0	0	0	4	4	1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折(ひび)	2.自らの転倒・衝よによる突るもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(年6回以上)研修会(年3回以上)	1.基準以上配置	1・2・3歳児の異年齢児を合同で活動した。	1歳児は危険回避行動をとにくい配慮し、事前に活動内容を決めろ。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	雨天のため、体育を行う場所として、3階保育室での活動となった。1.2.3歳児の合同保育を行うには無理があった。	代で、保育室の活用ができるよう、話し合い体験は安全で交代されれば行わない。クラスとの利用時間・時間・事前に決めく。	1.集団活動中・見守り	保育士同士が、体育活動をさせる上での注意事項を確認し合なかった。2歳児の数名がフロアの外周を走っており、1歳児は上りる行動が取れないことを想定すると、危険であった。全体把握をする保育士がいなかった。合同保育する前に、綿密な打合せが行えていなかった。	異年齢児を合同保育することは危険を伴う場所であり、時間や場所を分ける必要があった。異年齢児が合同保育する時は、安全が確保できる保育内容かを内綿密に話し合い、活動を開始する。	1.いつもお様もりの子であった	1歳児という年齢から危険回避行動はとることが難しい。	4.対象動児を見ていなかった	担任保育士は各中2名が滑り台に向かったため、本児から目をはなしたが、他の保育士へ観察を依頼するなどの声かけを行わなかった。1歳児が2・3歳児に加わることに対し、危険を意識して園児の動きを見ていなかった。4つの活動に一人ずつの保育士が担当はしていたが、園児の動きに目を向けられておらず、どのように転倒したかが不明であった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	本児の近くにいた保育士は、園児の行動を見ておらず、巧技台で動線指導に集中していた。	子供の動きを見えての、声掛けが足りていた。	全体を観察する保育士を決め、園児の行動や集団の活動状況を調節する。	
7627	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	31	0	0	0	15	0	16	0	0	3	3	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝よによる突るもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	手のつき方が悪かったと思われる。	腕で体を支える遊び中や雑巾を取り入れて、腕の力をつけていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	鉄格子の排水口のような所で転んで、目に怪たため、少しやけがなったと思われる。	雨が降った翌日は滑りやすくなっているので、その場所は避けるようにする。通ってはいけない。	1.集団活動中・見守り	人数が多い状況で出しまって、走り出してしまった。	走りたい広さかつよりときは走ってにすがらうる。	1.いつもお様もりの子であった	A公園沿いの歩道に向て丘をかって走った。	4.対象動児を見ていなかった	異年齢の合同保育中、散歩の列の最後尾を走っていた。対象児は離れたため、転ぶ瞬間は確認出来なかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	先頭に1人と、中間に1人、(後方担当)子どもたちと一緒に散歩をした。対象番号近くにいた保育士は、転倒は見ていないが、倒れている姿を見てからの後ろ姿に本ろ児に駆け付けた			
7628	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	2.基準配置	事故防止マニュアル・ヒヤリハット等の確認	保育活動等の職員の配置をしっかりと行う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ヒヤリハットの確認	園庭・園庭遊具の確認等を怠ら	3.個人活動中・見守り	遊びの活動内容の認識	一人一人の園児の様子を把握し見守る	1.いつもお様もりの子であった	友だち・担任とのわりを楽しみながら、木製大型遊具で遊んでいた。	2.対象至児の近で対象児ていた	本児も含めて、近くで遊んでいた園児達の動きを見ながら、声を掛けながら一緒に遊んでいた	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	戸外遊び(自由遊び)中の活動では、鉄棒・ブランコ・滑り台・大型遊具『スカイタワー』・虫かごを使って遊ぶ等で危険を伴う中、無いように見守りながら園児に声掛けをしたり、一緒に遊ぶ	遊具のご乗降際は、気をつけるようにの声かけをするように、見守り職員の配置やらるのも必要であった	園児の動きを考慮して、声掛けや補助などをしてケガなに繋がらないよう指導する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面					ハード面								環境面					人的面								
									人数	異年齢構成の場合の内訳																																												
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																					
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所												教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7629	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27					27			4	3	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置		今回の事故を受けて、原因と対策を会議と職員で話し合い、職員間で再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		1.集団活動中・見守りあり	スペースを広くとって、より人数を少ないグループで遊べるようにした。	遊べる人数に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普通に鬼ごっこをしており、特には見られなかった。	2.対象児の近くで見ていた	鬼ごっこの場所に子供が集まっていたが、転んだ瞬間に鬼が近くに来ていたので、手を差しのべることは難しい。	2.担当者・職員が動いていなかった	他児の対応や保育士1名、体育遊びに保育士1名、砂場で遊ぶ保育士1名の配置をしていた。	事故発生時は、職員の配置基準は満たしているものの、日中と職員構成が異なる時間帯だった。	児童数や職員数、時間帯に応じてこの方を対応する工夫などの工夫が必要である。	
7630	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12		12						4	4	1歳	2.女児	当日は朝から大雨警報が発令されていて戸外遊びができなかったので、休園となっていた隣接している幼稚園のホールで、身体を動かして遊んでいた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不期実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	1歳児2クラスの保育で経験の少ない保育士と保育士の配置になった。	その場で正しい判断できるよう、ある保育士の経験を組み、繰り返しの研修により、経験少ない保育士も適切判断ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	エアーマットで遊んだ後、保管場所としてホールの壁に立て掛けていた状態だったので、使用同じに戻した状態になった。	大きなマット場所掛管理が立てかけるようにすが、幼稚園に連絡すぐ改善もらっ平置てた。きに、又は掛けて前に倒れないように鉄棒を置く。	1.集団活動中・見守りあり	気象警報発令により幼稚園のホールや遊具で遊んでいた。エアーマットが立て掛けていることは知っていた。	1年間同じ場所で保管されていて怪我もなかったことで、危険を見通す気持ちが薄れていた。ヤットとしてのそれの感覚を持ちめて改つする。	1.いつもどおりの様子であった	元々活発に行動するタイプではないので、広いホールでも回っていなかった。	2.対象児の近くで見ていた	子どものとこころに、倒れると思っていマットが倒れたこと、気づくきが間にかなったと思われる。	2.担当者・職員が動いていなかった	消灯、泣いている子など、同じ場所に居ながら、違うことをしていたことに気づいていなかった。	職員間で役割分担や声かけなどの連携できていなかった。子どもがいるころ準備や片付けをした。立て掛けたマットを触りに子どももいた。	子ども達を安全なところに集めて、まとめる人に連れて帰るそれぞれの役割を決めて、活動片付けは子どもが入りない状況で行う。	
7631	令和4年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			8	6	1			1	1	異年齢構成	1.男児	異年齢保育の為、被害園児を抱きかかえた園児は5歳児で被害園児より体格が大きかった	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右けい骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置	新園で子ども達が同じかかわがまくのかわからず、力加減や友達の行動の予測も難しかった。	保護者対応中であっても園児は遊び守りまず児の見守りを遊び第1に考え、保護者対応が長びきそうな時は、他の保育士にかけ保育室にすることを依頼する。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		保育室にもは玩具片付いていたし、床面もクッションフロアで柔らかい素材であったが、着地方の仕方が悪かった。	ハード面において特に事故の要因は見つからない。	1.集団活動中・見守りあり	保育室内の遊切びを行ってでの遊びから見られなかった。	個々の遊びを行っているうえで、遊びが見つけられなかった、保育室で活発に動きだ子園児についてはしっかりと把握とし、遊びるように導にする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室の出入り口付近で保育の様子を見ながら、保護者対応を行っていた。	2.担当者・職員が動いていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	保育室には、保育士1人しかいなかった。	園児の行動の予測がついていなかった。	保育士が1人の場合は、全体が見渡せる位置につき、保護者対応を行う。	
7632	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9					9			1	1	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	先生は注意をした危険を行為が、危険を行ったため	人数制限、遊具に異常があれば使用を禁止し、業者に点検・修理を依頼	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年】	遊具に対し、園児の人数が多い	人数制限、遊具に異常があれば使用を禁止し、業者に点検・修理を依頼	1.集団活動中・見守りあり	友達がうんいるのを足をかけてがっているのを見てまね、他園児と競いながら遊んでいた。	利用人数制限をする。競争をさせない。	1.いつもどおりの様子であった	友達がうにかけ下ぶらっていたのをまね、他園児と競いながら遊んでいた。		園児全体の動きが見られるような場所にいたが、対象園児が落下する瞬間、他園児の陰で見えなかった。		担当職員が1人であった。	園児の動きが早く、全員の動きが把握できなかった。	遊戯私用人数の制限、職員配置の増加	
7633	令和4年4月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49	0	0	0	18	18	13		4	4	5歳	1.男児	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯（乳歯）損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	1.基準以上配置	隙間に室内で走ったり、と合ぶつ	時間を達成した。友達遊び姿勢の認識ていたが、静止や過ごし具体的な提示守り不十分だったことが要と見られる。	午睡や時間の食後の間（活動の時間）と活動の隙間を自主的にこ過ごすと手子が困難手とすやすに対し、具にては、具体的な過ごし方の提示を行い、職員のを見守りをる。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハード面においてなは問題はなかった。	3.個人活動中・見守り	午睡を選択しない5歳児のおやつ開始時間が早く、帰りの会が始まるまでの時間が短くて、手洗いで、無沙汰になる子も同士の合がじゃれ行動が増えていまった。	おやつの配膳開始時間を遅くし、隙間時間を短くする。また、ごはん場所と遊びの選択（提示）を具体的にし、職員の配置も見直した。	1.いつもどおりの様子であった	3.いつもより活発で活動的であった(理由記載)	常にフラフラしていることが多い日ですが、この日は友達から注意を受けた音葉や静止行動が刺激となったり見受けられ、追いかけ合ったり、じゃれたりと合ろ行動へとつながったりと考えられる。また、倒れ込んだ場所がゴミ箱という不安定な場所だったため、手は出すたがうまく支えきれなかったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くを通った際に声をかけ一度は静止したが、他児の身支度援助にでい入った為、行動ことができなかった。	2.担当者・職員が動いていなかった	4名の職員がそれぞれの着替え、おやつの配膳（午睡後の下膳、アレルギー対支除去食応、身支度援助）についていた。1名の職員は休憩で職員室にいた。	いつも午目が覚めが悪いお子がおり、着替えに時間がかかっていた為、おやつを食べ終わった子への見守りの目が不十分となってしまった。	職員1名の休憩時間をずらし、午睡後の着替えに時間がかかるしばらくの間は、5名体制での見守りを行うこととする。	
7634	令和4年4月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	12								2	2	6歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1回/年)	2.基準配置		土手のぼりの際の危険性を職員間で共有し遊びをさせるようにする	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)		園外では年齢発達あった経験ができる場所を行き選う	3.個人活動中・見守り		子ども達に危険に繋がる事を遊びの前に具体的に知らせる	1.いつもどおりの様子であった	ふざけている様子もなく土手の登り降りを楽しんでいた	2.対象児の近くで対象児を見ていた	土手下部にて子どもの動きを見守り声かけ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	土手上部より子どもの動きを見守り声かけ		子ども達の動きを予想しての見守り、声掛けができる配置を心がける	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
								発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
									人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																																														
7635	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23									1	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	上腕骨顆上骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度１２回/年	2. 基準配置	遊具の使い方における危険性の認識、こどもの体調の視診の判断の甘さがあったと考えられる。	遊具の使い方、安全性を職員間で再度見直すと共に、友だちへの関わり方等の中で伝えていく、また怪我に対する視診、判断、連絡を速やかに行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年			1. 集団活動中・見守り		環境面の問題は特になかった。	1. いつもどおりの様子であった	友だちとしゃべりながら遊具で遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は他児の鬼ごっこの姿等、全体が見られる場所から把握していた。本児が遊具の柱にまたがった様子はまた見ており、声掛けの前に他児が背中を押し転落し、側にいった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラス職員は出園ておらず、状況を確認できていなかった。	遊具の安全な使い方の提示が統一されていなかった。	遊具の使いに危険なし、危険なく楽しめるように職員、園児に周知徹底していく。	
7636	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15		2	4		5	4			5	3	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	中指先端剝離骨折 擦傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年			1. 集団活動中・見守り		人の動きに敏感な本児が落ち着いて遊べる環境設定や働きかけが必要であった。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象至児の近で象児を見ていた	(具体的内容記載欄 声掛けをしたり、加配児と分部屋を分けるなど対応を行ったが、受け入れや健康観察カードの確認等があり職員も動いていた	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)				
7637	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	左手第3指中節骨不全骨折、左第3指中節骨骨端線損傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	卒園式を終えて気解持ちが放しやすく事故につながりやすい時期であることを認識して保育する必要があった。	職員間でどもたちの遊び方、様子をみんなの目で見ること守ることを再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		見通しの良い園庭である職員一人の意識が大切であると確認する。	1. 集団活動中・見守り		遊び方について子ども達にも周囲の状況で気を付けていくことを伝える。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこしんたのでいた	2. 対象至児の近で象児を見ていた	1名の担任は、近くにいてみ様子をみていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当職員は、全体の様子を見守っていた		担任だけでなく職員みんなで全体を見る意識をもつように改めて確認する。	
7638	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	卒園期で練習など緊張感を持った活動のある時期のため、自由遊び中の解放感から事故につながらないように留意する必要があった。	職員間でもたちの遊び方、様子をみんなの目で見ること守ることを再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		見通しの良い園庭である職員一人の意識が大切であると確認する。	1. 集団活動中・見守り		遊び方について子ども達にも周囲の状況で気を付けていくことを伝える。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこしんたのでいた	2. 対象至児の近で象児を見ていた	1名の担任は、近くにいてみ様子をみていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当職員は、全体の様子を見守っていた		担任だけでなく職員みんなで全体を見る意識をもつように改めて確認する。	
7639	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	30		10	10	10					3	3	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右前腕骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置		・想定外もある事もあるため、事故予防について再度確認する。	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年		・施設の定点検も定期的に行う。	1. 集団活動中・見守り	本児のクラスで支度できる児クラスで遊ぶことになっているが、クラス他児の同じクラスが登園してくると、クラスに行って遊ぶ傾向がある。	職員の目よが届くように改善する	1. いつもどおりの様子であった	本児のクラスに飲みお茶を飲ませに行っみに行ったと戻る際はみたことに、朝のはみたが、転支度をしたと児の足にころは倒した児の足に　つまずき転倒。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児がクラスに飲みお茶を飲ませに行ったみたことはみたが、転倒したところは　見ていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員は正面の子ども達の様子を見ていたため。	・登園の身支度は、職員がそろってから行う。・部屋出時は、必ず職員に声を掛けることを徹底する。	・クラス活動が開始してから、身支度を一斉に行う。・水分補給のための水筒は、自の届く所で行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析						ハード面								環境面			人的面							掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転倒	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7640	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	15									4		4	1歳	2.女児	身長81cm 体重13.1kg アレルギー・鶏卵、甲殻類	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	今回は園庭で走っていての転倒。他児との接触や玩具を持っていても走ることなかったので改善点はありませんでした。今後の事故防止として靴のサイズ丁寧にチェックしたり丁寧かせることで事故防止なげたいきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回は園走っての転倒。遊具との接触や段差もなかったので改善点はありませんでした。	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も事故防止としてサイズ丁寧にチェックしたり、より丁寧にかせる。遊ぶ前に子どもと約束の確認をしていく。	1.いつもお様子であった	受け入れから機嫌も良く、食欲も旺盛。通院に活動した。本は体を動かすことが好きで園庭走る。	2.対象児の近で対象見てた	お友達と遊んでいる為、気をよ付けつ声掛けながら保育。本児が転倒したすぐにそ場に駆けつけ子のをした。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の職員に園庭の子どもたち深くと観察すと同時に、必要なかけ声掛けながらに保育していた。本児が転んだのみで職員が対応後、本児の様子に違和感を感じ、もう一人の職員も対応に入る。	特になし	今回は園庭で走っての転倒。他児との接触や玩具を持って走るということもなかったので改善点はありませんでした。今後も事故防止としてズ丁寧にチェックしたり丁寧に、遊ぶ前に今一度子どもたちと約束の確認をしていく。	
7641	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	1	6	4	1	2	1	0		2		2	2歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	額（右）の裂傷2針縫合	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )1～2回/年	1.基準以上配置	早朝保育に関して保育士のマニュアルはあるが事故防止に関してのマニュアルはない	早朝保育に関しての話しあいを行う	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	カーロッに衝突すると、衝撃になる緩衝材で材をいたがあり、ケガになってしまった。	緩衝材の素材をもっとクッション性のある付替える	1.集団活動中・見守り	以前は様々な玩具を子どもが選べるように棚に玩具を置いてあったが、感染症対策で消毒できたものだけを出した	感染症対策と保育環境とでは難しいが、室内に置いておく玩具の種類を増やす	1.いつもどおりの様子であった	いつも、玩具で遊ぶ走ったりまわる事が多く、この時も保育室を走り回った	2.対象至児の近で対象見てた	危ないため声掛けをしていたが、泣いている乳児を抱いていたため動けなかった	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	泣いている乳児を抱いていた	早朝保育の受け入れで担当保育士ないから子多かった	一名は早朝担当の保育士なので、慣れる後はよいを増やす	
7642	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	0	0	0	18	16	21	0		6		6	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	不明	5.他児から危害を加えたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	保育士人数は基準を満たしていたが、園庭の隅まで保育士の目が行き届いていなかった。	園庭遊びの際の保育士人数を増やした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	・開園以来初めての出来事であり、これまで本件園児1人で水をこぼしてこと排水溝の蓋を開ける出来るという認識がなかった。	事故発生後すぐに見て、蓋を金網で覆い、もにはけられないように子どもは開なにけ。した。	1.集団活動中・見守り	園庭の大きな遊具の裏型遊具の側が見えづらかった。	園庭全体の視界をなるべく広げ、遊具を移動した。	1.いつもどおりの様子であった	園庭の隅で側溝付近で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体が見渡せるような位置で、全体を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体が見渡せる位置で、見ていた。	今起こったことがないということは考えず、何かがあるかもしれないという思いで子どもたちを見ればならないと改めての大切さ、重要を知った。	子どもの言動等は予測不可能だということが改めて分かった。今後は、いつ、なにが分ないと起こるか意識して、子どもたちを見守るようにする。	
7643	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10									2		2	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置		職員の意識向上に研修への参加及び職員会議での共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		固定遊具には全面セーフティーマットを敷き詰めてあるが、遊具の下には、敷き詰めてあるが、正しくても、遊んでも、着地の仕方によっては怪我がくいことを職員全体で共通理解する。	1.集団活動中・見守り		担任間だけではなく、職員間での共有を図り意識を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象見てた	本児の動きに対して回転時まで補助をした、着地後に本児がよろけてしまったため、すぐに手を差し伸べ様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台の補助につかるため、対象児の見えていなかった。		園児の行動をよく観察し、適切な行動がとれ声をかける。固定遊具の危険な事例を把握し、十分注意を払う。	
7644	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1		1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	・職員配置は基準を満たしていた。・職員の連携が取れ、すぐにアイシング対応がとれた	・親しみある遊びや活動前にルーや約束事を確認し、安全への意識を高める。・日々な体づくや安全な体の動かし方を知らせていく。	1.定期的に実施	実施頻度(965)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	・ボールは子どもは持ちやすいが大きすぎた。・面積基準は満たしていた	今回の場合該当なし	3.個人活動中・見守り	特に問題なし	今回の場合該当なし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象見てた	・ゲームを進めるため、本児がボールを投げるところを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は現場にいなかった。		・親しみのある遊びでも遊び始める前にはルール、約束事を確認し安全への意識を高めていけるようにする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7645	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	12	4	2	2	1	1	1	1		13	13	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特記事項なし	行事を前信、自信を持ち、切っ子に張っても達に対し、しの声掛けをすると共に、高揚すを落ち着かせる声等は掛けしが、今後より一層配慮をしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	環境的に、大きな問題はなかったと思われる	行事を前信、自信を持ち、切っ子に張っても達に対し、しの声掛けをすると共に、高揚すを落ち着かせる声等は掛けしが、今後より一層配慮をしていく。	1. 集団活動中・見守り	お気にいりのダンスで、仕上がり良く、楽しそうに踊っており、特に何かきっかけがあったとは思われない。	行事を前信、自信を持ち、切っ子に張っても達に対し、しの声掛けをすると共に、高揚すを落ち着かせる声等は掛けしていたが、今後より一層配慮をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	体を動かす事や体操が大好きなので、練習も喜んで参加していた。	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	舞台練習をしている子ども達の正面の位置で、最終確認をしていた。	1. 担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のグループの子ども達が練習を見て守りながら一緒に見ている職員がいた。	人的になる要因はなかったと思われる。	人的な配置にゆとりがあると良いと思われる、基準内なので限られた人数で、協力体制を整えていく	
7646	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	22									2	1	5歳	2. 女児	2歳半健診で右足の動きが気になるため、療育センターを受診した異常なしだったが、何もないところで転ぶことが多い。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右薬指亀裂骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置		全職員での情報共及び注意喚起を行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10～50)回/年		走り込みやすい動線コーン等の目印を、視覚的に理解しやすい工夫を行う。	1. 集団活動中・見守り		三輪車置き場はトレンチ塗装になっており、砂が上がっていると滑りやすいので、砂を掃き出す。	1. いつもどおりの様子であった	移動のため、三輪車場を通過していたと思われる。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭へ出ており、他園児と関わっていた。				個別対応案件が起こった場合、必ず他の職員に声をかけ、他児の全体の見守りを強化する。	
7647	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	5歳	1. 男児	事故発生当日は、園行事の為、田植えを行った。田植えも終わり、着替えなども済ませ活動もひと段落ついて、みんなで稲を植えた田んぼを見に行き、その帰りの園庭にて転倒。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	教室へ戻るべき際に行ってしまった。	慌てずにこれから行う指導、見守りを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎月))	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日))	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日))	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	大きな行事を終え、保育士も本人も一息した気のみもの一つと考えられる。	行事等の際は嬉しさ等で子どもテンション等高く浮き立っていることが多いので子ども達に対し、しの声掛けをすると共行事中はもろん、終わった後も気を緩めないで指導・見守りを行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発な子だった。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	対象児以外も見ていた。	2. 担当対象児の動きをていなかった	給食の準備。	特になし	保育室に入るまでは複数の保育士で確認を行う。	
7648	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	26				3	23	2	0	0	2(サッカー室教講師1を除く)		5歳	2. 女児	R3. 6. 15受診開始 R3. 7. 17受診にて完治	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右足くるぶし下じん帯損傷	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	支援の必要な子どもの補助が担任について。	担任保育士のうち1名は競技補助のみ、活動を見に、全体を見るようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	広場での取り組み活動範囲が広くなって位置が変わってしまった。	全体を見守る子ども達の動きもの見ながら危険を防ぐ事をいう。徹底する。	1. 集団活動中・見守り	足が痛いと訴えて来たが、冷やして少し休む「良くなった。サッカーがしたい」と活動にもどった。活動にもどさず、安静にしておけばひどくならかもしれない。	更に痛めが場合があるので、必ず安静にさせる。	1. いつもどおりの様子であった	サッカー教室が好きなので楽しみにしていた。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	本児とは離れたところ子ども達にいるとにボールを蹴っていたが、の職員がボールをとりたいと思っ向とっていた。の際、ボールをついて、の方向なってそ、違ったグループの重しまい追ったぶつかって友達んでしまった。	2. 担当対象児の動きを見なかった	他の所にいた子が泣いたのもてで声をかけた。	競技に夢中になること、あちこちで、小さなトラブルがおこりその都度対応が必要になる。	今後、サッカー教室の配置は職員増やすように、する。	
7649	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	1	0	2	1	3	2	0	0	4		3	2歳	1. 男児	延長保育時間中のため、異年齢合同保育中であった。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	予測しがたい案件にも感度が必要	園の事故防止マニュアルによる職員研修、応急手当研修	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	マットの高さ15cm、購入して年経年劣化などはみられない、マットの床ローリング。降ら先には玩具散乱していかった。水濡なかれし。	降ろすことなどもできるの年で差を延長りがいる子もいるで、異年齢保育時間ある保育中はマットを撤去する。	3. 個人活動中・見守り	比較的広いスペースがあるため、動きが活発やたきになりすい	異年齢保育中の環境設定(コーナー遊びを増やす)	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	普段は同年齢で遊ぶことが多い、異年齢保育中のあっため、いつもより活発に自由遊びをした。	2. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	異年齢保育中で見守り、見守り	2. 担当対象児の動きを見なかった	他児を見守り	当該児はジャンプはできないため、15cmの段差から片足ずつ降りた。しかし、いつもより慎重さに欠けて上手く降りることが出来なかった。ジャンプが出来ない事から、段差を降りることが難しい身体能力であった。	保育士がそばにつき声掛けを行う。該当児には少しの段差であっても手を添える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																												実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
7650	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	ロフトの段差を背中にし座っていた為、リスクが高かった	本児の危険予測の意識も考慮しながら、危険性があるときは、こまめに声をかけく必要がある	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	活動場所容、内容する遊具が、使用遊具年齢や状況で不適切なことはなかったなと考える	3. 個人活動中・見守り	特になし	自由あそびの中で保育士が全体を把握することはしていたが、ずっと本児を見続けることは難しく、年齢的には適切なづくりだったと考えるが、本児の危険への意識の薄さを考慮して危険を察知するべく声掛けしていくことは必要がある	1. いつもどおりの様子であった	変わりない様子だったが、本児の危険に対する意識が普段から少し薄かった	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児がロフト付近で遊んでいたことは把握していたが、本児とは遊びた子どもと関わっていた為、転落した瞬間は見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に子どもの様子が落ち着いていた為、他の保育士は保育準備にあたっていた	特になし	本児の危険に対する意識の薄さをここ一番掛けをし伝えていく	
7651	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5歳	1. 男児	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	園内を利用するにあたり、気を付けて欲しいポイントの周知が甘かった。	保護者へ引き渡し後の園内外の利用の仕方を再確認する。危険が予測される場所は特に具体的に周知をしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	駐輪スペースは、完全にフラットな環境でない為、安定していない。	駐輪スペースは不便である為、予測できる怪我のパターンを伝え、注意を促す。	7. その他	送迎時は自転車を敷地内に入れる必要があり、利用する側は開閉の手間があり、子どもを自転車に乗せたまま開閉を行う姿が見受けられる。掲示やお便り等で、注意喚起を行っていたが、油断があったと考えられる。	保護者に予測できる具体例を挙げながら注意を促し、園内を安全に利用してもらう様にする。自転車の乗り降りのタイミングで危険なポイントを周知する。	1. いつもどおりの様子であった	母親が自転車から離れ、門扉を開け際、自転車が倒れた。本児は自転車の後部座席に座っていて、倒れた自転車とコンクリートに腕を挟まれた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	玄関内に、送迎に訪れた保護者の受け入れを行う職員が1名いた。事故現場の近くにいたため、母親から助けを求められ、用務員と共にすぐにそれに応じた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	用務員は事故現場の周辺で園舎周辺を清掃していた。母親から助けを求められ、玄関にいた職員と共にすぐにそれに応じた。	送迎時の余裕の無い時間帯で、保護者の安全に対する意識が薄かった。	お便り、掲示等での注意喚起と共に、懇談会等でも周知し保護者をもってもらう。	
7652	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	14	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	6歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘軟骨損傷	5. 他児危から害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	見守りが不十分だった	子どもの行動を全体で見ることが出来ないように位置にいるようにする	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	子ども同士の遊び方の確認、危険な行為の確認をする	子ども同士の遊び方の確認、危険な行為のある子どもに任せきりだった	1. いつもどおりの様子であった	換わった様子なし	4. 対象児の動きを見ていなかった	別室で内科健診前の身体測定中	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊び中見守り中	内科健診もあり、見守り職員が少なかった	行事の時などはいつも多く保育士を配置する	
7653	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	0	0	0	5	6	4	0	0	2	2	5歳	1. 男児	当該児童は平均よりも体重が重い。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手小指付根骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置	・3歳以上児15名を常勤保育士2名で担当しており、人員配置は適正であったと考える。 ・園児のけが予防に関する研修をおこなっていない。	・水の事故・蘇生に関する研修に、心肺機能に関する研修を企画する。 ・体幹には外に、園児のけが防止の研修を企画する。 ・体幹に関してトミックを取り入れるが、けが予防につながる動きが再度見直しを図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	転倒しても受傷しないよう、園庭ゴムチップを敷いている。	点検は定期的に実施しており、ハード面は十分な配慮ってなされていると考える。	1. 集団活動中・見守り	転倒する直前に長縄をまたぐ遊びを行ったが、縄を持っていたが、縄は5歳児であった。	長縄を使用する際には、保育者が縄を持つようにする。	1. いつもどおりの様子であった	動き始める時にステップを傾向がある。この時もいつもと同様に動きとめたところで足がもつれてしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	2mくらい離れた場所から目対象児の目を向けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	三輪車等で乗る3歳児を主に担当していた。	普段から靴や上履きのかかとを踏むが癖があり、その度注意を促していた。	靴、上履きの正しい履き方の指導を行う。その際には正しく履く理由（けがの防止、運動能力上、物を大切にすること）を含めながら伝える。また、『健康と安全だより』にて家庭へもお知らせする。	
7654	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56	0	0	12	15	14	15	0	0	12	10	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	外遊びのルールなど遊ぶ前にも確認にし合う。	職員の配置について声をかけあう。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	2歳児クラスから5歳児クラスまで一緒に遊んでいた。どこっぴの遊びのスペースが狭かった。	鬼ごっこ回鬼ごっこ走るときは、他の場所で遊びの場所と実施するようにする。	1. 集団活動中・見守り	地面にしゃがん子で遊ぶ子と鬼で走りと鬼で走る子の回動線が入り混じっていた。	園庭でしゃがん子で遊ぶ子と鬼で走り子の回るこのスペースを分けるべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	氷鬼ごっこを楽しみ、張り水切って鬼にした。	2. 対象至で対象児を見ていた	5歳児担任が氷鬼をを見ごっこ動くで近く守り、激しくが激しくなっていたときは、注意したりしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各クラス担任が、自分のクラスの子どもと遊象担当動きがしたり、児や保育者を見ていた。	内科健診もあり、見守り職員が少なかった。	担任間で遊び内容相レスペースを決めるようにする。	氷鬼ごっこにおいては、子どもの動線上にいる子ども達を他に誘導させるべきだった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面						環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7655	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	14	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	5歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 基準配置	久しぶりの屋上あそびに胸躍るあった。始めてあった環境であったが、必ず定期的に設定された。また、日常的な保育の中で、体づくりにも課題があると感じると。	子どもであれば誰でも遊具により怪我をする可能性があることを踏まえ、・子ども自身が安全にとびつこができるよう、遊具の危険性と安全に楽しむための方法を教える。・遊具そのものではなく遊び方に注意する。・保育者が目を離さないことで防げる事故も多いことを再認識しながら関わる。・進級時は勿論、定期的に、遊具を実際に見ながら遊び方やルールの再確認を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	落下を想定した備品や保護の準備	現在のゴチップにより更にショックッション性のある防止マットを敷く。	1. 集団活動中・見守りあり	遊具使用時のルール徹底、及び、児童への安全指導不足。	児童の動きを想定した環境設定の見直し。児童への安全指導徹底。	1. いつもどおりの様子であった	久しぶりの遊具あそびを楽しんでいたが、特に大きな興奮もなく、通常どおりの動きであったと認識している。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	１４名の児童全員を見渡すことができる位置におり、対象児からも比較的近い位置で見守ったが、瞬間的に目を離す事であり、落下する対象児に手を添える時間的余裕はなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くに職員がいなかった	特になし	ソフト面、環境面改善策同様。	
7656	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19	0	0	0	5	5	9	0	0	3		2	3歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 基準以上配置	職員配置は適切だった。	職員の立ち位置の見直し危険予測と優先順位付けの園内研修を行う予定	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	足もとに固いとしてBブロックがつながっていて動作の妨げとなった可能性がある。	玩具の種類分けを明確にする。おままごとコーナーブロックが混在していた。	1. 集団活動中・見守りあり	全体を見ていたが自由遊びで 個別対応、他グループに目が行っていた。	全体を見る時の立ち位置と、個々へのけ	1. いつもどおりの様子であった	自分で選んだ好きな遊びを他児と一緒に楽しんでいた 自分も他児が使っていた玩具が使いたかった。	3. 対象児の離れたところで対象児を見ていた	朝の受け入れ、全体を見ながら個別に対応トラブルの予見	1. 担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	全体を見ながら、他児と一緒に、折り紙で街をつくり、個別対応していた。	登園時の分離で、スムーズにいかなかったことも考えられる。	数に限りがあるものには交互に使用していく更に工夫をしていく。本児の解消されていない気持ちも行動予測に入れていく。	
7657	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	小指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	ボール遊びする留意事項はあるが、使用するボールによる扱い方は記されていない。	サッカーボールのつなぎ扱いで知らせていくという内容を留意事項に追加する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	思い切りをボールに蹴ればスペースがはなかった。	スペースを変えないが子ども同士はとっては十分とされ子ども同士の距離とっては十分とっていとぶとしく。	1. 集団活動中・見守りあり	５歳児のみであつたため、いつも少人数であり、思ボールが蹴るという児童ちがたとらいつもよる少人数ることできる児持ちがあ考え。	いつもよる少人数はあるが、思い切りボールを蹴るときは、遊促ってようい切りボールとよりとぶしく。	1. いつもどおりの様子であった	8：30頃登園し、視診でも異常なし。	3. 対象児の離れたところで対象児を見ていた。	サッカーをしてどもの遊びをしていると子どもの子どもら位置守った。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	5歳児クラスの一部の子どもで遊んでいるだけで他の職員は園庭にはいなかった。	5歳児クラスには新入児がいないため、今まで通り動き行っていたが、進級式ということ後の高揚もあるであろう子どもの気持ちの状態も考えていく。	5歳児のみの少人数で思い切りボールを蹴れるという気持ちと進級式後の高揚もあるであろう子どもの気持ちの状態も考えていく。	
7658	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	40	0	0	0	0	0	0	0	0	2		2	5歳	2. 女児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	５歳児奉に自由に使用するとして遊具には不適切であった。	鉄棒として特に不具合は無し	1. 定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	鉄棒下には衝撃を弱めるマットやゴムが無かった。	鉄棒を使用するには外用にマットを使用する。	1. 集団活動中・見守りあり	該当鉄棒、３台の１台中の１台に保育士が見守っていた。	鉄棒を行う際には員必ずがうようとした。	1. いつもどおりの様子であった	自由遊び開始時から鉄棒で遊び始めた。鉄棒では数人で交代しながら前回りをした。落下した際も前回りをした。親指でもしっかりと鉄棒を握っていたが、途中で手を離してしまった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	鉄棒３台の１台の１ぼに担任は見守りていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他(すべ付具(ゲ台)全守り近から見て体のりをした。	児が前回りがとても上手になり、落危下の険性の予測を誤った。	落下の恐れ遊具がある遊び方の使い再点検と再確認をした。	
7659	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41	0	12	14	0	15	0	0	0	2		1	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足外果剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 基準以上配置	担任判断で、小さなケガ等でも報告することすが欠けていた。	どんなこでも子ケガどもどもケガについては報告することを確認。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	階段はコンクリート、降りたところはバリアフリーのゴムマット	改善策は無し	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	あそぶ前にテラスでは遊ばない、飛ばないことを確認する。	いつもどおりの様子であった	かくれんぼをして、隠れるところを探していた	4. 対象児の見ていなかった	かくれんぼのオニになったので、見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	おにごっこをしていたが子ども見ていたので、見ていなかった	5歳児クラスは、あそぶ子ども前にどもたちにテラスは上がらないことを話している	テラスでは遊ばないことを日常も子どもたちに話をしていく	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
										発生時の体制																	ソフト面					ハード面							環境面					人的面											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7665	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	危機管理意識の向上	職員間の連携と危機意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設設備、備品の見直し	備品の見直し環境の改善点を出し合い共通認識していく	1.集団活動中・見守りあり	声掛けの足りなかった	声掛けを工夫し、自付け子ども自ら気がけるようかきかけるなる働きかも考え	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	絵本を見飛び跳ねる動作を楽しんでいる最中、本児と他1名が走り出した。	2.対象至児の近で対象見た	担任1名は絵本の読み聞かせ、1名はおむつ交換、2名は子どもたちと絵本を見ながら動きを見守る。走り出をした本児を止めようとした際、置き盛にまとすぎ転倒する。止めるの時、担任の膝の上に一人ほかの子どもが座っており、本児の動きを安全に止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担任1名は絵本の読み聞かせ、1名はおむつ交換、1名は他の子どもたちと一緒に飛び跳ねる動作をした。	保育士間の声掛けの不足	室内の置き畳を撤去する 室内での静と動の活動の工夫 保育士の連携の見直し	
7666	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0	2	1	6歳	1.男児	保育後、体育クラブで体育指導を受けた後、クラス通常通り保育をした後の降園となりました。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	今回は園児自身が大きいう言葉を信じたための残念なこなった。	小さい事故故意思わず、その都度病院に連れて行くなどの対応をすることが必要でした。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	床がフローリングのため、冷たい感じがする。こどもが裸足で遊べる環境を作った。	クラブ開始前に、安全行動点検を行い、異常がないか点検をしたため、改善点はなし	3.個人活動中・見守りあり	5歳児10名が座りぐっすり鬼ごっこをしていた。	丸い柱にも、柔らかいマットをしたりして対策をしたので、特に改善なし	1.いつもどおりの様子であった	元気に座り鬼ごっこに参加していた	2.対象至児の近で対象見た	体育指導をしている指導者、補助者がいた。見学していた子どもたちの様子を見ながら、指導をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	怪我の無いようにだけ見る改つもりだったが、位置を直した。	床が柔らかいフローリング。5歳児なので、見が必要と守り必要あまり考えていなかった。	多角面から見守るべきだった。	
7667	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	28	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5歳	2.女児	日常生活に支障はないが、斜視のため、視点を合わせるために、顔を横に向けたりする姿が見られる。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	急性外傷 歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	保育士の国基数は、国の配置基準を満たしていた。	子どもの様子を見ながら、速度を歩く配慮とし、焦らず歩ないように声の掛けを付ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が柔らかいフローリングのため、冷たい感じがする。こどもが裸足で遊べる環境を作った。	狭い道や凸凹道では、一層、歩に付け狭る。	1.集団活動中・見守りあり	日々、散歩をしている道で慣れるがしまった。	転んだ際に、手を付くように、日々の保育で伝えていく。	1.いつもどおりもりの様子であった	普段通りの様子であった。	2.対象至児の近で対象見た	道が狭く、対象児の近を並行していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	2人担任なので、声掛け声合い、歩をしていた。	手を繋ぎ、ていたため、転際に手をなかった。	狭い道や凸凹道では、一列になって歩くなど配慮する。	
7668	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	11	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	保育士❶は⑥と⑦の園児、保育士❷は園児の手繋ぎをしていた。③園児は⑧の園児と手繋ぎをしていた。③園児は歩行しが安定していて❷の保育士が見ながら歩行。(様式2-1の活動状況の頭参照)	急ミングティを行なう再度散歩の確認と怪我させまったこと情報の有	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	平坦なコーヒーショップの道	安行の定しない対配慮歩行歩等に気をつける	1.集団活動中・見守りあり	安行定しない手を定しなかつなぎ園児とつなかつなかつなか

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面					人的面									
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																																																
7670	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	6歳	1. 男児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	時間外保育者引継ぎ時間、戸締り分担のあった。職員の足り時間であった。	保育士、交通誘導員ともに保護者へ速やかな降園を促すようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	縁石の高さが低くお子どもがやすい場所である。	縁石内側の植え込み部分にプランターを置き張り紙で注意喚起。速やかな降園の声掛けをする	7. その他	降園時だったため、事故現場が保護者や園児で混在していたため、保護者も園児の様子を把握しきれていなかった。	保護者、園児に対して保育士が速やかに降園できるよう促す。	1. いつもどおりの様子であった	登園から降園まではいつもどおりの様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園時門出時間外でのため、来事あった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当時間外保育者引継ぎ時間、戸締り分担のだった。	降園時で事故現場が保護者や園児で混在していたため、保育士や駐車場の警備誘導員も状況を把握しきれていなかった。	保護者、園児に対して保育士が速やかに降園できるよう促す。	
7671	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	29	0	0	0	12		17	0	0	5		5	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不期実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	園庭から担任が離れるときに、必ず児Aを離れるべきだった。	その場を離れる必要をきちんと伝えるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(30)回/年	箱遊び滑り台(移動式)が子どもやすいものであると、大きな力がかかれば倒れる可能性があることが要因と考えられる。	台が倒れないように固定をしたり台の使用方法、危険性についてもも知らせ、危険のないよう注意していく。	1. 集団活動中・見守り	保育士が遊んでいる状況を見守っていた。配慮が必要な児Aを含め、楽しそうな雰囲気であったことから、場を離れる際、児Aのことを伝えずに離れてしまった。	どんな状況であれ、目をさないように担任、保育士間でをあっていく。	1. いつもどおりの様子であった	配慮が必要な児Aを対象児とする。思いとなったり、怒ったり、気持ちを起こしやすくなったりすることがあるが、この日は落ち着いた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	転んでケガを児たが、当のことを離れた。園庭には保育士が、「離れます」と声をかけたが、具体的に「配慮が必要な児Aを視野でAに入れておいてください。」と伝えるべきだった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と落ち着いていなかったため、視野に入れていなかったと考える。	遅れて登所してきた児、保護者の対応のため、園庭から離れていた担任もいた。園庭から担任が離れ、配慮必要児Aに対する配慮がなかったことが要因の一つとも考えられる。	担任が常にいられない状況はあるため、その際の声かけと保育士にその場の保育士に声をかけられるようにする。	
7672	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30	0	8	4	6	8	4	0	0	5		5	4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	職員の見守り状況診断ではないが、数名の子どもが骨折と判断、本児がかつて手を骨折していたことがあるかもと動きを考えなかった。	子どもの発達に合わせて変化するルールは決まっていない。過信せずに、過不足のない見守りを共有している。職員間で事項を共有して押印している。	2. 不期実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	年に1. 2回園庭の砂の補充をしクッション性高めるよう人工芝を鉄棒覆うに更に工芝を敷いている	引き続き全体で安全に留意していく	1. 集団活動中・見守り	土の園庭なのでクッション性もあり人工芝を一枚敷いていたが、薄かったのかもしれない。	鉄棒の下にもう少しクッション性のあるレクシートを敷く。人工芝一枚(1ｃｍ)敷いていたが、2枚重ねて倍の厚みに改善した。	1. いつもどおりの子であった	通常の遊びと変わらず特に危険な遊びはしていない。	2. 対象児の近く対象児見ていた	数名の職員で該当児見ていをた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に遊び他児のびみていた	複数の職員が本児の様子をい一番近く職員は鉄棒からlmぐらいの所に全見ていた。	対人数も配置も特に問題があったにくいと考えい	
7673	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1	4歳	2. 女児	身長：●●.● ㎝ 体重：●.●kg カウプ指数●●.●●.	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	3. 子どもの衝突によるものにもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	場面ごとの救命訓練を実施したが、色々な想定のようにもだせておいてコーチに任せるべきなことは教えるべきこのような危険を考えていく必要がある。	安全委員会や現場で見直しを行い、スタッフ会議で研修を実施していきたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	フリースペースを使用している待機または観戦している園児は同じフロアーの端に並んでいたため、いつでもボールをそばにくがってくる状況があるため、観戦・待機している園児は、サッカーをしている場所から離れた、隣のクラスの観戦する。	1. 集団活動中・見守り	職員は、いつもサッカー教室で事故なく実施していること、今までこの事故が発生していなかったため、園児はプレーに集中して、回りが見えなくなって「飛び込んでくる危険」という認識が少なかった。また観戦をしている園児への注意などの説明は十分行っていなかった。	職員へのスポーツ教室での怪我のリスクや見守りの重要性を再度周知を行う。 園児にも毎回開始前に注意事項の説明を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	活動的でないが、楽しんで観戦していた。	2. 対象児の近く対象児見ていた	本児とのあいだに3～４人の子どもがいた。ボールが転がってきたとき、すぐに対応が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ4クラスのくま組の保育士2名は保育室内で製作をしていた。	スポーツ教室の場合はコーチ2名が指導をおこなっていたが、我のリスク高いスポーツであることから、十分守りその応要性と対重と認識が薄かったと考える。	スポーツ教室の場合は職員1名増員し、園児の見守りに専念する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員				死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7674	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳挫傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	シャワーを行う際の細かいマニュアル等は無いが、様々な想定を行いスクリプトの細部や場面や状況に合わせて約束事を確認させて話し合いを配慮が必要だった。シャワーコーナーに飛び降りること危険だとも伝わっていなかった。	子どもの状況や活動内容に合わせて安全を守る為の約束事を決める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の様に不意な転倒が起きた場合、コンクリート仕様の現場では怪我に繋がる要因となった。	子どもの状況や活動内容に合わせて安全を守る為の約束事を決める。	1.集団活動中・見守り	コンクリートから足を守るために設置したバスマットが濡れると転倒事故へと繋がった。	バスマットの設置をすぐにやめた。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	泥あそびの後、体を洗うためベランダで順番待ちをした本児が、足洗い場に敷かれていたバスマット上に飛び降りた。	4.対象児の見ていなかった	担任保育士1名が足を洗う4名を見守りながら、洗い終わった子の身体をバスタオルで「おいで」と声をかけた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	室内でいる名を見守りながら、シャワーが終わった4名の拭き身体を援助をしていた為、本児の事は見ていなかった。	足を洗っている子に保育士の意識が集中しており、待っている子に注意が払えていなかった。	保育士は常に全体把握を心掛け、危険を予測し、子どもへの声掛けをしていく。又、危険が予測される時には応援の職員を依頼する。	
7675	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	20	20	20	0	0	4	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外顆剥離骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	この園庭の各所における、子どもの動きについて、職員ひとりの甘かった可能性がある。	事故予防に関する具体的な研修会の実施及びヒヤリハットの周知徹底	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年	マットの位置が適切位置から ずれていた可能性もある。	遊具について、適宜配置が適切かどうかを考える。子ども一人の様な気づきの変化を保育者の保育向上資質のための研修会を実施する。	3.個人活動中・見守り	隣の築山から降りてきて、予想以上に勢いがついて転んだ可能性もある。	粗大遊びのコーナーをしっかり確保して、全身を使う遊びを意識的に取り入れて、体力向上を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭遊びでしゃがみ込んだ瞬間に怪我をした職員は誰もいなかった。本人の話聞き基に園庭のカメラの映像を確認して、怪我をした場所を確定した。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた保育者がそれ別の児童とわ関わっていた。	職員が流動的に動いてしまっていた。	担当エリアを決めて、全体をよく見るようにする。	
7676	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	10	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	不全骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子ども一人一人の認識がまだ出来ていなかった。	事故予防に関する具体的な研修会の実施及びヒヤリハットの周知徹底	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(50)回/年	ごが位置あるので、年齢の児童もは低い子ども。こ低年齢の児童もまったくこの一因ではないか。	ごの配置を削減し、下の段数、段数を減らす方を無くした。それにより程度ある程度の体力を児童がある児童がないなくなれた。	3.個人活動中・見守り	落ちるかもしれないという予測が出来ていなかった可能性がある。	水児の提体力全般をよる力全般をめるよ高うの環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で元気に遊んでいた。	2.対象児の近く見ていた	至近距離で本児をいつも登るのを見守っていた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた保育者がそれ別の児童とわ関わっていた。	担当職員が本児の体力の認識に甘い部分があった可能性がある。	日常的に子ども一人一人の体力を視把握する視点を、ケス記録を記入する際に意識する。	
7677	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	0	0	0	9	11	0	0	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕通顆骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	個々の興味や発達状況を把握する。	遊びがエスカレートしないよう声掛けが必要。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	乳児向けプラスチック製滑り台の低い高さの飛び降り事故。飛び降りを2名で始めた。	乳児向け遊具で遊びがエスカレート。このままでは大丈夫だろうと過信のあったのないか。早めの声掛けをする。	3.個人活動中・見守り	本来滑り台は滑るもの。遊び方の注意が必要。	遊びのルールを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段は静的な遊びが多い。主に室内ではとおく遊びをすること好き。戸外では合っての男児と遊びしている。活発に動く男児に「面白い考えた」と言われ、飛び降りをする。交互に繰り返す。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	離れころ様子ていて、見て子どもが「落ちて、子蓄が怪我をしたときに駆けつけ、いたもがそばにいたった」と知らせに来た。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	4歳児担当としからいろいろ離れたところから見た。	本児のはいつもいつ行動以上のことをしていたため、そ行応るすばしきをこと必要だった。	個々の行動をしっかりとみる。遊びのルールを知らせる。	
7678	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	8	8	10	0	0	3	6歳	1.男児	いつものように3・4・5歳児合同で夕方の園庭遊びをしている途中だった	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	担任はお保迎護者に対応をしており、子どもの遊びの変化(ボールあそびの遊びかくれんぼ)に気付かず他の保育者にゆだねてしまってた。	夕方の保育については担任同士で連携しないこと起こるあろう事故を予測して配慮しく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	タイヤは子ども主体的に遊べるように置いてあり、使用していくにはならに使用しているが今回は遊びの延長で咄嗟に登まった。	子どもの様子を観察し、約束が守れていないときや危険な場合ども への声掛け寄り添い話し方を合い共有する。	1.集団活動中・見守り	日頃の子どもたちの動きや興味関心などを保育士間で共有しておく。	その時間は保護者対応にあ追時間で、合同保育中の遊び方考え、遊具の使い方、設置の仕方の再度確認しく。	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	夕方のあそびは、ボール一つからかくれんぼ鬼ごっこまでスカートをはいてエスカレーとして遊んでいたように思われる。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	夕方の合同保育であり、担任は他の保護者の対応を行ってそのから離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任がそれから離れた時の子どもの遊びの変化に気付かず、他者と携わってた。もは他の子どもとかかをしてきは見ていなかった。	日頃の子どもたちの動きや興味関心などを保育士間でお共有しておく必要があった。保育士の位置について立ち瞬死角になっていた。	毎日のミーティングで子どもの様子を伝えあい保育を合同で保育するときの明確にしておくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面									ハード面							環境面					人的面												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7679	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根出血(上左1番)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	玩具の提供の仕方の知識不足、職員間の連携不足	保育士の立ち位置の検討、子ども達の特徴、発成長、遊びの環境作りの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(0)回/年	3.未実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	室内遊びの環境設定の誤り、知識不足	絵本棚を玩具の棚から離して配置する(事故発生日は隣に配置)	1.集団活動中・見守り	玩具の提供の仕方、環境設定、保育士の立ち位置	絵本の使用時は子どもの成長、発達を考えて机上にする	1.いつもお様子であった	室内で過ごし、絵本を見る。ブロックがしたくなり、絵本を方付けて遊ぶ	2.対象至児の近で対象児を見ていた	絵本を見ている子の側に1名、色水ペットボトル、ブロックで遊んでいる子の側に1名	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	0.1歳児クラスの名担任4名クラスの各々が対象児に対象児に1名がついている2名クラス入る	戸外とは異なる室内で過ごしてた為、子ども動きに対しての意識が薄かった	どのような場面でも緊張感をもつ為、子どもの動きに注意を払う。また、しをもって保育(設定にあたる	なし	
7680	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	4	4	11	0	0	2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	当法人の保育運営マニュアルには、『遊具使用の際に配置しなければならない保育士の人数』にあせて、日に使用する遊具を決めるとっているが、遊具の年齢確認を怠ることに加え、事故のあった遊具の使用に不安がありながらも実行してしまった。	当法人の保育運営マニュアルを再確認するとと共に、徹底を行う。園長・主任が散歩時に増やし、職員の配置が適切か確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	事故のあった遊具の対象年齢が56～12歳、事故が起きた遊具(可動式雲梯)で遊んでいた5名(当該園児含む)は、6歳または5歳。対象年齢に達していない子もいた。子どもを常に補助ができる距離に職員を配置するべきだった。ただし、事故のあった遊具は、補助の職員を配置しても危険を防ぐことが難しいことが予想される。	ハザードマップに遊具の対象年齢を記載し、全職員に周知し、ハザードマップの確認を行う。園外保育リーダーが遊具の対象年齢を都度目視確認する。本事故があった遊具は今年度は使用しない。来年度は、子どもたちの身体発達に応じて使用するかを検討する。使用する際には、1対1で関われるように職員を配置する。1対1での配置ができない場合は使用しない。	1.集団活動中・見守り	場所を移動する際に、給食に動いていなかった。子どもが挑戦したいという気持ちと当該発達が見ていなかった。	活動の最中であっても子どもの動きが変わる際には職員同士の声かけを徹底する。散歩や戸外活動に園長・主任が同行し、職員同士の声かけの有無を確認する。子どもたちの身体発達を園全体で見直す。	1.いつもお様子であった	友達の影響で挑戦しようと姿はするいつもおりあった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	当該児童が挑戦する姿を近くで見守っていた。挑戦させて大丈夫かが不安だったが、当該児童の気持ちを尊重した際に抱えられる距離(雲梯横)で見守っていたが、落ちた瞬間のみ他児に手を引かれ、1m程度雲梯から離れてしまった。目視は出来ており落下の瞬間も見ている。	1.担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	当該園児の様子、周囲の他児や担当職員の動きは把握していたが、落下瞬間目視することはできていない。	当該園児体発達について、問題ないだろうという通信があった。職員が安全な状態で続けさせてしまった。	挑戦する気持ちを尊重するのは、事故のあった遊具でなくてもできることから、事故の遊具は今年度使用をしない。	
7681	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	10	12	0	0	0	0	0	6	6	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ関節部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	その時そ時にヒヤリハットしたはでできるが過去にその生ヒヤリハットが発生したヒヤリハットなどが伝えられが伝えられない。	安全チェックシートでなくてマニュアル、玩具・遊具点検票の作成	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/毎日	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/毎日	園庭が凸凹していて、修繕箇所があり、修繕を素早く行う。	園庭の構造を知る必要があり、修繕が必要なところは避けて行う。修繕を素早く行う。	3.個人活動中・見守り	傾斜のある園庭だった為滑りやすかった。	滑りやすいところでは抱っこせずにしっかりと手を繋ぐなどを対応するべきであった。どのようなところの危険があるかを把握しておく。	1.いつもお様子であった	健康面で好で良好は部屋に戻ることが嫌がいた。	1.対象児とツーマンマンの状態(対象児に接していた)	部屋に戻嫌を述べている職員がっつ児に抱っこで対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は見ていた。	員園庭の遊び守っ他の児を見ていた。	嫌がっている時は無理に部屋へ連れて行かず本気で向き児が来るまで待ってもよかった。	片付けや移動の際は子どもたちのいろいろな場所に行動もいろいろな場所へ散ためば広い視野であらゆる場所を見ていく。	
7682	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	0	0	0	2	3	1	0	0	2	2	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	顎の内出血と左下犬歯上部の欠け歯のエナメル質の欠け	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	事故に関する研修は行っているが、園としてない箇所のクレームもの危険行動の分析等をしていなかった。	園内のヒヤリハット地図を危険個所を作成し改善職員に共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	保育室内の机やロッカーの配置(子どもが躓こうとする環境)	部屋の出入りの口まで動線や視野を妨げるものがあったので、部屋を区切り机を配置をしたり配置走らない環境に変更する。	3.個人活動中・見守り	他児が降りるまでの流れとして、出入口まで走ってきて見うとして、走ってしまうことが原因である。	室内では走らないよう注意喚起を徹底する。ってもこれは子どもの走るには発達の都度声掛けをする。	1.いつもお様子であった	夕方の降園までの自由遊び時間は、いつでも他児と一緒に、おとやおままごとをしてロックして過ごす。当日もとりつもりままをしていた。	4.対象動見いなった児きていかった	壁側のロッカー前付近、机上をあそびている達子どもの見守りしていて、対象児の動きをて、児の動きは把握していなかった。	1.対象者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児が降園すると、いつも対象児お見送に来るお迎えきに、対象児がおままごとのままコーナーからのを見守っていた。	他児が降園すると、いつも対象児お見送に来る出入口から見守っていた。	二人の職員の位置や把握する子どもの担当を決めていなかった。	夕方の自由遊びの時間は、一人降園対応をするので、もう一人の職員が立ち位置を考えて全体をみるようにする。	由時間は、職員が降園対応をするので、もう一人の職員が立ち位置を考えて全体をみるようにする。	
7683	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾中骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	部屋遊び中の職員の配置場所にも気をつけるの。	マニュアルを読み把握しておく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/月	日々の安全点検を職員共有し、事故に繋がらないようにする。	点検時だけでなく、常に全点検を行う	1.集団活動中・見守り	全体が落ち着いて過ごしている状態だったので怪我などは起こらなかった。	危ないことなくなるようなことはないかけ、見守る	1.いつもお様子であった	周りの事が気になった	2.対象至児の近で対象児を見ていた	見ていた。ケガが、を止められなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていた	まさかとは思わなかった。危険予測ができていなかった。	子どもの特性を理解し、危ないよう声掛けし、見守るようにする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																													
7684	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35	0	0	10	10	8	7	0	0	6	5	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	異年齢での保育中は、年齢の小さいお子さんが手をなるので、職員間でかりを連携を取りながらいる連携配慮して不足していた。	職員同士で、危険個所や、園庭での職員配置など、事故防止のヒヤリハット事例を参考にしながら、再確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具で遊ぶ際は、正しい使いかたをしていても、常に事故が起きることを想定する。	遊具の使い方、遊び方も職員同士で共有すると同時に、子どもたちにもわかりやすく発信していく。	1. 集団活動中・見守り	年度替わりで、子どもたちも高揚していることを十分に配慮する。	子ども一人ひとりの動きや予想される行動を、職員間で共有しながら、遊び見守り、事故を未然に防ぐようにしていく。	1. いつもお様子のもりの子であった	いつも通りの様子であった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	見守りをしていた転倒することを予測できなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の固定遊具で遊ぶ子どもの見ているのをした。	日使っている遊具であった慣れ日用いるあが、これ生じまた結果であったもらるこのもしまった。	園庭遊びでは、行動範囲も広いので、職員同士の連携と、よく子どもの動きを把握することを徹底する。	
7685	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20	0	0	0	0	10	10	0	0	2	2	5歳	1. 男児	特記事項なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	マニュアルの読み合わせ、つの事例について読みを返行ている考える要因はなし。	継続してマニュアルの読み合わせ、系列園でこった時の事例の読み合わせも継続して続けていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園庭遊具に毎チェストにとしているため、その要因なし。他は特にし。	園庭遊具や玩具について毎朝確認チェストにていたため、ク後も継続に行く。	1. 集団活動中・見守り	園庭でボール遊び・鬼ごっこと注意する必要があるため対数+1の配置を行っていたが、活動に対しては不足していた。	複数の活動を行う際には、対人数+1で配置を行っているが、場合によっては活動を選定するか更に活動時に人を補充する。	1. いつもお様子のもりの子であった	追いかけっこを行っていた鬼を気にしてこちらあちこち余所見をしていた。	3. 対象児のところで対象児を見ていた	砂場付近で遊ぶ子ども達で遊んでいた。他職員から入室にて声をかけられたが、自分の持ち場は離れていない。該当児が園庭転倒する姿は見えていたが届く位置ではない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭中央にて、サッカーをするグループと鬼ごっこをするグループを見守っていた。入室の流れについては当職員と話を行うため、持ち場を離れ、職員がいる砂場へ移動した。(職員同士の距離は1m程)	事故発生時、職員同士の流れについて話し合い行った。	子どもの動きの流れについて、子どもの活動中に話し合うので、活動が始まる前にお決めておき、活動中は子どもの近くで見守りを行う。	
7686	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	27	0	0	0	9	10	8	0	0	3	3	3歳	1. 男児	普段から3～5歳児ｸﾗｽで戸外遊びをしている。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	保育士が1人、5歳児と水やりをしていて園庭は3～4歳児と2保育士が人がい。1人は全体を見ていて、1人は一緒に遊んでいた。転倒を防げなかった	園庭にあるものは埋めるかすかるかすかなくその遊ばせないかする遊び	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/月	点検はしているものの特定しるを点検しない	点検をしている際にもこの転倒にもでたらえるに点検する	1. 集団活動中・見守り	3歳児から5歳児の保育中ほぼ自由園児遊だけでるようしている	サッカーする場や所を乗る自転車を場所を決めていく	1. いつもお様子のもりの子であった	他児より活発で動きが多い	3. 対象児のところで対象児を見ていた	他の園児水と花にをいた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人は全体を見て1人は園児は一緒に遊んでいた	異年齢児保育を行っているがあ担当がげ当士るべきだ	普段から動きが多いため、担当保育士がより見注意深く見る。遊ぶ場所を決めて安全に遊べられるようにする。	
7687	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	25	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剥離骨折、打撲、傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2. 基準配置	進級に向けて大きくなった自信とかなり大きくなった自信心を持ったら石をみたのだと思う。	子どもやってみたいのみたいとを気持ち受け入れ「一緒にやろうね」と促す。	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	大きくなった自信心とびと探求心からの行動、実際に砂場では上手に歩けなかった。	公園内安全点検。危険物を撤去できる時は、保育士が子ども達に伝達し、保育所にその場所から離れる。	1. 集団活動中・見守り	砂場が柔らかだったか、本児の歩きが不安定だった。	危険物の撤去。	1. いつもお様子のもりの子であった	探求心がたっぷりで活動的であった。	3. 対象児のところで対象児を見ていた	本児が砂場で遊んでいたので様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園の遊具を固定遊具や他児を見た。	本児が大きくなったと喜び自信と探求心がくなったと心行動をのだが、砂場では手とけを離すことができなかった。	危険と思われる場に、声留がけをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制															事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7688	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3歳	1. 男児	特に無し	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第一趾中足骨基部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	全体を見渡せる所に保育士が配置しお、配置人数等においては問題はなかった。	明朝後日、園長、総主任、主任のミーティングにて事故について共有し、直後に主任が各クラスへ報告伝達し注意喚起した。翌日、ラーゲー会議にて詳細を伝達共有後、事故検証を園長、総主任、主任、看護師、担任とで行い、その内容を職員に紙面にて周知徹底した。●●乳児会議にて事故の詳細やその後の本児への対応などを伝達共有し、乳児全体での協力体制を整えることが出来た。また、改善策を具体的に伝えた事で、乳児全体で再発防止策を共有することが出来た。●●日の職員会議にて、再度園全体への周知を行った。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	引き続、遊ぶ点検前に行い安全対策に努めていく。	6. 食事中(おやつ)	対象児は、一番になる事に対して嬉しいものがあるいちのりした走りなどではないかと推測される。	日頃より室内ではゆっくり歩く事を伝えている。また、継続した声掛けを行っている。また、広いスペースがある事により走りやすい状況を防ぐ為、①子どもの動きに合わせて職員を配置し落ちついて過ごす事ができるような時間を作る。②レジャーシートを使ってピクニックを想定した保育などいつもと違う環境設定をした際には、保育室の手面にテーブルを配置するなどして気持ちの居りを抑えるような工夫をしていく。	1. いつもおりの様子であった	受け入れ視診や保護者引継において、面および精神面でも変化は見られず、落ちついて過ごした。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	3名の内の1名の職員は、他の子どもの検温を行っていた為、少し離れた所から全体を見守っていた。もう1名は、手や口拭きの援助を行いながら、対象児を位置に立ち全体に目を配っていた。また、もう1名は、床のモップ掛けを行いながら、子ども達の様子に気を配っていた。職員間で声を掛け合い、子ども達の流れに合わせた対応を行おうとしていた矢先であった。	1. 担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員3名対象児対して上記の通りの位置で対象児の動きや全体を見ていた。付近には実習生1名おり、おや介助つのをした。	当時の状況において保育士全員等は全見渡せる位置配置していたが、検温や拭き掃など業務も同時進行で行うようにし、拭き掃除については職員の人数に応じて行う。	落ち着いておやつを食べていた事によって、そのような業務も並行していたが、おやつを食べ終わった子どもが移動した際には子どもの動きに合わせ名職員を1名配置する。職員配置検温はおやつの摂取時間と同時進行で行う事にし、拭き掃除については職員の人数に応じて行う。	
7689	令和4年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	5	10	0	0	0	0	0	0	5	4	2歳	2. 女児	水遊び前の準備で1歳児保育室で0歳児クラスと合同で体操を行っていた。	2. 室内活動中	1. 負傷	4. 創傷(切創・裂傷等)	2. 顔面(口腔内含む)	顔面挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	なし	職員配置は問題なく、事故予防につての認識もあったが、さらに認識を強くする為、理解を深めるために「事故防止と事故対応」資料、または過去の事例を参考に園内研修を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 集団活動中・見守り	A→見学予定の子どもと水遊びを行う子どもと分かれる時間に考慮が必要であった。B→0歳児が一緒に体操に参加したが年齢差で動きも違うため一緒に行う活動には適さなかった。C→0歳児が睡眠をとるには適さない空間だった。D→体操に飽きる子どももおり、水遊び前の体操としての時間が長かった。	A→見学定の子どもが少ない場合は未選びを始める時に別空間に移動する。また見学予定の子どもが多い場合には体操前に別部屋に移動する等、それぞれの活動を落ち着いて行える空間を作る。B→0歳児は保護者付き動・動きが1歳児と違うため、体操などで個別に見守ることが難しい時は合同の活動はしない。C→水遊び前の摂取後の着替え・排泄・体操の体操にする子どもが飽きない活動を取り入れていく。	3. いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	今年度初遊び水遊びが「可」になり、体操開始前から気持ちが高ぶっている様子が伺えた。体操中、普段よりも動きが大きく、やジャンプも多かった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	0, 1歳児を囲むようにしてスタッフが配置されていたが、保育士は全員が対象児に対して、すぐに対象児の動きを止められる位置にはいなかった。	1. 担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当1名は子どもの動きが大きくなっていたため、他児の応おり、負担を状況ではなかった。0歳児担任は子どを抱っこしながら見守りをしていたため、担任もとこしらのりでなんだ瞬間に手を伸べることが出来なかった。	A子ども始めて様子を感じていたが、「この終まで」という持ちで体操を続けていた。B子ども抱っこしながら見守りではいざという時の保育士が十分ではなかった。	A→子どもの様子や状況を考えて、体操を中断する、子ども著しく落ち着かない子ども等に対する活動にの判断を行う。B→抱っこが必要な状況の子どもがいる場合は活動を分ける。	
7690	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	104			18	26	29	31			11	11	3歳	2. 女児	身長、体重など発達は良好。持病なし。当日の天気は晴れてよい気候だった。	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	腕骨遠位端骨折(左)	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	見守りの工を保育士を多く配置する。	戸外に出場合に、連携を取り子どもの把握に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	実施頻度(2 4 7)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	子どもの数に対して園庭が狭い。砂場が2つあり活動が制限される	子どもたちが、遊びやすい空間と動き考え遊具を配置する。	1. 集団活動中・見守り	子ども数が多かったため、遊んでいる様子全体を把握しかった。	ダイナミックなとき年齢遊びをすることにより時間をずらすようにする。	1. いつもどおりの様子であった	いつものでった方取り足元に注意がなかった様子あったが、気にられ、がなかった	4. 対象児の動きを見ていたか	クラス園の排泄児介助についていたため。	1. 担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	戸外で子ども過ごした	他児も児も互いに動き視界に入っておらず、他手車につまずいた。本お	全職員が、きめ細やかな情報交換をすることで、共通理解をはかり保育に当たるようにする。	
7691	令和4年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	19									5	5	1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A歯の陥入	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度3～5回/年	1. 基準以上配置		全職員で共有している事故予防マニュアルを改めて見直し、保育の安全管理に対する意識を高める。職員一人ひとり事故防止チェックを活用し、適切な対応が出来ようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(280)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(280)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(280)回/年	平均台が木製で、安定感がある堅い素材であった。	平均台の角に衝撃緩和のクッション材を貼る。	1. 集団活動中・見ありり		平均台が現時点で一人ひとりの子どもの月齢や発達段階に合るかが見極める。1つの遊びに保育士の見守りの範囲を超えてが集中しよう、他のコーナーもっと子ども興味を持てるような実さる。	1. いつもどおりの様子であった	平均台を、保育士とをつないでいる状態で渡っていたところ、あと少しで終わろうとに来てバランスを崩ままバランスを崩ひねるように反転落ち、平均台の端に台右をふる。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	平均台を対象児片手を対象児と他児の手ずつつ渡る手ずつなぎ、つへでいる対象児が終わる手を前につないで進んだ。ままバランスを崩した際、何とかこうとが直とした、対象児は平均台右の端にの前歯けをぶつけまをてう。	1. 担当・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1歳児クラス室内には4名、屋外に1名の保育士がいた。平均台には、対象児と他児の手をつないだ保育士の後ろから、もう1名保育士が他児2名の手をつないだ状態でついていた。あとの保育士は山にマット1名、ミニカーに1名ついていた。屋外の保育士は戸外遊びの片付けをいた。	保育士が対象児児の手ずつないでこと、対象がバランスを崩した時にフォローしきれなかった。	対象児は新入園児で、平均台に慣れていなかった。平均台を渡るにあたっては、子ども1人が1人手をつなぎ、ゆとりを持ってつく。	
7692	令和4年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40			8	15	17				2	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		子どもの動きを先読み、予測して行動する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		壊れている等なったの要の善策はなかっでと特にし。	1. 集団活動中・見ありり		子どもの色々な行動を予測し、子ども様子一層のものに注意をする。	1. いつもどおりの様子であった	外遊び中、ステージへ向かっていた走った	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児から至近で対象児を見ていた	2. 担当・対象児の動きを見ていなかった	対象児のみではなく全体を見ていた。		子どものいろんな行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面								ハード面								環境面				人的面							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7693	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29			10	19				3	3	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝よによるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	特になし	活動の為の準備中であっても子どもたちの様子を注意して見守る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(56)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	室内設備から離れた場だったので改善策として特になし	1.集団活動中・見守り	離席していた	活動の為の準備中であっても子どもの様子を注意見守りしてる	1.いつもどおりの様子であった	離席していた	4.対象児の動きを見ていなかった	次の活動片付け・掃除の机を拭く	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育中	特になし	活動の準備に1人と見守りに1人の配置	
7694	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20								2	2	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	頭部打撲傷・顔面裂創	2.自らの転倒・衝よによるもの	2.なし	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故報告書にて職員にし、全体把握を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		再度遊具等に不備・破損ないかの点検をする。	1.集団活動中・見守り		職員の配置を直し全体が把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達とゲーム(追いかけっこ)をしており前を向いておらずに遊具にぶつかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為、動きを見ず出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のではなく全体を見ていた。		職員の配置を直し全体が把握できるようにする。	
7695	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15								1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	急性単純性歯髄炎・外傷性歯の打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		今後も、園内研修等を開き、改善点があれば毎度マニュアルを見直していくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		日頃から危険な箇所がないか点検を怠り、以外にも意識を確認してもし、危険な行動を見つかった場合には、報告・改善するようにする。	1.集団活動中・見守り	本児の椅子の両側が園児が居たため、おも方後ろ座りとしまうよう。	生活や遊びのマナーを身につけ、危険な行動をしないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を対象みていた				椅子の座り方を再度クラスで確認しあい、危険な行動をしないようその都度声掛けをしていく。	
7696	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18								2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	創傷	2.自らの転倒・衝よによるもの	2.なし	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		今一度、研修等で職員間で周知し、危険個所を把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回は壊れているなかった低いが、段差でも怪我につながる事を認識し、今後気をつけていくよう心掛ける。	1.集団活動中・見守り		全体把握に努める。	1.いつもどおりの様子であった	ホールの階段をのぼっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため見ていなかった。		他児の対応をしながらも全体を把握できるようにしていく。	
7697	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19			13	10	14	0		4	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼切創・皮脂欠乏性湿疹・細菌性結膜炎・擦過創	2.自らの転倒・衝よによるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	特になし	特に活動が切り替わる時は、子どもの動きの先読みを予測してする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	ロッカーにふっかりクッションをつけた防止ぶつ	3.個人活動中・見守り	特になし	遊びから片付けなど、活動替わるときは、特に気を配り子ども動きを見守る	1.いつもどおりの様子であった	まままごと終遊びを、玩具のを片付けを行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしていたため、つまずいたつて倒れた時に間に合わず危険回避が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具を片付けたり、イレ助ってイレを行っていた動きを見ていなかった。		特になし	遊びから片付けなど、活動替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守り、職員の立ち位置等を見直す。	
7698	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37			13	10	14	0		2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折、右有頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	鬼ごっこ合にて遊具を利用した。	総合遊具方遊びの、こと共にを、もと共に再度確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	劣化や破損だけでなく、滑りやすさ等の確認も行い、情報を共有する。	点検内容部視以外の目でな手足分だけで、触れて確認する。	1.集団活動中・見守り	天候等の遊具への影響も把握する。	定期以外で、天候等不良後等も点検を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で、他の園児と総合遊具でいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼をごっこしていることは把握していたが、園庭内の他の園児の対応をしていたので、事故の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きは把握していたが、園内の他に遊具の園児のしていたので、事故発生時の姿は見ていなかった。		可能な限り、配置基準以上の状況に応じた職員に努める。	個々の特性に応じた配置の確認を再度行う。	
7699	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73		10	17	22	24			7	6	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		保育士が子どもの様子をしっかり把握する。再度、確認する。また、鉄棒などでは保育士が側にいない時は遊ばないように子ども達に知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(25)回/年		遊具など、遊具の点検、また遊具で怪我をしないよう見えるくかがくか等気をつける。	1.集団活動中・見守り		子どもの行動を予測し、子ども色々な様子を一層のに注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り好きで遊具でこんなあそんでいた。この時は5才児のあとをのあとをついていった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の方子を様子をもてみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもを中心に見ていた。		子どものいろんな行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握する。	
7700	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22								2	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		対象遊具の最上部横棒にはぶらないものを決め園児・保育士への周知、確認の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		最上部に下ぶらないがらように指導	1.集団活動中・見守り		子どもの行動を予測し、子ども色々な様子を一層のに注意をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	オリンピックの鉄棒競技をみて真似をした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象者をみていたが、一瞬が、目が離れていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	うんていで遊んでいた園児は1人で、他の園児を見ていた。		撤去も考えたが、より棒遊具は子供の体発達に効果があるので、遊ぶ際のルールの徹底及び見守りの徹底を指示する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																ソフト面					ハード面							環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7701	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	11			3	6	2			2	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折疑い 右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置	なし	転倒やケガについて起こりやすい場所、時間帯の把握	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	なし	環境での危険個所を再度チェックする	3. 個人活動中・見守り	なし	子ども達にも行動面において危険が少なくなる伝えていく	1. いつもどおりの様子であった	砂場で遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	仕事分担の為、他児の入室の声掛けをしていた	なし	人員を増やす、急がず行動出来る時間配分を心がける	
7702	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	19									4	3	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右目瞼切創・皮脂欠乏性湿疹・細菌性結膜炎・擦過創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特に活動が切り替わる時は、子どもの動きを先読みし予測して行動する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	ロッカーにぶつかり防止クッションをつけた	3. 個人活動中・見守り	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配りながら子どもの動きを見守る	1. いつもどおりの様子であった	まままごと遊びを終え、玩具のを片付けを行っていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしていたため、つまずいて倒れた際に合わず危険回避が出来なかった。	他児と一緒に玩具を片付けたり、イを助けを行っていたため動きを見ていなかった。	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守り、職員の立ち位置等を見直す。	
7703	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	14									7	7	1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)		2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	トンネルがつぶれやすい状態であった。	補強予定であった。補強するまでお外しなどのすべきなくなる処をすであった。	3. 個人活動中・見守り			1. いつもどおりの様子であった	・普段から気に入った場所であった。	2. 対象至対児の近で対象児を見ていた	・トンネルの側に居たが、むってきた子に対応できなかった。	・それぞれ近くにいた子どもに対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	走っていた子がそのままトンネルにぶつかると思わなかった。	子どもの性格等把握しうえで行動を予測し保育をする必要がある。	
7704	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9	2	2	5						3	3	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 基準以上配置	マニュアルや研修について共に職員と共通理解を図る。	マニュアルや研修について職員と共通理解を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	怪我をした時の応急処置についてマニュアルを参考にした。	安全な環境構成の工夫。	1. 集団活動中・見守り	本児がワイドパンツの裾にまずいつまずいて転んだ。両手に玩具を持っていた。	子どもがまずいと動きにくい服を着ていた場合は着替える。両手に玩具を持っていた場合、声かけをしないように危険のない見守る	1. いつもどおりの様子であった	興味、関心ありまままごとを遊びをしていた。	2. 対象至対児の近で対象児を見ていた	一人一人よくない姿を見ていたが他児ついて抱っこくったを抱っこしていて時に、すぐ防ぐことができなかった。	0歳児、1歳児と混合保育をしていたこと、他児ついて抱っこしていて防ぐことがすぐできなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	混合保育なので、低年齢に意識が向いてしまった。	子どもの動きをよく見て、連携を深める。	
7705	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	25			5	13	7				4	4	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2. 基準配置	片付けに気を取られて、目がくばりなど足りなかった	片付け時の保育者の位置配慮の確認	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	落下した箇所にはマットを敷いていなかった	危険と思われる場所にはマット等ようする敷くに	1. 集団活動中・見守り	異年齢合同で片付けかかるに目がいった	遊戯室で子は常に子どもの動対応よきるできるように	1. いつもどおりの様子であった	片付けと聞き急いで大型ブロックから跳び下ろしたりした	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	片付けを子ども達に呼びかけたが、目をむけて、聞いたが聞に合わなかった	それぞれ保護者の子周辺の子ども達と一緒に片付けていて体をいなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	片付けの時間にも大型ブロックから離れてしまった	片付けの時間は大型に乗をロックしない事を子約束し、どもがいなくなるまでよ側につくるにする	
7706	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	14				8	6				2	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	遊具に立ち上がり約束をしないが常に遊び慣れている遊び具だったため、ようこと我やつこと怪故がを予測していなかった。	子どもの発達や遊び方に関かり、怪故を想定し、怪我や事故がを想定して職員位置や環境を整えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(100)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(100)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	遊具は点検、修繕済みで安全だが、遊び方の把握ができていなかった。	普段遊びでいる場所で慣れる事故なく性が大きく市ることに意識して保育する。	1. 集団活動中・見守り	靴を履き替えて庭に出ようとして、一番なるとなる靴に気持ちが高ぶり、遊具に立ち上がる行為になってしまった。	活動の中で予定、方に子に知って方に達に知って動ども達に知って動ども達に知って動ども

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7708	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	30									4	3	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1. 基準以上配置	安全委員会で園外の危険について確認していたがマニュアル化していない。	園外マニュアルを追加する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	足場の悪い場所でこけがをした。	足場の悪い場所でつまずかないようにすこしようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	園庭ではなく公園の野原（砂地）でのかけっこのためにくかった。	運動会練習は園庭で行うようにした。	1. いつもおりの様子であった	応援されたことで、頑張ろうという気持ちになったと思われる。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	かけっこの練習中のスタート地点でスタートの合図を出し、走っている姿を応援していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴールした子どもたちや、スタート地点にいた子どもと一緒に応援した。		園児の動きに注視した、ケガをした場合は適切に対応できるようにする。	
7709	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23									2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1. 遊具から転落等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	新入園児であり、まだ遊具の使い方に慣れていなかった。また、見ていた保育士の立位置が適切であったということもある。	保育士は全体が見渡せる位置にいるよう連携を取りながらこどもの見守こと、また、遊具の使い方を子どもたちに伝えたいと思います。	1. 集団活動中・見守りあり	入園して以来の動きを考えると、活発なので担任が、見守りの保育士に注意して特にしてみてもらうよう声をかけていたらよかった。	見守りの保育士の立ち位置・目線を考える。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	新入児であり、まだ遊具の使い方に慣れていなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は職員朝礼に出るための場を他の保育士にまかせて離れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守っている保育士は遊具側ではなく園舎側を向いていた時のっていた。もう保育事である。1名の保育士は他子どもの様子を見ていた。	見守りの保育士の立ち位置・目線を見直すことが必要。	遊具の使い方の確認、子どもたちの遊んでいる様子を見て、危険な遊び方をしていないか見直す。	
7710	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12									2	2	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節捻挫、左腓骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/２４/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	地面が乾いていて、園庭の砂で滑った可能性がある。	園庭の地面が乾いている状態なら、しっかりと水を撒く。	1. いつもおりの様子であった	いつも通り、元気に走り回っていた。１６：３０からの担任保育士以外が保育する当番保育の時間においても元気でいつも通りであった。母親が迎えに来るまで、誰にも足の痛みのことを伝えていなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児が鬼ごっこをしていたことは知っていたが、ひねっをとこころたは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の降園準備の対応をしていて、本児の動きを見ていなかった。	遊びを見守る保育士と降園準備を補助する保育士との連携が不十分な面があった。	複数の保育士が連携して視野を広げ児の動き把握をしたりに、当番保育に移行する前に、児の様子を把握できるようクラスで集いをしたり個々に声をかけたりし担当保育士に児から発信できる場を設ける。	
7711	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	61	3	9	10	13	13	13	0		8	8	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端亀裂骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	個々の発応じ実践ていかった。人工芝に慣れていなかった。	個々の発応じ運動等を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	人工芝に慣れていなかった。	人工芝に慣れるよう、外遊びの機会やしびのを増やした。	1. 集団活動中・見守りあり		個々の状態を把握し、子どもから目を離さないように見守り、危険なことは声掛け等を行う。	1. いつもおりの様子であった	いつも通り、機嫌よく好きな遊びをしんでいた。	2. 対象至対象児の近児を見ていた	遊具や、築山、砂場等、危険が予測される場所で遊んでいる子どもを見たり、危険な行為が見られた際には、声かけ等をしていた。				予想外のことが起こることを想定しながら保育を行う。	
7712	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15				4	11				2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右膝脛骨遠位部骨折	1. 遊具から転落等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/３年	1. 基準以上配置	園庭で遊ぶ4，5歳児に3名の有資格保育教諭配置していた。「止めて」と言った対象児は、実習生が止めに飛びついて、勢いがついた着地をし、足を捻った。	実習生に任せず、保育教諭の立置をかり認し合う。ブランコの乗り注意事項（動いている時には、乗りしない、降りない、飛び降り等）を園児と確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		本児が乗ったブランコは、安全確認ができていない。今後は、遊具の使い方、保育教諭の支援の仕方の再確認をしあうことが必要である。	7. その他	動いているブランコから飛び降りてしまった。	しっかりと遊具の安全確認を行い、遊具の使い方、降り方などについて指導する。	3. いつも、より活発で活動的であった(理由を記載)	実習生を独り占めできることが、嬉しくて気分が高揚していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	周りに有資格保育教諭がいた時には、気付いたく、対応に、間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	十分な人数の保育教諭が配置されていたが、他の園児の遊びを見ていた実生に任児生に対象児を見ていなかった。	実習生は、保育経験不足で、十分な補助、対応ができなかった。	実習生に任せるのではなく、保育教諭の配置を確認し合い、適切な援助ができる環境の下で園児が遊べるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7713	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									4	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	降園前で園児が落ち着かない中、棒雑巾除をしたこと、衝動的な行動をする子も多い中で、今回の姿を予測できなかったことが事故の要因。	園児がいる中では棒雑巾を使った掃除はしない。衝動的な行動しやすい園児に対して、様々な行動パターンを考えて対応していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり		掃除の時間を危険のない時間帯にする	1.いつもどおりの様子であった	本児は興味があるものでは危険だと分かっていても動きを止めることができないといったが衝動性が日頃から強い。本児がおやつ前の手洗いをするためのタオルをロッカーに行こうとしたところ、掃除中の棒を見つけ衝動的に飛んでしまった	4.対象児の動きを見ていたかった	掃除をしている時のてく目いらは本児ではいいが、担当職員の視界ができたのは間近ではいっ時にはにせまっていたので本児の動きも自動的に止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室内は担当職員以外の保育士が3人いた。1人降園前の準備ができたその確認とおやつのコーナーを見ていた。1人は寝起きで期限が悪い子の対応を廊下でしていた。1人は降園準備が終わった子を見ながら、降園準備が遅れている子に個別に声掛けをしていたため、本児の動きを見ていなかった。	・掃除の時間を園児が降園したあとにする ・降園準備ができた園児が集う場にはゴザを敷くなど視覚で分かりやすいようにする。	
7714	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80		9	12	21	16	22	0		2	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上骨腕外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		園内全体での既往の怪我やヒヤリハットについて話し合ったが、各クラス内での怪我や仕方についても話し合う機会を持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4 8)回/年		毎月の点検に、小所なども必要なについても職員間で共通理解をする。	1.集団活動中・見守りあ		クラスの状態や個々の性質に沿った遊び方の工夫や制限等を話し合う。	3.いつもより活発・活動的であった	勝負性のある遊び(ドッジボール)をしていたので、よく体も動き、ボール人の動きにも敏感になっていた。	2.対象至近児の見ていた	年長児22名のうち、10名が2チームに分かれて、ドッジボールをしており、近距離で保育士も声をかけながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記以外の子どもと遊んでいた。		子どもの気持ちの状態にも苦慮し、遊びのボールを取りに行った際の対応を工夫するとよい。	
7715	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									1	1	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		定期的に遊びから怪我が繋がる事故についての話合をしていく。		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあ		もともたちが駆け回るには十分なスペースだったと思うので、環境的な改善は必要はない。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで一緒に走り回り、他児を追ったり、ごっこ遊び鬼ごっこで楽しいた。駆け回る際、勢いよく互いの目がまらず衝突した。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	全体を見ていたものの、対象園児から離れて見ていたため、子どもたちが距離で守った子どもの行動を止めることができなかった。			子どもがたちが走る際、危険意識が薄れていた	保育者が遊びの中で危険を事前に回避しようと声掛けをしていく	
7716	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1 5)回/年	2.基準配置	発達・年齢を踏まえると、活動量が増え動きも活発になり、転倒やすると大きな怪我に繋がる衝突をすることが考えられるため、子どもの達にも活動前に十分注意喚起をし、約束事項を確認すべきだった。また、大きな行動前で子ども達も落ち着かなかったり、興奮している様子でも見られ、特に本児はそういった傾向の強い子でもあったので、より注意すべきだった。	活動前に子どもと注意点を確認すること、子ども一人一人の踏まえた特性をそれぞれに合わせて体をいくにまた、子ども達の様子を踏まえて容を予測し、行動をそれに合全てを見ようする。また、子ども達の様子を踏まえて活動を考え、行い考慮ようまた動内容をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあ	年齢・発達段階も高く、活動が活発になることがあるため、活動の場所の合人広さに合せて人数を調整することも必要であった。	今後は子ども達の状況に合わせて活動を安全に行えるよう環境を整えていく。また、子ども達も自身が危険に気付き、行動を避けることができるよう働きかけを促し、習慣付けられるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	常に活発な子どもであり、突発的、衝動的な多く見られた(ADHDの診断あり)。家庭とも共通認識していた。	2.対象至近児の見ていた	事故が起こる瞬間を見たいが、勢いが早すぎて止めることはできなかった。			特になし	特になし	
7717	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24		10	14						5	5	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員配置数については、基準通りで特に問題なし。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年		施設整備等、環境面には特に問題なし。	1.集団活動中・見守りあ		遊具点検等を行っており、園庭の環境面には問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、いつぱいだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児が危険な行為を行っていると気付き取られ、本児に向けて、本児に背をしまい、の動きを見落としまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、他児にも、と聞いて本児の動きを見落ていまった。		職員間で声を掛け合いながら、連携を図って配慮する必要があった。今後には子どもに背を向けることなく、一人の見落ないよう見守っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
7723	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	0	0	0	3	6	6	0		2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年			1.集団活動中・見守り			1.いつもどおりの様子であった	園庭の大型遊具の上（地面から約１８０センチの高さ）から飛ぶことに挑戦しようとしていた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていたため、大型遊具のようンプしようとした本児に、の状況に気付くのが遅くなってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいる職員が役割分担として、大型遊具から離れた場所に児童が居ているのをみた	大型遊具の下にマットが敷いてあり、ジャンプをしても安全な場所もあるが、今回はそこではない場所でジャンプしてしまった。５歳児年長ということから、挑戦しようと意欲的なものあったが、普段から遊具安全方法や懸垂で自身で伝える方法や児童考える機会をもつことが必要だった。	その時々の状況に合わせて、職員間で声を掛合い、大型遊具のまわりを巡回するなど意識していくようにする。また、園児全体にも裸足で地面に飛ぶことの怪我のリスクや どのくらいの高さから飛ぶと危険であるかを意識できるような声掛け、伝え方をしていくようにする。４・５歳児は、午睡前に話し合いの場を設けているので、その際に話題にできるようにしていく。	
7724	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	74				26	24	24			7	6	3歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年			1.集団活動中・見守り			1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	本児の活動場所が裏建物の裏になりにくかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった						
7725	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									3	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	遊びの中で気持ちが崩れて、クラス全体が落ち着かない雰囲気もあり、その中で担任間で共有が難しかった。	ようで違う見られた担任もと違う様子が伝え、状況を把握でいるのかどのなかしく。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで一緒に他児に鬼ごっこをして、他児に足を踏まれたと訴える。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員も一緒に鬼をして、本児は足を踏まれた泣くともあったため、踏まれた瞬間に担当職員も一緒に鬼ごっこをして、本児は足を踏まれた泣くともあったため、踏まれた瞬間に	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもと一緒ごっこをして、対象児から訴えを足を踏まれた状態を聞いて状態を確認が、腫れなどの症状がなかったことを見た。	外傷がなかったため担任間で確認せずに一人の判断で対応してしまった。	外見で傷やなくても安易に大丈夫だと判断せず、担任間で情報を共有し、所長と看護師にも必ず報告をし、複数人で対応方法を考えていく。	
7726	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	120	0	0	0	38	46	36			9	9	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	開放骨折に準ずる左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	他児が砂遊びをしている、不安定な砂場の中で走ったと考えでためえる	園庭での遊び方について、再度こと指導する	1.集団活動中・見守り	複数のクラスの子どもたちが過ごす中で為、子どもの予測不足さがしていたと考える。	園庭での遊び方について、再度こと指導する	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	怪我をする少しは本児の側にいたが、他児とかかわるため砂場から離れた、事故の瞬間の動きを見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった。	他の園児にかかわっていた。		園児に対する職員の人数は十分であったと思われるが、一人一人の動きを十分予測し保育にあたる。	
7727	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	0	0	0	27	29	0	0		10	10	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨（尺骨）骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		年齢発達に応じた運動遊びを使った方の遊び確認・共通理解を職員間で行う	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年		今後も今どおり点検を行う	1.集団活動中・見守り		５月の３歳児の戸外遊びの方法、３歳児の鉄棒の使い方を検討し共通理解する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近距離で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)			個々の力量を把握している保育士が傍らで介助する。	
7728	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0		3	3	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	2.基準配置		・床材など見ども、新たに考えられる危険を見つて対策を考えて丁寧に、子どもたちの保育で伝えも保育に及ぶ、が予想とが及ぶことができる必ずは職員つく	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		・床材など見ども、新たに考えられる見つて対策を考えて丁寧に考える	1.集団活動中・見守り	・トイレに行ったり、廊下に出て子どもたちの姿をしっかり見守る	・日常の中で子どもの行動を丁寧に見守り、危険な行動がないかしっかり見ていく	1.いつもどおりの様子であった	・友だちと一緒にトイレに行こうと廊下に行こうとして	3.対象児の動きを見ていなかった	・戸外園の入口から中に入ってきて状況で、トイレに行こうとしているものは、外にるものは、子どもたちの様子をしっかり見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・重度の必要な子どもについて支援がいたり、戸外にまだ遊んでいるものにん子どもたちが保育にあたった	・保育の中で時間差が出て、保育者の見守り充分ではない場面が出来る	・担任以外の保育者も子どもの動きを丁寧に把握し、保育者間の子どもの姿の共有を行う。（ヒヤリハットも含めて）	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
						発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面				人的面								
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7729	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	24								3	3	3歳	1. 男児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	研修などを実施しており、子どもの特性も把握したが、危機予測が不十分であった。	常に危機管理意識をもち、子どもへの関わり、事故や怪我への仕方を職員で共通し、実際に対応できるようにしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	容易にロッカーに上ることができるようなものは排除しておく。	日頃から、危険な個所がないか複数の目で確認する。	6. 教育(おやつ)	日頃の環境や保育内容と子どもの様子を見ての危機予測ができるようにする。	職員同士で声をかけ合い、本児の動きを予測し、危機意識をもてるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	椅子に座を食事した。食事中の途中で一人のあったが、ロッカーまで行き登った。	2. 対象児の近で対象児を見た	本児がいつもより落ち着いて食事をしていたため、職員は他児の食事指導を行っていた。ロッカーに登った際に声をかけるが、本児が飛び降りる、泣いて痛みを訴えたため、異変に気付いた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の食事指導、食事をしながら全体ラスを見守っていた。	危険な行動があったときは、してはいけないことを都度伝えていたが、不十分であった。	危機管理意識を常に持ち、日常の些細な動きや行動も、時には事故や怪我につながることを常に念頭におく。	
7730	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12	0	2	1	3	3	3	0	3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨折	1. 遊具などの転倒・衝突によるもの、落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置		マニュアルを基本にしつつ、異年齢児が集まってのびのびとした保育を心がけ、実際の想定的な研修をして実施する。	1. 定期的に実施	実施頻度(２５)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２５)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄棒のに敷たしとなるし簡物をいつかたを敷物いが、りマックその見ども自身もあるこの環境で、子ども危険かないをきこうとうる。	1. 集団活動中・見守り		鉄棒遊びを安全に出来るように遊び方を子ども共に再確認し、より安全面を意識しながらよる。普段のクラスを越えて保育者が共有し、配慮点を明らかにしておく。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であったが、普段には鉄棒に座ることは不安定なことがあった。土曜保育で、園庭でゆったりと遊べる時間に友達とやりたいことに挑戦しようとした。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	3歳以上児複数人を見守っていた。複数の固定遊具で遊んでいる子ども達が、すべ付けおりながら、他の子ども台に座り、様子も見ていて、鉄棒で遊んでいる本児が落下する姿を見て、すぐに様子を確かめ、他の職員に様子を伝えた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では3歳以上児と未満児が分けて全体で遊んでいた。未満児は遊び砂場でおり、保育者が1人ついていた。もう全守は1人は園庭の1体を見守り、合間に園庭の片付けもしていた。		複数の固定遊具で遊ぶ際には、子どもに合わせて高さリスクの高い遊具を見付け、それぞれの遊具に保育者が1人ずつ付け人ずる様に配慮する。	
7731	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	7			2	3	2			1		3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	職員の危機管理に対する認識が不足した活動前に下なり十分な行なり見えず、安全確認が足りなかった。	引き続き活動前には下見を行い、安全を行うように確認をする。	1. 定期的に実施	月1回実施	1. 定期的に実施	月1回実施	1. 定期的に実施	月1回実施	園外活動安全の事前確認が不十分だった。	園外活動においてのチェックを行い職員共通の図を員内で共有する。	1. 集団活動中・見守り	足元が砂ぶ滑りやすく、転ぶ危険性があるが、足元が砂や危険性と認識がなかったこと。	下見を行い、危険箇所を確認し、そこで近くを見守る。	1. いつもどおりの様子であった	友達とお楽しんでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	帰園の準備中にあった他の見られながらの対応だった。				少人数上り、近隣でもあった一見ていたので対応が遅れた。	今後は、少人数の園外活動においても複数の保育士が見守る。	
7732	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	6	1	5						3	3	1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		1. 意識不明	1. 頭部	不明	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置		子どもの行動についての観察の重視、普段の様子の把握	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもが転倒した危険物の撤去、棚等の角のガード	1. 集団活動中・見守り	机等出ていない状態で、自由に動き広さはあった。その中で、走って転んで遊んで転倒。すべらないように靴は履いておらず裸足だった。	保育士の見守り中で、遊び、危険の行為ではないかを確認する。	1. いつもどおりの様子であった	日頃から友だちと追いかけあそび等は好きで、楽しいんだ。当日も同様に遊んだ。	2. 対象至児の近で対象児を見た	転倒したすぐ時に近寄ったが、おこをぶつけ、泣いた抱げてにでこのき上ベットに横にする。意識が飛ぶ、眠るといった異変き、近くにいた職員を呼ぶ。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の別コーナーで他の子遊んだ、そのどんでいた場面はなかった。		歩き方や転びやすさなど家庭での様子も含め、こどもは成長ことはなかったか確認をする。保育士の立ち位置はどこであったか再確認する。	
7733	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10		7	3					3	3	1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置		マニュアルに沿った研修や基準に合った保育士の数配置した。今回のような事故が起こることも考え、研修をしていくが。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	定期的に、また、不良か所があった場合はその都度修理・改善を行っている。回はどこで骨折したのか不明であった。	1. 集団活動中・見守り		転びやすい足元にある気に付けるこどもが確認できる保育士の位置に留意する。	1. いつもどおりの様子であった	歩きまわることが好きで、転びやすい	2. 対象至児の近で対象児を見た	長時間保育時は保育士3人で保育を担当していた。保護者のあるときは、保育士1人が対応し、2人の保育士は保育を行った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長時間保育時は保育士3人で保育を担当していた。保護者の迎えがあるときは、保育士1人が対応し、2人の保育士は保育をていた。		言葉で伝えることができない子に普段と違った様子があれば、どこか異常がないか全身の視診を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面						人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																		
7734	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									2	2	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置		・裸足保育の時は、ＫＹＴをして安全な遊ばせ方で共通理解する。 ・家庭用ミニワゴを使用する時は、ズックを履くようにする。 ・移動する時は、つかまるなどするぶつかることはけるために保育士がついて声をかける。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	・家庭用ミニワゴは子どもが使うもの。安全なサイズと作り方や素材、どもが使うもの。安全な思いやすさなどが子ぶつかった時の危険予知ができなかった。	・移動時は、骨組みクッションを使用して衝撃を和らげる。 ・家庭用品を園児に貸し出す時は、職員が遊び方を確認し、安全な使い方を子どもに使い方を知らせる。	3. 個人活動中・見守り		移動販売ごっこに等が保育士ついて遊ぶようにする。	1. いつもどおりの様子であった	移動販売ごっこは何回か経験していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	これまで何回か移動販売をしていたので、ついていてもなくて大丈夫と思い込みがあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で折り紙コーナーで遊んでいる子の見ていた。		どんな活動をしていても大丈夫という思い込みをなくし、起こりうる危険を予測して対応できるようにする。	
7735	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	3	0	1	2						1	1	1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折 尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	保育士1名で保育していた。	保育士配置を複数体制にする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度随時	汗をかくので、時期で面がやすく滑りやすくなっていた。	遊具の状態確認に必要な面を拭く等する。	1. 集団活動中・見守り	マルチプレイジムの周辺に部分的にマットを敷いていた。	年齢や子どもの遊び達の適した遊具を準備し、危険が予測される箇所全てにマットを敷いておく。	1. いつもどおりの様子であった	マルチプレイジムの階段が上手に登れず、いつも遊んでいたように滑り面の下方から四つん這い登り始めた。	2. 対象児の近で対象児を見た	滑り台の対象横で対象児ともう園児を見ていて、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。			滑り面が下方から登る遊びを容認していた。	担任している中で一番年齢が低い対象児に合った遊具や安全面への配慮を十分行い、常に保育士が瞬時に対応できる位置で見守る。	
7736	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	15									3	3	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置		・ヒヤリハットの報告を細かく行い、職員共有間で共し、危機管理を高める。 ・転倒から身を守ることにつながるような運動遊び、日頃意識して取り入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年		点検を確実に行い、異常があれば速やかに対応する。	3. 個人活動中・見守り		・棚や机の角はクッションでガード する。 ・午睡布団は、食事が終わってから準備する。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			・保育室では衝突しやすいので走らないように声をかけ、見守る。 ・子どもが遊んでいる位置や人数を確認し、安全な遊び方を知らせる。	
7737	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									3	3	3歳	1. 男児	・多動、衝動的、注意欠陥等の特性がみられるので、危険が予測できない。	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯破折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	・給食後、各自片付けをしトイレに向かって流れになった。走っている子が多く、移動が危険と感じたが、だれかがトイレに流れていることを注意し、トイレ職員に声掛けをした。	・給食後→ズック、靴下→トイレ、脱ぐ→着る→動作を、給食後→着替え→給食後→本タイムし、給子の動作を各自レベルに合わせて変えて、食後の替え→給食後のもの	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	・机の脚が張っており、そこいたずらにの踏まれる。	・机の脚が張っている脚に出っては壁側に寄せる。	1. 集団活動中・守り	・配膳台ども机等が付や子の入り口近に密集していた。	・机の配置や、着替えや本棚の場所を変え、食事後の子どもの動線を整理する。	1. いつもどおりの様子であった	・落ち着きがなく、保育士の声掛けも耳にも入らず、衝動的に走った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・副担任が欠席のため、いつもの職員体制ではなかったが、大丈夫だろうという迷いと思い込みがあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・本児がトイレに行ったことに気付いなかった。	・お互いに担いたので、大丈夫という思い込みがあった。	・代替えの職員に入ったときは、職員配置を主担任が指示を確認する。	
7738	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	17	4	3	4	2	2	2			31	19	6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置		危険を回避できる位置で見守る	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年		鉄棒の正しい使い方を確認する	3. 個人活動中・守り	高い場所で遊ぶことを好んで多い	子ども達と鉄棒の正しい使い方を再確認し、ルールを決めて使用する	1. いつもどおりの様子であった	ごろかと高いところを日ら飛び降りたり、ぶりスリルを楽しんでいる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び方としては制限をしていないので見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達も遊んだり見守ったりしている		本児の特性を把握し、すぐに危険を回避できる場所で見守る、または制止させる	
7739	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	11									1	1	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		鉄棒などの遊具を使用する際には、職員が必ず側につき安全確保に努め、事故後の対応等について、職員間で情報共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/日		安全点検は定期的に実施できているので、継続行続しう。	1. 集団活動中・見守り		職員は安全確保の全ため、子どもたちを層注意深より一く見守るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒に意欲的に取り組んだ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒を2台出し、職員は一つ側向こう側の鉄棒で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年長組(11人)で、職員は一人体制で保育していた。		鉄棒を2台出すときは、職員は間に立って見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面			人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7740	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11									1	1	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘関節内骨折・右肘関節血腫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		リトミックなど幼児が手をつないで人で歩いたり、走ったりしている時は注意して見守りをするよう。	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年		1. 集団活動中・見守り	まだまだ足元が不安定な2歳児が、手をつないで走り、相手のペースに合わせられずにバランスを崩しまい転倒した。	友だちと手をつないで歩いたりしているときは、注意深く見守りをするようにする。	1. いつもお様子であった	リトミックで、組になり手いで音楽に合わせて歩いたり走ったりを楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところ対象児を見ていた	対象児から離れたところ対象児を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児から離れたところ対象児を見ていた。	まだまだ足元が不安定な2歳児が、手をつないで走り、相手のペースに合わせられずにバランスを崩してしまい転倒した。	友だちと手をつないで歩いたり走っている状態を注意深く見守りをするようにする。	
7741	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21			12	9					2	2	5歳	1. 男児	天候は良かったが、朝の気温は低く雪面は固い状態であった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	雪山から下りてくる様子が見える位置に保育者がついていた。	雪の高さ、角度を鑑みて雪山の上、下に保育者がつくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2M位の高さと急傾斜の雪山だった。	転落するところには、ロープを張りしめるなどして安全に楽しむために、滑る範囲を決める、人的配置を考慮する。	1. 集団活動中・見守り	おいかけっこになり、雪山ほどの上のまで夢中走ってきたことがあり、高さから落ちた原因だと思われる。	雪山の上での約束を再度確認する。	1. いつもお様子であった	友達に追いかけられて慌てて滑り落ちた	3. 対象から離れたところで対象見ていた	対象児が滑り落ち雪面を瞬間は見えたが手を差し伸べられず距離にはいなかった	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児が滑り落ち雪面を瞬間は見えたが手を差し伸べられず距離にはいなかった	雪山からバランス崩して滑り落ち危険予知不足。	危険個所（雪山上下）の職員の見守り強化。	
7742	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２０)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		これまで以上に安全面の配慮を行う	1. 集団活動中・見守り		園庭で走ったときは、周りに声をかけて注意していく。	1. いつもお様子であった	卒園式前日と言うこともあって、気持ちが浮かれている感じがあった。	2. 対象児の近で対象見ていた	担当職員2名が、間隔をあけても達の子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)			職員間の連携や立ち位置を見直し、安全保育に努める。	
7743	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	1	5	4	9	10				9	6	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置		予測が難しいけが等については、どもの年齢でこっが起こしまもしてのもて可能性ろあるため、担任だけでなく、従事員する職全体で注意して行くことを確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(使用時)回/年		当保育所は、より快適な環境での保育、発達に応じた保育のため、令和元年度に大規模改修を実施した。育ちを着目し、内なり滑り状態ではやすいだけ、時は履き用した履きでは汚れ、だ回のなもきすと掛けうしを移動ことを確認した。保育士が、今日は時履用と声行こと。	3. 個人活動中・見守り		継続して施設内の安全点検を実施し、職員間で情報共有を行い、安全対策を図ることを確認した。	1. いつもどお様子であった		1. 対象児とーンマンの状態(対象児に接していた)	本児と午睡室に向かった。向こう側からは年中児が来たためどもの様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	発生時、廊下の向こう側に他のクラスの担任がいて、見てはいたが突然倒れたため予防や声掛けはできなかった。		職員会議で話し合い、また、施設の安全点検も継続して実施し、職員全体で見守りながら保育をしていくことを確認した。	
7744	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	106	2	12	24	22	20	26			28	25	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第２，３，４中足骨預部骨折	4. 玩具・遊具等施設・設安全上の不備によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	園庭での遊び方をクラスの園児と確認が必要。	その日の以上児クラスで、園庭での方を遊び児と話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭の遊具の強化（ぐらつき等）が必要。	その日の午後に、可動遊具の点検をし地面にめて、ぐらつきをなくした。	1. 集団活動中・見守り	園庭の遊具の配置について職員で検討することが必要	可動可能遊具は設置場所の安全性について職員で確認する。	1. いつもどお様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にいた保育士が離れたところから、遊び方を見守っていた。可動遊具が転倒した時にすぐに駆け付けた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた他の園児の遊びを見守っていた。	園庭での遊び方をクラスの園児と確認が必要。	園庭の遊び方で、可動遊具の上に昇る姿の配慮について会議で改善策を話し合う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面					ハード面									環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7745	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	159	12	22	24	27	39	35			28	22	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	事故予防するマニュアル未整備のリスクを管理がなかった。	マニュアルとヒヤリハット事例の毎月実施を施した。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	現状の状態を維持し生じた合わせた際はやかに修施を実施する。	3.個人活動中・見守り	自由保育であり、園庭や遊戯室にて自中でした。	降園前は、遊戯室内で遊んでいるため、その際のルール等を子どもたちに伝えるとともに、職員に伝えるとともに、職員に動線徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室内で他の園児と一緒に遊んでおり、遊戯室内を歩いた。に、後方の保育室から勢い良く走って来た他児が対象児に衝突する。対象児は、左手をにして下床に転倒する。	4.対象児の見ていなかった	担当職員は他の園の降園に携わっており、転倒の様子は確認できかった。対象児に確認すると、左の肘付近が話痛いと話す。その母ことを親（さくらの保育園保育士）に伝えると、直ぐ帰宅で診する様子を診ると、帰宅する。夜間、救急外来を受診し、骨折が判明する。	2.担当者・象児動を見なた	職員は、乳児未満児、他児や三歳児の居残り対象児には、他児の関わ接を園児に応た。遊戯室内には２名の職員が居た。他児の関わ接をへりは事故を確認いない。（翌日、遊戯室内の監視カメラで、事故状況を確認した。	自由保育であった、全ての園児の行動観察が手薄になった。	職員の役割分担や配置等を明確にし、事故防止に努める。	
7746	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15					6	9			2	2	4歳	1.男児	3・4・5歳児の混合クラスで生活している。この時は4・5歳児の活動をしていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	3・4・5歳児の混合クラスであった。異年齢で一緒にかかわって遊ぶ活動や年齢毎に発達を伸ばえて活動する時間を設けながら保育している。この時は4・5歳児が異年齢で一緒にかかわって遊んでおり、普段していることをしていてのできごとだった。鬼ごっこの内容が異年齢でするには高度になっていないのか、どの年齢の体力面からも楽しめるものであるか疑う度々。子どもたちと一緒に改善をしていく等、子どもの遊びが時間や設計の質について学びを深め、異年齢でも安全に楽しめる遊びを提供できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	築山の付近で転倒したことだった。の迫いられ付近で行ったのかもしれない。狭いエリアで使ったしかし、エリアで使ったんとら、広くよめさ	1.集団活動中・見守り	遊び始める時に、遊ぶエリアを確認させ、一緒で遊ぶ子同士の動きがお互いきいやすいようにする。		1.いつもどおりの様子であった	本児が中心になって始めるほど、遊びたいという気持ちがあまりに強く、周囲の状況へ気持ちが行かず、無い本児が優先し、多動傾向ではある。	2.対象至近で対象児見ていた	１名の職員がテラス遊びを始め介した脇の子の助がら、脇が本児に中心になってハターごっこを始めるを見た。１名の職員は、まだ中にいた最後の子ども１人の職員が遊びを見ながら進めていた。	2.担当者・象児動を見なた		最後の子が、着替所でえ手ていた。介助していた。		保育の進め方としては、普段と変わりなく、二人の担任は必要なかかわりをしていたと思う。改善策としては、もう一人の職員が出てきてから、水遊びの方に関り、動きの鬼遊びの方へ重きをおいて関わるようにしたら良かったのではないかと思う。	
7747	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									3	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	報連相の徹底がなっていなかった、判断の基準確認が必要	毎月の職員会議などの検討会を通じておこなう意識づけの強化を図る。また、保護者の方への初めの受傷時の間の報告を告げて不安をたためし、しっかりと状況確認をしてから報告をする。	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	ゆうぎ室し通し障などの見ても害物な要因にくの考えい	この度は設備的なものの検討はない	1.集団活動中・見守り	走り回る多数が人数、見守る対象も増えかる危険性が強まった	走り回るは遊びに対し、人数を分けるなど分散化する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象至児の近で対象児見ていた	別紙現場状況報告のとお書り	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	別紙現場状況報告のとお書り	報連相の意識不足、ゲームに参加する人数が多かった	報連相の強化、判断する人数を増やす。早急おこなうため	
7748	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	0	0	0	5	2	1	0		2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置		各年齢毎に確認しことを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		安全点検引き続き行う。	1.集団活動中・見守り		玩具（ブロック）を使用する時は、走らずに遊ぶことを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象児見ていた		2.担当者・象児動を見ていなかった	他の職員は、他の園児の様子を見ていた。		玩具（ブロック）を持って走らないように、職員の声掛けを徹底する。	
7749	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42					16	26			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	2.基準配置	事故は保育士の予期しない状況様々な起こること認識ところへの意識を持って、一層危機を注意深く強く、見守る必要がある。	痛みを長く訴えは、こ考え保護者に連受も場合は、保最悪のことを早めに連絡し、受診して救急車を呼ぶなどして対応していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	天候や気温・風の強さ等自然環境による変化	さらに、状況の変化による生化に危険発目を設け、安全を図っていく。	1.集団活動中・見守り	天気が続き、土が乾いていよりやすくなった。	その日の状況を把握するとともに事故し、その状況あった注意に行う。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友達といつもお発して活動いた。	2.対象児の近で対象児見ていた	楽しそうに手をつないで跳ねていたが、そのあとで転倒してしまった。	2.担当者・象児動を見ていなかった	自分の組にお部屋に入れるに子どもをお支援にしていた。	友達と手をつなぎ楽しそうに跳ねていたが、本人も一緒にいた子どもも予期せず転倒してしまった。	落ち着かせて行動するよう、日常的に指導・訓練をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面							環境面				人的面										
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																	死因	負傷状況	受傷部位	診断名							実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7750	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	16									1	1	5歳	2. 女児	鎖骨固定帯の装具を着けて治療全治1ヶ月は静かに過ごすよう、医師より指示を受ける。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	保育士の配置基準基準を下回ることがない保育体制で今後も保育を行う。また、遊びへの導入方法や子どもの保育環境に十分配慮する。	休み明けの事故に繋がった。活動前の導入や方法はそれぞれとも丁寧におこない、未然に防ぐ配慮が必要だと感じた。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(-)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	園庭に遊具は無	引続き、取組前に危険な物がないか点検、目視を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	クラスの遊びのなら邪魔にならないように、園庭の端のスペースでドッチボールを行ったため安全な環境ではなかった。	運動遊び集団遊びを行う場合は、十分な保育環境スペースが必要だと感じた	1. いつもお様子であった	（具体的内容記載欄）転ばがしドッチボール最中、ボールある方がらトのなかを逃げている時に友だちとぶつかり転倒。地面に左肩を打ちつける。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士も一緒に集団遊びを行った。全体の子どもの動きや遊ぶ様子を見ての、又ぶつかったの本児が友だちとぶつかり倒れそうになった時、手を伸べようとしたが間に合わず倒れてしまった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)無	思いもよらない行動や動きに対応するように常に子どもたちの動声にも掛け配慮する。	園庭に出て遊んでいるクラスの保育士同士が、お互いの活動や保育環境に関心を寄せ声を掛け合うことが大切だということを改めて感じた。	
7751	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12						12			1	1	5歳	1. 男児	体重２９．８kg　身長１１７．６cm両親外国籍の為、日本語の理解力が不十分	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(２　)回/年	2. 基準配置	午睡に入る保育室に5歳児が全員入り、4歳児の誘導を行う際、職員1人で対応していた。該当児の転倒を把握していた職員の、過信、自己判断、その後の報告、連絡、相談などに至らなかったこと。	４，５歳児が一緒に午睡を行っている状況から、４，５歳児クラスでお互いにクラスの現状を伝え合い連携を取る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	コットの部屋の部分の強度が強く硬い、該当児は外国籍。	コットの素材について職員全員で、体感を通して把握する。	7. その他	職員の体制について、4歳児の職員との取り、保育室内を把握する職員の連携を取れていなかった。	４，５歳児が一緒に午睡を行っている状況から、４，５歳児クラスの職員で声を掛け合い連携を取る。大丈夫だと自己判断をするのでなく、もしかしたら〇〇になっているかもしれないという思いで視診をする。	1. いつもお様子であった	自分のコットから離れて場所にいること、５歳児担任によりを戻ると声をかけられた。戻ろうとした際、倒れにコットの横枠に右腕を引っかけ倒れる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	5歳児が午睡室に入り終わり、保育室の出入口で4歳児をコットへと誘導していた為、該当児が転倒するときに、すぐに行くことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	(具体的内容記載欄)無	午睡に入る前に4歳児を廊下から下行くように促した。	午睡に時入る流れについて4歳児の職員と連携をとる。	5歳児、4歳児のトイレ午睡動線について職員の位置も含めて見直す。	
7752	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	5	0	1	2	1	1	0	0		2	2	2歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右親指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突によ	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(１２)回／年	1. 基準以上配置	ボールが沢山あり不足場が不安定であった。	遊びの内容を見直し転倒手したの際手がすぐつにくく体操などの活動に力を入れる	1. 定期的に実施	実施頻度(最低6　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(最低６　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年		危機管理もいついて持っている。	1. 集団活動中・見守りあり		場所にあった遊びの内容をふまえていく。	1. いつもお様子であった	楽しくなくすず状態しり興奮であった	2. 対象至児の近で対象児を見た	(具体的内容記載欄)周りにいもてで手るえるがつ関いたのすぐに添えることなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びながらボールとけ合いが多いが片づけ見ていたのでいたのすぐに手を添えることができた		遊びの内容を確認をした際転倒したが手がすぐに子ども操などの活動に力を入れる	
7753	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	51				15	17	19	0		7	7	5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈尺骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	・個別対応を行う際、声掛けがなかったため、お互いにその状況を知らずに保育が行われており、全体把握をする職員がいなかった。 ・その遊び方がどのような状況につながるかを思像することができなかった。また、職員の人数が多いことに安心し、「誰かが見ているのでは…」という心の隙があった。 ・固定遊具で遊んでいる子を見て「年長だから大丈夫」と介助につかないことがあった。	・お互いに声を掛け合い、全体把握、保護者対応など役割分担を明確にする。 ・個別対応をする際は、必ずその旨を周りの職員に伝える。 ・年齢で対応を区切るのではなく、一人一人の発達、その日の状態、遊びの様子に合わせて介助につく。 ・子どもたちが自分たちでどのようにしたら固定遊具で楽しく遊べかを考えるる機会を持つ。（安全教育）	1. 定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(291)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(291)回/年	・滑り台の斜面の枠が１５ｃｍと浅めの、体格の良い児が使用する落ちやすいことを職員が十分理解した上で使用する。	・各固定遊具の危険性を職員一人一人が把握する。	1. 集団活動中・見守りあり	・TVの「逃走中」を真似た遊びをかけっこが子どもたちの中上いて盛りあがって盛り上がっては固定遊具に駆け上がったり下りする姿が見られた。その都度個別に危険なことを伝えはいが、その様子を職員全体になる周知かった。	・気づいたことは全職員に小さな全周知でも員する。	1. いつもお様子であった	耳鼻科受診のため１１時に登所した。すぐに年長児遊び場の活動室や木に文章や隠し字を探し、文章を作るゲームに参加し、いつもと違った興奮した様子が見られた。	4. 対象動き児の見ていなかった	・それぞれが個別対応をしていたが、お互いに声をかけあわなかったため、状況や気づかいが全体把握をする職員がいなかった。また、職員所側の片側で配置が片側ってに偏っていた。落下ずいに気づいたが、固定遊具につがすぐことができず、落下を防ぐことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・それぞれが個別対応をしていたが、お互いに声をかけあわなかったため、状況や気づかい全体把握をする職員がいなかった。また、職員所側の片側で配置が片側ってに偏っていた。落下ずいに気づいたが、固定遊具につがすぐことができず、落下を防ぐことができなかった。	・一人のも動きに対応するように常に子ども動を把握している。職員も誰もいなかった。 ・職員数多いことに安心し「誰かが見ているのでは…」という心の隙があった。	・一人一人何をしていたのか保護者にきちんと様子を伝えるようにされるように丁寧に、動きを把握する。 ・お互いに合声を掛け合い役割分担を明確にする。（全体把握、保護者対応など）	
7754	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	16									2	2	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨の尺と骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの突によ	1. あり	2. 不定期に実施	年1回	1. 基準以上配置		年齢に即した体育遊びを選定し、そう伴う危険を予測し、環境設定を整える。特に保育士の配置（人数）には重点をおくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５２　)回/年		跳び箱の年齢に応じた段数にそぐわないことと計画の事前の無理があった。遊び場合、保育士同士計画の見直し、環境整備を徹底する。	1. 集団活動中・見守りあり	対象児を見守っていたが、感情面の起伏（普段よりもテンションが高かった）に気づかなかった。	色々な場面で予測を事前に話し合い、留意ながら子どもを配置し、保育士の配置、安全面を徹底する。	3. いつもも活発で動的であった(理由を記載)	跳び箱かジャンプ着とジャンプ地するところ、ランスくずれ、手マットに先ついた為、左腕を負傷してしまった。	2. 対象至児の近で対象児を見た	対象児の見ていたが、危険行動の予測ことにいたを欠けた。子どもの テンションに気づけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた。		跳び箱の使用時に対してのマニュアル（危険予測、環境整備、人員配置、年齢に見合っているか）を作成し、職員全体で共有し、周知する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事								事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死亡	負傷																												
																								死因	負傷状況	受傷部位																											
7755	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									3	3	3歳	2.女児	発育及び発達状況は良好で、アレルギー等もない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(約１５)回/年	1.基準以上配置	職員が近見守りをしており、特に園児に無理のある活動も行っていなかった。	子どもの年齢、個々の体力等を考えながら遊びを提供していく。	1.定期的に実施	実施頻度(５５)回/年	3.未実施	実施頻度(０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	事故の際、長縄の破損等はなかった。また、周囲に障害物は無く、安全領域は確保されていた。	今後も安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守り	他園児も参加はしていたが、順番に1人ずつ長縄を跳んでおり、跳ぶことを阻害するほど近くにいる位置にもいなかった。	体調や体力、月齢に合わせた遊びの内容等を考慮しながら活動を提供する。	2.いつもより元気がなかった	体調不良で欠席(5日間)していての久しぶりの登園初日であった。また、登園前２日間は体調が回復したため家族の外出をしたとのこと、受傷日は疲れている様子があった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	保育士１名が、対象児が跳んでいた縄の端を握り、長縄を横に揺らしていた。至近距離で様子が見守れる位置にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は長縄を実施していた位置から約４mの立位置に立、全体を見守っていた。もう１名は、園庭は、遊び後に実施予定であったシャワー浴の準備をしていた。		子どもへの声かけ、職員間での声かけを徹底し、安全な保育環境を整える。	
7756	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			16	16	19	13			10	10	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	ハザードを作成し、リスク管理していたが、子どもの動きに対し保育士の危険予測が甘かった。	マニュアルのみに頼らず、自園、個々の成長発達に応じた遊具の方をこと、安全点検確認・共有をする。	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年 実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	クライミングローブに関しては、点検を行っており、安全を考慮した制作した遊具であった。使い方に対しての危険予測が足りなかった。	遊具の安全確認・保育士のポジション・年齢と個々の発達に応じ関わり直し、見直していく。	3.個人活動中・見守り	保育士の配置はされていたが、本児の状況把握や危険予測が足りなかった。	遊びの見守り等、視野を広持ち、いざときに動けるよう体制をとること。遊具ヤリなど扱い方ヤリなどの共有や適年齢の判断や危険予測の共有をし高めていく。	1.いつもの様子であった	普段からこの遊具で遊ぶ姿が見られており「足が地つく」と自信をついた発言もあり、過信していたことが考えられる。	2.対象児の近で対象児を見た	保育士がいたが、高そばにいるが、高いほうに向いて使用している子に対し、使用方法をしっかり確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいたが、ほぼ見守っていた。	保育士がそばにいたが、高いほうに向いて使用している子に対し、使用方法をしっかり確認できなかった。本児の目を足掛けのようなことをしていたと聞く。危険予測が足りか	保育士一人一人の危険予測の質を高めるために事故の手前のヒヤリハットに気付き職員間で共有し改善策や様々な危険予測を行えるようにしていく。	
7757	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				9	14				2	2	6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	・使用に際して正式なルールがかった。 ・正しい使用方法、教え方を職員が把握していなかった。 ・使用方法や教え方が人により異なっていた。 ・発達段階表のフォーマットに、鉄棒・巧技台等の項目がなかった。	・鉄棒や、マット、巧技台に関するルールを決め、共有する。 ・発達段階表の項目を、発達に合わせて定める。	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	なし	設備の点検は毎日実施しており、鉄棒自体は不備はなかった。今回の事故の直接的な原因とは考えないため、ハード面での改善策は安全点検は継続する。	1.集団活動中・見守り	・”前回のり”はその日の活動計画にはなかったにもかかわらず、子どもたちから要望もあって、保育者が1人補助にいつく条件の元、遊組んでしまった。 ・前回りを行うことで、段階がある上に、段階表に把握しておらず、出来そうだと安易に判断してしまった。	・発達段階表を確認しながら、子どもたちへの教えの掛け方、保育者の方、保育者の方、援助の仕方を共有する。 ・その日の活動内容に予定していなかった項目は行わない。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で、当初計画していた、手でぶら下がる動作を10～20秒行い、続いて手と足をかけてぶらさがる動作を10～20秒行った。その後、前回りもやりたいと要望があり、保育者が手を添えながら実施した。一回目の前回りに成功し、本児の希望で2回目を実施。まわりきったところで、本児は両手を鉄棒から放してしまった。足がまだ地面についていない状況であったため、背部からマット上に落下した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児の右側に付き、本児の体に手を添えながら前回りを援助していた。2回目の前回の際に、目の体を添えながら前回りを援助した。目の前回も同様に手を添えていたが、本児が回りきったタイミングで手をはたき放し、転落を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同室にいた名の保育者は、支援者にいつもう1名の保育士が、鉄棒の方に目を配っていた。	なし	園児が安全な状況で活動を行えるよう、保育者は対象児の発達段階に応じた補助をする。鉄棒で前回りを行う際は、足をついて鉄棒から手を放すまで、保育者は補助して離さない。日常の保育の中で危険を予測する練習を積んでいく。鉄棒や巧技台を使用する際のルールを、保育者全員が同様の動きができるように共有する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面							ハード面							環境面						人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
7758	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48			12	11	12	13			6	6	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	進級したばかりで、戸外から遊びかたを活動の切り替え、お迎え等、落ち着きがなかった。	3歳児と5歳児では身体、運動面においても活動量に差がある、進級当初は情緒面において落着かなかったり、不安に思うお子さんがいるので、個別に対応し、手を繋いだり、椅子に座る、早めの入室等をしていく。送迎時には子ども目が離れないように保護者の方に側まで来てもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	周囲に遊具等はなかった。	今後も遊具配置所を確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	活動の区切りであり、お迎えも時間切りで、お迎えも重なっていた。	お迎え対応している最中に子の支援が出る他の保育に支障が出ることが予想される。お迎えの際は速やかに対応できるよう今後も保護者、職員と協力をしていくとしく。	1.いつもどおりの様子であった	進級したばかりで、少し雰囲気や子ども達の周囲気や子ども達の気持ちも落ち着きがなかったのではないか。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	保育者の側にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周囲の様子を見ながら、片付けやお迎えの対応をしていた。	雨が降り始めたこと、全体がいつもより落ち着きなかったかもしれない。	天候や活動の区切りは特に子ども達に注意していく。	
7759	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46			11	11	16	8			5	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	普段は大活人発なお子さんは、集団遊びに慣れていなかった。	保育記録等を確認し、どのようなお子さんか把握する。集団で遊ぶ際は広い場所や危険物がないか確認し、人数などを考慮したうえで発達に合わせた遊びを楽しませていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	集団遊びをした園庭には固定遊具等はない。	今後も危険物がないか確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	個別や集団の発達に応じた遊びの提供。	加人数や周囲の人数にも配慮しながら楽しませていく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	普段は割ととおとなし、2～3人で鉄棒などの活動をいつも好んでいた。当日は仲のいお友だちや4・5歳児一緒になって遊んでいた。	2.対象児の近く象児を見た	一緒に保育者も当該園児と遊って走んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びに参加していない保育者も見ていた。	普段そうような集団遊びに参加していないため、動くと止まる等の運動面においてうまく運動できない。	生活や遊びの中で運動面の発達を促し、見極める。	
7760	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36			11	12	13				4	3	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左肘)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員配置に関しては問題はなかったものの、事故予防マニュアルのがないたこと、また事故予防に研修も深容をも少し学ぶあっ内うく要がた。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	しらげること常より紅や質挙げることは、通木より百日滑り性あっれるは、通木より百日滑り性あっれるも百日滑りやすいもがすいでた。	園庭に植えてあること庭で改善策はなかった。性質や木の性質や木の枝が上滑りやすい子どもが時は気を見て、上滑りやすい子どもが時は気を見て、上滑りやすい子どもが時は気を見て、

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面						人的面										
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7762	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	73			23	26	24				11	11	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足首捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	問題なし	引き続き行い、職員全体で確認していく	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	問題なし	引き続き行い危険ないようにしく	1.集団活動中・見守りあり	道が農道では平坦では無かった為	道の形状になれるようにする	1.いつもどおりの様子であった	準備体操もきちんとおこない、いつもと変わらずに動けた。	2.対象児の対象児の近く象児を見ていた	。子ども達と一緒に走る。対象児は大きな転倒もなく、お友達とぶつかることもなく、自分のペースで走れていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	何かあれば直ぐに対応に向かう為の職員。間隔ごとに見守る職員を分担をして見守りながら行った。	痛みを感じたが本人が最後まで走りたいという思いが強かった為	痛みがある時は必ず止まる事を全体的に知らせておく。	
7763	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25									2		3歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		今回の事故の情報を職員間で共有し再発防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		凹凸がない設備庭の心がける	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故の情報を職員間で共有し再発防止に努める	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず変い様子であった	2.対象児の対象児の近く象児を見ていた	対象児が走っているのを確認していたが、転んだ瞬間は間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだところは確認していた		今回の事故の情報を職員間で共有し再発防止に努める	
7764	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス										1	1	2歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼・外傷性歯牙打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	安全管理が不十分だった。	子どもたち慌てずに行動することを確認し、子どもの行予測しゆっくり移動することを園児に促しく認識し、確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年 園内(1)回/週				子どもの行動には以外行想定の事が起こることを改めてするあら角度安全を行認ようゆるから対策ようにする。	1.集団活動中・見守りあり	保護者にも十分気を付けてもらうに、注を意喚起をする。	子どもの様子を把握し、危険を想定し、声かけや見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	慌てて行動した。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	朝の受け入れ前の、職員は子ども見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていた	当対象児の動きを見なかった	他の職員なし。	保護者との園時だった、多少落ち着きがなかった。	落ち着いてできる常行動できるように声をかけていく。	
7765	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									2	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首の捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	戸外で遊んでいる際の職員の配置の確認を行う。	適宜、子ども達へ声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	施設的には問題ないと思われる。	引き続き、安全点検に行期的い、保育中も危険がな場所が無いか見る。	1.集団活動中・見守りあり	周囲の確認が必要であった。	周囲を確認し、危険のないように伝よえる。	1.いつもどおりの様子であった	本児が園庭のテラスの段差を歩いた際、転倒する。	2.対象児の対象児の近く象児を見ていた	本児とその周囲の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	子どもとなりの関わりクラス全体の様子を見ていた。	十分に目を配り、子ども達様子を見守りながら、怪我を未然に防ぐように努める。	怪我に繋がる箇所を常に確認し、迅速な対応が出来るように努める。	
7766	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	30									2	2	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足首の捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	戸外で遊んでいる際の職員の配置の確認を行う。	適宜、子ども達へ声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	1.定期的に実施	実施頻度1回/日	施設的には問題ないと思われる。	引き続き、安全点検に行期的い、保育中も危険がな場所がないか見る。	1.集団活動中・見守りあり	周囲の確認が必要であった。	周囲を確認し、危険のないように伝よえる。	1.いつもどおりの様子であった	本児が園庭を歩いた際、転倒する。	2.対象児の対象児の近く象児を見ていた	本児とその周囲の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		子どもとなりの関わりクラス全体の様子を見ていた。	十分に目を配り、子ども達様子を見守りながら、怪我を未然に防ぐよう努める。	怪我に繋がる箇所を常に確認し、迅速な対応ができるように努める。	
7767	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	0	7	7	9	10	17			4	4	5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折		左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	今回の事故は要因なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	今回の事故は要因なし	7.その他	母親のお迎にふざけてこと迎えのお際にふうあり、今回は突発的な怪我に繋がってしまった。	本児も含め、他園児も安全な登降園の仕方を伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の対象児の近く象児を見ていた	母親に本児を引き渡し、ようなら挨拶を交わした後に走り、転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていかった	挨拶を交わした職員以外は、他園児を見守りなった。	なし	今回の事故は要因なし	
7768	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92				48	44				4	4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	戸外遊び時は、遊具等があっても出ないように角が死角の職員し配置をしていたが、転落するまで急だった為、間がたに合わなかった。	今回の事故に関する内容の検証を行い、職員へ周知徹底した。又、再発防止及び、安全保育に十分配慮するよう努め、危険性い及び高さのある遊具には定期的に巡回しなべく近く配置し安全を確保する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	遊具の安全点検は毎日行い、遊具備はない。	引き続き、日々点検を行の安全保育に努める。	1.集団活動中・見守りあり	定期的に使遊具いいて指導を行っている。又、今年度にもんを上げ、園児たちに指導を行った。	今回の事故の内容を子ども達に伝え、再度遊具の使い方について指導をして いく、又階段等で乗遊具は、ゆっくりと行うように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず様子でい遊んでいたが、不意に手が滑って下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数の担当職員で死角の無い様に子ども達を全体的に見守っていた。					子ども達を見守る際、危険性の高及び高さのある遊具には定期的に巡回しなるべく近く配置し、事故やトラブルが無い様にしていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時					異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面					人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7778	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	15									3	2	6歳	1. 男児	保護者との野外活動はあまりないように感じられる	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置		事故防止委員会に再度取り上げ、報告し、共有することにより、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	遊具の劣化	使用する先には、遊具化がないか確認することで、再発防止に努める。	1. 集団活動中・見守りあり	環境に慣れていない、新しい場所での感情の高まり	環境に慣れるため遊び方の説明や準備体操をすることで、再発防止に努める。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外で真新しいものもかったので、テンションが高めで遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具のゴール地点（ゴール地点は、タイヤでの停がある）「手を絶対に、はなさいで」がしながら見て、実際、ゴール付近にくると、遊具もあって放ちまして、子どもかけ子、身体の状態を検診する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタート地点、中間地点にいる。担当職員と同様ことはとなる。何事もなく通過すると見届けをする。	今までに公園等での（アスレチック関係）遊ぶ、未経験な為、遊び方を知らないが原因と考えられる要因としてえる	子どもの様子を見極め、個別的対応をする必要があった。	
7779	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	29									3	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		職員全員で、事故防止のマニュアルを再確認	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年		特に、ハード面での改善はありません	1. 集団活動中・見守りあり		園庭での職員配置見守り改善、危ない行動に早く気付よう改善	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近く対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			園児に縄跳びをしてはいけない場所を指導	
7780	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13									2	2	4歳	1. 男児	・抜ける前からの歯がある。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	AB急性外傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 基準以上配置	担任にもていただくべきだが、バーが見ていたので、子どもに注意をすべきだった。	トイレ前で、見ていて守ったが、声かけ、援助を充分にする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	検討したが、トイレは部屋前にあるハードのり面の改善点はなし。	3. 個人活動中・見守りあり	ポケットに手を入れる、飛び跳ねるの行為を、「安全指導」の中でしているが、その都度身に付くまで、繰り返かけが必要である。	クラスや安全体の安全指導の中で、危険な行為について、話をしていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ポケットに手を入れて、飛び跳ねていた。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	数人トイレに行っているので、近くで見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの中で他の子を見ていた。	本児への行動に対する注意が足かった。	危険な行為を見逃さないようにする。	
7781	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46	0	12	13	6	9	6			8	8	2歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		職員間で事故予防マニュアル検討し、危険防止の確認を行う	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(312)回/年		ショッキングのチップは敷き詰めていたが、更に、チップ元を増やした。	1. 集団活動中・見守りあり		状況に合った遊び方を選び、安全な遊び方を指導する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも元気で活発な園児である。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	平均的に園児たちの見守りができる場所にいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員場は他の見守りをしていた。		対象児はいつも動きのある園児なので、なるべく近くで見守るように心掛ける。さらに危険な行動のないように声掛けをしていく。	
7782	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	20									4	4	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	月曜日の荷物整理など、大人の作業の複数あり、保育室の配置としては十分であるが、子どもの職員優先の作業となり園児より目が離れている状況があった	大人の作業スケジュールにより園児の活動中の作業について整理すると同時に大人の役割分担を明確にする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ホール等場の広い場所に移動体操体操行はどはなろう	毎日の課題となる日課活動を一度整理し、タケスケジュールを担当者確認にする。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもが作業待ちあり、遊び時間になり、ガに至った。	遠慮の大人をっていたが、目ないマスとケが作業ペースに、お休み時間が長い状況が、目的的に職員間の連携が必要。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	日頃より、音楽を活動をかけたっていたため、音楽に合わせて体を動かしてかしたり、ユニークトしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	横で、他職員と話していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていたり、荷物整理をしていた。	日頃から、対象児の行動は多いと気づいていたケがつるという意識が薄かった。	園児の活動が中断したり、待ち時間が必要以上にない様、事前に計画しておく。	
7783	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	112	14	24	20	21	15	18				18	5歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	2. 死亡	6. その他			8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年	3. 基準以下	降園児が後にバス確認なかったこと、バスが見ていたので、園児を確認していかったこと、本人園児りと再度確認したこと、お休みした。	園児の人数確認を常に行いを見回りすること、みんなの園児には職員間で共通の認識をすること		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			7. その他	バスを降りた園児に確認なかったこと、お休みして情報しなかったこと、降園後にお休みがあったことをみいた情報を共有していかった	園児の最終確認をしていたので、人数確認と室内の確認をしてください。園児には保護者へ共通の確認お願いすべきだった。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通園しており登園していたが、バスの中で寝て休みシートにわって横たわっていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児がシートに横たわって降りていなかったことを確認ができなかった。また他の子がお泣いて対応をしてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児をバスから降ろす際、乗車本児が寝ていたことを確認できず、園児をバスから降ろすことをできていなかった。	出席の確認をとり、無断欠席者と連絡をしておらず確認不足だった。	バスの乗車と下車の確認をその都度行い、さらにバス中を目視点検をする。無断欠席かもしれない子には職員間で共通把握する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面							環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7784	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	30									33	23	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	捻挫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置		今回のケガで考えられる要因は無い	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年		園庭は滑る可能性もあるので気を付けるように注意を促す。	1. 集団活動中・見守り		遊びの前には、気を付けて遊ぶように注意を促す。	1. いつもおお様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			事前に注意を促す。	
7785	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成					11	12	10			32	20	5歳	1. 男児	3回/週療育に通っている園児。保育士の指示が通る場合と通らない場合があ る。	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第1趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし。	定期的に職員と合いを行い、室内環境の見直しを行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	テーブルとテーブルの間は、十分な歩行スペースは確保されている。	テーブル・遊具等の配置の見直しやいや物がされるかの確認を適宜ていく。	7. その他	お集まりりが終わり外遊びに行く時、さらに幅広の園児がお入口近くに集いた。	他の園児より、行動把握をしっかり行っていく。室内での過ごし方やリスクがあるは、その都度注意を促すようにする。	1. いつもおお様子であった	室内を小走りをしていた。	4. 対象の動きを見ていなかった	外遊びと分室内に分かれて保育していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	日頃より園児より他多くの子と声掛けを行い、本児に目が向きにくい場合も他園児より声をかけていくようにする。	入口で噛み吐のをした。	教室内の保育士の目が、本児に向いていなかった。	日頃より他多くの子と声掛けを行い、本児に目が向きにくい場合も他園児より声をかけていくようにする。	
7786	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成					12	12	10			40	27	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし。	定期的に話し合いを行い、外遊びでの職員の配置や遊具を使用する園児の注意し方法等の見直しを行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	雲梯の下にはマットが敷いてあるが、周りには敷いていない。	雲梯の周にもマットを設置する。	1. 集団活動中・見守り	外遊びの際は、保育士が常場所に同じ場所を観察していない状態である。	遊具を使用している園児は、定期的に観察するようにし注意を促していく。	1. いつもおお様子であった	雲梯の手座すり、園庭いを見た。。	4. 対象児の動きを見ていかった	別の遊具の見守りを行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の園児の見守りを行っていた。	雲梯の手すりに座ており、後方に転落するという予測が出来ていなかった。	事例検討を行い、遊具を適切に使用できていない場合は適宜園児に注意を促し、遊具の使い方の周知を行っていく。	
7787	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	35									2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯（左上）の根元が折れている。（右上）根元にひびが入っている。	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	事故防止の対応はマニュアル通りできていた。	再度、職員間でマニュアル確認や研修など細やかに行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	遊んでいる時にも見ように周りを見る声掛けをする。	ホールで走ると際は、しっかり方をを確認するよう約束する。	1. 集団活動中・見守り	遊んでいる雰囲気がいつもと違っていたので、声掛けをし注意する事で意識させる。	子ども達の行動を見守り、しっかり声掛けをする。	1. いつもおお様子であった	ホールで運動会の練習から自由遊びでテンションが上がっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールの中央で全体が見渡せる場所にいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見渡していたが、防ぐことができなかった。		怪我が起きた後は、マニュアル通り素早く出来ていたので、このような対応策は常に、職員全体が把握するようにしておく。	
7788	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	19									2	2	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	歯の損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	運動会の約束ムの動きが変わるとき、時間をおいリリズムが変わるとき、時間を間隔を行って間開けてよかった。	子どもたちが行動を確認し、子ども行動のしゆっくりすることを園児ていることを促し、子行動ゆっくりすることを確認していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年 (1)回/週	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/都度	危険箇所かく細かくを確認をする。	子どものには以外起こることを改めて事が起こることを改めて認識するようあら角度安全行にゆるから対策をするように。	1. 集団活動中・守り	保育士が子どもの動きを予測し、注意する。	子どもの様子を把握し、危険を想定し、声かけや見守りをする。	1. いつもおお様子であった	いつもの様子と変わらなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもの変わらなった動きと、離れた場所で見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員なし。	活動内容多かったため落ちも着かなかった。	落ち着いてできるように、常に行動できるように声をかけていく。	
7789	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	103			33	37	33				12	12	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	歯の損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	自由遊び束約十分中の時が不十分だった。	子どもたちが行動を確認し、子ども行動のしゆっくりすることを園児ていることを促し、子行動ゆっくりすることを確認していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年 (1)回/週	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/都度	危険箇所かく細かくを確認をする。	子どものには以外起こることを改めて事が起こることを改めて認識するようあら角度安全行にゆるから対策をするように。	1. 集団活動中・見守り	保育士が子どもの動きを予測し、注意する。	子どもの様子を把握し、危険を想定し、声かけや見守りをする。	1. いつもおお様子であった	得意な雲梯をいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遅く登園した子のため対応の、職員の役割分担が不十分だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外が見ていくので近く守った。	遅く登園した児の他保護者の対応のため、多落ちが着きなかった。	落ち着いてできるように、常に行動できるように声をかけていく。	
7790	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	24		24							5	5	1歳	2. 女児		5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯折の打撲・脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	そんなに倒れ強く顔面は打っていのに抜けてしまった	倒れた時食べりに歯をいしの原因かとも考えられる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		椅子での転倒のため施設備改善の余地がない	3. 個人活動中・守り	顔面は直接打撲していないので不明	保育士が最後まで手助る	1. いつもおお様子であった	食器のかたづけのため立ち上がる。	2. 対象児の近至児を見ていた	そばすぐで机ふきて片づけた。気駆が付きが寄った合すぐが間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児をしていた	まだ園児の不安定さが安定あった為	保育士の見守りを徹底させる	
7791	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成		12	21	15	21	21	18			17	16	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕骨折、左手首脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置		今回の事案を園内研修にて職員同士で共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		園庭や園内の安全点検を今一度丁寧に行う。	3. 個人活動中・見守り		子どもたちが特段興奮している様子はなかったが、興奮していたら改めて声をかけながら見守る。	1. いつもおお様子であった	お友達とシャボン玉をして遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	２人の職員が園庭全体が見渡せる位置で複数の園児が遊んでいる様子を見守っていたが、転倒した瞬間は見れていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は保育室で他児の保育をしていた。	突然、虫を見せて驚き、逃げようとした際に転倒した。	虫が好きなお友達もいるが嫌いなお友達もいることを子供たちに伝えていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面						人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他					死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】									理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7792	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	11	11							4	4	1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右前歯根破折 左前歯亜脱臼 上唇裂傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	タオル掛けに足をかけ転倒する	保育室に倒れやすいものが置いてあった。今後はタオル掛けは置かず対応。毎日転倒防止がされているか確認をしてから保育をする。（安全確認の徹底）	1. 定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(365)回/年	ストッパーはついているが、体重がかかった場合の安全性を想定すべきであった。	乳幼児の安全面を考え、今後タオル掛けは使わない。衛生面も考慮しペーパーペーパータオル等で対応する。	3. 個人活動中・見守り	歩き出し、タオル掛けに足をかけたことに気づき駆け寄ったが間に合わなかった。	乳幼児が遊ぶスペースには転倒防止を確実に行う。	1. いつもお様子ので あった	お昼寝から起きいつも通りに遊んでいる。歩けるようになり、室内を歩いて移動いろ、タオル掛けに足をかける。	2. 対象児の至近で対象児を見てた	他の園児は午睡中であり、見ていた。タオル掛けに足をかけたこと気が付き駆たが間に合わず、転倒してしまう。	1. 担当者・対象児の動き見た(至近距離にいた)	園児の泣き声を聞き、すぐに職員に報告をする。		タオル掛けは全クラス撤去する。転倒するもの、ケガの要因となるものがないか、保育室の危険な場所などを再度見直しをする。事故防止のため、年齢別の安全点検を見直し、個々の危機管理能力を高める研修を行う。	
7793	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	9								3	3	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の変色	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	部屋を移後したまだ落ち着いていなかった。発達が気になるお子さんだったが、行動を予測しり必ずあっを見守りをする	遊びが落着くまで見守りを丁寧にする	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	絨毯やマットを遊びの中で効果的に利用する	整理整頓をし玩具の配置を見直す	1. 集団活動中・見守り	見守りが不十分であった	遊びを見守りながら声掛けやサポートを丁寧に行う	1. いつもお様子ので あった	一人で活動した	2. 対象至児の近で対象児を見てた	近くで見ていたが、滑り場面で滑ることができなかった	2. 担当者・対象児の動き見ていなかった	当対象児のきを見ていなかった		最近、行動に落ちつきがないことを感じていたものの以上の配慮が足りなかった	保育士間で合い声を掛け合い、丁寧な見守りと配慮が必要	
7794	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	12								3	3	2歳	2. 女児	約4か月後に受診したが完治とはならず、今後歯が変色する可能性がある為経過観察となり、再度3か月後に受診することになった。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	椅子やテーブルが出ている室内を走った。	職員が、子どもが走った環境の時は、走らないように声かけをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(使用する時等)		ぶつかっ怪我をすることが想定される状況なら、子どもの動きをかえ、物の移動させるかする。	7. その他	おやつ後で、テーブルと椅子が出たままになっていて、端の椅子を寄せるなどしていなかった。	早めに椅子を端に寄せたり、蜜外へ出す。	1. いつもお様子ので あった	トイレに行った後、椅子のあった方に走ってしまった。	2. 対象至児の近で対象児を見た	テーブル付きの椅子に座っている子を、椅子を降ろしていた。その椅子の脚に本児が引っ掛かった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2人の育士トイレ行っ保園子ども達おむつ換をした。	おやつ後の片づけやおむつ替えなども動きしっかりさせていなかった。	おむつ替えや片づけをしていても、子どもの動きを把握する。また、職員は役割分担をして子どもに読み聞かせをしたり手遊びをしたり、走り回って事故になる事がないようにする。	
7795	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	30								2	2	6歳	2. 女児	数か月前に自宅で遊んでいた時に転んで左足首を骨折した。（直近1か月間で1. 4kg増加）	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	体の成長べるに比べる筋力の弱さがみられる。	・職員間で事故防止マニュアルの周知を徹底していく。・職員配置は配置基準を満たすため、特に改善点は無し。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年		定期的な施設点検の実施をしており、また玩具での事故ではないため、特に改善点は無し。	1. 集団活動中・見守り	保育内容に体を使った遊びをさら入ように取れる検討する。	子どもの危険の動きを予測して気をつけていく。	1. いつもお様子ので あった	・少し高さのある所からジャンプしたことにより、着地の際にバランスを崩し左足首に負担がかかってしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・固定遊具になどし、子どもたちの遊びを見守った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・視野には入っていたが、少し離れた場所で他児と関わっていた。	数か月前に骨折したことを考慮した対応が必要だった。	平地でない場所で遊ぶときは、動きに十分気をつけるようにする。	
7796	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	30								2	2	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	気温の低い時には準備体操など体を温めて活動をする必要があった。	・職員間で事故防止マニュアルの周知を徹底していく。・職員配置は配置基準を満たすため、特に改善点は無し。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年		定期的な施設点検の実施をしており、また玩具での事故ではないため、特に改善点は無し。	1. 集団活動中・見守り		子どもの危険の動きを予測して気をつけていく。	1. いつもお様子ので あった	・ドッチボールを仲間と共に楽しんでいる時に、本児は夢中でい自分の足につまずき転倒、手が出なかったことで、左肘に体重がかかり怪我につながってしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・一緒に、ドッジボールを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・すぐ近児のトイレくで、他トイレに付き添っていた。	普段と違う園外での活動は、行動がより活発になることを予測して職員配置することを確認する。	転ぶときは手を出すように声掛けをし、動きに十分気をつけるようにする。	
7797	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	27							0	2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左手親指にひび	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	事例検討が生かされていない	検討内容の充実を図る	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	職員が近くにいなくて、引き戸の開閉を止められなかった	戸に隙間カバーやストッパーの取り付けを検討する	4. 個人活動中・子どもの	トイレの中にいる友達が廊下に出ないように、遊びで戸を閉めたため、挟んだ。	子ども達に戸の開閉について話をする	1. いつもお様子ので あった	体調に変わりなく元気に登園	4. 対象児の動きを見ていなかった	先にトイレに行った園児は遅れてトイレに行った為、けがの場面を見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋で保育をしていた	職員の位置、目配り	常に子ども の動きを把握し、声を掛け合う	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面						環境面				人的面																
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																	
7804	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	24								3		3	3歳	1. 男児	右目が違視気味であったことから、柱の存在らかったかもしれない。	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	眼瞼裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置		事故発生時、どの職員でも対応できるようにローテーションを張り紙し、職員会議で説明、周知してもらうようにした。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年			鉄柱に凹凸部分がないか確認。目線はいりやすいように色テープで柱の存在が目立つようにした。	3. 個人活動中・見守り	不注意と右目が違視気味とのことが判明。見方が明。見にくくさがあったかもしれない。	園児に滑り台の下には入らない事の約束と怪我についての話をクラスで行った。	1. いつもどおりの様子であった	まだ目的をもってことより、友達の動を遊ぶことより、友達に興味をもって楽しんでいる。	4. 対象動児の見ていなかった	滑り台すぐ横の砂場、園庭中央、総合遊具の3か所に職員は配置しており、本児が滑り台付近を行ったりしこたりしているとを把握はしていたが衝突時は目でおっていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上	進級したばかりで職員体制が十分でなかったかもしれない。	5月中旬より、遠視用の眼鏡を着用することとなったため、戸外活動や着用無の時の取扱いにも十分配慮できるよう全職員に伝達した。職員の配置や新入児への配慮ができるよう職員フォロー体制を見直した。	
7805	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	43	3	5	8	12	6	9				6	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	発生時1名の保育士は、他の固定遊具に付き、もう1名はおはに来迎えの対応中で少し離れたまったが、担当保育士以外の保育士に声をかけ補助を要請すべきであった。	日に遅番の職員応や確認など遅番体制について検討会開き、普通保育かから遅番の切り替えのは、もう一人つくること、固定の約束を確認するとも遅番時に遅番の遊具おもちゃを再検討した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日			バーをよじっかに掴めるように、雲梯のりの所に、階段を設置した。	3. 個人活動中・見守り	遅番時間に遅ろる固定遊具も数を一度確認する。	遅番時間に約束をもう一度、確認するとともに、遊べる固定遊具をさ限遊びを検討した。	1. いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ時は、熱は平熱で保護者から変わった様子はなく顔色もよかったクラスでも、給食もよく食べ元気に過ごす。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遅番の時間になり、幼児担当職員2名は、点呼・戸外の約束の確認などを行った後、戸外で自由に外で遊びを見守る。1名が、ジャングルジムにつきもう1名は、迎えの保護者に応じていたため目が離れてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1名は、離れたジャングルに子ども達を見ていなかった。	雲梯にがつくことができない状況になった場合、一時的に補助職員を要請するなどの配慮が必要だった。	切り替えの時間は、職員一人補助に入る。	
7806	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23								2		2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折・裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1. 2)回/年	2. 基準配置	特になし	・遊具の使い方等について、危険な遊び方ついて、クラスで機なども話す機会を持つ。全体で話す機会を持つ。(年齢的に理解できるものあるため)	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年			・早番の職員が、点検して不具合があった場合には、速やかに対処していく。	3. 個人活動中・見守り	普段と変わらない状況であった。	・5歳児の人数的には、保育士一人で保育できるが、支援必要がいる子がいるため、常に保育士二人で保育することを徹底していく。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで児を見ていた	・対象児から、2.3メートル離れたところに、一人の職員はいたが、本児が滑り台の下にいた子ども達と会話をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・もう一人の職員は、滑り台から少し離れたところで、子を見ていた。	普段と変わらない状況であった。	・どんぐり山の中では、滑り台のところが、一番、けががあるかもしれない所なので、いつも大丈夫だからと過信せず、職員一人は必ず、そばに付き目を離さないようにする。危険な時には声掛けをする。	
7807	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				11	9					1	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頸椎亜脱臼	3. 子ども同士も衝突するものにもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1. 2)回/年	2. 基準配置	・特になし	・園児が、予期せぬ行動をとることを、職員会議等で周知すること。部会・職員会議等で周知する。(特に、支援が必要な園児について)	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	・特になし		・保育室机と椅子を増やし、全子ども達が座ってできるように内の椅子を増やし、全子ども達が座ってできるように活動する。	3. 個人活動中・見守り	・特になし	・怪我をさせてしまった男児についての保育方のあり方や保護者と密ばえや保護者に連絡をとりながら対処していく。	1. いつもどおりの様子であった	・生活リズムが整っていることもあったり、4月になって環境が変わったこともあり、全体的に覇気がない様子が続いていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	・保育士一人は、本児から2メートルくらい離れたところに座っていて、絵を描き終わった子の名前等を書いていた。視野の中に本児は入った	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・もう一人の保育士は、給食の準備のため、室内にはいなかった。	・特になし	・めばえに並行通園している男児については、予期せぬ行動を起こすこともあるため、必ず一人職員がつくようにする。	
7808	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10				3	3	4				3	4歳	1. 男児	ガゼルの森児童発達センター利用児(二重籍)。	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	上前歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	なし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1. 集団活動中・見守り	子ども同士が密集していた。	あらゆる想定上プログラムを組み立て定で、危険を想る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	バランスボールが好きで気持ちが高まり、いつもより落ちがなかった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	他児童とかた関わりながら全体を見ていた。転んだ瞬間に駆けだ咄嗟に駆け寄った間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童とかな関わりながら全体を見ていた。	本児のき(飛びつくこと)を含むリをしなクス想定ていかった。	遊ぶ前に約束事や遊び方を確認し、合間には声掛けを行い、注意を促す。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7809	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13				13					2	1	3歳	1.男児	ガゼルの森並行通園利用児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯と口唇打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守り	遊戯室の中で、自由にたりスポンルを使って遊んでいた。	遊びの中での危険や、遊具の正しい使い方を事前に伝える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室でバランスボールを出したことで、いつもより気持ちが高まっていた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	他児童と関わりを全体がら、転んだ瞬間に駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童とを全体関がらを見ていた。	本児の動き(突然出かけ走り)から考えられるリスクを想定していなかった。ボールを持って走り出したため、転んだ際に手をつけなかった。	気持ちが高ぶって遊びしくなってきている様子が見られたら、個々に行声掛けを注意を促すようにしていく。	
7810	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23				23	17	23			5	4	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下の前歯の打撲、ひび割れ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守り	子ども達が分散しており、様々な場所で遊び方が展開されていた。	遊びの前に、使用しても良い場所を知めて決らせていく。	1.いつもの様子であった	次の遊び移に早くりたて、で三輪車からようとしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	園庭で他児と関わりながら全体を見ていた。事故が起きた際に、すぐに駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童とを全体関がらを見ていた。	・三輪車で方ついて、保育者危険を想定していなかった。	・遊び方について、職員と園児で再確認する。・状況によって遊具の制限をし、危険のないように見守る。	
7811	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									4	4	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回以上/年	1.基準以上配置	本児が遊ぶ前に他学年が遊んでいた為、コンクリート上には、砂が上がっていた。	ハザードマップの見直し、内容検討、周知の確認	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	本児が遊ぶ前に他学年が遊んでいた為、コンクリート上には、砂が上がっていた。	砂があると転倒のスクがとリスク上がるという認識を持ち、終わる時、遊ぶ前に砂の有無を確認し砂片付けをする。	1.集団活動中・見守り	本児は乗り物に手に乗れない理由から、集中せず乗りを繰り返している。乗らない園児は、他の乗っているのを見ている子もいた。	乗り物で遊べない園児に対して、座って遊ぶ砂遊びなどの用意びをしてあった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの元気な状態であった。性格は、ふざけや注意力が散漫しやすい為、転倒やケガの多い子である。	4.対象児の動きを見ていた	狭い範囲で乗り物(キックスクーター・プラスチック製車)で遊んでいる子が多くいた為、乗り物に乗っている子近くにいる職員が多かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	人数分の乗り物が準備されていたが、一つ物に乗り複数人が、子集対応している職員もいた。	今年度になり初めての乗り物遊びであり、初め乗用玩具で遊ぶ児もいた。	見守り専属の職員を配置する。園庭に設置している防犯カメラを有効に使う。	
7812	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	6	7	6	0		2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手　尺骨　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	施設内の事故防止委員会で定期的に話し合いを行うとともに、ヒヤハットを使いクラスでリハッとされる事故対策を考えている。ただ、子どもの動きや想定きがもの外にすばやくできず判断できなかった。職員配置は適正であった。	定期的な話し合い以外にも、ミーティングや職員会議で職員全体にマニュアルや遊んでいる時の職員配置を再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	施設、整備つていて、遊具の着地面にクッションマットを敷いていた。	定期的に全点検を引き続き実施する。	1.集団活動中・見守り	保育者がどの状況すぐにもに対応できるよう配置の適正化が必要である。	遊具の使い方や遊びのルール等、再度子ともと確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見つつ、遊具他園やその危険箇所を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体を見つつ、遊具他園やその危険箇所を見ていた。	職員の配置は十分で、人数足りないことはなかった。。	今後も予想される子どもの姿を考慮して、職員配置を見直していく。	
7813	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	なし	事故発生時の経緯と事故後の対応の共有、危険予測の意識向上	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(226)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	なし	職員間で危険予測の共有し、園内の環境の定期的に見直す。	3.個人活動中・見守り	なし	段差や階段があるところでは、注意してこと歩くことを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で植物に水かけをしていた	2.対象至児の近で対象児を見ていた	竹馬や鬼ごっこで遊んでいる子ともかかわりながら近なくで対象の姿を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当の子どもたちの様子を見ていたので事子は見ていない。	なし	危険が予想されそうな箇所では、子どもの動きに合わせ職員配置をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事						事故の転帰																																
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名		ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
																														実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						対象児の動き	理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7814	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2		2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折・右前距腓靭帯損傷・右足関節皮膚炎	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体を動かす場面においては、目を離さずどんな遊び方をしているのかを把握する必要がある。縄跳びエリアを決めておき、ラインやコーン等で示しておく。	1.いつもどおりの様子であった	友達がやっていた斜面での縄跳びに興味を示し、やってみようとした。体のバランスが保てず、捻挫につながった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は休憩時間であり、保育から外れていた。助動にあたった職員は園児の動きや状況を把握しきれていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児のもう一人の担当者は支援を要する園児と行動をともにしていたことから、対象児の見届けはできなかった。他クラスにおいても自分のクラス の保育をしていたことから見届けできなかった。	特になし	2名での保育であったことから、把握する範囲を決めて見届けていく必要がある。	
7815	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	22								4		4	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		構造物の近くでの方に気を配っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２２０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	点検結果を踏まえれば、施設・設備に問題はないと思われる。	毎日の目視と薬者による点検等の確実な実施の継続。	1.集団活動中・見守りあり	順次、お迎えの時間が近くなり、開放感からも注意力も散漫になっていた。	構造物の間隔の狭いところでは、特ないよう声掛けが必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	小走りで移動する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の上子に声をかけたりしたので、転んだ瞬間は目にしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	“痛い”という声で主担任にとくつ下を脱がせ、先を足の確認した。		日頃の子ども様子も考慮しながら保育士の配置が臨機応変に行えるようにするる。	
7816	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4	5	10	0	0	0	0	5		4	2歳	1.男児	発育・発達状況問題なし（活発）　発生時の天候（晴れ）	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の神経損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置		職員会議で怪我や事故の内容を共通理解し、その際の対応を知ることで万一の怪我に備えるよう確認した	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年		障害物となる物をないよう毎日点検し、危険につながる方に指導する	3.個人活動中・見守りあり		保育者間で連携をとりながら見守り体制を整えていく	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	遅番保育担当の5名が、保育室全体を見廻りながら園児と遊んだり、遊ぶ様子を見守っていたが、衝突の瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし		危険の無いような見守りと、複数で担当している時には特に、落ちが無いよう立ち位置等に十分配慮する	
7817	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24								2		2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の動揺	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		職員配置に関しては問題なしと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年		面積値も規定以上あり、器具の使用方法も問題なしと思われる。	1.集団活動中・見あり		特に環境は問題はないと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	左側前歯がぐらつき始めていたので、7/10(土)にかかりつけ歯科予定でいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	スタートの合図を送るため、8人全員が見渡せるようm3ほど離れたところに立っており、転んだ瞬間には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びの補助として全渡体を見渡せるに立っており、本児には近くなかった。		集団遊びを繰り返す中で、気持ちが高ぶってしまうので、特にスタート前など落ち着かせる言葉がけをする。	
7818	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	保護者へ安全面に対する周知徹底がされていない。	保護者へ安全面に対する周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	通路等に少しだが段差がある。	段差があるところ等目印をつける。	7.その他	引き渡しの子ども様子もの様子を把握できていなかった。	引き渡し後は、速やかに帰園するよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	鞄を背負ったまま友達を追いかけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	渡したため引き渡した様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	引き渡した後ため様子を見ていなかった。	降園後は、遊ばずに帰ることを子ども保護者に周知徹底されていない。	降園後は、遊ばずに帰ることを子どもや保護者に引き続き周知徹底する。	
7819	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23			9	9	5			3		3	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	大型ブロックの扱いについて検討・あそびの検討幼児の保育者配置と乳児の配置検討を行う。	1歳からの使用の見直し（跨いで電車ごっこ椅子にするなどブロック自体上って使用しないことで乳児保育より遊びの使用方法を伝えていく。積んで組み立てで遊ぶなどルールを守ってあそぶ）この日は乳児の子どもがすでに少人数になっていたので保育者が幼児の方に回るのも方法だった人員配置をより手厚くするなど者を掛け合う	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年			1.集団活動中・見あり	保育者は子どもとあむ考がびびそえ周りてこと見えない	子どものあっ保育者主体性をすそ保育者伸ばす子ども育て集中がしてあそぶもしびこむ保育てあそぶものでは保育てマンとなく見守にえる変いく	1.いつもどおりの様子であった	夕方姉と一緒になって持ち揚	2.対象児至対象児を見ていた	本児の見様子ていた。他児しかが、話しされ他児の高さのあそ児びが一瞬び妨げられ出た時の来事だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は初傍でいた当見が別の場所に移動、本児を見ているが居で移動してた。もう一人は見守りの必要な子がおりそのことマンツーマンになってしまった。		保育を際行う常に周りをながら保育を行う。	マンツーマンしまうことのない（集中してとのない様）から全保育体を見る保育	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7820	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27									2	2	6歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/年	1. 基準以上配置	担任以外の保育士の側にいたが、他児に声をかけられ、そのまま対応していた。	体育用具の側にいる保育士はとくに、他児に対応する時も使用している子から目を離さないようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240回/年	点検結果を踏まえ、施設・設備には問題がないと思われる。	毎日の目視による点検等の確認。実施の継続。	1. 集団活動中・見守り	鉄棒、平均台には毎日取り組むようにしている。	使用している子が毎日取り組むようにしている。	1. いつもどおりの様子であった	頑張って取り組もうとした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	知らせを聞き、子どもの確認に行った。子どもから話を聞き、もう少し座っているよう声をかけ、様子を見ようにした。	当対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きを見ていなかった	落ちた声をすぐに聴いて子どもに声をかけ、任せられた。	まっすぐ気持ちが強く、大きな声で言う傾向があった為、いつもの通りかかって欲しいと思った。	本人からのこだわりがなくなるまで、様子の確認をする。	
7821	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	22									4	4	3歳	2. 女児	入園前の家庭で保育していた時から肘内障になりやすいと聞いていると聞いている。また、疲労骨折を起こしやすいと診断された。	8. その他	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1回/都度/年	2. 基準配置		特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		特になし	1. 集団活動中・見守り		特になし	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた		1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	当対象児の動きをい	着替えに入る・片付ける・トイレ排泄につく・給食片付ける・トの上で布団に寝る子どもの動きが分散したがすると子どもの動きを見ていないもきを切れて	片づけを後保育にして園児に携わる事の徹底	
7822	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	12									3	3	2歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2 4 0)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	夕方は、子どもは一日の疲れがあり、集中も切れやすいためも怪我をしやすかったと思われる	走ったり、跳んだりするなど激しい動きのある活動は、子どものの状況に合わせて午前中に行う	1. いつもどおりの様子であった	友達や保育士と一緒に、音楽に合わせ体を動かして遊んでいる	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児や他児の園児と、ダンスに参加していた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	学級全体の様子を見守りながら、園児の関わった	特になし	特になし	特になし	
7823	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	21	1	1	3	6	5	5			5	5	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年	2. 基準配置		朝の打ち合わせで死角や、気づかないことを話をして、職員同士で声を掛け合う	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年		定期的な点検を続ける	3. 個人活動中・見守り		人数が少なくなると、子どもたちも立ち上がったりする事が多くなるので、更に注意する様、声を掛ける	1. いつもどおりの様子であった	保育室にマットを敷いて、ブロック遊ぶ際、正座を遊んでいた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児が足痛いと伝えてきたが、様子をみていると、なかなか歩いてもらえず、その後も普通に歩いていたので、そのままみていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを			正座をした方や、遊び方が気になる子には、その都度声掛けをする	
7824	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	62				32	30				4	4	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	子どもに使いや体の方を知らせる。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	園児の転倒事故なので、園として改善する要因は見つからなかった。	1. 集団活動中・見守り	特になし	特に危険な個所はなく、日常遊んでいる環境なので、改善する点はなかった。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ、鉄棒をして、下ぐり、バランスを崩うだった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	至近距離で見たが、くって転倒することは予想していなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを		特になし	園側の改善策は特に見当たらなかった。	
7825	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	24									3	3	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右前歯の破折及び歯茎の炎症	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 基準以上配置	自由遊び見守り中の見ついて、立ち位置等に明確なルールが定められない	自由遊び見守り中の方法について、立ち位置、分担を定め職員間で共有する	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年	3. 未実施	実施頻度( )回/年	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	友達と一緒に鉄棒で遊んでいた。仲の良い友達が11月末に逆上がりが出来るようになった事に感化され、以後、熱心に練習を続け、1月末に自分も出来るようになった事をとても嬉しがっており、鉄棒で遊ぶ姿が頻繁に見られていた。	4. 対象児の見ていない	全体を見守り中と守りの認識のある目を配っていない箇所があった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りの認識のある目を配っていない箇所があった	遊びの性質、遊び方によっては、個々の子どもが持っている力によって、けがにつながる可能性の大きさが変わって来る事への意識が低く、見守り一様にてない。	3名の保育士で、見ていない領域がないよう、見守り箇所を明確に分担する。一様に見守るだけでなく、よりけがにつながる可能性の高い遊び、高い子どもを見極め、効率的な見守りが出来るよう熟慮し、共有し合う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7826	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									2	2	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	子どもの急な動きに対して危険予測が不十分だった。	子どもの気になる姿は職員間で共有・見知どもの職員の意識を高めるようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(3回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	2.不定期に実施	実施頻度(200回/年)	周囲に危険物はなかったが、急いで部屋を飛び出した行為の不把握が不十分だった。	子どもの多動きい場では、引き続き物の配置に気を付けていく。	1.集団活動中・見守り	玩具の片付けに数人残っていた。	次の活動に移る前に全体での確認を行い、落ち着いてできるようにする。	1.いつもおお様もりの子であった	いつもと特に変わった様子は見られなかったが、早く準備をしたいという思いから急いで部屋から出ることが度々あった。	2.対象至児の近児を見ていた	上記のような行動があったにもかかわらず、危険予測が不十分だった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	次の活動に向けての片付けを一緒に行っていたため、本児の動きの把握が不十分だった。	活動の区切りの時間で落ち着かなかったことあり、職員間の連携が不十分だった。	活動に向かう職員は明確にし、子どもの動きを把握していく。	
7827	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10	0	2	1	2	3	2			4	4	3歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	日頃から子どもたちが繰り返し遊んでいるものであるが、当時危険防止の為、定員を2名にして遊んでいた	慣れた遊び場が不安定な為、遊びの安全性を最小限に抑える今回の事故を共有し見守りの体制を整える	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守り	子どもの発達心身の発達、運動能力の思考能力等を配慮した面を見守っていた	怪我があったこの遊びでもやめる、と短絡的に結論出さず、危険予知や子どもの行動予測を念頭に置き、子どもの育ちを伸ばしていきたい。	1.いつもおお様もりの子であった	健康で精神的にも通常通り	2.対象至児の近児を見ていた	対象児から1mも離れていない所で見守っていたが、降園する子どもの対応もしていた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	週末の子どもの持ち帰り物が多い日であり、幼児と乳児の合同、流時間、お迎えのピーク、人の出入りが多く、一時も目を離さずに見守るところまできなかった。	なし	保育者が子どもの発達の特徴を再認識し、見守りを怠らないよう配慮する。	
7828	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	15									4	4	1歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	擦り傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置		クラス担任が全員タイマーを持ち、一定時間ごとにクラス内のこどもの状況を把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		遊具の撤去の検討した保護者の意向も考慮しは行わなかった。	3.個人活動中・見守り		今回事故の発生した遊具より、高い位置に登れる遊具については利用制限をしている。	1.いつもおお様もりの子であった	特別危険に感じる動きはなかった。	2.対象至児の近児を見ていた	他の園児の転倒などそちらの介助に向いていた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの遊びの補助をしていた。		転落する可能性がある遊具に子供がいる時は、その遊具に職員が1人以上付く。	
7829	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63			18	18	27				8	8	5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	保育士は、基準配置であったが、3歳児・4歳児・5歳児にいたので、目が行き届いてなかったかもしれない。	他の学年の職員と声掛けをし、保育士の位置の再確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭にレーキをなかけるなど、園庭の整備はていた。	引き続きに園庭にレーキをかけるなど、的に園庭の整備を行う。	3.個人活動中・見守り	他のものをしたので、様子を把握できなかった。	片付けを時は、走らないようにすることができるする。	1.いつもおお様もりの子であった	お皿をたまま持ま走ってしまった。	4.対象動を見ていなかった	他のものをしていたため、様子を見ていなかった。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	見てはいたが、少し離れたところにいたため、声が届かった。	片付けの際に、走ないということが、子どもに周知徹底されていない。	片付け方法を全向の再確認をし、全体に目を向けられるようにする。	
7830	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1	6	16	23	24	26	23	6		3	3	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	本児の保育場所は基本は0歳児保育室であるが0歳児の午睡時に職員室で過ごしている。保育補助が本児と一緒に職員室に移動したが、保育者がトイレに行く間、本児の保育を職員に引き継いだ。職員室には3名の職員が在中していたが、保育者の特定がされて居なかった為本児の行動から目を離しその際事故になる。	常に本児特に付く職員に定の職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日1)回/年	職員室ですす過ごす、本児いてと動いたる危険な所には把握していたが、コピー機の隙間が測ていなかった。	職員室でする保育時は、ベーサーの中ごしピークルで過ごで安全を確保する	7.その他	コピー機の隙間に足を入れるという行動が予測出来ず、事故が起こった。	周りの環境を見直し、職員室で過ごす時はピークルを設置し、安全を確保する	1.いつもどお様もりの子であった	本児は床に寝転がり移動することが多い。当日も横転して移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	職員室3名で本児を見ていたが、特定の担当者は決めていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	本児の動きから目を離した	本児のに近くに居た職員が他の職員の対応児の行動目を離した際、事故が起こった。	本児の行動に対する予測をし、安全な環境をご作り過ごす。特定の担当者を決める。	
7831	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	担任と支援員の連携不足	保育体制の見直し一日の活動の流れと保育者との位置の確認	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園児が約束を理解しているという思といい込み外のとっとへ想行動をとの認識不足		3.個人活動中・見守り		担任と支援員で連携をとり、見守り体制を整えていく	1.いつもどお様もりの子であった	日頃からやや落ちや着きに欠け、注意散漫な様子が見られることがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は園庭にいる園児の活動を援助し、時折、室内の園児の活動の様子を確認していたが、事故発生時には不在となった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	支援を必要とする園児ともに園庭にいた。		保育者が危険性を再認識し、見守りを怠らないよう配慮する。	
7832	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	5									2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	本児の体づかいの不器用さ・体幹の弱さがある。	体を使っびを遊びをより体験させていく。	1.定期的に実施	実施頻度(261)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(265)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(211)回/年	戸（サッシ）のレールや廊下の落差などでつまずくことがある。	室内・廊下の点検・整備を行う。	3.個人活動中・見守り	なし	なし	1.いつもどお様もりの子であった	クラスのほとんどの園児が戸外あそびをしていたため、戸外に出ようとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	担任が本児と一緒に戸外に出ようと、本児の傍を歩いていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	園庭であそんでいる園児の保育。		職員間で連携をし園児たちの状況を把握する。（どこで遊んでいるか）	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
7833	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11								1		1	5歳	2.女児	特になし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3回/年)	2.基準配置	子どもの対応で危険動きを予測が不十分だった。	子どもの姿や遊び職員間で共有・周知し、どの職員とも意識できるようにしていきます。	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	1.定期的に実施	実施頻度(12回/年)	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	遊びがさらに楽しめるよう台の滑り台の砂場に穴バスを掘り逆にバランス崩しやすくした。	危険予測に充分に考えた上であそびを提供していく。	1.集団活動中・見守り	楽しい遊びではあるが、危険予測充分に行い遊びが適切であるか判断する必要があった。	危険予測を充分に行い、あそびを提供していく。	いつもとは見られず、変わった様子は見られず、元気に過ごした。	2.対象児の近で対象児を見ていた	危険も伴う予想があったため、滑り台から目離れずに見守っていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	子どもの人数が少なかったため、担任一人あそび外あそびについていた。	楽しい遊びはあるが、危険予測充分に行い場合によっては補助にしてもらう職員入っても必要があった。	活動の内容によっては職員配置を考えていく。	
7834	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17								2		2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置		保育室でない、平均台などを行う時は、職員がいる時に行うことを子ども達に伝え、みんなで確認しあう。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		次の活動に移るに移動こえに移動こえて行動する。	1.集団活動中・見守り	次の活動に移る際に全員一度で全員に呼んでしまった。	朝の受け入れの時間だったので、平均台などは、みんなが来て見なが状態で出す。	3.いつもと活発活動的であった(理由を記載)	他の子が平均台の周りでふざけたのでそれにつられ勢いがついてしまった。	2.対象児の近で対象児を見た	走りだしたので止めようとした間になかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	野菜の収穫と水やれに担任と当番が行った。	全員を見渡せる保育士が1名しかいなかった。走出すかもしれないと予測はしていたが、声掛けが間に合わなかった。	運動遊び用具は、担任知己がいる職員に指導しながら行う。	
7835	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9								3		3	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	2.死亡	2.窒息				8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	・離乳食のメニューが1種類しかなく完了メニューは作成されていなかった。・離乳食の進め方については、保護者との相談は口頭確認のみで行い、書面で記録を残していなかった。	・離乳食メニュー(初期・中期・後期)及び完了期のメニューを修正して作成。・離乳食の進め方『喫食状態調査表』を作成し、家庭と連携しながら進める。離乳者完に、食札(名前・月齢)、献立の配膳したものを記載)を使用し、毎日担任と給食室及び調理者で確認しながら進める。・保護者には『離乳食の進め方の目安』や『1回あたりの目安量』のプリント交書を配布し、園と保護者の認識とくい違いのないように進める。『離乳食の進め方マニュアル』を作成し、マニュアルに沿って離乳食を進める。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	給食メニューの汁物に水分補給をしたが、さらにお茶での水分補給をしたよりかった可能性がある。	食前、食後にさらにお茶を飲ませ、水分補給を充分するようにした。	1.いつもお様子でもりの子であった	食事をしていた	2.対象児の近で対象児を見た	3人の園児を担当し、対面で児に食べさせていた	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	担当の子どもをさせていた	苦手な食材でも食べられるようになってもらいたいため、好きな食材と交互に与えていた。	苦手な食材でも少しずつ噛み込むようにした。	
7836	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6								3		3	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上第1歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	食事の時の職員の動き、マニュアルを周知していたが食事の時の職員の動きをクラス内で話し合い、周知しておくことができなかった。	食事の時の職員の動きや、介助の仕方、その子に応じた関わり方をクラス内で話し合い、周知しておく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	椅子が後ろにすべりやすい。	椅子を動かすことなどに背にすぐ壁をしてく。椅子が高いかが机のあるかいるか一度確認する。	6.食事(おやつ)中	2人食べをするには早い時期の児を2人食べしていたためにたった起こった。2人食べをして、食べている向かい側にいる児の介助をしていた時目が離れた	壁を背にしておくようにすると、1人ずつ食べる。離れないように目が行き届くよう、全員食べ終わるまで1人食べにする。	1.いつもお様子でもりの子であった	保育士のひざに座り、椅子に座った椅子に座っていることがあった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	他児と一緒に2人で1つの机に座っていた。	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	他の遊びの見の見児の介助を、他食事をしていた。	座ってた食べた、保育士のひざにして食べ普段から移動して食べ普段からしていた	椅子で食べることができるように「椅子にすべてたべ座ってたべ」などと声をかけながら子どもの様子を確認しつつ食事介助をする	
7837	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22								2		2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	腫れがかったと、段通りに生活いたで、ええそのを伝えにから入れ、休みに、何ばてほしいことも伝えていた。なこと、普迎にこと、夜に担任電話をる。みため、かか知ってあらせて	週末だったので、ためを受けるべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園庭でいる時の様子見守り必要。ようにどのんだの転かを把握する。	園庭の整地を行う。	1.集団活動中・見守り	友だちと手を繋いでいるかのは走っていりない見守りはしていた。	日頃の保育の中で、遊びルールのものをともと確認とお認く。	1.いつもお様子でもりの子であった	日頃の遊びりはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	友だちと遊んだのは把握していたが、転んだ瞬間は見切れていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	転んだことを伝えの務所に、医療に来て連れ、室にていき、開状況を、複数で確認し、処置をする。	子どもの取り聞きりとなったため、イメージがバラバラだったことが考えられる。	保護者に伝えて、様子を見てもらったが、翌日腫れあったが受診をする。	
7838	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27						27		3		3	6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剝離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり		実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし	職員は全ての子が視界に入る様子が配置場所を常に考え行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	園庭の見回りの強化	1.集団活動中・見守り	特になし	鬼ごっこ前をする鬼はしくやさしや他児にタッチする事を子どもと逃と約束する。ソフトタッチする理由も逃ると考える等。	1.いつもお様子でもりの子であった	鬼ごっこいをしてする時、鬼タッチをされる足をひれる様に倒れた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を見ていた対象が距離が離れるのを防ぐ事が出来なかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	園庭で他のグループの遊びを見ていたので対象児が倒れる瞬間を見る事が出来なかった。	特になし	コーナー遊びをしている時も、職員一人一人が出来るだけ全体を見意識する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面						環境面				人的面																
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者の状況											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因																											
7839	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10			3	3	4			1	1	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指、薬指のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	実施頻度(随時)回/年	特になし	1.集団活動中・見守りあり	朝の合同時間は、保育士が一人でも安全確保が出来る遊びの環境を準備する。	朝の異年齢児がいる時間は、保育士が一人でも安全確保が出来る遊びの環境を準備する。	1.いつもどりも子であった	いつもと変わらない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていたが、箱のそばから離れていた		1人で見ていた為、他の職員はいなかった	全体を把握できる場所に職員がいなかった	跳び箱など運動遊びの固定遊具には、保育士が必ず側で見守るようにする。	
7840	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	26			26					2	2	3歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	遊具の事故予防に関する職員の意識統一ができていない	事故予防に関する意識を高めるため外部の研修に参加した。園内事例でもとに合っても話していく	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	公園内にある遊具が、子どもの遊びではなく健康遊具であった	散歩先や公園外の遊具が、遊ばせる子どもの年齢に適応なものかなどの確認を行う	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいる公園であり、遊具の制限をかけていなかった	子どもたちへ遊具の使い方を指導を徹底するとともに、散歩に付き添う職員間でも遊具の付き方・遊ばせ方など意思統一しておく	3.いつもも活発で活動的であった(理由を記載)	公園ということあり、保育所内で遊びと育所の遊び活発であった	2.対象至対象児の近で象児を見ていた	遊具の側につき、子どもが遊ぶものを守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具につき、子どもが遊ぶ子どもの守った	遊具の側には、つい見守っていたが、子どもの行動が予測できず事故つながってしまった	散歩先での危険なことを具体的に予測し、職員間で意思統一しておく	
7841	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24			8	8	8			1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	実施頻度(　)回/年	築山での滑りやすい事為、子どもたち個人危険個所を確認し、気をつけてあそびにあようにそに声をかける。	1.集団活動中・見守りあり	築山でのかけっこ、跳び下り、駆け下り	築山での跳び下り、駆け下りを禁止ルールとし、子どもたち共通認識とする。	1.いつもどりも子であった	他の園児と一緒に遊んだ	4.対象児の動きを見ていなかった	1名の保育士が他の園児の対応中であった		事故当時1人であった	職員人数に応じた活動が出来ていなかった	配置職員数に応じた活動を行う	
7842	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40			13	15	12			5	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手　前腕2本若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(　)回/年	実施頻度(　)回/年	遊ぶ前に必ず保育士は日常点検を行う。おもちゃ場の考え方、片づける場所や方法について子どもたちと相談し危険のない見直す。	3.個人活動中・見守りあり	友だち同士でそべっていた子どもたちにぶつかられて転倒した。	おもちゃの棚の近くで遊ばないように常に伝える。	1.いつもどりも子であった	おもちゃくぐりをおもちゃの棚の横から取ろうとしたときにぶつかれて転倒した。	4.対象動児の見ていなかった	担任は担当保育士に引継ぎ中で児童をなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担はしていたもの、他職員はトラブルに対応しており、トイレに付き添っていたので状況は見ていなかった。	担任はおもちゃの棚の近くで遊んでいる子どもに気付いていなかった。	長時間での遊び方を再確認し、広い場所を見つけて遊ぶように引き続き伝える。	
7843	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	25								2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指亀裂骨折（ひび）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子ども達全体の様子を見ていたが、状況を把握しきれていない部分もあった	子ども達の状況を把握し、保育の工夫をしていく	1.いつもどりも子であった	いつも通りと元気にいっぱい友だちと遊んだ	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら子どもの対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人で保育した	子どもたちも興奮気味で集中が切れがちになりやすいタイミングだった	落ち着いて遊べるよう環境を用意しなければいけなかった	
7844	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34	2	5	4	7	9	7				4歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指先剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	ホール内使用時、室内の職員の見守りなかった。	子どもが複数で室内へ入った際は、遊びやトイレブルがないように見守りする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２～２４　)回/年	トイレ入り口の扉の内側に指挟み防止対策がなかった。	扉内側に指挟み防止ガードを設置し、子士で閉じても同も扉が出来ないようドアストッパーも設置した。	1.集団活動中・見ありり	遊びの途中でトイレに行き、のことで友だちと遊びの延長でふざけて、ドアを開しても閉してまった。	トイレ入口のドアを遊びで開閉しないようドアストッパーをつけた。	1.いつもどりも子であった	仲の良いと友だちと一緒にトイレに行き、トイレの入り口で遊びになった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭からは見守りはしていたが、ドアを動かしている動作は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のも守り前にあった。	どのクラスの子たちや対応でした。	園庭でそんでいる室内に入った児の把握行い、必要であれば一緒に室入り見守る。	トイレで遊びにいないか職員が見守り、把握する。	
7845	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				13	6			1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右母指基節骨骨端線損傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数　)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(頻　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見ありり	特になし	特になし	1.いつもどりの様子であった	普段通り元気に遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ていたが、事故発生時、他児と会話していたため、対象児の報告を受けて、事故発生に気づく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外保育中で、保育士一人であった	保育士は全体を把握できる場所におらず、対象児適切な声掛けが出来ていなかった。	保育士は全体を把握できるよう位置を適宜確認し、心配な場合は応援を呼べるような体制を整えく。また、場合によって、遊びの内容を考える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7846	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	23								4	4	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(8～9)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	円の大きさに対し人数をつかっていなかったため、円の上を走ども増えて、子どもの子数が増えしまい、子どもも同士の適度な間隔が保てなくなり、突然止まった児童に対して後ろから走ってきた児童が止まれなくて衝突し切れなかった。	あらかじめ参加人数を決めておく、など担任間で遊び方を共有してから活動に入る。	1.いつもどおりの様子であった	登所時間もいつもと変りなく日中も元気だった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	所庭に描いた円の走っていたで、近づいたり遠いたりしていた。事故があった時は、少し離れた場所だった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	咄嗟に駆け寄ったが、ぶつかることを防げなかった。	経験させたい事の活動の裏にあるリスクを考え対応できていなかった。(想定人数が増えたに対応できなかった)	想定外に人数が増えた時点で、人数を制限するなどの的確な判断ができるようにする。事故やヒヤリハットの事例を職場内で共有し、起りうるリスクへの対応策について学習する機会を持つ。	
7847	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	38				21	17			3	3	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	集団遊びで走っていた。	2.対象至児の近で対象児見ていた	本児を含め児童をおり見ており、ぶつかった瞬間にかけつけた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人は別の角度から全体を見ていた。もう一人は子どもと活動していた。	保育士の配置、立位置再考することが必要。	こどもたちが夢中になっている場合は特に声掛けを頻繁にし、ぶつからないように気を付ける。	
7848	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16								1	1	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	・午後のおやつの後、少し落ち着いてから外に移行したが、所庭に出てすぐに鬼ごっこを始めてしまった	・鬼ごっこ等、身体を動かす遊びの前には、準備運動等の体ならしを行う	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこだちを友だと共に、楽しんで遊んだ	2.対象至児の近で対象児見ていた	全体の動きや表情に目を配り、活動を観察していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任であるため、担任外に当該児童の動きを見ていた職員はいなかった	特になし	特になし	
7849	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				24	21			3	3	4歳	2.女児	本児の身長106.8cm ぶつかった相手の身長102.4cm 身長差4.4cmあり	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右顔面打撲傷、右眼窩内側壁骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし。	登園時間が様々なので、当番時間帯を超えて全員が登園するまで自由遊びをしていた。しかし9時からは全員が安全面を考慮して自由遊びはやめて設定保育に変更した。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園庭の構造上、Uターンを続けることにより、鉄棒前あたりは加速しやすい状況になる。	鉄棒前に外用机の配置換えし、園児の動線を整理する。	1.集団活動中・見守り	全員が登園する間、園児が自由に遊び、園庭の色々な場所を走る。	朝、複数クラスが出ているが、時は走らないこと等職員間で再度確認し、そのルールについて4，5才児クラス園児に伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、砂場に向かって直線に向って走った。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	具体的内容記載欄)他児が走り、Uターンを対象児と衝突したり、距離が離れたりでできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場前にだした机を児童と他児とで砂遊びをしていた。追いかけっこ供ンして走を対象児とぶつかることをみ向きを変えるUターンをしるか、突発的なこと。	職員3人で園庭の様子はみていたが、突発的な状況ではみられない状況だった。	保育内容の見直しをした。9時までの当番保育の時間帯で複数クラスが同時に園庭で遊んでいる時は、走る遊びをしないようにを指導した。9時からの設定保育では、リズム遊びなど体を動かす遊びを多様にし、発散できるようにする。	
7850	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	23								2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	充分に広さが確保できないところや、とこの道が悪い場所では、転倒や怪我につながることなどが予想された	歩く時、走る時などに場所によって配慮し、子ども達よって意識できるように声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝は元気に登園し、散歩中も機嫌よく遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象見ていた	全体を見ながら、対象児を離れたところで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子を個別に対応していた。	保育者が一人が子の他の子ども対応をしていた為、2人で全体の様子を見ることが出来なかった。	保育士同士で声を掛け合い、子どもたちの位置や状況などを把握し、一人が対応している時には待つなど連携を図り、保育を進めていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面						人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
7851	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									4	5歳	1.男児	発達障害と診断あり、療育への通所もされている。個別支援計画あり。	1.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯打撲・下唇裂傷	2.自らの転倒～衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１４)回/年	2.基準配置	・自由に子ども5人を保育士1人で対応していたが、子どもの動きが全体的に把握できていなかった	・活動内容によって、子どもの人数に関係なく、複数の職員で対応することを、事前に決めておくことで、活動前に職員の体制を整える ・保育の整備が不十分な場合は、活動内容を再検討または変更する	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	・保育室の環境は広さや床の材質を含め、風船遊びには適していなかった	・保育室でなく、遊戯室で行う （ソフト等マットの使用）	1.集団活動中・見守りあり	・保育室の環境（広さや床の材質等）が風船遊びに適しているかどうかの検討ができていなかった ・事前に風船（動きの予測がつかないもの）を使用するときのイメージや遊び方、約束事も確認できていなかったため、子どもが思うままにしまった	・活動に場所が適した場所かどうかについても検討しておく ・事前に風船遊びのイメージや、遊び方のルールを子ども達と確認する（風船が思うように動かないと、２～３人ずつ順番に遊ぶなど）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児の希望だった、風船に意識が行き周りが見えない状況	4.対象児の動きを見ていたときに	他児の動きに注目していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所庭で他の１名の活動を見守る	・少人数で、担任一人で見ることができると思った児も含め、それぞれ子どもたちが活動時に どのような動きになるかそれぞれが自由に移動する（転倒すなど）を予測できていなかった	・担任間でどのように遊ぶのか（動きのある活動をする際は全体を一人で見ることが難しくなるため、２名で保育する、活動場所、保育体制が整わない場合等）詳細をしっかり確認、検討、共有しておく ・日頃の様子から、危険につながるような子どもたちが苦手な動きや気持ちが高揚する場面等を読み取り予測して対応していく ・今回のようなことは誰にでも、どのような場面でも起こり得ることなので、どのような活動においても、担任間やフリー職員で遊び方や準備など、環境設定を確認し共有したうえで行っていくことを職員間で再確認しあう	
7852	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	12									4	2歳	1.男児	軽度の発達障がいがあり、療育に通っている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右上腕骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	対象児を含めて、遊具を使用したが、用回数は少なかった。	遊具の使用年齢の確認と、遊具を使用する際の保育者の立ち位置の見直しを行う	1.集団活動中・見守りあり	年齢的に思われる遊具を使用してしまった。	当該遊具の使用について職員間で検討し、子どもたちの発達に応じてあそびを進めていく。	1.いつもどおりの子であった	対象児は発達障がいがあり、療育へ通っている。普段より方向転換などの突発的な動きをすることがあったため、当時も個別に見守りをしていたが、遊具を使用している時に突発的に方向転換したと思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	個別対応をしていたが、対象児が瞬目をしまった。他の職員に対象児の動きを伝達できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の援助を行っていたため、対象発達出なかった。	本児の特性を把握して個別対応をしていたが、連携がうまくいっていなかった。	個別対応をともに徹底するとともに突発的な動きに対応する事が難しい場合は職員間での声掛けを徹底する。	
7853	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									2	2	4歳	2.女児			1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右上腕骨遠位部骨折（全治3か月）	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	・所庭の3連鉄棒は、2年に1回の割合で修繕を繰り返している固定遊具である。 今回は体具自体合かつ遊具の不はなかったが、鉄棒の下に敷いていたマットウレタンマットがンマットだった。	・今後、鉄棒遊びの際は、保育マットを使用する。	3.個人活動中・見守りあり	・片付けにこ気付けの時間になったで、焦る後ども持ちが中、最の前回りをとした。	・児童に片づけの知らせる際は、鉄棒遊びを終了させてから行う。 途中で片付けの時間になった場合は、焦る必要はないことを知らせ、落ち着いた状況で行う。	1.いつもどおりの子であった	・所庭で10時からの集会に参加し体操を2曲行ったあと、砂遊びを中心に活動し、11時前から鉄棒遊びを始めた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	・当該児童の指導・対応で傍で導した。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	・複数のクラスが所庭で所外遊びをしていたが、他の保育士は誰もいなかった。	・児童一人ひとりの運動発達を見極め、一人ひとりに合った運動遊びを段階的に楽しむようにする。 ・思いがけない児童の対応ができるようにする。 ・所庭にて固定遊具を使用する前には、担任間で対応方法の確認を、意思統一する。	
7854	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	11	9	0	0	0	0		4	4	1歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左前腕若木骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	1.基準以上配置	園庭で、ジャングルジムで遊んでいると、園児が必ずジャングルジムの場所で守ってきたが、ジャングルジムの場所が保育士の遊んだその場所で見守りしていた。	園児が突発的に発的に登ってもジャングルジムの周囲に必ず対応できるようにする。「私が見ます。」「離れるのお願いします。」など声をかけ合いを明確にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭遊びの時に転落の危険性があり、大きな事故がケガにならないケガはなかった。	園児がジャングルジムに急に上り出すこともあるので、必ずジャングルジムの監視ができる位置に1名いるようにする。	1.いつもどおりの子であった	本児は最近ジャングルジムに登れるようになった。また、前日もジャングルジムの場所で見守りされていた。	3.対象児から離れたところで対象児で見ていた	事故発生時、離れた場所で児童が怪我をしたジャングルジムや踊り場の上で踊っている様子を見た。「危ない」というけがを伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の園児のものを守っていた場所で本児が死角になり、ジャングルジムに落下する状態を誰も気付かなかった。	前日の様子から、危険性を予測し職員が行動する。園庭にいる全園児がジャングルジムに登ってこないように職員が見守りをする。 ・園庭広範囲に視野を広げ、園児がジャングルジムに登る時に見守りができるようにする。	前日の児の本児の行動から危険を予測できていなかった。園にいる全園児がジャングルジムに登ってこないように気付けていなかった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面						人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7855	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	12								5	2	2歳	1. 男児	左半身まひの為、療育手帳あり	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	足根骨ひび	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年程度	1. 基準以上配置	職員間の連携不足	園児目とき園児から物品の置き場所、破損をチェック	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	オムツ台にバケツが置かれていた	物品の置に改場所して改善する。朝・昼食おや後・おや館内チェックを行い物品の置き場所、破損をチェック	3. 個人活動中・見守り	本来、置くべきでないところに物品を置いていたこと	まず物品場の置き徹底所のと管理をする。	1. いつもおお様もりの子であった	当日は元気に登園し機嫌よく過ごしていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	当該児童が児は配慮が必要であり職員が就いた状態	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	他の職員は他児の保育をしていたため気付かなかった	目を離ときに他の職員に声かけができていなかった	園児からは目を離さない事を基本とし、イレギュラーなことがあった場合は必ず他の職員に声をかけることを徹底する。	
7856	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	15	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕頭部骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	年1回以上	2. 基準配置	特になし	園の状況に応じた園独自のマニュアルの成・マニュアルに基づく対応の徹底。	1. 定期的に実施	実施頻度1回/月	1. 定期的に実施	実施頻度1回/月	1. 定期的に実施	実施頻度1回/月	特になし	机の上にはらもたいなど常日頃から部屋の危険な行動を予測し、子どもに伝える。	1. 集団活動中・見守り	保育室のどもの動きが流動的になり、トラブルも発生しる状況であった。全体を見る職員が1人は全体把握を担当し、必ずトラブルを発生させないタイミングで子どもの危険を察知し止めることができなかった。	トラブルや雑務は起こるが、必ずトラブルは全体把握できるよう体制を取り、子どもの危険な動作に早く気づき事故を防ぐ。机や椅子が出ている室内環境は起こりやすいと認識する。	1. いつもおお様もりの子であった	机と机に置いて足を浮かせて宙ぶらりんとしていた。バランスを崩した時、後方に転倒した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任Aは洗濯のため3歳児室前のテラスに出て干していた。担任Bは子ども同士のトラブルを対応していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	雨天のため、それぞれの担任クラスで保育を行った。	特になし	雑務とトラブル対応で全体を見ている人がいない時間帯が出来てしまった。トラブルが起こった時には、他の職員は雑務を止めて全体把握をする要請して全体把握を怠らないかを意識して判断していくようにし、必ず1人は全体把握できるような動きに留意しておく。	
7857	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	42								2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもおお様もりの子であった	いつも通り自由に戸外で遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	戸外遊という中事で、視野を危険がいっぱいなかなかいろいろ子どもおこをしていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	同じく、視野を広げ死角にならないよう見ていた。	日頃より保育士がそばに付いていない時には梯はしないという約束をしていたが、本人がいうちが止められず、遊びしまった。	うんていのソフトマットを引いていた。日頃からうんていをする際は保育士がついているときの約束をしているため、再度子ども達に約束をし再確認し合う。	
7858	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	26								2	2	5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折(左足首)	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回随時/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回随時/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回随時/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	7. その他	回転したときにバランスを崩なかった様子。	保育の中で体幹を鍛え転ばぬ体を作る活動を取り入れる。	1. いつもおお様もりの子であった	いつもとわらい様子であった	4. 対象児の動きを見ていなかった	部屋を片付けていたので、児童がテラスへ出たのを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋を片付けていた。	午睡後、担任は部屋を片付けていて、本児がテラスに出たときにおこったので、気づくが遅くなった。	一人ひとりの位置や動きを把握すると共に、いつでも痛みがある場合はすぐに子どもたちに話をしていく。	
7859	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	15								2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2. 基準配置	適宜な事故予防研修が必要。	全職員で定期的にマニュアルの見直しをする。	2. 不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300　)回/年	職員の手作りの遊具の為、安全面が弱かった。	新しい遊びの時はミュレーションを行う。危機の予測を立てる。	1. 集団活動中・見守り	遊びの内容と見守りのバランスが悪かった。	職員が連携して遊びの内容を理解し、あそび応じた職員配置を行う。	1. いつもおお様もりの子であった	いつもとわらい様子であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児を見つつ当該児童を見ていた。目を離す事もあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じに当該児童から目を離す事があった。	遊びの内容と見守りバランスが悪かった。	職員が連携して遊びの内容を理解し、あそび応じた職員配置を行う。	
7860	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	16								2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	職員に対して、鉄棒の指導法の周知が完全ではなかった。	職員間で指鉄棒の導法について話し合い、共有しあえる。	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３００　)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	鉄棒を始めようとしている当該児童に気づき、補助べきつくできた。	鉄棒を始める際は、保育者に声をかけるようる。	1. いつもおお様もりの子であった	普段から、鉄棒に意欲的に取りでいた。	2. 対象児の至で対象児を見ていた	鉄棒の近くにはいくたが、一瞬で落下する児童に対応できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	次の活動をするために、当該児童から目を離していた。	当該児童は鉄棒に取り組みをたばかりであることから、もっと見守りべき傍で守きであった。	担任保育士2名が、連携して鉄棒遊びを見守る。事前に子どもたちに鉄棒遊びのルールを伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面						人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】				理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7861	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	9									1	1	6歳	1. 男児	前日夜、自宅にてベッドから落下し、右上腕部外側に打撲と裂傷を受傷してきており、登園時に保護者からその旨の引き継ぎがあり、当該児童も少し元気のない様子だった。負傷した腕を気にしている様子がえうかがえた。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突るも	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	室内で走るっ行為入を取り入れた集団遊びを行ってしまった	室内という環境に集した集団遊びを考える	1. いつもおお様子であった	前日の家庭でのケガあったもの、対象児が熱望して始めた遊びだったので、いつでも通り気な様子で遊んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	見守りながら、走らないなどと声かけをしつつ守った。	事故の際保育士は1名だった	前日に家庭で負傷してきた状況であった本児が熱望したので、そのままとしてしまった。	子どもの希望を受け止めることよりも事故の防止を考えて、今後は遊びの内容を配慮する。	
7862	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13									3	2	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左母趾骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突るも	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2-3)回/年	2. 基準配置	特に無し	予測不能な事故が起こる事や状況の把握、確認をする習慣の周知徹底。	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	おもちゃてごかかっ入れるかいるが、マットや机のはなっ上ではなく、動線上にあっためた（安心カメラで確認する。）。	物の整理整頓、及び室内でなら走らない事を徹底する。	1. 集団活動中・見守り	足元が確認出来ない状態でだし走りだった。	環境整備	1. いつもおお様子であった	ほぼ1対1の関わりで、落ついて着いた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	抱っこかいとの事降ろいて、した走り出した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応及び送迎のを。	特にし	室内は走らことをすこれまで歩くこを通りと伝えていくと同時に、躓く原因等になりうるものは動線に置かないようにする。	
7863	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	9									3	3	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット報告を継続し未然げになる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年		園外施設のため、ハード面を改善することはできないが、活動時に現在行っている活動前の安全点検を継続し事故の発防止努める。	3. 個人活動中・見守り		日々の保育の中で危険予測の力がよにつく、身近に危険についてつながるをく。	1. いつもおお様子であった	木登りをしおり、さらに上に登ろうとし節に右足をかけたら滑ってしまい落下。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	木登りをしようとしていた対象児に対象手を貸し、両足をかけた分を所で木をつかむと、実際掴んだのを確認ら手を離したそのを守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていた	1名は加配児についた。もう全て1名は見ていた。		危険が伴う遊びでは、より強く怪我や事故を防ぐ意識を持ち見守るようにしていく。	
7864	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13									4	4	3歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手人差指末節骨骨折、挫創	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	1. 基準以上配置	配置は基準充たしているが、人数だけでなく、移動の際や子どもたちの様子や人数の見て配置を考えていく必要があった。	子どもの様子、移動数や人数など人数を考えて配置えていく。移動どもが減ってものから行から行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1、2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	柵の蝶番部分は、カバーなど手や指が入り状態だった。	柵の蝶番部分にカバーを取り付け指が入よりやすいにした。	1. 集団活動中・見守り	子どもたちが落ちいて状態が着ないだった。	移動や段使用際は、子どもたちを落ち着かせ、階段を降りることを中で集るするよう段や危険子どもたちに伝える。	1. いつもおお様子であった	普段から突発的な行動が多く、危険行動も見られていたので、事故や怪我につながらないように付けて いた。活発で好奇心旺盛な児であり、事故の際も柵の蝶番部分に興味を示し、指を入れ、自分で柵をしまった。	4. 対象児の動きを見ていたかった	他児が階段を降りている中で、他児から目を離してしまった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	職員は先頭について全て見たが、一番後方にいる本児の様子付おり、体をいた一番後方に児に気がかなかった。	普段の突発的な行動を起こす本児の状況を把握していたにも関わらず、階段を離してしまった。	子どもたちから目を離さず、突発的な行動の本児の様子を見られる児考慮先頭にするなど対応していく。	
7865	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	16									2	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突るも	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(7～8)回/年	2. 基準配置	普段から戦いごっこ様の好きで、危険な動きを事が多い。危険予知能力が未熟である事は保育者も理解していたが、加配レベルではない。	どのような動きをすると、筋骨肉、関節に異常をきたす危険があるかを、体のしくみのお話を繰の通し伝えていく。危険な時に体を自ら守れる動きが取れるよう、ふだんから動ある普段からの遊びを実施し、経験を通し継続的に保育学べる提供を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故では、ハード面での要因は考えにくい。	工芝でひっ転棒がいかの場所でいない等、今後人足がかり倒なる点検を倒もなる定期的継続する。（今回のでは、つまずいていない）	1. 集団活動中・見守り	晴天の屋上園庭、広く物の場所で、開放的な気持ちになった、大きな動きをとなったり誘引した、なったが可能性が考えられる。	障害物が無い場所で走る時は、最後まで気を抜かず、走り危ないなどの動きしない事前をよに注意喚起をする。	1. いつもおお様子であった	体調はいつもと変わらない。この日はプレイランド（室内遊技場）で遊びたかったが、別の用途で準備中にて、ｽﾀｲﾙ事になった。走るまではいつも通りだったが、走りきるまでにジャンプした事だけはいつもと違った。（準備運動後に走るのはいつもの流れで、本児もいつもは最後まで走り抜けていた。）	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴール地点で待機中の他児と一緒に担当保育者がいて、本児が走るのを見た。保育者から3～4mの距離で本児がながらジャンプし着地に失敗する。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	もう1名保育者がスターの位置の下で次の遊び（シャボン玉）の準備をしながら見た。（反対側に至近距離ではない）	本児はウルトラマンや板面ライダーの動きをしてなりきりするのが好きだった。皆はゴールまで普通に走り抜けて本児は何故かゴール付近で回転するようにジャンプしたくなったのだと思われる。（かっこよくゴールしたかった）普段しない動き慣れない動きだったため、ケガにつながったと思われる。	走りながら、なりきりながら、遊びを行う。バランスを崩して転倒やケガある事を繰返し伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
7866	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60	0	0	0	22	23	15	0		3	3	6歳	2. 女児	天候：晴れ	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	左足関節捻挫・左足関節外顆骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突による	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	転倒やケガを起こしやすい場所について、職員への不十分であった。	乳児部会・幼児部会で月1回危険個所の確認等をし、注意喚起していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型遊具に敷周囲に人工芝きを2月5日～6日に張り替えをしたりでえばあった。園児へ人工芝張り替え後の注意喚起が欠けていた。	鬼ごっこする子は、内侵入保護者が注意喚起する。無侵入の無いよう注意をする。	1. 集団活動中・見守り	この日は本児クラスの懇談会があり、担任は出保育士に園庭にいなかった。	担任保育士が関わることが出来ない場合は、ケガ等しないように事前に担当になる保育士に情報を伝え、注視してもらうようにする。	1. いつもお様子の子であった	もともと運動活動は得意ではない、おままごとや砂場遊びを主にするような子である。年長児であり、2月下旬から午睡時間が短縮された。休息時間はあるものの、今までほどぐっすり睡眠しなくなったことで身体疲労を可能性がある。最近活動的なお友だちと仲が良くなり、この頃にこおり鬼を楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	A保育士：六角ジムと雲梯側におり、遊具を使用する子を主にみていた。こおり鬼をしていて遊んでいる子について把握していたが、ずっと注視することは出来なかった。本児が足を絡ませ転倒したことには気づかず、本児の周りに他の園児が集まり、「だいじょうぶ？」と声をかけている様子に気付き、本児のところへ駆け寄った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	B保育士：鉄棒側におり、主に鉄棒を遊ぶ子をみながら、園庭周囲を確認していた。こおり鬼をして遊んでいる子について把握していたが、ずっと注視することは出来なかった。C保育士：雲梯側におり、ボール遊びをする子とながら一緒に遊んだりしていた。時々、全体を確認していたが、こおり鬼をしている子について注視することは出来なかった。	人工芝を張りを替えて芝から芝を踏む感覚も以前とは異なる為、園児たちに転倒など注意するよう注意喚起することが出ていなかった。	この時期は生活状況の変化もあり、午後は心身共に疲れやすかったりするため、激しい遊びをする時はしっかりと実施し、事故が起きやすい場所は遊ぶ前に園児達と確認をし、遊び方に注意していく。	
7867	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									4	4	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/週	1. 基準以上配置	毎週のヒヤリハット検討ては保育リにつ検討されることが無かった。	クラスだよ机・椅子等をる子スク合い検討した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	園児の椅子の間隔が狭く、隣の椅子に触れる状況だった。	間の広さを考椅子の配置椅子の検討をした。保育室内の広さ、椅子の高さ、床の状況を考慮した。	1. 集団活動中・守り	練習中であり、職員も通常通りにも違いをした。	いつもと動きも違う子どもに慣れている職員が子どもに注意して子どもに目を配っていく。	1. いつもお様子の子であった	集中力がおこり椅子をたり動かしり踏の児をしているを見られたが、他の児と椅子に座っていた。	4. 対象児の見ていなかった	担任は17人の園児の端に立ち、次の説明を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	副主任は卒業証書授与をしていた。副担任は配慮していた。主任は一部練習の様子を見に来ていた。	職員はそれぞれの割り、職員が見ていなかった。	全体を観察し危険な場所等に注意をしていく。職員は役つつお役割につ全観察なかった。	
7868	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	19									1	1	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3，4 回/年	2. 基準配置	職員がそ応ていたら、、支えられかもしれない。	こりう事故を予測しながらをしていく。また、活動をする前に準備体操などを行っていき、体をほぐす。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	職員がすぐに手が出せない位置だった。十分ほぐれ切れてなかった。	始める前にストレッチ運動などして身体ほぐしてから外遊びを始める。	1. いつもお様子の子であった	朝、母親からちょっと鼻水が出ていて申し送りがあった。受け入れ後へやでトランポリンなどしていつものように遊ぶ、対象児自身がボールを追いかけたが、他児に比べて落ち着いて追いかけていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	・対象児が途中でボールを追いかけ追る速度を少しめたもあり任は審判をした場所で見守りました。バラバラを崩きにンスをしたとすぐにあしたことを支えることるできるげるの位置ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はいなかった、	職員の通し甘かった。	活動に子どもたちが夢中になっているときの保育者の立ちつつ位置などにコミュニケーションをし、咄嗟の時に判断できるようにする。	
7869	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30	0	0	0	0	20	10	0		2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	前距腓靭帯損傷腓骨骨折（ひび）	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		マニュアルの中に準備体操項目も作成り 常に確認していく	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年		朝、保育の始まりに、園児の環境の確認てび始める	1. 集団活動中・見守りあり		担任間でしあ確認し育の立ち気土の位置を配り人ひとりの様子を把握していく	1. いつもお様子の子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に4歳児2名 砂遊び、鬼ごっこ、縄跳びをしていた。担当保育士1名と非常勤1名で子どもたちを見守り時には一緒に遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児10名ドッジボールを遊んでいた。	登園がなった遅くなる為 準備体操をせずに遊び始めてしまった	準備体操を必ず行えるよう、担任だけでなく非常勤とも時間をずらして行ったり、全員が体を温めてから遊び始めるようにする	
7870	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	18				18					2	2	4歳	2. 女児	発育、発達状況良好。	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左示指末節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・安全設備上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	担任が1人休みだったが、2人とも同じ方向にむいて立っていた。	保育者の立ち位置や遊べる範囲を決めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	重い石を使び遊びでは危険だった。	重い石は使いもの使よいにすうる。撤去した。	1. 集団活動中・見守りあり	保育者も子ども達も、重い石の危険性を感じていなかった。	重い石の危ないなさ、お集まりで子ども達に伝えた。ルール確認をその都度行う。	1. いつもお様子の子であった	いつも通りのようであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児のグループを見守りしていたが、人数が多いに2人いた。		本児のグループを見守りしていたが、人数が多いにいた。	遊び方の危険性を感じていなかった。	重い石を使っての遊びはやめる事を園全体で共有する。また石は撤去した。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事													ソフト面						ハード面						環境面					人的面																
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7871	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18		7	11						9	9	2歳	1.男児	在胎週数３６週、双生児、出生時体重２３０２ｇ。先天性の遅視・乱視あり。右の内斜視強く１歳８ヶ月で手術、矯正眼鏡かけ始める。視力以外の発育・発達で遅れを指摘されたことはないとのことで今年度入園してきているが、入園後不注意や身のこなしの不安定さから転倒や打撲など怪我が多く、園全体で要配慮児に挙げ関わっていた。（移動時は大人が付く）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	左第３・４中足部の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	1.基準以上配置	例年はリスクマネジメント委員会を設けていたのだが、今年度は設けることが出来ていなかった。（必要性は感じていたが今年度顧問・主任が新任に変わり、新型ロッタウイルスの感染症等の対応に追われ新体制が整っていなかった）そのため、事後防止対策マニュアル（チェックリスト）を職員に配布はしたものの、その後の確認をしたり、その結果を受けての再周知などは出来ていなかった。今年度、１・２歳児クラスには本児を含め要配慮児が複数人おり、職員は基準以上が配置となっていたが、要配慮児を考えながらの保育やおむつ処理のマンパワーが不足を感じていた。要配慮児の対応については区の巡回訪問で相談したいと考えていたが、新型ロッタウイルスの影響で延期となっており、相談はできず基準以上の職員配置をするなどの決断には至らなかった。現数の職配置でも若干名のも保育体制の構築を模索中。	スクジメント委員会を設けて機能させ、年齢毎の基本事故予防に関する知識をつける。 ・適切な職員配置や保育体制の検討。 ・要保育児についての知識と保育技術上の向上を図る。修機関への相談）	配慮 ・保育や療育などの相談	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし		1.集団活動中・見守り	あり	なし	1.いつもどおりの様子であった	大人に付き添われ着いて移動しているように見えたが、園庭で遊びたいという気持ちが先走ったり、室内から出て視野が広がることで注意散漫になっていた状況があるかもしれない。	2.対象児の近で対象児見た	本児含め４人の児と移動。途中まで本児の隣についたが、靴下を取るのは近距離だから大丈夫と思ったが、後方から見ていた。また、タイミングで他児から声をかけられたため、視野に入れていたが注視はできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいる園庭は園児で遊んでいるものを守るため、その子どもたちを見ておりテラスども当職任せていた。室内にいる職員分のものは職員に任せていた。	本児の使い方やバランスの悪さ、不注意などの特性について理解が足り寸、適切なかかわりができていなかった。	・本児の特性を理解し、適切な関わり方をする（身体のバランス力や体の使い方が手が広ため、物を持った状態で歩いたり体を捻ませたりする動きなどは他児よりも転倒につながるリスクが高いため、大人が手を伸ばして支えられる距離について配慮。 ・環境、環境などの刺激を受けやすく興奮に気がとられて不注意にならないようにする。環境の調整や大人が丁寧に言葉かけをすることで、本児が取り組むことに注意を向けることができるような関わりをしていく。 ・発達に関する専門機関に本児に対するよりよい支援方法について相談し、日々の保育に生かしていく。 ・日々の遊びを通して、本児の身体機能や運動発達を促していく。	
7872	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	普段からでい遊んでる公園で本児も慣れている遊び	見守ることができる位置に保育士保配置		実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年			1.集団活動中・見守り	あり	ぶらぶらするためのではないもので遊んでいた	下がることをする禁止ないが、気をつけて遊ぶよう促す	1.いつもどおりの様子であった	公演の遊具にぶらぶらしてジャンプするが、手がかからず。	2.対象児の近で対象児見た	本児の真横の位置関係だったので、痛がり泣き出した直後に駆けがの状態を把握、患部を冷却するなど応急処置を行い保育所に連絡しすぐに戻った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	遊びの子どもたちが集まり、子どもたちを見守っていた（公園　アスレチック）		子どもたちの遊び方を見直し、どのように遊べばよいのかを一緒に考える。	
7873	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16		8	8						3	3	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.基準配置	特になし。	事故があった場合は速やかに職員間で情報共有し、再発防止に努める。	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/年	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	あり	以前年長児と交流した際に、平均ジャンプして遊んでいた。本児にやってみたいという気持ちがあった。	年齢が下のクラスとの交流なので、遊具の使い方を伝えていたが、思わぬ行動に出ることも考慮に入れ、遊具の配置等考えていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	友達と並んでルール通り平均台をまたいで乗った平均台をたったり越えたり、逆に直り越えて後、逆に向き直り飛び越えようとジャンプした。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	平均台をまたいだ後、急に向きを変え平均台につまずき転倒し姿を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのコーナーで遊ぶ児童の様子を見ていた。	平均台はまたぐぐぐぐと伝え、大人が離れて見守っていたが、思わぬ動きで怪につながった。	大人が付かないのであれば、平均台での遊びは適当ではなかった。平面のケンパなどを取り入れるなど、遊びの設定に配慮する。平均台使用の場合はかならず大人が付き、危険を回避できるようにする。	
7874	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	4									2	1	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	右肘　上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(　)回/5～6　/年	2.基準配置				実施頻度(　)回/年		実施頻度(その都度)回/年		実施頻度(毎日)回/年			1.集団活動中・見守り	あり	雨上がりで活動が限られ所がったが、１歳児と５年齢を考えると無理に出内外に出ず、室内活動でもよかったのではないかと思う。	資料館の戸外活動の動点では、室内活動の配慮を確認する。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	普段から元気に活動する子だがその日は外とは違う環境しくなりついい走った感が否めない。	2.対象児の近で対象児見た	子どもの様子から子どもも達距離には至近距離にはいが、他児の様子も見ながらで走り出したのを止める間がなかった。		他のもの子どの様子を注視していた。	園外の活動とはいえ、資料館という種々の資料を展示している場所だ室内なのでその中の活動を考えるべきだった。	園内外を含む活動は外（広場など）で行うよう子ども達に簡単な言葉で伝える。	
7875	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置		危険物がないかの点検をしていた、遊ぶ前に準備運動してから遊んでいたため改善点はない	1.定期的に実施	実施頻度(　２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年		地面の段差や石などくぼみ、つまづくものはなかったため改善点はない	1.集団活動中・見守り	あり		慌てる様子もなく1人で移動めたので改善点はない	1.いつもどおりの様子であった	休みがちいで家にいることが多く担任が遊びに誘うことが多い。他児と話しているが最中に担任の側を離れた後、怪我をした。	4.対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載9全体を見ていたが、他児に話しかけられ答えたため本目児を離しまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの子どもをみてた	担任が他児と話している最中に本児が側を離れたので、目を離してしまい状況の把握が不十分になってしまった	子ども達が位置に体勢を変見えるように全体を見るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																			掲載更新年月日
																														ソフト面																		ハード面										環境面						人的面								
																														マニュアルの有無	事故予防研修																	施設の安全点検			遊具の安全点検			玩具の安全点検					教育・保育成支援の状況															
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因			実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7876	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	24								2	4歳	1. 男児	固定ベルト装着　転んだりしないよう激しい運動は控える	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A外傷性打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	落ち着かない園児の行動を予測しきれていない。	保育士の立ち位置を考え、園児の些細な衝突や転倒も見逃さない。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	保育士の視界からつま角をつくらず、園児一人が把握できる保育環境を設定する。	少人数でコーナー設定を行う。	1. 集団活動中・見守り	遊びが展開していく中で、活動が広がっていった。	単数担任になった時の展開を予測し、計画を考える。	1. いつもお様子であった	・母親が暇育児休期間であること登園備に時間がかかることで、10時30分以降、はしゃぐように登園することが日常になっている。	3. 対象から離れたところで対象見ていた	・登園後の支度は、保育士の手かけにじながら行う。プロック遊び、フォーミングで基地を転々と20分程度遊ぶ姿を見守り、片付けを促すとも他の園児と一緒に片付けを行う。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	・同学年の他クラスの保育士が、9時30分頃に保育室様へ入り様子を見る。園児は、落ち着いて遊んでいた。担任と保育士と保育活動内容を確認し、食事前の活動の切り替えから、複数体制で保育を行う。	・他園児との衝突に確認取れい。転倒によるもの可能がある。	・園児の些細な行動も見逃さないようにする。	
7877	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47			10	12	13	12		5	4歳	1. 男児	固定ベルト装着　転んだりしないよう激しい運動は控える	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	危機管理に対する職員意識の薄さ	園内書式による事故報告書の作成・再発防止に向け職員への周知	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1. 集団活動中・見守り	鬼ごっこ中遊びの中で、逃げ場としてフェンスレチックに登っていた	鬼ごっこ中遊びでは、アスレチックに登らない	1. いつもお様子であった		2. 対象児の近所児を見ていた	本児の近辺で本児の動きを目で追ったが、ごっこしを移した時に転落してしまった	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこしていない子どもを見ていた	見守り大人の鬼ごっこをしている時、アスレチックに登る事が危険という意識がなかった	アスレチック遊びでの方を再度、職員内で押さえ、契約職員とも共有していく	
7878	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	20								3	3	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	特になし	事故があった場合は速やかに職員間で情報共有し、再発防止に努める。	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	水で石がぬれていた。	水に濡れや滑りやすくなっていないか、保育士が実際に渡ってみるなどして確認が必要だった。滑りやすいものなら避けるか、注意を促すか検討する必要があった。	1. 集団活動中・見守り	不揃いの石・コンクリート・水が濡れているので、どもの子にもを対応ることを危険があるふまえ対応していく。	石が濡れや滑りやすい場所であることを子どもたちにも周知し、年齢にあった遊び方(その石を避けるか、滑る可能性があるのゆっくりなどゆっくり歩く)を指導する必要があった。	1. いつもお様子であった	友だちと声を掛け合いながら石の上をジャンプした。	2. 対象児の近所児を見ていた	本児の近くにいた対応をした。本児には視界に入っていた。	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	全体を見ていた。	本児は運動神経がよいため、安心して見守ってしまった。	保育士3名は全体が見守れるように見守っていた。ただし水で石が濡れて滑りやすい状況を考えると、遊びの範囲が広すぎ適切でなかった。個々の児童の発達段階と力量に合った保育及び保育士の見守り方法を含め、安全な保育の環境設定をしていく。	
7879	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	11								3	3	1. 男児	特記事項なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	転倒や衝ぶ際突の箇つけた所のみ、傷の症状の視診になってしまった	転倒や衝ぶ際突つけた箇所以外全身の視診や様子を観察をする。3/16職員会議にてケガについてマニュアルを確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭遊具（固定遊具の点検は行っているが、公園の使用年齢・遊具さや使用年齢・遊び方、注意点を全職員での徹底されていなかった	散歩マップに基づいて再度遊具の再確認を経路の所固定の確認と共有を再確認と危険の計画を4月末まで実行予定。	1. 集団活動中・見守り	遊具の対象年齢がっていく合なった。	年齢にあった遊具で遊ぶ。乳児向け遊具を使用した公園には公園では遊具以外で遊ぶ保育内容に変更し、室内用滑り台を活用する。	1. いつもお様子であった	普段は、活発で走ったりことなど動くことが好きな子であり、この日もいつと変わらない様子で遊んでいた。	2. 対象児の近所児を見ていた	滑り台周辺で本児とその子どもを見ていた。本児が勢いがつき前方に転倒した場面を見てすぐに駆け寄った。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員場所子どもの職員場所子どもを見ていた。	滑り台近くにいた子が差し出すまで近くはなかった。	滑り台使用時は保育者が必ずそばにつく。保育者の人数によって遊具の使える範囲を制限する。	
7880	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24								2	2	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置			2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年			1. 集団活動中・見守り	発表会前で、緊張感を持って練習に臨んでいた。	緊張の中でも平常と変わず、基本を忠実に行うように、普段は想定していない事故が起きる可能性を念頭において指導にあたる。	1. いつもお様子であった	健康状況に問題なかった。	2. 対象児の近所児を見ていた	転倒した際に瞬時に手の届く距離でなかったが、すぐに駆け寄り、怪我の部位・程度を確認；応急処置ができた。声掛けも忘れず、児の不安軽減にも務めていた。	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	全体を見ていた。転倒を防ぐ距離を保ち、職員が応じる間は、他の子ども達の指導に入った。	本児は運動神経がよい。	見守りに来ないような距離ではなかった。担当対応していた。職員が出ようとしたが、他の子ども達の指導に入った。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7881	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	31		10	10	11				4	4	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1~2)回/年		本児の泣き方がいつもと違うと感じて、すぐに保育園に連絡をしたので、迅速で適切な対応がった。		1.定期的に実施	実施頻度(回)/年	1.定期的に実施	実施頻度(回)/年	1.定期的に実施	実施頻度(回)/年	階段等、高低差がある公園で、職員の死角となりやすい環境であった。	公園としては特にではなし。	1.集団活動中・見守り	普段は注意事項を守れても、小学生が入っているのを見た、気になるあったり、誘惑となる物があれば容易に入ってしまうであった	小学生等、他に人がいる場合はその動きにも注意し、状況に応じて子どもの声掛けを増やすようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りだった。	4.対象児の動きを見ていた	尿失禁の子どもの対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気になる物ごと応じ一人、2人で全体を見ていたが本児が転んだ様子は見ていなかった	普段は注意すれば柵の中にならないが、小学生の入っている物を見ていると気になるが、真似して柵の中に入ったと思われる。	職員配置は、進入禁止エリア等、リスクの高い箇所を中心に配置し、突発職員が減る場合は、お互いに声をかけ合う。	
7882	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23								2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		保育園全体で事故や危険性や予防について話し合い、安全に過ごせるように努めている。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用前・毎回)回/年		子どもが回ってもつたいないように引き続き園子走りてまずいよう庭の整備を行っていく。	1.集団活動中・見守り		常に子どもから目を離さないようにもを配っていく。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの友人と楽しく追いっこ楽しくかけっをしんでした。	2.対象至児の近で対象見ていた	(具体的内容記載欄追いかけっこしり、全体でいたが、全てで、かったにそれでいった時に、間なかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	直前までいたが、離れた場所にた移動し為、転倒を防げなかった。	園庭の方で追いかけっこをしており、スペースが十分にとれず接触や怪我につながってしまった。	追いかけっこなど大勢で走る遊びをする際は、まわりを よく見てよく行動するよう に、広いスペースを確保して行うよう気をつけていく。	
7883	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				17	18			6	6	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	脱臼、歯根破折	2.自らの転倒・衝よるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	新年度、こどもも落ち着かない状況であった。合同保育に切り替えるタイングでえるミ保育士の守りが全体に行き届かなかった。	職員の立ち位置や、連動携の方を確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	床で滑り転倒した。	清掃時のワックを滑りにくいものに変更	1.集団活動中・見守り	クラス移動人数が増えたためこどもたちに落ち着く育行し、ども数がに落ちがなくきなった	職員の立ち位置をこどもの動きに合わせて見守りポイントを配慮	3.いつもと活動のちがった	2～3人で遊びを構成した後、違う場所に移動しようとしたところ転倒。口元を打ち付けた。	2.対象至児の近で対象見ていた	全体を見ながら児童が立ちのを移動しようとしたが、直後転倒。口元をつけて、にもしもき、箇所を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児室から5歳児室～移動する誘導児の担任1名、他のコーナーで遊ぶこどもの担任1名、非常ばっていた職員3名、夕方の水分補給の給麦茶を提供する常勤職員1名。それぞれ、コーナーに分かれて子ども見守りの体制をとった。	外遊びから戻ってきたお子ども、室内活動に気持切替わっていないお子ども、室内の雰囲気に興味になってしまった	外遊びから戻り、一呼吸おいてから合同保育に移る。また、合同保育の開始時間を遅らせる。	
7884	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40		10	7	11	12			4	4	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折(上部BAAB下部BAA)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	本児は大きな怪我ではないが、患部を中心に腫れが見られ、様子を見ていた。	状態を観察し、看護師に報告し、医師の指示を仰いでした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄製の梯子に足をかけるには、砂が滑りやすく可能性がある	遊具は高さ1.足元に砂が深く、足元に注意して観察する。	1.集団活動中・見守り	地面に落ちて下とはなかったが、途中で身体がぶつかった	至近距離で見守るようによる	1.いつもどおりの様子であった	遊具に興味を持ち、遊ぶ意欲がみられた	2.対象至児の近で対象見ていた	対象児の付き添いが、見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の見守りを全体で見た。	園庭はうんていを使用する際には、集団で集中して遊ぶことを促すことが必要だと思われる。併せて、遊具の使用方法を重点的に伝えていく必要がある	全員が、全体を見護し、常に園児を見守っていく。スクマネジメント研修に参加	
7885	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20			9	4	7	0		3	3	5歳	2.女児	特筆すべきことなし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置		リスクマネジメント委員が研修を受けた内容をわかりやすくスタッフに伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭の地面の材質、砂をかぶせたりしかしない。	乾燥で滑りやすくなるので水をまめにする。	1.集団活動中・見守り		毎朝早番が園庭の安全確認をするが、使う直前に再び確認する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども関わりが対象児のもにも見ていたことを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ている。	見役して創いる。		身体を鍛える運動遊びをカリキュラムに取り入れていく	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面								ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	発生時 月	発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7886	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	9								1		1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 基準以上配置		当日や活動時の配置人数は十分に足りていた。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(多数)回/年	いつもと違った施設での活動のため、本児の気持ちが高まった部分があったかもしれない。	今回の事故は園に隣接するフィットネスジムの室内でした発生したため、なしとする。	1. 集団活動中・見守り	本児は4～5段の跳び箱も跳べるが、この時は他の児童達に合わせて段になっていた。4～5段を跳ぶ勢いで、助走等をしていたと思われる。	普段と設定が変わるため事前に声をかけてはいたが、より丁寧に伝えていく。また、本児も勢いを調整できるようにしていく。	1. いつもおお様子もりの子であった	跳び箱が得意で、活動を楽しみにしていた様子が見られ、活動中も意欲的に取り組んでいた。	1. 担当職員が見られ、活動中も意欲的に取り組んでいた。	1. 象とマンマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の介助をするため、スポーツ教室のコーチが付近に近き添っていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	同じフロアで違う活動（手付き開脚ジャンプの練習）をしている子ども達を見守っていた	活動が二手に分かれていたため、コーチや職員がそれぞれ子どもを一人ずつ見ていたため見切れなかった可能性がある。	2グループに分かれておこなう際の職員の立ち位置や子どもの様子に応じた活動内容は一度検討する。	
7887	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	63				23	19	21		6		6	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)		下唇貫通創及び下顎部挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2. 基準配置	担任だけでなく、他の職員も含む立ち位置。	声の掛け合いをし、それぞれの立ち位置を確認し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	玩具の損傷はなかったが、フラフープの不適切数が不適切だった。	子どものよる人数により、玩具の数を調整する。	1. 集団活動中・見守り	3クラスが一緒に遊ぶ園庭で遊んでいたことで、使用していない玩具が地面に落ちていた。	3クラスが一緒に遊ぶ時は使用する玩具を職員同士が確認をする。	1. いつもおお様子もりの子であった	園庭の端から遠く友だちのところに行こうと、友だちしかに入っておらず、地面に落ちていたフラフープに気が付かなかった。	4. 対象の動きを見ていなかった	全体を見よと立ち止まることを守っていたが、砂場横にいた本児が入っていなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの担任は見ていて、見ていなかった。	誰も使用していないフラフープが地面に落ちていたことに、職員が誰も気付けなかったこと。	子どもだけでなく、常に危険はないか意識しながら保育を行うことを検証会議で確認した。	
7888	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	2		9					4		3	3歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙打撲・神経壊死	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(８)回/年	2. 基準配置	特記無し	特記無し	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	特記無し	特記無し	1. 集団活動中・見守り	特記無し	夕方子どもたちが心理的にも身体的にも疲れがでる時間での移動という点では、子どもも達が危険に繋がる動きを取らないよう、児の行動を注意深く見て保育していく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活動の時にも1番になりたいちが強めの児り、当日扉のところに1番に並び、扉が開いぐに階段を降りようとしてた。	4. 対象の動きを見ていなかった	担当は、本児の横について、後続の児を階段へ送る目線は廊下のほうに向いていた。	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラスと同じタイミングで階段を下りており、パート職員が目の前にいて滑った状況が、一瞬手の差し伸べられるような状況ではなかった。	1. 職場	本児の気持ちが先走りやすいことを考慮して、落ち着いて行動出来るよう事前に声をかけていくとともに、危険にも繋がることが予測される場面では、保育者が順番を指定し待つことができるようにしていく。	
7889	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	9								3		3	2歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷		上前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置		職員数は基準以上であるが、個々士としての保育のとスキルの向上。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日			1. 集団活動中・見守り		担任だから大丈夫、担任ではないから問題があるというものではなく、保育に携わず有や連に職員間で共有や協絡、指示や協力しあう合うことが不十分だったため、強化する必要がある。	1. いつもどおお様子もりの子であった	普段と変わらない	2. 対象児の近象児を至対象児を見ていた	本児をつないだ児が転倒、それにつられて転倒してしまった。本児をでいた手を離すなど判断（対応）も子ども達へ知らせていくあと必要もあるのかと感じる。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていなかった	特になし	室内外に関わらず、クラスや子ども達に関わる職員は活動の替り時、注意すべきことや気付け欲しいことを共有し、リーダーは適宜指示を出こと要せる必要がある。	メンバーは、リーダーに頼りすぎるのではなく、自身も保育者の一人として危険あるとやはれば共有し、全体で子ども達を見ていくという意識が欠けている。	
7890	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21								1		1	6歳	1. 男児	在胎週数23週　703gにて出生（出生児仮死状態）ＮＩＣＵに5か月入院する。療育にて作業療法等継続中。平成31年4月（本人4歳時）転倒による歯牙打撲にて左上Ａ乳歯亜脱臼にて加療。現在治癒。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1回/月	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		少人数でスペースにゆとりを持って遊ぶ。	1. 集団活動中・見守り	ゲームの衝突防止のルールをとった分、外のスペースが狭くなってしまったことも知らせ、ボールを取りに行く際の注意喚起をした。	ボールを取りに行く際の注意も子どもたちに意識させた。	1. いつもどおお様子もりの子であった	いつも通りゲームに参加していた。	2. 対象児の近象児を至対象児を見ていた	ゲームの審判をしながら当該児を視野に入れていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	担任が1名のみ。	活動前の準備運動及びルール説明の不足。	ゲーム前の準備体操をより確実に行い定着化させていく（子どもたちにも意識化するよう全体にだけではなくルールなどは個人の理解力に応じ丁寧にに伝えていく	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7891	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	21									15	13	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	月に1回研修を行っていたが、職員の安全管理に対する意識が薄れていた。	研修に加え、会議を活用して事例を踏まえて安全管理について意識を喚起し、職員の向上に努める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・見守りあり	傾斜斜面で子どもが走り出した時に止まりにくく、芝生が生いまったため、子供が転倒しやすい環境だった。	子どもの予測できる行動を考慮して活動する際は、危険予測し安全な場所を選択する。	1.いつもお様子であった	元気よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走って本児の目の前で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グループに分かれて遊びを行った。	傾斜面で子供が転倒しやすい環境であり、保育士がいるとしても子供を支えるすぐ支えられる位置にいなかった。	傾斜面で子供が転倒しやすい環境で遊ぶ場合、すぐに子供を受け止められる位置に保育士がいる必要がある。配置が難しいようであれば、傾斜面を選ばず安全な場所を選ぶ。	
7892	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	4.玩具・遊具等施設・備の安全上の不備によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(必要時)回/年	1.基準以上配置	他児が遊びシャベルを排水溝の穴に刺したままその場を離れていたことがあった。	穴に刺さったこぼれ水に気づかず、死角になっていた場所へ向けて作業を行ったことが要因と考えられる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	運動会(○/○)のため、遊具（太鼓橋）を移動した。遊び場に支障はなかったが、普段と違う配置だったことも要因の一つと考えられる。	遊具の場所について検討し移動する。	3.個人活動中・見守りあり	排水溝のシャベルを刺して遊んでいたが、シャベルをそのまま穴にしてそのまま離れた。	シャベル（玩具）の使い方や片づけを徹底する。排水溝まで遊びに使うことがあるため、戻ったとき排水溝にシートを敷き、穴をふさぐ。	1.いつもお様子であった	園庭を走った。狭いところを抜けて通ったため、遊具の間を抜けようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が走っていたのを見ていた。足元にシャベルが刺さっていることに気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいたのが7名だったため、職員の人数は残りの7名で園児を連れて、園内に入り、食事の準備や、子どもたちに向けての話をしていた。	年長児なので保育士1人で7名を見れていたが防げなかった。	園庭の死角の安全確認だった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面						人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7893	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	5			5						1	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの 倒れる突	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	事故発生場所が、新型コロナウイルス感染症対策の為休園し登園してから、保育室へ移動するまでに過ごすために設けた場所であった。	保育室以外の設定したコーナーで過ごす時の注意点を職員一同、再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)			1. 集団活動中・見あり守り	子どもが見て保育士が遊べる保育を行えていなかった為、玩具を変え、落ち着いて過ごせる環境を提供すべきであった。	1. 事故発生場所にコーナーガードを設置 2. 座って遊ぶ場所である旨を伝えることを掲示し再認識するよう促す。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載 本来なら座って遊ぶ場所であるが、職員たいことがあって職員を呼びながら走り出してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	対象児から約2メートルの場所で「登園簿」を記入したため、事故発生時に背を向けていた。園児から呼ばれた際、直ぐに反応しなかった。		3歳児5名に職員1名の配置であったため他の職員は居なかった。	職員配置は適切であったが入職したばかりの新卒者であった為、不慣れであった。子どもたちに背を向けて文字を書き、目を離したため、対象児の動きを視野に入れていなかった。	「登園簿」を記入する際、子どもたちが静かに座って遊ぶ状況であることを確認し、なおかつ、記入する際は子どもたちに背を向けずにボードを手に持って記入する。	
7894	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26	0	5	5	4	6	6	0		4	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外果骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの 倒れる突	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置		引き続き安全に対する共通理解を図る。	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		引き続き施設、遊具、玩具の管理、点検を行う。	1. 集団活動中・見あり守り		引き続き考育保育安全に配慮を行う。	1. いつもどおり様子であった	朝の保育中、兄の姿と追いかけっこして遊んでいた。	2. 対象至対象児を近で対象見ていた	安全に留意し、活動を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体が見えるよう、また目を配りながら、個々の園児を見守っていた。	追いかけっこをしていて、咀嚼に転倒した。	引き続き安全に活動が出来るように配慮し見守る。	
7895	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20									1	1	5歳	2. 女児	事故誘因のその他は「自損・不慮の事故」とする	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右小指不全骨折 ⇒ 右小指骨折 (令和2年12月28日 病名確定)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1 回/月	2. 基準配置	職員配置配置、遊ぼ世方は問題ないと思ったが起きたので詳細を見直していく	全職員に怪我が起こった経緯と対応策を周知し情報共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭や環境等につはな園庭コンショ良好であった	後は想ケ事故ころしれいということを考えた、環境安慮育ていボーを全にしてく、空気が適正に保たれている前にをやわらかいものに変する。	1. 集団活動中・見あり守り		1. ドッジボール準備徹底している。 2. ボールを取るときは指ではなく胸ようにとも先くるる子どもに指導した。	1. いつもどおりの様子であった	ゲームを理解し遊んでいた。常にわふわふとした動きで、他児に比べると反射神経敏性はけがあるが、腕の力が弱く、日ごろから下ぶら下がり棒・鉄・四つ這い動きのあそびを積極的に行ってきた。	2. 対象至対象児を近で対象見ていた	審判をしていた担任が事故の状況を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	研修にいく先に休憩そのため、先に取りの場にはいなかった		・ボールに当たるとけがをするということを子どもに知らせていく。 ・けがをしないようにするためには準備体操等が必要であることを知らせ習慣づけていく。	
7896	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	13						8		卒園児5名(小1)	2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首下部剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの 倒れる突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2. 基準配置	なし	職員の基準内配置であるため	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(　)回/年	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	なし	公共施設のため	1. 集団活動中・見あり守り	台大べあ体がなり台で ある、職員の位置より 段よ普段くに、子 頻度の普段 も高かも全 がけ ても高 すべき	滑る位置の見守り、危険が動かいで確認すべきだった	1. いつもどおりの様子であった	久しぶりに会う友達と交流して楽しいた	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	遊び慣れている固定遊具であるとがいたとで安全への認識を普段より見てくがいた小学生こ安全の認識のより見てくがいた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	上記同様、遊びで遊具のテラスが認識なっまる甘くてあった	自分はもやくすべりたい、一緒にすべりたいという気が持ちなった	どの遊びでも順番やルールの確認の徹底をする	
7897	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	27									4	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの 倒れる突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 基準以上配置	怪我が発生した場所が危険箇所とマニュアルに具体的に明記されていなかったことから、職員さいなら、職員に認識されていなかった	園庭での遊び方や遊具の危険や遊具の方等使いを具体的に記載した「園庭での遊び方」マニュアルを5月末までに作成する。作成後は職員へ周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭は砂のなっている。園混じり土に事故発生場所の前はコンクリートで、園舎に向かって傾斜にあり、段差があるため、正門庭の現前には側溝があり、段差もあるこはず、正門庭に園庭の辺りにつまず、滑りやすい状態であった。	怪我を場所が来ないように、コーンポストコーンを設置する。（4月30日設置）	1. 集団活動中・見あり守り	庭で遊ぶ約束中に、正門前門前りとが認識ないかとから、危険所と園児にらせていなかった。	1. 定期的に実施	園庭遊びまきのにが危ことは児ひとつ前ひとを園知ら園身も気るにすよう。	1. いつもどおりの様子であった	親と元園に気に、機会過ごす園よく庭に出る、仲の他児と、良ご緒に良と、ここ鬼を始め、そう楽に走り回った。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	担任①：こういしてグループと砂遊びしてグループがいめ、逞ぶ全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任②：担当園庭で担当職員と共に園児を見ていたが、他児の園過傷のテラスをしたの擦仕事を担任③：当番をしていた。パート職員：テラスで玩具で消毒をしていた。	対象児が転倒後担任①が駆け寄り声をかける。危険の動きを繰返すと担任が動いていたので大丈夫と思い中テラスで休ませるだけにしてしまった。担任②も対象児を引き離いた後に危険の動きを確認し、流血でかやしたところ痛みが引いた様子だったので、打者だろうと思った。その後保育室に戻り看護職員に報告。対象児を「痛い」と言ったことを初めて打身ではないと知う看護師・園長に報告する。担任①・②は自己判断したことから役割するまでに時間が経過してしまった。担任②も他児の怪我に気を取られ、担任①だけで保育する時間が出来てしまい担任②のパート職員へ状況を知らせ保育の交代を頼むことをしなかった。	・園児の怪我は自己判断せず、重症化することも想定して看護師・園長に報告する。 ・園庭活動の際に他クラスと重なる場合は、クラス間で話し合い安全に園児が遊べる活動の場を確保する。 ・園庭を見守る職員が、その場から離れる場合は、他の職員へ声をかけ交代し、見守り職員を確保し、園児の遊ぶ位置に死角がないようにする。 ・園児には事故発生場所で遊ばないことを、コーンポスト・コーンバーを設置し、視覚でわからせるとともに、なぜ遊んでいけないのかの理由はっきりさせ、きまりごとのひとつとして知らせていく。 ①5月30日主任がリーダーとなり、クラス会議で改善策を話しあう。 ②5月14日会議にて職員一新作し出職員へ開始する。 ③園長は重大な事故が発生した時は、速やかに法人及び私立保育園連へ報告を怠らないこと。	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7898	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	30									3	3	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	アスレチック上部の木製床面の老化によりレササクレが発生していた。しかし、床面は滑り止めのため溝切り加工がされており、ササクレを発見しにくい仕様であった。	外活動で利用する公園の遊具等について、利用前に状態を注意深く観察する。状態によっては利用を中止する。	1.集団活動中・見守り	アスレチック上部の狭い場所に複数の園児が遊んでいた。保育士からの帰園の声掛けを方向転換して他児と接触して膝をついた。	アスレチックで遊ぶ際、遊び始める前に遊具の確認を行っていく。また、アスレチック上部に複数の児童が集まることのないよう、職員が言葉をかけていく。	1.いつもどおりのようであった	アスレチック上部で他児と接触し、床に膝をついた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	帰園時間が迫り、アスレチック上部にいる複数の園児に降りるようながしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰園のため、集合・整列した園児のそばに1名。水分補給のためから給水している園児のそばに1名。			

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時			発生場所	発生時の体制		年齢構成の内訳						教育・保育等従事							事故の転帰						ソフト面					ハード面						環境面				人的面													
			認可・認可外	月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																											
7899	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	13									3	3	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘不全骨折(上腕骨外側上顆のひび)	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	前年度は年齢的に小さいことから、ケガが発生した箇所では遊びとしてお、4月に進級してからは遊びに慣れてきてよかった。	これまでの活動状況（本事象が発生した箇所では前年度は使用していなかった）を踏まえ、成長に応じた使用方法を定め、初めて遊ぶ場所においては職員の立ち位置をあらかじめ確認しておく。	1.基準以上配置	実施頻度(12回/年)	1.屋外活動中・見あり	1.集団活動中・見あり	雨上がりでぬかるんでいる場所もあり、靴に泥がついていて滑りやすい状況だった。	雨上がりもいつもと異なる状況のときには、高さのある場所や滑りやすい場所では遊ばない等、天候による影響を考慮し、活動場所を設定する。	1.いつもお様子であった	公園の木の周りに設置されている石段の上で、他児2名と虫を探して遊んでいた時、本児は足を踏み外し、約50㎝から転倒。横向きで落ちてしまったため、右腕を強く打撲。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体をみる役割の保育士が、目の前のトラブルで泣いた児のあたいたため、ところを把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その職員は、公園から出ていくときに、もう1人の職員の配慮が前で遊ぶ子にあたっていた木の側に当は気を配れなかった。	他の1名の職員は必ずしも石段の対応を行い、1人の職員が対応を行い、3名に目を配っていた。	全体を役割で見ていた状況であったが、本来は他の職員に声かけ、全体を見守る体制を維持すべきであった。	①高さのある場所は、手を差し伸べられる位置に保育者を配置できない場合には中止する。②特定の子どもが集団から外れる時のパターンを予め想定し、声を掛け合いなど配置や全体を見守る役割へのえに共有する。	
7900	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	21									5	4	3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼・亜脱臼・歯根骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	担任が変わり、新入園児が入ったことで、まだ子どもの特性や注意点がみきっていないように思われる。	職員配置は十分されているが、列の間が空いたり、道路を横断するときにあわてさせたりしないように引率する余裕を持つ。職員会議で事故の報告を行い、情報の共有を行う。新年度は新入園児も迎えるので、子どもの様子や、子どもが慣れに十分慣れるまで活動内容を検討していく。年度の初めに散歩先の選択について、散歩時の注意事項を再徹底する。今までの研修のほか、事故予防に関する研修を計画する。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	年齢に応じた散歩を確認する。（各クラスで目安となる散歩先を作成する。）年度初めに職員間で確認していく。	1.集団活動中・見あり	転ぶときに手が出ず、顔面を道路に打ってしまった。	転んだ時に手が出るように日2回の体育遊び機能を養っていく。遊びの中でも散歩の距離を少しづつ伸ばしたり、集団で歩く練習を引き続き行う。	1.いつもお様子であった	散歩時は、縦列になるべく子どもが一人で歩くようにしていた。先頭の子が先に進行したのかもしれない。	4.対象児の見ていなかった	誘導の、左右確認のため、右の確認をするよう子どもに伝えたにしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	道路を供み歩き子の列で保育士が見やすい、瞬時の出来事で、防ぐことは来なかった。	集団で散歩にあたっていなかったこと、散歩先から帰園中、すぐ園にくつろぎ、疲れたこと考えられる。	4月当初は園庭遊び中心で、園外散歩は行っていなかった。園外散歩も近い場所を選んでいたが、新しい園児に対し、子ども同士の手つなぎの開始時期・散歩先の選択等子どもの様子を見て慎重に検討する。新入園児は慣れるまで大人と手をつなぐ	
7901	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	右第一中足骨骨折	5.下肢(足・足指)	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	職員配置は適切であったが、遊具の詳細まで確認していなかった。	事故に繋がる遊具の投いの投いについて、検証し、遊園児の本び方に留意する。	1.基準以上配置	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	日々の安全点検は不点検はなかったが、遊具の投いについて改めて確認する。	1.集団活動中・見あり		見た目ではわからないアクシデントに気付けるよう、注意児の動きを見る職員間で周知徹底した。	1.いつもお様子であった	・コンビカーこれも経験していて、本児も普段なって遊ぶ乗った。	2.対象児の近で対象児を見ていた	・遊戯室で遊ぶ本にうまくて全体で、本児が入るに近守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・3名の保育士がそれぞれ遊戯室内に分散して園児を見ていた。	本児が「足が痛い」と何度か訴えていたが、担当者が当そのことを有ってまったため、異常に気付くのが遅れてまった。	園児に変化場合は小さな情合はこと報共てる。	
7902	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9									5	5	0歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	6.その他	1.頭部	皮下血腫、右測頭部ヒビ	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施		事例などにでい自分をクラス合しクラスの自分ならどす対応が意見合しを分のうるを安全への高話しうるをいな安全意識をでいく。	1.基準以上配置	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	マットを敷き詰めて遊ぶ場所に敷き詰めて全面に遊ぶ環境おらず、マットが床にない転倒し、重傷強打した為、重傷を負った。	1.集団活動中・見あり	調乳と排泄で一人ずつ保育室外にいる人を為保育室たの職員が少なかった。	保育室外に出る職員は一人にするか、他の職員を呼ぶなどして園児を職員みるを確保する。	1.いつもお様子であった		2.対象児の近で対象児を見た	当該児を見てはいたが、入眠中の子も中の見守りを当該見守りの当該見守りでいな当該児を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	入眠中の子の1名、調乳1名、オムツ替え1名、低月齢児を抱っこする保育者1名	入眠中の子分散せずにすることで子への補助、見守りできるようにすることで、集中できるようにすることで遅れた。又、立はかったため間合わずにいた。	入眠中の子分散せずにすることで子への補助、見守りできるようにすることで、集中できるようにすることで遅れた。又、立はかったため間合わずにいた。	中児の園児がいた当児へ補助中なかったできなかったため、集中できるようにすることで、集中できるようにすることで遅れた。又、立はかったため間合わずにいた。	入眠中の子分散せずにすることで子への補助、見守りできるようにすることで、集中できるようにすることで遅れた。又、立はかったため間合わずにいた。	
7903	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	17									4	4	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	右鎖骨骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		職員の人数、配置は適に問題はなかった。	2.基準配置	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	使用する前に使用前に遊具に適齢が合っているか、使用前に点検する。	1.集団活動中・見あり	動きが大きいので慎重にとあるが、動きが大きいので大丈夫と思った。	園児の動きに対応できるよう、本児も踏まえて側にいる。	1.いつもお様子であった	倒されてふらつき、倒されるもなく登った。	2.対象児の近で対象児を見ていた	ステップの立ち、外側に落ちまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	走る場所、すべる側、原っぱのところ、それぞれポイントなる場所についていた。	人員配置は問題なかったと思ったが、イレとして、せん階段の外側に付いた良たしかもしれない。	配慮が必要という意識を持つ必要だった。	要	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面							ハード面							環境面			人的面									
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名		有無	実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7904	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									3		3	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨顆状骨折・左尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		引き続き研修を受講するなどして、危機管理意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年		定期点検は実施しているが、日常の危険の中で保育の危険性に注意を払っていく。	1.集団活動中・見守り	目印としてのお手本を使用している。これまで、お手本を使用して転倒するがなかったお手本を踏んで転倒することを予測することが出来なかった事が要因と考える。	目印としても置くのは、踏んでもらないようにして、ソフトなコーポス使用してトナートをしく。	1.いつもお様子のもりであった	日々の保育で、音楽に合わせた表現活動を行った。当日も、合わせて三角錐のお手玉の周りをスキップで2回周った。3回目に行った際にお手玉を踏んで転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ピアノのそばに立って全体の様子を観ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士1名：ピアノを弾いていた。保育士1名：待機していると子と一緒に座って見守っていた。		引き続き担任間で役割分担を明確にし、子どもの動きを把握するようにしていく。	
7905	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23	0	0	0	17	6	0	0		2		2	3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(不明)回/年	2.基準配置	なし	現在の問題点を洗い出し上、事故予防マニュアルを参考に保育現場に合わせた怪我対策を再度実施を考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	引き続き継続気を付けていくと・改善点が見られたことは職員に周知する。	7.その他	午睡の一人ひとりの身体の行動が多様であった。保育士がケラスを見渡せる。	明け方に保育ケラス全体を見渡せていなかった。	身支度をとった後、着席する。着替えは一斉に行う。保育士も次へ移動する。	4.対象児の動きが多様であり、落ち着いた雰囲気ではなかったため一時的に気分が高揚し、ダンスを踊った。	対象児のにいくことが近くたが、背を向けて対象児の動を見ていたため、対象児の危険性に気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに立ち、排泄をしている園児の対応をしていたため、対象児を見ていなかった。	トイレを前に立ち、トイレを見守る保育士、保育室内で対応している保育士がいが、互いに見ている思い込みから園児が離れた園児から目を離した時間があった。身支度を終えた園児は着席する声掛けができていなかった。	保育士は園児全員を見渡せる位置に立つ。園児から目を離す際は、他の保育士に声をかけ子どもを一人の行動を把握し、身支度が終了した園児には必ず着席を促し声掛けをし、視野に入れ最後まで行動を確認する。	
7906	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22				9	7	6			4		2	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		なし	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		実施頻度()回/年		無し。多摩市の整公園の問題備には問題はなかった。	1.集団活動中・見守り		無し。保育に問題はなかった。	1.いつもどお様子のもりであった	体調は普段通りであり、普段から散歩に行く公園内に段差ある石段ろうを上った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもの様子を見ていたため本児と離れた位置、本児の背中側にいた、転倒した、転倒している姿が見られ駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	常勤保育士は年長児の集合写真を撮っていた。又非常勤職員は配慮は必要どもいて一緒に遊んでいた。		石段などのケガが起きやすい場所の近くに保育者がいるようにする。	
7907	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									2		2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	朝日町第二公園へ行くはいつくであり、比較的大人もいる子どもも慣れていない場所であった。	定期的にて会議振り返・共有をしてが、あきまり行ってい慣れない公園ついてより慣れない構造になっている物いて安全を行っていく。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年		実施頻度(3)回/年	砂場のコンクリート製の縁が段差あり、公園にはあられない他のような構造になっている。	通い慣れないや公園の見慣れない風景、とは状況異なる今回の見慣れない構造になっていることは、遊ぶ前子ども達に「砂場が段差あるから、通る時には気を付けて」等声を掛けて、注意喚起をしていく。	1.集団活動中・見守り	いつものように遊ぶ姿を見守り、適宜声掛けが、砂場内走った児にて対して、危険予測をしてもらえる必要だった。	今回の見慣れない構造になっている物について、遊ぶ前子ども達に対し「段差があるから、通る時には気を付けて」等声を掛けて、注意喚起していく。	1.いつもどお様子のもりであった	いつもと変わらぬ様子で、元気に体を動かしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	砂場に隣接しているベンチで遊んでいるが、砂場でも目を向けられる位置で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台にて滑って遊ぶ児、滑り台下で遊ぶ児、滑り台下で見立てしている児たちがいたため、滑り台付近で見守っていた。今回怪我をした児の滑りの見立て遊びに入っていた為、本児が砂場に移動する姿も見ていた。		担当間での連携をより行っていく。その場での声掛け合いはもちろん、危険予測の共有や事前の確認もいく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面								環境面				人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																						
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																			死因	負傷状況	受傷部位	診断名		有無	実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																		
7908	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	5	5	0	0	0	0	0		3		3	1歳	2.女児	今回の事象の発生理由とは考えにくいが、卵アレルギーあり。発生の1週間程前に反復性耳下腺炎との診断された経緯あり。	8.その他	1.負傷		1.意識不明		8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		7.その他			1.いつもどおりの様子であった	保育室のお手前のお支度コーナーに入るまではいつも通り活気もあり会話も可能であった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	非常勤保育士が母と本児の様子を最初にみる。その後常勤保育士が状況確認し、園長へ報告。救急車の手配と園医への協力依頼の電話をかけ、園長・母・女児で園医のクリニックへ向かう。		対応に当たらなかった常勤保育士、非常勤保育士は他の子どもの対応をする。保育室外での事象のため直接関わることはなかった。		
7909	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									1		1	4歳	1.男児	特記なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故防止に対するマニュアルや研修は実施されていた	骨折事例の周知園内ハザードマップの作成	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	定期的に点検が行われていた。床の乾燥対策の実施。	安全点検の継続、事故予防策の継続転倒箇所に滑り止めの設置	1.集団活動中・見守りあり	過去に同じ一個所に於いて転倒事例はなかった	滑り止めの設置	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	帰りの会を実施中、トイレからとってくく戻るのを確認した。日頃、走らないように伝えているため注意しようとした矢先に転倒してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		担任は、クラス全体をリードする中で起こった事故であり身体補助で助けることは難しかった。	廊下は走らないなどのお約束を徹底していく	
7910	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26					14	12			4		3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり	保育士3名で声を掛け合いながら全体を把握していたいといい状況なのも該当園児の動きも見の全を把握せずにいた。	職員3名で声を掛け合い、常に3名で27名の動き野位置に入る遊び見守りをする。そ、そり場はすべ合る範囲を事と決束し、必ずる場所に近く職員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの登園	4.対象児の動きを見ていた	保育士3名にて4・5歳外活児の戸外活動した。3名該当園児の動きを見ていたなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかっ	保育士3名にて4・5歳名児の戸外活児27動した。3名該当園児の動きを見ていたなかった	公園内走り回る子、そり滑りをする子に分かれて遊んでいた。そりをする子はすべる場所は登る場所は自由だが、その際には誰もいないことを確認してから滑るルールで遊んでいた。	職員3名で声を掛け合い、常に3名の動きが視野に入る位置で遊びを見守る	
7911	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24	0	0	8	6	5	5	0		2		2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯の外傷性歯打撲	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	会社全体としてのマニュアルはあるが、当園としての遊具の使用方法のルールが決められていなかった。	当園にある遊具にある合わせたを決める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園庭の使用方法のない統一がされていない状況があった。	遊び方のルールを決めた。(・おこの際には固定遊具使用し物を持って固定遊具を使用しない事・遊具の側面登りは行わない事・すべりをさかまることはしない事)	1.いつもどおりの様子であった	保育者が鬼ごっこ遊具中に遊びをいようかけを声する時あった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	２人の職員で子ども達を見ていたが、場所の配置が死角の出来るものになってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士3名にて4・5歳名児の戸外活動した。3名該当園児の動きを見ていたなかった	夕方の合同保育を行う際、職員がどこで行うべきかというルールを決めていなかった。	，夕方合同保育の際、職員配置が2名だった場合の立つべき場所（死角を作らない場所を２箇所）を確認した。・夕方の合同保育の時間は子どもの帰園時間であり動きが流動的となる。その為保育者は遊びには入らず見守りに徹するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面								ハード面								環境面				人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事								事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】				理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7912	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13	0	0	6	1	5	1	0	2	2	3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置		園庭に出ていた大人の人数、保育士の経験、立ち位置についても特に問題点は見つからない	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	太鼓橋のいい下にひいているマットに砂があった状態でいた為、着地のやや状態だった。	使用する必ずに砂を使用際には砂を事に遊具に側にを常設事に常設にきをした。	1. 集団活動中・見守り		子どもの人数に対して大人の配置、立ち位置には問題は無かった	1. いつもお様子のもりの子であった	特に受け入れ時にも変わった様子は見られなく、視診の際も元気になる点は無かった。太鼓橋でふざけあそぶ本児にとっては日常であり、気になる感じられなかった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	太鼓橋にのぼったほかの子どもたちの様子を見ていたが、着地で滑ることができず手を出した時には尻をつもちをついた。	2. 担当対象児の動きをていなかった	太鼓橋以外でもあそんでいる子(砂場、鬼ごっこ、ボール投げ)を見ていた為、太鼓橋へ意識は向けられなかった	太鼓橋に子どもが集中する場合は、手が出ないように安定した動きで太鼓橋であそんでいる為、本児に1対1で付いていなかった為、もちつく対応出来なかった。	太鼓橋に子どもが集中する場合は、手が出ないように安定した動きで太鼓橋であそんでいる為、本児に1対1で付いていなかった為、もちつく対応出来なかった。	
7913	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	0	0	0	10	10	9	0	5	5	4歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度( )回/年	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度( )回/年			1. 集団活動中・見守り	本児があてスペースがいるやすペースを通ることに、積み上の間をまぎって木の木のそ歩ずいて転倒	さらに十分な場所やスペースにあった木の数にすること、時に余裕を持たせて積み付けができるような間隔を作ったり、子どもたちの状況により一つ一つの遊びの状況に合わせて集団遊ぶ場所を変えるなど改善する	1. いつもお様子のもりの子であった	いつもと変わらずの様子で登園し、積み木のコーナーで遊びを楽しんでいた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	保育士の周囲半径1メートル以内のスペースに本児を含め3～4人遊んでいたが、まだのクラスの職員揃っない時間帯で全体を見ながら一緒に遊び片付けをしていた	2. 担当対象児の動きをていなかった	朝の時間ため、お部屋全体の半面子たちそぞろ派のあそ寄り、見ていた	本児が木をいたずらに起こったガだが、事故直後に痛が裏振や訴えることがなかった	保育士がいつも子どもの小さな変づけや、つもりの変化にすぐに気ずけることをこころがけた。事故直後に痛が裏振や訴えることがなかった本児が木をいたずらに起こったガだが、事故直後に痛が裏振や訴えることがなかった	
7914	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44				11	17	16		3	3	5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2. 基準配置	事故発生後に、対応した職員で話し合い、事故防止マニュアルの活用、事故防止マニュアルに沿った対策を職員会議周知し、事故防止マニュアルにてのを確認していかが、

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの					事故状況						事故発生の要因分析																																					掲載更新年月日
							発生時の体制																						ソフト面									ハード面									環境面					人的面															
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者													マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置					施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き													
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策				改善策		具体的にいかしていたか		具体的に何をしていたか		その他要因・分析、特記事項	改善策	
7916	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	1									1	5歳	1. 男児	本児は体幹が未熟で不安定な動きをしたり、急に倒れこむなど予想外の行動をしたりすることがあるので、保育士は日頃から本児の様子を見守っている。	1. 屋外活動中	1. 負傷				5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上唇裂創、上顎切目と乳側切目の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	本児は縄跳びに興味を持っていて跳び始めたが、まだ縄を回すことがかなり難しかった。	子どもが運動的なする遊びのあたり、急に倒れ、研修段階等で子どもを抱えた子どもが怪我をしないように、ヒヤリハット活用し、普段から安全・危機管理について職員共有している。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	栽培物のプランターにクラス水道の前後2列に置いてあった。	子どもの考えを踏まえ、プランター場所の配置や方法を見直す。水道の壁に苦せ1列に並べる。プランターにショウブの縁にキンモクセイを付ける。	3. 個人活動中・見守りあり	本児は左右に倒れこむなど日常の動作が不安定のコントロールすることが苦手である。	本児の姿を踏まえて、活動内容や場所、時間を考慮していく。普段と違う状況下で危険性を再認識し、子ども様子を見て、もしくは、ものに適した保育の方法を考えていく。保育の中で身につく遊び工夫をする。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	本児は咳たち児が出るために小児科受診の登園だった。いつもと違うリズムに気切や生活に対応できない様子があった。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児が発熱をした時は、すでに座ひざ枕すしし、絵児は看病していた。本児は「あそびたかった」と残念そうな表情を浮かべていたので、気分転換をするために興味へと誘う。興味ひかれ「興味ひかせやすくなって嬉しく感じている本児は「興味ひかせたい」と思い、保育士は回し方やコツがのみ方のようにを手分に組んだ興を本児に渡す。保育士の近くにあった紙の筒状、興味をずらした瞬間、本児がおきの興を回しながら走り出しバランスを崩して転倒する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は非常食訓練実施日であり、非常食室で説明をしているの出来事で、至近には距離いなかった。	保育士は急に出本動きした児の動きを予測することが難しかった。	職員間で一のの様人ひとりの様子を共有し、その子対子を、その子対しているに応をしく。	
7917	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20					20					4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷				2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不期定に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	研修やマニュアル、職員会議で事故防止対策等について共通理解していたが、危険な場面に遭遇していたため、職員同士の声掛け配置の声掛けをしかけなかった。実際の場面では園児へ掛け声をせず見し事故防止のを守ってまい、事故ことができなかった。	子どもの特性や発達性を再確認し、危険に対する具体的な対応について園内研修で学び、現場に潜む危険を予測する危険予測の知識を高決め、解力をつける身につけ事故を防いでいく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	60㎝のフープを4歳児の子ども、片付けることが、片付けることについて危ないという認識がなかった。	子どもが片づけを行う際、安全に片付けとる把握子ども見守る作成する。4歳児の子どもが60㎝のフープ玩具を移動片付けることが危ない時には、保育士がつき片付けて見届ける。	5. 集団活動中・見守りあり	本児がフープを持って付け始めた姿を一名の保育士は見ていたが、危険という認識せずに本児から目を離してしまった。全体を役割の保育士は見ていたが、事故は起きないという思い込みがあり、一瞬他児の対応を行い目を全体に向けていなかった。	子ども自身で片付けられる促す玩具が年齢に適しているかを確認する。片付ける際は、複数担任で役割分担し、同じ動きをせず、全体を見守る保育士を保育士にし明確に安全に見守る。	1. いつもお様子の保育士は見ていたが、事故は起きないという思い込みがあり、一瞬他児の対応を行い目を全体に向けていなかった。	保育士は遊びを片づけたことで、本児はまで遊んでいたフープを走り持ちだした。	3. 対象児から離れたところ対象見ていた	これまで事故なく片付けを行っていたフープを持って動くと危険に繋がるという認識が薄い。保育士は片付けをした児の様子を離れたから目を離してしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は全体を見ていたが、本児は動きは把握していなかった。保育士1名は少し位置で他児は片づけていたが、離れ離れで他児は片づけをした。	全体を把握する保育士が、子どもたちの行動を予測できず、近くに他児を向けている児を目をしてまった。	全体を把握する保育士は片づけ等子どもたちの行動的にこしてを見守ることをとる。	
7918	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	24					12	12			1	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷				2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足中指骨骨折	3. 子ども同士衝突するものにも	1. あり	2. 不期定に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	担任や保育環境が変わる新年度だから、保育環境ら職員を行うにもわるず、事故防止や保育環境ついて会議をなかったことがなかった。	マニュアルを活用し、定期的に研修を行う。(職員間で保育室使い方、リスク回避のための保育用品の配置、時間帯に応じた配置要因のリスクを含めて話し合う)	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故防止チェックリストでの保育室の危険箇所を確認し、保育環境改善をしていた。子ども行動予測で達の子どもが、も動とした環境改善が不十分であった。	自由時遊び保育の室使用方法を日常的に子ども達に都度、子ども達の考えを伝え、子ども達の考う環境を行動を通して改善を行う。(例)コーナー遊びの活用、机の配置の工夫、職員の立ち位置など。	3. 個人活動中・守り	子どもの行動を予測し、危険を指摘していなかった。	普段から室内は歩くよう伝えているが、移動距離が長いと小走りになってしまう様子がクラス全体で見られるので、声掛けの際に移動は必ず歩くことを引き続き伝えていくことと、保育室に死角のある部分があることを再度伝え、園児の中でも共通認識を持ち安心安全に過ごせるよう保育士が声掛けを行っていく。	1. いつもお様子のであった	マスクを着け終え、自由遊びスペースで移動していた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	日課活動(歌唱や机上活動)の際使用していた机付けを片付けをしたり、子ども達の様子を見ながら離れたところで片付けを行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担任からの指示を受け、机付けを始めたであった。	机を片付ける際に非常勤職員でお願いせず非常勤全保育者が来るまで担任が片付け入ることで、子どもたちから遠ざかり距離がすぐに対応できなかった。また、保育中の優先順位を考慮動していなかった。	保育中の優先順位を常に入れ行動する。フロアの職員と他の職員と連携し、掃除のタイミングや掃除に職員当たるなどを話し合う。他フロアの職員が補助に入った場合も事故のリスクを認識・回避できるよう情報共有を徹底する。	
7919	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	8									2	5歳	2. 女児	特記なし	2. 室内活動中	1. 負傷				2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨、尺骨　骨折(未確定)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置			1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年			1. 集団活動中・守りあり			1. いつもお様子のであった		3. 対象児から離れたところで対象見ていた		1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)					
7920	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	14						14			3	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷				2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士衝突するものにも	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(毎回/年		実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年			1. 集団活動中・守りあり			1. いつもお様子のであった	普段と変わらぬ様子で遊んでいた。他児が走った際、側に転倒した。	2. 対象児の至近で対象見ていた	園舎下にの児の他児立ちをしていた。全体が見える位置にいたため、本児が転倒するところを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配職員2名それぞれ見ていたが、本児の動きは見ていなかった。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面						環境面				人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名								施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7921	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22			8	6	8			2	2	3歳	1.男児	特に無し。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	左肘骨折	4.上肢(腕・手・手指)	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特に問題なし。	特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に問題なし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	着地の際にバランスを崩し、怪我をしてしまう可能性があることも頭に入れ、見守る際の注意点を職員に伝えく。	着地の際にバランスを崩し、怪我をしてしまう可能性があることを保育士に伝えた。	1.いつもおり様子であった	雲梯の一番低い所につまっていた。下に降りようと手を離し、地面に降りた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の側で見守っていた（右斜め前）。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	汽車の遊具側で見守っていた。	特に問題なし。	特になし。	
7922	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21	0	0	0	0	0	21	0	0	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	足関節骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの突	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(2.3)回/年	1.基準以上配置	担任１人任名名（他担任２名職員休み）でドッジボール中ども見体保の全員られる制ができなかった。	職員の立場位置等その都度検討をし、保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全面では問題がない。	避けるとこ児はけたろ、転倒してまでは他児童とのハードについて面ではなかった。	1.集団活動中・見守り	子どもたちが好きな遊びと普段楽しんでいたんだ。	ドッジボールの説明を改めて行うとともに、妨げとなる動きをしないなどの確認も行う。	1.いつもおり様子であった	いつも通意欲的にドッジボールに参加していた。	3.対象児から離れたところ対象児を見ていた	外野にいた対象児と横並びで全体を見渡せるような位置に、ドッジボールの審判した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを見ていなかった	担任１人（他担任職員２名休み）でドッジボール中の子ども全員を見られる体制ができていなかった。	ドッジボールなどの運動活動を行うにかあったらすぐに対応できるよう最低でも職員２名の体制で運動活動を行う。	
7923	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	8									2	2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	左鎖骨骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(6)回以上/年	2.基準配置	ソーシースタッフがついたものの、降りる際に補助がなかった。	遊具に乗りには必ずスタッフが補助につくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日朝夕)回/年		実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	遊具を含むの公園内危険箇所の点検しは徹底しているため、問題なし。	1.集団活動中・見守り	なし	見守りという意味では、児童4名に1名の保育士が見守っていたため、問題なし。	1.いつもおり様子であった	体温および食欲など生理的な面は問題なく、シーソーをやりたいという気持ちがあるほど活気あった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児との間で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童とお茶を飲まていた。	なし	二つのグループに児童が分かれていたが、保育士1名ずつ付いて、それぞれの活動を行なっていたため、問題はなし。	
7924	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23			10	7	6			3	2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	左足関節靭帯損傷、左足関節外果骨端線損傷疑い	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝突によるもの突	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(6)回以上/年	2.基準配置	子ども同士の間隔や幅が狭かったため、遠ぎ際に切る返しが多くあった。	①準備体操を行う。②遊ぶ際の環境配置を決める。③遊びコーナーの配置、スタッフの配置を決める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日朝夕)回/年		実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	地面の危険物等の徹底確認の徹底して行っているため、問題なし。	1.集団活動中・見守り	なし	本児ケガすぐ発見できき、見守り体勢には問題なし。	1.いつもおり様子であった	体温、食欲などの生理的面は問題なく、水鼻もあった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	保育者の1名は、対象児の見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者1名は、他児の対応をしており、1名は残りの児童の見守りを行なっていた。	なし	転倒児に対応していた保育者は、対応していることを他の保育者に伝えており、見守りに支障が生じる状況ではなかったため、問題なし。	
7925	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16				12	11			14	13	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	剥離骨折	5.下肢(足・足指)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故に関して研修は、起けがきたの応方まれる。研修で、ものつくや子怪我すいなどいても必要る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	今回の用ボ用は、で安全検ろう用た。ルがいるが	使用する際には、目視だけでコイルが緩んでいないか等を触って確認をする	3.個人活動中・見守り	遊びが中出よ遊テ閉ん中ル飛いる子急こ子こ場	集まるように、トランポリンでバーションを遊びよって飛び跳ねて遊んだその遊ぶ場にいた。	1.いつもおり様子であった	久しぶりに遊んでトランポリンであった。本児の身体の使い方や着地予測が経験不足等から難しかった可能性がある	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	久しぶりだという事もあり、担当職員が手をつないで支える形で飛んでいた。職員が保育士資格ではなく保育補助の職員であった。いつも加配が必要な子どもと接しており、その子どもとはよくトランポリンで遊んでいた。しかし、今回の女児にはひさしぶりに関してトランポリンで飛んだという事もあり、本児が体の動きでは機敏ではないことや運動が得手ではないという子どもの情報が職員にきちんと伝わっていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを見ていなかった	トランポリンを遊ぶ場所で間があったため、他の職員はいなかった。また、配慮は基基準を守られていたが、担任は迎応もあった。	本児が担任に痛いことを伝えた際、本児がいも状況を誇張や演出をして言ともこと多め、担任がすぐに患部を冷やしたが、骨折をしているとまは思わなかった。	お迎え等がある時間帯では、扉を開けて多くの職員の目があるようにしていく。また、今回のトランポリンに関しては、子どもの特性や身方体の動き方などを知っている担任職員が見守って遊んでいく。また、お迎えなどの対応があるなどの際は、トランポリンに保育士がつくのは難しいので、遊び時間帯を考えて出していく。	
7926	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	41	1	9	10	7	7	7			12	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	みぎ鎖骨骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	合同保育終了間際の保育士一人一人の動き玩具等の片づけ方	保育者一人一人の立動きや位置のお確認互いへの声のかけ方の確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	玩具事態にはないが、保育者の方片づけに問題があった。	状況に応じた片づけ方法を常に考え一人一人が確認し合う。	1.集団活動中・見守り	玩具のケースが3つ有り、重ねて持ち運びすることを保育士ぼうっとして見ていなかった。他者がいた。	玩具のケースは1つずつ、周囲の安全を確認して運搬する。	1.いつもおり様子であった	担当職員を追いかけき、職員に抱きとった。	4.対象児の見ていなかった	対象児がいかけていることに追いてることに気付かず、玩具のケースのので足元に見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを見ていなかった	合同での会の為朝の実施の児童と共に活動していたため、担当者・対象児の動きを見ていなかった。	担任が登園人数を把握していなかった。	早番の保育士から登園人数の引継ぎを確実に行い、担任が人数確認をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
																											ソフト面					ハード面							環境面					人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7927	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	9	11						4	4	2歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	左耳介の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	上記ガイドラインが職員のだれでも見られる事務所に設置してある。認は各職員による	上記ガイドライン(p35～37、41、50～53)を1,2歳児担任で再読(7/27)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	実施頻度()回/年	実施頻度()回/年	廊下がランチルームを兼ねているので、食事用テーブルが常に設置してある。食事用テーブルは高さ調節機能がありプラックスチックで保護されたネジが机の脚外側にある。本児が転倒した時にネジにけがを負ふつけた可能性あり。（当該児の説明）	テーブルのネジプラスチックハンドに布製のカバーを取り付けた。	1.集団活動中・見あり守り	荷物を運ぶ距離がクラスから室内からランチルーム所定荷物置まで7m7０cmであった。	荷物の置き場を変更し、改善後2m80cmとした。	1.いつもどおりの様子で	担任保育士より手伝い好きで荷物をしっかり運ぶことができる児を含む園児2名に荷物運びのお手伝いをお願いした。	4.対象児の動きを見ていなかった	一緒に荷物(鞄)を運んでいたが、担任保育士はクラス室内に他の荷物を取りに戻って当該児の転倒を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス室内で環境を整えていた。	荷物はクラス室内にまとめており、運び終わる度に次の荷物を室内に入る必要があった。	・荷物を運ぶ置き場をクラス室に届くクラス室前に変更し、園児が運ぶ場合でも職員は園児から目を離さない。	
7928	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1								0	0	5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨肘頭骨折左橈骨頭脱臼	8.その他	1.あり	2.不定に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	靴箱に足をかけて上がる事が危険であることは2021年5月にあった。各クラス保護者会で周知していた。また、登降園パネルは操作者が行う際に声掛けしていた。注意が喚起をしたが、もっと積極的に行うべきだった。	迎時のに保護者への協力を再度声掛けしていき、事故防止の意識を高める。幼児クラスに送り届けて今回の事故について説明し、危険行動について認識を持つように徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	登降園パネルの操作を保護者が行う事を徹底すべきである。	登降園パネルの操作が正確に行う事を意識すべきである。	1.集団活動中・見あり守り	子ども自身が靴箱を上り、登降園パネルの操作を行う事が日常になっていた。	登降園パネルの操作について、」危険個所についても知ってもらえるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった	普段から登降園パネルの操作に慣れていた。	2.対象児の近くで見ていた	保護者に渡して引き渡しを行っていた。特に注意は行っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員クラス保育も各クラスで保育を行っていた。	日頃から、そのような行動、行為をかけた際は注意している。子ども達に対して指導していたが、やはり慣れが起きていた。	危機管理を常に持ち、危険個所を把握し、改善し、認識を職員全員に周知、徹底する。	
7929	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19							19	3	3	5歳	1.男児	卒園遠足で利用した公園は通常利用している公園とは違って初見の遊具だった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕不完全骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	子どもが想像掛け遊びを考慮して、子どもの体力を声掛けが適切に行っていなかった。また職員の遊び方に入る導入（遊具の適切な使い方）までの共有ができなかった。	活動を見守る際に想定されることとは異なる動きを子どもが行った時には職員間で体制を立てておいし、その際に考えられる危険性を共有しておく。また活動を開始する前には、保育者は器具の扱い方や危険性を子どもが理解するまでは活動を始めない、慎しく体力を消耗する活動を行う際には疲労を考え、活動時間、気温、その日の子どもの体調などを把握した上で、活動を始げない様に適切に声掛けを行っていく。見守り者が交代する場合には、その前の子どもの様子を具体的に伝えてから交代を行う。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具のため、当該児は慣れていなかった。	活動の開始前に保育者は扱い方と危険性を必要に応じて見せる。	1.集団活動中・見あり守り	園具の遊び方は慣れていなかったため、本児は慣れていなかった。	活動の開始前に保育者は扱い方と危険性を必要に応じて手本を見せる。	1.いつもどおりの子で	意欲的に挑戦する姿が見られた。頂上まで登って喜んでいた。	2.対象児の近くで対象児を見た	担当職員2名で遊具の2箇所40を見ていた。保育士①はカメラを持って子どもを追っていた。撮影を終えにいる職員へカメラを渡そうと向かった。その間AのM見守りをした。保育士②はカメラを受け取ったもう一人の職員は、Aの場所から子どもたちの活動をカメラで撮影しながらBに近づき、カメラ越しに本児がいることを確認してそのまま上にいた子どもの姿を撮影しようと撮影レンズを向けていた。	1.担当者・対象児の動きを見て(至近距離にいた)	保育士③は、遊具がある所の安全で荷物を見守りしていた。予定が、外もっとも一緒に行っていたが、それ子供はばらばらもてに行った。	予想外の子どもの動きに対し、打ち合わせができていない連携不足が起き、後から保育士①は、先に見守っていた保育士②が、自分は撮影担当だと思っていた。遊具の場所で荷物のを見守りをした保育士②は、自分は荷物と全体見守りの為、その場所の見守り者が来たと思いこんでいた。	その場所の誰が見なのか、口頭で確認し合う。先にいた職員はその場の子どもの様子などのどのような状態なのか子ども体力の消耗体力合などを共有する。	
7930	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	1	0	4	2	2		5	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.基準以上配置		年齢や児童の様子に適した環境や多面的に動きとった安全策を全体で対応策を考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	常に設置してある遊具では遊んでいない。	天候に関係なく、遊び方を様々な展開の仕方を考えていく。運動の発達を促すことも考え遊び、危険を伴うことなくなんだら行動制限をしないように繋げ抑制していく。	1.集団活動中・見あり守り	常に設置してある遊具では容易に遊べたり、5歳児には容易に遊ばれるあめ、興奮とともに怪ケガに対する危機感が薄れていた。	定期、もしくは長期的に使用していない遊具の場合、遊び方を見守る年齢によって設定方法を変えて緊張感を持たせたり、反対に制限をする必要があったらと考えられる。	3.いつもより活発で活動的であった	通常、土曜日に園児クラスの活発な一番仲の良い児童が登園したこと、興奮気味に遊ぶ姿があった。	2.対象児の近くで対象児を見た	巧技台の上ほかに、絵本コーナーで過ごしている児がいたため、全体に視線が向くような位置で巧技台のそばにいた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	乳児用に設置した台の上で、視線が行く主に1歳児を見守るそばに設置し滑り近く全体向きで形でそばについていた。	興奮していた子供に対し、行動を制限する必要があったと考えられる。	興奮していたままで遊びを続けていた。	興奮していた職員はそのままの様子から声をかけていたが、状況が変わらなければ落ち着くまで場所を変えるなどの対策が必要だったと考えられる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
				発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面						環境面					人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7931	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20			7	6	7			2	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝よる突こもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故防止に関する研修を定期的に受け、保育士の危機管理能力を高める。		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年	発生場所危険物等の確認、点検は行ったので、これ以上の改善策は特にない。	1.集団活動中・見守り	広場と遊具のある場所の2か所に分かれたので、保育士が1人しかいなかった。	・走るコースがよくわかるように、ラインを引いた。 ・遊びを分けず、広場で遊ぶ時間と遊具で遊ぶ時間に分け、常に保育士2人で見守る事ができる状況にする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	リレーの1回戦で本児のチームが負けたので、2回戦目は本児の気持ちが高ぶっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢でのリレーだったため、年少児への配慮に気を取られていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具のコーナーで遊んでいても遊びを見ていた。	リレー2チームに分けて行ったが、チーム間隔すぎて手チームの子どもがそれ入ってしまった。	・2チームの間に保育士が立ち、他チームの方に入ってしまう子どもを他児とぶつからないように防ぐことの出来る位置に付くこころる。 ・バトンを繋ぐ時に、子ども同士で接触が起きないための方法やルールを事前に伝え	
7932	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8	0	0	0	0	0	8	0	1	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	事故当日ゲレンデ診断 右上腕骨通顆骨折、7月5日レントゲン検査結果診断 上腕骨顆上骨折となる。	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	体育遊具の使い方、補助方の仕方の徹底不足。本児の左側で体育の担任先生が補助をしたが、園児が体勢を変えようとしたときに支えきれず後ろすいの場所で出ないわき補助が出来なかったよかった。	体育遊具の指導マニュアルの作成をし、職員技能を行い、事故防止の研修、予測がよ間で実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	連続使用により、鉄棒が滑りやすくなることから、回、拭きオルくしてが、はで鉄棒を拭いなかった。	1.集団活動中・見守りあり	当日は、午前中より近隣の学校との交流行事があり、また、5歳の新入園児が登園し、担任含め園全体も落ち着かない様子があった。	クラスの状態を見ながら、落ち着いた環境の中で集中して出来るように、自由遊びとしたできない場合は、取りやめ活動に切り替える。	1.いつもおりの様子であった	雨天の為、室内遊びで、本児が鉄棒をやりたいと希望し、逆上がり、足掛け周回り、上がりを楽しんでいた。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	マンツーマン指導でのあったが、の予測が足りず、しっかりと補助できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスは、隣のまや部屋でまごとブロック、折り紙などで遊び、5歳児担当が保育しており、5歳児のクラスは見ていなかった。	いつも指導している担任とこもあり、過ちもり、信があった。	こどもの様子は日々変化するので、無理なことはさせないようにしていく。	
7933	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17								2	2	6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指第二指関節 若木骨折	2.自らの転倒・衝よる突こもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	運動遊びの研修に参加し、跳び箱の補助の仕方を学んでいた。子ども跳び体箱での使い方等、事前に安全教育を行っていた。	個々の運動発達の状態を把握した上で、発達に合った遊具の提供と職員の補助について改めて職員に周知する。	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認)	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認)	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認)	対象児の大きさや運動能力と遊具(巧技台の跳び箱)が適切だったか検証する。	巧技台の設定を変更する際、いくつか段差の異なる台を用意し、個々に調整できるように配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱には、両手を位置が視覚で分かるように大きな目印をつけて対象児もそれぞれの位置に両手をつき、跳びたように見えたが体を支えきれなかった。	事故の検証を行い、危険と思われる運動遊びには保育士がしっかり援助できるよう職員間で周知した。	1.いつもおりの様子であった	担任2名と5歳児17名が遊戯室に設定された巧技台を使って運動遊びを行っていた。本児も一緒に運動遊びに参加していた。	1.対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	保育士1名が跳び箱のそばで補助についていた。対象児は、一人で跳び箱を越えたが、太もに右手が当たった様子を目撃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室に設定された遊具(鉄棒)のそばで他児の補助を行っていた。	補助が必要と思われる遊具を実施している時には、個々の発達に応じた援助を行うよう心がけていたが、今回は手の方がうまくいかず事故につながってしまった。	保育中の保育士の位置や声掛けの仕方について、園全体で考え危険回避の意識を高めていく。子ども達の運動能力向上と安全教育に取り組んでいく。	
7934	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			7	11	10			3	3	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨骨折	2.自らの転倒・衝よる突こもの	1.あり	2.不期定に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	保護者の迎えの時間が重なり、保育士の関心が保護者へ向かっていた。	保護者対応時間でもあり、合同保育時における保育士の役割分担を明確にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		改善点はありません。	1.集団活動中・見守りあり		保育環境の内、コーナー分けをすることで、落ち着いて遊べるようにしているが、コーナーでの遊び方を子どもたちと再確認し、ジャンプしたり回転して遊ぶことのないように話し合い、危険のないようにする。また、保育士間で連携し、見過ごしのないように見守る。	1.いつもおりの様子であった	座って他児と遊んでいたが、立ち上がり、左足だけで回転した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のお迎えが重なり、対象児が視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外を見ていて、気づかなかった。	保育士同士、他の子どもの動きに気をとられ、視野が狭くなっていた。	保育士で役割分担し、声を掛け合い、子どもに目を配る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																ソフト面								ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7935	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2		2	5歳	1.男児	右肘の神経が小指を通っている為、小指がびりびりと感じる場合はすぐに病院を受診すること	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節内骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	先に並ぼうとした際競争心や、クラス全体の子どもの高揚感や、子達の高興奮状態での集合の声のかけ方等がなかなか整ったが、動き気持ちが先となり足が絡まれ転倒。勢いよく倒れ、右肘へ負傷をしまった。	集合の掛け声の際、その日の子ども達の心情や高揚感などの判断をしっかりと見極める力を培い、子ども達に競争ではない事を知らせた上で落ち着いて並ぶ事を再度習慣化できるように子ども達に説明する。又、友達に対し、譲り合いの気持ちを持って関わる事が出来るよう日々知らせていく事とする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)			1.集団活動中・見守りあり	他児の注意散漫な動きや、保育者の行動による又、保育者の子どもの状態を見極める力を培い、競争ではない事を知らせ、落ち着いて集まるように導いらら集とるようにしてけるにく。	子ども達の高揚状態を見極めること	1.いつもおりの様子であった	室内に入り口方向に向かって走った。	3.対象から児童が離れたところで対象見児ていた	室内に帰る為、入口の方を見ていたが、遊具のり方を振り返る対象児が入口付近で座り込んで泣いていた。別の子が対象児の足が腕と当たったしまったと報告に来た。対象児を安全に座せ、話を聞き、痛い部位をタオルで冷やして様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午後おやつが食べ終わっても子がいない為、その子を探しに行き、その後下に降りた。	保育者1名の戸外での遊びあること	保育者2名で必ず監視する事	
7936	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20		8	3	9					3		3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折（剥離骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的実施	実施頻度(3) 回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			3.個人活動中・見守り			1.いつもおりの様子であった	鉄棒で前周りするようになったばかった。	2.対象至児の近対象児見た	17：40頃数は園児も減り、全員が鉄棒周囲で遊んでいた為、鉄棒に当番担当が2名で見守っていた。1名が本児の近くで鉄棒をしている児の見守った。本児が落下するのを見たが、手を差し伸べて助けられる距離ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	17：40頃数は園児も減り、全員が鉄棒周囲で遊んでいた為、鉄棒に当番担当が2名で見守っていた。お互いに全体を見れる場所にいた。	本児は当日の午前中、鉄棒で前回りができるようになったばかりであった。その為、鉄棒の前周りが慣れなかった手を放してしまったと考えられる。	17:00以降は疲れも出てきて握力やなくなるので、鉄棒とやはり集中力がなくなって、雲梯はやらないように取り決めを改善。17時までは担当もいるので子ども状況も良くて状況把握できることもあるため。	
7937	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	21			21						4		4	3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		3.火傷	5.下肢(足・足指)	火傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	避難訓練を実施する意味についての理解や職員や子ども全体の方がすべてが、安全に子どもを避難させることができない。非常階段が混み合うことを想定し、別箇所から２方向避難の検討ができなかった。	園全体で避難訓練の方、ねらいについて再設定、誘導の手順を見直した。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	建物の原因が冬季に火傷となり、部分的な火傷の危険性につい金属の認識が欠けていた。	火傷となる金属は熱が伝わり、肌に触れる危険性があるため、金属の危険性についての認識を改善した。	1.集団活動中・守り	定期的に読み合わせや災害時におけるシミュレーションが不足していた。非常階段が混み合うことを想定し、別箇所からの２方向避難ができていなかった。	事前にクラス毎に他クラス連携とのシミュレーションを行い、安全に避難するための避難経路の確保を想定する。また、それぞれに設定された各クラスの避難ルートを共有し、混雑を回避する。	1.いつもおりの様子であった	午睡時間という児童も自身も覚ましており、本人ク担任促ます集中ラス職員に移動する状況であった。	4.対象の動きを見ていなかった	各職員がクラス担当の児童の避難誘導に集中し、全体スの避難誘導に全体を把握する職員の配置（役割分担）ができていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	他職員が担当職員及び対象児童の動きの確認はできたものの、全体を見ながら指示を出すという役割分担が不明確であった。「誰かが見てくれているだろう」という意識から職員それぞれが流動的な配置となり、危険箇所や子ども全体の様子を常時見守れる職員の固定配置ができなかった。	各担当職員が避難誘導時にクラス他クラスの避難状況の把握や、意識や、ゆとりが持てず、また伝達や誘導指示の職員がいないと、役割分担が不明確でもあり、声掛合うなどの連携（コミュニケーション）が不足していた。	避難誘導については、子どもたちが慌てず落着いて避難できるよう声掛けや、全体を把握した誘導係の設置を行い、混雑が起きないよう職員間で声を掛け合う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳											発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面								ハード面							環境面				人的面					
			施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項			死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7938	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8									3	2	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の亀裂臼	3.子ども同士も衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	子どもに対する行動の予測の配慮が足りなかった。	ヒヤリハットの会議の際、子どものの行動からどのような事故が予測されるかを話し合い、様々な状況を想定できるよう深めるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	体操教室をみんなあつまりにしていて走り回っている子が多くみられた。	活動が始まる前には、子ども達を落ち着かせる様に話をする。また、準備が終わった子は、どのように待っているかを伝えるようにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	本児にとっては登園した直後の活動であり、クラスの友達に会ったことで、興奮し、興奮走り回っていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	水筒置き場の近くに一つ、子どもが座る椅子が置いてあり、子ども達に声をかけたが、子ども達に伝わっていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その日の、体操教室のビデオ撮影を子どもが撮影するセッティングを行った為、子ども達の様子は注意深くみていなかった。	体操教室が始まる時には、保育士2名、体操インストラクター1名が配置されていたが、それぞれの役割はっきりしていなかった為、子ども達に的確な指示が伝わらなかった。	出入口付近に付く職員がいなかった為、全員が玄関から出るまで、職員が付くようにする。職員同士声を掛け合い、役割をを明確にする。	
7939	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29			9	12	8				5	3	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ボールを久しぶりに使用するにあたり、提供やなどの仕ルールなど、職員間の情報共有が不十分であった。	遊びを提供する際（特に初回や久々の提供）には、提供のやルールについて事前に職員間で話し合い、共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	ボール遊びとそれ以外の遊びが同じ範囲の中で混在していた。	遊びに合わせて空間分けを行い、子ども達にも丁寧に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりのボール遊びで、約束事の確認をせず、自由にボールを扱っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員の勤務交替のタイミングであり、引継ぎの為職員が3人集まってきた。その人数が集まったため、転倒の場面を見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし	実習生名がいたことで、大人数は多く、安心感からか、職員意識が弱くなっていた。	引継ぎの間も、子ども全体に目を配り、職員がいという状況をなくす。また、久々に使う玩具はルール確認を行ってから提供する。	
7940	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	7									3	3	2歳	2.女児	2021/7/11 保育園で、受診しレントゲンを撮影せずに肘内障の診断で整復する。降園後も気にする様子あり、救急外来受診するが泣いてしまいレントゲンうまく撮影できずその時点では骨折否定される。翌日も右腕を気にする様子あり、保護者の方で東京医科大学病院受診し、右肘骨頭骨折の診断となる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2021/7/11 右肘肘内障 2021/7/12 右肘骨頭骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1歳児保育室にて、体操用のマットを２枚、つ下を坂にして遊ぶ使用したクッションを入れて遊び寝転がりんだ。	マット周辺の空間を、落ち着いて移動出来るような遊びを展開する。夫一つ一つ座ったら座って待つ。保育士が見せ約分やすい事前に職員間で話し合い、共有する。	1.集団活動中・見守りあり	出し足出ら際に滑り、右肘が下になり状態で転倒した。走りを止め	普段の保育の中でハイハイや体幹を鍛える為、取り組みを入れ、転倒した際に手をつけるようにする。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	マット遊びを楽しんでいたが、移動の際に急ごうとした事で、転倒してまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	マットに登り、降りている為、本児が転倒し受の際に止めることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担当職員とマットを挟んで向かい側で降りるを見ており、本児が転倒した際、咄嗟に手をすこ出来なかった。	園児数が少なかった為、待ち場所等作らずどちらから進むかは決めていたもの、自由に遊ぶようにしていた。	終えた後は着１度落ち着いてから、順番に行っていく。	
7941	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	2	1	2	0	2			2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故の内容を職員で共有し、マニュアルの読み合せと確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年		クラス玩具の年齢に適しているか、危険がないか安全に使用できるかの確認を各クラスにて行い、職員会議やミーティングで周知を行う。	3.個人活動中・見守りあり		ウレタンブロックも使い慣れたであるが、使用する際は使い方について、子供たちと一緒に確認を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	怪我の発生直前は他児と一緒に座ってやり取りを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が遊んでいる場所、内容は確認していたが、バランスを崩して床に手を付いた瞬間は合同保育の乳児の相手をしていたため見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が遊んでいる場所、内容は確認していたが、バランスを崩して床に手を付いた瞬間は合同保育の乳児の相手をしていたため見ていない。		本児の遊んでいる内容は、ほぼ危険性がないと判断し、転倒した瞬間は乳児に注視していまい、目を離してしまっていた。全体が見渡せるような立ち位置にしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面					ハード面								環境面					人的面													
									異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																											
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7942	令和3年4月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	11								6	5	1歳	1. 男児	ミルク、バナナのアレルギーは対応していたが、卵によるアレルギーはなかった。給食で厚焼き玉子約2×3センチ大を2/3程度摂取したところ卵によるアレルギー反応が出た。	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷	1. 意識不明	卵アレルギー(疑い)によるアナフィラシーショック	6. アナフィラシーによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1～2/年)回	1. 基準以上配置	「食物アレルギーマニュアル」を作成し、事故防止及び緊急対応に備え会は積極的に行った。	○/○職員会議に再発防止に全職員で発対し、職員分析を実施した。今後も定期的習会を施し職員事故防止及び危機管理に対する向上に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日 1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日 1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日 1)回/年	安全対策において園内でマニュアル化している。	全職員に統一引き続、周知徹底し安全対策及び事故防止に努める。	6. 食事中(おやつ中)	アレルギー科を受診し、診断が出るが、現状は悪化が改善せず、結果的に救急搬送となった。子どもは急激に悪化する可能性があり、救急搬送を第一選択とすべきであった。	救急対応についてアレルギーマニュアルの症状チェックリストの再確認を行う。 日頃より保護者との連携をまめに行い、アレルゲンとなる食材は少量ずつ慣食になる。 子どもの状態を注意深く観察し、少しでも判断に迷う場合は救急搬送をする。 試しの食材は給食で提供する前に提示し、自宅で問題ないかを確認してもらう。 現在、卵のメニューは月に1回程度の提供（25g以内）だが、今後徐々を継続するかを栄養士交ゲで検討する。	1. いつもお様もりの子であった	登園（8：00）時より著変なく、室内にて遊びいつも通りしていた。	1. 対象児マンツーマンの状態(対象児に接していた)	アレルギーがあるため個別テーブルで専用エプロンを着用し、マンツーマンで食事介助をしていた。異変後、病院受診はクラス主任保育士・看護師が同行した。病院では母親と合流し、帰宅の許可あり、お迎えもあり一旦帰園した。その後、救急搬送の際は母親のみの同乗となった。救急隊へは時系列で詳細な報告を行った。	1. 担当者・対象児の動きでいて(至近距離にいた)	受診及び救急搬送するまで、園児は側にいた看護師または担当主任保育士が必ず付き添い状態確認を行った。	受診の際、母親と合流し、状況説明を行ったが、受診後も母親の不安が強く、園児児のも安定しないため救急搬送の選択した。搬送時コロナ禍の人数制限もあり、看護師はしか同乗なかったが、経過を把握している職員が可能であれば付き添いの精神的なフォローをする必要があった。	急変時は子どもだけでなく親の不安なども強いため、具体的な経過説明や労いの声掛けなど精神的なサポートを十分に行っていく。また、アレルギー児の食普事介助は普段の様子の変化に早く気づきやすいクラス担任が引き続き介助する。	
7943	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	22								3	3	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	運動遊びする際に関するマニュアルが無い	運動遊びについて職員会議を行い、共通認識をもつ	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用したがタマットトでの事故が安定になった事で不安が要因とも考えれる	着地が安定するなどを使用していく	1. 集団活動中・見守り	日頃、体操教室でいるが、それが要因とも考えれる	不測の事態をさらに考慮し、設定していく	1. いつもお様もりの子であった	繰り返し行った活動であったが、3回目レンスとしへ手を着地した。	1. 対象児マンツーマンの状態(対象児に接していた)	側にいて、対象児が落下する瞬間に手を差べた合わしし伸ばしが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きでいなかった	他児の遊び見ていた。	慣れた活動であっある、出来ると過信していた	慣れた遊びであっても、様々な事態を想定した補助をしていく	
7944	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	78			25	27	26			8	8	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)		2. 自らの転倒・衝よるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(適宜)回/年	1. 基準以上配置	今回事故があった場所が危険な場所であること、故がある遊びとできなかった。	ヒヤリ・ハットへの意見足、それに伴い検討が不十分であることが分かった。職員はヒヤリ・ハットへの意識をつけていく。また、必要に応じてマニュアルの見直しを行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日 12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日 12)回/年	今回の遊具は世界で最も権威の「EN-1176」にて生産されているもの準拠し設計・製造されているもの。子どもたちが安全に遊べるよう配慮した遊具を選定し、日々の点検を行っていく。	ヒヤリをねこ不安定で危険を感じた事を把握し、施設面で改善できるようにしていく。また、ヒヤリハットを職員などに共有し、施設面で改善できるようにしていく。	1. 集団活動中・見守り	戸外で体を動かしいろいろな体験ができるようにしていく。しかし、少しチャレンジ挑戦されるような環境を整えていく。	園内研修（OJT）や職員会議など園庭の環境についてリスクアセスメントを行い、ども自らが察知でき危険を察知する力を培う環境を整えていく。	1. いつもお様もりの子であった	今回、怪我がってしまった遊びは今年になって友だちと一緒に度がいる。特に目新しい方で、年、中児の子が挑びであった。	2. 対象至対児の近く見ていた	発生現場での近く見守っていたが、場所ということ、これまでの経験や高所で子どもたちが（年長児で身のこなし悪い）を鑑み、すぐ届くにくいにかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	3. 4. 5歳児の保育者が高所の垂直落下が高さ危険度の高い場所し、以外の員をらたち守った。	3. 4. 5歳児の合同保育で、3, 4, 5歳児の保育者が高所の垂直落下が高さ危険度の高い場所に配置し、以外の職員全体がも見ていらたち守った。	定期的に大型遊具での遊び方のルールを伝えたり、子どもの性格やその時の様子によって、危険に対して意識するような声かけをしていく。		
7945	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								1	1	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首の骨折と足首の捻挫	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	1. 基準以上配置	夕方の人手の少ない時間帯で担任は一人。人数が多くなるまではスレッチ遊びをしていたが、親の対応で抜けるまでは対応度しまき故がでした。	アスレチック遊びは担任がしっかり見ていきたいとうる。それなら、終わりにして用具も片付けにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(5～6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年		日頃より職員に対して施設の点検や遊具の点検をしっかり行う。	1. 集団活動中・見守り	担任がつきっきりでレチッスクを遊びを行っていたが、夕方になりお迎えが来始め、その対応で目を離れてしまった。お迎えの時間帯には遊びの活動を終了する。	夕方の人手の少ない時間帯は、親が迎えに来て職員の子どもたちを見守っていく	1. いつもお様もりの子であった	朝から元気で大好きな友達と一緒に遊んでいる。このまま任せたが、時たまそれぞれの場を離れた友だち時ちと一緒に高さの所から跳んでしまった。	4. 対象動を見ていたできていなかった	コロナ対策の為、親玄関のお迎えがあり、その為ちょっと場をしその離れまった。	2. 担当者・対象児の動きでいなかった	ガラス戸隣しの職員ホールの他の職員が担当者・対象児に目が行っていなかった。	保育体制が二人になるこの時間帯は、人数の少ない時間帯は必ず子どもだけになる。しかし、離れる場合はアスレチック遊びを終了し片付けてからにする。	アスレチッ遊びを行っ時は必ずもだけになる。しかし、離れる場合はアスレチック遊び終了してから片付けるようにする。	
7946	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								1	1	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(3～4)回/年	1. 基準以上配置	土曜日で子どもの人数が多くなる。机と椅子を行いたが、競争にしてしまいまちがえて机から取り落ちてしまった。	一人ひとりの遊び方や保育活動中は、危険な行動を想定して、できる限りなくなるように容を考えて、安全に生活していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(5～6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(10～12)回/年	子ども一人一人の遊び方の発達状況やその日の健康状態を観察し、その内容を検討して行く。	事故防止についてこれから毎日の点検を行い、施設の遊具の点検をしっかり行う。	1. 集団活動中・見守り	日はが天気良かったこのお天気良かった。子どもたちも椅子を並べて、その状況をも行った。	天気の良い日には、室内では外で遊びたくない、常にた子どもの状況を見て遊ぶ、子どもの遊びを見ながらくないか点検を行う。	1. いつもお様もりの子であった	朝から元気で、いつもとかわりなかった。	2. 対象至対児の近く見ていた	対象児は元気に遊んでいるが、競争のようで急にしまいなかが、元気で机から落ちた手の方が時付悪かった。	2. 担当者・対象児の動きでいなかった	同じ空間にいたが、遊びのにが、遊ぶこと	遊びを組織的に当子どもの発達段階その日遊びの内容によって起こ危険について先事止に考えて事努力し、防止に努めていく。	該当児はクラスの中でも月齢の低い子であるため、遊びの中に無理なかっ所はなかったか、高距離かさなど常に遊んでいくことで行ことで、競争こと起こりう危険に気を付けて配っていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7947	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	17									1	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	外果剥離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		走って遊っていると周りがなくなってしまうなど行き違いがないよう注意する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		定期的に点検や整備は行っているが一層の園庭整備を行っていく。	1. 集団活動中・見守り		子どもの活動全体を見守れるようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夕方の降園間近の時間帯でぞうさ組だけが園庭で遊んでおり、いつもより活発であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児は広範囲に活動しており、担当も保育士も移動しながら全体を見ながら対応していた。本児が友だちにつかった様子は見ていなかったが周りの子どもが「転んだよ」と知らせに来てすぐに対応した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士から連絡を受けた看護師が本児の怪我の状態を確認し応急処置（シップを貼る）をした。			全体の子どもの行動を把握し、危険な行動を予防できるスキルをつける。	
7948	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	8				5	3				1	1	5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	職員に安全対策マニュアルの周知徹底されていなかった。	安全対策マニュアル周知徹底を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	午後３時前で、一日に疲れが出やすい時間帯だった。片付けを終えたこどもたちがやることがなかった。	子どもの状態に合わせた、動と静のバランスを考える。	1. いつもおお様子であった	いつもより、登園時は落ち着きがなかい面がみられたが、徐々に落ち着いた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	こども同協力士で協力しても、おちゃをしても片づけて いる様子を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	間食準備、一つの補助など行っていた。	片付けを終えたこどもたちへの声掛けがなかった。	予測されるこどもの動きと声掛けについて確認し合う。	
7949	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16	0	0	5	4	5	2	0		4	4	4歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	混合保育のため、小さい子と遊び、対象児からは気がそれていた。	混合保育の場合は全体の安全を確認する保育士も必要	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	裸足で遊んでいたが、床の湿気でバランス崩し前へ倒れた。	転びやすいこと、声をかけて注意を促す	3. 個人活動中・見守り	小さい子を相手をして遊んでいたので、全体を把握できていなかった	一緒に遊びながらも全体の安全確認ができなければ、保育士を追加する。	3. いつもより活発・活動的であった	同じ年齢の３人で追いかけっこをしていた。	4. 対象児の見ていなかった	対象児で子ども遊んでいて、バランスを崩して倒れた瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	追いかけっこには参加せずに他の子と遊んでいた。	特別保育で、学年の担任がそのはいなかったので、対象児の普段の様子（走ることが大好き）を十分に把握できていなかった。	保育士は学年の担任を配置する。	
7950	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25									1	1	6歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	子どもの対に危険十動きに危険がでっ予防ができかった。本児保育が見えから保育士者が見える位置でこ鬼ごっこをしたが保育士は確認していなかった。	鬼ごっこ方取前不注意になり前方が不注意になりやすい遊ぶ場合保育士はその注びのは、者は動きを視する。	1. 定期的に実施	実施頻度(日)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭全面生生徒がを芝生えているが、その転倒付近に部がをいかし、整確認し、ければ整あれば備を行う。	園庭での安全保安全な保育活動について見直しを行う。	1. 集団活動中・見守り	クラス単独での活動で、全身動作って遊り、全身を使って切り遊んで思い動き遊びでいた。	集団で活動に遊んでいる時の安全確認、危険予測を十分に行う。	3. いつも活発・活動的であった(理由を記載)	室内活動から遊びに行ったりして放感を味わうように活動のびのびと遊んでいた。	4. 対象児の見ていなかった	他児の様子を見ていたため、本児の動きを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びの事故の際、担当職員は一人だった	普段戸外遊びで転んだりしても地面が芝生なので大きな事故になりにくかったため、事故の予測できなかった。	戸外遊び等、活動の終わりや切り替わりの時間にその都度体の変化や、変わりがあったかに声をかけ確認をする。子ども訴が異常を訴えた時は、いつから、どのような場所で異変が起きたか丁寧に聞き取りをし、痛みを訴える部位など複数人で確認をする。	
7951	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	27									1	1	5歳	1. 男児	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右頬の裂傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置	危険を予遊環境知・衝の整備を、一人に徹底ひびの要性が、ひとり周知徹ことの職員ひびをできなかった。	危険予防知・防止等研修を常勤全員で受け、危険対策を高めるく。前年度のヒヤリハット事例を検討し、危険予防策を講じていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	遊戯室で年長児がフリスビーをするあって衝突防止のパネルはしていたが、可動式ステージは、毎月誕生会で使用していたため、ほぼ常設となっていた為、片づけてもロアげるう発想なく、危険予知ができなかった。	遊戯室では走り回ったりする活動あるあるもの、今後は試しもでとして行うとしステ、ジは収納し、行事使用は必ずまた。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	降園時間が近づき、一日の疲れから集中力が欠けてくる時間帯に、しい動きと興奮しやすい遊びをさせた。	夕方の時間には、子どもたちが興奮したり、ケガにつながるリスクが高い遊びはしない。また、活動の前に落ちつかせ、遊びのルールを確認する時間を設ける。		友だちがフリスビーをキャッチしようと急いで走り、前のめりに転んでしまった。そして勢いの余ってそのまま滑って高さ27cmのステージの角にぶつけてしまった。		全体を見渡しやすく、子どもがぶつからないよう手ピアノの前に立っていた。フリスビーがステージ手前に落ちたので危険性はないと思い、フリスビーを追いかけて走り姿を見守っていたが、障害物のない床で転び滑ってしまうことを予想していなかったため、ステージにぶつかることを防ぐことができなかった。		一人の担任は、普段々度ていただっから、保育士一人でも大丈夫だと、保育室の消毒・清掃をした。事故が起きた瞬間は、配膳用に使用したエプロンを1階の洗濯機に入れに行った。	障がい者の加配を含む2名体制で保育士は通常の保育しているが、遊びだれた活動だった為保育士一人でも大丈夫だろうと見通しの甘さから、一名が保育室の掃除・消毒の作業にあたっていた際に、一人で動激しくフリスビーの遊びを始めてしまった。	楽しくて興奮しすぎたり、勝ちたい負けたくないという特性をもつ子どもの考慮し、集中力を欠けることが予想される時間帯の活動は、落ち着いて遊べるようにする。遊びを始める前には、危険がないように約束事を決めておくことも確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
			施設・事業所種別	認可・認可外	発生時 月	発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7952	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所		6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34			13	10	11			3		3	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	朝の登園時間帯で子ども時びあり、子随あそび加わっる状況があった。1人目の保育士が鉄棒から離れ、2人目の保育士が鉄棒おき移動した時に事故が起きた。	3年齢の子どもたちが合同で遊び、活発で、特に朝の時間・夕方の合同保育時には、一定のルールの作り、遊び方を子どもたちに知らせていく。（使うなど）時間帯職員にて、会全職員で全対策について安全の共通理解を深めた。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	鉄棒下にマットをようと指導おお、サイズや材質敷くにれており、の検討はしているものの、6月中旬から遊具の塗装と新設置が予定あったため、整備できない状況あった。	厚さや広さの合うマットを、できる早く調達する。	1.集団活動中・見守り	好きな遊びを時間帯あり、子どもたちが衣替えと変えて楽しんで遊びを取り組む姿が多くある。日によって内容に遊びの内容も違っている。	鉄棒をする時間帯を決め、られる人数を決めたことで遊ぶ時間を徹底する。（2人ずつ）	1.いつもお様子であった	最年長児が鉄棒をしているのを見て興味が湧いて、自分たちもやりたいという思いが強くなっている。休日に公園や鉄棒にも行くことがあり、休み明けから鉄棒にぶら下がることが多くなっていた。	2.対象至児の近で対象児を見た	もう一人の友だち（3歳児）と鉄棒にいたため、すぐ近く見守っていたが、一人で遊んでいる少し間にドンと音がし、と尻ぶつけた後だった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きをていなかった	雲梯などの固定遊具や、児の練習の補佐をしていた。		
7953	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所		8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	15								4		3	3歳	1.男児	当該園児は、7月1日に右足内反足の手術で入院し、翌日退院。手術前から長期間（6月17日～7月21日まで）は、膝下部分のギプスを装着しており、右足をあまり動かしていなかったため、骨が弱くなっていた。退院後は家庭でしばらく静養し、保育園には7月26日から登園していた。	6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足大腿部骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	事故発生時は、泣き方が通常と違うことに気づくのが遅れたため、保護者への連絡が遅くなり、対応の遅れまったこ。	園児一人普段の姿や一人一人の特徴を把握し、保育を行う中で異変があった時には、速やかに報告し、保護者へ連絡をするなど迅速な対応を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	砂場の砂が少なくなって段差ができており、上かぶせるブルーシートを敷くが、段差がなくなっていることが多かった。	砂の補充をする。砂場のブルーシートは取り外し、水遊びの時は、ブルーシートは使用せず、人工芝を敷くかテラスを使用する。	1.集団活動中・見守り	右足内反足の手術のため、1か月以上のギプスを装着が足あり、骨は弱っている状態だった。	活動内容が子どもの健康状態に合っているか、環境設定や動線を徹底するか、職員間で話し合いを行う。	1.いつもお様子であった	保護者からは家庭でしっかりしているとの元気な様子だった。また、水遊びが久しぶりで、興奮気味であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は、遊びの片づけを促していて、当該園児が負傷した瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きをていなかった	室内遊びの見守りに保育補助員。加保育士が1名（遊び片づけで保育室にうとしていた）。保育士は、担任保育士と子どもと子どもとけをうとしていた。当該園児が負傷した見ていなかった。	該当園児は普段から出泣むことが多く、泣きすぐに時間がかかることあり、落着くまでばらく時間がかかることがあり、園児の内容等、どうしたら防げたかなどを全職員で教回に分けて話し合い、再発防止に努める。	朝礼時に、園児の健康状態について共有をする。また、事故当時の内容について環境設定や当該園児の遊び	
7954	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所		8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19								6		2	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回以上/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	・保育士がそれぞれ子どもを集めたり、並ばせたりして体の状況を把握する。 保育士がいなかった。・ステージの対象児座っていることに気付いていたが降りるように声をかけた。	・保育士の一人は全体の子どもの動きや状況を把握できるように、子どもだけでステージに上がらないことも確認したり、ステージの方に再度保育士間で確認をする。	1.いつもお様子であった	・気の合うと会話を楽しし、自分でステージから降りる。・ステージから降りた時に泣いが、入所ばかりで園やしたり保育士保育士おらず 痛みを訴えることができなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・本児が泣いた、痛が泣こと普段通りなく通ごしたガをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者・対象児の動きをていなかった	・担任がそれぞれ状況でしまい見がそれない活動て全体を職員いた。	・６月５日より担任と信頼関係を築いことが分こくがでおず、自分から 痛みや思いを伝えようとするがかった。	・痛みや何じたかを感じた時には泣いたり、伝えたりできるように保育者との信頼関係を深める。・思いが伝えれない子どもには泣くことをかけ、声をかけ、ゆっくりをしたりして配慮している。・全体を見る保育士を必ず配置する。・保育者同士がこまめに声をかけあい一人一人の子どもの様子が把握できるようにする。	
7955	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所		9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10								2		2	5歳	1.男児	特記事項無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		各の事故を想定し、研修・話し合いを持つ機会が少なかった。	研修・話し合いの機会を持ち、職員間で共通理解し安全保育を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(毎日)回/年	登り棒の地下は砂地硬のためのかったで、着地点の地点性を考えるが必要あった。	登り棒のクッション性マットを敷き、着地、転落時の衝撃緩和に繋げる。	1.集団活動中・見守り	事故に対策するが足りなかった。	繰り返しの活動は休憩を取り安全動出来るようにする。	1.いつもお様子であった	総合遊具の上側から数回登り、次に下側から登り棒を数回登り、際左手と支離し、その上約1メートルの所から地面に落下する。	2.対象至児の近で対象児を見た	登り棒が本あり、間で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きをていなかった	総合遊具台滑り台ての子どもなど、園庭全体的な子どもの様子を見守っていた。	子どもの動きや事故にるが足りなかった。	子どもの遊びの方や動きのイメージを把握し、保育士の立位置に配慮したり、事故を予測し未然に防ぐことが出来るよう、職員で共通理解していく。	
7956	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所		9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21								2		2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	複数クラス（1・2・4歳児）が同園児で時刻に出て庭に遊んでいた。	複数のクラスで園庭を使用する場合には、遊びの内容を考える。職員間の連携をとる。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	それぞれ安全点検は行っていたが、遊具や玩具用いない安全への配慮が足りなかった。	園庭使用が集団が場合で決め間割を決める。第2園庭の利用。	1.集団活動中・見守り	複数クラスが園庭で出ている状態で、遊びの内容が適切ではなかった。	集団あそび、動きの激しいあるとき、クラスの使用時間を決める。	1.いつもお様子であった	普段通り、ごっこ遊び鬼ごっこにして参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に鬼ごっこに参加した。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きをていなかった	子どもたちと一緒に鬼ごっこにこにした。	担当職員、加配保育士とも一緒に遊びの中に入っていた。	集団あそびをする場合、1人は遊び全体を把握できる位置にいて見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7957	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	0	0	3	2	1	4	0		4	4	2歳	1.男児	なし	8.その他 左第2中足骨骨折 左第3・第4中足骨骨折	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	なし	どんな場面でもおいに事故につながることを職員間で話し合い、子どもの様子をきめ細やかに観察しにくいようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	畳とクッションを仕木枠(25㎝に高さ)をまたぐ際に、足に何らかの衝撃がかかったと思われる。	畳とクッションを仕木枠(25㎝に高さ)に周りにクッション材を貼る。	7.その他	なし	子どもが畳とクッションを仕木枠(25㎝に高さ)をまたぐ際には、保育士が傍に付き一人一人の手を添えゆっくりとまたげるようにする。	1.いつもお様子であった	特に左足がを痛む様子はなかった。	2.対象児の近で対象見ていた	患部を確認後、本児の足の細動きに注意を払い観察した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員同様、本児の足の細動きに注意を払い観察した。	なし	子どもの動きなど、気観察し、状況に応じた言葉かけや対応を行う。	
7958	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	1	4	3	4	8			5	4	3歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	日頃の子どもの行動から、常に予測するようにする。危険個所等、話し合いておく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	テラスと園庭の高低差があること	花壇に登ったり、歩かないように花壇の上面にお子ども達の絵を貼った。	7.その他	なし	子どもの様子を見て、声をかけるようにする。	1.いつもお様子であった	活発な本児で、常日頃から保護者の前ではしゃぐ姿が降りていた。	3.対象児の児の離れたところで対象見ていた	見ていたのは門で入れて受けいる職員のみであり、その本児は保護者と一緒に保育方本児の靴を揃えて、その様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	他児の保育をしていた。	本児は保護者の注意をないとが多いが、保護者もきちんと対応していない。	改善策として、弟の準備中は保護者と一緒に、一人で戸外にいることがないようにすることを約束し、職員間でも共通理解した。	
7959	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70	2	11	8	20	19	10	0		11	11	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指) 右上腕骨顆外骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(18)回/年	2.基準配置	特になし	担任の他に加配保育士を配置し、出勤状況によりフリーの保育士を配置していく。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	特になし	園庭の凹凸がない等点検し、地面をなら す。点検マニュアルをもとにチェックし、不具合があれば処分し解決していく。	1.集団活動中・見守り	子ども は、ご夢 中になると、周りのもとの距離間は把握しにくい。	職員間で、子どもの動きやスペースに目を配り、安全を配慮しながら行うようにする。	1.いつもお様子であった	鬼ごっこしていて足がもつれた。	3.対象児の児の離れたところで対象見ていた	鬼ごっこに一緒にしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場遊びしてトラブルのあった園児への仲介をしていた。	鬼ごっこは、ぶつかったり、ぶつかることや転ぶことがあることを認識する。	子どもが転びそうになったら、手をつくように指導する。	
7960	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28						28			2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む) 外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	なし	基準値内の職員配置であったが、よの目を届かせるため、午後の戸外遊びの時のは、担任以外の職員を1名配置する。遊具そのすぐつけはないは、遊具の使用を中止するなどルルの再確認をした。担任以外の保育士が保育する場合も周知徹底をする	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	なし	なし	1.集団活動中・見守り	遊具で遊ぶ子、長縄をする子、とび縄する子、園庭で追いかけっこをする子など、遊びが分かれていた。一人の保育士は個別の対応をしていたが、一人の保育士は滑り台には、滑り近くにはいるが、長縄とびにつ、とびいていたため、階段の下り側に向きを変えた児の声ができ、時掛けなかった。	滑り台を使用するときは、専属にでそばにつく。	1.いつもお様子であった	常に活発児であり、様々なところを飛びおりることを好む児であった。	2.対象児の児の離れたところで対象見ていた	滑り台近くで長縄とびを回していたが、児が上から向きかに変えると同時に階段から降りようと落下したきにるとに階段から降りようとしたため、未然に声掛けができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で個別に対応が必要な子ども、滑り台で遊んでいる子ども、滑り台で遊んでいる子ども、滑り台で遊んでいる

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時			発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面							環境面					人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
7963	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									1	1	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	担任が、電子ピアノの椅子を子どもの手の届く場所に置いてしまった。	安全な場所への椅子の収納。室内遊びのルールの徹底。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びのコーナーの近くに椅子があり、それを利用して遊ぼうとしまった。	椅子は、子どもが入らない場所に固定する。保育室内で危険が予測され遊びは禁止する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	室内遊びのルールの徹底	1.いつもどおりの様子であった	給食を食べ終え、ままごとコーナーで遊び始めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見しながら、子どもたちとものやりとりをたのでいた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	担任1人で対応していた。他の職員はいなかった。	特になし	怪我につながる危険性を考えながら部屋の環境づくりを行うようにする	
7964	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	68			24	24	20				5	5	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首おかき骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		危機管理マニュアルを再度見直す。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年　毎日		子どもの発達状況を職員間で検討し、安全面での配慮を確認し取り組む。	1.集団活動中・見守り		遊戯室でリズム遊びをする時は、子どもの人数や動きに配慮し、安全に行えるようにする。また、子どもも達にも活動する際は集中して取り組むことを再確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は張って遊びリズム遊びを楽しんでいた。	2.対象至の近で対象児を見ていた	子どもと一緒に遊びをしたり、見守ったりしていた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当クラスに入り子どもと一緒にリズムをして遊びを動いたり、見守ったりしていた。		リズム遊びを行う際には、動く人数や安全面に十分配慮にし取り組む。	
7965	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	26									3	3	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	クッションを取り外したが保育士が誰も気づかずにいた。	扉に手を挟む可能性があることや子どもが出入りするときは、注意してしていくように再確認をしていった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	扉にクッションは、2歳児が午睡のため用に付けれ、担任ついてもいないことをとしかった。クッション材つけていたが、固定ができないため、開たら、クッション材をつけるを表示つけて識付けていく。	クッション材を柱に固定し指が挟まれないようにしたが、固定ができないため、開たら、クッション材をつけるを表示つけて識付けていく。	1.集団活動中・見守り	おやつ後保育室に移動する時だったので、保育士からは子どもの姿が見えない時があった。	保育士同士が声を掛け合ってその姿を確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	入園から1か月半だが、園の生活に慣れてきて、不安な様子は見られなかった。	2.対象至の近で対象児を見ていた	本児が部屋に入って時間ときたに屋にめたものに保育士がついていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	1人は隣の保育室でおやつの片付けをして、1人は帰りの援助をしていた。	保育士全体を見まわすことができ位置にいなかった。	子どもに背中を向けない位置に立ち、全体をしまわしていくようにする。	
7966	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	2	2歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度(　)回/年	2.基準配置	いつもと違う様子見られたので、時点のそので保護者に連絡し受診するとよかった	動く、動かないの判断ではなく、いつもと様子が違う素時は、人判断をせず、受診する	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	7.その他	なし	職員の立ち位置や役割分担を確認する	1.いつもどおりの様子であった	他児の真似をして、枠から降りた	2.対象至の近で対象児を見ていた	至近ではあったが、背後から見守る状態であった	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	排泄、配膳を担当していたため	なし	遊びの状況等を見極め、危険性が察知される場合は、児童に声がけをしたり、見守りを強化する	
7967	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4				1	2	1			1	1	5歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	4月1日は始め年度始めであり、職員の異動があり、新しい体制になったばかりであった。	年度始めであるが、降園の際の遊びは危険がにつながりやすいので保護者だけでなく保育士も目をよそ離さず見て、声をかけ必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	降園時は太鼓橋はマットなく表示をかけて使用しないとせず、生が遊び始めて遊び始め。保育士も母親ことができた。	表示だけでは遊ぶことが出来るのシートで太鼓橋なのを覆う。	7.その他	降園後は保育士は遊具の側につけないので遊具に合わせた遊び方を働き掛け配慮が足りなかった。	今後は、保育時間内に保育士の側で、安全に太鼓橋にをつかって遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で園庭を走ったが、小学校の児童が太鼓橋に登る姿を見てしまいけないことを忘れ登ってしまった。	4.対象動き児を見ていなかった	園長は保会の資料を受け渡しを保護者対応を行っており、太鼓橋で被災面災ではなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	担任はおよび園者より引き渡しをしたが、太鼓橋で被災面は見ていなかった。	降園時は保護者の前で緊張感も解け、一疲れもやすいので普段の気持ちやとは違うことが予想される。	降園時の遊び方を子ども周知し、保育士や保護者が子どもの動きを常に見ていくようにする。	
7968	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				16	10				2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(横ていた１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	本児にあった跳び箱の高さではなかった。	一人一人の発達段階を把握し遊びに連続性を持ち環境構成をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとう同じに戸外遊びを楽しんでおり、3段の跳び箱が出ると、自飛分びにいった。	2.対象至の近で対象児を見ていた	跳び箱の横についたものに、すぐに補助ら助けられる状態ではなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	戸外で離れていたところで他児が助けて1人は見ていたが、2人にたられなかった。	以前は箱跳び飛べていたので、担当職員は大丈夫と過信していた。	子どもの発達状態や精神状態を把握し、過信せず適切な補助、援助をする。	
7969	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				12	12				1	1	4歳	2.女児	特になし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	事故防止に関する研修に職員全員が参加できる機会が少ない。	事故防止に関する園内研修を月に1回程度行い、職員の意識を向上させていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	雲梯の下には安全マットを敷いて、衝撃をことはが弱めるこのつきは、落下時の手のつき方によっては骨折性あり、可能性もあり、安全面では十分とは言えなかった。	雲梯に慣れていない時に、安全のさらに上に運動用もうマットを敷くにした。	3.個人活動中・見守り	特になし。	特になし。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中に雲梯で初めて遊ぶことができ、何度も意欲的に取り組んでいた。	2.対象至の近で対象児を見ていた	雲梯で遊ぶ子が数人いたので、担当職員はすぐそばでは見ていたが、落下時に咄嗟に手が出なかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	４．５歳の二人児担任あとは、ドッジボールあそび、砂場あそびをしている子を見ていた。	特になし。	常に落下の可能性を考えながら、落下しそうになったらすぐに抱きかかえるなどの対応ができるようなできる体勢でそばについて補助していくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																				ソフト面					ハード面							環境面				人的面												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の種類	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																														実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7970	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右小指中節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	本児がボールをキャッチする構えてがないたのではないか。	個別対応が必要であった。	1.定期的に実施	実施頻度(1 4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	特になし	ボールあそびをする広いエリアを意作図的に作る。個別対応が必要。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ボールあそびをするエリアを意作図的に作る。個別対応が必要。	1.いつもどおりの様子であった	普段からやや落ちが着きい様子がみられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	投げたボールをうけることができず受けることがあると思っていたので、普通に投げ返した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスも遊びていたが、担任クラスもしは対応をしていた。	特になし	個別対応が必要であった。	
7971	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	83					32	51			6	6	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	新年度になり、職員間で園庭や遊具の使いについてのの周知ができなかった。	早急に、職員間で園庭や遊具の方の見直し、確認をする。全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	テラスコンクリート部分を走ることにっては禁止になったが、保育士も子たちが子どもも意識が低下していた。	子ども、全員安全な方や職員と遊び方での園庭での約束を再確認する。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具で遊ぶ際は、必ず保育士がそばで見守っているが、走って遊んでいる子への配慮が足りなかった。	戸外では全体へ目を向けるように、保育士同士が連携をとって（立ち位置など）危険がないようにした。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	・年長にこになったがうれしく、気持ちが高ぶったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・当該園児がいたことは把握していたが、担当職員は固定遊具でしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・他の保育士の動きを、立ち位置を把握しつ、固定子援つ、遊具も援助した。	コンクリート部分はなんとなく走らないことになっていたが、徹底されていなかった。	・再度、職員間や子どもたちと約束を確認徹底しし、徹底する。 ・鬼ごっこをする場所を確保し、保育士の立ち位置を再検討する。	
7972	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	33									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部ににひびが入る	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	特になし	ヒヤリハット報告書で職員が情報共有し、自分の行動を顧みる機会を持つ	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし	砂で滑っ可能性があったもしれないの地面のを確認する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体幹を鍛えて、転んでもさっと手が付けるように動や遊びを取り入れる	1.いつもどおりの様子であった	戸外遊びの後の体操終了後、担任が部屋へ入るように声をかけ、ばらばらとこ、慌てたのまったか転倒して肘を打ち付けてしまった。	2.対象至児の近で対象児を見た	戸外遊びのた終了のめ部屋にうるように声をかけた。児が慌ててい、対象転倒した時、咄嗟に支えようとして手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で保他児のをしていた育ていため、見ていなかった。	クラス体にかないて声をかけたので、焦りがあった。	移動時は慌てずゆっくよかけ、見守りを強化する。	
7973	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					20	16			5	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	遊具や遊びに保育士がついている配置が十分でなかったか	鉄棒につい保育士は、子どものを見て立をち位置を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	鉄棒下はゴムのマットがあるが、肘から落下したため骨折した	鉄棒やマットの安全点検をしっかり行う	3.個人活動中・見守りあり	近くで見守った保育士と、手に汗をかいていると話をしていた	少し休憩するように声をかける	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒が好きなので、普段よく遊んでいた	2.対象至児の近で対象児を見た	鉄棒の近くで、遊びを見守った	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	1.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の様子を見ていた。咄嗟に受け止めることはできた	ずっと鉄棒でぶらぶらしていたので、手が疲れたのもしれない	近くで見守り、長時間遊んでいることと。長時間遊び子には、休息時間を作ること	
7974	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16		1		4	4	7			4	3	3歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保護者とうまくできず、気持ちを切り替えるように保護者がかかわっていた	2.対象至児の近で対象児を見ていた	保護者との別れがいやのまうくに、様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当の子どもたちが他も保育士は	受け入れの時には職員一人が対応をしている。別れ方法の際の（かかわり方）で事故が起こりそうな行動をしている場合には危ないことを伝える必要があった。	親子のやりとりを大切にしながら、事故を防ぐために、危険を為は、回避に伝えていく。	
7975	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2					1	1			1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	1.頭部	歯牙不完全脱臼	3.子どもも同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	トイレは多く、手扉が挟みやすい。場所も狭く通路を通れ通う際に体や扉にけたぶつかる。手洗水場の蛇口が寄れ、濡れると滑る危険がある。	扉には手防止をつけ、開けっぱなしにしない。床が濡れないか点検濡れていると速に拭きやかく。	3.個人活動中・見守りあり	ぶつかった児は担任に怒ってトイレに行る間の事故であった。	園児がトイレに行く際は保育士が必ず付き添い、危険性を予測し声をかけながら見守る。	1.いつもどおりの様子であった	保育活動中であったが、トイレに行きたい旨を保育士に伝え、急いでトイレに駆け込んだ。	4.対象動児の見ていなかった	年中担任は保育士が年少児の保育士は	年中担当保育士が1名園外保育に出かけたため、担任保育士のほかに部屋にいたのはフリーの保育士であり自身が本児に付き添えないもかかわらず、付き添いをお願いするなどの連携が取れなかった。また、ぶつかった年長の担任は当日休みであったためフリーの保育士で連携がうまくいかず、園児も保育士に知らせずにトイレに行ってしまったと考えられる。	いつもと違う保育士が保育にいるときには園長が主査子を定期的に確認し、園児にもいつ困ったこと時にはなんでも声をかけるように伝えていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制									教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7976	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	20								2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		マニュアルがあることを職員に周知し、いつでも見られるようにし、臨時職員に定期的に安全な保育や子どもへのかかわりについて話をする機会をつくる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年 実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(96)回/年 実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(回/年)		鉄棒の下には、マットを敷く。	1. 集団活動中・見あり守り		鉄棒の遊び方を子ども と再確認し、バランスを崩した際は、落下し怪我を防止できるように鉄棒の下にはマットを敷く。	1. いつもどおりの様子であった	他児と一緒に鉄棒で遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れていた場所で他児と遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいることは確認していたが、少し離れた場所で見ていた。		鉄棒で遊んでいる際は、そばにつき見守る。	
7977	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	43								4	4	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	研修を続け、危険予知の能力を高め、危険を回避できるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	引き続き、遊具設置、玩具の検は毎日する。	1. 集団活動中・見あり守り	鉄棒をしているときに、他児が側によって体を支える動きをしようとした。	他児が鉄棒をしているときは、離れることを徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	好きでよく鉄棒遊びに友達を誘っていた。	2. 対象至近で対象児を見ていた	保育士は、すぐ後ろ2人のみでが、咄嗟の出来事で被災を防ぐことはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内で、他児と遊んでいたが、被災できるようなことはなかった。	本児は鉄棒で手を離すことがあるが、保育士が手を添えたり、本児の体を支えたりしていなかった。	保育士は、知識を予知を添危険を予測し危険にすぐ対応できるように位置する。	
7978	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	6	0	0	0	3	2	1	0	2	2	3歳	2. 女児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	どんな場面でも事故につながることを職員間で話し合い、子どものきめこまかくよ細やかに観察をすすめていくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	雲梯の下に敷いて風呂マットをしっかり固定するとした。	7. その他	なし	スムーズな降園を意識してもらうように全保護者に周知した。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			なし	子どもの動きなど、気を付けて観察し、状況に応じた言葉かけや対応を行う。	
7979	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	33	0	0	0	9	9	15	0	3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見あり守り	慌ててしまう。	鬼ごっこなどで遊ぶ場所として慌てて登るので、逃げる場所として他の場所を案内する。	1. いつもどおりの様子であった	クライミングをやった	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで一緒に遊んでいるすぐ近くの場所で他児と遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	長時間保育士が3名がいたが、それぞれ分かれて、子どもの補助に付いたり、保護者対応をしていた。	特になし		子どもの動きなど、気を付けて観察し、状況に応じた言葉かけや対応を行う。	
7980	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	62				17	20	25		5	5	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷による歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	遊んでいる園児の発達状況に応じた声掛けや見守りをしていく	鎖の部分から飛び降りないよう指導していきたい	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	無し	特になし	1. 集団活動中・見あり守り	今回は身体能力という点から各個人の発達状況によっては危険なある場合がある	個々の発達状況に応じての対応に注意きたい	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に遊んでいる時、遊具降りる際に片足をまたいだせたまジャンプした。	2. 対象至近で対象児を見ていた	対象児を含めた児童を守っている時、対象児が地面に飛び降り泣いていたのに気づく。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭や他の遊具で対象児をしていたが、他児を見ていなかった。	６２名の園児に対しての置は適切である	特になし	
7981	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	40							0	4	4	5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第1中足骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故のリスクヒヤリハットについて定期的に共通理解し合う	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具については、定期点検でも問題なく設置箇所はおいては支障はない	1. 集団活動中・見あり守り	特になし	遊ぶ前に子どもと遊び方を確認し合い、危ない行動は大きな怪我に発展することを伝え事故が生じないような遊び方や遊び内容を工夫する	1. いつもどおりの様子であった	元気よく友だちと追いかけっこをしていたが、走りまわり疲れ、テラスにあるベンチに座り体を休めていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の見守り位置で遊び様子は見ていたが、少し離れていた友だちが勢いよく抱きつき止められなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児とは離れた場所で園庭で遊ぶ他の子どもを見ていたため、事故発生の瞬間は見ていなかった。	特になし		一人ひとりの状況を把握できるような体制で遊びを見守る	
7982	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	18								1	1	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	視界が良く、遊具は低くて、遊びは自分のペースで、今までのけがは擦傷程度のものがほとんどだったため、あまり意識をしなかった	斜めの見ている他児で向いて後ろを走ったり、前を向いて周囲を確認しながら歩くことを伝える	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具を動かしたり加工したりはできないので、現状維持	4. 個人活動中・子どもの	クラス担任は、泥んこ遊び後は靴まだ履いて後を履いていない子どもの援助をした。本児の居場所は、タイヤ遊びをしており、本児が衣服が濡れた	転ぶ瞬間は見ていたが、咄嗟のことだったので、対応できなかった。クラスへ戻る子ども の歩くルートを知らせていくようにする。		戸外で、泥んこ遊び後、靴を履いて部屋に戻る際、他児と一緒にタイヤ周辺を走った		(具体的内容記載欄)泥んこ遊び終えて、片付けや、足を洗って靴を履く子らの援助をした。		同年齢の他クラスの職員も戸外で、それぞれの水遊びに分かれて、子どもの遊びに寄り添った	その日は、クラスの子が5人休みのため、加配対象児も居なかったため、担任が一人でゆったり保育をしていた	特になし	泥んこ遊び後の片づけや体を洗ったり、着替えたりする場面で、保育者の目が一か所に向きがちなので、手が必要な時は、フリー保育士らが補助に入るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面					人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																															
7983	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷			4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前額部挫傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2. 基準配置	子どもの場所シにサッシに子待つをのに近くしたこ。	子どもが集まる場所は、窓やサッシから離れた場所にする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	設備には問題がなかったから。	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	集団遊びの準備ができ、待つ場所へ移動していたが、楽しみから気持ちが浮ついていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児が移動したことを確認したが、他児とのトラブルが起きないように、方向を取ったので、援助を、援助を、本児に目をけんかをしないように、額をぶつけて、ぶつかるのが見えてすぐに駆け寄った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当の障害児と次の行動をするかを話をしていたため、見ていなかった。	特になし	保育士の配置人数に問題はなく、子どものいる場所から離れてはいないから。	
7984	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	93	0	0	0	41	0	44	0	8	7	6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位部骨折、左肘挫傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	鉄棒で遊ぶ時のルールの確認、補助の仕方の周知	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	遊具使用時の安全管理をしっかり行う	1. 集団活動中・見守り	特になし	遊具使用時の安全管理をしっかり行う	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の動きを見ていた	鉄棒をすべる様子を、傍で見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当者・対象児の動きを供たちを見守っていた	特になし	鉄棒の補助につく時は、鉄棒から落ちることも想定しながら補助につく	
7985	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	84	0	0	0	25	28	31	0	5	3	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	特になし	鬼ごっこをするときのルールの確認をする	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	園庭の安全確認をしっかり行う	1. 集団活動中・見守り	特になし	危ない遊び方を見たら止める	1. いつもどおりの様子であった	園庭に出て、友だちと鬼ごっこしていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこ一緒にしていたが遊びから抜け、他の子と遊びすぎるころに、鬼ごっこの動きも見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊び子どもたちを見守っていた	特になし	園庭での子どもたちの動きをしっかり確認していく	
7986	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	14								1	1	5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	若木骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	なし	なし	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度()回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	なし	なし	1. 集団活動中・見守り	保育士は遊びに参加しつつ、全体を見える位置を意識し、全体に目を配り、常に姿を把握する。	腫れや変色など異常がないか、被災後の目視確認を行い、少しでも気になることがあれば、迅速に受診する。	1. いつもどおりの様子であった	鬼にタッチされると思い、すばやく身をかわして逃げようとした。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	保育士も遊びに参加して、2～3m離れた場所から本児の姿は見ていたものの、昨晩のことがあり、被災のことがおきたことからわかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で本児の遊ぶみたいの様子を見ていたが、瞬時の本児の動きに危険を感じなかった。	なし	なし	
7987	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	24								2	2	4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷			5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎・6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年			3. 個人活動中・見守り	登園時の園児受け入れをしながらの保育ということで、事故を未然に防ぐ個別がかけた。	園児の受け入れを行いながら、危険が予測される別行動に対する配慮を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた		2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			保育士2名体制で保育している際、お互いに声を掛け合い、保育士が園児の様子を見守り対応しやすい位置で保育する。	
7988	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	6	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18				7	11			1	1	4歳	1. 男児	A整形外科受診後、B病院へ移動し、処置を行う。	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	遊具近辺に職員が配置されていなかった。	職員配置の見直しし、遊具使用時にはは必ずそばに保育士がつく。	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	2. 不定期に実施	実施頻度毎日	特になし	すべり台にガードをする。	1. 集団活動中・見守り	保育士が他ごとに気をとられており、子どもの動きを捉えなかった。	保育士の立ち位置を考えたり、子どもたちの見もたの遊びを守ったり中で、危険な行動をしている場合には、声かけや制止をし事故を未然に防いでいるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	以前からすべり台を逆走する姿がみられた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	数人の子どもと一緒に園庭に植栽に生き物の死骸を植えていた。玄関にお茶をとりに行ったりと、子どもたちの動きに目を配れていなかった。		園庭に他の職員はいなかった。	特になし	遊んでいる子どもが危険な行動をしていたら、制止ができるよう子どもの動きに気を配る。また、遊ぶ前には遊具の使い方や園庭での遊び方等再確認する機会を設ける。	
7989	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	37								2	2	5歳	2. 女児	特になし	8. その他	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手人指指(ひびが入った)7/19→骨折7/27診断	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	廊下は歩行動いてしく。	子ども達が移動する時には急がず周りを見て、行動することを伝えすする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	子ども移動中はしっかり保育士がしっかりと見く。	7. その他	特になし	移動前にどもに子ども伝える(走らない、急がない)	1. いつもどおりの様子であった	日々、どちらかと言えば周りを見ていない。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	時々、怪我等につながることがある為、日々気を付けていたがぶつかってしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人の職員には近くにおり、一人は離れたところにいた。	移動中はぶつかってしまうこともある。	保育士は一人一人の動きをよく見ていくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面								ハード面								環境面					人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制	人数								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
7990	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	114			0	61	53			10	10	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折左肘頂部挫傷 左尺骨骨幹部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園児に遊び方を確認し、気をつけて遊ぶよう指導した	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	保育士の位置を立ちる工夫す	1.いつもどおりの様子であった	いつものように雲梯で遊んでいた遊具にもおれ慣れており特に安全様子はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	特になし	保育士が連携を取りながら全体を見る	
7991	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14								1	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右中指挫創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	保育士が子どもの気持ちの内面にも配慮し行動予測する力がついていなかった。	慌てやすい・気が移りやすいなどその子の特性を把握した上で、子どもに対応をしていくことの必要性について再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	はさみ(刃先)を向け危険性が理解できていなかった	だちがいをとろうとと危険ある実際見せ、子どがこできうまいかなどもの切りするな性かも考えるとよいがらし、自分ことを付けて扱う友持ちえがよる指導した。	3.個人活動中・見守りあり	はさみの方法を扱いが、身についていなかった。	日頃より、はさみの扱い方・片づけ方など細かく継続的に伝えていくことで、身についていくようにすること。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の同意なく他児が対象児の持ったを切りとまった。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	保育士はは他児がはさみを扱っていることに把握しており見守った、災害時は2.5m離れたところに他児を見ての対応をしていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員はなかった。	はさみ使用時に保育士が子どものそばから離れまいとしているものが把握できていなかった。	必ずそばで見守るようにし、保育士が離れる際は子ども把握できるような保育士の姿勢を意識し、姿が把握できないときは、はさみの使用を中止する。	
7992	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								2	2	5歳	2.女児	筋ジストロフィーの子どもで、歩行に介助を必要とする。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	特になし	2.自らの転倒・衝突による突きもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	・職員間での共通認識	・個別計画案に介助方法を織り込む	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	・特になし	・特になし	3.個人活動中・見守りあり	日かの雨で室内で過ごしていたため、他児の動きが活発になりはじめ、やや騒がしい状況であった。本児が歩いているすぐそばで遊び、動き回っていた。	他児の動きが大きくなっていたり、騒がしい時、込んだ場所は自力で歩行しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自分でつくったものを自分でロッカーにしまいたいという気持ちが強く、自力で歩行していたところ、近くで立っていた友達の足に足をつまずいて本児が当たった時にバランスを崩した。	1.対象児ンマンの状態(対象児に接していた)	後ろから、本児の作品を持ちながら見守っていた。すぐに手の届く距離に、背後に転倒時に転倒時に脇を支えたが、支え切れなかった。	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	こども用机2台分隔てたところで、全体を見ながら、本児の動きに入れていたが、他児の対応をしていた。	・児童ジストロフィーという持病があるため状況により歩行等に介助が必要	・介助位置後ろを児童の後方ではなく主に横側、前方につくようにした。	
7993	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				9	16			2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨端線離開	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	久しぶりの戸外遊びで、友だちとのびのびと遊んだ。周りの子を見ながら走だけでなく、中でかけっこ、鬼ごっこ等、楽しく過ごすことができた。	子ども同士の衝突を防ぐ為、全体の様子を把握する。必要に応じて声をかけた子どもと話したり、たとえば、安全な遊び方を話し合ったりして、身につけるようにする。全職員で周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	石やマットなどが、つまづいて転倒したり、原因は物が散乱していたりなどの環境整備はできていたか。	遊具の安全点検は、園庭の状態は把握できていたか。毎日の点検は、園庭の状態を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具での集団活動中、走っている子どもへの配慮が足りなかった。	戸外遊びの際は、園庭は目に全体を向けるようにし、保育士同士が互いの動きをお互いの動きを見ながら（把握しながら）連携をとるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる子はなかったが、久しぶりの戸外遊びで喜んだ。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	別の遊び（固定の遊具）を見守りをしていた、対象児の遊びを離れた場所から見ていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他の保育士の動き、立ち位置を把握し、固定遊具の遊び方の提案、子どもの助言をしていた。	保育士が、固定遊具以外の遊び（鬼ごっこ）は、大怪つきがだと我ながらいろいろ気持ちになっていた。	どんな遊びにも怪我性がある可能性があるということを、ヒヤリハットなど職員間で共有していく。	
7994	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20								2	2	5歳	1.男児	事故発生の5カ月前、お休み中に家庭にて右腕を骨折。1カ月後から登園	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折（骨の場所は不明）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	朝の視診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気付かなかった。防犯カメラにて検証	1.いつもどおりの様子であった	登園の際、右腕曲がっている様子を防犯カメラで気づいた。（事故発生の5カ月前に骨折し、完治してからもやや右腕を曲げて過ごしているように感じた。）	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	雑巾がけのスタート地点と反対側の見全体が見える場所に待機し、号令をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士補助もたちに近くに待機した。	遊戯室で雑巾がけを行っていた。少し止まりながら一往復行い、終了後に保育補助に声を掛け、担任保育士に「痛いからやめておく」と伝えに来た。過去に骨折していたことから負担がかかり痛めたと予想される。	朝の視診問診をしっかり行わず、少し右腕がっていることに気付かなかった。防犯カメラにて検証	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7995	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								2	2	5歳	1.男児	はしゃぎ出すと、気持ちが高ぶり、落ち着きまでに時間のかかることもあり、はしゃぎ出すと、気持ちが高ぶり、落ち着きまでに時間のかかることもある。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	ヒヤリハットを積み重ねていくことはいるが、全体の職員が持つ意識とはいえず、ヒヤリハットを積み重ねていくことはいるが、全体の職員が持つ意識とはいえず、ヒヤリハットを積み重ねていくことはいるが、全体の職員が持つ意識とはいえなかった。	ヒヤリハット事例を共有し、園児の動きを注意深く見守るようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	使用した経験が少なかった。	子どもの状況に合わせて、経験を増やすように工夫した。	1.集団活動中・見守り	担任保育士が遅番のため出勤し、他の保育士が変わって保育をしていた。丁度、入れ替わり時間だったため、引継ぎをしていた。ジャングルに、子どもが集まり、危険を感じたため、2人の保育士がジャングルジムの方に動いた。	引継ぎにもを離れにもも、手が責任をもって保育をしていた。丁度、入れ替わり時間だったため、引継ぎをしていた。ジャングルに、子どもが集まり、危険を感じたため、2人の保育士がジャングルジムの方に動いた。	短時間で行うと、引継ぎ時、誰かにもって保育するあたりの明確な話し合った、また、危なじみ合った、お互いに声掛けをいかから離れたり、かかわったよ合う話し周知した。	1.いつもどおりの様子であった	こまっぷしぱくまぼこ型のトマトで、ふらしながらランスを取ろうとしていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	不安定さはあったものの、そのスリルを味わっているような様子だったため、見守るような位置で、ていたが、ジャングルジムに集中したため、移動した。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	本児がかまぼこ型マットで遊んでいることは承知なかったが、ジャングルジムの方に取られ、転倒の瞬間は見ていなかった。	朝の自由遊びに設定する玩具は、その時の担当によって異なる。この日も、遊びであろうという事で、代わりに入っていた保育士は設定をしたが、実際には、担任保育士は、あまり使用していなかった状況だった。また、一瞬ではあったが2人の保育士の視線が、同時にジャングルジムにむいてしまった。	担任保育士は、代わりの保育士に遊びの設定内容を伝えたり、子どもの様子を伝え、共通理解を図ったり、クラスのお状況がわかるもう一人の保育士でその確認をするように、また、2人の保育士でその場から離れるときには、声を掛け合い、連携を図る事周知した。	
7996	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	39								2	2	6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	5.他児から加れ害をえたもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	職員全体で怪我の経緯を共有し、園児の動きに注意を払うよう話をした	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	ハード面改善ないまでの策とす。	3.個人活動中・見守り	遊ぶ子はマット上で遊ぶにルールになっていたが、守なったれいところがあった。	マットの遊ぶを上でルール徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	他児に比べよくく動くため、怪我につそこと怪我がりうなこもある	2.対象児の近で対象児を見ていた	踏まれた時には、怪我までの様子はなく、指も動いた	2.担当者・象児の動きをいなかった	1人の職員はにおり、もう一人は離れたところにいた	特になし	クラスの部屋以外で過ごしたときは一人の行動を把握をしていく	
7997	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				11	7	9		2		4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	園内でのヒヤリハットや事故防止策について、定期的に話し合いの場を設ける。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	園内の安全点検等は毎日行っているが、さらに注意し、引き続き行っていく。	1.集団活動中・見守り	雨が続き、全面芝生の芝庭が、いつもより伸びていたため足を取られたのではないか。	園庭の芝定刈りを定期的に行っているが、生育状態により、よりまめに芝刈りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変化はなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具等離れから場所で、危険物等のない、広いおお場所にもいなかったり、まいりがいかったため、離れた場所から見守り、他の対象児を見ていた。	2.担当者・象児の動きをいなかった	室内にいた園児の対応をしていたため、対象児の確認ができなかった。	長時間の園児に対し、保育士は定設数人数を配置していたが、園庭と、室内児が散したことで見もしたがのとられる。	園児の動きを分散させず、保育士のできるようにまた、動きが分散するような状態の場合は、手保の空いた保育士がポートいくる体勢を取る。	
7998	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10								2	2	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A左上A歯の脱臼 及び下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年			2.集団活動中・子ども達のみ			1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の				
7999	令和3年4月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57								4	4	6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	1.基準以上配置	運動遊びを伴う遊びは危険を伴う遊びであるが、専門の講師からの研修の機会が少ない。補助の方法が曖昧な保育士もいる。	年度早々に年長担任は講習を受け、全職員に共有できるように知識を共有できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	すぐ側で見守っていたが、いつもは跳べるとの跳だったで油断し、手を差し出すタイミングが遅れた。	今度は失敗するかもしれないと常に警張感を持って補助態勢をとる。	1.いつもどおりの様子であった	健康確認に特記事項はなくが打たれていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接した)	跳び箱は危険な遊びだと認識していたが、本児は既に5段を何度も跳んだ事で、今度も跳べるだろうと油断していた。	2.担当者・象児の動きをいなかった	当対象児の	保育士がついていたので、任せた。	いつも助走せずに踏切とでトトリムをつけて力飛びえていたが、この日は、助走をつ挑しており、自分の思う以上に踏み切り板の所が力がありランスを崩した。	側について保育士がいたので、跳び方を把握した。危険を伴う遊びであることを常に意識し即動態勢でいる	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面								ハード面								環境面						人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所													年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8000	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4	1	3							3	2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度6回/年	2.基準配置	この骨折は、室内にて本人がふざけ、骨折に至るまで発生があると、前に動かず遊んでいたことから、にきれたとされ、そのまま転んでいたと推測されます。	度の転倒・転落・足ふらつき・疲れが、その時の状況・足の骨折は、刻方で転倒体をしていたことか元ふらつ疲れ、あえまたずんまま	方の疲出て時間には、子どもの動きの把握と、無理ないカラうに致。また、室内の危険を見安ご環境をこしまた、個所を直し全にさるづく行います。	1.定期的に実施	実施頻度12回/年	1.定期的に実施	実施頻度公園へ行く度	1.定期的に実施	実施頻度(回/年)	この事故は、ちょうど1つのカリキュラムが終わり、玩具片付けた後床面には、玩具がない状態で骨折でした。足骨折の時間で、保護者のお迎えなどが重なり、バタバタして時の怪我でした。	方の職員が足りなくなり、子どもの気持ちを行動に、お迎えの重要な特に、遊ぶ配慮を行う	3.個人活動中・見守り	保育士が1名玄関対応の為、室内が数人の園児と保育士となる。少しの間手薄になった。	手薄になる時間帯は特に見守りを強化する。また、施設長がいない場合は保育室に出てき、より過安全に過ごせるようにしていく。	3.いつもお子様発・活動的であった	事故が起こる前に体を使って遊ぶ遊びを行っていた。また、日中外遊びをするなど活動的に過ごしていた。普段より対象児は走り回ったりプするなど激しい行動を好んでいたため、当日も同じ夕方の時間も過ごした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が数人保育室にいた為、ちょうど中間あたりで、子どもたちの動きを見って守った。対象児を把握していたが、少しの場所から時に、怪我が起こった。対象園児は1人でその場所にいて、足を座おさえ込んでいた為、すぐに近寄り声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方の保護者対応のため、玄関へ出たため、担当者及び対象児の動きは見ていない。その時間は、施設長も保育室で作業をていたが、対象児の動きは把握していなかった。	玩具を片付け対象児のまわりにも誰もいなかったため、事故が起こると予測できずし間視線をそらしたため起こったと考えます。	常に事故がおこることもの行動をしっかりと見守る事、見又職員間でを徹底することを、職員間でもう1度確認します。	
8001	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	6									2	2	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年もしくは不定期	1.基準以上配置	・園外保育での危険個所の把握安全面への配慮の共通理解	・園外危険保育中の事故の記載なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	・園外保育中の事故の記載なし	1.集団活動中・見守り	・子どもの発達をのにた遊びの選択、場の選定	・子どもの発達に合わせた活動の組み合活動を想定した保育内容	1.いつもどおりの様子であった	公園と団地の段差のところを一緒に歩いた	4.対象児の動きを見ていなかった	・対象児のそばにいたが、他児の行動を追って移動した直後に保育士の背後で、児が落下してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・公園内の離れた箇所で、数名の子どもの動きに対応していたため目視できなかった	・他児の動きに気を取られ対象児のそばを離れてしまった	・子どもの流動的な動きを全体的に見渡せる配置につくこと、活動場所所の危険個所を、極めると、子どもの動きに合わせた援助や支援の方法や対応の把握	
8002	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	13	2	8	3	0	0	0	0	0	5	5	1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯一部欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	園内研修は翌日施し、達段階にお応じた散歩コースの確認をする。マニュアル、お散歩マップにも反映済みみ。	発達段階を踏まえ、お散歩場所を決定する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	対象児が歩いた個所は傾斜がほぼなかった。落ち葉は多少落ちていた。丸太等は腐食などは特になかったが、対象児が歩いている所が丸太丸など多少凸凹していた。	地面をよく確認する。	3.個人活動中・見守り	対象児が離れて手としても離さいでだまま遊んだ方が良かった。	地面が凸凹ところ手ないにする。	1.いつもどおりの様子であった	階段は手をつい登った り、抱っこされたりしながら進む。斜面かかなこ ろでドロップリや葉っぱを手に取り遊ぶ。	1.対象児とマンマン の状態(対象児に接していた)	対象児は一人で階段を降りるときは介助が必要したため。	1.担当者・対象児の動きを(至近距離にいた)	他の園児が階段を降りる子どもの達の動きに合わせ、見守りながら対象児の動きも見ていた。	対象児が手をうして離さないでだ方が良かった。	地面が凸凹ところでは手を離さないようにする。	
8003	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	17	0	8	9	0	0	0	0	0	4	4	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上乳中切歯、乳側切歯陥入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	・危険予測をしていなかった。・役割分担が認識されていなかった。	・危険の予測や察知について研修を行い、安全意識の向上を図る。・職員間役割での役割を明確にをし、連携を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	・前日に降った雨が、遊ぶ場所の点検を分にし、遊ぶ場所の見直のをし、発達に合った場所を提供するようにする。	1.集団活動中・見守り	・遊ぶ場所を広くしてしまった、走るスペースを多く作ってしまった。	・遊ぶ範囲の制限を行い、児童の状況を見て遊びの提供をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	・受け入れ時、歩中、ともに変わった様子は見られず、保護者から も特に変わった様子も見られないとのことだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・別の危険箇所を見守りつつ該当児を見たが、該当児が不規則で移動し、別の保育士が死角にはいってしまい、見失ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・該当児が転倒し場所の危険箇所で見守りをしたが、該当児が保育士の後ろを通ってで行ったので見ていなかった。	・児童の身体発達、運動能力の把握が不十分であった。	・児童の発達状況、身体能力、日々の様子を職員間で共有する。	
8004	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5									3	3	1歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1) 回/年	2.基準配置	職員間で危険・安全への認識不足・怪我して対して判断不足	職員間でのリスクに対して認識をマニュアルで再度共有し、常に予想される行動の声掛けを行っていく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	階段とロープ間に等しく、スの手すりが無く、その転倒まましてしまった	手すりの設置を調整中	1.集団活動中・見守り	保育士間での危険への不足・安全認識・怪我に対しての判断不足	戸外活動前は子ども達の気分が高まり危険が伴う為、子ども達が落ち着いて行動できる様に一斉に戸外に出るのではなく順番にカートに乗せる等、少人数で行動す る。また、スロープでの遊んでいる姿を見た場合は、連れ戻すだけでなく、すぐにカートに乗せスロープでは遊ばないように保育士は援助をする。保育士間で戸外でのリスクを再度共有する。	1.いつもどおりの様子であった	・本児はいつもと変わらない様子であった。昨年度からでもあり、慣らし保育のもと子ども比べると安心感はあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・保育士が3名保育していたが、1名はカートを乗せていた。1名は内のもう1名はカートにも子ども乗せていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は園閉門のためカギ閉めを行っていた。	優先順位は子どもであったが、各保育士との連携がとれなく「みてくれている」と思って行動していた。	保育士間の連携をしっかり行い、鍵しめは子どもがすべてのっていたから、遊んでいる子どもがいた場合はカートに乗せる等、対応を行っていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8010	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	13			6	6	1			3	1	16. 4歳	1. 男児	急性弛緩性麻痺後遺症（右上肢）、左下肢も弱さあり。身体障害者手帳：上肢3級、下肢3級、総合で1級。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右上腕骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2回/年	1. 基準以上配置		子ども同士のかかりの中でのケガを事例をなが討引き出しら、検証する。続き、クラスの様子、友関連との係性も会議の中で共有しておく。	2. 不定期に実施	1回/年	1. 定期的に実施	2回/年	1. 定期的に実施	2回/年		1. 集団活動中・見守り	事故後の中でなる両親との会話の場所で「慣れは回数がなくなるとのこと。	保護者から、家で様子や、注意点をもっと細かく聞き取り、保育園の中でも気を付けられるようにする。職員も共有する。ある場合、園外に出る時には、園内で他のクラスと遊んでいるということも検討する。	1. いつもどおりの様子であった	走ることも楽しく、追いかけっこを自分から誘ってくることもあった。	2. 対象児の近で対象児を見た	至近距離で見守りしてはいたが、一瞬目は見っなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	近い距離で、他の子ども保育、子ども応をした。		お弁当持参で、食べた後で、遊んだので、ただび行った時は、動きが違った。	支援のいる子ももちろんだが、集団の動きが大きくなってきたり、中間でのトラブルでもも予測しながら保育をする。子どもが落ち着かない状況の時は、少なお動きい遊びをしてお待ってく。	
8011	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)		8	3	6	7	4	4			7	5	15. 3歳	1. 男児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面（口腔内含む）	眼窩底骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	24回/年	1. 基準以上配置	特になし	研修や職員配置問題はいると考える。	3. 未実施		3. 未実施		3. 未実施		公園内のエリアと植栽エリアの間に20センチ程度の高低差あり	市管理公園の理為物リスク排除はであり、近づいたりかたい線などにより、確認によ明確に工夫する。	1. 集団活動中・見守り	特になし	必要と判断される外活動戸外であった。	3. いつもより活発的であった（理由を記載）	掛けっこをしいるこれ以上に活動的であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は、プランコ周辺・砂場周辺・かけっこエリア周辺とばらけて配置していたが、各保育者が違った園児に気を取られてしまいた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	自分の担当エリアの児の見た。当該園児の動きをていた為、当該園児の動きは見ていなかった。	担当保育者は、他の園児の動きをしており、その瞬間当該園児の動きから目を離してしまった。	特定の園児らに気を取られ過ぎることなく全体を見渡せるように対応をする。また、必要以上の対応が必要な際は、別の保育者に声を掛けてから目を離すように徹底する。	
8012	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)			6	8	14	9	11	6		15	13	16. 4歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左肘頭骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2回/年	2. 基準配置			2. 不定期に実施		2. 不定期に実施		2. 不定期に実施			1. 集団活動中・見守り			3. いつもより活発的であった（理由を記載）	普段通り	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児が下階段を下りてくるを踊り場で見ていたが、階段を踏み外し落下した時には手が出せなかった。				階段を下りる前に、子どもたちと気をつけることを確認する。保育士は落下を想定し、手が届く位置で見守る。	
8013	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	9	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)		2	1	3						1	1	14. 2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部・臀部）	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり			2. 基準配置		新入園児が入園した際は、その都度、職員間で共通理解を行えるよう、研修時間を設ける。	1. 定期的に実施	12回/年		遊ぶ前に職員が目視で確認	1. 定期的に実施	週に一度玩具の消毒を行いつつ安全点検も同時に実施		公園の状況の地面の等、遊ぶ前に職員が点検すること	1. 集団活動中・見守り	丘の途中で転んだことにより、園児がバランスを崩して転倒した。	坂のようになっていることを合わせて、園児同士の手をつないでもらうことが出来ないように、保育者が1人ずつ登らせるようにする。園児が歩く前に地面の状況の確認を行うようにする。	1. いつもりの様子であった	普段、丘下の上りを一人で行っており、当日は公園内を仲良い友達と手を繋いで散策し、丘を登ろうとした。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	普段は丘子手を登ると子どもを繋いだ、すぐ後ろに手で支えるようにしていたが、新入園児の対応で少し離れた所にいた。	1. 担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	他の対応で離れた場所にいた。	在園児と新入園児と園の活動範囲、活動量の違いを予測できていなかった。	新入園児の歩行状況、精神状態などを把握したうえで、園外保育を実施する。新入園児と在園児の活動を区切りする。	
8014	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10	2	3	1	2	2			4	3	15. 3歳	1. 男児	入園前、発達検査を受けています。新版K式発達検査2001　結果：発達指数(DQ)72入園後、気持ちのコントロールが難しいことが時々あり。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右橈骨尺骨骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～2回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	48回/年	2. 不定期に実施	48回/年	1. 定期的に実施	48回/年			1. 集団活動中・見守り			1. いつもりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	他児を誘導ら、児がしたが。こけた瞬間、手を伸ばし、差しようとしたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	次の活動用の為の出し入れ、設置を行っていたため。	マットを出た状態で子どもを移動させる時の動線の指示を出せていなかった。	子どもが動くときには、必ず安全な場所を確保する。動線を子どもに伝え、理解させてから動かす。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面						環境面						人的面									
		施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8015	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	4	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	10	1	3	3	2	0	1	0		5	5	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1〜回/年	1. 基準以上配置	職員配置数は基準以上ではあったが、怪我をした児にはいたそばに職員がなかったため怪我を防ぐことができなかった。	異年齢で過ごす際の怪我や事故発生の事例やリスクマンについて話し合いや研修に取り組む。	1. 定期的に実施	48回/年	1. 定期的に実施	144回/年	1. 定期的に実施	144回/年			1. 集団活動中・見守り	屋外の環境は日ごろ変化していくため、活動の際には都度状況の安全の行が確認をと行う必要がある。	職員の立ち位置や子どもの様子の把握などに加え、普段から遊んでいる場所では遊ぶが安全ある場所であるべきなどで、適しているのかこれまで以上の確認と職員間での行検討を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	年下児からの関わりを喜び抱きつかれたことを拒絶する様子も見られなかった。抱きつかれたことで手が思うように動かせず、転倒した際には受け身が取りづらい状態になっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	帰園に向けて子どもたちに声をかけ他児と関わっていた。帰園は近くに居らず転倒を防ぐことができなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	帰園に向けて子どもたちに声をかけ回っり荷物の準備をしていた。	0. 1歳児の子どもたちの動きや状況を職員間でちんと共有・把握できておらず、他児に対し抱きつ姿がれ見られていることを把握できていなかった。	乳児クラスと幼児クラスが同じ活動の場所になったことで職員数が多かったこともあり、責任の所在が曖昧になってしまっていた部分があったように感じる。職員間で声かけを行いその子ども日の子どもの様子や見の範囲を見守ったりどの子につく相の子につく相談していく。	
8016	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	9	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	13	0	0	0	6	6	1			2	2	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折(右)	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1回/年	2. 基準配置	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外での活動の際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけをより一層徹底していく。	1. 定期的に実施	48回/年	3. 未実施		1. 定期的に実施	240回/年	玩具につき、転倒したら考える。	使用した玩具、椅子や机は指定した所へ片付けて、遊べる環境を作る。角のある設備等には保護テープなどで対応する。	1. 集団活動中・見守り	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外活動での際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけを層徹底していく。	1. いつもどおりの様子であった	かけっこの練習に意欲的に参加していた。	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	かけっこスタート時は園児の同士の距離を取ってスタートの合図を出し、走行倒中に転倒したため、本児にすぐ駆け寄る。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	ゴール地点で走り終児の誘導と見守り。	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外での活動の際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけをより一層徹底していく。	
8017	令和4年3月16日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	12	2	6	4						7	7	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折・左手第3指挫傷・左眉部擦過創	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1回/年	1. 基準以上配置	当該児に対しヒヤリハット事例が何度かあった。	ヒヤリハット事例が何度かあり、意識的な活子なので、注意見守ってしると意識は職員にはあったが事故きまったもヤリハット事例を検討し具体的な考え対応を。	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	使用前	1. 定期的に実施	毎日	園から外活動で行くまでに坂道が多くある。	戸公園道が坂道あるよ	坂道や階段等、転倒の危険ある場所は避ける難合は以上に注意をして通るようにする。	1. 集団活動中・見守り	転倒した場所が坂道ていた。	坂道や階段等、転倒の危険性がある場所は避ける難合は今まで以上に注意をして通るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	体調不良や様子なく、普段通り元気に過ごしていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象接児していた)	当該児ともう一人の園児を左右の手をつないで歩いていた。当該児が急に進行方向と逆に走り出し、転倒しないようにしたきこちらそれぞれ担当職員当該園児が転倒。転倒の際、自と例の分がどもうもう一人の園児のに乗ってしまおないようにした為、担当職員も勢いよく転倒してしまった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	担当職員の前後に他の職員も一緒に歩いていたが、バギーを押した他と繋いでいたため、支えることはできなかった。	園児の行動予測や応急な対応できなかった	活発的な児童に対しただけ職員と園児で対応し、様々な状況出来ようにする。	
8018	令和4年3月16日	2. 認可外	17. 地方単独保育施設	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	0	0	0	0	2	9	0	0	1	1	1. 男児	身体的発達に合った活動の為、活動内容により起因は考えらえない動作習得の為、より習熟度を意識した練習内容を検討	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	第五趾末節骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	その他考える起因なし	事故発生整理状況を発生時理し、生状況を取り発生時状況の理解に努める	1. 定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	用具による起因はなし	使用用具直しの見直し	1. 集団活動中・見守り	その他考えられる要因無し	危険性の事象あるに対して発信の場ある	1. いつもどおりの様子であった	通常通り、体操クラブへ参加していた	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	サーキット指導により、危険性の個所を行い、その個所は補助を行う	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	後転している目撃をしている。その児みのあり	担当職員は適正であり、職員の起因は考えづらい	動作に関して、負傷する可能性がある動作を事前に伝ら危険性を把握ようにする。	
8019	令和4年3月16日	2. 認可外	17. 地方単独保育施設	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2. 女児	動作の習得が行えていたが、精神状況の変化に伴い動作に支障が生じ、発生いたと考えられる	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	第3趾末節骨骨折及び第2趾末節骨骨折	2. 自ら転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	園児に対する危機意識の欠如職員が活動に対する危険の伝達不足	事故状況を共有し、園児職員共に怪我の起こりうる状況を理解していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	用具による起因はなし	使用用具直しの見直し	1. 集団活動中・見守り	他児に成発表場面で、気持ちが高揚し普段と違う動作を行う	活動に対危機意識の改善と伝達危険性の事象あるに対しての発信の場ある動作における適切な距離と用具の設置状況を見直す	1. いつもどおりの様子であった	他児へのあり表言葉や、気持ちが高揚し、積極的に参加していた。	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	跳び箱指導の際、跳び箱の横に立ち補助を行った。跳び箱を飛び越す前動作として踏切を行った際に発生	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	発表の場というもあり、他担任も他児と同様ら、本児の活動の様子を守った。	担当職員は適正であり、職員の起因は考えづらい	発表の前に危険性を伝える行動をとることが望ましい。ヒヤリハットを含め一度園内研修を行い、事故発生状況の周知と防止策を講じる	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																																															
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																										
8020	令和4年3月16日	1. 認可	17. 地方単独保育施設	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13	0	0	0	0	0	0	0		4	2	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	転ばない。転んでも大けがにつながらないような体作りを中でいこうと育っていく。	安全指導で、全児に指導した。職員が見守りかこしっかりと行うこととした。	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(　)回/年			1. 集団活動中・見守り	1. 見あり			1. いつもお様子であり		4. 対象児の動きを見ていなかった	風船のある場所に集まってお児が風船に走っまり、見守りをしていた。本児は風船と離れた場所にいるため見えていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りをしていたが本児は異児とは場所なるへ走っており、見えていなかった。	広く全体を見守りしていたが、他にもいざこざを起こすこざこしすいが多く、そちらに目がいってしまった。	子どもの動きを注意しながら、個々にも注意して見守り、注意喚起をする。	
8021	令和4年3月16日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15		2	2	1	7	3			4	2	5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故予防マニュアルの整備を行い職員を研修を実施する。	2. 不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年				トイレの位置について（園に年長クラスから一番遠く、間に合わない場合、走っていく事も多い）	机のなどを変えて、廊下を広くとる。	3. 個人活動中・見守り	特になし	トイレに時は、一人ずつ歩いて行くよう子ども達に指導する。	1. いつもお様子であり	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児3人を担当しており、職員が不足しているような状況ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった		同じクラスのADHDや特性のある子ども増えている中での保育の難しさがある。	行政にも支援を求めていく。	
8022	令和4年3月16日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度(　)回/年	2. 基準配置	跳び箱をよじ跳べるようになったことし、次に挑戦し張り切るが、その思いが、行動に慌てて跳び箱を飛び越すように振り向こうとしたこと、骨折したことが原因と思われる。	守りはしたが、安全先読で見ていた児童の安全をみようにすることに声を掛け、一人一人の状態に合わせ、行動できるように、発声や指さしなどで注意を引く。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年			跳び箱運動を際の箱や上を置く位置を持つ。	跳び箱の角にぶつかり防止のションを貼る。	1. 集団活動中・見守り	年長組に対する心感と見守りの十分さ	一人一人の状態に合わせた対応をとるようにする。	1. いつもお様子であり	跳べたこと保育士等の応援にうれしくなり、気持ちが高揚していたと思われる。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	一人ずつ確認しながら、周りは点検し、声掛けたべたことに安心し、次の児童に意識が向いたと思われる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当番の遊び違う児の行き、見ていなかった。	応援や援助に成長につながる大事ではあり、跳べたことに心を寄せ、離れるまで確認する要があった。	跳び終えたその場所から離れたことを確認してから、次の児童へ声掛けをする。	
8023	令和4年3月16日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	1	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17	3	9	2	2	1	0	0		1	1	0歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		1. 意識不明			8. その他	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	3. 基準以下		0歳児の受入は極力お断りし、受け入れる場合は人員の補充を行い、配置の見直しを行います		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年				1. 集団活動中・見守り		常に保育室に職員２名の配置をいたします。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	鼻水が出ており、、病院を受診し、薬を飲んでいたため。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児童のミルクを温めていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その場に１名しかいなかった。		常に保育室の配置を徹底いたします。	
8024	令和4年3月16日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7			2	1	2	2				0	2歳	2. 女児			1. 負傷		6. その他		腹部圧迫による呼吸停止		2. なし	3. 未実施	実施頻度(　)回/年				実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年		実施頻度(　)回/年			2. 集団活動中・子ども達のみ	職員２名が約２分間保育室にいなかった。	職員は確実に連携して１名は幼児を見守る。	1. いつもお様子であり	特に変わった様子はなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	電話をかけるため保育室を出た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	手洗いに行っていた。	職員２名が約２分間保育室にいなかった。	職員は確実に連携して１名は幼児を見守る。	
8025	令和4年3月16日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	24				15	9				5	4	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)		2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度１回/年	1. 基準以上配置	いつものコース散歩ではあったが、途中工事のため、途中の少しコースを変更し、ことで蓋の確認をした。側溝がなかったが、側溝の蓋がなかったが、側を歩いてしまった。園児も足をもっていかった。園児も注意が足りなかった。	途中コースを変える時は、注意するように園児に声掛けをする。また、先まに行きコースの確認をすることが必要。		実施頻度(１)回/年		実施頻度(１)回/年		実施頻度(　)回/年			1. 集団活動中・見守り	途中のコース変更により、目新しいことを見てしまったのない側溝に足を踏み外し、転倒したが手を離さなかった為、本児も引っ張られて転倒した。	急遽のコース変更であっても、先ずに行ってすること。又、側溝に蓋を付けてもらう。	1. いつもお様子であり	手をつないでいた児が、転倒した本児の手なかったことで、巻き添えとなってしまった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	車や側溝、段差には気をつけるように心がけていたが、一瞬の出来事で防げなかった。底もに転倒した児を起こし、怪我の状態の確認を行った。本児が上口唇から血が出て園に戻り、園長者に報告をし、保護者の連絡をしてできるかの確認を行いお願いした。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	1名の保育士が、本児と園に戻った為、一緒に転倒した児の状態を確認した跡、我りの園児全員を園に連れて戻った。	総勢２名の園児を５名の保育士で引率していたこと、職員一人ひとりの危機管理ができていなかったと考えられる。	今後は、職員一人一人が危機管理能力を身につけ、職務にあたる。	
8026	令和4年11月28日	3. その他	13. 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)											援助会員１名	援助会員１名	17. 5歳	2. 女児	—	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	高エネルギー外傷	8. その他	1. あり	1. 定期的実施	1回/年	2. 基準配置	送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。							送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	7. その他	送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	1. いつもお様子であり	援助会員の運転する車両の後部座席に座っていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	後部座席に児童を乗せ、運転していた。			送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8027	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47							47		5	2	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアル研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	なし	施設、設備については引き続き定期的に点検し、安全学校と連携しながら、危険を未然に防ぐことを努める。	1.集団活動中・見守り	特になし	引き続き、支援員が適切に児童の遊びを見守るとともに、危険な遊びはしないなど、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの子であった	—	3.対象から離れたところで対象児見ていた	クラブ内で始まる注意と、当該児童を走りたくもで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ内で児童の見守りを行っていた。	特になし	見守り体制については適切に実施していた。	
8028	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		2	1	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアル研修、職員配置については適切に実施している。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	なし	施設、設備については引き続き定期的に点検し、安全学校と連携しながら、危険を未然に防ぐことを努める。	1.集団活動中・見守り	特になし	引き続き、クラブ移動時には支援員が付き添い、危険な行動はしないなどルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの子であった	—	2.対象児の近で対象児見ていた	支援員が決められた位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者と同様の場所で全体を見守っていた。	特になし	見守り体制については適切に実施していた。	
8029	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49							49		7	4	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨骨折 基節骨骨折	2.自の転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	特になし 以前にもこのようなことがあった。同じように鈍痛みを感じる子どもは結構いるようである。発達の関係か？十分に気を付ける必要あり。	児童クラブに、ケートどもどのようなルールあるだ。クラブ入会時にアンケートを調べるようなアレルギーなどの必要な子どもに対して同じ対応を考え策をとる。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	危険箇所等がないか日常の点検に努め管理・点検にる	1.集団活動中・見守り	本児については、発達障害の関係を入れて、児童クラブ全体で取り組みたい。	児童の入会時に、アンケートなどで状態を前もって知っておくことは必要な感じた。保護者の協力が必要。	1.いつもどおりの子であった	本児はいつもどおり元気だった。	2.対象児の近で対象児見ていた	体育館内に児童の女児6名、男児1名で、女児は全員と箱（本児）は両方とも行きて邪魔をしていた。児童クラブ外の小学生で、多くて、込っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は、2年生をセンター児童クラブで遊ばせた。体育館が7名、おもちゃで遊ぶ9名だった。支援員は、体育館1名、おもちゃや部屋1名児童クラブ室から1名の支援員が加わっていた。	当日はかなり混みあっていたので、接触したり、つかったりしたことが付かなかったかもしれない。	混みあってはいるときはクラブ室で過ごす。	
8030	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	12							12		4	2	19.7歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕橈骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1回	1.基準以上配置	特になし いつもと違う場所だったため、子どもたちも以前にもいつも楽しんだ上に周りを見えなくなっていた。（事前にも注意も声掛けし、注意喚起もしていた。）	場所が変わっても安全な遊びかたができるように、その都度注意を行うことも死角ができてしまうことなど危険意識について、今後ミーティングを通し再確認を行う。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	芝すべりに対して安全な滑り方の確認が出来なかった。	学校での遊び方の指導と支援員間で共通理解を図る。	3.いつもより活発的であった（理由を記載）	本児は、発達障害の診断を受けて薬を飲みはじめたばかりであり、少し落ち着いて行動がみられるようになっていたため、支援員も過信していた。	4.対象児の見ていた動きを見ていなかった	正面から見守りを行ったが、角ができていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各自の場所で遊びを行っていたところへもとこの場で遊びてどもたちが支援をしていた。良い子ども、過ごしたりの子ども支援員に対して、体調の不良の室内で過ごしたりの子ども見守りを行った。	支援員が支援員に対して、子どもの見守りを行った。	支援員一人ひとりが、どんな危ないことをするかもしれないと広く周りを見回す認識と、個に関わる両方を持つよう常に意識を持つお心掛けるべきである。	
8031	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		3	2	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	数回	2.基準配置	特になし 放課後支援員が子どもたちと一緒に遊んでいる児童の転倒、負傷の制止の間に合わなかった。	体育館での遊びの際には最初から2名以上の職員で引き受けると、体育館の遊びを動かす遊びの際には転倒、衝突といった事故の危険に限注意すること。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	体を動かす遊びを行うために体育館でのは必要であるが、支援員や児童の人数から、時間帯や容を考えも考えなければならない。	体育館での活動に、走り回る遊びは2名以上の職員で対応し、目届かない範囲を限定するなどの対処を行う。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこ体育館定番での遊びであるが、転倒する危険があることを再認識し注意喚起しながら行わなければならない。	体育館での遊びの際に、児童が興奮しすぎないか見極め、その都度声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこに参加し、興奮し、気味であった。	2.対象児の近で対象児見ていた	職員が鬼となり鬼ごっこを一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名の職員は館内で児童対応、1名は館内に向かって1名の職員は体育館で児童対応、1名は体育館に向かって到着直前であった。	支援員1名の見守りは必ず回る運動には、遊び方や種類も考慮すべきであった。	激しく動きを回る運動を行う時は2名以上の職員が関わり、遊ぶ前には必ず転倒や衝突に関して子どもたちへの注意喚起を行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8032	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	20							20		4	4	21.9歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	骨折	2.自の転倒・突よもら倒衝にるの	1.あり	2.不期実定に施	3～4	2.基準配置	基準配置にい体制なったが、任主が別ル為保席のは支援児童のトラブル対応で同じと合いて主任支援員へ報告と保護者へ連絡するかの判断が遅まれた、児童歩き立ち回復したように思えた。	主任支援員がトラブル対応会議等ているあっても個人判断しやすいトラブル対応は報告をするに職員では難しい場合は法人雇用の看護師職員へ報告と対応を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	フローリングのワックスが剥がれてきている可能性。	滑り止めの効果のワックスを塗るなお。	1.集団活動中・見守り	靴下をはいたまま運動すると滑りやすくなり転倒し怪我をするリスクが高まるという認識が少なかったのではないか。基準配置の体制になっていたが、主任支援員が別ル為別室で保護者同席の話し合いを行っており、主任支援員へ怪我の報告と保護者へ連絡するかどうかの判断が遅れた。また、児童が立ち歩きが回復したように思えた。	1.いつもどおりの様子であった	転倒した際にはルはかけらず、独でして転んだ。	2.対象至児の近の児を見ていた	児童2名と一緒に簡易的なサッカーをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は夕方のおやつの準備、もう1名は同じ階の場所で別の児童を見ていた。主任支援員は別室で別の児童のトラブルを行っており見ていない。	靴下をはいたまま運動すると滑りやすくなり転倒し怪我をするリスクが高まるという認識が少なかったのではないか。基準配置の体制になっていたが、主任支援員が別ル為別室で保護者同席の話し合いを行っており、主任支援員へ怪我の報告と保護者へ連絡するかどうかの判断が遅れた。また、児童が立ち歩きが回復したように思えた。	支援員も含めて、子ども達へ運動スペースで遊ぶ際には靴下を脱いで遊ぶように指導。主任支援員がトラブル対応会議等で話しても個人で判断しやすいトラブル対応は報告をするように職員への指導を行う。判断が難しい場合は法人雇用の看護師職員へ怪我報告と対応の相談を行う。	
8033	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	37							37		3	3	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折	3.子も士衝にるのど同の突よも	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	なし	・施設利用中のケガにより病院を受診した場合、なるべく当日の対応を把握する。 ・通院治療が必要なケガであった場合は、速やかに東部小学校へ情報提供する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	改善策なし	1.集団活動中・見守り	児童同士が遊んでいる際に、口なにとなった取り合いから後組みのとなった。	施設利用児童の保護者に対して、施設利用上のルール（けんかしない、指導には従う等）を児守るよう求める内容の注意喚起文書を配布した。	1.いつもどおりの様子であった	児童館で「フリッジ」して遊んでいた。	2.対象至児の近の児を見ていた	児童館で「フリッジ」をして2名と口論なった後、組みけんかとなったため、児童を引き離すぐに対応を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	健全育成室にた児童の見守りを行った。	成長に残りの見守りをしていた。	なし	改善策なし。見守り人員配置数、担当職員の動き）は適正であったため。	
8034	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	38							38		4	4	21.9歳	1.男児	—	8.その他	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯損傷	2.自の転倒・突よもら倒衝にるの	2.なし	2.不期実定に施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は、不慮のであったが、見守りを強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては、遊具の不備ではなかったが、日頃から危険がないかを支援員が点検時以外にも意識確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難のため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びから戻ってきた時、屋内へ入る順番待ちで待つ間にクラ通一プ前の路スロープ横を飛び越えようとした際に右足を打った。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	至近距離では、見守っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋内へ入った児童の見守りやお迎えをした。	特になし	日頃から子の様子を注意深く観察し、支援員は、より一層の注意をしてようにするる。	
8035	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29							29		6	4	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中指骨折	2.自の転倒・突よもら倒衝にるの	2.なし	1.定期的実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具での不備はなかったが、日頃から危険がないかを支援員が点検時以外にも意識確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難のため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	元気に廊下でカラーボールサッカーをしていた。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	邪魔にならぬよう離れ少し様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他の児童を見ていた。	特になし	雨が降っていたためいつもより滑りやすい点を考慮し、注意を促す。	
8036	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		4	2	22.1歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・指)	両橈骨遠位骨端線損傷（骨折手前）→R3.7.14骨折していたことが判明する	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	遊びの内容に危険因子があったと考えられる。	児童の発達段階に応じた運動機能等を考慮した遊びを検討し、児童へも注意を呼びかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故については遊具での不備はなかったが、日頃から危険がないかを支援員が点検時以外にも意識確認をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難のため、日頃から遊ぶ際に気を付けることについての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象至児の近の児を見ていた	対象児を含み同じ遊んでいる児童たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる児童を見守りながら、時々、対象児童の様子も見ていた。事故発生時は見ていなかった。	特になし	子どもの様子を注意深く観察し、子どもが遊びになり活発にしていなり行動ときは、支援員もよ一層の注意を払って見守りをする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面				人的面							
			施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																							
8037	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33							33		3		22.1歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	支援員の近くでの活動だったが、突然の行動で制止できなかった。	怪我の可能性が無いように、遊び方に注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	木登り等、普段からはいけないが、衝撃にふら下がる行為を行う。	2.対象児の近で対象児見ていた	すぐに当該児童に声かけより様子を見るが、本人は、本児の希望もあり、遊びを継続する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	遊びを終え、児童クラブに帰宅し室内遊び目立った変化もなく、見守りを続ける。	特になし	特になし	
8038	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38							38		4		19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手前腕骨折	2.自の転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故予防について定期的に話し合い。	日々の出来事を伝えること、子どもたちの様子を共有していき指導を徹底する。事故防止の確認を定期的に行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	床ワックの種類すなわち必ずモップが必ずきれいな状態を保つようにする。	特になし	1.集団活動中・見守り	床が滑りやすい。	活動前には空拭きをする。子どもがシューズを注意しても注意しても滑りそうなものは、買い替えをお願いする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	個別の指導が必要な児童で、激しいテンションがとまらなくなるでしまうがあるが。	2.対象児の近で対象児見ていた	遊戯室（体育館）において、放課後児童支援員2名で14名の児童の長縄飛びを行っていた。飛び字飛びの時、終わって回る時転回る時滑って滑んだ様子を目視していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	他の職員は、図書室で自由に遊びの見守りをしていた。	長なわを飛ぶ時は、転んだ時、慌てないように声掛けをする。	常に児童の様子に気を配り、危険になる前に声掛けをする。	
8039	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21							21		3		19.7歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自の転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	帰所後、荷物を置いて手洗いに行く途中に床の段差で転倒	常に走らないように児童に注意をする	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3	各部屋と出入り口の段差があるので転倒する可能性がある	通路、廊下にジョイントマットを敷き倒れないようにする	1.集団活動中・見守り	特に急がせることもなく、走らないように児童全員に声かけながら見守っていたが、転倒した	走らないこと、落ち着いて行動をすることを児童に注意する	放課後、誰よりも先にいろいろ誰かに手洗わとして慌てていた	2.対象児の近で対象児見ていた	慌てない、走らないように注意した	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	帰所時の手洗い、検温、うがいの導をした	児童の差に段差による倒転対策を足した	走らないこと、段差があることを児童に認識させるようにする	
8040	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	99							99		4		2.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨折	2.自の転倒・衝突によるの	2.なし	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	屋内活動中の過ごし方	・屋内での遊び方や危険に対する注意，呼びかけの徹底・あらゆる箇所への巡視	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	随時	1.定期的に実施	毎日	支援員を満遍なく配置しているが，隅々までの巡視が手薄だった。	隅々までの巡視を徹底し，見えにくい箇所まで視野を広げる。	1.集団活動中・見守り	個々が中遊び中で、自由に遊びしている中で、全員への全注視ができなかった。	個々への危険に対する注視に声掛けする。	1.いつもどおりの様子であった	普段は落ち着いているが，学年との中で遊びの中で気持ちが高ぶっていた。	3.対象児の離れたところで対象児見ていた	渡り廊下での事故であった。職員の目の届かない場所での事故あった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で分散して見守っていたが，廊下まで巡視ができていなかった。	人員不足	支援員の募集に実施している。	
8041	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		3		2.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首内側の骨折	2.自の転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	より気を付けて見守りを行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	障害物等に気を配り、より気を付ける安全に気を付ける	1.集団活動中・見守り	なし	障害物等に気を配り、より気を付ける安全に気を付ける	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、仲のいいグループと外園建物で元気で遊んでいた	3.対象児の離れたところで対象児見ていた	職員2名で近くを見守りしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は室内で遊んでいる児童の見守り、1名は来客対応をしていたため、事故発生の瞬間は見ていない	なし	より気を付けて見守りを行う	
8042	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		2		19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨にひびが入った	2.自の転倒・衝突によるの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	特になし	登録児童数に合った指導員の配置であった。今後、「事故防止マニュアル」については作成を検討していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	なし	—	1.集団活動中・見守り	特になし	冬休みの1日目にも慣れはじめ、指導員の中でもゆるみが出てきたという部分があり、昼過ごすことが多くなってしまうので、一人ひとりを見守り、声掛けをしていくことを再度クラブの支援員同士で確認した。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良の様子等はいつもとは違ったあった。	2.対象児の近で対象児見ていた	支援員から5m程度離れた所で、児童が泣き出したことがきっかけで、児童が泣き出したことを確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他の児童の実施していた。	特になし	夕方は児童の保護者への引き渡しもあり、支援員の見守りが手薄になる場合もあるので、職員の動きについて、クラブ内での再確認をした。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳															ソフト面						ハード面						環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																									
8043	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	11						11		7	4	8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	1.遊具からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数回	1.基準以上配置	子ども達の位置をはしていたが、発生時現場近くにいたのはアルバイト生くらいで、支援員ではなかった。	その時の状況を見て適切に職員の複数配置をしたり、遊べる範囲を決めたりする。職員同士の位置が離れている場合、連絡が取れるようにする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎週	1.定期的に実施	3	学校の校庭を使用する場合は、学校のルールに基づいて遊ぶ（遊具の利用）ことは認識していたが、朝礼台に上ることは確認できていなかった。	学校の校庭を使用する際のルールを、再度職員で確認する。	1.集団活動中・見あ守り	朝礼台に乗ること自体禁止されていることの把握を職員全体で確認できていなかった。	職員全員がルールを確認すると同時に、子どもにも学校のルールに従って遊ぶことを認識させる。	1.いつもどおりの様子であった	午前中も本人は好きなぬり作絵や工作を楽しんでいた。その続きをすることで、校庭に向かった。鼻を作っていた。	4.対象児の動きを見ていたかった	本人が朝礼台に乗っていたところを見た職員はいたが、落下する瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	アルバイト生が近くにいた。他の子どもに声をかけられた時に、本人が後ろに下がり始めていることに気づくのが遅くも、間に合わなかった。	特になし	朝礼台に乗らないように声かけをすると同時に子ども達自身がルールの中で遊べるよう話をする。職員の危険を予測する視野を、話し合いや研修でより深められるよう努力する。	
8044	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	25						25		5	3	8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫、右足関節外側側副靭帯損傷	2.自らの転倒・突よにるの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りを強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備でなかったのが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時にも意識をしを確認をするようにしている。	1.集団活動中・見あ守り	特になし	児童の行動すべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの方過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の動きを見ていた	近くで見ていて足をこ守った。痛めたとを聞いすぐに戻を室内に処置りした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の本人で含めで遊んで児童の様子を見守っていた。	目の外で児童を	遊びの危険箇所・安全確認が分であった。	学校に報告をし、運動場の整備をしていただく。	
8045	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	62						62		7	6	8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	48	2.基準配置	特になし	児童の見守りと事故防止の注意への注意を徹底する。	1.定期的に実施	44	1.定期的に実施	45	1.定期的に実施	44	なし	安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕等を行なっていく。	1.集団活動中・見あ守り	特になし	児童の見守りと事故防止の見守りと事故防止への注意への注意を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	友達とドッジボールをし遊んでいたが右手小指を手骨折してしまった。	2.対象児の動きを見ていた	屋外で見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラブ室や遊戯室で児童を見守っていた。	特になし	偶発的な事故を防止するため、日頃から注意を徹底する。	
8046	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	17						17		5	4	24.12歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・突よにるの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	特になし	遊具玩具等での怪我ではなかった為、改善策は特になし。引き続き、施設点検等などを行なっていく。	7.その他	運動があまりでもことってもこあって何とつまずき、ンスして転倒。	引き続き、帰宅時は子供が落ち着いた状態で安全に帰ることができるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	ひとり帰りの為、玄関で挨拶。職員とその他17時帰りの子供と一緒に階段を下る。元気に挨拶して帰室。	4.対象児の動きを見ていたかった	17時帰りの子供達を玄関に集め、安全に帰宅できるように声掛けをした。その他17時帰りの子供と一緒に階段を下りる。門の前で挨拶。各自が正しい進行方向にいるかを確認後、配置に戻る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に2名、遊戯室に1名、清掃に1名が配置されていた。	特になし	特になし	
8047	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	14						14		2	1	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節骨折内果骨折	2.自らの転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	ソフト面において問題はない。	児童会の活動において配慮が必要な場合には、随時児童会の支援員等に申しもらうよう保護者に周知を図り、配慮が必要なケースがあれば、支援員間で情報共有を徹底する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	施設面において問題はない。	体育館内という施設内に障害物があるとで、凸凹のある床面が凸凹しているわけでもなく、施設面において改善しなければならない点は見当たらない。	1.集団活動中・見あ守り	当初予定していた社会見学がコロナの影響で中止となり、活動が日常と違っていた為、支援員も児童も落ち着きがなくなる可能性がある。	日常と異なる場合は、普段以上に注意事項の図徹底を図り、安全性が確保されていると思われる場所において事故が可能性があることを再認識する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童は、日頃より活動的な児童であり、注意をしても興味のある事に優先してしまう傾向にあった。	4.対象児の動きを見ていたかった	体育館全体を使い、児童それぞれに遊びが自由に遊び各々でお支援し、支援全体まわった児童は見ていたため、児童の転倒の様子はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童会室において、体育館に移動しなかった児童の見守りを行った。	事故発生時は１４人の児童は少数ではあったが、２ヵ所での見守りであった為、支援員１人の見守りとなっていた。	日常とは違う目であった為、見守りの人数を増やすべきだった。	
8048	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	18						18		3	2	8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	5.他から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	今回発生した状況等を職員間で共有し、今後児童になる動きをした場合は児童への声掛けを増やす	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	1.定期的に実施	—	なし	なし（今回の事故は発生に起因していない点がないため）	1.集団活動中・見あ守り	特になし	児童全員への周知、啓発（理由に関知何に関わらず手を出すことの禁止）	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子は特段見受けられなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童たちが遊んでいるところを少し離れたところから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	特になし	遊びに参加したり、途中で抜けたりを繰り返す様子が見受けられる時は、保育中の児童への声掛け頻度を増やす	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面							環境面					人的面															
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																												
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																					事故誘因	マニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8049	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	9							9		2		1	21.9歳	1.男児	—	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の欠損、ヒビ	5.他から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	分室から本室への移動を支援員1名で引率していたが、途中で転倒した児童がいたため、後ろのその児童につかれるように後方に回ってしまった。	分室から本室への移動を職員2名で引率し、その際、職員が先頭に1名、後ろに1名つき、2列に並んで帰ってくることを確認した。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	分室から本室までの移動を暗く足元が暗い状態で帰っていた。	支援員が懐中電灯を携帯し照らす足元を照らす。また、施設側のロビーにライトを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	高学年であるため、並ばずに各々が帰ってきて帰ってきることが常化してしまっていた。	列を必ず走らず作りずに帰ってくることも認した。	1.いつもどおりの様子であった	分室から本室への際に、本児に対して3年生男児がランドセルを前持ち、前後に揺さぶったことにより、転倒し、花壇に顎をぶつけてしまった。	4.対象動児をきていたかった	17時半帰りの児童がおり、急いでいた。4年女児が分室の玄関付近で転倒したがの対応をしていた。先頭の児童らが先てしまい、支援員が追いかける形となった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	分室の片づけができておらず、1名が分室に残り分室の清掃を行っていた。	特になし	分室から本室へ支援員が引率する子どもたちを列に並ばせて移動する。必ず支援員を2名配置をすること。	
8050	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	33							33		5		5	20.8歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	2年間通っている通学路だが、その日は姉に行ると走って置いかれると思った為、転倒つかかった為、顔面をうってしまった。	集団下校時に絶対に走らず、下校まとまってすぐ班ごとに並んで帰ってくることを確認する。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	4	1.定期的に実施	1	歩道の凸凹や危険な物もなくフラットな路面。ランドセルの重さで前にのめり転倒してしまった。	指導員が下校見守りをする。	7.その他	家に早く帰って遊びたい為、走って帰る児童あり	下校時の声掛け毎日の見守り	1.いつもどおりの様子であった	集団下校時、おいて行かれると思い走った為、ランドセルの重さも加わり勢いよく転倒	4.対象動児をきていたかった	児童のみ班で校。（4月中だけ指導員引率）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	指導員は児童が下校した後、清掃・消毒作業	冬休み前で荷物が多く、転倒時に勢いがついた、手をつかなかった。	荷物は小分けに持って帰り、ないことを注意声掛けする。高学年に見守りてもらう。	
8051	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	9.学童	39							39		7		4	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	両足親指骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	準備運動として足や足首のストレッチを行うことを習慣化していなかったこと	遊具の使用法についての確認、遊び前の準備の実施	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守りあり	その子のボールの乗り方や着地の仕方等に配慮しなかったこと	バランスボールではじめての遊びの場合、職員がしてみせ、乗ってみせて、確認していくこと	1.いつもどおりの様子であった	体格は良い子だが、体幹が弱く、ふらつき指着地した	4.対象動児をきていたかった	全体的にたち子どもの様子を見守っていた児の対象動きは観察していかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えに来保護者とその子の対応をいたかった見ていなかった	—	—	
8052	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	47							47		5		4	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	歯：右上A亜脱臼 唇：下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	降りる時に滑ってしまった。	遊具の近くに職員を配置する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨が降った後で濡れていた。	遊ぶ前に遊具を拭く。	1.集団活動中・見守りあり	—	遊ぶ前に気を付けるように声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	遊具から時降りる時に、滑ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	—	—	
8053	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	69							69		9		7	2.8歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	登館前のため事故改善策なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	—	登館前のため事故改善策なし。	7.その他	—	登館前のため事故改善策なし。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象動児をきていたかった	登館前のため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館前のため	—	登館前の事故のため改善策なし。	
8054	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	42							42		1		5	18.6歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	—	安全管理に関する研修を受講する機会を積極的に設ける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	2.不定期に実施	毎日	今年度、駐車場整備工事が完了し使用開始となった。隣家との側溝の知しては、危険が甘いが、危険認識が甘かったことと、夜間の安全確認が不足していた。	駐車場と側溝の仕切りとしてフェンスを設置。さらに夜間の安全を確保するため簡易型外灯を設置。	7.その他	特になし	送り迎えの駐車場での安全について、お便りで周知する。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	右ひじを骨折して右腕にギプスを装着していた。	4.対象動児をきていたかった	保護者に引き渡した故であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後であった故	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												ソフト面				ハード面						環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8055	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9. 学童	61						61		4	4	2. 8歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	左手首骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	教回	2. 基準配置	それほど高くない雲梯であっても、使用方法や着地には今回のような定外の怪我で、支援員が不足していた。	雲梯をする際には危険な使用方法をしていないか安全に確認をし、児童が着地まで気を緩めないよう改めて注意喚起を行う。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	遊具に問題はなし	遊具の高低に関わらず、落下等の危険性があり使用する遊具を使用する際は、子供たちに遊具の使用上の禁止事項・注意事項について周知・徹底を図る。	1. 集団活動中・見守り	雲梯は一方通行で１人ずつ遊ぶを常に周知して、どの児童も指約束を守る。当該児童は元々運動神経が良く、雲梯棒のとは得意で自信に認めており、回る前で友達とばば披露しと失敗と考える。	友達と一緒に遊ぶ際は、普段より持ちが活ぶる多くを持ってりとも、対も注意喚起をする。	3. いつもよりで活動的であった(理由を記載)	当該児童は普段から活発で、雲梯あり、「３つとばし」を友達にとうとしたこと失敗してしまった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	１人の援員の児とボールを主にらの安全配った。１援員も体のをいて児童にはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊びを児童は部屋で他の援員が遊び守りていめ、ひとしし遊びを支援員がしてすべ児童くに外遊びすることは、外遊びの見屋の支援員が見ていて児童の近くにはいなかった。	遊び支援の児童は、一遊びの前の見守りが届くくなる。	児童が外遊びを頼むことは多く、ボール以外にもごっこがあり、ボールは周囲の状況も忘れ集まいがちになるので、今後は、もう１人支援員も広範囲の見守りを行きにくなる。	
8056	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9. 学童	64						64		6	6	21. 9歳	1. 男児	—	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	骨折	3. 子ども士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	—	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	6	3. 未実施	—	2. 不定期に実施	—	バスケットボールの空気が少なく、跳ねにくかったため転がりやすかった	ボールに入が空気れ危険ないようにする	3. 個人動中・見守り	ボールにしバスケットボールを形式試合形式でたルールがちゃんがとわあいままがったボールを数名が取り合うこということがおこった	バスケットボールのルール、遊びを伝える	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	取りになったところは止めようとづいていった間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と遊んでいた	減多にないバスケットボールを試合形式でたルールがちゃんとわないままがったボールを数名が取り合うことがおこった	バスケットボールのルール、遊び方を伝える	
8057	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	86						86		8	3	18. 6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右足首捻挫	2. 自転倒・衝突よるもの	1. あり	2. 不定期実施	1	2. 基準配置	特になし	ケガについての細やかな経過観察および保護者への連絡を心掛ける。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	日常的な遊具等の点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守り	特になし	引き続き利用人数に応じて活動できる安全に活動環境づくりを心掛ける。	1. いつもどおりの様子であった	自分から足の痛を訴えることがなかった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	体育室での活動には特段の変化がなく、通常の活動を行ったが、ケガが発生した直後に気付くことができなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	通常の活動の見守りを行っていた。	通り守りを	特になし	活動中のけがの発生についてより一層目を配る。	
8058	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	9. 学童	7						7		4	3	19. 7歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足中指骨折	3. 子ども士衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	片付け等の作業も、役割を分担するし児童の活動の把握に努める。	3. 未実施	—	3. 未実施	—	3. 未実施	—	なし	危険箇所等がないか日常の管理・点検に努める	7. その他	支援員が掃除に手をとられていた	室内での安全な過ごし方を指導する	1. いつもどおりの子であった	普段からあり活発である。良い児童と一緒になり、活発であった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	掃除中であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	掃除中であった。	じゃれあってあった	個人で静かに遊んでいた	
8059	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9. 学童	64						64		7	6	22. 1歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	—	2. 基準配置	特になし	情報共有に努め事故防止に繋げる。	1. 定期的に実施	毎日	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	子どもが腰かけや寝ころがり位置に高さと手すりがある。	危険な箇所や間違った使用をしていないかの点検を行う	1. 集団活動中・見守り	特になし	見かけた際の注意喚起の徹底	1. いつもどおりの様子であった	通常通りであった	4. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	キャッチボールを一対一で行っていたが、転がったボールを職員が取りに行っている際に起こった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童の見守りを行っていた。	特になし	校庭全体の状況にも注意して見守る。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面					人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】																			
8060	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	16							16		4		2	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	当日の職員配置には問題ないと考えられる。	不測の事態に対応ができるように、安全管理や事故予防について研修を実施する。	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	今回の事故に関しては、ハード面の要因はなし。	多目的広場の危険個所の再確認を行うと共に、遊具の危険個所について話し合い危機管理意識を養う。	1.集団活動中・見守り	特になし	多目的広場の危険個所の再確認を行うと共に子ども達個所について話し合い危機管理意識を養う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	気分が高揚していつもより動きが活発だった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児を中心に見だったが、突然事の出来事だったため対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの様子を見ていたため、すぐには気づかなかった。	特になし	外遊び中の指導員の配置の見直しと子ども達の様子や動きを上で、指導員が声を掛け合いながら見守ることを全員で再認識した上で、指導員が声を掛け合いながら見守ることを全員で再認識した。	
8061	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	59							59		6		5	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	室内：2名　校庭：3名　図書室：1名で支援員を配置	子ども達に数に応じて、各場所の配置体制を改善していく	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	コロナ禍の対策と、施設・遊具・玩具の点検	多目的広場の危険個所の再確認を行う。今後は定期的に安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守り	遊びの中で、接近でしすぎていた。	支援員が子ども達に子にいつも多くにより声掛けをして見守る	1.いつもどおりの様子であった	楽しそうに遊んでいて、またまま上から眺していた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	複数人が遊んでいる遊ぶのを見守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は、分散して遊んでいる子ども達を見守っていた	楽しくて周りの状況が見えていなかった	子ども達に声掛けを多くする	
8062	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51							51		7		2	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	目の横の打撲及び裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	まだ外遊びから帰ってきたばかりで、落ち着かない児童が多い。	外遊から帰った後の気持ち着かせる環境づくりを考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	なし	設備の不備ではないので特記事項なし。	1.集団活動中・見守り	外遊びから戻ったあとも少し外遊びから戻ったまわりも活発な状況はあった。	外遊びから戻った後の過ごつ方について、怪我が起こりそうな箇所の確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び後活で発な部分はあった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	児童の動きは見ていたが、勢いよく動いた際、滑らせてしまう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は近くにいた一瞬で転倒してしまった。	活発な部分の急に注意が必要だった。	普段から外遊び後の状況は室内でつ落ち着いて過ごせるため、興奮するようにはさけて、全体の見守りの強化が必要。	
8063	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	127							##		6		3	21.9歳	1.男児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折及び擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	降所時に安全に気を付けるよう声掛けをしていく	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	なし	保護者了承のもと一人帰り中の事のため、該当なし	7.その他	特になし	保護者了承のもと一人帰り中の事のため、該当なし						特になし	保護者了承のもと一人帰り中の出来事のため、該当なし	
8064	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	36							36		4		3	19.7歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝剥離骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	児童が怪我をした際の対応について周知されていない。	マニュアルの作成、職員間での事故発生時についての対応に周知を徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	数回	1.定期的に実施	数回	スペースの使いについて、安全面が足りなかった	全体の遊びを見てスペース方法を工夫するスペースの使い方をする	1.集団活動中・見守り	特になし	遊びの安全スペースを確保する	1.いつもどおりの様子であった	検定の技をクリアできる一生懸命練習する機会をしていた	2.対象至児の近で対象児を見ていた	対象児ではなく他の全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに目がいき届いた	特になし	その日の子ども達の状況に合わせた保育（活動）を職員個々が考えていく	
8065	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	41							41		6		6	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	意外に芝の坂の傾斜があった	個々に様子を見ながら中間から指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	皆に合わせようと急いで	自分のペースを滑る声掛けを行う	1.集団活動中・見守り	滑りとバランスを崩わなかったと思わなかった	終ろうとすると滑りで見守りを行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	学年行事で公園へ移動していたため。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	降りろと体を滑りと全体で見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもの面倒を広場で遊んでいるもいる為、見ていなかった	他の児童も転んでいた為、そんなに大きなケガになるとは思わなかった	大丈夫だろうと思いまず、1人ひとりに注意して見守る	
8066	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		2		1	22.1歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足人差し指・中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	特になし	見守りの際の注意するポイントをまとめた、「安全の手引き」を職員全員でもう一度確認しました。	1.定期的に実施	6	3.未実施	—	1.定期的に実施	12	なし	—	3.個人活動中・見守り	特になし	—	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見ていて、守ったので、一瞬の動きにに対応できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人の職員が体育館に移動してきたところだった。他の職員はそれぞれのポジションを見守りしていた	特になし	サッカー等の事故が起こりやすい遊びの際は、可能な限り、職員一人がつくように対応しています。	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
								発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面				ハード面						環境面				人的面									
									人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																	死亡	負傷状況	受傷部位	診断名																										
8067	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	18							18		3	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第3指骨　骨折	5.他から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	マニュアルを再度確認する	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	—	なし	児童との中遊びの中で点検を遊びで児童が使用する安全か確認をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	死角ができないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊び通り外遊びに行く	2.対象至児の近で対象見ていた	運動場の見全体を見守る。ブランコは注意深く見守りをしかけていたが、突然の出来事のに注意対応に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の遊ぶ児の近を見守っていた	特になし	外遊びにおける支援員の見守る位置の再検討を行う。外遊びでのルールの確認をする。	
8068	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	25							25		5	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫、右足関節外側側副靭帯損傷	2.自の転倒・突よにるの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故については遊び不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないか点検時にも意識をしながら支援員が点検以外にも意識を支援をしているようにする。	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難な日頃からクラブでの過ごし方についてすべきの話などして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象至児の近で対象見ていた	見ていて足をこで見ていて足を聞いてすぐに戻り、痛めたことを聞いてすぐに戻り、近くで守った。痛めたことで室内に処置をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の目本人を含め、外で児童を遊んでいた様子を見守っていた。	外遊びでの危険箇所・安全確認が不十分であった。	学校に報告をし、運動場の整備をしていただく。	
8069	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	8							8		2	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5中足骨骨折	2.自の転倒・突よにるの	2.なし	1.定期的に実施	教回	1.基準以上配置	児童が、怪我をした際の対応について、周知されていない。患部のチェックをしていない。	マニュアルの作成、職員間での事故発生時の対応について周知を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	おやつにスナック菓子があったため、床が滑りやすくなっている箇所があった	脂っこいおやつや買いおやつの後に、床の状態をチェックする	1.集団活動中・見守り	特になし	運動遊びと運動遊びの間は、休憩をしっかりとり、気持ちを落ち着かせてから、次の遊びに移るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの前に、少しゴロゴロし眠そうな姿があった。遊びを始めるころには、目が覚めた様子で、活発に動いていた。	2.対象至児の近で対象見ていた	遊びに参加せず、全体の様子を見っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレ掃除をするため、その場を離れた	この日は、中事があったため、体力もあり、テンションも高かった。	その日の子ども達の様子、その場の状況に合わせた保育（活動）および保育以外の業務を個々の職員が考えながら指導する。	
8070	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	16							16		3	2.21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の打撲、右手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	危険な可能性がある場合を想定した研修等を強化する。							なし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.集団活動中・見守り	特になし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象至児の近で対象見ていた	対象児等を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童等を見守っていた。	特になし	高い所から飛び降りないように声掛けを行っていく。	
8071	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		3	3.2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首亀裂骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	—	なし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.集団活動中・見守り	特になし	児童の捻挫に気付かなかったので、見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	対象児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童等を見守っていた。	特になし	児童の捻挫に気付かなかったので、見守りを強化していく。	
8072	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	95							95		6	4.18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	遊びの範囲を決め、職員の配置管理をしたり、職員や安全管理マニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	6	3.未実施	—	2.不定期に実施	12	なし	児童との中遊びで点検を遊びで児童が使用する安全か確認をする。	1.集団活動中・見守り	特になし	死角ができないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り外遊びに行く	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	運動場の見全体を見守る。ブランコは注意深く見守りをしかけていたが、突然の出来事のに注意対応に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の遊ぶ児の近を見守っていた	特になし	走って遊ぶ中で転ぶことがあるので、気を付けて遊ぶように声をかけていく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8073	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	9.学童	25							25		1	1	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	外果骨折	2.自ら転倒・突よにるの衝	2.なし	3.未実施	—	3.基準以下	なし	遊びの決まり を見直す。	1.定期的に実施	280	1.定期的に実施	20から30	1.定期的に実施	約12	なし	引き続きケガしない点検しよう防ぐ。	1.集団活動中・見守り あり	なし	ケガをする恐れがある遊びのある場合、すぐに止めさせる。	1.いつもどおりの様子であった	活発でじっとしられない子。事故発生日もいつもどおりだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児は動き回っていることが多く担当職員も対象児にかけて注意したり等をよく見ているが、捻ったところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違うクラスを担当しているため見ていない。	なし	対象児のような活発な子たちの遊びの監視をケガしそうな危ない遊びをしていたらすぐに止めさせる。	
8074	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	40							40		5	5	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手首骨折	2.自ら転倒・突よにるの衝	1.あり	2.不定期実施	—	1.基準以上配置	職員の配置人数等に問題はなかったが、事故防止について職員の意識を高めると考えるあるる。	—	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	なし	ハード面の問題では発生したない事故ないため、改善策はありません。	1.集団活動中・見守り あり	—	目の届かない児童がいないよう、児童を集めると見守り支援員と行う支援員と見守り支援員に分ける等の対応を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見えない児童がいないよう、指導員がエリアを分けて見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見えない児童がいないよう、指導員がエリアを分けて見守りをしていた。	なし	職員の見守り状況等に問題はなかったが、安全な遊び方について、児童への周知徹底を図る必要がある。	
8075	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	26							26		3	1	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第三四中足骨骨折	2.自ら転倒・突よにるの衝	2.なし	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	特になし	より多くの児童を見守ることができる場所で支援を行う。	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	—	なし	事故誘因は自らのものであるため、ハード面における改善策はない。	1.集団活動中・見守り あり	特になし	支援員体制は適正であり、特段の改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	同学年友達と外で遊ぶことが多い。他の児童とのトラブルは報告されていない。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りでグラウンドで支援を行っていたが、別の児童の見守りを行っており、当該児童が落下した瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援室内児童で他の見守童りを行っていた。	特になし	より多くの児童を見守ることができる場所で支援を行う。	
8076	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		6	5	23.11歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども士衝同の突よるも	2.なし	2.不定期実施	1	2.基準配置	特になし	事故災害発生時のマニュアルだけでなく、子防のマニュアルを作成し、指導員で共有する。	2.不定期に実施	3	3.未実施	—	2.不定期に実施	3	なし	指導員や配家具の置を工夫し、過度な活動にならないようにする。	1.集団活動中・見守り あり	特になし	指導員や配家具の置を工夫し、過度な活動にならないようにする。	3.いつもより発活発的であった(理由を記載)	感染症防ためのが利用者が広く少なく施設をこうこと使うができ、活動がより身体的になった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の活動に対して、声をかけながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室でほかの児童の学習活動に対応していた	特になし	指導員は、児童の自由な意思を尊重しつつ、過剰な心身の活動にならないよう、今まで以上に観察し、言葉かけなどの指導を行い再発防止に努める。	
8077	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	31							31		4	2	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨折	2.自ら転倒・突よにるの衝	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	児童本人が遊びに夢中になって注意を怠った	外での休みの遊び方について具体的に声掛けをする	1.定期的に実施	1	3.未実施	—	1.定期的に実施	1	なし	—	3.個人活動中・見守り あり	鬼ごっこに捕まらない必死で逃げたところ、バランスを崩して転倒した。	コンクリートや建物周辺は危険なので、遊び回りをしないよう声掛けが必要	1.いつもどおりの様子であった	外遊びで鬼ごっこをした	2.対象児を近で対象児を見た	外遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担を見守りを行った	特になし	冬休みの遊び方について、子どもたちに具体的に声掛けをする。日頃も伝えてはいるが、さらに一日保育を意識し、声掛けを行う	
8078	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	24							24		3	1	22.1歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	3	2.基準配置	特になし	3クラブの職員が連携を取り一層より、子ども達の安全を見守る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	グランドの整備(木切れ、石等を見つけ取り除く)	1.集団活動中・見守り あり	特になし	冬場のドッジボール等遊びについては、体やボールの空気等にも気を配る	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童で遊び等ボール遊びに混ざることも多かった。	2.対象児を近で対象児を見た	ドッジボール以外の子どもの動きが見ながらドッジボールをしている子どもたちの動きも見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	グランドでの立ち番ながら、そこを担当しながらの周りの様子子に気を配っている。離れている全体の様子も確認できる	特になし	今まで以上に子ども達の動きに気を配り、職員の連携をとる	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面					ハード面								環境面					人的面															
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8079	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	20							20		4	4	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	不明	不明	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	不明	不明	1.集団活動中・見あ守り	特になし	不明	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の近で対象児を見た	見守り、声掛け	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童見守り	特になし	特になし	
8080	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	20							20		4	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足薬指一骨折、1針縫う 右足小指一擦り傷	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	1回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	児童が遊び用具使用の安全確認の徹底	3.個人活動中・見あ守り	ホッピング使用中の子ども達の距離が近かった	安全な距離を保つ遊べるよう支援員が見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも外遊び通びを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにいたが他児の様子を見守りながらだった為、目を離した隙にケガをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		見守りの支援員に対して遊具が多かった	最初からすべての遊具を準備するのではなく、支援員、児童の数に応じて遊具を増やしていく	
8081	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		2	2	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（ひび）	2.自らの転倒・突よも衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	屋内での通常の活動中においても、環境面等の変化により想定外のケガをする可能性があることを認識していなかった可能性がある。	季節や状況に応じて危険性が変わることも認識し、それに応じたすることにより、ケガのリスクを軽減する。	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	当日は、気温が低いわり湿度が高くなっており、育館の床が滑りすくなる。	天候状況に応じて安全確認に応じて必要に応じて拭くなどを行う。	1.集団活動中・見あ守り	広い体育館内でのドッチボール活動のため、事故の可能性は低いが支援員がし可能性がある。	育館内での活動中における安全性が確保されていると思われる場所においても、環境等の変化により、事故の可能性があることを認識し、環境に応じた視点で危険性の確認を行うようにする。	3.いつもより発で活動的であった(理由を記載)	当該児童は、日頃側転やジャンプを身軽で元気活発で冬休み明けは、場所でも体育館だった為、はしゃいでいたように思える。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	当該児童が、ジャンプしてボールをよけて転んだ突発的で、支援員が転倒ごこ突発的で、支援員が転倒ごこ来防とが出なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		支援員1名は、児童会の部屋に残っていた児童の見守りを行っていた。	冬休み明けで、場所も体育館で広々と遊べる為、児童のテンションが高くなることを想定し、事前に注意喚起を行う必要があった。	季節や状況に応じた危険性についても考慮した上で見守りのポイントを再確認する。	
8082	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	59							59		8	4	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・突よも衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	1回	1.基準以上配置	ソフト面においては特には問題はなし	外遊びで想定される危険性について再確認を行い、外遊びにおけるルの再構築を行い、児童へも周知するようにする。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	遊具自体のハード面には問題なし。	遊具付近でのごっこは、遊具自体が害物の危険性ごとに範囲の対策を行う。	1.集団活動中・見あ守り	広い校庭が遊び場所であるため、外遊びをする児童や応援員数や状況に応じて支援員の配置を調整したが、3名の人数を届いたが、3名の配置でも目を届かなかった。	支援員の増員が難しい時には、支援員の目のかないところで遊ぶことのないように児童の遊ぶ場所を制限する等の対策を講じる。	1.いつもどおりの様子であった	男児である日頃から遊んでおり、当日は特に好ごっこ遊びをしていたため、事故数名ごっこ遊び他の児童鬼ごっこ遊びをしていた。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている付近には1名支援員がいり守りて見守りを行ったが、全体把握は出来ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		広い校庭で見守りをするため、それぞれ担当箇所を見ていた。	遊びをする児童が30名以上いる中で、支援員3名を配置して守っているが、薄になる場面も感じられる。	広い校庭での見守りにおいては、外遊びをする児童の人数や状況に応じて配置人数を増やすようにしていたが、支援員が増やすことができない場合には、児童の遊ぶ児場所を限定する等の対策を講じるようにする。	
8083	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	32							32		4	3	22.1歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折 内顆骨折	2.自らの転倒・突よも衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	—	2.基準配置	特になし	ソフト面における改善策はなし。	1.定期的に実施	—	3.未実施	—	1.定期的に実施	—	なし	ハード面における改善策はなし。	1.集団活動中・見あ守り	特になし	環境面における改善策はなし。	3.いつもより発で活動的であった(理由を記載)	とても柔軟性があり、側転が得意で、年のいたので、馬飛び(び)に変わったころだった。	2.対象児で対象児を近で見ていた	子ども士や転倒には気をけるよう、声掛けをして見守ったが、対象者の後方着地失敗した瞬間は見ていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		担当職員は児童と見守っていたが、対象児の後方ためにめ、着地を見ていなかった。	特になし	児童全体の様子を見渡せるよう、職員配置の場所を検討する。	
8084	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	28							28		5	5	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	唇の下を2針縫う、上前歯(右)抜ける、下前歯(4本)グラつく、下歯茎内側に上の歯が貫通	2.自らの転倒・突よも衝にるの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具では不備はなかったが、日頃から危険な箇所が見つかる支援員以外も意識を支援時にも確認をするようにする。	1.集団活動中・見あ守り	アスファルトや段差の所を走っていたが、注意をしようと思ったに、転んでケガをした。	早めに声掛けし、注意をしっかり促せばよかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に楽しそうにごっこ鬼をした。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	子ども達と一緒にごっこ遊び、事故から遠ざけるため、対象児の見守りを行った。発生時、発見後は、対象児離れた見ていから守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		固定遊具で遊んでいるも達まで、事故に気付かなかった。	子ども達が広範囲に動いていたため、1人行動を把握できていなかった。	滑りやすいタイルやアスファルトや足洗い場の段差の為は走らない等、ルールを事前に決め、早めに声掛けをする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面										
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8085	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2		2	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘の骨の上の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	当日急遽1補助員が休みとなり、普段より体制が手薄となった。	急遽欠員が出た時の見守り方法および見守りをかく確認をする。・事故発生場所の見守りを強化する。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	児童が欄干の横木に足をかけたり跳び上がったりすれば、東屋上の欄干に登ることができた。	・児童が上の欄干に登らないよう手を講じる。(掲示物、転落防止棒等)	3.個人活動中・見守り	・当日補助員1名がお休みであり、また夕方の後の片付けに支援員1名があった。従って事故発生当時は支援員1名が園庭・室内の両方を見守る状況になっていた。	急遽見守りに欠員が出た場合は、児童迎え担当者や関連施設職員に応援を頼み、通常の見守り体制を維持する。	1.いつもどおりの子であった	・普段通り明るく友達と関わっていた。事故発生時も友達と遊ぶのがうれしくしゃべっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は、出入口付近において室内・園庭の両方を見ていた。事故発生時は他の対応をおり、対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・1名は急遽休み、1名はおやつの後片付けをしていた。対象児童の動きをみていなかった。	担当支援員「全体がみえる場所にいればよい。」という危機管理意識の甘さがあった。	・定期的に事故防止研修を行い、職員の危機管理意識を高揚させる。・日頃の見守り分担を見直し、手厚く穴のない見守りを行う。	
8086	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	18							18		4		2	2.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期に実施	—	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	なし	問題はなかったが、今後も遊具の安全確認を必ず行う	3.個人活動中・見守り	特になし	見守りを徹底する	1.いつもどおりの子であった		3.対象児が児童の児離れとで対象児を見ていた	ドッチボールだったのコートの端から見ていた全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッチボールだったのコートの端から見ていた全体を見ていた	ボールを取る時に地面をついてしまった時と考えられる	外遊び前や後に一旦集めて、怪我をしている児童を確認する	
8087	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	30							30		5		4	19.7歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	児童が走行中に転倒したり、その他変わった様子が見られたり、児童が足を挫いたことが足を挫いたことに支援員が気づくことが難しかった。	体育室遊びの前に、簡単な準備運動やケガをした場合はすぐに職員へ知らせるよう指導する。	1.いつもどおりの子であった	事故後も特に普段と変わった様子はなかったが、事故発生時も友達と遊ぶのがうれしくしゃべっていた。	3.対象児が児離れとで対象児を見ていた	体育室内全体の児童の様子を見ていたが、特に変わった様子が見られなかったため、事故者の申し出があるまで気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内児童対応のため、各部屋で対応していた。	特になし	遊びに入る前の注意喚起や職員体制の確保を徹底する。	
8088	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	118							##		17		11	21.9歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期に実施	実施頻度(　5　)回/年	1.基準以上配置	—	ヒヤリハットを常に意識し事故の予防に心がけ生に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	—	室内で、柔軟体操を等、体を動かすびはしない。	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもどおりの子であった	いつも通り元気で良く調子が良かった。	3.対象児が児離れとで対象児を見ていた	対象児を含めグループ全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋やスペースが配置されていた為、対象児を把握することができなかった。	頭ではわかっていたものの、もっと制止すべきだった	離れた位置の場所で遊ぶ子ども、できるだけ見守りができるようにミーティングを行い、ディングでも子ども達に伝え、自己啓発を促していく。	
8089	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	9.学童	9							9		5		2	21.9歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3回	2.基準配置	-	-	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	-	1.集団活動中・見守り	-	-	3.いつもより活発で動的であった(理由を記載)	冬休みでさらにクリスマスと一緒に友人が来館したことで気持ちが高まった部分があり、いつもは参加しないドッジボールを行っていた。	2.対象児で対象児の近で対象児見た	ドッジボール審判	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は事務室で事務作業、1名はクラブ室で子ども見守り、他2名館内外の清掃をもり、名館内外の清掃をしていた。	特になし	普段の遊び方で自身の体の使い方、バランス感覚等を養い、ケガの使い、リスクを減らせるよう努める。	
8090	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	159							##		18		13	2.8歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折、右手擦過創、顔面擦過創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	登館前のた事故の改善策なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	なし	登館前のた事故の改善策なし。	7.その他	特になし	登館前のた事故の改善策なし。	1.いつもどおりの子であった	走っていた	3.対象児が児離れとで対象児を見ていた	登館前だが不審者対策を兼ねて通館路に立っていた。走っている児童は注意等を行っていたが、目の届かない範囲で該児童が転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館前の見てないた	特になし	登館前は慌てずに登館するよう帰り会等で繰り返し指導する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8091	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	40						40			9	8	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	なし	—	1.集団活動中・見守り	特になし	—	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり仲良だしの友だちと元気に遊んでいた。	2.対象児の近く	対象児対象を見ていた	グラウンドゴルフを安心・遊ぶように、遊び方や道具の使い方教えたり、見守っていたりしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離いた)	グラウンドゴルフ以外にボール遊びや鬼ごっこ、ブランコ、鉄棒、砂遊びなどを見守っていた。	特になし	特になし	
8092	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	39						3			3	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	1.定期的実施	3回	2.基準配置	職員体制は見守れるほど充分ではあったが、ことものの特性に合わせて声掛けができなかった。	子どもの合声特性にせたがでうわ掛けよるとな活動をう行うにする。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	雲梯の整備については特に問題は感じられなかった。	—	1.集団活動中・見守り	児童の特性を見極めての対応なかった。	児童の特性にあわせた活動内容を実施すること。	3.いつもより活発で	雲梯に上り、鬼ごっこの鬼から逃げる。その日も何度か降りて降り、近くへたため飛び降りた。	2.対象児の近	対象児対象を見た	鬼ごっこに参加しながらも、周りの様子を見守る。ほかのグループでの鬼ごっこも同じ場所で行われていたため、他のグループの様子も見ながら一歩引いて周りを見ながら鬼ごっこに参加。そのため、当該児童落ちた時も目撃し処置を遊めた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員2名外遊び出ており、他の児童の遊びの対応についた。	遊びがさ分散された。	遊びをまとめて外遊び担当の支援員が、把握できて遊ぶことが望ましかった。	
8093	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	42						42			5	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の破折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	マニュアルが生かされていたか。研修内容が自分事として捉えられていたか。	マニュアルを定期的に確認し、活用できるようにする。マニュアルを事例にしてミュレーションする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	毎日	自らが遊具や施設や遊具や施設で遊ぶ事をしていない。遊具や施設で起こる事想りうる事故を予想していたか。	長期休業期に遊具や施設の点検を自ら実施す施設や遊具等で生する様々な事故を予想し、その予防策を検討する。	1.集団活動中・見守り	遊具等で得り事故策に児童に伝達したか。ミクロ・マクロの視点から観児童を観察していたか。	活動の前、児童に遊びで起きる事に起故について話し、喚起させる。近く、また広域に子ども活動を観察する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通にて活発して活動いた。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童グループの遊びのに守っていた、その瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ支援員が運動場ばった近くのグループを中心に見ていた。	遊びの種類とそれによって起きる事故が想起されていたか。	研修を生かして、遊びの種類による事故防止をシミュレーションする。遊びの種類に応じて適宜児童に注意喚起させる指導を行う。	
8094	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	1						1			2	2	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右肘骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし		—		特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	なし	—	1.集団活動中・見守り	特になし	バランスの崩しやすい遊具で遊ぶ時は気を付けるよう注意点を伝えておくこと。特にうんでいるなどの落ちる危険ちがある遊具で遊ぶときは気を付ける。遊ぶ場所は広範囲にならないよう気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもど気で元おりに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見る場所で児童を対象に見処した。落ちた時の該当者が怪我したことで当児童がしたことに気づく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童2クラスとに残っていた。	うんていをした児童少し離れたので、声掛けが不十分だった。	落ちることも予測できるような遊具での遊びでは特に低学年であれば傍についてしながら遊ばせるべきだった。外遊びに行く際、必ず指導員は2名配置する。児童が広範囲に広がらないようにしてすぐ駆け付けられるような場所で見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面							ハード面							環境面				人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯	発生場所																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8095	令和4年11月28日	15.放課後児童クラブ	3.その他	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17							17		2	2	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	—	**こども目線で危険予知を行う。**	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	玩具が入っている箱や児童が床にまま遊んでいた為。	玩具遊びをする際には、箱や玩具を床に放置することなく、机や棚の上や収納への収納を行うよう児童等への支援員への注意を向けていく。	1.集団活動中・見守り	足元を見ていなかったこともあり、下に置いてあった箱付に気がなかった為。	玩具類を出した箱は片付ける。(グループ)場所は目的にもまとまって使うにしたりするは足元にも注意する。	1.いつもどおりの様子であった	クラブ室から歩道後方に移動して(足元を見ていた)	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	クラブ室前方に立って、本児を含め児童様子を守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	教卓横で、児童と製作物作製をしていた為、本児の事は見ていなかった。	—	—	
8096	令和4年11月28日	15.放課後児童クラブ	3.その他	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	58							58		8	7	24.12歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手小指骨折	5.他児から危害加えられたの	2.なし	2.不定期実施	実施頻度年1回	1.基準以上配置	PKで近距離から蹴られたボールに、手より、手に強い衝撃を受けてしまった	支援員等で何が危険だったのかを確認し、怪我をしてしまったことの原因を児童にしたとの原因を周知した	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	50	施設や遊具が直接起因していると思われないが、館庭をサッカーやドッヂボール、一輪車、砂場、複合遊具などがあり、一度に5人程度の人数で遊ぶには狭いと思われる	館庭が拡張されるとよい	1.集団活動中・見守り	館庭は狭いがサッカードッヂボールコートがとれる。児童が混在して遊んでいると支援員配人数や置等、注意が行き届かないことが起きてしまうことがある	館庭を拡張することは難しいため、たちルールや子供にや危険な行為はしないよう周知する	1.いつもどおりの様子であった	普段から一サッカーで遊んでおり、負傷したはゴールキーパーをしていてPKとなった	4.対象児の動きを見ていなかった	施設の形状から、通常館内の分と館外の2班に見れて守り等にいる。支援員等に1名のあるが、当日は指定休1名あり、支援員7名の3名でサッカーやドッヂボールなど見守りしていたが、見守りの目届かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員等の当日は指定休1名休みだったため所長を7名の守りなど見ていた	支援員等の当日は指定休1名欠員状態で、当日クラブの子では事業が対応しなかったため、館内での事業準備と見守りをしていた。館庭の支援員等が対応した	欠員の補充があるが急務である	
8097	令和4年11月28日	15.放課後児童クラブ	3.その他	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	28							28		5	2	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手小指亀裂骨折	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	特になし	事故当日は晴より支援員全員が園庭も事故の容を説明し、この事故の地面も様子が今後起きないよう指示を行った。	2.不定期に実施	実施頻度(4)/年	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	当日は晴れており、園庭も地面も乾いていた。	全力ではいないと走っては言え、バランスを児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を見守る。	1.集団活動中・見守り	特になし	全力で走ってはいないとは言え、児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を促し見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	痛めた直ちに、応急後、処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐで見ていた。	近くで守っていた。	児童がつまずくバランスを崩したとき、すぐに支援員が咄嗟に間合わなかった。	常に周りの状況を確認しながら行危険動し、危険と思われる場所では児童に注意を促す。	
8098	令和4年11月28日	15.放課後児童クラブ	3.その他	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	9.学童	39							39		3	2	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯脱臼	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	2.不定期実施	—	1.基準以上配置	特になし	児童に、室内で走ったどの危険な行動をしないよう呼びかけを徹底する。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	なし	なし	1.集団活動中・見守り	突発的な事故	子どもたちの行動を注視し、建物走りの中で回るのの中で回るを防止する	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	特になし	突発的な事故のため防ぐことは難しいが、職員は子どもたち全体の動きを把握するよう常に見守りの目を向けるようにするとともに、日々の危険行動に対する教育・呼びかけを徹底する。	
8099	令和4年11月28日	15.放課後児童クラブ	3.その他	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	44							44		8	7	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左第三基節骨骨折	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	児童に対し、外遊び開始前にマニュアルに沿った危険性の不足が不明でした。	外遊び前に児童達に外遊び中の注意事項をしっかりと伝える。支援員は、突発的に事故が起こる可能性を常に念頭に置く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	支援員が事前に小学校校庭の危険個所を確認する。安全確認後、遊ぶ範囲を指定する。児童へ危険説明をする。	支援員が小学校校庭の危険個所の確認をするきであった。	1.集団活動中・見守り	転倒を予測出来なかった為。	転倒を予測した支援員の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りの遊びをした。	2.対象至対象児の近で見ていた	転倒を予測出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童遊びの外とをして動きの確認をしなかった。	児童遊びしていなかった。	支援員全員観られる様な行動がとれていなかった。	支援員全員観られる様な行動がとれていなかった。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8100	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		7	3	2.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫　クラスⅢ	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	2.不定期実施	数回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	廊下の素材が滑りにくくなっているため、上靴を履いているとつまずきやすい。	廊下では上靴を履こかないことを徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	体育室で活動後に上靴を履いたまま、図書室にいる話し友人に話しかけようと小走りになっていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	玄関にて保護者対応終了後、館内へ戻ったときろであり、そうな位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育室に活動終了後の片づけを行っていた職員、保護者対応していた職員、他児童と関わっていた職員もおり、体育室から移動している児童を見ている職員はいなかった。	特になし	体育室より退出する際は、落ち着かせてから上靴を脱ぎ、次の行動に移るよう促す。また、保護者対応等で職員数も取られる時間帯については、お互いの連携を図る。	
8101	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	64							64		6	5	2.8歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	スロープの使用について、くぐり抜けの禁止のみにしていた。	スロープでは遊ばないというご確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	なし	スロープでは遊ばないという掲示をする。	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいる時にスロープを通ることを禁止していなかった。	遊びにスロープは使わない。	1.いつもどおりの様子であった	一緒に遊んでいた児童がケガをしたけんかをしたため、走らずに歩いて遊んでいた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	友だちと歩く仲良く歩いていたため、走り回る児童の注意が向いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なわとびを回してあげながら、もう一人の職員の位置や、他児の行動を見ていた。	特になし	特になし	
8102	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	127							##		13	1	18.6歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝骨折	2.自らの転倒・突よ衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	特になし	室内で過ごす時間にテラスに出てしまった際の事故。夕方の過ごし方の確認と徹底、及び職員の配置の仕方についても再度考えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	階段に背を向けるのは事故のに繋がる為、注意を促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員、児童を含め、センター全体で改めて危険行為の確認、約束、ルールの確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	活発な行動が多く、普段から危険な場面が多い。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラブで過ごす時間が過ぎたため、児童が居る室内の大半の児童を対応にしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが自分の担当の部屋で学童保育を行っていた為、クラブ室周辺には居なかった。	特になし	職員の全体を意識した危険な行為に対し、事故を予測した声がけ。	
8103	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	34							34		2	2	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子も同士の衝突よるもの	1.あり	2.不定期実施	—	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	—	3.個人活動中・見守りあり	特になし	—	3.いつもより活発で活動であった(理由を記載)	いつもよりも活発に活きいきら、ごっこ遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体的な見守りをしつつ、他児童を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的な見守りをしつつ、他児童の様子を見ていた。	特になし	動きが活発な遊びをしている場合、児童の遊びの様子を注意して見守るようにする。	
8104	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	35							35		6	3	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備はなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についてすぐなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に来所した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	利用児童がサッカー遊び・遊びなどかにくいくつかわかんたため、離れた場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	特になし	特になし	
8105	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		3	3	2.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	1.遊等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	—	2.基準配置	室外が女児3人だけだと安心して、時に故の事帯に支援員1人見守りになった。	支援員同士の意思疎通を踏まえ、室内外の配置を考える	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	なし	遊具の不備があった場合、学校へ知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	3人だけではあったが、遊びが異なると支援員の見守りになる。	遊具の遊び方、支援員の見守り方を考える	1.いつもどおりの子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	学童の低年の雲梯をのるして当が補助し、該チャネットで遊んでいるを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊んでいた児童が女児だけだったの3人だった、大人は夫だと思い、3人以外の室内に入っていた。	特になし	他の低年の学童児に集中していたため、当該の遊びが見れなかった。	児童の安全努力指導に、1人の児童につきっきりにならずに、全体を見守る位置で見守る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面								環境面			人的面								掲載更新年月日
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名		実施頻度【回/年】																									
8106	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	9.学童	30							30		3	2	2.8歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回	2.基準配置	廊下と子ども会室には仕切りがあり、見っていたところ死角ってとからになった。	廊下と子ども会室の間に必ず指導員を配置する。	2.不定期に実施	12	3.未実施	—	1.定期的に実施	毎日	なし	日々注意検し深く点する。	1.集団活動中・見守り	初めのうちは走らないを守っていたが、遊びに中になりてでいるこ後はカチしてランスを崩してしまった。	注意をしても遊んでいるうちに興奮し、慌てるこのため、日以降はカチ落しの遊びの禁止した。	1.いつもどおりの様子であった	遊んでいるうちに興奮し、慌てためバランスを崩し、滑って扉にぶつかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2年生5名でルールをがカチしたので、手のかか年生の見守りた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日、他入の受け子されるを確認していた。また1年生(支援級)の子を担当していた。	廊下は少し離れたところ見守ると死角になりやすい。	廊下と子ども会室の間に必ず指導員を配置する。	
8107	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	127							##		12	8	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	舟状骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	無し	体育館は児童館遊戯室と比べ広く児童一人ひとりの動きを把握するのは難しいが、今後も全体を見渡せる位置に立つ等意識を持ち、児童の遊び方も見極めていく必要はある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守り	なし	今後も遊び方を極め安全確保ができるよう見守りと声かけに努める。	1.いつもどおりの様子であった	楽しさから夢中になり他児にぶつかり、反動も大きく、児の手の方がつき手になってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各職員は立ち位置を見渡せるにて見守りを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館の担当配置場所の見守りを行っていた。	無し	とっさに判断しての動作になるので予防は難しいが、転びそうになった場合の手のつき方を指導することは可能であり、伝えていこうと思う。	
8108	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30							30		3	2	2.8歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折、左側頭部挫創	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2回	2.基準配置	日頃より危険個所（マップ作成中）の共有と職員の配置を行い、その日は支援員１名がおやつを提供、支援員1人が、２階児童を見ており、その他４名の児童と支援員1名でプールに来ていた。事故当時、児童２６名を２名の支援員で見ていた。	支援員の危険行為に対する児童への声掛け・見守り、職員間の連携不足(トランシーバー)、支援員の児童の特性から行動面の予測	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	12	普段２階柵にボールの転落防止ネットがはってあったが、事故当日はは張っていなかった。ひとまとめにしてあり、ジャンプをして上った柵に際、勢いあまって転倒・転落しようとした寸前ネットを掴んでいたが、手が滑りそのまま下へ転落した。	転落用のハネ検討、ハードマップを作成し、支援員・児童で共有	3.個人活動中・見守り	柵が丁度、子どもたちの背丈ほど普段に柵ありて児童すの支援員が座いるを注意することがあった。本人の行動の予測不足	柵から高さ１メートル程の所に、転落防止ネットの設置。ロープの撤去。	1.いつもどおりの様子であった	食事後ということもあり、２階でゆったりと過ごす子が多かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本人の様子ちょっとの友だちとのとりが見ながら、柵に座っる姿も危険険もなかった為、他の児童に誘われて下へ降りて出すぐへ降りて出ただ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事を済ませていない児童の見守りを行った。職員が食事をとるこ場合は、職員に報告して現場へ駆け付け、本人をこの子ども園の看護師に報告し、指示を仰いだ。	当時、1人の職員は1名の児童とプールにあそびに出かけており、職員2名で子どもたちを見守っていた。	配置は十分ではあったが、児童がおやつからあそびへと移行する時間帯の職員配置の連携・児童への声掛け・危機管理意識徹底の指導徹底（資格者と補助）の指導	
8109	令和4年11月28日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	55	14	17	11	7	2	4			16	14	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	異年齢が集まる時間帯は、特に見守りの強化をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	実施頻度を増やして、安全確認に努める。	1.集団活動中・見守り	—	夕方はお迎えの時間と重なるため、職員の配置に注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児に対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離に	—	—	—	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面				ハード面							環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8110	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	11	5	4	2						8	6	13. 1歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右第一指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	事故発生時は、0歳児クラスの高月齢児、1歳児クラス、2歳児クラスサークル内で集団保育していた。登園の受け入れは、担当クラス担任が行っていた。事故発生時は登園が重なる時間帯で、サークル内の保育者の入れ替わりが多くあった。	登園児の対応をクラス担任に限定することで、クル保育者の入れ替わりを少なくし、落ちついて保育できる環境を作る。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	サークル内に敷いているジョイントマットのつなぎ目に子どもの指がひっかかるような隙間があった。	登園児の対応をクラス担任に限定することで、クル保育者の入れ替わりを少なくし、落ちついて保育できる環境を作る。	1. 集団活動中・見あ守り	登園児の受け入れは、クラス担任がうけもつ形で行っていた。事故発生時は重なる時間帯で、サークル内の保育者の入れ替わりが多くあった。	登園児の対応をクラス担任に限定することで、サークル内の保育者の入れ替わりを少なくし、落ちついて保育できる環境を作る。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌よく、登園に保育に参加していた。	2. 対象児の近く	対象児を見ていた	担当職員は普段、対象児とは別のクラスを担当している。事故発生時は登園が重なる時間帯のため前当クラス間保なく保育をしていた。その中で、テレビに近づきすぎていた対象児にいたずらを働きかけたり、声掛けをしていた。声掛けでは移動しなかったため、対象児の興味を他に向け移動させた。対象児を着替さ寄る際に、足を突っ張るような体制となり、ジョイントマットのつなぎ目に足が引っかかっていた。担当職員は、対象児の足が引っかかっていることに気付けず看護師を呼んでしまった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士1名朝会議、1名保育ルームに移動中、2名登園児受け入れ、保育補助1名登園児の荷物整理、保育士2名とみなし保育士1(看護師)1名が保育ルーム内で集団保育。至近距離にいた保育士は対象児と1別のサークルで保育していた。サークル越しに対象児と担当職員の動きが見えていた。職員が対象児を移動させる際に体を突っ張ったり、マットが一部持ち上がったことを見ていた。その後、対象児が嫌いと言いたことでサークル越しに見ていた状況から、看護の際に足を掴めたのではと考えた。	声掛けの仕方本児があっていなかった。園児の移動を行う際の危険予測が不足していた。	園児の移動の必要な際が自発的に動ような工夫し、着際安全に留意する。	
8111	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	7					4	3			2	2	17. 5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前額部裂傷	3. 子も士衝にるどの同の突よも	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	遊具があるまさんだんだや中遊具を使用し鬼ごっこをしているる際は、走る区切りに近く遊具よりに遊ぶ場所を、無い環境を整え	椅子の付近でこけたり際に角たとを当たる怪我をする	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	椅子の角にけが防止パットを貼る	1. 集団活動中・見あ守り	1人のスタッフは砂場で園児とおり、もう一人のスタッフは全体を見ていた	全体を見るスタッフは遊具に付近いながら守るようにする	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児の児で	砂場で遊ぶ園児ばと一緒にいた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具側ではなく庭入口に居て体を見守った	—	園児との遊びのも、遊具エリアとエリアを区切るなど、動きをよ	
8112	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19				8	5	6			5	3	17. 5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	右前腕骨折	2. 自の転倒・突よもるの衝にる	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	十分な保育士を配置ったが、合同保育帯であったが、すべて保育士が室内全体を見ていたが、保育士は注視する必要があった。	マニュアルの確認を、更新を行い、研修やミーティング等を実施する。	1. 定期的に実施	毎日	数回					1. 定期的に実施	毎日	室内は万一転倒しても怪我をしないよう障害物等はなかった。	室内でスペキップ小走りを避け、歩くに指導する。	1. 集団活動中・見あ守り	3・4・5歳児合同で遊び時間室内にいる保育士が、室内にいる場所から離れた場所でスキップした。	室内でスペキップ小走りを避け、歩くに指導する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	事故発生日当日前の4日間(土日も含める)、弟の誕生日と、本児体調不良のため、久しぶりの登園だったこともあり、本児の動が向上しているように感じていた。	4. 対象児の動きていか	担任と会話を交わ後、離れ、同児を離れたが、本児のみのだが室内であっため、本児のみだが目視ことができた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	合同で室びをした側と見ん一緒にいる児がらに遊いた。	本児にスキップ等をしないよう注意するとともに、スキップをした瞬間に転ぶ出来事があった。本児に前のめりの転倒を回避しようと思い、右腕で体を支えようとしたが、支えられずそのまま転倒してしまった。	保育士は室内全体を注視する。室内でスキッ児や小走り、走り必ずに歩くように指導する。	
8113	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	3		1	2						2	2	15. 3歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自の転倒・突よもるの衝にる	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準以上配置	—	事故予防に関する研修を実施し、保育士間で周知する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	—	1. 集団活動中・見あ守り	—	手をつないる時のも、再確認て、都度声掛けを行う。	なく歩くルールを子どもたちとしの確認、その	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の児で	対象児を見た		1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	日頃の保育を通し、園児の行動習慣を把握する。そのうえで、事前に防げることは回避できるよう対策を行い、偶発的な事故では、保育士が咄嗟に動けるよう常に注視するようにする。	
8114	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	13		6	6	1					3	1	16. 4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	右上腕骨骨幹部骨折	3. 子も士衝にるどの同の突よも	1. あり	1. 定期的実施	1. 基準以上配置	—	子ども同士のかかわりのケガも事例を出しながら、検討すべき、クラスの様子、友達との関係性も会議の中で共有しておく。	1. 定期的に実施	2. 不定期実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	—	—	1. 集団活動中・見あ守り	事故後の中で「慣れる場所でこけが多い」事両親の話「いは回数なくなのこと。	保護者から、家での様子や、注意点をもっと細かく聞き取り、保育園の生活の中でも気を付けられるようにする。職員と共有する。リスクのある場合、園外に出る時には、園内で他のクラスと重んで待っているということも検討する。	1. いつもどおりの様子であった	1. 対象児の児で	対象児を見た	至近距離守りしてはたけ	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで、子保育、	距離の対して、応えた。	お弁当を持って行く食べたので、ただ遊びに行った時とは、動きが違った。	支援のいる子ももちろんだが、集団の動きが大きくなってきたり、関わりの中でのトラブルも予測しながら保育をする。子どもたちが落ち着かない状況の時は、動きの少ない遊びをして待っておく。	
8115	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	3	1	2							2	2	14. 2歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自の転倒・突よもるの衝にる	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	マニュアル記載事項を遵守していたとは言わざるを得ません。	①マニュアルの記載事項を再度確認・徹底します。（内容の見直しを行います。）②毎月等定期的にマニュアルの勉強会を実施します。	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	—	各安全点検シート成遵なく、実に定期的します。	3. 個人活動中・見あ守り	—	保護者対応しているときや、（園児から目を離すとき等）は、他の保育士にその旨声かけして、園児から注意をそらさない体制をとります。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	園児は保育室内で回る走り回っていた。	4. 対象児の動きていか	園児に向けて作業をした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児に背を向けてお迎え保護者をお迎えました。	—	①配置人数の少ない、延長保育では、「体操」は行わないこととします。②保護者対応等するとき（園児から目を離すとき等）は、他の保育士にその旨声掛けして、園児から注意をそらさない体制をとります。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面									環境面						人的面										
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名											実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							実施頻度【回/年】										
																							死因	負傷状況	受傷部位																																		
8116	令和4年11月28日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	42			14	9	13	6			8	4	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨下部骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	ヒヤリハットの周知。	現在行っている、瞬時に送っているヒヤリハット報告（LINE）にてスタッフで共有、記録用に保存している。全スタッフが確認できる保育マニュアルへの追加（転倒時に考えられる怪我等）。定期的にマニュアルの見直し。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	床は土よりも固い、子どもたちも再度確認を行う。	地面の硬さや衝撃を逃と離かめ、子どもたちの子ども自衛につなげる。園にて合わせた点検リスト作成し、日々の点検状況を記録をとる。	1.集団活動中・見あ守り	—	転倒時にやすい怪我について理解を深める。遊び方によっては大事故につながることを常に頭に置き、子ども動きにアンテナを張る。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる様子なし。特段、おんぶを頼回していることはない。	3.対象から離れた児の場所で対象児を見ていた	廊下の見守りをしていたが、トイレで衣しいるもの見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員位の立ち位置は分かっていたが、転んだ瞬間は見ていなかった。（玄関対応）	担当場所を離れる際は、職員間で声掛け合う。事故発生時は数名で確認する。本児はバランス崩したとき、背中にいる子も落ちてしまうと考え、転ぶ時に踏ん張った可能性もある。	事故発生時の職員連携を図る。声掛けの習慣をつける。休憩等でスタッフ配置が手薄になる時は、遊ぶ場所を選択し、見守り体制が十分とれるような配置を判断する。園児の泣き方に注意を払う（普段との違いを見る）。スタッフの立ち位置を把握しておく。		
8117	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	361			22	##	##	##			30	28	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	切創	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	自由時間・キャラクター設定ごとに応じて職員を配置	怪我のあった場所で監視する職員を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	デッキの角が尖っていれば、傷が浅くだと思われる。	ぶつけた思われるところがデッキの角を削ったりかりにする。	1.集団活動中・見あ守り	特になし。	転んでもしっかりと手をつけるように、受け身を上手にとれる運動遊びを多くを行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通園し、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間は他に向けていた為、転んで泣いた声で気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をした場所の担当職員は1名だった為、見ていない。	特になし。	職員は配置していたが怪我の瞬間を見ていなかったので増やし、あらゆる所に目を向け、徹底して監視する。	
8118	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13			6	5	2				3	2	15.3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折頸部骨折	5.他か危を加えられたの児から害えれも	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	事故発生時の連絡経路に共通がなく、危機対応の判断基準が現場任せになっていた。保育者配置及び対応についてのルールが曖昧であった。	・第三者を含めた本事故の評価・改善策指導委員会の立ち上げ ・安全管理の専門家による研修を定期的に実施し、園の危機管理体制の依存評価を依頼 ・ヒヤリハット・ハザードマップを管理するICTソフトの導入	3.未実施	—	1.定期的に実施	12	3.未実施	—	高所遊具であった。手すりが片側のみであった。階段板の角に緩衝材はなく、木材出っぱりのむき出しであった。	・遊具に手すりを新設、階段マット付取替 ・当該遊具撤去の可能性を含めて、専門業者に点検を依頼 ・5/31転落箇所にある階段を撤去する。	1.集団活動中・見あ守り	預かり保育の降園時間であり、ランダム保護者により保育者の対応が拡散した。砂場にいた保育者、洗い場にいた保育者が死角となっていた。	・預かり中の保護者の対応は園の職外の内容が行う見舞舎員・園児・守りカメラ導入検討	1.いつもどおりの様子であった	事故直前、本児を含め名が数名地で揉めた。保育者が声掛けしたが、園児にわだかまりました高所遊具にまった。	4.対象児の動きを見ていた	保育者の一人は砂場に集まった園児の注視、人は遊び付き、人は保護者が対応の該当園児に背を向けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員の位置を分かっていたが、瞬間は見ていなかった。	怪我の程度を判断する基準が保育者個人感覚に依存していた。保護者呼び出し・緊急搬送等の要判断に、役職者や養護教諭が即座に関わる仕組みが形骸化していた。	・園児との保護者対応を行わない監視役を配置 ・危機対応マニュアルを細分化し周知徹底	
8119	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	77			8	20	26	23			13	11	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	事故当時は全クラス園庭に出ていた。運動会のリハーサル中の職員配置について、全体を見渡す職員配置について共通理解をしていなかった。	全体を見渡す位置の職員配置の共通理解を図り、見守りすきなように作ようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	3	園庭での活動に際し、園庭の状況をしっかりと把握すべきであった。	園庭での防転倒をためぐに、土を平らにした、小石を除去したり、の行う。	1.集団活動中・見あ守り	園庭にトラックをおいてカーブを作りが狭かったが、競争意識が強く勢いがあったことから、前もって練習であることや気をつけて走ることを伝えるべきであった。	活動の内容が適容いるかちんと確認して、予想される行動の把握を児をたうえで束ねるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	リレーで勝ちたいという気持ちが大きく、興奮気味であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	次に走る園児を並ばせていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	応援して他の園児の世話や、対象園児を見守りながらをしていた。	ハーサルという状況なかで、園児の競争心を考えて、声掛けや援助をリサルを行うべきであった。	打ち合わせ時の際に、職員の配置まで細かく設定する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8120	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			6	4	8			3	3	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・突よによるの	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	—	園庭でのヒヤリハット事例を集約し，マニュアルに付け加えた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	子どもが起こすであろう危険行為で危険の不十分だった。	慣れていることで，スピードや出し方を慣れてき子ども達の安全に指導の徹底（遊具の使い方等）	1.集団活動中・見守り	人数が少なかったことで，スピードや出し方を慣れていた。	人数が少ない時にも事故が発生する可能性があるこの認識	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	人数が少なかった特なので，危険を意識していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には2人いたが，他児の動きを見ていなかったため，当該園児の見動きを見ていなかった。	三輪車扱いに慣れておりスピードを出しまま足をしてまっ離した。教諭の方指導不十分だった。	外遊びに入る前の指導の徹底	
8121	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	85			30	30	25			6	6	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	2.自らの転倒・突よによるの	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	—	園庭でのヒヤリハット事例を集約し，マニュアルに付け加えた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	日頃の遊び個々の状況の把握の不足	子どもへの安全指導の徹底（遊具の使い方等）	3.個人活動中・見守り	大勢の子どもたちが遊んでいたことで目が届かない部分があった。	職員の配置を意識して分散する。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児を見ていなかった	危険な行動をすることを子どもは視で，注意していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では子ども達が多くいて遊んでいたことから，担任は全体的に見守りをしており，該当児の動きを追っていなかった。	キックボードに慣れていたので，スピードを出してしまった。怪我をすること想定できなかった。	用具を使っている子どもの動きに気付いて見守る。	
8122	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59			20	19	20			6	6	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指節第2関節骨折剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールが大好きで、楽し取り組くんでいた。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	審判をしながら見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他で遊んでいる遊具で遊ん児守りを見ながら全体を見ていた。	全体にルールやルールの受け方のしかけ話をしたが理解できていないようだった。	外遊びやドッチボールの前にきちんと話をして全体にけがを安全に気をつけるようにする。	
8123	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			2	6	7			2	2	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘の骨折剥離	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	—	2.基準配置	—	マニュアルの見直し、周知徹底	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	—	設備面でのケガは改善策はしのはない必要なと判断した	1.集団活動中・見守り	一斉保育では遊び場所で自由保育で、同じ遊び場所で遊び状況が混在した。	異年齢で活動する際の指導計画作成	1.いつもどおりの様子であった	この日は午前中に遠足行っており、もしかしたらいつもよりはあったもしれないが、元気でいつも通りの様子だった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	5～6メートルと離れたところ対象児一人一人と対象児童とそれぞれ注意を促しを見ており、それに注意を促したが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い遊戯室を見守るために、2人の職員がそれぞれ違う所を違う見守っていた。	—	子どもと遊びながら広い視野で子ども見守る保育を心がける	
8124	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								3	3	16.4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指の骨折	2.自らの転倒・突よによるの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもどおりの子であった	体操教室に参加し跳び箱に跳び乗る	2.対象至児の近で対象児を見ていた	専任講師の指導のもと、跳び箱の横で補助を行う	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	順番を待っ児の見守りを行う	補助の仕方について専任講師の打合わせが不十分であった	事前にその組日に取目の注意点について打ち合わせを十分に行う	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8125	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30			12	18					3	2	15.3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	マニュアルの作成をしており、職員の指導は行っている。職員配置にも問題はない。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	いつもと部屋で服を脱いで、多少通常とは異なる雰囲気にはなっていた。(下着のみ着用)	慣れている保育室なので受けられるであろうものしく。	1.いつもどおりの様子であった	服を脱いで開放感があり、やや注意力に欠けてしまったため、転んだ時うまく手をつけなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの子達は一旦並ばせて座ったクラスの子が替えて中間で目配せしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任より対象児も対象児の近くにいたはいたが、別の子どもの対応をしていた。	通常から動き多い子どもではあるため気がけて見守る必要があった。	声掛けは行っていたが、更に見守りがけて必要がある。	
8126	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45			11	16	18				9	9	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	—	事故予防に関する研修を定期的に実施したため、ヒヤリハットを用いての事故検討会議を行い、学期ごとに園内の傷病発生状況を集計し、職員に報告した上で、事故防止意識を高める。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	53	—	点検方法について教職員で確認し、必要に応じて見直しをした。事故防止マニュアルに沿って全職員で危機管理について再確認した。	1.集団活動中・見守り	良温、気温も高かった、日天気が高く、遊んだ水も暑くて、水分補給をしたり、園児は思い思いの場所で過ごした。園児の防場所が分散していたため、職員も全体のを把握しようとしていたが、全ての遊具の付い状況ではなかった。	園児が使用する遊具には、必ず職員が付く。園庭で遊ぶ前に、職員同士で遊具使用について確認し、園児には職員が傍に付いている遊具のみで遊ぶことを知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り着替えて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員4名のうち2名は遊具離れた位置にいた。全体を把握しようと、園児場所の行き来した、立った位置から見ていたが、対象児が遊具の転倒するのを見かけたので、すぐに駆け付けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の園児は園遊びわっていた、泣き声で事故に気付いた。また、園庭4名は別に、園庭にしながら断下を移動していた職員も泣き聞いて駆け付けた。	ブランコや鉄棒などは必ずしも職員が付いていたが、つり橋は危険の認識が足りておず、必ずしもつり橋に付いていなかった。	どのも必ずが付く。職員会議を行い、事故の可能性があるか、どのような付きなどを職員全員で共通理解し、安全面に危機管理意識を高める。	
8127	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20			13	0	7				3	3	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	普段は登り棒には職員を配置したが、プール活動等で園庭が手薄になった、全体の動きが手からはみ出ることなく、把握しづらい場所であった。	引き続きあるように職員を配置し、年齢高さの必ず職員は必ずしも、相応の遊びの方がを必ずかけ、声をかけていく	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	職員がいない場合には遊びないに囲いを設置し、ただ子どもで遊ぶ状況になっていることを徹底する。(現在、すでに設置済)	3.個人活動中・見守り	異年齢で自由なの活動中であった、年齢の自動の活動あった、年齢の発て、自分以上にしの力児の触、自分以上にしの力のこもてしまった。	年少組を中心に子ども達と一度遊び方・遊具の約束を確認し、だけで担任でなく、その中の職員も朝礼で子ども達の情報を共有する。	1.いつもどおりの子であった	朝の預かり保育や、部屋で過ごしたいつも通り落ち着いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢で自由の動中であった、個人に担当ついなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3名の職員は全体把握はしていたが、それが他の対応をしていた見えづらい位置にいた時間もあった。	園庭で遊んでいた園児は20人程であったが、割合として年少が多く、危険への行動危機意識を持って全体把握をできなかった。	マンツーマンで見る状況ができる設定し、それ以外の時には封鎖しておくようにする。	
8128	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	60			20	21	19				7	5	15.3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	マニュアルの作成をしており、職員の指導は行っている。職員配置にも問題はない。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	園児の見守り、声かけが足りた。	園児の見守り、声かけを徹底し再発防止に努める。	1.いつもどおりの子であった	クラスでのお始まりの前の自由遊び時間で廊下で紙を使んだり、回ったりして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	廊下や保育室など、行ったり来しながら、子ども達も達を見ていた。お始まりお前にクラスに対象児がいなかったので、対象児を探していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下では、他のクラスの担当子の見守り、対象児がいる立ったドアの保育室では、そのクラスの子ども見守りをしていた。	廊下は走らないドアでは遊ばないという声かけ不足。	自由遊び時間の子ども見守りを強化する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面									ハード面									環境面					人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者	事故発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	負傷			診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8129	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	7	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14			3	7	4				2	2	17. 5歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1. 遊具等から転落・落下	2. なし	3. 未施	—	2. 基準配置	事故予防マニュアル（園内で事故が想定され予防策物、遊びについて配慮なしが足りかったと考える。	子どもの運動能力や予想できる子どもの行動、怪我について職員間で共通理解し合える場を設けるようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	1	低い位置からの下でも骨折をという職員が足りかった。	遊具の点検をしていた方我をする師もも遊び日ようにする。	1. 集団活動中・見守り	年齢別に遊んでいた場面でも遊びがルになるなど、場面に応じて遊びやまざまである。	合同保育という人の理解要にしてくる、また、常う様子見守ってくるにする。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	担任の話による午前中通常保育の時い、気持ちが高ぶったとのことだった。	4. 対象児の見ていたか	他児の遊びにかかわり、遊びのルールを理解できずに泣いた子に援した助た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びにかかわった。	2名の職員担当していたが、事故時は他の園児を世話をしており、対象児にて対応できず。対象児の育を向けていた、危険を察知できた事前に声をかけることができたと思う。	広い遊戯場など子ども活動の発にになる場所では、体が見渡せるとようにす児が通常と様子に注意して見守ようにする。	
8130	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	22									2	2	16. 4歳	1. 男児	—	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	前歯2本の脱臼	2. 自らの転倒・突よるの衝にる	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	—	職員が給食中も広い視野を持つようにする。また、給食中の教室席でのしかたについて導いく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	—	今回の件は、施設の設備の不具合が起こったものではが、これからも安全面の徹底に努めていく。	6. 食事(おやつ)中	—	一転の時の為にもテッシュなどの動を作いする。ずきそうな物がないか常時確認する。	取り行く子であった	1. いつもより活発で	歩いてティッシュを取っていた。	3. 対象児の離れたところで対象児見ていた	教室の前の方に他の一座っ給食ながら職員と一緒に食べ子どもたちる状態だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じく座って給食ながらもを見た。	—	給食を食べながらも子どもたちの状況を把握できるように座る位置などを工夫して連携を図り見守っていく。	
8131	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	3									25	22	17. 5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左側上顎乳切歯;歯根破折･外傷性亜脱臼右側上顎乳切歯･乳側切歯;外傷性亜脱臼	3. 子も士衝同ども突よるの	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	子どもの登園後の身支度の取り組み方への言葉かけ不足	巡視の徹底・園児への言葉かけの強化	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	特になし	特になし	4. 個人活動中・子どものみ	登園後の中身支度でいる子どもに対しての言葉かけ不足	約束事の再確認をクラスや園全体でしっかりと伝える。	1. いつもどおりの様子であった	登園してから15分友達と遊び終びでハイションっていた。	4. 対象児の見ていたか	園庭・園児の迎え・園児の入れ・バス・巡視等に内に分かれて保育にて当たった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭・園迎え・園児の入れ・園児バス・巡視等に内に分かれて保育にて当たった。	巡視時危険に関して把握や言葉かけができなかった。	「水筒は座って飲む」「ウッドデッキは走らない」「ウッドデッキで水筒を飲まない」などを全園児での朝礼で園長から、また各クラスで担任から子ども達に促し、再発防止の徹底に務めた。	
8132	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	19									2	2	16. 4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2. 自らの転倒・突よるの衝にる	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	なし	なし	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動等普段と変わらない様子であった。	3. 対象児の離れたところで対象児見ていた	対象児が遊び危険なをしていなかった為、離れた場所から園児の把握をした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたて、見ていなかった。	なし	子どもの遊び配置場所について、職員間で声を掛け合い、連携を取り合い進めていく。	
8133	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25				13	12				3	3	16. 4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左頭椎骨骨折遠位	2. 自らの転倒・突よるの衝にる	1. あり	1. 定期的に実施	3	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	休業年齢構成の保育であった中で異なった通常とは保育なって、通常の保育異なっていた。	長期休業期間中や保育時間の預かり後の保育では、保育方針の進め方や危機管理について再度共通理解を図っく。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動等普段と変わらない様子であった。	3. 対象児の離れたところで対象児見ていた	対象児が遊び危険なをしていなかった為、離れた場所から園児の様子を見た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたて、見ていなかった。	なし	なし	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8134	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									1	1	16.4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	キャスター付きのサイドボード	キャスター付きのサイドボードやピアノの横にその座った友だちの間を抜けようと通った。	1.いつもおもりの様子であった	特別教室終了後の降園準備をしている時であった。	2.対象児の近く	特別教室終了後の降園準備をしている園児2名を見守っていたところだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られて対応している保護者の対応をしている保育教諭と送迎に出る保育教諭がいた。	特になし	特になし	
8135	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				10	15				2	2	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・突衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具の配置設定の不備。（滑り台から壁面距離）	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。	1.集団活動中・見守り	遊具の配置設定の不備。（滑り台から壁面距離）見守り台の行方向に背を向けていた。	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。滑り台の行方（床面）マットを敷き転倒落下防止をったり、滑り台の配置とが壁面との距離が不十分であった。	1.いつもおもりの様子であった	開放自由遊び中でありたが、数人のこどもと遊び（家族ごっこ）をして、落ち着いて遊んだ。	4.対象児を見ていなかった	開放自由遊び中ホール（2名）保育室（2名）広場・廊下（2名）見守り中であった。ホールでは全体を見ながら2名守り中であったが、2名とも事故発生場所に背を向ける形で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら園児と遊んでいたが、事故発生場所に背を向けていた。	特になし。	先の見通しを持って危機管理を行う。遊び方などに危険がないか常に配慮し、少しでも危険要素がある場合は対応する。遊びを見守る職員の配置。	
8136	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	53				22	31				3	3	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈骨若木骨折	2.自らの転倒・突衝によるの	1.あり	2.不定期に実施	7	2.基準配置	特になし	その子にじて、応ボールもンくぐるをとり、ネルをの際は、職員の気をつける。注意をトを配置に	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	295	2.不定期に実施	295	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	その子に応じて、危険な遊びではないか確認する	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつけるよう指導し、保育者に更に気を付けて見守る。	1.いつもおもりの様子であった	録画していたカメラで確認したが、いつもであった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	遊んでいる様子を見ていたが、事故があった際、後も特に痛みを訴えることなく、特なかったが、その為、特に声をかけていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室全体を3人で見守っていたが、死角の部分もあった。	特になし	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつける指導をし、更に気を付けて見守る。	
8137	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									1	1	15.3歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A｜A外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・突衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	全教職員の危機管理マニュアルの周知・徹底（研修によるアップデート）、保育者個々の経験年数による課題（保育のあり方や安全意識・環境設定等）を会議・園内研修等により共通認識し取り組んでいく	教職員に危機管理マニュアルの研修必要、事故予防や環境設定や保育の取り組みを検討。会議・打ち合わせを定期的に実施。危機管理マニュル・環境等の研修実施。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	点検状況・課題の全職員の周知と検討、研修実施	定期的点検頻度の回数を毎月定めた定期的に行うと点検集約ダーの確認・検討一園長・園長・主任用務員・運転手による安全バス手による末安全点検実施、教員による直視点検実施	7.その他	外遊びから保育室に戻った際の流れでの安全確認→事故発生後に保育室に見直し（とくに机の配置）	保育室で保育中の怪我・事故防止の研修、園内研修を返し、安心・安全の実施について周知・徹底を行う（事故を未然に防ぐ為の検証）→研修実施、各クラス担任による安全点検での児との遊び方等の安全確認	1.いつもおもりの様子であった	外遊びから保育室に入って、指定された自分の机に座らず、別の机の間でぶらぶら下がり遊ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で事故発生場所（保育室後ろ）から保育室の正面に離れた黒板の入口近くに帳面をお配置していた。園児が対象児ことが泣いていることを伝えて気づきて、事故発生の様子は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生は制作クラス３人体験で、発生１３時であったが、担任：（12名程）、プリー①：レ・イレ・着替え、一フリ②：外遊び、遊びと役割分担で分担で分かれていた。事故発生後、職員室で他の職員が確認。	保育者が園児の動きに気づき、注意喚起・指導する必要な環境構成に気づく→事故発生後～人員配置・教員職員間声かけ・園長指導	その日の子どもの動きだけで共通認識・理解・周知徹底し、担任からのヒヤリハットを周知し対策し、日頃の危険回避できく、保育者にも伝える様子から危険回避できる、様子から危険回避できる、様子から危険回避できる、

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8139	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									3	3	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎皮膚欠損層真皮	2.自らの転倒・突衝よにるの	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	段差があるに近く玩具置くの確認不足	保育環境の見直し、段差、角のある玩具について子どもと一緒に確認する。	3.個人活動中・見守りあり	マットとカプラの配置箱に危険箇所があった。	環境を見直し、配置替え、子どもと一緒に危険箇所確認をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	機嫌がよく、いつもより活動的であった。	2.対象至児の近で対象見てた	走ると危ないと、声掛けをしていたが、トイレまでできずにつまずいてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児に声掛けをしていたためなかった。	普段から機嫌がよくなり持ち高ぶると行動が激しくなるので、危険を具体的に伝えておけばよかった。	該当園児を含め全園児と危険個所について日頃から話さなければならない。	
8140	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	127				64	63				6	6	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手指)	右ひじの骨にひび	2.自らの転倒・突衝よにるの	1.あり	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	当日事前の約束がされていなかった。	園児の約束事などは掲示されたが、この事故をきっかけに事前の約束がでようきる心がけていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雨で土が流れて、根っこ、石などがむき出しになっている個所が多い。	雨で土が流れているとから、一度入れもう土を入る工事を行う。	3.個人活動中・見守りあり	職員は配置されていたが、ドングリがくさん落ちていた為、人数が2学年と多く、落ち着き持ちた気で過ごせていなかったかもしれない。	なるべく3か所の遊び場に分散できるよう、職員で周知。	1.いつもどおりの様子であった	どんぐりを楽しんでいた集めし	3.対象児離れとこで対象見てい	子どもと一緒にどんぐりを集めしな見ていたが守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	池（ザリガニ）、ままごと、色水遊び、（各場所）。時々広く汚れて着替えに付き添う職員もいた。	両手にドングリを持っていたため、転倒した際に手をつくことが出来なかった。	どんぐり、落ち葉等を採集する際には観察カップなど道具を使用することを知らせることを職員間でも周知。	
8141	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				3	7	8			3	3	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	2.自らの転倒・突衝よにるの	1.あり	2.不定期実施	1	2.基準配置	該当なし	廊下での危険な行為があった場合は、指導をする。病院の受診を勧める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	該当なし	施設・設備備ではないため。	1.集団活動中・見守りあり	降園時、保護者がきに迎えに興奮でいた。	落ち着いて行動すように声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと跳び箱をとろ、跳びをしたところ、もと見せたかめ、たえるとかえる跳びをし、着地で失敗した。	2.対象至児の近で対象見てい	玄関で他児の対応で死角の事故をたよりなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの担当の持ち場についていたため、見ていなかった。	該当なし	玄関先は、お迎えの混雑が起こる届きと目がにくいこともあるので、必ず、ブレールームの担当の先生が帰りの支度をしてくるようにする。	
8142	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5		1		2	2				3	2	16.4歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・突衝よにるの	1.あり	2.不期実施定に	12	1.基準以上配置	預かり保育では3名対応している子どもが守護者が引き渡しの見られ、保護者への保育が当分ないと、十分なかったと思われる。	当時の職員配置は人数確保できていたが、子どもの突発的な思いかけない行動を予想し、即時対応できるよう、朝の職員打合せ等で常時確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	預かり保育室が2ホールを使用していたが、ホールは通常使用する為、突発的に走ってしまったと思われる。	ホールでの過ごし方や室内の過ごし方と同じように歩いすることを移動すること話した。	1.集団活動中・見守りあり	本児はシューズを履いていたため、シューズでの過ごし方と同じように歩いすることを移動すること話した。	翌日からは必ずシューズを履いて過ごす為、突発的に走ってしまったと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	母親の迎えを喜び、駆け出しを抱きしめ、出バランスを崩した。	2.対象至児の近で対象見てい	保護者の対応で玄関にいたが、本児が転倒し、すぐに駆け寄り外傷の有無の確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名は居残り3名は残り1名は児童の守りはトイレ掃除をしていた。	毎日預かり保育始まりに、室内で過ごしている子ども達が過ごしていることを確認し合っていたが、走っている姿に気付かれにくく遅れた。	常時室内で過ごしている子どもたちに確認しようとし合った。	
8143	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37									2	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	特になし	園児の遊び方や行動をよく観察して見守ること。	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	転園して2度目の外出で、当園の遊具に慣れていなかった。	遊具の遊び方やルールを伝え、慣れるまで観察するよう、見守ること。	2.いつもより元気なかった(理由を記載)	大型遊具を興味に示すのと運動バランスがとれなかった。	2.対象至児の近で対象見てい	落下した園児が、落下した瞬間に受けとめることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児以外の園児の誘導。降園準備。	特になし	子どもたちが遊ぶ場合、注意を必要とする遊具に位置する届く子どもたちの見守り手間でと。ちに注意こもいし、注意しを繰り返ししていを促すこと。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面					ハード面								環境面				人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事										事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
																								死因	負傷状況	受傷部位																											
8144	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30		3	10	3	14			3		2	17. 5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 左橈骨遠位端骨折、左尺骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	—	1. 基準以上配置	—	事故に関する研修を定期的に行うこととする。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	190	—	今回の事故に直接起因するわけではないが、濡れていて滑りやすい、地面が凹んでつまずきやすいなど転倒につながる要素がある場合は園庭使用を慎重に検討する。	1. 集団活動中・見守り	—	ボールに乗ると転ぶ→転ぶと怪我をするという想像が出来るよう、危険予知能力を普段の生活から周知させておく。	1. いつもどおりの様子であった	他の園児と数名とボール遊びをしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場で遊んでいる園児を監督しながら、同時に園庭（中央付近）でボール遊びをしている園児たちを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコなど他の遊具で遊ぶ園児たちを中心に監督していた。	—	園庭で遊ぶ際、異常や危険にいち早く対応できるよう職員一人が必ず至近にいる状態になるよう遊ぶ種類、コーナーを限定して保育する。	
8145	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9		3	3	3				3		1	17. 5歳	1. 男児	—	8. その他	1. 負傷		3. 火傷	5. 下肢(足・足指) Ⅱ度化学熱傷	4. 玩具・遊具施設・設備の安全の備よもの	1. あり	2. 不定期実施	6	1. 基準以上配置	自由時間・カリキュラム設定時・預かり時それぞれに応じて職員を配置	園で扱う薬品について、事故があった場合も含め安全対策について急職員会議を7月に行い研修及び園内の安全確認を全職員で行った。今後も定期的に研修を行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	薬品の瓶を園児が届かない場所にいておいたが、手が届かない場所であっても、何かのきっかけで、落とすなどして可能性もあったと考えられる。	今後はクレゾール石けん液は園では使用しない。その他の洗剤や消毒液に関しては、園児対策では絶対に手の届かない鍵のかかる扉のある倉庫に保管することを徹底する。	1. 集団活動中・見守り	事故は決してあってはならない、起こってはならない対策として不十分だった。万が一起こった場合の関係は、分かった。	1時間以上せっけん水・流水で洗い、当日救すぐに診てもらっていれば、軽症で済んだ可能性もあったので、預かりの先生を含め職員全員で研修をしっかりと行い、最善の処置を行うよう徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り登園し、元気に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間はとっさにいた為、見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児迎え者やお保護者の対応をしていた。	薬品に関する研修が不十分だった考えられる。	全職員が薬品に関するしっかりと行い、適切な処置を速やかに行うようにする。	
8146	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	87		13	24	27	23			7		5	16. 4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 右上腕骨折顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	2	2. 基準配置	職員の配置位置と人数	8:30勤務開始の職員を1名増にする。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	滑り台の降り口の滑り地点のみ、衝撃防止となるマットを敷いていた。	遊具周辺に全体的に衝撃防止マットなどを敷くなどの対策をする。	1. 集団活動中・見守り	滑り台の滑り方や遊び方をしっかり理解するその度ことができた。	クラス集団の全体や保育活動会等、保育中で安全についての話をとり入れるなど行い、危ないと感じた時には、すぐにこれに声掛けするなどの対応をとる。	1. いつもどおりの様子であった	仲の良い友達が登園し、好きな滑り台付近で元気よく走り回った。好きな滑り台で友達と何度も滑って遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	次々と登園する園児は、ずっと園もおり、園児の対応したり遊んでいる園児へ掛け声掛け行うで、滑り台が背後に位置に死角になってしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で他の園児の声かけを行った。	登園児の対応をしながらの見守りで、園庭全体に目が届かなかった。	持ち場以外の園庭全体を意識することを心掛けなる状況を再確認する。	
8147	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	170			52	64	54			17		17	16. 4歳	1. 男児	小柄で骨が軟らかい。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指) 剥離骨折	3. 子も士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	4	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	236	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	園児が遠足先で同時間帯に足時間遊ぶことを想定した策分であった。	遠足時の行動予測をげるとともに、園児に対して意の促しを行う。	1. いつもどおりの様子であった	遠足時の昼食後の遊びの時間帯で特段の変化なし。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児を複数の職員が目視確認しながら遊びに対応した。担任は園児と一緒に遊ぶ。補助全員は見る一緒に遊び対応した。担任は園児と一緒に遊ぶ。補助全員は見る職員は体制であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	大勢の園児に対応しなければならず、至近距離応することは困難であった。	遠足先で同時間帯に遊びをこで、遊びのエリアが広範囲になった。	職員には本教件事故を教訓に、想定範囲を広げ見守るようにとともにあ努めるとそのの時間、場所等が適切であるのかを職員間で話し合い再発防止に努める。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8148	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84			17	33	34				4	4	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手手首骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	300	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	保護者の戸びの見守りの両方をしていた	4：00に降園する園児を預かり保育担当と別に担当者を設ける	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気に遊ぶ園児であるがこの日は気持ちが高ぶっていたようであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで別の園児を見守っていた	立ち漕ぎをしていたのに声掛けができていなかった	危険な遊びに気づいたらすぐに声をかける	
8149	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29			8	11	10				6	6	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨折外顆骨折	2.自らの転倒・突よるの衝	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	遊ぶ様子は見守っていたが、遊び方の指導不足であった。	遊び方に危険がないか配慮し、危険要素がある場合は即座に対応する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具周りの環境設定の不備。（着地場所にをマット設置していなかった）	着地場所にマットを設置。	1.集団活動中・見守りあり	遊具周りの環境設定の不備。（着地場所にをマット設置していなかった）遊び方の指導不足。	着地場所にマットを設置。危険要素ある遊び方に即座に対応。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び気持ちが昂ぶる姿も日々見られる。冬休み預かり保育の少人数での自由遊びであったが、気持ちが昂る様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつ後ホールでの自由遊びを2名で見守りの中であった。1名が全体を見守る、1名が事故発生場所近くで見ていたが事故が発生した瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所のホール以外の場所にいた。	特になし。	先の見通しを持って危機管理を行う。危険要素がある遊び方に即座に対応。	
8150	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									1	1	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨折顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	得る事故や怪我に繋がる事項を想定しての見守りが起こりできていなかった	各遊具にマニュアルを再度作成する。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	227	1.定期的に実施	227	遊具の下に衝撃を和らげるものがない	関係もあるが、今後（雲梯）にチェックシートを作成し、評価していきたいと思っている。	1.集団活動中・見守りあり	職員の見守り人数不足	年度初めのため、職員の人数や職員数を対応ができればよかった	1.いつもどおりの様子であった	進級前上り雲梯は自分で行ができることない。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体をみるお意識をもって雲梯を見ていることはわかったが、落ちる瞬間を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名で担当していて、他の職員がいなかった。	年長児ではあるが進級初日であったため遊び定着の確認・制限をしたりにくるして我がる能性ある所見を意識するべきだった。	・全体を把握出来る立ち位置を意識する。・雲梯などに、一人ひとりできる程度のかを把握しておく。・可能な限り見守りの職員を増やしすようにしていく。	
8151	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24			7	6	11				4	4	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨折顆上骨折	2.自らの転倒・突よるの衝	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	午後4時以降の時間帯は幼児が切れる集中力が切れやすい時間帯である	担任外教育論も保育に加わる職員に多くの職員が関わることとする	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	286	特になし	今回の事故には当てはまらないと考える	3.個人活動中・見守りあり	接触が予想される遊びの中で、幼児の動きに合わせた適切な注意喚起が少なかった	危険が予想される場面において、幼児や理解に合わせた適切な注意喚起を行うことに対する意識を一層もつ	1.いつもどおりの様子であった	教育時間も含め、気の合う友達と誘い合って遊んだり、昼食やおやつの喫食状況も普段通りの姿であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員A:ブランコと鉄棒の間から児が芝生内もの遊ぶ他児を見ていた。職員B:体育倉庫前で竹馬や縄跳で遊ぶ児を見ていた。職員C:体育倉庫で遊ぶ他の対象児も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員C：ままごとハウス付近で他児の遊びをみていた。担任外教員論：職員室にて事務作業をしていた。	特になし	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制																					ソフト面						ハード面									環境面				人的面												
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8152	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	51									16	14	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	ケガの応急処置の再確認。園内のヒヤリハット確認。もっと気軽に救急車を呼ぶなど受診時の確認。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	—	鉄棒下に、クッションとなるものを敷く。	1.集団活動中・見あ守り	—	遊具での遊び方を今以上に丁寧に見ていく。高いところにいる子が危ないか、何かあったらすぐに駆け付けられるように、心づもりをしておく。	1.いつもどおりの子であった	いつも通康状態で、最近特に興味をもった鉄棒をして担任の先生もにおうとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(児ていた)	本児の「鉄棒を見てて」「逆上がりやりい」という言葉に添い寄り、傍で本援助いた。児が手をし児放したまに受けめるが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児と関わりながら、庭全視体を監視していた。本児が落ちたのを見て、すぐに駆け寄る。ケガの状況の確認と観察、職員室へ連絡。		今回は、とっさに体を受け止めることが出来なかったので、落下するかもしれないという常危機感を常に持つようにし、保育者ち位置も気を付ける。	
8153	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	8									2	1	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自の転倒・突衝によるの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	—	—	1.集団活動中・見あ守り	—	—	1.いつもどおりの子であった	鬼に捕りたいため、慌ててバランスして右転倒してしまった。	まなく逃ててバラを崩肘げンスからまった。	3.対象児離とこの児ていた	担任は一緒に遊びに入りながら他の動きを見ながら児の守りなが児を見ていが、対象児だ瞬間手を伸べる対応の間なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は、必要がいたため、時は見ていなかった。	転倒時に手がつけなかった。	転んだときには手を地面につくように活動内容を工夫し指導をする。	
8154	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54									4	4	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折 幹部骨折	1.遊具からの落下・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	研修等、年度初めに行う。園の事故が起きやすい場所や、予想される(すべり台、三角タワー、ジャングルジム、地球儀)の確認が足りなかった。	どこの場所が重点的に子どもに伝えるのかを予想されるのか、どんな配慮が必要なのか、子どもに伝える遊び方のルールを全員で改めて確認。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	雨はぬれて滑りやすいこと、下に木はマンホールがあり固いため、落ちた際の危険性が高くなること、後ろから登って来た人の動きが伝わりやすいこと、揺れなすやすくなること。	あがりは十分注意して雨は意ること、はこと。マンホールの上には落ち葉を積み上げる先ての上に登っていることも考えて、「わざと揺らすし、は無ゆっくりすることもた子ども伝えた。	3.個人活動中・見あ守り	子ども遊びも夢中で、高ろかなであるが薄れ高ろかなであるが薄れて可能しいる性もあった。	今一度、子ども遊びたちに「木を登る必ずは人を見ること。「登る際、高ろかくこと。「木の際、大ず降りは無ゆっくり動く」「木の上に押したかけないこと」のルールを確認した。	1.いつもどおりの子であった	登る途中で登り高ろあるかころ降びとのとこ飛遊びりをした。	2.対象児で対象児見ていた	側でぬかれるのをがかけて面を見て児童を見て対象児が下に間に合わかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外の弁付かけのトルに対応した見ていたため、られなかった。	回は同じ合あった人数多く意見が出た。ょり、員同士の場面が多かった。	職員同士誰かが保育中、つい認識できるどこにつき「木の場所を保育員どこにつき「私は〜の場所を見ます」「よろしくお願いします」「はい」と口行って識できるどこにつき「木

No	概要						発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事		事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8156	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	118			16	27	33	42			6	6	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	丸太の遊具の近くに職員の配置が無かった	職員の配置を拡大する	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	遊具は園庭に総合遊具が一つ・梯子・滑り台・ブランコ・シーソーの集合体の遊具が園庭に設置されている。	複数人数で遊んでいる際は、人数の制限をする	1.集団活動中・見守り	ほぼ全員が遊びたがる子供たちが遊んでいるときに個別の対応ができなかった	全体の確認が不足していたのでエリアの確認を怠らない	1.いつもどおりの様子であった	同年齢の友達と遊んでいたが、複数で一緒に乗ったり、ずみで落下する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	丸太遊具で遊んでいたことは確認していたが、落ちた瞬間に合わず援助ができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣いている児に気付き、泥を払ったり、顔を拭いたりする	当該遊具の高さがあるためまりいため、ほかの遊具に比べて危険度の認識が足りなかった。	遊具の利用時には職員を配置する	
8157	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈骨尺骨幹部骨折の再発	2.自らの転倒・衝突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	同じ保育室内にいたんだ瞬間を見ていなかった。	常に全体を見渡し、危機管理に努めながら保育を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	特になし。	今後も危険のないようあそぶ前に、安全点検を確実に行うようにする。	3.個人動中・見守り	２つの教室を利用して保育を実施したことに加え、園児が自由に行き来できるとで解放感がまった。また、職員の目がきくなる環境を作ってしまったことも要因の１つと考えられる。	防予マニュアルを職員全体で見直す。また、日常の保育のヤットを中心に体験等を話し事故あい事故を起こさない仕組みづくり、組織をりづくりを掛けて心いく中で、環境設定の在り方について再度見直していく。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後、仲のいい友達と一緒に誘い合って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	教師は同育たんだ瞬間は確認でき、泣き声で気が付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の保育室に１名配置し、他の幼児の遊びを見守っていた。	育名児童の子どもたちの遊び状態に応じた声をかけはいるものの、今回のケースのように仲の良い友達じゃれあいの中でも転び方によっては、骨折してしまったケースである。	ちょっとした場面でもいろいろな要因が重なり事故に繋がるケースも考えるため普段の行動であっても、常に子どもたちの動きから危険を察知し、注意喚起を怠らないよう努める。職員の危機管理意識を高めるとともに、子どもたちにも、危険を予知・回避できる力が育むように声掛けをしていく。	
8158	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									2	2	15.3歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左環指基節骨骨折	3.子も士の衝突よるもの同の突よも	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	—	—	1.集団活動中・見守り	幼児の状況を全体的に見ながら保育する。	幼児の動面の行動を測して、多方から予測して、見守ることが必要。	1.いつもどおりの様子であった	遊具や固定遊び、滑り台で意欲的に遊んだ。	4.対象児の見ていた	本児の遊ぶ場所から、3メートルほどの場所で、他児が滑り台を滑る様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の様子を見ていたが、本児の近くで、他の児と関わりながら、の確認をした。	入園間もない児であるため、体幹がしっかりしておらず、かつ安定感がなかったり、ふらつきがあるとかつまずいてしまったことによる突発的な危険は考えられる。	危険を察知して行動を予測し、危険を回避できるよう、安全な行動に全体を導いていくようにする。また、危険な行動に対して、あらかじめ声を掛けられるように、見守りを行うようにする。	
8159	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25									3	2	15.3歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	前歯強打破による損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	安全教育の全体計画・年間指導計画に基づく計画・実践・評価・改善のサイクルによる見直し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	15	特になし	定期的な点検に加え、施設・遊具・玩具など活動に使用する前には必ず点検するようにしているが、今後も一層の徹底を図る。	7.その他	男児Aが初めてのお誕生会に参加して、周りの状況を考えて自分の所に座ろうとしても滑りだこの原因と考えられる。	園児に、室内での過ごし方や集合の仕方などを定期的又は随意に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	本児は、自分のことは自分でできる子であり、誕生会後も早替えを済ませ自分の座場所に座り、皆の着替が終わるのを待っていた。	4.対象児の見ていた	入園当初は着脱未熟め、個衣服ら運動服に着替支援をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同様、それぞれ別に着支援が個別に衣服をした。	３人の職員がそれぞれ個別に支援をし、全体の全園児把握が不十分であった。	個別指導者指導者など、担補助教割任と論との役割分担を明確にする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳															事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修			施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】	職員配置		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																			
8160	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8								2	2	16.4歳	1.男児	—	3.子ども士の衝突によるもの	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折外顆骨折	2.なし	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	2名1組で任せるこうち、見守りや声かけなどの対応が不足だった可能性も考えられる。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	今回は環境における要因は挙げられず、あくまでも人的環境から発生したケガであるため、特になし。	ハード面については特になし。	1.集団活動中・見守り	遊び環境における要因は玩具などの配置が適切であったかが要因として考えられる。	遊び環境における静と動の配置、子どもの動線を意識した環境作り。	1.いつもどおりの様子であった	床に座り、レゴブロックで遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園児の受け入れ、視診などを兼ねながら、自由遊びの様子を見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園後のいろいろな手洗いを促しながら、自由遊びの様子を見る。	保育者の見守り位置取りは適切なものであったと考えるが、ケガに繋がるような行動を事前に察知できるよう見守り位置について適切ではなかったかもしれない。	発達状況や遊びにおける自由な空間等に関わる見守り視点や適切な位置取り、経験・担当職員の意識に共有を、学ばず全職員が同様の振り返りとした研修を実施し、改善に努めたい。	
8161	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17								3	3	16.4歳	1.男児	—	4.玩具・遊具施設・設備の安全不備によるもの	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左こめかみ部の裂傷	2.なし	2.不定期実施	3	1.基準以上配置	予定したケガへの不注意を促す声掛け(注意喚起)の足	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	上記の丸太の部分が固く、角がない状態になっているとから、今回のケガに繋がるとは考えられない。	上記のぷかつた丸太柱について、業者による点検では危険な状態とは判断されたが、丸太カバーの上部にゴム製のカバーを被せてケガ防止の対策を図る。	1.集団活動中・見守り	様々な遊びが入り混じりスペースが無かった、他の遊びをする子どもが十分なスペースがあったかの場合に見ていた状況が、1クラスのみでの場合に保育者がいたことから状況確認ができ、要因となる状況は考えにくいという結論に至る。	保育者がケガ子どもの行動を予測し行動を展開する上での見守りの仕方が課題であり、様々な子どもの姿から共有し注意していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ友だちと行い、追いかけられる側となり庭中を走り回る。	2.対象年児の近児で対象児見た	1名は鬼をごっこ行う。1名は遊具で子の遊ぶ。1名は砂場で園児と共に遊ぶ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいたケガ園児の学年のした児のみでの園庭で遊ぶ。他の室(クラス)において園児の時間である。	ケガを測ったケガ予掛(注意喚起)の不足	今回のケガを受け、外環境における種遊びの種類や内容に話し、指導についても子ども児に注意を促すの声が必要性の保育者の配慮について共有した。	
8162	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10								2	1	16.4歳	2.女児	—	2.自の転倒・突衝によるもの	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足向う脛骨折	1.あり	2.不定期実施	5	2.基準配置	子ども同士関わる時は、状況を見て安全への安全支援を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・守り	想定していない事故であったが、今後にも活かしていく。	人数的には限界はあるが、様々な想定して連携を取り、連携して見守りする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は一緒にこで気ったしているが、こと。多い。この時は、関わりと人入ったりだってバランスを崩遊ぶ。他の自己コントロールし転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育者は、園児は様子を保っていたが、同じ室で、他の活動に対して、転倒がいう間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の活動の支援おり、状況は見ていなかった。	可能な限り見守る。	
8163	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								2	1	17.5歳	2.女児	—	1.遊具等から転落・落下の事故	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折上骨折	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	—	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』を本務教諭全員が読み直した。	1.定期的に実施	46	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	4	—	遊具の移動や集合の際の動などは自由であるが、児をかけて、あまり足を踏み外すことは、ケガに繋がる。	遊び場所の状況は「集まる」の声かけの前に、「降りる」のを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、総合遊具で遊ぶことが多く、高いところを好み、垂直はしごの上り下りも危なげなく一人でできていた。当日は、数人で水鬼をしていて、垂直はしごを部分に一人で登っていた。担任が次の活動を知らせたため、いつもより焦ってはしごを降りようとしたかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近く(11m以内)において、視野には入っていたが、総合遊具の別の場所で遊んでいる他児に注視していた。次のための活動に、対象児と反対の方をむき、別の場所に移動するよう全体に知らせた。すぐ対象児側に振り向いたが、すでに垂直はしごから落ちていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児から離れたため、一緒に園舎内庭で過ごした。	通常であれば、2名の園児に対して1名、補助2名の体制だが、当日は12時で補助1名早退していたため、担任1名、補助1名だった。	職員が通常少なかったため、範囲を遊び定でいた。職員配置に応じて、遊び方を限定する。限次の活動を前の園児を確認と状況を、高いに登ころに場合て指ていては、降りから次の出すようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																	死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																	
8164	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	1	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右尺骨骨幹部骨折、右橈骨頭脱臼、右モンテジア骨折	2.自の転倒・突よから転倒・衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守り	雨が続いた中での間は晴れ間は全体的に気持ちが高ぶり集中力が低下する。	教師が危険性を再確認し、気持ちを落ち着かせてから外へ遊びに出る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と遊び元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児と離れたところで、他児と接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児と離れたところで、他児と接していた。			
8165	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25					13	12			4	2	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2.自の転倒・突よから転倒・衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	—	—	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもどおりの様子であった	喜んで集団遊びに参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団遊びの担当を担がしな全体を把握していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びの様子で見ていた	友達とつないでいたため、転んだ瞬間に手を出せなかった。	手をつないで行う集団遊びの場合には、転倒への注意を伝え、十分に配慮して行う。	
8166	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	89				34	29	26			7	7	15.3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	複合遊具職員の下で配置が一人で、後ろの登り棒のところに目が行き届かなかった。	事故防止マニュアルを策定し、それに沿った保育実施を徹底させる。	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	高さ、様式20年ら基準遊具の前でつくされ、近年遊具の危険度が高い。	撤去（12に中旬に実施）。3歳児が全に遊具を複合遊の高さ和に令和3年4月に設置。そ遊具に毎日の他職員に点検により破損・不具合がないか点検を実施。	1.集団活動中・見守り	満三歳児の入園が増え、園が少以上の子が中、遊具は年齢に応じて月ごとに配置されるので、小さい月齢の対応には無理があった。	満三歳児、遊び場の部分を決め、年少の遊びを2人ずつ配置し遊ばせる。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後年長児達と遊び、複合遊具へ走って、遊具から離れ手を洗う。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落下の瞬間は見つかったが、離れたところから見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児落下後に気づいた。	遊びの時、外遊びを見守りをする当番の幼稚園教諭(保育士)の見守りが十分ではなかった。	高さ（1.5～2.5メートル程）のある遊具（総合遊具、登り棒、ジャングルジム等）には、職員を必ず1名配置させる。	
8167	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16				10	9	17			2	2	17.5歳	2.女児	—	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	末節骨骨折・指骨中切・左手切不全断	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不期に実施	3	2.基準配置	—	意識を改革し、危険がないか見守りを強化する。再発防止に備え、事故発生に備えた体制を改めて確認し、確立させた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	机の取扱説明書を熟読しておらず、子どもに机のけをさせたこと。	扱を机は一切使用せず、固定式の机を使用する。今後、折り畳みの机は一切使用せず、固定式の机を使用する。	1.集団活動中・見守り	一人で見数と思い、保育室には保育者がいなかった。子どもがちらかりづけられるという認識の甘さが事故につながった。	子どもが片づけているときには他のことをせずに片づけることが注意を払い、援助を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	横にあった机をいて最中に机が倒し、にはいちの児指瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋を分けて、各部屋の片づけを見守っていた。支援の子どもたちが事故が発生した部屋には一人しかいなかった。	子どもたちが段ボールに付けたお昼ご飯を片づけ、全員が見守りをしていたため、事故が発生した部屋には一人しかいなかった。	子どもたちが扱う物に常に危険がないか注意を払い、責任をもって援助する。	子どもたちが扱う物に常に危険がないか注意を払い、責任を援助する。	
8168	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				10	9	17			4	4	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右すね骨骨幹部骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不期に実施	2	2.基準配置	今までもていが、確認する頻度を増やしていく	遊具一つひとつの約束事を全職員で再確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	高さがあるところでは地点を確認を行う	グライダーの着地点に厚めのマットを置く	1.集団活動中・見守り	クラス月1回遊具の使い方の確認をおこなう	滑り降りる方、降りて再度確認をする	1.いつもどおりの様子であった	はじめてのことに対して慎重である。遊びは、走ったり砂場のごっこ遊びや棒ことい。	2.対象児で対象児を見ていた	園児達は砂場・遊具・鬼ごっこで遊んだ。担当は全体を見ながらサッカーをして行った。該当児がグライダーから降りてくるのは視界に入った。グライダーの滑りだしの位置から降りる様子は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記職員以外の2名については、1名は砂場での遊び展開、他1名は児の場所とは反対方向を向き遊びを展開していた。	至近には職員いたが、着地点に職員がいなかった	グライダーから降りてくる場所に職員を配置する	グライダーから降りてくる場所に職員を配置する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面								環境面						人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8169	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	306				98	##	##			28	22	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士衝突によるもの	2.なし	2.不期実施	2	2.基準配置	—	担任が交代で欠席確認などを行い、職員が不在になる場面や時間を無くす体制を作りを行なった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	159	—	—	2.集団活動中・子ども達のみ	—	—	1.いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し、朝の自由遊びを楽しごしていた。その後保育開始後も、いつも通り絵本を読みながら静かに待ち、絵本の出し入れも歩いて行えていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達にも絵本を読むよう指示を待ちだち方や全面の注意確認から室を離れた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	順次各部屋を回って安全確認を行なった	—	欠席連絡の確認など交代で行ない、見回りの職員と入れ替わるなど職員が不在の時間を作らないよう体制を強化する。また、声を掛け合いながら全体で取り組み日々実践の中で改善・見直しを行ないながらこまめに検証していく。	
8170	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	1	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左肘骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	10	2.基準配置	ごろ、とっとヤットとヒヤットリの事項を考慮しての安易、見過ごしとうとしてしまうがある。	小さな事故、リの事項もで共通理解を図り、ごとで共通理解を図り、日ごとで共通理解を図り、ごろ、起こる事故を未然に防ぐ。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	施設、おもちゃの点検を必要がある。	点検の機会を増やし、遊び前にも物を用いるチェックをする。	1.集団活動中・見守り	活動内容を把握し、もし起事故が事前にトラブルに対応できるかを考慮した人員配置であったか？	その活動を、目の動内容に吟味し適切な人員配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児は跳び箱に自信があり、家庭教室（体操教室）で何度か経験したことがある内容だった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象に接していた）	担当職員（外部師）が対象児とマンツーマンで跳び箱運動を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	二人体制での運動の時間。二つのコーナーに分かれて活動していたため、職員（外部体操講師）以外対象児を見ていなかった。	通常はもう一人補助教諭が保育サポートにあたっているが、当日はサポートにあたっていなかった。	状況により活動時の人員を考慮し、見守りの目を増やす。	
8171	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									2	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具から転落・落下	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	遊び後入室時、子どものおのおのの漏らし対応等で事故現場にも手薄になってしまった。	子どもたちの上に遊具が倒れ、鉄棒にもたれかかるなど、遊具の安全性を教えるとともに、遊具の使用方法を教えるとともに、遊具の使用方法を教えるとともに、遊具の使用方法

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面					ハード面							環境面					人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8174	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									2	2	16.4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上B外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	40	床に支度をしているが座っていたり、身支度ものが置いたる支度が座っていたり、身支度ものが置いたる各所にあることが要因と考えられる。	片付けの際に、支度をする場所を定め位置で決める。	1.集団活動中・見守り	手助けしている際、個々にかかわっているため、全体を見ていない時もある。	一人が個々に関わるもの際は、一人の職員は全体を見る。	1.いつもどおりの様子であった	特に帰り支度の際も、ぶつけたり痛みを訴えてきたりする様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時、全員が帰り支度をしている中で、他に助けを必要とする子ども援を要する園児についた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児が多数いるため、それぞれに対応していた。	担任に言いづらい状況にあったことも予想される。	困ったことや痛かったことなどは、すぐそこの場で伝えることや、職員が帰り職員の際に、個々とやり取りして怪我などの状況を確認して帰ると。	
8175	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26									5	3	15.3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	巧技台の周囲にマットを敷いていかった。	巧技台の可能性を考え、周囲にマットを敷き、安全面に配慮する。	1.集団活動中・見守り	—	—	1.いつもどおりの様子であった	他児と共に楽しんで活動に参加していた。	2.対象児の近児を見ていた	巧技台の安全に登れる届けたり、順番を待つよう指導していた。対象児が崩落して体勢を崩した時、他の職員と交代しようとした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	巧技台の担当職員と交代しようとしていた。	職員が交代する時に、対象児や、次にのぼる子を制止しなかった。	職員が交代する時に、職員がまだ交代子供に待つよう指導・指導する。	
8176	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	136									10	10	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	移動の際バランスを崩して転倒してしまった。	周りをよく見て気を付けて歩くよう指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き安全点検を行い、危険がないように確認する。	1.集団活動中・見守り	—	園児の行動を観察し危険予知に充分に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	歩行中バランスを崩した。	3.対象児の児離れところ対象見ていたとで児を見ていた	離れ所で園児を少し場所で他の園児の世話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他の児の片付けを手伝った為見ていなかった。	練習を再開するために慌ただしい雰囲気になっていた。	園児に対して必要以上に急がせる言葉がけや雰囲気をつくらない。	
8177	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				8	12				4	2	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	3.子も士衝突によるもの同ど	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	45	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	ぶつかることを想定した定でのルールやシミュレーションが発生しないこと意識不足	ぶつかることを想定した上で見守りでの危険予知を察知する力を育てる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に登園し、意欲的に参加していた。	2.対象児の近児を見ていた	お祭りごっこの雰囲気を楽しんでいる中で、本児の姿を近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至距離にいた)	他の職員も同じペースで本児を観察しておきとしたり、かりになったことづけをした。	園庭を走ってぶつかりそうになり、安全回避したもの、後ぶつかってしまったお互いに注意した方を走っていた児がつかってしまうというアクシデントが発生した	本児への見守り関わりを強化する。園庭で、今一度に共安全強化に共通理解を図る。	
8178	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									3	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	対象児の特性と危険箇所について、職員間の共通理解が十分でなかった。	対象児の特性と危険箇所について共通理解を図った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	段差があり、滑りやすい。	走った昇降口に、昇降口に入るまま、昇降口に入るまま、昇降口に入るまま

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8179	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									1		1	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	24	—	—	3.個人活動中・見守りあり	水筒の入れ物を人数で使用するようになっていた。	人数が分散するよう、入れ物を複数用意し、間てどお分散するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の終練習が水筒の置き場所まで走っていき、友達と接触した。	3.対象児からの目が離れたところで対象児を見ていた	全児に指示をしているが、年長児の後ろから迫り見がだんだんと転んだ、すぐに子どもの様子を確認した。年長児は、笛我慢ろう形で守った。対象児に年長児の指示をすることなく、グループ少人数で動くように配慮が必要であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ年長組は先に入室しており、ちょうど担任教諭が一人のときに怪我をした。近くにいる職員に報告や相談をしなかった。	—	—	
8180	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20			6	11	4				6		2	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	—	金曜日のあり、幼児午後の集中力や注意力の散漫なども考えられることから、普段以上に保育者の見守りの位置や幼児の様子の把握に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	幼児が遊ぶ環境において、滑い場所や危険な箇所、物などがないか再度確認すること。	3.個人活動中・見守りあり	金曜日のであり、一週間の疲れが転倒などの要因にもなる。	幼児の体調など考慮し、遊び方の工夫をする必要があった。（個々のペースで取り組めるよう砂遊びやごっこ遊びなど）また早めに室内に戻りたいゆっくりと過ごしながら迎えを待つ等配慮を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	長時間保育児の友達とおにごっこをして遊んでいた。転んだ際に手をつき、骨折したと思われる。	3.対象児からの目が離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見通しの良いところを合わせながら移動しながら守っていた。本児がすぐに立ち上がり、痛みを訴えることもないまま遊び続行していたため気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児と一緒に過ごし、遊びの見守りやはかに離れた場所で遊具を使って遊ぶ幼児の見守りをした。	—	幼児の見守りをする人数や位置、担当引継ぎ事項を再確認し、幼児の様子に変化があった場合はその状況把握や経過観察に努める。	
8181	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	273			89	96	88				15		15	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的実施	3	1.基準以上配置	特になし	今まで以上に児童の入れそうな場所を想定するなどの意識をもってアル修等に補足しく。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	遊具には関して年前に補修ぼりポイントを工済みあった年劣化で裏側にくれる数箇所確認された。	1.集団活動中・見守りあり	集団あそびの中に児童も夢中になりを含む囲が見えなくなることがあった。	鬼ごっこ等のあそびは、その範囲を定するなどその園の活動状況によって変えていく必要性がある。	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童でいつも通っている。	3.対象児からの目が離れたところで対象児を見ていた	担任は、いつも声掛けを行っていながら児童と一緒にあそぶが、この育児応日は保護者室内に対応室して、他の一職員で駆けつける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭において他児応じた対応していた。	集団遊びでは、一斉にあそぶ際には実際にひとりを追っていることは不可能である。	集団遊び等のできる前にひとつ直前に児童に伝え、他の話周知中安全面及び回避に危険ついて話を聞き、遊び中員をもその話にも声を掛ける。	
8182	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61			15	21	25				7		3	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆部骨折 右橈骨遠位端骨折の疑い	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的実施	5	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりな様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をいため、見てのいなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がけがをする直前の動きでは（走りだすとこ ろ）を見ていた。転倒する瞬間は見ていなかった	特になし	特になし	
8183	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									1		1	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的実施	240	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	引き続き安全確認を行う。	3.個人活動中・見守りあり	机の間隔が狭くなっていた。	これまで全体を見以上に渡せるよう配置を改善し、こまめに机の整頓をする。	1.いつもどおりの様子であった	他児に注意が向いた状態で歩いた。	3.対象児からの目が離れたところで対象児を見ていた	シールの確認をしてシールを貼ってしまった。帳をめくり目を少離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こまめに子供たちの様子を見ていたが、目を離したこともあった。	周りを見ながら歩くようにしようと声かけをした。	机の金具の危険性を伝え、狭い場所はなるべく通らないよう指示する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																			ソフト面					ハード面							環境面			人的面											
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																																																	
8184	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			28	13					5	5	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	無し	無し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無し	無し	3.個人活動中・見守り	テラスで出し花壇脇に置あるにきまずき鉢植えつ転倒し、左腕を打った。	コンクリート地テラスで転ぶとで怪我をする可能性が高い為、走らないよう声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	転んだ時点ではいつもどおりの様子であったが、30分後に泣いて痛みを訴えた。	2.対象児の近児を見てた	テラスで様子を見て、本児が鉢植えに躓き転んだため、痛みがないか確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊ぶ様子を見守っていたため、対象児は見ていなかった。	無し	無し	
8185	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19			5	8	6				2	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左尺骨鉤骨突起骨折	3.子も士衝によるもの突によるも	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	無し	無し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無し	無し	1.集団活動中・見守り	無し	無し	1.いつもどおりの子であった	—	2.対象児の近児を見てた	対象児を含む5人の園児と一緒にサッカーをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の園児の様子を見ていた。	ボールに対して対象児を出したところ達が当たった。	サッカーで遊ぶ際は、基本的には足を使い、手を出さないことを園児に伝える。	
8186	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	特になし	—	1.集団活動中・見守り	上靴がのサイズよりあつめであった。	手に物をもって歩気もくを時に付けるよう話し合った。上靴のサイズに合うように保護者にしてもらった。	1.いつもどおりの子であった	いつもりのであった。遊室に移動するために友達と列になって歩いていた。	3.対象児の児を見てい	クラス員なのでいるので、後方に段を中心に見守った。	全に列ていて、列に下り階子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	特になし	—	
8188	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				19	28				2	2	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	11	2.基準配置	職員の見守りが不十分であった。	全体を注意深く見守る必要がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	固定遊具の，本場降りは降りるところ無所では，本児が降りようとした。	正しい遊具の使方が出来る子ども達約束する。	1.集団活動中・見守り	—	落ち着いて約束ながら遊ぶ出来るよう，言葉かけを行う。	1.いつもどおりの子であった	固定遊具で遊んだ。本来場所では降りるところから降りようとし，バランスを崩して転落した。	4.対象児の見ていた	見守る職員は２人いたが，２人とも対象児の見動きをていなかった。泣いていた気，話くとの付き，聞く「転んだ」と訴えた為，右ほほの冷やみを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りを行った。	本児が，事実とはなることを言いたため，当日は転落したと聞いたことが来なかった。	職員の立ち位置等を配慮し，全体を見守るよう努める。	
8187	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14									2	1	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨近位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	子どもたちが楽しみにし、取り組んできたクリスマス会の練習であった。	本年度採用を断念した看護師資格保有者を採用を進める。素早い対応を可能とするため。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	—	落下等への設置（負傷者の軽減）地点のクッション性のマット等	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの子であった	体調不良などの連絡は受けていない。	4.対象児の見ていた	総合遊具が2基あり、各合遊具に監督者1名ずつで分担。他児も複数の年少児対象者の年ちのあたっていたが「早くとはく」という声近くできて、「止め」と「てう」声を耳にして振り向いた時、落下する様子を目撃し、駆け寄って対応にあたった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担当職員は、園庭側に反対側の監視として、背後に担当者のあため目撃ていない。	人的配置には限度があり、また、対象児が年長児でっかけ作の少あこと今後の教育の課題と言える。	園児に対して遊びのルールや遊具の使用方法について指導を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事						事故の転帰						ソフト面						ハード面						環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
8189	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			6	18	12	24			14	11	15.3歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左肘の骨折	2.自の転倒・突よもの衝にるの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	事故予防マニュアルを作成する。園内研修で職員間で共有する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	—	園庭でかけっこをする時ではないに、ここまでに注意	園庭がでこぼこ遊びの状態で固くなったため、足場が悪くなっていた。	地面がこぼこしていたら、ボンやシャベルで整地する。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児を見ていた	リレー遊びを見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊びの時間は常に複数の教員が園庭を見守る。	—	職員研修でさらに事故予防を周知する。	
8190	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	45									7	7	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右前腕骨骨折（橈骨骨折、尺骨骨折）	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	210	2.不定期に実施	12	—	—	3.個人活動中・見あり守り	—	—	1.いつもどおりの様子であった	日本語の理解があまりできないため、他児の関わとはうまくとはない。集団に参加することはほとんど。	4.対象児を見ていた	クラスの半分子どもが集団遊びを行っており、ここいたが、シーシーすぐ傍にある挑戦児の挑戦に挑戦していた為、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ遊ぶ子どもを見守ったり、子どもの遊びに参加したりしていた。自由に遊ぶ子どもの教室ではなく、それぞれ教室の入りでの入りでの入りでの

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8193	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29								3	3	18.6歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕手首骨折	2.自の転倒・突よるもの	2.なし	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	—	幼児の人数に対する職員の配置は適切であると考える。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	—	日々の清掃を丁寧に行い、定期的に点検整備をしているので適切であると考える。	1.集団活動中・見あ守り	—	—	1.いつもどおりの子であった	本児はドッジボールが好きで、張り切って参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス全体活動の判断で、審判を兼ねて見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの様子をビデオで撮影していてちょうど本児が転倒した場面も撮っていたので、すぐに対応できた。	—	全体把握及びを見るなど、職員の役割は臨機応変に対応しており、適切であったと考える。	
8194	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11			6	3	2			3	3	18.6歳	2.女児	—	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自の転倒・突よるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	課外授業中の様子について、外部講師との連絡が不足していた。	課外授業中について、外部講師との連絡が不足していた。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	12	予期せぬことへの配慮はあったのか	あらゆる想定し対策する事態を	1.集団活動中・見あ守り	体操教室後の確認なし。体操後が足りなかった。加えて午睡後は「子育て支援室」で静かに活動が多く異変に気付かない要因がある。	体操教室の後は(特に)変がないか見守りと人に共にも間よりと人に共にも間よりと人に共にも間より

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の内訳								教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面			人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8198	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	17									2	1	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	24	2. 基準配置	—	研修も行い職員配置も整っていた。改善策は考えられない。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	年1回ワックスがけを行うが、リッきたりようなのでの策は	1. 集団活動中・見守り	—	ホールの大きさに対し17名で、十分な広さが確保できている。	1. いつもどおりの子であった	ポール持ち1人ずつ順番に蛇に見立てた縄跳びを避けながらゴールに運ぶ運動遊を行なっている際、スタート位置とした木製の棒を落とさないまま壁に向かって走り、少しつまずいた形で壁にぶつかって転倒した。	3. 対象児の離れたところで対象児で見ていた	ホール中心部に縄跳びをくくりつけ跳び箱を設置。縄跳びを蛇に見立てポールを持ってゴールを目指す障害物となる。園児が転倒したことに気付いた保育士が至近で助けられる状況ではなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	並んで待つ園児の補助及び全体の援助を行う。動きは見ていたが至近ではない。	—	ハード・ソフト面共に充分配慮されていたが、管理者への報告までに10分様子視の時間があった為、通院までに時間を要した。最善の判断ができる様ケガや病気の症状について勉強をする。怪我の報告を受け状況を見た際に脱臼を疑い整骨院に受診したが、その後整形外科に通院することになった事から、より重大な怪我であることを想定し、まずは整形外科を受診する。	
8199	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	16									3	3	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	2	1. 基準以上配置	事故予防に関する意識が薄かった。	経験の少ない職員も多いため、マニュアルの再確認と(勉強会)の実施を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	240	—	当日の遊具点検から安全上問題はなかったと思われる。	1. 集団活動中・見守り	同士で担当任で、該遊び児の変化児の方を捉えていたが、それを共有できていなかった。それに伴う予測と危険事前にめることにも欠けていた。	個々の成長を捉え、それに応じた援助法について、意識的に共有する。	1. いつもどおりの子であった	特に変わったことはなかったクラスとして予定していた園庭を楽しんだ。総合遊具のはしごを昇って遊んでいた。	4. 対象児の見ていなかった	園庭でクラスが自由で他クラスが遊んでいた。他児の方に向き、対象遊ん場児が安定していた場所は把握していたが、動きの把握までは不十分だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスも担当職員同様、対象児が遊んでいる場所は把握していたが、動きの把握までは不十分であった。しかし、地面で泣いている対象児に初めに気づいたのは他クラスの職員だった。	異年齢混在で遊びとしよ、子どもの守りについて、責任の所在が明瞭になりやすい。	保育の計画、展開への配慮の他、職員間での声の掛け合い、見守り場所が的確であるかの意識向上が必要。「子どもが遊んでいたら遊具につくく」ということを再確認する。	
8200	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	70									5	5	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	2	1. 基準以上配置	—	危険な遊びを予測しながら、遊び方を見守ることを必要性があることを再確認する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	52	遊戯の配置、危険防止のマット等、適切に使用できた。	今後も危険防止に配慮して配置していく。	1. 集団活動中・見守り	けがにつながるような遊びをしていることが気づかなかった。	こどもの遊びの方のつい、さらに目を配ることに目を配る。	1. いつもどおりの子であった	—	4. 対象児の見ていなかった	目視にて鉄棒で遊んでいるところまでは把握していたが、展示ろくて本児が物として触れる様子に気づけなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	目視にて鉄棒で遊んでいるところまでは把握していたが、展示ろくて本児が物として触れる様子に気づけなかった。	—	年齢によっては一人だけを見ていることが難しい状況ではあるが、大きなけがを防ぐことに事前に気づき、未然に防ぐことが出来るようにミーティング等で研修していく。	
8201	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	24									4	4	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折	4. 玩具・遊具施設・設備の安全上の備不によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	—	マニュアルの再確認。職員の連携の確認。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	2. 不定期に実施	12	—	事故の原因の●●を排除する。	1. 集団活動中・見守り	職員がそわそわずかに離れた対象児が予期せぬ行動が起った。	子どもが離れる時は周りの職員と連携をとる。転倒が考えられる遊具は固定しておく。	1. いつもどおりの子であった	好奇心からこれまでは行動をした。畳んで片づけある●●の上部●●に手を伸ばし力が加わり●●がバランスを失い転倒した。	4. 対象児の見ていなかった	対象児が遊戯室から飛び出ないことを確かめた後、担当は対象児が発表会に参加できるよう物を事務室へ取りに出た。すぐに戻ったが●●が倒れた際に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	発表会の準備をしている職員、クラスの園児を見ている職員がいた。	—	場を離れる他の時は、他の職員と連携をとる。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
						発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8202	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32								11	7	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	8/●頭部嘔打撲、脱水症 8/●右頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫	2.自らの転倒・突よるの衝	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員の数は十分だったが、活動の進め方・配置に改善の余地がある	子ども達がバラバラにならないようグループごとに動かす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	ほぼ毎日	—	ハード面は要因はの考えられない。	1.集団活動中・見守りあり	お泊り保育という普段と違う状況の中、活動の合間に起きた。	興奮気味の子ども達の心情にも配慮した職員の見守りが必要。	3.いつもよりも活発であった(理由を記載)	支度が遅れて、グループに戻るのが最後になり焦っていた。	2.対象児の近で見ていた	近くにいた職員が走らず移動するよう声かけしていたが、転倒は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ場の持ち場にいて、見えない場所もあった。	—	活動の合間であっても、グループごとに動くなど職員の見守りを強化する。	
8203	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26								2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	右脛骨骨折	2.自らの転倒・突よるの衝	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	子ども自身の危険回避能力が不足している。	遊具や運動用具使用時には、足や手を置く位置等を必ず目視するように指導する旨を職員間で周知。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	事故予防を原則とし、常日頃より遊具の不具合は必ずに修理する。	1.集団活動中・見守りあり	本児が渡れ安心して、着地までの援助をなかった。	梯子の渡り始・終は落下リスクがあるが、特に終点を重点を置いて援助をうにする。	1.いつもどおりの様子であった	梯子を渡り切った後、足をバーに乗せ右足を打ち、下のマットへ落下	2.対象至児の近で対象児見ていた	雲梯の中央立ち、子ども1人ずつ順番に渡るを見守り番でをて対落下瞬間を差しに合わかった。	中に子が1つるる守っており、児が手伸ばたがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの半数程（13人）れ、鉄別の場所で棒の活動をいた。	遊んでいる慣れた遊具の使用している最中は危険が伴う意識が薄れていたかもしれない。	子どもが遊具をやり終えるまで見届けることを職員に周知する。	
8204	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22								2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手指）	左腕上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいた遊具であり、本児は慣れた様子で遊ばおり、梯子に掛けた足を滑らせた拍子に手が離れて転落した。	子どもがいろいろな遊具を使って遊ぶ中で、安全面を意識したり自分で体を動かして調整したりする力をつけるように工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いた様子で一人で遊んだ。他児トラブルもなかった。	4.対象動児の見ていた	離れたところで他児のとボールを遊んでいた為、見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は、砂場にいた児の為、園児を目の離した。	対応して見ていない。本児の「痛い」という声に気付き、駆け寄った。	園児がそれぞれ好きな遊びを楽しんでいた為、遊具から転落するとは思っていなかった。	あらゆる可能性を考えた上で、個々の園児の子どもをしっかりと見守り、全体に目を向け対応する意識を高めるようにする。	
8205	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30								2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	左足の中指の骨折	3.子ども士衝突による同の	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故発生防止の指針が活かされていなかった	教育・保育・事故防止マニュアルに対し危機管理能力を高める日頃からの教諭からヒヤリハットの管理を・事故発生の為に改めて安全な教育・保育環境を確保するための配慮を行い、職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	衝突した場所は、幅が狭く子どもが密集していた。	状況や人数に合わせた設定をし、これまで以上に危険に対する職員を高める。	1.集団活動中・見守りあり	危険を意識する掛け声を、事前にもっと具体的に伝えるがあった	遊ぶ場所の広さや人数の活動に応じた人数を必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は当日事故故障も変わりなくも活発に体を動かしていた。	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	担当職員の内、一人は全体を見渡せる場所にいる子ども、1名は主にゲームの進行役を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスで保育中だった為、●階ホールには担当職員以外居なかった。	危機管理意識を、さらに高める必要	状況や人数に応じてゲーム参加人数の調整をし、子ども達に日頃から考えるような機会や経験する場を作る。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8206	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	2	6	5	6	9	15			7	7	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左母趾打撲傷	8.その他	1.あり	2.不定期実施	12	2.基準配置	本児が水筒と靴を一緒に持ちとうとして水筒が足に落ち右足指を滑りて親指にぶつけてしまった。	以上児クラスの集会などの際に、水筒は両手でしっかと持つ事を繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	なし	7.その他	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	本児はいつも通りの動きで被る帽子や水筒を持ち園庭に出ようとしていた状況であった。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	他児の受けし入れや、欠席連絡の確認をしたりしながら守いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は園庭で子どもを受け入れていた。	職員は登園してくる子、園庭で遊び始めている子、席連絡の確認なしで、それぞれが子どもに声掛けを行い守り行お近くの子の見守りが出来ていなかった。	少し離れた場所からの見守りとなって状況でも、あって声かけはしっかりとする。	
8207	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11									3	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	前日や、当日の朝の天候により、遊具が濡れていて滑れる場合がある。	目視した他の職員がしの職員の連絡をして、濡れたところを拭き、滑らないようにする。	1.集団活動中・見守り	なし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず遊具で遊んでいたに慣れたのきたか、ちょっと部分がんだ部分がある。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	他児が遊具の部分から登っていたため、こちらの園児の側で園児について。(この園児が、本児遊具がよりに慣れていなかった)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	本児は、普段から遊具に慣れていたため、保育が大変であろうと思った。	遊具に慣れころな危険に配慮した保育教諭の一番危ない場所を再確認することを、寒がりやすいことから手がかじかむ温度とも考えられるため、その日の気温等も頭に入れ、園児の遊びを見守る。	
8208	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	52			11	11	13	17			4	4	15.3歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	裂傷	2.自らの転倒・突よるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	ケガの部位の確認を複数で行っていなかった。床が濡れていたことに気づいなかった。	ケガの部位の確認を複数人で行う。床面が濡れていたらすぐに拭く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	備品の損傷に気づいなかった。	備品等の点検時は細かい部分までチェックする。損傷箇所の修繕。	6.食事(おやつ)中	食後のお昼寝時間までの間帯で職員の具体的指示が本児に通っていた。	身体を動かしていい空間に誘導する。手洗い場に連る。乾性のマットを設置。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	当該児の衝動性の高さ	身体を動かしていい空間に誘導する。	
8209	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	99			15	22	34	28			8	8	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左Monteggia骨折(尺骨骨折＋橈骨頭脱臼)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	2	1.基準以上配置	遊具を使用しない遊びの時間で、危険予知が甘かった	子ども達への安全指導の再確認と場面に応じた声掛けを行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	今後も毎日の点検と遊ぶ前の事前確認を行う	1.集団活動中・見守り	2～5歳児クラスが園庭で遊んでおり、一人一人に目が届いていないところがあった	職員配置の再確認度見直し、子ども達への安全指導の徹底	1.いつもどおりの様子であった	遊具を使用していない時間だった、友達とかけっこしていたことを遊ぶ様子だった	4.対象児動きを見ていなかった	他の園児と鬼ごっこをしていた、対象児が確認できていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周りの職員も担当クラスの園児と遊んでいて、対象児の動きを把握していなかった	子ども同士が周りを見ずに行動してしまった	園庭の遊び場所（広い場所でも周囲に気を付けながらことのの大切さなど）や、職員同士の配置やそ声掛けをそのの場に応じて行うようにする	
8210	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				21	24				3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右尺骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	4	2.基準配置	—	転倒することも多いので常に気を配ったり声かけを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもたちにとって危険箇所がある場合はすぐに報告していく。	1.集団活動中・見守り	—	縄跳びの安全な遊び方や跳び方、ロープの正しい使い方を伝え、気をつけながらあそぶよう声かけ・見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	長縄跳びをしていた。	2.対象児の宅対象児の近対象児見ていた	縄跳びを回しながら守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各場所に分かれ、他児と関わった、見守り、見守りを行っていた。	縄跳びを勢い回すよくしたため、ひっかかりやすかりすを取られやすかったと思われる。	縄跳びを回すときは、引っかかっも足を取よりられないようとゆっくりと回す。こども達にも安全な縄の回し方を伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面								環境面				人的面							
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8211	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90					45	45			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左眼眼窩底骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	—	園の危機管理マニュアルで過去の事例を学ぶ際に、今回の事例を用いて研修する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	園庭等、危険な箇所を点検し、職員が周知する。	3.個人活動中・見あい守り	—	子ども達で遊んでいる時も、危険のないよう見守り、個別に声掛けなどをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、複数人の子どもと鬼ごっこをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	給食の時間を知らせに、子に声掛けをして回っている時だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が園庭のいろいろな場所に立ち周囲を見守っているが、一瞬の出来事でその時に気づけなかった。	—	保育者の危機管理意識を向上させ、再発防止に努める。	
8212	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見あい守り	他の学齢の子どもたちが、園庭で様々な遊びをしている状況であったが、広い場所が確保できず、園庭の隅(遊具、手洗い等に近い環境)で行っていた。	広い場所を確保しドッジボールを行うようにする。周りの環境に配慮しコートの設定をする。(向き、大きさ等)子ども達は必死でボールを追いかけるため周りが見えていない。遊具の下、狭い場の通路など危険な場所でも追いかけてしまう為、事前に安全に遊ぶ為のルールを確認する。必要に応じて、ボールを立てる等危険と思われる個所を視覚で確認しやすいようにする。	1.いつもどおりの様子であった	元気にいつも通り登園	2.対象児至近距離で見ていた	2mくらいの場所から守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一緒に活動していた他の子を見ていた	担任保育教諭2名の内1名が遅番勤務の為、代替パート保育がジボルをしている子どもたちを見守っていた。	代替職員についても安全面に配慮事項について、確認、連携ができるように研修・引継ぎ等を行う。	
8213	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	18									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	特になし	1.集団活動中・見あい守り	バランスを崩した際に、支えることが難しい状況がある。	転倒の仕方を練習したが、子どもたちが転倒することを、常に想定しながら対応できる体制を作っていきたい。	1.いつもどおりの様子であった	職員が見守る中、スケート場内で座る・転ぶ・立ち上がる練習を繰り返した後、場内出口に向かって歩いているときに、バランスを崩し転倒。氷の床に体から肩重体勢となった。	2.対象児至対象児の近距離で見ていた	2m程離れた場所で転倒する児童を目撃する。すぐに駆け寄り場外へ運ぶ。椅子に掛け、児童の転倒時に打った個所の確認をする。離れはなかったが、痛みが強く動かせない状態のため園へ連絡を入れる。園の職員より病院・保護者へ連絡を入れ受診ができる体制を作った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児に職員つくと、活動中の園児を見守る職員と分かれ、園児の安全を確保できるようにした。 報告を受けた職員は、至急、病院や保護者との連絡をとった。	特になし	特になし	
8214	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46			14	16	16				4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手指)	顆上骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	毎週●曜日に同じグループで毎日時間・ループとの数で少人数で行う配慮し、年間を通して取り組んでいる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	床の状況を始まる前に確認しておく。	床が滑らないように確認しておく。	1.集団活動中・見あい守り	転倒した時に手出せず、右に手が上がってしまった。手の身体が乗っかった。	毎週●曜日に同じグループで行う時間・ループとの数で少人数で行う環境は変化せず、年間を通して取り組み身体の発達を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	リズム運動をみにはしてもらいんでいた。運楽しし、きっ取り組	3.対象児離れたところで対象児見ていた	リズムに合わせて動きに行っていた。児ノの音で出すものとこころを見ていた。運動を一緒に行った。本ピアがピアの音で出すものとこころを見ていた。転んだ時、だ状況を見て本児すぐに駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が動き出し転倒する様子をいた。他の子どもたちが不安にならないように対応した。	素早く出た動きすため、バランスを崩した。	ピアノの音を聴き素早く動き出す注意事項を集会時の中で子ども伝える。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8215	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子も士同の衝にるもの突よ	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	なし	職員会議に事故報告し再発防止に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		なし	教室から廊下、テラスが見えないため、廊下とクラスとの出入きは、ゆっくりとテラスに移動する	1.集団活動中・見守り	広場に行く際に職員もついて歩いて行く必要があった	移動の際は、一緒にいき、歩くことを伝える	1.いつもどおりの様子であった	音楽が流れると、園庭にいつもの子どもはいるので、想はいた	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	いつもと同じ行動だったことに、園児たちが遅れて一緒に行くことがなくなったしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	いつもと同じ行動のことと考え事故を招いた。様々な状況を想定し、担任同士確認していく	歩くことを必ず伝える	
8216	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	186	4	11	16	50	52	53		36	26	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右鎖骨骨折	2.自の転倒・突よるの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員は乳幼児がどのような事故を起こしやすいかについて学んでいたが、対象児が転んだときの状況や様子から鎖骨骨折をしていると言う考えに至らなかった。受傷した時に、骨折等考えうるけがの知識を身につけておく必要があると感じた。	外傷がなくても園児が痛みを訴えるときは骨折に異常がないかあるしれない等の考えをもって対応していく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	120	事故発生当日は晴れていたため、芝生で滑ることは考えにくかったが、段差や転倒しやすい箇所等を事前に把握しておくべきだった。	事前に危ないところをチェックし、園児が立ち入れないようにする。また、注意すべき点については、園児に呼びかける。	1.集団活動中・見守り	—	普段より遊んでおり、いつもと変わらなかった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段と変わりなかった。最近戸外で遊ぶことが増え、事故発生も他児とごっこ鬼をした。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	担任は体育館（遊戯室）で他児とドッジボールをしていた。遠く児童が見えるが、対象児が転倒するのを見えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいた諭は周りの子ども達を見守っていたが、対象児はごっこごっこで鬼ごっこしており、教諭の背中側で転倒した為、その様子時を見ていなかった。	対象児受傷の際子が対象の様子を見ることができていなかった。	園児の年齢・月齢に関わらず、そばにいる職員は園児の動きに注意して見守っていく。	
8217	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	4	16						9	8	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児は身体が利くという安易な判断で傍についていかない。また、バランスボードにまたがると両足がまたがないと地面につかないことは把握できていなかった。高さ４０～５０ｃｍは1歳児にとって無理があった。	マットを敷いても、高さある所には職員が付くに職員ちどけ。職員の立位置を掛け合う。セッティングエーションを間で話し合う。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	セッティングに無理があった。バランスボードの取扱説明書を確認し月齢に合ったセッティングをする。月齢により発達段階の発差が大きい1歳児では、一枚のボード単体使用から枚数を増やしたり、ブロックの下段から2段目までのスリットを使って高さを調節する等の環境構成の配慮を行う。	1.集団活動中・見守り	・日頃かそんらあおり、危機感がなかった。・バランスボードは揺れても動きがに慣れていなかった。	楽しくあそびつつ、バランスボードの使い方や特質、遊びのねらいなど職員間で保育計画を立てていく。また、子どもも1人1人の発達段階を把握した上での環境構成を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	身体をってあそこと、ぶ上具をを使ぞ好みを遊り下りしてよい。	4.対象児動を見ていなかった	子ども全体の近くに達は身の上手くなかった。本児ことが上頃安心して日様子ていを見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員が状況落ち着いていた。	0.1歳児の異年齢児の動きのあるホールで見ていくと難はが、児がどこをしてあそんでいるかを見ていくことが必要あった。	日常的に広い場所や目が行きにくい場所で、子どもの活発な動きをどう対応し把握していくかを話し合いながら、職員の立ち位置・分担を再確認する。手薄の所は声を掛け合っていく。0.1歳児の異年齢であそぶ際は、興味や身体発達をより理解し、幅広い環境設定や職員の配置に心がける。	
8218	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	56								8	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨折顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故防止に対する研修会を今後増やす必要がある。	事故防止に委員会策の日ごとにその改善をのうち検討する改善をするよう。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	3.未実施	0	普段とは違う施設外での環境であったため、公園内の状況や遊具について（年齢に合わせた遊び方など）の事前の情報収集が不足していた。	事前の下調べの際に、園児が遊ぶ遊具についても確認をし、当日はそれにもとにそれ園児と遊び方のお約束をする。	1.集団活動中・見守り	事故の瞬間を保護者、担任、職員が確認できていなかった。	子どもから目を離さないようにお願いしお動前ども活動者をさうをに保護者へ向けて周知する。	1.いつもどおりの様子であった	当該児の体調は良好であった。	4.対象児動見ていなかった	公園の敷地が広く、園児も保護者と様々な遊具で遊んでいたため、担任は公園内をおり、事故発生の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任同様、副担任や他の職員に関して見回りをした。	決められた守り所なく、職員ばらばらに動いていた。	各地点に職員を配置し、見守りが行きにくい場所がないように決めておく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8219	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29									6	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折 顆上骨折 経正中神経麻痺	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	体育教室を毎月専門講師と共に行っていたが、跳び箱の補助留意点を聞くことなかった。	運動器具を使った危険予測、危険を伴う子どもの動き、補助方法を体育専門講師の研修受講。事故発生時マニュアルの再検討・作成・改訂。リスク管理の研修受講。月１回事故防止のチェックリストを用いて自己点検・評価・グループ検討を行う。年１回救命救急講習受講。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施	マットが跳び箱高薄い。跳び箱という高さでした。	特になし	7.その他	1.集団活動中・見あ守り 体育教室専門講師と共に行っていたが、跳び箱の補助留意点を聞くことなかった。事故当日は、当専門講師おらず、担任のみであった。	開脚跳びは専門講師が不在の時は行わない、運動に向かう気持ち・態度を育め保育者の関わりをする。補助方法に少しでも不安がある場合はいかなる運動でも補助方法の指導を徹底的に受け る。研修やチェックリスト、職員間での気付き合いを通じて、危険リスクの知識やその関わりを習得し保育にあたる。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	運動会リサルで多数の職員が見ていて、たちは自分の身にも気が高まり見られ気持ちが高ぶった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	跳び箱の開脚跳びの補助として、保育教室は横にはいたが、普段跳べべて児童と、すること、補助を認識する欠けたこと、、開脚時当とし離れた足ることを懸念し離れたことを少したに	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リハーサルで、親客と位置に、園長・主任・副主任を含む教育教諭4人が見ていた。	普段の補助を担任のみで行っていたため、補助方法に疑問を時もあったが普段にやった方が良い思い指導をしなかった。	開脚跳びでは専門講師の補助は専門講師が受講し、職員で合補助方法の修を全職員が受講し、気付かせ合いを行う。	
8220	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	41									3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折→烈離骨折(軟骨)	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	バランスボールから逃げるため、夢中になりすぎて他児とぶつかってしまった	時間を区切って少人数で活動するなど、活動内容の見直しを行う	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	—	特になし	7.その他	体操教室専用使用も置あったため、狭くていた更なった	体操教室専用使用する用具も置く場所を確保する、活動内容の見直しを、数での活動になど	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体を動かすことが好きで、ものすごく積極的に参加して、夢中で組んでいた取り	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	体操教室の講師が操作するバランスボールを入れ視野にいたが、子どもがぶつかりないように見守っていたが、本児倒しもたちがぶつかりないように見守っていたが、本児倒しが転倒した瞬間はできなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体操教室の講師がバランスボールを入れ操作すが視野にいたが、子どもがぶつかりないように見守っていたが、本児倒しが転倒した瞬間はできなかった	転倒直後は痛みや腫れはなく、本児が痛みを訴えたのは16:30だった。足の様子を確認したが腫れがなく、様子を見ていた。17:50父親が迎えに来て、腫れを確認した。赤みや腫れがなくとも、冷やや処置や保護者連絡をすべきだった。	本人が痛みを訴えた時点で、いろいろな状況を視野に入れて看護師を含め、複数で確認し、処置を行う。	
8221	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	48			14	17	17				4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折 顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	—	園庭危険マップを再度確認し、記載する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	遊具に慣れて遊び方が大きくなることができかった。また、温かいため、温いなかった遊具ことを離しまったことを	特になし	1.集団活動中・見あ守り 年少、年中、年長クラス当日、各クラスの担任が園庭で遊ぶ子どもたちのたいをにしなを考え守ってふように子どもたちのやり気持切が安全方に決を一緒に遊び、体をかけ冷えた場マラしてな体をかソンから遊ぶ。	年少、年長クラス戸外でおんでお、各クラスの担任が園庭で、見保育教諭が園庭で見少た保育教諭が出全体ながら、園庭にいる保育教諭同士連携し場所にいため、差しこできた手伸べることができかった。	雲梯で遊ぶ子どもの雲梯に限危険を徹底する。雲梯に限危険に思われず保育士が見ている状況をつくり、園庭にいる保育教諭同士連携し声をかけながら、子どもの様子を見守る。	1.いつもおりの様子であった	徒歩で母親とともにいつも登園した。	4.対象児の見ていた	他の場所にいて、他児を見ていたため、見てなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所にいて、他児を見ていた、見てなかった。	—	いつも通りも遊んでいて遊んでいるとも思っても、危険個所にくいる職員同士が声を掛け合い、子どもの様子を見守る。	
8222	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	80			24	27	29				5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折 顆上骨折	2.自らの転倒・衝突よるの	1.あり	2.不期実施	1	1.基準以上配置	特になし	余裕のある職員配置を行い、怪我等あれば速やかに園に連絡を取る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	整備された共の公園にくしたが、箇所をつけたきは、管理者に	1.集団活動中・見あ守り	特になし	園内園外を問わず、体を動かす機会を増やす	1.いつもりの様子であった	健康状態は、特に問題なく、歩行通りは通常であった。	2.対象児の至近で対象児を見た	至近で、対象児と一緒にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近で、担当者・対象児と一緒に歩いていた。	特になし	つまづいて転ばないように、歩増やすなどして、体幹を鍛える	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析							ハード面							環境面			人的面							掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事					事故の転帰						ソフト面					ハード面							環境面			人的面							
			施設・事業所種別			発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名																								
8223	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	37									4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員の配置は基準をみたしているが、園庭が広いため職員の目が行き届かなかった。	園庭で遊んでいる時も常に目を配って安全確認をする、マニュアルの周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見あり守り	重さのあるブロックが園児の目の届く所に置いてあった	危険、事故につながるものは、園児が遊ぶ場所に置かない	1.いつもどおりの様子であった	ふざけた様子もなく、情緒も問題なかった	4.対象児の動きを見ていなかった	常に目を配らせて園児の様子を観察しているが、ウッキ子ドッキにいる子どもの様子を常にみているわけではなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	常に目を配らせて園児の様子を観察しているが、ウッキ子ドッキにいる子どもの様子を常にみているわけではなかった	特になし	園庭遊びのときは、ウッドデッキや別の場所に移動して遊んでいる園児、遊具の裏側にいる園児にも気を配る	
8224	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員の配置は基準をみたしているが、園庭が広いためサーキットで遊んでいる園児全てに職員の目が行き届かなかった。	転んだり、落ったりして危険な遊具のそばには、必ず保育教諭がついて安全を確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見あり守り	特になし	大丈夫だろうと過信せずに、細心の注意を払う	1.いつもどおりの様子であった	特にふざけた様子もなかった	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	対象児が平均台からすべった所は発見したが、間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が平均台からすべった所は発見したが、間に合わなかった	特になし	子どもにも安全な遊具の使い方を再度指導する	
8225	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70			10	20	40				7	7	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	定期的にマニュアルを見直すなど、けが防止のための意識を常に持つよう職員間でも心がける。	1.定期的に実施	約300	1.定期的に実施	約300	1.定期的に実施	約300	—	設置しているボールは突き指防止のためソフトなものを購入していた。引き続き今回のような事故を想定しるできるような素材のものを用意したい。	1.集団活動中・見あり守り	—	周りの遊びの状況や、園庭（地面等）の状況など安全に遊べる状況であるかを見極め必要に応じて判断し対策・実行していく。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児至対象児を近見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1対1のボール遊びであった。	—	1対１の遊びであったが、子どもの様子をよく見て必要に応じて、ボールの受け止め方などを事前に指導する必要がある。	
8226	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	27									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	皮膚潰傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認を行う。	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	特になし	園庭の環境の見直しを行い、広い場所が確保できるようにする。	1.集団活動中・見あり守り	特になし	集団遊びは出来るだけ広い場所を確保して楽しむ。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り、母親と登園。	2.対象児宰対象児を近で見ていた	園児と一緒に取りながら指導。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では、●組活動のみが活動中だため、担任、補助職員2名で把握。	特になし	しっぽ取りは、友達と逃げたり追いかけたりすることの楽しさがあるが、眼鏡を着用の園児には特にぶつからないよう配慮する。	
8227	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	外傷性陰茎挫傷・外傷性左迫切精巣破裂・左精巣委縮・左精巣機能低下	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	お昼ご飯の自由時間については２名配置とした	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	52	—	今後も施設・設備の点検は週に１回以上行っていく	1.集団活動中・見あり守り	—	お昼ご飯の自由時間については２名配置とする	1.いつもどおりの様子であった	帰宅後、痛みを訴えた	4.対象児を見ていなかった	全体を見ていたが、瞬間を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	監視カメラより事故発生時と思われる時点を確認したが、発見できなかった	—	事故の発生について職員で共有するとともに、大切な子供を預かっている自覚を再度子どもたちから目を離さないように、また普段と違う様子に気付けるし合いを行った。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8228	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	2.不定期実施	2～3	1.基準以上配置	特にありません	特にありません	1.定期的に実施	1～2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎	特にありません	特にありません	1.集団活動中・見守りあり	他児と保育室内で回り遊んでいた際に転倒し近くにあった椅子に口元をぶつけ負傷した。	使用していない椅子は片付ける。移動の際にはテーブル足下に一時しまうなど通行の邪魔にならないように、環境構成に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	他児と保育室内で遊んでいた際にバランスを崩して転倒した。	2.対象児の近く対象児を見ていた	教育時間終了後のもたりこどもの保育を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・教育時間から教育時間外への移行への引継ぎを行っていた。・隣の保育室で他の学年の2号認定の子どもたちの保育を行っていた。	子どもたちの動きや遊びの様子は捉えていたが、動きや遊びから怪我につながらないかの予測が十分だった。	・子どもたちの遊び方を見つつ適切な声かけを行う必要がある。・子どもたちが自身で遊び方に気をつけられるような日頃の指導が必要である。	
8229	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78			20	20	19	19			4	3	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	1.定期的実施	1	2.基準配置	コロナ禍において水筒を常に持っている。	水筒を持って歩くさらに注意である。	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	1.定期的に実施	毎	歩く場所はゴムチップがあり、特に問題はなかった。	ゆっくりよく歩く、更に必要であり、指導する。	1.集団活動中・見守りあり	該当児の方が弟が園児に振り返ったのかきっかけで転倒する。	引き続き、ゆっくり移動する様、指導する。	1.いつもどおりの様子であった	バスを降り、箱に向かって歩いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	バス担当、門担当、園担当当、担当それぞれ見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園内、それぞれの担当場所で見守っていた	水筒を持っているので、転ぶとぶつける可能性はあった。	ゆっくり歩いたりくようと、指導する。	
8230	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員の配置により配慮が手薄になってしまう場面がある。	事故発生の際には再発防止に向けた職員配置、ルールの検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭上には人工芝がありしいて段差等で躓きやすい。	人工芝を定的に敷き直し、人工芝の境界限設のべグれも埋めるようにしっかり固定を行う。	3.個人活動中・見守りあり	職員による見守りの不足	水分補給の場と園庭それぞれに職員を配置し、子ども達が急いで園庭に戻ることのように声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	水分補給を行い、再び園庭に戻ろうとした。	2.対象児の近く対象児を見ていた	水分補給を見守っていた。年長児であったため、水分補給が終わり次第、子ども達を集団で移動させず、個々に園庭に戻していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で戻ってきた戻った子の外遊びを見守っていた。	水分補給をしていた場と園庭の中には間監視がいなかった。	水分補給後戻各自ではら一斉に園庭に戻掛けを行う。また職員を配置し危険の無いように努める。	
8231	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5趾骨骨基節骨折	2.自らの転倒・突よ衝にるの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	—	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	扉が中途半端に開いた状態になっていた。	扉は中途半端に開けたままにせず、完全に開けるか、閉めるかを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	夏期で裸足保育を行っていた。	裸足の利点も考慮しつつ、もう一度裸足保育が必要かを検討していく。	1.いつもどおりの様子であった	トイレにくため、保育室を出ようとした。	2.対象児の近く対象児を見ていた	トイレに行きたいという対象児を出し、あった他児の指示活動の指導を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で活動であった他の子ども、職員はいなかった。	対象児が前をよく見ず、歩きだしていた。	前を見て歩き掛けをし、他に集中が削がれないように注意する。	
8232	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63									4	1	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左頬骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	配置はしていても、踏み外して落下することを瞬間的に阻止することは難しい	・マニュアルの再確認、安全確認MAPの作成をし、教職員で情報共有する。・職員配置や見守り位置や等を再度話し合い、教職員一人ひとりが十分に配慮するようにした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	前日に雨が降って木が少しやすくなっていた。	・子どもが登りをする場所には衝撃吸収マットを敷く（安全確認MAP）。・細い枝は払い、登り降りしやすいようにする。	1.集団活動中・見守りあり	いつも足を踏み外すのか予想できない	・配慮が必要な子への対応を見直し、突発的な事態が起こらないようにその時にできる最大限の配置、配慮を心がける。・他園の環境や教職員の連携方法を学び参考とし、取り入れたりしていく。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中であった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	学年担当は室内の子は着替え援助していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故が起こったは、戸外には教職員2名、保育補助員1名だった	特になし。	・見守りの現場を離れずに、教職員同士が連絡を取れるようなシステムや体制を整える。・教職員一人一人のスキルアップをし、個別配慮やその場面で必要な対応を学び実践していく。・どのようにしたら配置を増やせるか、外部からもアドバイスをもらいながら考えていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																					掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8233	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49			20	13	16				5	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	常に広い視野で見渡せる保育教諭、保育従事者がいなかった	日頃のヒヤリハットの見直しと、事故防止マニュアルの見直しをする	3.未実施		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	295	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	足首を引っ張っての園児への安全指導する。全園児の遊具の使い方を指導する。	予想が出来にくい行動だった	1.いつもどおりの子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	高い遊具(すべり台等)の見守り等をして、対象児から離れたところで見ていた為、転落した瞬間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児のうんていの補助をしながら見ていた為、間に合わなかった。	ライオンの固定遊具そばに、保育教諭がいなかった。遊具での遊び方の指導が充分にできていなかった。	園庭で遊ぶ時の保育教諭の配置を考え全体に届くようにする	
8234	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21			10	7	4				2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓損傷	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	2.不定期に実施	1〜	2.基準配置	怪我発生時の対応知識不足、及び職員間の連携不足	事故の振り返り行い、分析・研修を行う	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	複数の環境を提供したこと、安全面での意識の低下に繋がった。	保育提供前に事前に保育環境の安全確認を行う。	1.集団活動中・見守り	遊びの内容や環境構成を考慮すると、保育教諭1名で保育を行うことは難しい状態であった。しかし、現場の職員が判断することができなかった。	新しい環境を提供する前に複数の職員で環境を確認し、必要に応じて環境の再構成を行う。	1.いつもどおりの子であった	いつもとは変わらない様子であった。	4.対象児を見ていた	活動全体を見ており、本児の注視していたタイグ故た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に職員を2名配置していた1名は園庭横のテラスにいた為、事故が起こった際、気付けなかった。	保育教諭が怪我の程度を自判断し、すぐに告げること。	職員間での密報連相を行うことで事故の可能性の低減に努める。	
8235	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上肘骨折 顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	落下した時に手が先に出なかったので、すぐ出た手が、子どもの身体の機能を高め体幹を鍛え、機敏性をつけたりする事ができる遊びや活動を取り入れる。	1.集団活動中・見守り	—	落下した時に手が先に出なかったので、すぐ出た手が、子どもの身体の機能を高め体幹を鍛え、機敏性をつけたりする事ができる遊びや活動を取り入れる。	1.いつもどおりの子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5歳児17名 保育者7名 1名保育補助1名 鉄棒付近にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちも遊んでいた。	全体を見る人がいなかった。	2人共子どもと遊ぶのではなく、2人のうち1人は全体を見るようにしたい。	
8236	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	31									2	2	15.3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・突よもの衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの子であった	寝つきに時間がかかり、布団に寝ていたが、起きて上がった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	眠れない児に1本時間程度関わったが、静かに横たわっておくように声をかけ一旦離れたところ、本児が起き上がり窓に近づいたため迎えに行った。自分の布団に戻った本児が転倒のを見てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	眠っている他児の午睡時の見守りをしました。	いつも眠れなくて布団に静かにしているとき児がもぞもぞすると測れなかった。	起きている子ども保育教諭がすぐに対応できるように見守る。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8237	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)												17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	すぐに聞き取りを行い、状況を確認し判断を適切な行った。	降園後、保護者受け渡し後の園内での事故であるため、受け渡し後は速やかに降園し、保護者が安全確認、見守を行うように徹底、周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	37	2.不定期に実施		遊具については安全性は確認されている。トラブルによる誤った使用の仕方が原因である。	特になし	7.その他	教育・保育終了後で園児のゆるみによる危険認知が低下していた。	終了後においても家に帰るまでは危険個所や危険なことが生じることあるを、伝えることに対する認識を園児達と再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり降園を行い、落ち気保着いた保護者のところに向かった。	4.対象児を見ていなかった	園児引き渡し後のため、事故後は保護者周囲の園児の状況確認を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員からの通報により、他の職員も怪我や事故状況の確認を行い、適切な対応を行った。	特になし	降園後、保護者受け渡し後の園内での事故であるため、受け渡し後は速やかに降園し、保護者が安全確認、見守を行うように徹底、周知を行う必要がある。また、保育教諭も園児が園を出るまで、安全確認を行うようにする。	
8238	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	12									4	4	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯欠損	2.自の転倒・突よるの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	散歩の際は園舎に入るまで、保育士はそれぞれと手をつなぐ、走りながら小走りにならないように歩くスペース気をつける	3.未実施		1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	50	—	今回、事故起き学齢の●園舎は園で年城工であり、園舎の安全点検は各担当クラス任ぐで行っている	1.集団活動中・見守り	あ	—	散歩での乳母車の活用	3.いつも より活動で あった(理由を記載)	散歩から帰り道、園舎の近くに加え保育士が手を離しることが出まってた	2.対象児を見ていた	12名の子ども達は保育士は最前列、最中央、最後尾の3人で見守りながら歩いていた。手を離した直後の転倒であったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩列後の保育士は担当が担当する子どもを見ていたので、怪我をしたクラス子どもの動きを見ていなかった	前育の保育士は自分が担当する子どもを見ていたので、怪我をしたクラス子どもの動きを見ていなかった	保育士は自分が担当するこどもだけに目を向けていなかった	引率する保育士は担当の子どもだけで全ての子ども達に神経を働かせる	
8239	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35		9	5	12	9				5	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性Per	2.自の転倒・突よるの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	障害物のあるくでもナーで遊び場所で区切り、体を動かすできる場所をすることもテーピアノなどの走るはあるこの子どもたちに指導する。	遊戯場際コーで遊ぶ、かかをる場保とスやなくこと危険といをるこ、ジやピアノ障害物くこと危険といをるこ、ジやピアノ障害物くこと危険といをるこ、ジやピアノ障害物く

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】										理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8241	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	保育士を2名配置していたものの、その園児に対する目の行きが届きができていなかった。	職員全体で情報を共有し、安全対策に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	天気が悪く滑る状態である事を把握していなかった。	一人ひとりの園児に目を向け、何をしようとしているかを読み取る。	1.集団活動中・見あ守り	保育士が目で追っていなかった。	一人ひとりの園児に目を向ける。	1.いつもどおりの様子であった	お絵描きをしていたが、本人が終わった事でカバンに一人で始末に行ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士の目の行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	机に座っている園児に目をとめ、被害者を向けていなかった。	”危険である”という認識及び声掛けが不足していた	園児はどの様な動きをするかを把握して、死角部分を作らないように努める。	
8242	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	必要性が低い場合は戸外へは水筒を持っていかず、保育室で飲んでから戸外へ行き、戻ってから飲むようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	—	常に子どもの動きに気を配ろうにする。	1.集団活動中・見あ守り	—	水筒にひもを付け、肩にかけて移動する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外へ出ために並ぶて待っていた。	2.対象室児の近象児を見た	電気を消すため、メートル2ほどと離れた時に、鳴きづに声で気付いて対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を必要とする子を見ていたのでその場は見ていなかった。	—	子ども達全員が水筒のひもを肩にかけたか確認をしてから次の行動をとる。	
8243	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	保育者の死角に子供がいる時や動いたときの対応	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	—	駒回しを行う場所を広い所にする	1.集団活動中・見あ守り	—	駒回しを行う場所を広い所にする	1.いつもどおりの様子であった	—	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児と一緒に遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室で他児の保育をしていた	—	保育者の死角に子供がいる時や動いたときの対応	
8244	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	3.個人活動中・見あ守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	室内で、おもちゃやあそびでは体をなく動かしていた。（ジャンプ）	4.対象児を見ていた動きかった	大きな音や泣き声等なく、対象児が至我に怪我をするような行動や様子がれたことがあり気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の職員は休憩時間中で、部屋にいなかった。	床材は、コルクを採用しており怪我にくいものとなっているが、自体転倒したことによる。	部屋の中で飛び跳ねないように本児に伝えた。	
8245	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36			13	15	8				4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	3歳児が進級した年度初めは、3歳児が乗る意味には職員に識ようにしていた。子ども達一着て定ができるようにルしていた鉄棒・ブランコ周辺に一人職員がついくようにした。	園庭での見守り方について、職員で検討見につて、会で行った。プランコや鉄棒は大きなけがをするリスクがあるため、園庭で見守り位置を立ちその確認範囲を共有した。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		ブランコブランコ周囲にプランターをでし、子ども達も他用ルールのルーを設けていたが、それでもそれ立ちまった。	ルールのた徹底め、子どもに伝えた。プランターの増やしにより、子ども数を増し、入りやすいようにした。	1.集団活動中・見あ守り	なし	異年齢で年齢ごす際の低い3歳児がブランコ鉄棒などの事故のリスクの高い遊具で遊んでいる時には、注意を向ける。	1.いつもどおりの様子であった	本児がどうしてもプランターに入ってしまったのかは不明。	4.対象児を見ていた動きかった	一番近くにいた保育士は、鉄棒の方で遊んでおり、ブランコの職員すぐには近くにはいなかった。ブランコの職員は他の子が見てくれるとの認識があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その時トイレ者など対応となっていたが、職員がトイレの対応で遊具について反応となっていたが、その対応ではおり、また遊具は築山を挟んで反対側にいた為、ブランコに向いている職員がいなかった。	場合ではかいが、がいろと思みども、ミューションなどをいこなりいろいろ見ているなと声をかけた誰かいなありコミニション不足があった。	守位置共有し臨機応変に対応すること、離れる時は声をかけること、職員同士の連携を図ることを再度確認した。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面			人的面											
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																	死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
8246	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左薬指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特記事項なし	危機管理マニュアルを見直し、職員で確認し合う	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	特記事項なし	ヒヤリ・ハットを活用し、情報を有職員の危機管理意識の向上を図る。	1.集団活動中・見守り	倉庫の扉を子どもが開けないよう約束ができていなかった。	子どもに徹底することと、子どもたちの様子を全職員で連携をとりながら見ていき、危険を察知する意識を全職員がもつようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後、気の合う友達と普元庭で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	常に全体を把握しながら保育をしているが、倉庫で扉を開け閉めしている状況には気付いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他に関わっていて近で対象児の動きを見ていなかった。	危険が伴うと思われる倉庫で遊んでいる子どもへの守りが十分ではなかった面がある。	職員間の連携を全園児の動きを全職員で見ようにする。	
8247	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39	6	9	24						12	12	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂傷	2.自の転倒・突よ衝にるの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	まだ園生活に慣れておらず、子どもがどんな動きをするか予想できなかった。	子ども達を職員によく間し伝達し、突発的なにも対応できるように動きに工夫をする。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	柱と窓の隙間が狭い構造になっていて柱はコンクリートなため、ぶつかった時にけがにつながる可能性がある。	柱に段ボールとクッション材を横、衝撃なくを少なくした。	1.集団活動中・見守り	歩行、バランスが不安定な年齢であり転倒しやすい。	転倒することを想定して柱に遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	2.対象至対児の近で対象見ていた	対象児にかけたかな持りも声をがなかなかなっ替えすいたが、ホールでフラフラしていて、対象児との距離があった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助教諸が側で見ていた。	ホール全体を見守りながら対象児を見ていた。	いろいろな子どもの動きを想定し、けがや事故がそうな場所には必ず職員し、一人のではなく全職員で共し子どもの動きに対応できるようにする。	
8248	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位骨端線損傷	2.自の転倒・突よ衝にるの	2.なし	2.不定期に施	1	2.基準配置	サッカーコーチが指導し見守る指導でのある中で通常通りだった。	サッカーコーチ2人、担任2人の中で配置の中で行われており特に問題なかった。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	いつも使用している公園で整備されたった。	公園で行く特に問題なかった。	1.集団活動中・見守り	サッカー中の試合中であり、特に問題なかった。	サッカーの試合中のけがであり、特に問題なかった。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3.対象児に対象見ていた	対象からた離ところで対象見ていた	サッカーコーチが指導して中は見ている担任は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていた対象児のけがにつかめなかった。	足を捻ったもそのまま試合を続け変わった様子もなく、本人の訴えもなかったので対応が遅れた。	ウオーミングアップをしっかりすると共に、運動後にけがをしなかったか声かけ状況をを把握する。	
8249	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	44				2	9	33			8	8	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	本児は跳び箱の6段を跳べるようになりでが、嬉しさのあまり慎重にかいたことを把握できなかったことが考えられる。	事故防止について実技研修等を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	跳び箱、ロイター板、マットは特に問題はなかったが、これからもしっかりと確認していく。	各点検に関しては、定期的にしっかり確認していく。	1.集団活動中・見守り	3歳以上のこども達が自由中に跳ぶ中で、年齢や性格、個々の力量に合わせた個別の配慮を常に行うべきだったが、本児が6段を跳べることを怠ってしまった。	異年齢が自由一緒にあそぶ自由遊びでは、常に個別の動きや一人ひとりの発達段階等をかりと把握し指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝から元気な様子で、跳び箱を跳ぶのをみんなにしており、親にも見せたいと頑張っていた。	2.対象至対児の近で対象見ていた	跳び箱の横につき、すぐに助けることに補助役としていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	視診、保護者対応をした。また、園児の遊びについていた。	朝の自由遊びの際に起きた故なので、まだ体がスムーズに動けなかったことが考えられる。	跳び箱は朝の自由遊びでは取組まず、午前中のクラスでの活動ではクラス活動で行うことと、異年齢遊びでの自由遊びでは午後のみ行うこととする。	
8250	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46				17	15	14			3	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	2.基準配置	無し	マニュアルを形骸化させないよう、実例に応じて職員に意識付けする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	頻繁	無し	遊ばせる前に、再度遊具の点検を行う。	1.集団活動中・見守り	屋外であるため、園児たちも解放感があり、気持ちの緩みがあったと思われる。	約束ごと理解等、できる年齢なので、事前に説明をしてお	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒にぶら下がって、「ゆらして」と頼んだようである。	2.対象至対児の近で対象見ていた	鉄棒に職員がついていたが、少し距離があった為、走って手を差べたし伸べたが落下する瞬間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ていたため、園児たちの動、会話に気づかなかった。	年長児であっても、まだ何がこわいかこと等、再認識する。	予想外の言動、行動を想定し、注意すべきことと等、再確認する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8251	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40			14	13	13				3	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	7	2.基準配置	無し	マニュアルを形骸化させないよう、実例に応じて職員に意識付けする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	頻繁	無し。	遊ばせる前に、再度遊具の点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	雪山は冬場だけできない山もあり、その時の降雪に雪質や斜面も変化する。	約束ごとや場の遊び場環境をチェックする	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の所に先生がいない時には、してはいけない約束だったのに、ついしてしまった。	2.対象児の近く対象児を見ていた	園児達がしこづき鉄棒をしていることに気づき、注意をしようと瞬間に、落下手をべしの間に、差しのが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児2人がもいたので、そ対応に追われていなかった。	予測のつかない行動で、動きも素早く制止できなかった。	鉄棒の横には必ず職員配置をし、その時のみ遊ばせる。	
8252	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	配置以上の職員が抜けている場所があることを自覚する	研修は行っているものの、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	3	施設・設備に関する不備は見当たらなかった	特になし	1.集団活動中・見守りあり	雪山は冬場だけできない山もあり、その時の降雪に雪質や斜面も変化する。	その時々の場の遊び場環境をチェックする	1.いつもどおりの様子であった	大好きな雪遊びでみんなテンションが多少上がった	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	そりでの遊びがないように声がけしながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	斜面の除や離れたところで子を遊ぶ見守っていた	複数の職員で見守っていたにもかかわらず止められなかった	遊び始める前に子どもたちと安全に遊ぶための約束を確認する	
8253	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									3	3	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右手首骨若干骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	子どもの身体につての確認不足のため	活動する際に自分で危険予測が意識できるよう呼び掛けたり、安全に活動できるよう見守りする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	—	活動する場の環境を整え、十分な見守りの中で安全に取り組めるようにする。	2.集団活動中・子どもの達のみ	手をつないで歩いていたが、何かの要因で歩いた際に体のバランスが取れなかったのではないか。	移動する時には周囲の様子に気をつけながら歩くよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、機嫌よく元気に登園した。掃除に対して意欲的に取り組んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で掃除をしている園児の指導をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室から玄関へ移動するので、園児を誘導する形で先頭に立ち歩いていた。	—	場所を移動するときには、職員と一緒に行動し園児の様子を見守る。廊下を歩く際の約束などを都度伝え園児の意識を高める。	
8254	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	41			19	22					3	3	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	—	マニュアルや職員配置などには問題がない。ヒヤリハットを書くことと、それを共有することを徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	危険個所の確認をし、職員共一同で有く。	1.集団活動中・見守りあり	—	廊下が混雑しているときは、少し待ってから移動する。他クラスの状況も把握する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室・体操遊びという、特別な時間に、気分が高揚していた。他児も同様の感情であった。	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	遊戯室がある2階階段に続く廊下に、2歳1クラス全合して移動し先頭に1人担任が待機。その後ろに1列に子どもが並ぶ。後方より数名の子どもと1名の担任が合流する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	後方から園児ととも合流する。	—	園児に廊下は走らない、周りをよく見るなど声掛けする。徹底する。3名の担任がいるので、中間に1名配置する。	
8255	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕骨折顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12回以上	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭で年少組全体に雲梯やその他の遊具での遊び方、気をつける事について話した。また、年少児は雲梯や太鼓橋には遊ぶ前に保育者に伝えに許可を得てから遊ぶ事を約束した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雲梯の高い所からスタート、二番目の棒を掴もうとした際に掴上手く掴めずに左手下ずぶらりとなりそのままま手を離してしまった。落ちた際に右肘が下となり体を受け止めた。	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	多くの園児が外で活動していたので、全体を見渡しながら指導をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	多くの園児が外で活動していたので、全体を見渡しながら指導をした。	特になし	特になし	
8256	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19			9		10				2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨々幹部骨折	3.子ども士衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	職員会等で職員に周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		—	特になし	7.その他	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	3人一緒に段ボールに乗って滑った	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	担当職員は堤防の上にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児たちも見ていなかった。	今までも複数人で一緒に乗る事があったが、大きな怪我など起こっていなかった為、大丈夫だろうという保育教諭の過信があった。	1人で滑っても危険は伴うが、複数人で滑る事の危険性を認識し、子ども達にも伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
																												ソフト面					ハード面									環境面					人的面								
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置			施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	改善策	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	改善策	改善策	改善策	理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか	改善策							
8257	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	7								1	1	18. 6歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見あり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの姿であったが、保護者の姿が見え急いで保護者のもとにおうとした。	2. 対象児の近く	他児の降園挨拶を行ったが、本児が近くにいた為、一つ一瞬間ずを見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助教諭は自転車で迎えに来た保護者の誘導をした。	保護者が迎えに来た時に焦って転倒した。	保護者が迎えに来た時に焦って転倒した。	保護者が迎えに来た時に焦って転倒した

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事		事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
		施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
				月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
8264	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	7									1		1	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	事故時、担当者(新任保育教諭)が、「子ども の行動」見、観察を的確にしていなかった。	新任保育教諭の安全に対する対応・技術の研修を行う。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	4	トイレの出入口の扉は引戸で、子どもが手を挟まないように扉(引手下部)に隙間がある仕様になっている。引手から上部は隙間がない為手を挟んだ。また、トイレ内の子どもの様子が見えるように窓が上下にはめ込んである仕様。(●製・木製)	扉の開閉は、常日頃より丁寧に行う。	1.集団活動中・見あ守り	保育教諭が閉った扉に子どもが手を挟んだ慌てて手をかけた出来事。	子どもの子行動を子見しながら業務を遂行する。	1.いつもどおりの様子であった	排泄後、部屋には戻らずトイレから隣の保育室へ行き、年少児の遊ぶ様子を見ていた。保育教諭が戻るよう声をかけたが戻る様子がなかったので、トイレの入口扉を閉めようとすると、閉めかけている扉に本児が慌てて手をかけた。その際、扉で左手の薬指を挟んでしまった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	保育室にて、朝の準備をしている子ども、準備が終わり机で遊んだり、トイレに行った子ども等全体を見ながら、本児に声掛けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士以外保育室にいなかった。	子どもの姿を見ながらドアをゆっくり閉めたが、子どもとの行動に対応しきれなかった。	担当保育士は開ドアの閉に子ども危険を予測してしまい行動することを徹底する。	
8265	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									1		1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	全体的に見ており保育者の位置や、各年齢で の発達を把握し安全に努めていた。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	全には けており、除の水拭き後に倒ようにをかり、具にの安心が掛転しないに声かけた、落ちる玩ずよて拾うにに注意を払っていた。	1.集団活動中・見あ守り	手洗い場付間は開いた、数名のたちは走り回る等、落ちついた環境ではなかった。	クラスの机の配置を見直し、椅子に座って落ちた遊びができる。(集中してゆったりと遊びこめる玩具を増やしていく)	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	手洗い場で鏡を見ながら鋪りをおどどっていない為楽しい気持ちに興奮気味だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルの対応をしていたため、物泣き気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方の17:30頃の為、担当職員1名の保育だった。	興味を示す者(児)、友達)を見て真似ることから、怪我の可能性を考えていたが、他児のトラブルの対応をとれていた。	全体的にしっかりと遊びの見守りをできるよう遊びの工夫をしていく。また、全体的に見れるよう職員配置をしていく。落ち着かない雰囲気があったときはすぐに他の職員に声をかけ見守りを厚くする。	
8266	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				7	8				1		0	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左橈骨頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	ケガにつながるが指導がないか外部講師の監督を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	—	遊具等での発生ではないが、遊具や教材等について問題がないは定期的にチェックを継続し予防に努める	1.集団活動中・見あ守り	—	外部講師の指導中も、どのような内容を行っているのかとして確認を行い、ケガにつながる指導がないか監督を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り習い事出り送りした。	2.対象児の近で対象児を見ていた	該当児につき、跳び箱の補助を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外部講師の指導時間であった為、園は配置されていなかった。	—	跳び箱への練習の段階をそれぞれの児にあった段階であるのか見直しを行う。	
8267	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	48									25		22	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	ヒヤリハット予防の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検簿にて、毎月確認	7.その他	—	登園の際も、全職員で園児の安全を見守るようにする	1.いつもどおりの様子であった	登園時、2階の教室に行く途中階段で転び、膝と胸を階段の角で打つ。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児を見ていて守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	非常勤職員も配置され、見守っていた。	—	階段で転ばないように、職員が近くで見守り、事故防止に気をつけるようにする	
8268	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	81									13		11	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右尺骨肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	ヒヤリハット予防の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検簿にて、毎月確認	1.集団活動中・見あ守り	—	集団活動中は、全職員で園児の安全を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育中、ロープがある固定遊具で遊んでいたところ、手を放しまして右側にあるに肘をぶつけ地面に落下。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児を見ていて守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	固定遊具は特に注意し動きを確認するようにする。	
8269	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	89			28	32	29				3		2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左尺骨開放骨折・左肘脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	当該事故に関連して遊具場所に要因として遊具場所に離れることのあげられるが離れていたがれる	事故防止について各学級で検討し各学級の結果をまとめ、職員間で改善策協議。改善策として遊具を置く場所が死角にならない場に移動し、さらに、職員配置を改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		今回は急遊具で走いたという大要因、遊ってで取りこいることが約束に行くなので、歩いて取り徹底化する。	歩いて取行くりこと・職員配置の遊び場所の検討を図り、職員の死角を なくす。	3.個人動活動中・見あ守り	午睡後、おやつ終了後で園活動に興味・関心で庭での集中していた。	歩いて取りに行く・職員を考慮を・危険を配置を避ける・遊具を置く場所の移動。	1.いつもどおりの様子であった	午睡後おやつを食べ、午後の活動が始まるので急遊具を取りたいことが要因	3.対象児の離れたところ対象児を見ていた	活動開始前に一斉から自に指導をし自にから活動に入って、個別対応にスキがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少・年長児も園庭で活動中だったが、園の指導にあった。	遊具設置場所が一定で、遊具の取り出しが同一方向なので、集中しやすい。	職員配置場所・遊具設置場所など改善する。(歩きまして走らない)の指導。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8270	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	132	3	6	10	39	38	36			19	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	引き続き、研修を実施する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	358	1.定期的に実施	358	—	引き続き、点検を行う。	1.集団活動中・見あ守り	—	その時の合状況に合わせて、臨機応変に職員に見守り、動いたりする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外遊びの時間が終わりになると1回総合遊具ですべり台を滑りたい気持ちが強く、焦って総合遊具に上っていた。	3.対象から離れたところで対象児とで児ていた	総合遊具の近くの傍で、木登りをいる見ながら本児ての下はが間の見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が他にグラウンド側に1人、総合遊具のすべり側に1人、子どもたちもて見ていた。児が落下した姿は見えたが、間に合わなかった。	総合遊具の上り口には職員がついていなかった。	総合遊具の上り口にも職員がついて、子どもの使い方を見守りするようにする。	
8271	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			10	18	15	15			6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘のヒビ	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	怪我当時の状況を共有した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	転倒があった場合にでもつ事よ後にして怪我にながらがいく。	1.集団活動中・見あ守り	特になし	転倒があった場合にでも怪我のないよう環境を考え設していく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で元気に遊んでいた。	2.対象至対象児の近象見た	一緒に遊びでおり、本人の遊びを守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭あそびでそれぞれ場で保育を行っていた。	特になし	転倒しなどを怪我をすること考声でしが十分がらをえなが掛けことをいく必要であると考える。	
8272	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18			6	6	6				4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	3.個人活動中・見あ守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	元気にあそぶ様子がみれた。	3.対象から離れたところで対象児とで児ていた	選択あそび中は、数名の保育者でジングし、他の児との関係中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	選択あそび中は、数名の保育者でジングし、他の児との関係中だった。	一瞬の出来事であったりそのケガは難しかったが、ケガを軽くすることはできかもしれない。	危険個所への意識向上	
8273	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28									1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	1.集団活動中・見あ守り	職員1人で子どもをみていたが鉄棒をたがるあっ走ってもいとから走るもいとのそずっと目は状況だった。	遊んでいることもの内容の職員により、遊びの内容や遊びの変更や遊具を片づけ安全に配慮が必要である	1.いつもどおりの様子であった	転落する棒前に鉄に上ていて、座ったため、担任からは座ったため、危険声らが、ままでおり転落する	3.対象から離れたところで対象児とで児ていた	他のもの子どもの確認をるる当ことの見他守った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は1人のみ	遊具付近での怪我が最多である為、普段より子どもの人数や状況により担任の目が行き届かないと判断した場合は遊具を片付ける等の対応をするよう指導していたが、けがが起こってしまった。今回のように担任が一人で見守っており走っている子どもいる場合は遊具で遊ばないように話をしておくよう声づけておく必要があったと思われる。また、登園では寒い時期に骨折が多いように感じる。	遊んでいる子どもの様子や職員の人数により遊具の使用時に確実に見守りができない場合は、遊びの内容の変更や遊具を片づけ安全に遊べる配慮が必要である。特に鉄棒や雲梯などの遊具は少しの油断が大怪我に繋がりやすいことを職員1人1人が再度認識し確実に見守りが行えるようにする。また、以前から行っているが寒い季節は柔軟性が低下するために大けがになりやすいことから今後も活動前の準備運動を継続する。	
8274	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									10	4	17.5歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	今後もマニュアルに沿った研修や話し合いを通して職員の知識・判断力を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	・子ども全員たちがならない環境構成を行う。 ・クラス全体を２分つに、保育補助が２組となれ担当ども指導する。	1.集団活動中・見あ守り	子どもの力の集中途切れ	床にマットを敷くなど活動の場所は適切であり、子どもの体調も練習を安全に行うことを確認していた。準備運動はケガをしないように柔軟を中心に十分行っていた。また疲れていると判断されていた子どもには適時に休憩をとらせていた。当該園児は運動がよくできる子だったが、事故発生状況はバランスを崩し、右手の人差し指を床に着いた際体重が小から骨折した。原因としては、やや集中力を欠いていたと推測される。落ち着いて行っているように見えても、今回のように集中力に欠けることがあるので集中力が保てるよう職員は声をかけていくことにする。	1.いつもどおりの様子であった	発表会の流体操れで順番にに行った。	2.対象児の近象見た	担当場所ども子たちたき、様子を見守った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ場の担当児の所で子どもたちの動き、様子を見守った。	子ども の集中力の途切れ	・体が十分に温まるような準備運動をする。 ・集中力が続くよう声掛けをする。 ・いつでも補助できるような位置に職員を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8275	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	30									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・腰部)	左鎖骨骨折	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	—	集会等でも子どもに安全に遊び方について伝えることを定期的に持ち、安全意識を高めていく。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	約200	—	使い始めて間もない遊具だので、再度使い方法や正しい用方法や危険性についてもたちっかりと伝えていく。	1.集団活動中・見守り	—	園庭で遊びや園児が大勢で活動するときは、担当はも園長、主幹保育教諭、フリーの保育教諭が安全のために子どもたちの見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	本児に後日、事故の様子を何と、ジャンプしたら車を飛び越えられると思ったと話した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は少し離れた所で全体を見てたためなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任より離れ更した所から全体を見ていたので気づけなかった。	—	全体を見守りつつも、目配りだけでなくもたちへの声掛やポディーチェックを行い、異常にすぐに気がつけるようにする。	
8276	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼	2.自の転倒・突よもの衝にるの	1.あり	2.不期実施	1	1.基準以上配置	保育教諭子行の歯どもの予測動不足。	転倒の恐れもあるま事を踏まえながら、安全面に配慮する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	291	1.定期的に実施	291	床が少しやすい滑り状態だった。	転倒防止のので活動していたので、転倒を防ぐ為に足の裏を濡れた布巾で拭くなどする。	1.集団活動中・見守り	転倒時手が出なかった	転倒時手が出ないよう訓練をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	保育教諭のしっぽろう掛のを取り追いけた。	2.対象至児の近児を見た	本児至対象児見ていた	本児からがなかなかも動きを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とっぽ取りをしていた。	—	見守りながら安全面に留意していく。	
8277	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	2.自の転倒・突よもの衝にるの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	・園庭遊び終えて保育室に戻る際、主担保育教諭では なく副担保育教諭が声をかけた。副担保育教諭はその時点での園児全体の動きを把握できていなかった。・歯が抜けた際に使用するべき歯の保存液があることを職員が思い出せなかった。	園児全体へのは、園児が1日の流れを把握できる主担保育教諭が行い、園児全集で見守りをする。・こどもに対して応急処置の研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・テラス前側溝のふたが赤茶色であり、園庭の地面の色と同化していたため側溝に気づかなかった。・側溝と園庭地面に段差があったことでつまづいてしまった。	・側溝の色ふたの地面と黄色ふを違う黄色に塗り替えつ、目立ようにした。・側溝ふの掃除に、段差を加え、段差を寸園庭なくなるようにを寸。段差が安全点検の項目を追加する。	1.集団活動中・見守りあり	５歳児は●月からなり、午睡がなくリズム変化に生活リズムがあった。事故発生時間は園児が気持ち落ちにくい時間帯であった。	午睡がなくなってからの過ごし方で見直し、園児に合わせて見直した。園児一人の状況を見ながら個々に合った休息が十分に取れるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく、普段給食後に室内で遊び、その休憩タイムをはさみ、砂場で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭遊びが全体を見ることろ守ったが、故には該当児の見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員ともに見ていて事と全体を守ったが、故直前に中、故直前にトラブルに発展しそうな児たちの対応をしていた。	・事故発生時、担任保育教諭が２名とも該当児の向を見ていなかった。・側溝付近を走ることで、すべったり転倒すること予測できていなかった。	・園児一人ひとりの状況を把握し、転倒するリスクのある恐れ園児について職員が認識で職員会議で共有を行う。・側溝付近や段差がありところは走らないように日頃から園児に安全教育を行なう。	
8278	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4			3		1				1	1	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左腕骨折	2.自の転倒・突よもの衝にるの	1.あり	2.不期実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	男友児で、達と関わって遊ぶことを好む子である。当日は、園時から教育時間、その後の預かり保育と平常時と変わりなく活動していた。	2.対象至対象児の近児を見た	モップがをしけがら台でいる人のを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育の反省・日の次の準備とそれぞれの活動をし、遊室での様子は見ていない。	あと数人しか残っていないという保育教諭の緩みがあり、子どもたちの様子を見ているようで、見ていなかった。	年齢が低く体力のあまりない年少児は、夕方になると気づかぬうちに疲れかから注意力・集中力が低下することが考えられる。そのため、遊びの種類や遊び方等細やかに観察して言葉がけなど配慮していく。	
8279	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	25									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左尺骨骨幹部骨折、左モンデジア骨折	3.子ども士衝同の突よもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	事故発生時に対応した職員、看護師共にマニュアルの動きに沿って迅速に対応出来ており、病院受診に変更が出たが、主幹教諭の指示によって必要数の職員配置は速やかに手配出来ていた。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	特になし	事故発生において施設・遊具等の不具合はなされていられる全点検当職員によって適正に定期的な点検の実施がなされていた。	1.集団活動中・見守りあり	以上児クラス（3クラス）の園児が出て園庭に遊んでおり、混ではしていも、雑しないの、人数が多く、近くで駆け回るなどと違遊びを他児が行き状況するするが来てあった。	追いかけっこ等の駆け回る遊びを行う園児には、園庭の中でも走りやすい広いスペースへ誘導し、その他の遊びを行う園児と空間を分ける。職員へも園庭での注意事項を周知徹底し、園児を臨時適切なスペースへ誘導出来る様にする。	1.いつもどおりの様子であった	段差は高く、身なく降りれ児も降ると考えた為、ジャンプしている。実際の操作の時間様子からのジャンプを、難なく降り出来ている。	2.対象至対象児の近児を見た	本児の体操を担当している職員が至近で見ていた職員であった。体操で難なくジャンプする高さがあった為危険と判断せず、本児とした時に注意を行わなかった。また、駆けてきた他児が直進していた所から急に曲がった事もあり、衝突の瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離いた)	園庭で他の園児の対応をしており、衝突時は見ていなかった。	特になし	普段なら危険のない事でも、多数の子どもが行き交い遊ぶ状況下での危険性を充分理解し、判断する。様々な状況の予測をし行動出来るよう、実際の事故事例を元に定期的に研修を行い、知識・経験を培う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面					人的面									
							発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
8280	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			7	3	5				2	2	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨にひびが入る(痛みが出るようにと固定なし、運動制限なし)	2.自の転倒・突よるもの衝にるの	1.あり	1.定期的実施	10	1.基準以上配置	きょうだい児のいざこざ等に対して目を配る	職員会議、各種ミーティングで検討を加える	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	特記事項なし	1.集団活動中・見守り	—	安全確認と子どもたちの見守りを強化する	1.いつもどおりの様子であった	きょうだいとじゃれ合っていた。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	室内の子見ももを見役守りを担っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	周囲をよく見て遊ぶように促す	
8281	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30			8	11	11				2	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自の転倒・突よるもの衝にるの	1.あり	1.定期的実施	12	2.基準配置	登園して子ども中で等動のあるしたので、静かに遊べる遊びを設定するだった。	職員の目が届きやすい動きの少ない、落ち着いた遊びを設定する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	1.集団活動中・見守り	友だちと遊ぶことが楽しく、気持ちも高まり遊び等が予想された。	ブロック、お絵描き、ぬり絵等で落ち着いて遊べる遊びを設定する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとこやおにごっこをして遊ぶ	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	登園して子の人数を確認しながら対象児で遊んでいる様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園して子の入れ受けをしていた。	職員間の連携が取れていなかったことが考えられる。	朝保育は担任でないこともあるので、職員間で士連携をとるようにする。	
8282	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40			14	15	11				3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	1.遊具等転落からの落下	1.あり	2.不定期実施	1	1.基準以上配置	3人の職員が要所ごとに散ばり、子ども達が園庭を見守っていたが、瞬時の出来事で防ぐことは出来なかった。	子ども達が遊具の使い方や安全のためのルールを再指導するとともに、園庭での立ち位置を子に遊び職員の立ち位置を再検討する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雲梯には問題なしが、園児は雲梯の下を通ることは危険であるため、園庭の砂場で遊ぶ子どもに対して、安全に遊ぶように注意をした。	園庭は全面砂場で大きな事故は無かったが、このことでいのので、ショックを受け梯子に雲梯クンの性質を考える。	3.個人活動中・見守り	雲梯の位置が下り近くあるので、下りてくるのに自然に目線が向いてしまいがちになる。	段階を追って雲梯に慣れていくために、下がり場所を専用の場所を考慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児は雲梯にぶらしかぶりきたが、同じクラス友達がどんどんに進むのを見て、自分もやりたいの意欲はとても高かった。	2.対象児の近で対象児見ていた	自分のクラスの子ども達が興味をもってやりたいことを知ったので、見守りは担当クラス任がいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、担任が見守っているので安心して、雲梯以外で遊ぶ子ども達を守った。	雲梯の傍にいる職員だけでなく、他の場所にいるこはいえ、職員が雲梯ばかりを注視していたとはいえない。	雲梯のくにくいはいえ、職員が雲梯ばかりを注視していたとはいえない。	雲梯の傍にいる職員だけでなく、他の場所にいるこはいえ、職員が雲梯ばかりを注視していたとはいえない。	
8283	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45			15	15	15				4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨骨折	2.自の転倒・突よるもの衝にるの	1.あり	2.不定期実施		2.基準配置	当日の遊具の状態の確認について、出来ないのではないか	毎日の点検の強化	1.定期的に定実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1～2	—	固定遊具は安全点検で充分であった	3.個人活動中・見守り	駆けおりるかもしれないのに止められなかった	4歳児の特徴を考えて遊び方のルール等 園児再確認する	1.いつもどおりの様子であった	4歳児クラスでも 活発に動く園児である	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	異年齢が活動始める 朝一番の時間であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢の活動が始まる朝一番の時間だった	活動が落ち着かない不安定な時間帯であった	定期的にマニュアルの再確認が必要である。●職員会議で職員に周知する	
8284	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24									4	4	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他か危害加られたの児ら害加られたもの	1.あり	2.不定期実施	12	2.基準配置	予測できないこと 動きを止めることが出来なかった	リスクを検討し、マネジメントにて行い、職員に周知を行う	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	2	なし	床面におけるお欠陥はなかった	1.集団活動中・見守り	イスに座らないし対して関わりが曖昧だった	集団離れている子どもが合傍に、声かけ合くをるよう誘う	1.いつもどおりの様子であった	他児とスキンシップをていに丸まった児の他児乗る。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	他児が本上に際の乗に止め入る。本子を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人の保育者は朝の会をいい離れた場所にいた。他の2人は朝の補佐、もう1人はトイレの介助をしていた。	スキンシップとりてが児の本上に乗ってしまった。	他児に職員が個別につき、関わり方や遊び方を伝えていく。	
8285	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57	4	8	12	11	11	11			16	12	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左足関節外果骨折	2.自の転倒・突よるもの衝にるの	1.あり	1.定期的実施	12	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守り	遅番児童や保護者対応をする職員や、保育を担当する職員役割分担が明確なかった。職員間の連携が足りなかった。	遅番保育職員の役割、確時の担当の保育を行い、職員間で周知をした。	1.いつもどおりの様子であった	大型遊具の滑り台から滑り終わり、着地し次の目的場所に向かおうとした時に左足首を捻った。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	遅番担当職員は、本児が5歳児であり園児同士で遊んでいたことから、常に側にいた訳でなく、本児からの申しから出や様子も無かった為、本児が怪我をしたことに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遅番保育中で、ものを渡し保護者応をしていた為、本児の姿に気かつかなかった。	本児は、日頃から怪我に繋がるような行動が見られていた。怪我をした時に困った事があった時に本児から職員に伝えることが少なく、家庭で報告をする為、すぐに怪我をしたことを気付くことが出来なかった。	保育子引や対応者をしての為、姿づけに気かつ	他クラス園児の性格やパターンを把握する。2名以上が担当する場合、役割分担を話し合い保育する。	
8286	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯の打撲	3.子ども士同士の衝突よるもの突にるの	1.あり	1.定期的実施	2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて今後の安全管理の役割について、話し合い共通確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	保育室の出入り口付近は、保育室からも廊下からも見えにくい為、気を付ける。	1.集団活動中・見守り	—	小人数であったが、廊下に出ないよう声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具についたり、全体を見守っていたり担当して配置していた。	—	事故の起こった室内には、職員が1人だったが園児も少なかったので人的面には問題はなかった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																						掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面						ハード面								環境面			人的面						
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										マニュアルの有無	事故予防研修																					
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8287	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	16								2		2	4歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橫骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	固定遊具は柵はない座らない思という思い込みで、子どものに対し危険予測に欠いていた。	危険予測の共通認識を再確認し、徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	無し	事前点検で遊具に破損劣化は無かった。	1.集団活動中・見あり守り	大型遊具1F、2F共に死角が無いよう使用範囲を制限し、遊具使用について子ども達と約束をし全てるよう携を取っていた。しかし、部分的に子ども集中する場所が発生し、保育教諭の子どもの集中部に向きやすい環境が生じた。	子どもの集中を防ぎ、安全に見きれる範囲で大型遊具の使用場所を制限する。	3.いつもより活発で活動のであった(理由を記載)	運動会後、久しぶりの園外保育でもが気持ち昂っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	丸太橋付近の子どもたちのトラブル対応を行うため、本児の安全を目視で確認し後、視線を外して他児へ注意喚起している間に落下し事故発生を見逃した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2Fから1F児が見える所で、滑り台を中心に子ども達を見ていたが、梯子遊具の子ども達が集中してきたため、1F、2F全体を確認し梯子付近に移動し子ども達へ声をかけた為本児が転落するのを見逃した。		子どもが約束を守って遊具を使用し、遊べるようこまめ声掛けをしていく。	
8288	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37		18	19					7		6	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右関節肘内障事故	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特段泣くなんこともなく、遊び後に腕を強く引っ張られたことにより保育士が気付く。	普段の手をつなぐでもことを肘内障になることを確認し、当面手をつないでがびをする。	1.いつもお様子であった	泣くこと、なく手を良く女児とつないで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通り、遊ぶ姿を確認	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特に意識はしていなかった。	普段とわら状態で泣くことなく、静かに女児に手を引っ張られたと訴えた。	（当面手をつながない遊びをする）	
8289	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45		9	11	16	9			5		5	3歳	2.女児	嘱託医より、レントゲンの結果、上顎左側乳中切歯は陳旧性の破折であり、今回の外傷による破折である可能性は低いと説明有。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯外傷性歯の脱臼、上顎左側乳中切歯外傷性歯破折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(11)回/年	1.基準以上配置	職員一人ひとりが、これまで以上に周囲への危険を察知するよう注意を払う。	外部の人が来園した際、事前に園長からこども達との関わりの中で危ないと感じた際は声掛けさせてもらうことを周知する。保育者は外部の方とこども達が遊んでいる様子も視界に入れ、危険を感じた際はすぐに声をかけ危機回避していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日			1.集団活動中・見あり守り		けがにつながらないように保育者が注意深く、子ども見守る。	1.いつもお様子であった	理事長と遊ぶまで、担任は、先生として過いた。	2.対象児で対象児の近児を見た	本来で含むもた近児こちに過ぐ一緒ていくを過ぎ一緒ていくは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離にはいるが、すは見ていなかった。	体育教諭では大子ないと人がども関わり、その延長で起きた事故。特に理事長は毎日、園に足を運び、こどもたちとのあい大事さいたが、危ないと感じた時に直接	外部の人が来園した際、事前にこの園長からこどもたちとの関わりの中で危ないと保育者が感じた際は声を掛けさせてもらうことを周知する。保育者は外部の方とこども達が遊んでいる様子も視界に入れ、危険を感じた際はすぐに声をかけ危機回避していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 何をしていたか	具体的に	他の職員の動き 何をしていたか	具体的に	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8290	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	33			7	11	15			5	5	4歳	1. 男児	診断名発達性協調運動障害（運動機能の特異的発達障害）で保育士の加配が認められている。			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置		本児の特性を理解し、安全性に過ごせるように、過ごせるように話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり	異年齢で活動していた。本児の動きを規制しなければならかった。	本児の欲求を満たせるような遊びの工夫する。	1. いつもどおりの様子であった	自分の行動を止められ腹をたてた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	本児が担当職員を殴ろうと突進してきたが、それをかわすと他児が危険と思い抱え上げようとした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が怒っているのを見ていたが、職員が対応したので見守った。		特になし	
8291	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	33	6	5	6	6	4			10	10	5歳	2. 女児	鬼ごっこを遊している際に、鬼の方に気をとられ、半身になってバランスを崩し転倒した、左手をついたときに体重がかかったのが骨折の一因と考えられる。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第五指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	体重の増加とともに機敏な動きや動きが身についてなることも事故の一因と考えられる。	遊びのルールやマナーの徹底、危険な行為の確認等の随時行うと共に、児童の様子を観察しながら必要に応じて休憩させる等の配慮を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	転倒した原因が施設の老朽化や不備等によるものではないが、壁床面で結露による補修が必要なところが3カ所ある。	補修が必要な箇所の要望を上げる。	1. 集団活動中・見守りあり	今回の転倒事故は直接関わらないが、遊戯室周りに配置してある遊具や収納箱等が事故の原因となり得るので遊ぶ範囲等で十分注意する。	特にホールでの遊びの見守りは、目を切らさないように十分に気をつけていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しく安全でいく遊んだ。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	対象児から目をはずしていて、転倒にすぐに気づいて対応した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の様子を常に見守っている。	担当保育士が全ての子供たちの安全を確保できていない可能性もある。	担当保育士が全ての子供たちの安全を確保できるための遊びの種類や範囲を配慮することも必要	
8292	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14			6	8				2	2	4歳	2. 女児	出生時より左助骨5番目に小さな瘤があり4歳になったのを機に病院受診をする。現時点で問題はないが経過観察を行って行く。医師からは転倒に気を付けるよう保護者に助言があり、保育園でも気を付けている。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯陥入	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	危険な行為を伝えることを優先してしまい、他児から離れることへの注意不足や本児の気持ちへの配慮などへの抵抗なく安心されていた。	担当児ひとり一人の行動予測を行い安全な状況下で保育を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	園内の床はウッドフローリングが殆どで一部クッションフロアとなっている。乳児クラスはウッドフローリングの上にジョイントを敷き転倒防止をしていたが、廊下や幼児室は固くて滑りやすいウッドフローリングとなっている。	ウッドフローリングに滑り止めワックスを施す。	1. 集団活動中・見守りあり	廊下や保育室の床が滑りやすく室内では裸足で生活をしているのだが、園外活動時は靴下を着用している。園外活動にも靴下を着用していた為滑るリスクが高かった事に対しての環境の見直しがなされていなかった。	幼児クラスは園外活動をする際、関内で靴下する。	1. いつもどおりの様子であった	保育士が手すりを使いゆっくりと上り掛けたが、本児は聞き入れず我先に階段を一段飛ばしで上っていた。	4. 対象の動きを見ていなかった	危険な行為を伝えるも他児から離れて保育士の側に移動がトイレのみを見守っていた。本児が右腰を強く押され、他児にぶつかりそうになり、本児が転倒したが、転倒した瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスごとに階段に上るようになっていた為、8名段下で待機していたので状況は見えていなかった。	複数人担当していたことや、他児が落ち着いて移行中の個別対応は他職員との連携がとれていたことで一対一で対応できていると思った。	個人対応をする時、他の保育士のサポートを受けながら行う。サポートが得られない場合は、落ち着いた環境の中で対応をする。	
8293	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	3			13	12	14			3	3	4歳	2. 女児	当所短期間の通院見込みだったが、経過観察の都合上、治療に要する期間が1ヶ月以上となった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	斜頸	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	事故防止意識向上の為、職員が危険と感じる場面・解決策を会議で話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	万が一薄暗くなる移動は、園が暗くて動き慎重を使用せず、園庭裏口から使い園合を含へ入る。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	狭い通路は一人ずつ歩く。子ども への注意喚起の声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	友達と手をつなぎ列の後方を歩いていた。	4. 対象動児の見ていなかった	転倒していない状況は把握できたが、暗がり足元の状況や、体勢が不安定になる事で危険までの予測まできていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の引き連れてクラスに集中していて、他児の動きは全く気が付かなかった。	狭い通路を2列で手をつなぎ歩かせていた。保育士の目が届かない所があった。	狭い通路は歩く一人ずつ歩く。保育士が1クラスずつ目を届かせるようにする。	
8294	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	26			10	10	6			2	2	3歳	1. 男児	1歳児頃から、家庭で転んで顔をぶつけやすかったことから歯の根と歯茎が弱っており、抜けやすい状態であったことが、受診した際に指摘される。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の完全脱臼	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	鉄棒の見守りは出来ていたが、園児によっては補助の必要性の把握や配慮が必要だった。	職員間で子どもの育ちや特性を共有し関わり方の配慮を深める。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし。	使用する鉄棒に、マットを確認して問題はなかった。	1. 集団活動中・見守りあり	鉄棒をすたあとにあたり、動きが次第ではガに繋がることを周知してからてうべきであった、周知が出来ていなかった。	鉄棒を出す際には、使用方法等や注意事項を伝え、年齢にあった声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	随時登園してくると遊び友だちと仲良く楽しくすごしている。鉄棒はあまり得意ではないのが園児たちと同様に興味を持ってチャレンジしていた。	4. 対象動児の見ていなかった	本児の鉄棒の姿勢を見ては、他児が斜め後ろにいて、ぶつけた瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守っていたので、見ていなかった。	2階ホールを2人で体制で見守る中で、鉄棒出し際の立ち位置など配慮が必要だった。	鉄棒の見守り位置を、逆側にして視野を広げるようにする。朝の受け入れ体制によっては、鉄棒を出さないようにするような対応にする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面								環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8295	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21	1	6	3	4	3	4	0		4	4	3歳	1. 男児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	なし	様々な状況下で事故が発生すること学ぶ機会を増やす。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床に傷みはなく材質には問題なし	設備等、問題なし	7. その他	土曜日で、かつ登園時間のピークを過ぎていたため、廊下に人がいず、自由な空間だった。	保護者には中も子どもは準備も子どもが目を離さないことや準備にとと知。廊下には、廊下は歩くこと、荷物の準備にとともこする話です。	1. いつもどおりの様子であった	活発なところがあり、保護者と一緒でも園内でを走っていることがある。	4. 対象児の動きを見ていなかった	土曜日、かつ登園時間のピークを過ぎていたため、保育士は保育室の活動に集中し、廊下や保護者が3歳児室には職員がいず、状況を把握していなかった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	保育室で保育中であった。	登園後、準備を済ませ、保護者と保育室に来て受託するという意識があり、周囲への注意が不十分であった。	保護者と一緒であっても、危険につながることが予測される場面では、声をかける。	
8296	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2	5歳	1. 男児	普段から転ぶ時つき方が特徴的で内側に巻き込むようにして転ぶことが多かった。医師が骨が曲がっていると診断した時も、以前に大きな怪我をしていないか確認する。普段からよく転ぶ子なので今回のことだけでなしれないが判断が難しいといい、曲がりが治るまではギプスで固定することにする。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	園長も同行し、先頭に最保育士がついた。滑りやすいから走らないよう声掛けたがちにこっこけて走ってしまった。	走らないように声掛けする。中間地点にも保育士がようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	定より雨が足りすぎて予早く降り、元かやすくなった（午後1時過ぎから雨予定だったが、山登りは●時４０分に山予定だったので決行した）	雨天順延作ったの気、天、悪天候は無理せず延期も考える。	1. いつもどおりの様子であった	普段から転びやすく、手を内側に織り込むように転ぶことがあった。友だちにつこ走って転んだときも右敷手きになってしまった。	2. 対象児の近で発見した	雨が降ってすくなっていることは全体的に声掛けし、走ると子には個別に声掛けをした。転んだ時もこが痛いうとすぐに駆けはっきりと答えることが出来ず、泣き止んでまた走っていたので、大丈夫だと思ってしまった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	列の先頭を歩いていたので、その瞬間は見ていなかった。	本児が泣き止だので手の状態をきちんと確認しなかった。雨も降っていたので、急いで下ろすに気を向けてしまった。	事前に危険があることをもっと伝えていく。気持ちが高まると事前に話すだけでは忘れてしまうのでその都度、転んだ時に伝えていく。どの部位を痛がっているのか、状態をきちんと確認し患部などの処置を冷やすなどをしていく。	
8297	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	1	2	6	8	8	4			8	8	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置		事故予防に関しての研修を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ボールに行為なこかるとなるか乗うなる再度確認して注意しいくこと。	ボールに行為なこかる乗をかったこと。	1. 集団活動中・見守りあり	ボールに行為なこかる乗を止めったこと。	ボールにどとるるとか乗うなる再度確認して注意しいくこと。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の児童お見ており、児童を見ていなかった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	他の児童お見ており、児童を見ていなかった。	一瞬の出来事ではあったが全体が様子が確認できていなかった。	二人体制ではあった様子を見きれないので、あれば活動方法を変える。	
8298	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	19			7	6	6				2	2	4歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨遠位骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	雨天時の公園内の危険個所が危険個所を把握いなかった	危険個所を職員間でしっかりと共有する	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用前)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	地面に埋め込まれている木れて滑りがすかっいて滑りやすかった	雨天時はやす芝生等滑りいを避け、砂地になっている公園を使用する	1. 集団活動中・見守りあり	園児に滑りやすい場所の周知をしていなかった	遊ぶ前に雨天時の危険個所を周知して、その場所には近付かない等のルールを定める	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ遊びには加わらず、公園内を歩いていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	離れた場所から対象児が場所は把握していたが、転倒した瞬間は見ていなかった	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	担当職員から離れた場所にいる他の見た園児を対象児ていたため見ていなかった	特にな し	職員間の連携もとれていて、対象児のいる場所も把握していたため問題はなかった	
8299	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12									2	2	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手人差し指第一関節骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（2）回	2. 基準配置	特になし	事故防止意識向上の為職員が危険と感じる場面・解決策を会議で話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		空間を広くし、可能な限り開けるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	おやつ後の内容はおの活動内容の認識はしていたが怪我の瞬間は把握していなかった。	子どもの守り、危険への周知をを徹底する声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	遊具のコーナーに屋り、遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遊びや片付けの動きは認識していたが、怪我の瞬間は把握していなかった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	別の児童守りの見守り活動を行った為、児の様子は把握出来ていなかった。	遊具設定の環境構成と安全面への配慮がなかった。	空間を広く展開し、保育士1名が必ず子どもの見守りに付く。	
8300	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22									2	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故防止意識向上のため、危険個所や職員が危険じる場面ついて策や決方法を会議で解対応を話し合った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	冬期は特に園庭の状況を確認する。	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	子どもへの定期的な注意喚起の声かけを行う。	1. いつもどおりの様子であった	築山で滑って遊ぼうとしていた。すべる順番が一緒に居たすべる子を押し、押されて転んだ。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育士1人は少し所ども離れた子どもで子ども達を見ていた。もう1人は対象児と至近の距離に居た児が対象児の動きを見ていなかった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは園庭に居なかったので、見ていない。	他クラスが遊んだ後で雪の状態などいのほ思いかが滑った。子ども達の動きを確認するポイントをもっと増やした方が良	子どもの動きを確認するポイントをもっと増やす。クラス単独で園庭遊びをしない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面					人的面										
			施設・事業所種別						人数	異年齢構成の場合の内訳														事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
			認可・認可外							0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰		死亡	負傷																									
																										死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																		
8301	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	10										1	1	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突による転倒	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	4歳児の園庭での活動時に担任のみで活動していた。複数で行うように改善したい。	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の木っこ盛っている所の根が少し上がっているので足を踏みはずしんだ。でこにすぐに転んでこぼこにする。	園庭の点検表に「地面のでこぼこ」とあったが、気づかずにいた。しっかりと点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	でこぼこなければ、転ばなかったのでは。	地面のでこぼこをなくす。こども達には気を付ける事も教える。	1. いつもどおりの様子であった	本児がカシプトムシに興味があり、上がっるかと上がっていて歩いて、根っこに引っ掛かる。	2. 対象児の至近で対象児見てた	担任は見える位置にいて、本児が転んだ瞬間をみて。転んだので本児に寄添うと手がぶらりとしている事務所に連れてくる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、担任のみであった。	複数見守りがあるとよかったのは。	園庭での活動は複数で見守れるようにする。	
8302	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園		10	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14			2	6	6	0			1	1	4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		3. 火傷	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	2度熱傷(腰、臀部、右足)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	衛生安全マニュアルで身のまわりに起きについて事故予防や事故対策の確認はしていたが、火傷については想定しておらず、事故が起こってしまった。	今後は火傷の事故予防についても職員全体に周知していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(清掃時)回/年	特になし	改善点は無かった	6. 食事(おやつ)中	配膳台を保育室の真ん中においてしまった。配膳台のストッパーをかけていなかったのでタイヤが向きがの不安定だった。配膳中だったため、配膳台の扉が開けたままになっていて不安定だった。	配膳台は不安定にならないよう壁につけて置き、配膳台の扉を開けたままにしない、室内には台を入れず廊下に置き、ストッパーをしっかりかけ事故が起こらないようにする。配膳台の周りに子どもがいる時は触らない等の約束を伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で昼食の準備をしていた。	2. 対象児の至近で対象児見ていた	昼食の準備をした為、他の子ども達等、全体を見ながら配膳した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡準備保育室を離れ、2階で、コットを敷いていた。	配膳台を室内に入れ、子ども達が食事の準備をしている中で熱い汁物を盛り付けてしまった。	子ども達がおしぼりを完全に絞りおわり、落ち着いて全員が着席してから配膳を始める。厨房では汁物を保温機に移す際は温度設定を60度にし、注意して配膳する。	
8303	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園		2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	9									3	3	3歳	1. 男児	元々体幹が弱く、時々転倒したり、転倒時に手が前に出ないときが多々あり、また、周囲の空間認知力が弱く、棚などに顔を打撲する場面が時折みられていた。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎前歯損傷	2. 自らの転倒・衝突による転倒	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	本児の運動能力を把握はしていたが、個別に応じた危険予測が不足していた。安全管理マニュアルを十分に把握する機会が少なかった。	安全管理マニュアルを熟読会を設ける。研修頻度を増やし、危機管理能力の技術向上にめていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	点検だけではなく、玩具の特性を合の話し、玩具の使用時に起こる危険を予測し、危機管理の技術向上の上に努めていく。	1. 集団活動中・見守り	見守りがあったが、保育士が本児が離れた。月齢にあった大型ソフト積み木を玩具として使用した。本児の運動能力を鑑みて不測の事態に対する予防環境構成が不足していた。	本児の運動能力を考慮した玩具の環境配置上で、玩具の配置によって保育士が保育士に付け見守りを怠きやすくなる。	1. いつもどおりの様子であった	事故当時は健康状態、心理的状態ともに通常通り。複数の友達といつものように大型ソフト積み木を組み合わせ、家に見立て遊んでいた。同じ遊びの経験はあり、大型ソフト積み木の構成も保育士と友達と一緒に行い楽しんでいた。	3. 対象児の離れたところで対象児を見ていた	ホールを走って楽しむ子どもも居て、衝突が起きないように、本児以外の子どもに付き離れてはいけない。	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	大型ソフト積み木の遊びを、新たに始めた展開しの遊びを、一人で楽しんでいた。また、ルで子ども達が一緒に遊び箱を片付けていた。	担任がリーダーとなって、育った員に本個別情報をしっかり伝保入確認けていた。	打合せの際、子ども能の運動機能など話し合い、共有していく。担任以外の職員が保育に細かく注視する子どもを伝えてから保育にもらって入う。	
8304	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18									0	0	6歳	2. 女児	該当無し	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準以上配置	特になし	降園後の園庭の使用について、職員識をし、遊んでいる場合は声がかけをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具を使用してい良いかの示をあった。	保育士の見守りができない保育活動以外の時間帯は、遊具の使用禁止のお札を掲示する。雪が溶けたら下雲梯のクッションになるような敷物を敷く。	7. その他	特になし	送迎の際は、園庭の遊具ではないこと護者に伝えする。園児には口頭で伝える。	1. いつもどおりの様子であった	祖母が迎えに来て、園庭で祖母と一緒に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遅番職員は園内で保育中だった為、園庭はなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	遅番職員は園内で保育中だった為、園庭の様子はなかった。	特になし	遅番の職員が、園児が遊具を使用しているのを見かけた際に注意を促す。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面			人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8305	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	18									1	1	5歳	2. 女児	該当無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	5. 他児から加害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	特になし。	事故の経緯を職員共有し、子どもを見守る時の注意点について、共通認識をもつ。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。事故現場のグラウンドは芝生になっていて、周囲に障がいになるのも目視では確認できなかった。	遊ぶ前に危険がないかどうかを職員があらかじめ確認してから、安全べるように遊にようにする。	1. 集団活動中・見守り	保育士は、子どもを見える所にいて遊ばせていたが、手を引っを引っ張ったり転んだりした瞬間を確認できていなかった。	遊ぶ前に友だちを押さない、引っ張らないことを伝えたり、押したり張ったりすると、お友達はどうなるのかを伝えてりして、遊ぶ必ずず子どもたちへの注意・喚起を促している。	1. いつもおお様子であった	グラウンドで走って遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が1人でクラス全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動き見ていなかった	担任が2人いるうち、もう1人のクラス担任は勤務時間前だったので、外遊びの時は、もう1人の担任が1人で様子を見ている状況だった。	育休明け担任で、まだ復職から職の日数が少なかったため、クラスの子どもの特性をまだ捉えきることができず、気をつけることができていなかった。	子どもの動きをよく見て、少しでも危ないと判断した場合は、個別に対応したり、声がけをして注意を促す。	
8306	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	15									2	2	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剝離骨折	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	転びやすい園児もいるので配慮していく	見守りの配置人数を増やす	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床、柱、壁等に危険がないか見る	見守りの配置人数を増やす	1. 集団活動中・見守り	転倒、衝突などないよう見守る	見守りの配置人数を増やす	1. いつもおお様子であった	走って逃げて転倒	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	近くに保育士がけがの様子を見る	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と一緒に遊びをしていた	転倒、衝突などないよう見守る	走っていても転ぶ園児も転倒に気をつける	
8307	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	35		18	17						6	6	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	左上唇裂傷	2. 自らの転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	危機管理マニュアルは整備しており、職員の対応はマニュアルに沿って行われていた。保育士は配置基準を満たしていたが、遊び始めたところで遊びが定まらず、職員も落ち着いて見れる状態でなかったと考えられる	配置基準はされているが、全体を見ようとすると危険を予測しつつ、どのような状況でも応じよれるよう、職員の動きや配置場所等に配慮をしていく。年齢に合わせた環境を整えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(294)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(294)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(294)回/年	ステージの高さは30cm、木製で角はあったが、転倒した先にステージの角があった思われる	あそび時も転倒し、ス平均ステージ上は、コーナーを設けて遊んでいるが、ボールで遊ぶ	1. 集団活動中・見守り	ステージ上、ステージ下それぞれにコーナーを設けて遊んでいるが、ボールで遊んでいた	あそび時の転倒も考えられる為、遊んでいるおもちゃは片づけてお	1. いつもおお様子であった	ホールに行き、ボールで遊び直し、遊びを始めた直後であった	4. 対象児の動きを見ていなかった	ステージ上では遊戯、ステージ下ではボールと平均台のコーナーで遊び、本児がボールで遊んでいることは把握していたが、事故時は目を離していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールに6名の職員がいたが、他の子どもと遊んでいた	ホール全体の子ども動きを確認している職員がいく、それぞれが個いる子どもの遊びを見守っていた	全体の遊びを見守る職員を置く。目の前の子どもだけに対応しながらも、周りの様子にも気にかけていく	
8308	令和6年3月4日	1. 認可	7. 小規模保育事業	12	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10		6	4						2	2	2歳	2. 女児		4. 睡眠中(うつぶせ寝以外)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足小指骨折(左足小指基骨骨折)	2. 自らの転倒・衝突による	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		布団に横になる子対に供達の2名に、当児童の見守りをつき、該児童がしていた実際につく側職員を配置するように瞬時に対応する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	障害物の無いフローリング部での転倒。日頃より転ずき転倒が多く歩行が不安定な時もあった。	活動し動いる時は歩行も含め対応できるようにする。	5. 睡眠(午睡)中	午睡の為に一度横になったが、何かつしく歩きてのく範囲からはなれた。	横にがいらしく立ちをし保育士の手の届かはなれた。	1. いつもおお様子であった	布団に横になったものフローリング部のテーブルに置かれて物に強い興味を持ち確認したかった様だ	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	横になっていた為他児対応していた際に立ちち歩き始めていた。側に向かおうとしたが他の子たちも追いかけようと動き出したので落ちたので落ちないように対応しようと目線を一度下に向けた所目を上げた時には転び始めで間に合わなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	布団に横になっている子と当該児を見ていると交互に見守ったが転びの際をかけは目線を下にしていた	声を掛け対応割を明確にしていなかった	子供全体の動きを瞬時に確認し声掛け対応する。子供を明らかにする。配置できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要						発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析						ハード面							環境面			人的面							掲載更新年月日
								発生時の体制																			ソフト面																							
									人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8309	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	5	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	7								2	2	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足骨折	2. 自らの転倒～衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット事故後話し合いを持ち、検証した事故記録同じことが起きないよう、事故予防の共通理解をする。研修等でこどもの学びとのフィードバックをしたりマニュアルの確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(繁)回/年		日々の安全点検を行い、使用前に障害となる物がないか再度安全確認をする。	1. 集団活動中・見守りあり		事前の打合せをし、役割分担をしっかり決め園児から目を離さない。CD操作は活動前にすぐに音が出せるよう準備し、スタート操作後すぐに園児に目を向ける。保育士同士の動きを気にしながら園児に目を向ける。行動を予測し指示の前に動き出しそうな場合は早めに声をかけ、動かないような工夫をする。担当者が一人で安全確保ができない場合は、CD担当者に声をかけ助けを求める。園児に背を向けるようなポジションはさける。目環からむやみに走り回らないよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	体操をする際、音楽が鳴る前に、他児が動き出し、対象児も出し自分の足にひっかかったか、滑ってしまってたかで、転倒する。	4. 対象児の動きを見ていなかった	体操の音楽を準備するため、CDの操作をしており、対象児の見て対象を見ていなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児以外の園児が動きし、出がいで、らのをた。	体操前の言葉かけが、不足していたか、全員通いらないこで、園児が動き出してしまった。担任同士の連携がうまくとれていなかった。	担任同士の連携をはかり、準備が整うまで、座らせて待機させる。園児を待たせない工夫をする。	
8310	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21								2	2	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指切創	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 基準以上配置		園児にハサミを渡す前にハサミの使い方や約束事(座って使う、切る時以外はキャップを付ける、人に向けない)を確認する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハサミを園児の手が届かない場所に保管して、使用する時のみ園児に渡す。	1. 集団活動中・見守りあり		全体のみではなく、個々の園児がどのように遊んでいるか見守りを強化すること。	1. いつもどおりの様子であった	対象児が保育士の指示で片付けようとした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラス全体を見ていたが、他の園児がハサミを持ち出していることに気付いていなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	事故のあったグループ以外の子どもたちに危険があると認識していなかった。		保育士が園児の近くを巡回しながら、危険な点があれば除去する。	
8311	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42	3	10	6	8	7	8		8	7	1歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	5. 下肢(足・足指)	左足背裂創	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	1歳児担当は4人である；クラス毎の子どもは9人で、3歳クラス活動は少数となる。	今回の事例をもとに園内研修を行い、職員配置等について見直しを話し合った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/週	未満児用のプの場を検討する。	未満児用スコップ場屋スコップ置き部屋と吊かず入れ所に近いところ、さに置く。	1. 集団活動中・見守りあり	朝の合同の保育の体育、保育士の数が少ない。	クラス毎にクラスの活動の保育体入るの見直制しく。	1. いつもどおりの様子であった	保育士から離れていたところで遊んでいた。	3. 対象児が離れて対象児見ていた	他の園児の様子から見て保育していた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見た。	クラスで園児を各	これまでのような事故はなかったので、園児の力が弱いもしくは掴まれない	未満児の掴む力を付ける為に水遊び、泥遊び、自分の椅子を自分に持つ等に意識して取り組む。	
8312	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19		8	11					3	3	1歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手中指指末節骨解放骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	職員は、職員が近くに職員が近くにいたが、援助できる立場にいなかった。	窓、サッシに限り保育室入口、引き戸等の安全対策を行う。テラスから出入りの際は、受け入れ側に職員がもも付くべきであった。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		取り外しが可能なクッション材を使用する。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもが自分で開ドアを閉め窓や窓枠に手を掛ける為、危険を未然に防ぐ為、子どもが出来る職員が立つ位置が出来るだけ職員が立つ。	保育室で保育士の配置をかしっかり確認する。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず通りだった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	保育士が入室児の他室でいるサッシ近くにはいたが、対象児がサッシを閉めるとき瞬間に合わず、指を挟んでしまう。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	付テラス近くに1名、保育室カ一側に1名、排泄対応に兼ね1名職員を配置していた。	子どもが側に付くにはと自閉のうと行動子の付くにはと自閉のうと行動	テラスからの出入りの際は、受け入れ側にも職員がつくべきであった。子どもの側に付く子どもが自分で閉めようとする行動の際には、予測し、受け入れ側員がサッシを抑えるよう声を掛け合等の配慮が足りなかった。	
8313	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	55			17	20	18			6	6	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	モンテッソーリ骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	保育士は子供の傍にいたが、支えられる距離感ではなかった。	子供の発達を正確に把握したうえで、固定遊具での補助の仕方を徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の前回り棒を使用している人数制限等は行っていることも討べき。	3間の鉄棒が3間のであり、一つ一つ保育士がの補助が必要とされる。鉄棒のは全マットもあり。	1. 集団活動中・見守りあり	鉄棒の前回りは安全に見えるが、子供の容易に供した指導をしているが、合同保育では子供の容易に合棒をしているが、保育士の容易に把握しているが、会議の情報共有を強化する。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の前回りはできていた児で、いつでも通り本児も通りしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	傍で見守り制で子供あった。他の子どもが、子供様子に声をかけることにより、補助する距離感はなかった。	1. 当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていた	職員配置は定数以上であったが、それぞれ、子供ついて、が、についた。	担任保育士ではない保育士は担当保育士が担当したこと、子供の発達をしっかり把握できていないことに原因があるとも考えられる。	全職員で子供の周知徹底するとともに、固定遊具の使用についても確認の徹底を行っている。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面								ハード面								環境面						人的面							
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																	死因	負傷状況	受傷部位	診断名																													
8314	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	48	0	0	0	16	20	12	0		6		3	4歳	1.男児	特に無し	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	特に無し	事故の検員証への知。検討会議（予防検討会議）園児への安全と新たな啓蒙を掲示（可視化する。）	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2４)回/年・随時	特に無し	保育室、廊下、遊戯室などがいスペースとなっている。室前下にトップ、ストップマークを貼り、子どもの届く廊下に走ってはいるが、保育室・入口のコーナー遊びスペース。	1.集団活動中・見守りあり	合同保育（3歳児保育室）から本児の保育室（4歳児保育室）へ移動し、戻る際に走り出したため。（ステージの上でいろんで子どもはいなかった。合同保育は3歳児保育室・遊戯室入口のコーナー遊びスペース。）	「ステージの上では遊ばない、歩かない」ことを日頃から伝えていたが、改めて各クラスでのルールの確認をし合同の保育の際も再度確認をする。ストップマークの意味と、廊下は走らないことをクラスで再確認をする。降園の荷物準備の際にステージに上らないよう、子ども達の動線を考え、荷物の置き場所をステージから離れたところ変えた。	1.いつもどおりの様子であった	お迎えの時間が近くなり、他児が忘れていった作品を気にしてクラスに戻っていくと言ってクラスへ、ステージ反対側の合同保育室へ戻る際、ステージ階段を駆け上がろうとし、1段目の階段に躓き転倒した。	2.対象児の近く象児を見ていた	4歳児クラスでお迎えを待っている子ども（3歳児）のトイレに引率（保育補助職員）し、保育室へ戻ろうとしていたら本児が急に保育室から飛び出してきて、声をかけても聞もなかった。本児が転倒し泣いたため、ぶつけた箇所を確認し本児を担任のもとに連れて行った。担任は普段あまり泣くことのない本児の痛がる様子がいつもと違うため、事務室職員へ報告し母親へ連絡し様子を伝えた。	2.担当・対象児の動きを ていなかった	他の遅番担当職員は、他児の保育をしていた。（玄関対応3名、3歳児クラス2名）3歳児クラスに配置されていた職員1名（保育士）は、トイレに行くイ子どもに付き添う途中で4歳児クラスに行くと言った本児を見送った。その時はステージ上ばかりで下を歩いてと行ったことを確認。ちょうど合同になる子ども達が移動してきたため、子ども達の荷物の整理をした本児の様子を見に行こうとした時に事故が起きていた。	特に無し	特に無し	
8315	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4				3	1				1		1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	鉄棒の安全使い方や注意点はマニュアルに記載されていたが、職員徹底がでの意識が低かった。	マニュアル底為をする、事故に関に予防に関修をする。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	前回りの手を途中で放してしまい、落ちると頭から下すする知した。本児曖に突こうとした手ことき腕ちた。マットはいて敷いたがついたに予想外の負荷がかかったと思われる。	3.個人活動中・見守り	少人数でゆっくりと遊んでいた子との安心感と見守りの不十分さ	遊具には必ず職員が一ついて十分な見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	帰り際、鉄棒の前回りに挑戦してみたが、怖がり、気持ちが急いでいたと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員1名は、離れた所から見守っていたが、遊びしく遊び片付けもしまとしていたこと、普段より前回りができたことに安心し、鉄棒があへの注意の意識が薄れていたと思われる。	2.担当・対象児の動きを ていなかった	現場にいた職員2名は、事務室で日誌を書いて保育室の保育日の準備をしていた。	危険がこ意ていたが、楽しそうんでいる見ると少しでいる姿をも見て守っみようとした。鉄棒の側には、保育士がつく必要があった。	運動器具で遊ばせるときは、保育者にいる。また、運動器具の側に他のおもちゃ等は持ちこまない。	
8316	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17									4		4	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顎の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	ヒヤリハットや軽傷事故報告の検討が活されていない。職員の配置場所に配慮が必要だった。	検討内容を容実を図る。遊びの様子を職員間で把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	子どもの場所が通る水筒がカゴに入ったカゴが置かれていた。確認かいろ全細がとこ出なまでいた。来ていた。	1.集団活動中・見守りあり	いつでもお茶を飲めるよう、水筒をのカゴに置いていた。床に置いた。次の遊びに早く行くに、できたく、小走りで移動した。	水筒をカゴに入れず、自分のロッカーに掛ける。日頃から室内では走らないよう声をかける。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で、このもいつもとと変りない様子だった。	2.対象児の近く象児を見ていた	咄嗟ので防ぎけなかった。	1.担当・対象児の動きを ていた（至近距離にいた）	同じ部屋で見ての各コーナー守りをしていた。	全体的に落ちて著しく遊んでいたの油断ていてしまった。	事故につい様々な想定を考え、事故防止策を職員間で確認し合う。	
8317	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9									1		1	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第４・５中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	今回のようなことは初めてだった。椅子の取りのマニュアルは作成していなかった。	事故防止委員会で事故発生要因分析を的確に行い、椅子を運び出すときは職員が見守りが補助をする等、安全対策の全重要性を周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	椅子を重ねての保管は取り不安定。1脚を取りくく安定。1脚を取りときに椅子が出す下の椅子が引っかかってしまう。	1.集団活動中・見守りあり	椅子を買え換え。椅子を重ねる保管いで椅子をすスペースを確保する。	重ねた状態から1脚を取り出し、廊下教室から運べるという流れで、対象児に安全に椅子を運べるよう指導が不足した。	日頃から椅子の正しい扱い方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変なくてしたが、他の子よりと遅れをとっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員はトルほど離れた教室廊下にいる対象児が目を離していた。	2.担当・対象児の動きを ていなかった	現場にいた職員2名は、隣クラスの会のクラスも同様に準備をしていた。	区域担当で保育を分担して当たっていた。隣クラスの活動を保育の動きは見ていなかった。	対象児が椅子を取り出す際、他の児が出遅れたことを気に掛け、急いで動きにくいが椅子から離れてしまっ	焦らずゆっくり活動できるような時間の確保と、椅子を運ぶ際は声かけをしながら傍で補助をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制														事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																							ソフト面									ハード面								環境面						人的面						
									異年齢構成の場合の内訳																																																		
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8318	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	78	0	2	16	18	21	21	0		8	8	3歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右恥骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	1歳児2名、2歳児16名で保育者3名、我り5名は幼児組担任やフリー保育士であった。幼児組担任は幼児組の子ども達についてお り、1.2歳児担当保育者の一人は室内に入るために子ども達の誘導もしており、十分に目が届いていなかったことが考えられる。	クラスのとらわれ全体で子ども全ども を見保育することを徹底していた状況であった。声を掛け合い、引き続きこと を意識していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	砂場の裏側も狭いため、乗用玩具は持っていない。スペースの難しいため、保育者が目を届かせるべきである。	砂場の裏側、砂場内に乗用玩具を持っていかない。繰り返しども達に伝える。また、保育者が子どもの動きを測していないことにする。砂場近くに乗用玩具置き場を設け、そこで遊ぶことができるようにする。	1. 集団活動中・守り	砂場の裏という側による状況によっては死角になりがちな場所であるため、意識的に見守ることが必要である。	保育者間の連携を十分に取っていく。	1. いつもどおりの様子であった	運動会練習後、園庭での自由遊びとなり、いつも通り元気を出して遊んでいた。	4. 対象動児の見ていた	一人は子どもたちを室内に誘導しており、2名は他児に関わっていたり別の子どもたちの場所を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児組担任は幼児組の子どもについており、1、2歳児担任は室内子（テラス）内に入ってきた子（保育室）に4名の保育者がついていた。	園児の人数から見ても、保育士の配置基準は充足されていたが、子どもの動きを予測し、目を離さず見守るといることが不足していた。	子どもの様子から行動を予測し、安全面に留意する必要があった。	
8319	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	29			1	10		18			3	2	3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕部顆間骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	本児の運動能力に対する共通理解不足	保育者が園庭ふ際の危険性を再認識し、見守りを怠らないようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	満3歳になって十分慣れていない遊具だった。	年齢と発達に応じた遊具の使用を徹底する。	1. 集団活動中・守り	それまで遊び慣れていない遊具で遊ぶことが少なかった。	一人ひとりの発達を認識し、見守り、援助を行う。	3. いつもと活発で活動的であった	年長児とゆっくり遊んで年長児に連れられるように雲梯にいった。	2. 対象至児の近児を見た	両手を雲つかまり、両梯にの足をはしごに掛け状態でた手をしまい受け止める態勢をったが合わ取間なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいる子どもたちは、その他園庭で遊ぶ子どもたちを随所で見守っていた。	雲梯をつかまえる自力遊ぶほどの経験はなかった。	できない子や安定なや不安定な子にはすぐ受け止められるようにする。	
8320	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	35	0	0	6	10	7	12	0		3	3	5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折		5. 下肢(足・足指)	右第5趾付け根付近の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 基準以上配置	特になし	発生した事故につい て、再発防止策を職員間周知するとともに、必要に応じて保護者と共有を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	随時点検を行っていた為、施設、設備等に異常はなかった。また、本児は玩具を使用していなかった。	1. 集団活動中・守り	本児は年中児であり、危険を伴うような遊びをしていたわけではなかった為、注視して見守るような状況ではなかった。	特に危険な状況ではなかった。	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室のステージ付近で遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	降園時の挨拶を行った、保育者の近くで遊ぶ子どもたちの様子を見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児もよく見えるで遊戯室全体を見守りから保育を行った。	特になし	状況に合わせて職員間で連携を取ながら、子どもの様子を把握できるようにする。	
8321	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	49	0	0	0	17	18	14	0		3	3	5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左足靭帯損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	職員が見ていない場で一人が立ちが、子の体が子どもの応えた位置をがかった。	他の保育者の位置も含め、全体に目が届くよう配慮する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設、遊具、玩具安全については問題なかった。	今後も定期的な点検を安全実施していく。	1. 集団活動中・守り	大縄、鉄棒を出して遊んでいたがそのいの周りを走るもい子ども子主がかって我をすることとができなかった。	子ども達の分けた、時間を分けする工夫をり夫だった。	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室で大縄跳びをしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遊戯室で大縄跳び鉄棒で遊びていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で保育していた。	職員がついていた他児に関わっていたこと、全体を見ていない時間があった。	全体を見ることが出来る職員が必要だった。	
8322	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	33	0	0	0	0	14	19	0		2	2	4歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右踵靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2. 基準配置	危険の要素があるや状況に応じて見る位置に移動する必要があると思われる。	発生した事故について、再発防止策を職員間周知するとともに、必要に応じて保護者と共有を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	危険の要素があるや状況に応じて見る位置に移動する必要があると思われる。	外部施設たであるし特に	7. その他	スイミングスクールにて更衣室で着替えをした後に砂ったらしく、痛いと訴えるとスイミングができないと思い保育士に伝えなかった。その後夕方になるまで痛みは感じなかったかもしれないが、夕方右踵が腫れて痛み出したようだ。	特に危険な状況ではなかった。	3. いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	スイミングに参加することで気持ちが高まっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	スイミングスクールでいつも同様の準備であったため、安全と全滅危険で判断し体を見位置なかのないように見守った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	着替えたと子ども共に更衣室内のコーナーにいた。	危険の要素があるは速やかに状況に応じて見る位置に移動して配慮する必要があると思われる。	気持ちの高まりを沈め、落ち着いて行動するように促す。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面					ハード面						環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位																											
8323	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13	0	0	0	0	0	0			2	5歳	1. 男児	園内行事前日ということで園全体が気忙しい雰囲気だった。食後、眠くなってくるとイライラしがちで、そのイライラを担当保育士に暴れてパニック状態になり、叩く蹴るなどして自分のイライラをぶつけてしまう。	8. その他	1. 負傷		1. 意識不明	窒息	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特に本児がパニックを起こした状態だと他からの刺激（音・目に入るもの等）のないように、個室に担当保育士と二人きりになってしまう。本児と担当保育士との関係は自分をありのまま出せる関係である。が、本児の特性として疲れた時眠い時イヤなどうまく表出できずパニック状態となってしまう。	パニックが収まらない場合（眠くても）は、他の保育士も対応に入ったり、気分転換を図れるように、部屋から出て外の空気を吸ったり、散歩へ一出かけたりして対応していく。本児の特性を職員全体で共有し、気づいたこと、有効な手立てなどみんなで考えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	床の上にショットマットを敷き、床に頭を打ちつけてもこたんがでぶつきないようにした。	7. その他	担当保育士に任せっきりであった	状況によっては（パニック状態の時など）他の保育士と体制で児の対応にあたっていく。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	食後、疲れと眠気、また、前日の午後担当保育士が不在だった、園内行事前で園全体が落ち着かない雰囲気などの理由でイライラし、担当保育士を叩く、蹴るなどしパニック状態であった。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	抱いて、本児の思いをくみ取るように代弁した。が、なかなかパニックが治まらず、担当保育士を手で叩、足で、頭突きをするので本児を押さえて動きを止めようとした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡準備、絵本開かせ等各クラス保育室で行った。	特に本児がパニックを起こした状態だと他からの刺激（音・目に入るもの等）のないように、個室に担当保育士と二人きりになってしまう。本児と担当保育士との関係は自分をありのまま出せる関係である。が、本児の特性として疲れた時眠い時イヤなどうまく表出できずパニック状態となってしまう。が、本児を担当保育士も抱きしめ、代弁し受け止めているものの眠気も重疑いることが担当保育士によって理解できたため、眠るように二人で頑張って対応してしまっていた。	状況によっては（パニック状態の時など）他の保育士と二人体制で本児の保育にあたっていく。	
8324	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13	0	0	0	0	5	8	0		1	6歳	1. 男児	発生時間帯はお迎え待ちの自由遊び時間で各保育室に設定する遊びをしたい子ども達が自由に移動して集まって遊んでいた。積み木遊びを設定した保育室にいた子どもの人数内訳は、５歳児８名・４歳児５名・３歳児０名の計１３名であった。	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	1. 頭部	右側頭部打撲頭蓋内出血	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	ソフト面については問題は無かったと思われる。	自由遊びや設定遊び、室内での遊び方とその内容について、安全面を再度見直し内容をよく確認して遊びの環境設定と人的配置など含め全体的な再設定を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ハード面については問題は無かったと思われる。	玩具遊具に破損などの異常はなし。	1. 集団活動中・見あり守り	遊びの設定内容や場所、広さなどについても問題は無かったと思われる。	玩具遊具は正しい使方を伝えつい方を繰り返しること	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りブロック遊びに数人の子どもが、一緒に遊んでいた。いつもと違う様子はなかった。	対象児とフロアにいて子どもたちのフォローに入りながら、同じ他も遊びフロアで遊んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ設定した遊びのエリアにの職員がついていて、それぞれにその遊びをしている子どもたちまで見ることは無理があり、他の職員は対象児を見ていなかったことに問題はないと思います。	今回の事故で一番の要因は、転倒という瞬間的な事故で、その転倒する瞬間を見ていなかったことにあると思います。他の子どもの遊びのフォローについても同フロアの子どもたち全員を常に観察し続ける、絶対に目を離さない、難しいことではあるが、その意識が薄くなっていたと思われます。	本児から頭を打ったとの報告があってわかった事故であったため、保育者は子どもから目を離さないことを徹底する必要がある。また、危険に繋がるような遊び方をしている子どもには事故を予測して注意するなどの必要があった。また子どもから報告があった時点で速やかに看護師等を呼び確認して受診などの手配をする必要があった。特に頭部を打った場合は必ず受診をする必要があると職員間では常に確認していることではあったが、当該職員は勝手に自分で甘い判断をしたことに問題があった。再度全職員に対し厳重な注意と安全や予防に対しての話し合いをもった。	
8325	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35	9	10	16						7	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位部骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置	何年より多くかったこと遊び怪我に遊び危険性を測れ外を	雪山をエンギリ作ったのリでしたの面がなな	雪山を作る際は、周囲の状況した場所作り下が状に	雪山の危険形にする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	雪山の上に職員と下に職員がいるので、ちらも任せてしまいてではか	3. 個人活動中・見守り	雪山の上に職員と下に職員のちらも任せてしまいてではか	雪山の上に常掛と下で声を掛け合う。雪とに掛け登る場所、待機する場所を明確に遊に決めるようにした。	1. いつもどおりの様子であった	他のそりをたのしそうなと自分加した	子が滑るい楽だ思い参ようした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑った子どもたちが同士かっていつてりようしまた、逃ていとするもなので、コースの整理をしながら見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年齢の小さい子を見ながらだった。落下の瞬間で、すぐに手を伸べることしかが間にわあった。	雪の降り初めは低かった山だったこと、そもそもすを楽しんだ。雪が多くもが園庭から側に見ばば山の雪山は高さ変わっていかことあり、後ろへの配甘慮が出た。	雪遊び時の安全についての確認を行った。クラスで職員同士が声を掛け合うことも確認した。	
8326	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19	0	0	0	3	11	5	0		3	3歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足小指の骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	ごっこをしたが、不意に突然倒れこんだ。警察沙汰にはならなかった。	子どもたちが遊びの基本的なルールを都度確認し伝えようとする。	遊戯室の設定の仕方に対して遊びの安全を配慮して再考していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	コーナーの分切り全体がいもあ	1. 集団活動中・見守り	遊びの展開の中で、静かなところと動きが始まったとき、ここは児わりにたとがみられた。	コーナーを分け安全の観点から見通しして設置していくようにする。	1. いつもどおりの様子であった	体を動かしあそんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	静的な遊びの側にいて、遊びごっこの始まったところみていたものの、側にいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の部屋にいた。	ごっこ遊びの中で、エスカレートしてしまいこ倒れるになった。	こどもたちが遊びに夢中になってしまうことは必要だと思われる。子どもたちの様子を察知しながら、危険を事故防止のため、見守りを強化していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
8327	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右踵骨折	2.自転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	職員各ヤリのヒヤットを子どもの状況を想定し、職員が対応するか研修する	今回のケガの事例を職員で共有しケガの予測に繋げる	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ホール内に試合のコート以外に机等が出ていたため、分かたのコートが広く取れなかった	より広いコートを設置し、ボールが出ても逃げやすい環境にする	1.集団活動中・見守り	子どもたちの気持ちが、勝負にこだわり、興奮しすぎて姿に気づき対応が必要	興奮しすぎるとタイミングを見て、関わる	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールで審判役をしながら試合と子ども達の姿をを見守った。相手がボール本児に当たり外野へ移動時、強く一歩を踏み出した。その後足を痛がり歩けなくなる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が強み出した姿はいたが、見た目、怒りが前面に出ていなかったため、見守り続けた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	試合の様子を見守り、個々や表情や行動を見て把握していた。	勝負にこだわりすぎると興奮に繋がる。	休憩や作戦会議等、気持ちが落ち着く時間を取り入れていく	
8328	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10									2	1	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（右腕関節）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	友達と一緒にマットを運ぶ際、本意ではなく腕が動かされたために疾病に至ったと思われる。	保育者も一緒にマットをようにまたまきさとる。大動かこえないを伝えを運ぶ。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	マットが子達の手べにで重さいなる。	現在、コロナ感染対策のマットは使用しない。	1.集団活動中・見守り	子どもたちは、遊びに夢中であるが、備えて、ようだけて、ようにされるようにいる。	現在マットはしまるべにらの合わせ声をかけたり、援助する。	1.いつもどおりの様子であった	一緒に運んでいた友達が、力を合わせて運ぶことが楽しくマットを掴大きく揺らしてしまった。そのため、本意ではなく腕が動かされたことにより疾病に至った。	4.対象児の動きを見ていなかった	泣いている本児に気づき声掛けを行った。どこが痛いのか把握できず静養室で様子を見る。傍で様子を見ていた看護師が原因は泣いかと気づき、担任が母親に連絡し通院に至った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールで子ども達と鬼ごっこをするなど遊びわっていた。	マットを運ぶ際に、骨折につながる怪我が起こると予測できなかった。	様々な危険を予測しわっていく。	
8329	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	20									4	2	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	口唇裂創	2.自転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		職員会議等で事故報告、ヒヤリハットを周知し、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		水槽を見保る時は一緒に座るなどして、安全な状態で見る。	1.集団活動中・見守り		水槽を低い位置（床上65㎝）に置き、台等に登らなくても見えるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	丸積木にって上がって遊戯室の魚を見て いたり、ようとしてバランスし転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	手を伸ばし間ずしたが防げなかった。子どもの行動を予測できなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	ボールでいる他児を見ていた。		子どもの活動に十分目行動を配り予測し、けがのないよう配慮する。	
8330	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	6	6	4						7	7	1歳	1.男児	常設しているベビーサークル付近でのトラブルが目立ったため、サークルを廊下に出しており、固定していたネットがむき出しの状態だった。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左口角から頬にかけて2センチの裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	研修に参加できない職員も多くいた。チェックシートをお惰性でこなっていた。	チェックシートの見項目の見直し、本部による安全への指導強化。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	危険な位置へのフックの取り付け	安全点検の見項目の見直し、本部や外部による理教育の講師による安全管の強化	3.個人活動中・見守り	音楽をかけ自由に楽しんでいたが、しっかりしと遊びめるがされいなかった。	子どもが熱中できる保育環境作りを行う。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	おむつ交換を行っておりてくが、児がどのようなおむつ動ていたかを見ていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	おむつ交換、昼食の準備をおこなっておくが、児がどのようなきをいたかった。	職員の危機管理不足、事故発生時は、全員が保育に入ってしまっていた。	危険個所に対して職員会議などで意見を出し危機管理についてしっかりと意識する。声を出し合い職員間の連携をとる。	
8331	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25	8	13	18	23	24	25	0		2	1	5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	脳梗塞脳卒中	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員配置について、子ども全体を見ることができる位置につけば、早期の発見につながったのではないかと考えられる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(53)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年		特になし。	1.集団活動中・見守り	事故前に本児が1度転倒していたことを他児はすぐに戻った。が担任に教えたが、本児は遊びに担任がが遊びに夢中であったとのまま子を見ていた。	児からのサインを見逃さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受入れ時から問題なく、普段通ごした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども全体を見ることができる場所で子どもを達ていた。本児は特に注視していたが、遅番で来たクラス担任が本児に気づいて対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	児の異づく担任本児をクラスに移動した。その後、師と行ったが、本児の異づく担任本児をクラスに移動した。その後、師と行ったが、本児の異づく担任本児をクラスに移動した。その後、師と行ったが、本

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8332	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25	7	16	24	22	23	25	0		2	1	5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右モンテジア骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置		職員配置について跳び箱の両側に職員が付くようにすること、二人で見守り、素早く受け止めることができるのではないかと考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年		特に。	1. 集団活動中・見守り	疲れが出やすい時間帯であることから、子どもたち一人一人の把握、やはり子供の気持ちを組み込みながら危険を伴う活動は避ける。	1. いつもどおりの様子であった	何度も繰り返し跳び箱を飛んでいた。	2. 対象の至対児の近で象児見を見てい た	失敗せず何度も挑戦していたので、大丈夫だろうと油断もあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱以外の場所で遊んでいた子どもと一緒にいめ、見ていなかった。	この子大丈夫という油断	大丈夫であろうと油断せず、安全に行えるよう全体に話したりその場で跳び方を細かく声かけながら進めていく大切さがあると考える。	
8333	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25									2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	頭蓋骨骨折・目と鼻を繋ぐ骨折(2か所の骨折)	3.子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	事故予防マニュアル・ヒヤリハット等の確認	保育活動等の職員の配置をしっかりと行う	1. 定期的に実施	実施頻度(月1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ヒヤリハットの確認	園庭の確認等を怠らない	3. 個人活動中・見守り	遊びの活動内容の認識	外部講師の指導の下、保育士は活動の補助となり、ひとりひとり園児の様子を把握する。	1. いつもどおりの様子であった	サッカー教室を楽しみにしていた様子。コーチ(外部の講師)の話をよく聞き、サッカーに興味を持ってしみながらサッカー教室に参加していた。	2. 対象の至対児の近で象児見を見てい た	サッカーに興味がよもの持ってる子ども達に声掛けや指導を行っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	コーチの掛けに声児の動きや様子を見て、言葉を掛け補助を行っていた。	ボールを一生懸命追いかけることで、ボールだけしか見ていなかった。周りが見えてなかったと感じる。試合の中でボールをたけることで、園児の動きが1個のボールよりも交差する事が多くなり、衝突が多くなりケガ等の危険がおこりやすくなった。	交差する事で衝突が多くなる事の危険性を事前にしっかりと理解する。	
8334	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	23				7	8	8			4	4	3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	鉄棒からの落下時には、鉄棒が付近で見守りができなかった。	園児が鉄棒で遊び始めたら、職員はすぐに行き、鉄棒の近くにまで見守り、それが出来ない場合、大きい声で注意し、使用しないよう掛けをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具(鉄棒)で遊ぶ際に注意すべき指導を行う。	安全のように思え、必ずも、寸園児へ注意の説明事項を伝える。	1. 集団活動中・見守り	全員が鉄棒で遊んでいる為、安全だと思いこんだ。	遊具には必ず職員が付くように、職員配置が出来ない場合は遊具は使わない事を子ども達に伝え、事故防止に努める。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子で、戸外遊びを行なっていた。	2. 対象の至対児の近で象児見を見てい た	鉄棒の隣のブランコで子どもの中で同士のトラブルがあった為、しばらく目を離さないよう見ているく守った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員でいるが、子どもも遊んでいるが、どの場所に視界っていて、ちた時も遊ぶ子ども入るの落に駆けつけた。	他の箇所でトラブルが起きていたので、対当た時には遊ぶ離れ場を伝え、他の職員に引継ぐようにする。	遊具には必ず職員が付くようにし、職員配置が出来ない場合は遊具は使わない事を子ども達に伝えて、事故防止に努める。	
8335	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	3									3	1	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	子どもたちが、サッカーという競技を理解できなくて、ボールを取ることに夢中になってしまった。	サッカーという競技にしっかり説明と技でしとり、子どもたちの理解度に合ったサッカーしみ楽しみを考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年 玩具によっては毎日	園庭に石、凹凸等危険物なし。	定期的に危険物、凹凸や点検し、今後も続けていく。定期的に入れ替えなどを砂を整備し、地ならしをする。	1. 集団活動中・見守り	サッカーゲームもの中、誰もボールを取りにくくしているのに群がり、転んでしまった。	もっと競技人数を少なくして、ゲームのルールを工夫し、ゴールを決めるなどの進め方を工夫する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの体調およびサッカー教室への参加対応であった。	3. 対象の離れ至で児を見てい た	園庭に向かって、回廊で応援している女子たちに男子たちのゲームを見守る。	2. 担当者・対象児の動きをしていなかった	常勤保育士担任1人とサッカーの講師2名、3名庭に出て おり、他の職員はいなかった。	普段でも何もないところだけでも遊ぶことが多い子ども達、群がったことが制限され、転びやすくなっている状況で声かけが足りなかった。	しっかりとも準備運動をするとともに、群がりをボールを避けるためのしっかりをとし、転びやすい状況にならないよう努める。	
8336	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44	0	0	12	15	0	17			7	7	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置		週1回月曜日に実施する「園庭安全点検」の項目に園庭整備を入れ、定期的に園庭・園庭を管理してと整備いくとする。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故を受け、保育士に園庭の備と共に、園庭の備を行う。今後、常勤全員で安全に関する話し合う。	1. 集団活動中・見守り	避難器具をマットは以前から敷いてあり、園庭整備のたびにその場所を平らに均していた。今回盛り上がっていた様子はなく、直前までその場所でも含めて5歳児が鬼ごっこをしていたこともあり、いつも通りだった。	月1回園庭整備を行う。避難器具の場所はもっと大きなマットで覆い、マットの上を走らないよう職員周知した。	1. いつもどおりの様子であった	七五三を控え、母親の実家へ帰省することもあり、いつもより気持ちが高揚していた。	2. 対象の至対児の近で象児見を見てい た	朝から本児の気持ちが高揚していることを心配し、その都度本児には声をかけ気を付けて遊ぶよう注意を呼びかけていた。転倒した際も、近くでする子ども達の様子を見ていたが、本児の突然の行動だった（横跳びで列から飛び出る）ので対応ができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体で子どもが遊んでいるが、保育士も広範囲に子どもの様子を見ていた。		子どもたちが遊ぶ様子をそばで見守ったが近くにいたが、手が届く範囲にはいなかったので、間に合わずケガをしてしまった。保育士動きには問題はなかった。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																ソフト面						ハード面							環境面			人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																					死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】																								
8337	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57	2	11	8	10	9	17		12	12	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足くるぶしの骨(成長軟骨)のひび	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(50)回/年	2. 基準配置	年長児同士で落ち着いて遊んでいたことから、近くでの見守りが十分ではなかった。	児童に対しても、安全に関する指導を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	けがをした付近は、緩やかな斜面になっている。また、石や根に突られた木のよるがみられた。	今までも入れ全をしてが、砂を安保にいた木のあるにべを置き、つまづかないよう対策を取った。	1. 集団活動中・見守り	至近距離での見守りが不十分であった。	職員の見位置検守り の再点検や児童への安全指導を実施する。	1. いつもどおりの様子であった	気の合う友だちと、テーブルながらごとしんままを楽しでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児をていた	固定遊具で安全確認をしながら、本児他児のたちの様子を遠くから確認していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	庭では遊んでいる際分の担当の児童ばかりでなく他にも目を配るが、今回は近くに保育士がいなかった。	保育士がバケツを持って姿勢を確認していたら、注意を促す言葉をかけられたかもしれない。	職員がバランスよく配置し、見守りを徹底していく。	
8338	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	64	3	9	11	12	13	16	0	9	9	3歳	2. 女児	事故誘因を自らの転倒・衝突と記入してあるが、状況から判断。録画等確認できるものはない。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	見守りの不体制の不足	動静把握	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日実施、業者点検は1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	見守りの不体制の不足	動静把握	3. 個人活動中・見守り	全体を把握できていない。	動静把握	1. いつもどおりの様子であった	不明	4. 対象児の動きていなかった	対象児の動静把握ができていなかった	2. 担当者・対象児の動きていなかった	全体を把握する職員に特定していなかった。	園庭内それぞれのコーナーに職員は配置していた。砂場付近にも職員は見守っていたが、たまたま別の子が外れてしまう瞬間があることを再認識し、できる限り空白の時間を埋める努力をする。万が一事故が起きた時の検証ができるよう園庭の録画（台数を増やす）も検討する。		
8339	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	100	12	13	18	18	22	17	0	33	30	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置		研修で学んだことが日々の保育に活かされるように確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	引き続き安全点検を行い危険な所は職員全員で速やかに改善していく。	今回の事故では環境に明らかな要因はなかったが、日ごろから安全を第一に考え、地面に転倒によって繋がるようなことができないか確認し、あった場合には速やかに改善していく。	1. 集団活動中・見守り		1. いつもどおりの様子であった	活動開始後園庭で見つけた木の実を大切に手に握った。	4. 対象児の動きていなかった	対象児が入る視界に場所で砂場児の他児遊びていた。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	対象児から離れた場所で他児を見ていた。	転んだ際手に木の実を握ったことが原因で手に木具や玩具の等を持ったまま遊具に乗らないことを伝えていく。	園庭へ出る前には、約束の一つとして手に木具の実や玩具の等を持った遊具に乗らないことを伝えていく。	
8340	令和6年3月4日	2. 認可外	10. 事業所内保育事業（認可）	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26	0	0	0	13	7	6	0	3	3	3歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置		再発防止ための職員研修をした。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	業者実施頻度(1)回/年職員実施頻度(1)回/週	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		園庭整備に努める。	7. その他		芝生上であっても常に注意を払い、走り出す際は周りをよくように伝える。	1. いつもどおりの様子であった	普段から、活発である。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	すぐ近くにいて、対象児が走り出す瞬間から転ぶ瞬間までを目視したが、手を差し伸べる事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きていなかった	転んだ瞬間は見ていなかったが、泣声ですぐに気づいて対応した。		職員間で、普段から活潑な子の情報共有をし、声掛けを強化する。	
8341	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36				18	18			3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕両肩骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置		テーブルには三輪車を乗せないということ、子どもににに伝える。	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		職員会議で危険個所の確認をする。	3. 個人活動中・見守り		危険個所には、必ず職員を配置する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも三輪車で遊んでいた。	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	園庭に見える廊下でおやつづけの片づけをした。使用した机椅子を片付け、掃除をしていた。	1. 担当者・対象児の動きていた(至近距離にいた)	近くにいた職員が注意をし、かけつけが間に合わなかった。	5才児だったので、注意すれば大丈夫だと思ってしまった。	見守り要員が増やせるとよい。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面								
			施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時		発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8342	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58	6	11	8	14	11	8	0	11	10	6歳	1. 男児	追いかけっこ時にたまたま相手の児童(逃げていた)が身をかわしたまでしまったことにより、勢いを抑制できずにタッチしようと手をそのまま伸ばしたその姿勢で転んでしまった。	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷			2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	子ども達の理解力や発達・発育状況、危険認識力等は月齢はもとより個人差も大きいため、遊びに対するルールのみでなく、ケガ等に至らないためのルールも子ども達自身で考える大切な大事な防や様々な危険な場面について子どもたち自身が考え危機回避できる力を付けられるよう保育の中でしていく必要がある。	職員が継続的に監視できない時間帯については、その時間帯にも遊びが行よいを遊定する。また、園児が監視すべきなどの遊び点で監視すべきか、職員全体で再考、徹底する。	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故の有無関係なく、常に子どもたちの生活に使わ物、場所の点検、整備要がある。	今回はハード面に関わる事案ではなかったが、運動場のコンディション等も点検し、滑りや引き跡を起こす性があるには対処していく必要がある。	3. 個人活動中・見守り	確実に園児たちが遊び終えるまで見守ることを完了することを守ら、職員の配置や、どもたちへの声掛け、遊び始める前の声掛け、遊び前の掛け要であった。	個人活動の見守り時は、職員同士しっかりと声を掛け合い、活動の内容について必ず監視な遊びについては見守りが必要な途絶えるとのないように周ごい職員に徹底を行う。	1. いつもどおりの様子であった	普段から児活発な児童である。動かすことが好きであり、駆けっこは得意とする。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故直前は追いかけっこの中心役として、この中心役として、この児童出迎り(保護者対応)のためのそれを離れた時に事故が発生した。	1. 担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童らの至近距離にいた職員は担当クラスの子どもたちの動守りを見守りながら、近くにいることが無い未児等に追いつかることが無いように声掛けをしていた。	見守り場を離れるときの職員の連携、コミュニケーションを徹底必要がある。	見守りの優先順位やゾーン分け等、異年齢児を全体で見守る場合において留意点やルールを職員全体で再考し、徹底する。	
8343	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25								2	2	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	小指基節骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット活用し、保育士の安全意識を高める。危険じたときの保育士がその場を離れる時にとは必ずかい、複数の子を見守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		階段の昇降時には1列だったが、保育士の目がに届くように長く(2列)にする。	1. 集団活動中・見守り		環境には起因しない内、未記載。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通子あったが次の活動に向けが焦りが無かったと推測される。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた。	列の真ん中に位置全体を見ていた。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	他職員はクラスで保育に当たっていて、担任一人は遊戯室の任一つけを行っていた。		危険性が高い場所、子どもの気持ちが高まっている時には複数で子どもの様子を見ていく。	
8344	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	12								8	8	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨折(全治約4週間)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置		安全管理やフローチャートの見直しをに定期的に行う。怪我や事故の原因を再確認を、今後しの活動にの生かせるようにする。ヒヤリハット報告書の作成。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き、定期的に施設・遊具の安全を徹底していく。	1. 集団活動中・見守り		引率職員全員で児の確認、行動の安全を捉え、危険を想定した事前指導、配慮に努める。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から散歩に行くことを楽しみにし、職員は頑張っては登るとお張り張りきっていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	いつもよりペースが張っていて速くきったため、職員が至近で見ていた。	1. 担当対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	異年齢児散歩一緒の歩だったため、他のクラスの職員も後本児の後方を歩いていた。		所児の行動をきめ細やかに確認し、援助や配慮が必要な所児には、保育者が寄り添って行動する。	
8345	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	2									2	5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 基準以上配置	休暇の職員が多く、担任以外に補助にまわれる職員がいなかった。	フリー保育士の配置	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	引き続き危険箇所を確認し、事故予防を図る。	2. 集団活動中・子ども達のみ	1つの活動が終わり、担任片2人が片付け、準備に入ってしまったので、1人は園児につくべきだった。	必ず職員1人は園児から目を離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	次の活動を待つ間、プランコでくく待機していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	次の活動にうつるため、片付け、準備をいた。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	出てクラス歳外いるクスは5歳児のみだった。	担任以外で補助できる職員がいなかった。	片付け、準備等が必要な場合は他の職員を配置する。	
8346	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	70			27	19	24			8	7	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		職員の人数配置については問題ないが、職員の意識改革と共に会一人ひとりの身体的状況、及び運動発達面において情報共有を徹底した。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年		遊具については、月2回安全点検を異常ないこと確認を行いしている。	3. 個人活動中・見守り		固定遊具については必ず職員が付くことになっているが、会議においても一度周知徹底した。	1. いつもどおりの様子であった	最近雲梯に興味を持ち頻繁に挑戦していた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児を見ていた落下する瞬間に手を伸べたが合わなかった。	2. 担当対象児の動きを見ていなかった	他の固定付遊具いていたため、落下する瞬間は見ていなかった。		全職員において、子どもの遊びを見守る際に危険を予測しながら見守ることを徹底した。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8347	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	5歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年事故後すぐにも行う	2.基準配置	急に走りこと回避出すする危険に避、性を想定ができていなかった。	事前に急出体かわを走り、したがるかけるよう遊び回避り助けれるな職員配置や声掛守ま今まで以上にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	準備運動が不十分だった可能性もある。	ゲーム遊び始まったこと確認避体まとを後、回体できる。	3.個人活動中・見守りあり	園庭で他児のトラブルや、育成加配児と一緒にいたため近くにいられなかった。	回避ができるよう遊び園児を把握し瞬時に体制を整えられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒にゲームに参加しながらも見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3人の保育士が園庭で全員の動きを把握できるように分散して見ていた		他児のトラブルの対応の際も、他児の職員に声掛けをし全目を見て子どもの目を離すことのないようにしていく。	
8348	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	2歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員配置基準は満たしているが、子どもの様子で確認しながら注意深くしていく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		使用する遊具の安全確認や、使用する子どもの年齢や発達などを考慮し遊具を選び、安全を確認しながら保育をおこなう。	3.個人活動中・見守りあり		異年齢クラス（特児に未満児）と共に園庭で遊ぶ際の安全に気付けることを、子供と一緒に確認・周知	1.いつもどおりの様子であった	前方不注意で他児と衝突した	4.対象児を見ていなかった	離れた場所で他児と関わっていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	消毒清掃中室内で	未満児の身体動きの差や発達生危険予測が甘いことから危険を予測した。危険予測を上で、遊び方を工夫し子供に伝達に伝達する配慮に欠けていた。	状況に合わせた遊び方を判断し、都度子供達に知らせて、子供達自身が注意すべき点などを自分なりに気付き、行動できるように日々の中で保育の働きかけをしていく。	
8349	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									3	3	2歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)			3.個人活動中・見守りあり	運動遊びは平均的に出来ていたが、運動会出しているが、いつもより遊具が1つ多かったため、遊び場が狭くなった。また、平均的に広く使われていた。	園児の体調や状況を把握し、園庭の固定遊具以外の遊具や配置を見直す。また、事前に危険になる場所をお確認しておく。	1.いつもどおりの様子であった	本日は機嫌よく、園庭に出ると好きな築山に登って保育者に手を振ったり周り走り回ったり、トンネルの中を通って遊んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は築山を囲むように子ども達の見守りをし、対象児が築山の周りを走ったことや築山に登って手を振ったことに対して、手を振り返し行動を把握していた。トンネル内を走っていることは把握しており近くにいたが、手を差し伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	当日は砂場に中心に見守り、平均台や中央棒を中心に見ていた。他の担当者は	築山のネットトンネル内は、保育者の位置によっては死角になることがある。	園庭に出る前に環境を見直し、適切な位置に保育士を配置し、子どもの動きを見ながら臨機応変に角度を変え、見守りや援助をする。また、築山の見守りの際には死角になる場所を把握し、トンネル内位置が見える位置に保育者に見守りにくくなるようにする。	
8350	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40		1		11	15	13			2	2	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等から落下の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園内研修で話しはしていたが、色々な場面をしておければいけなかった。	外部の研修に参加し、一人一人意識して保育を行っていく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		引き続き、毎朝の確認を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台の上にまごとの玩具を並べて遊んでいた為、足場が不安定であった。	滑り台のままの並ばないように徹底する。滑り台をコーンクリートの上に移動させないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台を家に見立てて遊んでおり、数名の園児がいる中にいた。1歳児の子のにいに近くにて面倒をみていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭の砂場で他児と遊んでいた為、対象児が泣き落し激しく泣くことで転倒したことを気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お互いに鉄棒でこぶつかったことが園庭で他児の対応をしていた。	全員の子どもが見える位置にいなかった。他児をしていた為、その場を離れた。	園庭遊びの際は常時2名以上で保育を行う。他児の対応で離れる時は、他の職員に声をかけ他の職員に替わってもらうなど、連携を取ってしっかり取る。	
8351	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	—	—	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	一人ずつ縄跳びで、2/3程走った時点で転倒する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	順番待ちの他児童の傍につきながら、対象児が競技を続行したためゴールまで見守った	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児がゴールするまでは、見守り、ゴール後に患部を看護師と確認し、冷やに看護師と共にした	運動会当日とこういうと通常より気持ちが高ぶっていた可能性がある	張り切る気持ちは受け止めつつも、落ち着けるような声かけをする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8352	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12								4	4	6歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		鉄棒等の際される事故について、フルタイム、タイム保育士の研修を行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		マットがなってショ性でくてまっる物は、新し交換する。	1. 集団活動中・見守り	前回りができるようになってうれしがるようがしまったの力手が離れてしまった。踏み台が為があ対象児が回るとき見えてしまったとつ不意にぶつかると思ってしまったと思う。	鉄棒に取り組む前に遊びの中でぶらりやマットで下がりマットの前転等を繰り返し行い回転の感覚を養う。子どもの高さ背の高さに合わせた鉄棒や熟練度に合わせた鉄棒を使用する。又はマットの高さを等すげる。	1. いつもお様子のもりであった	運動会で行う鉄棒前回りの練習をしていた。出来るようになってきた本児は自信を付けたせいか、見守っていた担任保育士に見てて と言い鉄棒に向かった。	2. 対象児の近で対象児を見守っていた	保育士は対象児が手鉄棒の前で飛び様子を見守っていた。しかし、離片手ことれた気づき手を伸べたが間に合わなかった。	1. 担当対象児の者・象児動きをい(至近距離にいた)	同じ保育室内で他の全体的に見ていた。又、跳びは、箱いるものりをしていた。	1. 保育士は、今回の事故を職員間で共有し、今後の保育計画や活動の選択、保育士の対応を見直していくことが必要である。	鉄棒を使っケガの予測を事前に行い、鉄棒をする際にはマットを厚くするなど落下してもケガをしないような準備をする。	
8353	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	17				6	11			2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肘関節脱臼、左鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	散歩先の公園は市私立の保育園が利用している。	散歩先の公園が他園も利用してあっていた場所なら変えるなど工夫する。	1. 定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	事故が発生したのは丘ではなく斜面であったため、地形安全面すのも考慮する。	予め危険予測し遊ぶ場所などを選択する。	1. 集団活動中・見守り	他園の園児とぶつかっている為(相手は走っている)他園の子どもの動きもしっかり把握しておく必要があった。	他園の子含児ども、園を動きもっかり観察・把握する。	1. いつもお様子のもりであった	本児は特に体調面は問題はなく、公園でも動きはおとなしい方	4. 対象児の動きを見ていなかった	丘の上で遊び終えて、丘から斜面を滑りながら降りろ下で全体をかけ先頭をがら見回していた。	1. 担当対象児の者・象児動きをい(至近距離にいた)	至近距離ではない。一人員もたから後びにいる帰るがら降った。	今回の事故は遊び終えて帰る自園の子と、これから遊び丘を上がって来た他園の子との斜面ですれ違い時に起きた事故だった	安全面を優先して、保育園同士の事故を防ぐ為、他園の子どもが上がってくることが解ったら下の時間をずらす。	
8354	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	8								1	1	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足踝下の剥離骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット等を職員で見直し共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	タイヤを端に寄せたり、動のにくい様に配慮だった。	砂場のシートをたえるタイ用抑めにヤをしたが撤去した。	1. 集団活動中・見守り		タイヤについて安全を考つつ安全確認を行った。	3. いつもお活動的であった(理由を記載)	1週間休み、友達と会った嬉しさから活動的だった。久しぶりの戸外活動でもあり、体がついていたかなかったが気なり気持ちいつもなら目に入らなかったので	3. 対象児の近で対象児を見ていた	戸外遊びで見守っていた砂場は、砂場少した	遊びでは行っていたが、から場に離児が少ったまま	2. 担当対象児の者・象児動きを見ていなかった	1クラスにでの外ていた、他の園内で保育士で、職員は蜜を	1クラスが他園のすべてをした。	1クラスのみが園庭活動をしていた。	複数のクラスで園庭で遊ぶことにより大人の目が増え、安全への気配りができたのではないか。	
8355	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12								3	3	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	すい臓損傷	2. 自転車の転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	事故防止マニュアルには予防される行動,事故の記載があるが、点の意識が十分ではなかったかもしれない。	年1回の見直しだけで活動に即した確認やヒヤリハット報告書を利用して、全職員の共有やケーンファレンスを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回は遊設具や施設は影響しているものの、園庭の状態等にも気を配っているが、危険はあること再確認せられた。	的な共と使子と達の等にも方なっていて事がるで、日常をかりいく事止に繋がる常に、の様子に故防ことは、点検せとしく。合わせ確認とした。	3. 個人活動中・見守り	本児のこれまでの経緯、当日の気持ち、コロナ禍がいての影響、複合的な誘因が重なってまった事態なまま能性も考えられる。	これまで捉え方、現状を十分理解し、環境の変化に適切な対応ができるよう、個々の状況を取れる職員がしっかりと理解していることを確認した。	3. いつもお様子のもり活動であった(理由を記載)	普段乗りこなしているよりも少し高い竹馬に挑戦している。いつもは他児に越されて使えなかったが、この日は残っていたため手に入ったため、こはまってみようとして挑戦してみようという気持ちが強かったのではないか。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児とマンツーマンではなく、見られる位置で本児とは離れた置馬をいる複数の他児をいめ、合わせて状況を把握しながら見ていた。	2. 担当対象児の者・象児動きをいなかった	担任以外は職員は園に出ていなかったなり遠足に出かけたりまってしまいて、担任は園庭で保育をしていて、対象児が近くいるはずなのに、本児の姿が見えなかったり、まっていたりしていて、者・見ているものと思ったが、	いつもより高めの竹馬を使っていたが、本人の頑張りを認めてあげることはできていたが、事故に繋がるリスクが高くなったことは意識していなかった。また本児のみならず、コロナ禍という中で児の子どもの体力低下や、咀嚼の力などが上手にできない状況だったかもしれないと思われる。	本児に限ら昨年・今年と活動が制約されたことで、子ども達の体力等が以前まだ比べて育てかったかもしれないことを念頭に置いて保育すべきだった。今後その点に十分の注意保育計画や活動の選択、保育士の対応を見直していくことが必要である。	
8356	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	17								2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足踝の複雑骨折	2. 自転車の転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(３～４)回/年	2. 基準配置		職員の意識向上に研修への参加及び職員会議での共通理解を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年		片付けのゆとりを設定慌てることのないよう際にとり持間をしるないにしく。	1. 集団活動中・見守り		担任間だけではなく、職員間で三輪車の扱い方を再度確認し、安全への配慮を徹底していく。	1. いつもお様子のもりであった		3. 対象児の近で対象児を見ていた	全体の子どもの動きの見て為、から場所に離れた本児がいた。	2. 担当対象児の者・対象児動きをいなかった	固定遊具の補助はいていた為、対象児の見えていなかった。		園児の行動をよく観察し、適切な声をかける。園庭遊びでの危険な事例を把握し十分注意を払う。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8357	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	1	2	2	6	2	2			6	5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上歯茎外傷・上唇帯断裂	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	配置確認、の確認	外に出る際の先生の位置を確認する	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	水道周りが濡れていた	水回りなどが滑らないかを確認する	1. 集団活動中・見守り	カメの水換え後で周囲の水道が濡れていたりさせていた	滑るかもしれない事を子どもに周知させていく	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない姿だった	4. 対象動児を見ていなかった	固定遊具で遊ぶ子を中心にを見ながら全体を見守る体制でいた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	ゆったり数人でいるため、ゆったいは先生の場所は把握しつ低年齢児中心についていた。	発生場所の周辺は死角になっていた。	職員の配置の見直し、職員間の連携を確認	
8358	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4	1	0	1	0	1	1	0		1	1歳	2. 女児	無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右外果剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		室内では走らないよう引き続き伝えていく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		転倒など危険性しくの危険配慮にするのに修によろ	1. 集団活動中・見守り		普段から運動遊びの前には準備体操やストレッチ等で体を解して怪我防止に努めてきた。コロナ感染症拡大防止で保育園自粛中に運動不足になった子どもが多いからか、体のバランスが取り辛かったことが考えられる。今後も子どもたち達が動いたり歩いたりする際には転倒や怪我の危険性に配慮し、保育士等が修についてすぐに対応できるようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	他の園児と一緒にごとを楽しんでいまま遊びをしんでいた。	2. 対象至児の近で象児を見た	保育士2名での保育体制であり、1名は園の戸見実施の締りと見回りの施、1名は保育に当児の締事し当該園児を見守りしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園内の見回りの締りを戸しをしていた。	方に寒気が出て保育士に甘えうとに上がったと思われる。	安全面には十分注意をしていたが、ままごと等活動の切り替え前に約束事を決め始めるとも達の数により工夫で集中できるようにしていく。保育に士等が寄りをかけ、声急な動きにも対応できるようにする。	
8359	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	1. 0歳児クラス	9									6	0歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	頭頂骨骨折外傷性帽状腱膜下出血	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(18)回/年	1. 基準以上配置	研修としてヒヤリハットの報告後改善点を話し合って気付いるをしが終わるがある。	気を付けうまましょうが終わらず具体的な改善策を話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	東廊下と土の下の間に10cmの隙間があった。園庭、園庭のチェックがでよチがちになる。	隙間に衝撃吸収材を貼り挟まないにした。施設、玩具についてその内容がされたチェック表を作成点検をする。	3. 個人活動中・見守り	対象児よりも歩く対象児を見ての優先いた。対応として全員で全員を見ていた。	声をかけあい誰かをみるあい誰かかにかる。	1. いつもどおりの様子であった	ござのすりいをした。自宅ところから聞いたのでござの上で遊ばせていた。	上ばかりて高いこと落ちと保護者ていたので	2. 対象至児の近で象児を見た	他児の着替えを手伝ったが、対象児が落ちた際手を伸べの助けなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった。	他の歩く見ていた。	対象児の板につかまろうとする動きを予測し、ござのすれば落ちる心配は思っていた。	対象児の運動発達の状況を把握しクラス職員で周知する。	
8360	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	87	6	14	13	19	16	19	0		12	12歳	2. 女児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	鉄棒の上に座って瞬間的に拍手をして鉄棒を掴み直す行為という今棒は、鉄棒の1つの技としてが、保育園で行はなかなか許可いた認め為かもしい。	今回の行為を禁止とする。その禁止事項の確認。そのそのレベル適しるか情報を共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(296)回/年	ハード面の原因は特に無し	ハード面での改善は不要	3. 個人活動中・見守り	環境面の原因は特に無し	環境面での改善は不要	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒をやっている子を専任で職員はいなかったが、離れたところで見ていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の危険(ハ付個所シゴ)近で遊ぶメイン子をで見ていた。	年度末に、子どもの成長とともに来ども成長とも出こと増え、危険行為の確認、議論、見直しが減っていた。	鉄棒だけでなくブランコ、すべり台、斜面、はしご等のルール、マニュアルの見直し、共有。	
8361	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	14			7	7					2	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	頭部外傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	園周辺マップ作成されの様子や公園等の把握もできていた。戸外活動中の危機や事故の理や対応について研修が行われた。応急手当について保育士間で確認できた。	事故発生の対応の仕方をクラス間、園全体で確認し合う。(常にお散歩バッグの中身や確認や緊急連絡の手順、事故内容判断基準の確認、対象児への対応について等)	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊び始めには危険物や危険個所が破損個所が確認し、発見した場合は遊ぶ場所を変更し、園内他職でも共有して負担する。	危険個所を見つけた場合には報告し、政策等を連絡ならば安全な環境で遊ぶ事を対応する。	1. 集団活動中・見守り	遊び慣れている公園でもあり、当日は特に面がぬかるんでいたり危険個所等の問題はなかった。日頃から遊び始めに遊び方に注意して遊び前には、子どもも達と遊び具の使い方、危険個所の確認など約束事を交わしている。	遊び始める前に、口頭だけでは危険を子ども達と共に直接確認し合い、何どうと危険がどこがあるかなどの危険か等、具体的に伝えに知らせていく。	3. いつも活発で活動的であった	仲良しの保園児の保護者が参加で出公園にかけ一緒に電ごっこを行ったことで、友だちも本児いろいろ以上にテンションが高くなっていた。		2. 対象至児の近で象児を見ていた	何か所かに子分かれて子どもが遊び達の遊びが行われていた。固定遊具付近で追いかけっこや鬼ごっこは危険であることを伝えて広場で鬼ごっこを他児の遊びも見える位置で見守っていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった。	広場付近に1名保育士が1名いた為、離れた子どもたちの様子を見守っていた。保育士間で声を掛け合える距離でもあり、離れていても子どもたちの様子は確認できる範囲内ではあった。	固定遊具やアスレチックは比較的安全な場所ではあった。園児14名に対し保育士2名と十分に見守ることができる状況であった。保育者が加配園児がいたことで子どもたちの気持ちが安定し怪我に繋がったのも要因としてあると感じる。	子どもの遊びを見守りながら、水分補給や休憩のタイム等で一旦個々の様子や状況を改めて把握確認、把握するようにしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				発生時			発生時の体制		異年齢構成の内訳							教育・保育等従事					発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面						環境面				人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8362	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	22								2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足くるぶし除起骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置		子どもの特性を十分に理解したうえで職員一人ひとりが事故予防に心がけ、気配りをしていくことで、起こりうるリスクを減らしていく。所長とリスクマネージャーが一体となって、事故に発展する可能性のある問題点を把握し事故予防に取り組んでいく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園外保育全は、当初定実期的に施しているが、引き続き施しく。	1. 集団活動中・見守り		子ども自分身が自分のみを守てる意識よう、日頃の保育の中で取り組んでいく。	1. いつもどおりの様子であった	子ども同士で鬼ごっこをしていて転倒するが、保育者に伝えず後、また走って参加した。その後もいつもと変わらず楽しいて帰園した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもの動きを見守っていた。本児が痛みを訴えてきたので確認を守るが、腫れ様が無くて子すぐに遊び始めていたので様子をみていた。	1. 担当者・児象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	公園内の固定遊具近くにいて見守っていた。		子どもの特性、動きに配慮し、職員は危険時にすぐに動ける立ち位置につき対応する。	
8363	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	1								1	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	職員の経験値・危険予知不足	経験値を補うため今回の経験生かし全職員に周知。研修の見直し。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	玩具や遊具の破損などではないことからの油断。	危険箇所し見直しと周知。	1. 集団活動中・見守り	経験値がないから、危険予知が出来なかった。	子どもの年齢や発達、人数に合わせ、活動の場をなどの対策をする。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず登園。体調も良好。登しました、興奮後で様子の余韻をしんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこに夢中になり、本児が転んだ後に泣いた。砂場の木枠の側で泣いたので傷に行き、木枠に躓いたと本児から聞取りをした。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員なし	なし	危険箇所の見直し、活動の場所を考え全体を把握できるようにする。	
8364	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	17								5	5	2歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1.2)回/年	2. 基準配置	近くに担任はいたが、危険性を把握しなかった。	子どもの遊び場所として適切か担任間で合意する必要がある。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	年齢によって子どもの運動発達面を把握しきれてなかった。	年齢によって運動発達に考慮した子どもの行動面をしてものに注意する。	1. 集団活動中・守り	安全に見える環境の中にも危険な場所が潜んでいることがある。	散歩先の場所をあらかじめ、下見し危険な箇所がないか点検する。	3. いつもよく活発で活動的であった	普段は飛び降りなどは飛びませんでした。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	近くにいたためにかられた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	気になっていたが、それぞれ子ども他の大人とかかわっていた。	危ないと思っていた職員もいたが担任同士の連携がうまくできなかった。	担任間で確認しながら子どもを見ていく必要がある。	
8365	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	16								2	2	6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右第4指基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		マニュアルなどを読み合わせ年齢ごとの身体的動きなどを把握する	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日		活動前に目視で安全点検を行う	1. 集団活動中・見守り		危険箇所を回避するよう声かけをしていく	1. いつもどおりの様子であった	慣れ親しんだ公園でいつも通り遊んでいた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで走る子どもを見ていて、転倒して、まっすぐ声をかけをした	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊ぶ他児を見ていた		慣れ親しんだ公園でも常に環境を把握し事故の内容配慮する	
8366	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17								2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘脱臼、左腕尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置		遊具を使用する人数や時間帯など子ども達の様々な状況を考慮したうえで安全に使用する。遊具を使用する際は子どもの特性を把握した保育者が目を離さず見守り、危険に繋がるようなことは未然に防げるようにする。所長やリスクマネージャーを中心として、事例検討や改善を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具の点検保育整備の常に意識を行い、安全を図る。安全マットは敷いていた性を考慮に対応安全性をさらに考慮し対応していく。	1. 集団活動中・見守り		遊び方やルールを徹底し、子どもの発達に合わせた使い方をして安全指導を行う。数名が同時に使用するのではなく一人ずつ順番に遊ぶようにする。子どものやりたい気持ちは十分に受け止めつつ、発達に合わせた遊び方が出来るよう適切な声掛けや援助等の配慮をする。	1. いつもどおりの様子であった	他の友達が鉄棒で遊んでいるのを見て、やりたくなり、もうやめた足が引っかかり引っずり落ちてしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担任の一人が近くについて見守っていたが、落ちる時には間に合わなかった。もう担任は少しわなかった。一人の担任は少し離れたところで全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいる他の児童を見ていた。		常に危険が伴うことを意識して、対応できる立ち位置で取り組む。遊具を使用する際は子どもの特性を把握した保育者が目を離さず見守り、危険に繋がるようなことは未然に防げるようにする。動静把握を下等にしながら、職員の役割分担や介助の仕方などを確認していく。	
8367	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	23				9	14			3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	多く利用している公園で遊び利用する公園の大きさ等のあり、利用する人数の大きさという認識があった。	ブランコ、滑り台の利用方法を園児と保育者で学ぶこととする。	3. 未実施	園外活動中だった	2. 不定期に実施	使用前に保育者が安全を確認	2. 不定期に実施	使用前に保育者が安全を確認	特になし	遊具の利用数を制限し利用者が少なく園児用する	1. 集団活動中・見守り	ブランコを大きくゆらす（こぐ）ことがあることがある	ブランコを大きくゆらす（こぐ）ことのないよう注視する	3. いつもよく活発で活動的であった（理由を記載）	園児同士が追いかけっこ遊ぶ勢いでブランコに乗ってしまったので、大きく動いた	1. 対象児にとってマンマの状態（対象児に接していた）	他の園児より揺れ動くいたので大きくさせるよう促す	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	他の遊具を利用している園児で遊ぶ園児の見守りをしていた	普段から利用しているブランコあるが、用いたマクのをスズ直と放置がった。	ブランコの利用中は大きくゆらさず、手を離さないよう指導、見守り指導を行う。思い込みをなくし、事故が起こるかもしれないという考えをもつ。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳									教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8368	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	特になし	遊び方のルールを見直す	1. 定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(週1)回/年	特になし	玩具を多めに準備 コーナー分けなどする工夫	1. 集団活動中・見守り	床にレゴブロックを置いて遊んだ。	ブロック製作はテーブル上やスペースを決めて行う。	1. いつもおお様子であった	レゴブロックでの製作は好きな遊びであった。また、友だちやもち本児の見られる光景だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	転倒の瞬間は見ていなかった。	他に職員はいなかった	職員1名で保育の為、該当なし	特になし	夕方は怪我が起きやすい時間帯であることを把握し、全体を見るようにする。	
8369	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	25			9	6	10				4	4	6歳	1. 男児	痛みが続くため整形外科を受診した所、骨折していたと母から園へ連絡が入る。環目の骨が欠けていると も言われたとの事で、左上部から手甲までギプス固定した。●月●日病院を受診しギプスが取られた。医師から激しい運動さえしなければ普段の生活に徐々に戻ってよいとの事であった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕「上腕骨骨折」	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	公園での中遊びで、どの保育士がでい遊んら園児達をどのように見守るかが具体的に定められていなかった。	戸外遊びの保育士の園児への見守り方法を具体的に定めてく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	公園での前遊びの前に苔のある場所は滑りやすい場所で気のつけるようにが、木の周りに注意しながらぶぶえた。	遊びの前に足元が滑りやすいので、転倒の危険がある場所では遊ばないように声掛けを注意する。	1. 集団活動中・見守り	異年齢保育とな り、公園内での遊び範囲も広くそれ保育士の見守りがしっかりと定まらなかった。	園児が遊び開始する前に、具体的に各保育士の見守る位置や見守る範囲、内容を打ち合わせで決めておく。	1. いつもおお様子であった	朝の体温常でも通あり、公園でのびも普段通りに元気よく走り遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が離れた所から少し離れた所から、対象児や他の園児と全体的に見守った。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	園児達から少し離れた位置で全体の見守るとして園児を守っていた。	公園での遊びの中で、どの保育士が遊でいる園児どもどのように見守るかが具体的に決められていなかった。	遊びの前に園児の見守り方法を具体的に決めておく。	
8370	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	26	1	4	6	4	5	6			3	3	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕尺骨骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	配置基準以上に保育士配置。転倒して腕をつくできたことを子育ると評価。	バランスが取れない、情緒が不安定への関りや保育展開を共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		子どもが判断することができない危険は排除しています。	1. 集団活動中・見守り	活動に必要と判断したものを子どもは選択している。	幼児クラス児には、乳児クラスの子どもがみんなの真似をする 真似をしてケガをしてしまうことがある事、でするがで危ないことはしない事をその都度伝える。	1. いつもおお様子であった	いつもと変わらず活動に参加し、自分の意見や抱いたイメージをこと、身振り、そして作って表現していた。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	痛いと訴えて来たので痛い箇所を尋ねる。顔色、唇の色、部位の表面を見る。ぐーぱーさせ様子確認。患部のこ離れがなこと目視とし、手の平で部位に触れる。どこした痛くことで何をしてなったのか尋ね、その場に行ってみる。他の先生呼ぶ。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	それぞれの位置にそれぞれの行動	配置には不足はない	降園を待ち長時間保育になっていたので、注意力が落ちている事を再認識する。	
8371	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	21									1	1	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	保育士がすぐにはつけない状態だったので遊ばないばない約束をしていた。	口頭だけ約束で札をつけても子どもからはなを誰が遊ばないことがわかるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	遊び方によっては高さがあ る。また、面が固い。	もの遊び方に色々な子ども達が耐えようなる面の整備（マットを敷く）	1. 集団活動中・見守り	やってみたい気持ちがあり遊んだ。	保育士がそばにつけない時は札をつけておかるようにする。	1. いつもおお様子であった	男児2，3人とスターに乗って動き回っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	直前までスクーターで遊んでいたのを確認していた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	2歳児クラスの職員がいたがクラスの子どもと遊んでいた。	遊具を取りに行くために子どもに対応していた。	常に全体を見ていくようにする。他のクラスの職員と声を掛け合う。遊びの約束等は子どもにわかりやすく話をしていく	
8372	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38	0		3	5	30				2	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左中足骨骨折（第4）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	築山から見守る職員が子どもが残っている未確認のまま、移動してしまった。	危険場所の優先順位を各保育士が常に考え、ものに合立ち子ども動きわせ位置を変位させる。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	保育士の配置はさいたトンネルに危険が低かった。	ンプでいる面をら、がすに側に介助体ジャンプし場見た職員く付きるとをる見た職員く付きる制を。	1. 集団活動中・見守り	着地時、着地場所が山の傾と斜部分なり不安定であった。	遊具の危険予測の確認、共有、着地点を平らにする。	1. いつもおお様子であった	友達と戸外を走り回り、虫探しを、遊んでいた。	4. 対象の動きを見ていなかった	片付けが始まっていた為、築山から下りていて他児に付けをするようにと促していたので、実際に着地した様子を目視することが出来なかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、他の遊びを見守っていた。	着地する際、トンネルの上に立っている時の危険予測が足りなかった。	最後の一人が入室する まで、築山上で見守る職員は持ち場を離れないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
																										ソフト面					ハード面								環境面					人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8373	令和6年3月4日	2. 認可外	11. 一時預かり事業	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	1									1	1	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側上顆骨折□□	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	年1回	1. 基準以上配置	児童の所在を常に把握することができなかった。	保育室内でも児童から目を話すことはしないけないが、特に戸外については児童の所在に把体保育室を常に把握を確保する。	1. 定期的に実施	実施頻度（300）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	公園に隣接する石垣は一部低くなっていて、幼児でも上がれるが高さ150ｃｍを超える箇所もある。	子どもの所在の把握・大きなけがに繋がる危険が予測される箇所は児童と手をつなぐ等の配慮を行う。	3. 個人活動中・見守り	小学校が休み中で多くの小学生が公園にいたため、少しとこと外れたところで虫を探しをした。石垣は高いところでは150cmを超えているが、低い箇所は本児に登ることが容易に登ることができる高さ(数10cm)のため登ることは予想される。	散歩先の危険個所の把握をする。	1. いつもどおりの様子であった	2週間ぶりの登園。喜んで散歩に出かけた。児童と一緒に虫を探すことに夢中になっていた。	4. 対象児の見ていたきていなかった	保護者に保育を報告するために●●を使用しており、撮載する真を撮っていた。その際本児から目を離した。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	担当保育士のみ	2週間ぶりの登園だった。本児の気持ちが高ぶることや活動的になることを予想し、普段より安全面に配慮することが必要だったが、本児目を離す等安全に保育をする対応が不足していた。	児童の心身の状態を把握し、児童の動きを予測する。保育中は常に児童の所在を把握することが必要だが、特に戸外は徹底する。	
8374	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	26	0	0	0	4	8	14			4	4	5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈上腕骨橈骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的実施	実施頻度12回/年	2. 基準配置	鉄棒に職員がついていたが、すぐに対応出来る位置にはついなかった。	子どもが鉄棒で遊ぶ際は、落下に備て、必ず職員がそばにつくそばにつく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(291)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(291)回/年	所外であったが鉄棒の高さには問題はなかった。所内の際所は下にマットを敷いているが、所外だったため敷くことができなかった。	所外の場合は高さが子どもに合っているか確認する。鉄棒で遊ぶ際は落下に備えてを敷いり、すぐに対応できる位置に職員がつく。鉄棒に遊びが様より、他の遊び等準備したりしかけたりして工夫をする。	1. 集団活動中・見守り	高さの違うが鉄棒が所あり、3ヵ所とも達が所ども遊んでいた。	戸外で遊ぶ際は、準事前に準備体操を取り入れ、体をほぐしてから遊び始める。腕で支えぶら等支持力を遊びを多く取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	保護者からも朝の登所に、特に引継ぎはなく、怪我が発生するまでも、室内では、粘土遊びなど、じっくり遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	隣にある一つの鉄棒でいても為、防ものの遊んだ子どもについた落下をことなく落ぐできなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒以外に出探しや探索活動をしていたため、すぐに達いたつけるこいたが、すぐつけることが出来なかった。職員1のうち1名は対象児を目撃したが、注意喚起を行う。他のうちも対象児とは別方向へ移動していた	鉄棒を時に、親指をかけて鉄棒を握りかけていたが、きちんと握っているか確認ができていかった。	鉄棒の握り方を子ども達に知らせ、きちんと握っているかの確認ができるように行うようにする。	
8375	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	35									2	2	5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	歩の危機予測の不足。散歩時のマニュアルの習熟度が低かった。	散歩時の予想される危険に対して安全対策を立て熟知し実行する。散歩時の園独自マニュアルを作成し再発防止を強化する。日々の保育の中で歩き方、交通ルールを子どもたちに伝えていく。法人のマニュアルを再確認、習得する。	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（6）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（6）回/年	散歩中、安全周囲の確認をしながら歩いていたが転んだ。危険予測が足りなかった。子どもたちにもペースに合わせた歩き方の配慮が足りなかった。	散歩時の歩き方や安全確認について合い共に話し見直す。子ども人数に対する保育士の人数について確認と共有。	1. 集団活動中・見守り	子どもたちの歩きにに合わせてドをトロールできていた。スピーコンが列が長くなったため、散歩の列が長くなり、子どもたちも走るがあった。	園独自のルールを作成し園外散歩に出掛ける人数を上限20名引率職員を3名とする。	1. いつもどおりの様子であった	会話や景色を楽しみながら歩いていた。	4. 対象児の見ていなかった	列の前後に職員を配置し、子どもたちの様子や周辺の安全確認を行っていたが最後尾の職員が気付かなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩いていた保育士は安前方の全確認を為、気付かなかった。	靴が脱げ、履こうとした時に手を転び付きんだ能性が高い。	職員が声を掛け列を止した児の状況確認を速やかに行う。	
8376	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	20									2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	頭蓋骨骨折／急性硬膜下血腫	2. 自らの転倒・衝よによる突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	園児のついていた靴のサイズが少し大きめだった	保護者皆様には、靴のサイズがお子様の足にあっているか日々合っるか確認して頂く	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	Ａ公園内に少し傾斜があり、園児が転んだ所は雨水が流れた地面が削られ土が出て来ていた。さらに大きな石が目立ち、転倒数多くあり足場が悪かった。	市役所へ連絡し、整地してもらう	3. 個人活動中・見守り	遊びだす時に、遊具へ向かって走った遊びだす時に、遊具へ向かって走った	遊び始める時は焦らず歩いて遊具へ向う指導していく	1. いつもどおりの様子であった	早く遊びたい持ちが焦った	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	公園に到着後、子どもを集めいつものように公園内での遊び方の確認や注意事項を伝えた。子どもたちの様子を全体的に見て、子どもが多く行く所に見守りに向かおうとしていたところ、対象児が転んだ姿を見た	1. 担当者・対象児の動きを見た（至近距離にいた）	遊びだす前に公園内の安全確認。危険物撤去を行う。他の子どもが寄ってきたので対象児とは別方向へ移動していた	なし	危険予知の意識を常に持ち、危機管理を怠らない	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面									
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8377	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	90	0	13	15	21	21	20		15	12	5歳	1. 男児	特に無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左上腕部（肩と腕のつなぎ目）骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（5）回/年	2. 基準配置	夕方の保育は、清掃おいて掃除や重なるスタッフの連絡のお時の者へ引継ぎ、お手薄に迎え時間帯の保護者への多に人員配置が多くなる。	夕方の保育内容、スタッフ間の動き、危険個所の安全管理配置の見直し等マニュアルを改善し、職員全員への周知を徹底し事故児者に内容を開示する。	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	定期的な安全点検は行われていたが、一時的で滑り台から離れる場合のスタッフへの掛け声が出ていなかった。	その場を職員が離れる時はスタッフに声を掛け合い、危険箇所に人員を配置する。	1. 集団活動中・見守り	近くにいた乳児部スタッフが気付いたが、倒れ落ちる場面で危険を知らせる声掛けや補助が出来るには距離になかった。	滑り台が高さ1名つに必ずスタッフが1名つく、タッフは、降園時間帯における園庭遊具の人員を十分に確保する。	1. いつもお様子であった	本児を含む3名で滑り台に上り滑り遊んでいたが、途中口登ろうとし、バランスを崩して落ちる。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	下から50cmほどの横に落ち、近くにいた乳児スタッフが気付き、幼児スタッフに報告する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応などで近くに職員がいておら、滑り台口登ることに気付かなかった。	本児を含む3名で滑り台に繰り返し遊ぶ。最初は上から降り遊んでいたが、途中で登ることに先を争って本児は持ち上がり、滑り台口登りはじめた。	滑り台の降り口から登らないなど、滑り台の使い方の一度子どもたちと確認をする。	
8378	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	7. 異年齢構成	42				21	21			5	5	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面（口腔内含む）	打撲	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（3）回/年	2. 基準配置	普段は園庭で遊ぶことが多い為、園児公園にでの遊具に慣れていない児ま た、保育士も仕方ないと想定がかっての ど甘かったが考えられることえる。	3，4歳児合同で園外保育を実施した為、保育士が各所に分散し事故を防ぎ切れなかった事が考えられる。今後は一クラス毎に園外保育を実施し、遊べる遊具の範囲を限定し時間で遊具を入れ替える等対応する。下見の際、道中や公園内の危険個所の確認だけでなく、子どもの姿を想像し、どのように安全にサポートすべきかも想定しておく。	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（4）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（48）回/年	園外保育の際には、使用予定の遊具の状態も、固定の状態確認し、破損箇所やゆるぐらがなみ、ぐつきい事も確認済。	固定遊具の管理状態に問題はなかった。	1. 集団活動中・見守り	6段ジャングルジムだった為、3歳児は2段目までと事前に周知していた。皆のルールの中で楽しんでいたが、大きなジャングルジムであった為、下から滑り込んだ為、中央付近から上がっていく子がいることまで想定できていなかった。	園外保育の際下見の、園児の想定されるに対しての対応策をリストアップし、保育士同士で共有していく。	3. いつも活発で活動的であった（理由を記載）	園外保育というこもあり、対象児の気持ちもいつも揚げていた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	ジャングルジムには2人の保育士が保護者に配置についていたが、中央付近で対象児に手が届かなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具3か所に分散していた。土も箇所かれて応した。	慣れていない遊具の為、保育士の配置に余裕が無いことが考えられる。大きいジャングルジムだった為、中心付近から上がる園児に対して保育士の手が届かない状況にありすぐにサポートすることができなかった。	園児の遊ぶを限定エリアを限定し、保育士の配置を厚くする。ジャングルジムの外側から乗り降りするように指導していく。	
8379	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	1. 施設敷地内（室内）	4. 3歳児クラス	6								2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右手薬指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2. 基準配置	特になし	該当なし	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	特になし	該当なし	3. 個人活動中・見守り	特になし	該当なし	1. いつもどおりの様子であった	保育室のロッカーから荷物を取ろうとした。	3. 対象児の離れたところで対象児を見ていた	出当該児童を含め、延長保育の部屋に移動する児童数名を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	保育室内で当該児童を含め、延長保育の部屋に移動する児童数名を見ていて、保育士は、子ども一人一人の見守りを行った。	児童の身体や様子の変化について、注意が不足していた。	排泄後の身だしなみを整える時や延長保育に移行する時等活動が切り替わる際は、一層児童の様子に注意を向けるよう職員間で意識を共有する。	
8380	令和6年3月4日	2. 認可外	10. 事業所内保育事業（認可）	2	2. 午前中	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	4		1	2			1		3	3	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 基準以上配置		年齢別に部屋を分ける	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	マットの一番高い部分ではなく傾斜の不安定な所に手を着いてしまった	手を着いても安全な箇所に印（カラーテープ等）を付ける	1. 集団活動中・見守り	マットを複数枚使用する際は、マットの配置すトのを工夫する	マットの位置は適切全に配置されているかの確認を十分に行う	3. いつも活発で活動的であった（理由を記載）	初めて会だち友だちを真似て、いつもと違う無理な跳び方をした（手を着いてから跳ぶ）	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	いつもよりそ楽しそうな様子で跳ぶ姿を見守っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	慣らし保育中の入所ないこの子、初めての対応も初めて登園した子のをした	事故発生時、他のお子さまの方に目が行くことが多く児まりをかけてあげられなかった	年齢別で部屋を分け、担当職員を決める	
8381	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外（園外保育先・公園等）	3. 2歳児クラス	12								3	3	3歳	2. 女児	●月●日（1歳0か月）に熱性けいれん	1. 屋外活動中	1. 負傷		1. 意識不明	2. 顔面（口腔内含む）	けいれん重責	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 基準以上配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	なし	なし	3. 個人活動中・見守り	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	直前まで、B保育士と元気に追いっこをかけっこを行っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	【A保育士】公園に到着後、子どもを集めいつものように公園内での遊び方の確認や注意事項を伝えた。その後遊具機で、子どもたちの見守りを行っていた。戻る時間を確認しようと携帯電話で時間を確認したところ、他職員が慌ただしくしている事に気が付いたが、遊具に子どもたちが残っていたため、その場から離れる事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	【B保育士】本児含め子ども達と追いかけっこをしていたが、遊具で遊んでいた他児に呼ばれ遊具方面へ向かった。C保育士から呼ばれ、異変を察知し本児の状態を確認し、園へ連絡するべくA保育士が持っている緊急パックに入っている携帯電話を取りに行く。【C保育士】まだ子前に公園内の安全確認、危険物撤去を行う。その後遊具横にて子ども達の見守りを行っていた。遊具で遊んでいる子どもがB保育士を呼んだため、毛所を交換しようとB保育士のカへ歩き出す。その直後に本児が倒れている所を発見する。	なし	園外活動中に緊急事態がおきた場合、落ち着いて対処できるよう、マニュアル整理・研修を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									ソフト面					ハード面							環境面				人的面										
			施設・事業所種別	認可・認可外	事故発生時		発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8382	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園		10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41	2	0	24	5	10	0	0	8	7	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	マニュアル共有だけでなく、園の実環境の実態に合わせた話し合いが足りなかった。結果が共有がなされなかった。	園の環境の実態に合わせた合い話し木製遊具)の見直し、安全点検確認、共有をする。職員の立位置の合い話しを見直していく。	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	保育士の配置はされていたが、遊具年齢が適年齢が共有されていなかったため危機感が薄れていた。また危険予測が足りなかった。	年齢に適した安全性を考慮した置物であったか確認。共有。遊び保育士配置ポジションの共有。	3.個人活動中・見守りあり	年齢に適した遊具がされていなかった。0歳児を抱っこしている保育士が見ていたため手がふさがっていて防げなかった。	木製置物(遊具)の位置や使い方の確認を行う。それぞれの遊具の危険予測の洗い出しの共有。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発であり、当日も自分の関心のある遊びを見つけて遊んでいた。	2.対象児の近く対象児を見ていた	近くにはいたが0歳児を抱っこしていたため防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きをみていなかった	近くにいたが、他の遊びを見守っていた。	園庭で遊んでいる子ども達の様子や保育士の配置について全体を把握し指示する担当保育士が気づけなかった。(誰から見ても担当者と分かるように●●●を付けている)	遊びの見守りは、いざという時に直ぐに動けるような体制でいること。本製置物(遊具)の位置や使い方・適年齢・危険予測の共有をする。園庭で遊んでいる子ども達の様子や保育士の配置について全体を把握し指示する担当保育士を増やす。	
8383	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園		6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13			7	5	1			1	1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	保育士配置を考慮し室内に2か所ある雲梯を1か所にして使用していたが、他12名のコーナー遊びの子ども達もおり、そちらを視界に入れながら見守っていた。遊び慣れていたこと、通常に使い方・おり方をしていたので保育士の危機感が薄れていた。	雲梯遊びを取り入れているので、保育士がな様々な事態を想定しておき危機感を持つ。使用の仕方度子ども達に言葉をいかけ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	床から雲梯の高さまで180㎝マット厚さ15㎝を2枚重ねて使用し、年長児が雲梯にぶらりマットからの落下は30~40㎝である。マットを2枚重ねた事が要因と考えられる。	今回の事故は普通に着地できたことを考えると、マット2枚重ねしたことが要因で使用し、マットは1枚にする。	1.集団活動中・見守りあり	雲梯の設置してある保育室にいる保育士と誘導保育士との流れの共有不足と、保育室にいる保育士との活動の共有不足が雲梯の設置してある保育室にいる保育士と誘導保育士との活動の共有不足と、保育室にいる保育士の言葉かけ不足があった。	移動職員(年長誘導職員)と雲梯の設置されている室内にいる職員の共有をしっかり行う。	1.いつもどおりの様子であった	年長児は、次の活動で保育室にいるが、本児は一人雲梯をしていた。	4.対象児を見ていなかった	5歳児誘導保育士集合場所に全員揃っていなかったので雲梯設置してある保育室に戻り発本児を見た。保育室にいた保育士は本児が雲梯をしていたので守った。	2.担当者・対象児を見ていなかった	他保育士場にはいなかった。	誘導保育士は、5歳児全員移動している事の確認が遅れた。	保育士の配置や立ち位置として、遊びスペースと雲梯の場所距離感の確認。誘導保育士は5歳児全員移動したことを確認する。	
8384	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所		1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33								2	2	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	鉄棒をする手の届く範囲で使用するが、今回は手の届く範囲から外れていた事故発生時につ事故生ながった。	鉄棒を使う時は園児が手届く範囲に保育士よう届くにすることが付けるる。手が範囲で際届く配置できない他の遊は発時びを促す等対策を取るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	全点検は定期的に実施し、異常ないがとした使用した。他児の対応のため一時的に手範囲外の時が囲れてまったこ。安全点検は定期的に実施し、異常ない確認と

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面					ハード面							環境面					人的面								
									異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																				
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8387	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	13				4	4	5			2		2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A歯根歯折、右上B亜脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/2年	1. 基準以上配置	特になし。	保育士が前後の両方に対応できるように本児うの横側につくに配慮する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	外遊びがにでも安全になるよう施設や安全点検を行う。	1. 集団活動中・見守り		職員が園特性し児の配慮した環境調整を行う。	1. いつもどおりの様子であった	本児がイメージしていた旅行ごっこの続きで、手押し車にボールを5個載せ後方に引っ張る斜面を登って遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	本児と少し距離をとり、遊びを見守るようにした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員Aは、園庭ども子ども見るために別の達たの位置にいた。	前回のあそびの続きであったため、本児の危ないように側についていた（以前は後ろに倒れないよう児の方にいた）前に転倒する予測ができていなかった	遊びの中で転倒の予測をしていたが、前に転倒することが予測できなかったため、今後は前・後の両方に対応できるよう本児の横側につき、いつでも手が出せるようにしていく。本児の遊びのタイミングを見ながら、別の遊びに誘うことも視野に入れても対応していく。	
8388	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	22	0	0	0	7	8	7	0		1		1	5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足第5趾基節骨端線損傷	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 基準以上配置	該当児が伝えられなかったこと、気づき担任がなかったと、気づきがなかった。	危険個所の周知。ガードを付けて事故防止を行った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険個所にガードを付けて事故防止を行った。棚の植物を上に置き視界に物が入らないようにした。	3. 個人活動中・見守り	該当児は、次に遊びたいコーナーの事に夢中になって考え、急いで向かった。	子ども自身が体調や、変化があった時は職員に伝えるように話した。	1. いつもどおりの様子であった	好きな遊んで自由遊びで自由に遊びたいコーナーの事を考え、急いで向かった。	3. 対象児から離れたところで対象見ていた	全体の動きを見ながら、迎えに来た保護者が対応していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋には、他の職員はいなかった。		職員周知をし、子ども達には集まりの時間に再度遊び方のルール確認を行った。体調の変化があった時や怪我等をした時には近くにいる職員に伝えることを話した。	
8389	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	14									3		3	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	上左前歯及び上唇の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		その日のもの子ども情緒にあったあわりをし、保育士が一緒に手を繋いで歩く等の配慮をする	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園内の保育園でのことルール等で体幹を鍛えるような遊び頃から日取り入れる	1. 集団活動中・見守り	子ども同士で手を繋いでいた	手を離して列になって歩行する	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	登園時より機嫌が悪く、保育室内で床に寝転んでいる様子が見られた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くを歩いており、転倒する際に手を伸べようとしたが間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の前方を歩いていた為、本児は動きは見ていなかった	本児の機嫌が悪いことを把握していたが、普段通りの対応をしまい、個別の配慮が足りなかった	機嫌が悪い時は子ども同士で手を繋いで歩かせず、個別に対応し保育士と手を繋いで歩くなどの配慮を行う	
8390	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20					14	6			2		2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	骨端線損傷(右足首)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	危機管理について定期的に職員全体での話し合いをしてこなかった。運動遊びについての事故危機管理マニュアルでのルール＝環境整備・保育者の立ち位置・役割分担・子ども一人ひとりの情報共有をする。園でのルール＝安全第一に子どもの様子を気にかけながら運動遊びをする。このルールが浸透していなかった。	危機管理マニュアルを会議で改定し、危機管理に浸透させる。職員会議にて話し合いをしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(通年)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(その都度) 回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(通年)回/年		子どものよが見ら、保育考容ていく。	1. 集団活動中・見守り	部屋の中央なのを走るものの14名で中大きなマットを置いた部屋のせまさがなくに走った。マットに広まった。	子どもから目を離さず危険予測を絶えず行う。今後はマットなを置かもいかし、しくは10人以下で走るようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段からあり活発であるが、この時はていつもよい走っため、いつもよりも活発で。あった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	担当保育士が見守り指導を行っていた。指導の内容・・・お友達にたらなようをみてあいよわりてよけて走る。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	担当保育士と協力し見守り指導して、指導を行った。指導の内容・・・お友達になったらようをみてあいよわりてよけて走る。	走る前はその場でジャンプして準備運動している。この時はマットすれすれを走っていて、急な方向転換で足を痛めた。通常は体を動かす際に、ふざけない・私語をしない・体を動かすことに集中する等指導をするが、この時は走って遊ぶだけの活動だと考え、しっかりとした注意喚起をしなかった。	マットを大回りし、急に方向転換をしない方向を走り指導をする。かすず前は必ずふざけないしない・私語を動かすことに集中するとと注意喚起をする。	
8391	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	7	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	3									3		2	1歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 基準以上配置	職員は３名いたが、夕方の保護者対応やオムツ交換等で一時的に保育士が１人になる状況が予想される時間帯にされた。ことと	大型遊具を使用する際は、十分体制ができちんとついられる時間帯に行う（午前中など）	2. 不定期に実施	実施頻度(１０)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	２種類の大型遊具を同時に出した	子どものがてき人減ったら１種類にする状況などに合わせていく	1. 集団活動中・見守り	安全策を対策ていたをいたのトを敷いてのマットの、マットとの間トに、怪我をした右肘をぶつけていた	隙間がないようにするなど環境設定に配慮する	1. いつもどおりの様子であった	楽しくなり、喜びを体で表現した（体をゆらし）	2. 対象児の近で対象児を見ていた	階段下に１名園児が、低いため、勢ってい児たい姿勢ってい見守った	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	１名はお保対応、もうオ交換迎護者応、１名はムツ交換中だった。	結果、職員１名で遊具につつ、事故発生時は一時的に保育１人子ども５人を見守る状況になっていた	保育士が保護者対応から戻るまで、本児を下におろすか、階段の１面を壁につけ、もう片方に保育士がつく、もしくは、おもちゃを減らす、などに合わせ臨機応変に対応する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	ソフト面						ハード面							環境面					人的面																
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
	認可・認可外			月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
8392	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	30			15		15				6	6	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨端部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	急遽、異年齢保育となった場合の職員間の連携・情報共有が曖昧だった。（園児の様子や注意すべき園児の共有）	急遽の場合、職員間での園児の情報共有、活動を見守る方法（配置等）を必ず声かけ合い確認をおこなう。園舎が離れている為、職員同士の面識がない場合もある事を考慮する。	1. 定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	木の根っこが多い公園という事は散歩マニュアルで把握したが、草に隠れた株まで注意がいかなかった。	草に隠れた木の根や石等の障害物を確認し、周知し合う。	1. 集団活動中・守り	異年齢で手を繋いで歩行が、体格差も危険ということ。	異年齢の際は特に注意し、周囲に危険な個所がないか確認を行う。	1. いつもお様子のであった	同クラスの友達の妹だった為、顔見知りであった事から繋いで、でいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	2歳児と手を繋いで遊んでいる事を認識し、見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	2歳児クラスの担任も手を繋いで遊んでいる事を認識した。	担任と2歳児クラスの担任が注意を向けており、事故に繋がるかもしれないという予測はあったが、大怪我に繋がるとは思ってなかった。	予測を持てた事に関してはリスクを回避するような声掛けを注意を行っていく。	
8393	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32	0	0	0	13	12	7			4	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折 顆上骨折 全治5週間	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	体制は組んでいたんが、迎えが重なった場合や危機管理スキル取得が未熟な職員配置等が不十分であった	①降園前の園庭担当を増員し3名の配置を行った②夕方3～5歳児園庭活動見守り職員は常時3名とし、保護者への引き渡し職員1名、保護者へ直接報告が必要な場合は見守り職員の人数を確認し引き渡し職員が見守りに戻った後保護者対応を1名が行うことを全職員に朝礼で報告し確認を行った	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	園庭の広さと活動内容、園児の動きを踏まえた状況の判断不足であった	園児の自由遊びの姿から、危険個所と確認と改善を行う	3. 個人活動中・守り	実態に応じた人員配置と当職員の役割の確認不足	園庭見守り配置職員の確認の徹底及び施設全体の人員配置バランスの工夫を行う	1. いつもお様子のであった	同年齢児と鬼ごっこをいた	4. 対象児の見ていなかった	他児から袋をかけられカンとポリ袋の求め方のバンにかった直後に泣き声で気付いた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	①保護者対応中、②トイレへ行き幼児を集中	夕方の保育時の状況を踏まえ、優先すべき行動の選択ミスあった	①各職員が事故防止の意識と緊張感を持ち保育を行う自覚を持つこと②子ども達の動きを予測し、子ども達へ注意喚起や活動の内容の変更を促すことを職員間で共有した	
8394	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	16									34	27	4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腕尺骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	マニュアルがあるが、徹底可能性が不足にある	全職員にマニュアルの徹底を行う	2. 不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	木製アスレチックハウスの全体高さ115cmである。壁面に上り飛び降りることが出来る遊具である。一般的には50～60cm程度の高さで飛び降りることが多く、今回の事故の場合も本児が飛び降りた高さは同程度である。事故の要因とは考えにくく、本児が飛び降りた時も地上にはムエア出来ていたった。右足の踵を骨折した要因がわかりにくい。本児は飛び降りたと言っているがその時にアスレチックの突起物に踵を当ててしまい、骨折したのではないか。遊具の使い方が決まっていない。子ども独自の使い方をしている場合があるので、そのことも誘因の一つと考えられる。	飛び降り場遊具の人工芝を上る遊び降りる所の確認を、遊具の安全確認を行い、遊具の壁面の突起物(子どもたちが手で掴み、上るための突起物)の安全確認を行い、遊具の周囲に他の遊具等がないことを確認した。また子どもたちに遊び方の内容について改めて指導を行いたい。	3. 個人活動中・守り	故を起した本児の遊びの様子を担任が保育士が十分に確認していかったが、全体的に共に把握できなかった。	事故を起した時の本児の様子を担任が保育士が十分に確認していかったが、全体的に共に把握できなかった。	園庭での自由遊び中の見守り徹底、園児の確認底。全体的把握の個別的把握の両面について。	1. いつもお様子のであった	園児の健康状態そのほ特に問題点はなく、園庭での中も特に変わったことはなかった。	4. 対象児の見ていなかった	園庭全体を見ていたが、本児がジャンプ瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいなかった為、本児はいない様子の見ていない。	4歳児が全員園庭に出ていかなかった為、全員の2人担任職員のうち1人のみ園庭にいた。	1人での全体把握が難しい為、見守りできる範囲での遊びとするべきだった。また、一人での見守りがないようにしたい。	
8395	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	75	0	16	17	12	15	15			10	8	6歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸・腹部・部・臀)	左肩鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	ガイドラインが職員で誰でも見られる事務所に設置してあるが、ガイド員のも各によって確認は職員による	ガイドライン（p35～37、41、50～53）を幼児担任で再読した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭は花壇や砂場、倉庫の軒下以外、全面芝が人工芝敷いてある。当該事故以前は園児の怪我は転倒が多く、我でも程度であった。ため、人工芝は柔らかいという過信があった。	園庭の安全チェックを行う。危険や場所の固定や場所の固定を行う。また地面に柔らかい、不安定な幼児担当職員と共有し合った。再発防止を心がける。	1. 集団活動中・守り	異年齢、スペースの関係で内容の遊べるが限られていた。	午後の園庭での保育て、園庭にコーン（ライン）を置き乳児・幼児クラス切り、また幼児クラス室内を行い園庭に出る児数に限し、遊べるスペース十分に確保した。	1. いつもお様子のであった	人間関係の幅を広げたグループ作り、主体的に遊び展開していた。5歳児男女10名でルールを決めて鬼ごっこ（どろけい）をでした。役の園児から逃げていたところ後方から左肩を押されて前方に転倒した。その際両手を地面に着かなかった。	4. 対象児の見ていなかった	当該児がグループ活動をしていたとは、年児にぶつかり気に掛けて守っていた。しかし当保育士は他の園児に目を向けてお当該児の見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児がグループ活動をしていたとは把握していたが、保護者伝達を向けて当該児の見ていなかった。	午後の園庭での保育において、保護者、園庭の保育士、保護者と職員は決めて伝達する職員全体で共有した。また、普段と違う体制だったことの連携が分かっていなかったことが、動揺不安となってしまった。	午後の園庭で保育を行う職員同士、役割や立ち位置を確認し合うようにしたい。また違う様子の園児がいれば職員間で共有し、必要に応じて介入をするようにすることを担当職員で確認した。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8396	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	2									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	活発に遊ぶことはなく、使い方が少なかったこともあった。	散歩マニュアルの定期的見直しや振り返りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	久しぶりに広い公園で本児の安全の意識が薄くなっていた。	日頃から公園等の状況把握、点検をする。子どもにも地面の傾斜など丁寧に伝えるよう促す。	1.集団活動中・見守り	公園での遊び方など伝えていたが、身につくまでではいかないかった。	公園内の起伏などを子どもたちと確認したり、使い方を学べる機会を意識して取り入れていく。	1.いつもどおりの子であった	体調や機嫌など普段と変わらず良好だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた。	公園内全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	本児が走ってくるそばにはいた。	他児と共しみながら楽ってい足注意が薄れ、普段以上の速さで走っていると思われる。久しぶりの散歩だったため、子ども気高ぶりも持ち機した可能性がある。	地面の様子(起伏等)や周囲の状況から遊ぶなど子ども一人ひとりに注意を促すとともに、子どもの全体の様子を職員が把握していく。	
8397	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									3	3	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的実施	2.基準配置	練習前の準備体操等を行い、児童に対し跳び箱をする上での注意喚起を行った上で練習開始したが、気持ちの高まりを抑えきれなかった。児童の実力の把握が十分ではなかったことも要因としても考えられる。	職員業務マニュアル内の「事故防止のための活動別配慮事項」の見直しを行うとともに、今回の事故を踏まえた専任講師による導入を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	今回の事故時に使用していた踏切板についてはSGマーク取得済みであり、破損・劣化など、ハード面としての安全性に問題となる箇所は見当たらない。	現在使用しているマットを衝撃吸収するウレタンマットに変更することを検討。	1.集団活動中・見守り	運動会を目前にクラスの児童全員がおなって意欲的になっている。児童も以上に力が入っていた。	児童への注意喚起の方法について、工夫を検討する。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱への自信をもちはじめていたところ、気持ちと比例せず、勢いからの着地の際のバランスを崩し転倒	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	職員1名が補助に付き、もう1名の補助の見守りを行っていた。園児の手の付き方や職員が園児を見守りを見て、直ぐ護師へ連れていき、看護師が観察・応急処置を行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その場にいた職員は至近距離にいたが、事故を防ぐとはできなかった。	今回の事故に診察で、児童が側弯症であると分かった。	児童の実力が上がるに伴って危険性も増すと考えられるため、再度職員間で補助のつき方法や補助方法について見直しを図る。また、児童に対しては基礎トレーニングを充実させるとともに、腕支持の強化を図れる取り組みを行っていく。	
8398	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具から転落・落下等の転	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	遊具に付いた職員は、園児からはなれることを離れ遊び場を離れたが、園児が再度遊具で遊ぶことを予測できなかった。	事故に繋がる遊具の扱い方について、検証し、園児の遊び方に留意していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週		日々の安全点検は不備はなかったが、遊具や構造や遊具の扱いについて改めて確認する。	1.集団活動中・見守り	園児は遊び方を理解している。自己の力を過信して一人で遊んでしまった。	職員が遊具から離れるときには、今以上に職員間でまで声をかけての動きを確認危険回避をする。	1.いつもどおりの子であった	普段から鉄棒は、職員が見守る中でい遊んで、本児はいつも通りでいた。	2.対象児で対児の近で象児を見ていた	危険が無いよう本児と他1名が遊んでいた鉄棒の傍についていた。場を離れる時園児にも離れるように伝えた。園児に離れることを確認し離れた。	1.担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	鉄棒からこと離れることを告げていたので、本児が鉄棒から離れることを目視し、他のすべきなどを園児に付き園庭全体を見ていた。	再度、ひとりで鉄棒で遊ぶこと予測できなかった。	5歳児だからあると過信しすぎず、固定遊具等危険を伴う遊びには充分に目を向ける。	
8399	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	0	8	1	0	0	0		2	1	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本の亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	危機管理マニュアルを普段から見返すことが実的に難しい状況がある。	ヒヤリハットを多くあげ定期的に回覧し事故防止に繋げている。怪我や事故報告書も職員会で共有し、事故の起きた要因や再発防止策について話し合う時間を設ける。ヒヤリハットや怪我の共有を行うときに職員会で危機管理マニュアルを読み合わせする時間をとるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(多数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(多数)回/年	マットの山、跳び箱の2か所で子ども主が跳び降りた際にけがをすることが考えられる。	場における職員が一人の場合に転倒や跳び降り事故は跳び後の想定し、ダイナミックな運動が危険が伴う運動遊具は一か所にすべき遊具は運動遊び場のもの運動メニューの発達に合わせて環境を作る。	1.集団活動中・見守り	子ども主体の保育を実践する中で、本児が希望して2歳児クラスの運動遊びに参加した。本児も発達課題はあっても2歳児と比べても転倒や怪我をする可能性は低いだろうという過信があった。	異年齢の子ども運動遊びに参加するときには、一人ひとり発達課題を的確に捉えて必要な援助ができるように職員共有していく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	朝は母とバイバイが出来なかったことに対し機嫌が悪かった。運動あそびでサーキットを楽しんでいるうちに興奮状態になった。	2.対象児で対象児を見ていた	マットの山の先に跳び箱のジャンプ台を設置していたが、(跳び箱からジャンプする子ども)を援助できるように、またトンネルが倒れないように持ち(っ)ついて本児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	保育室内で、サーキットあそびの遊びをしている子どもたちをしの為その場にいなかった。	保育者がすぐそばにいない状況であっても保育者はつねに位置を変えて子どもを見守っていた。	転倒をした時を想定し、すぐに手を差し伸べられる場所へ保育者が子どものサーキットの進み具合に合わせてその都度、移動する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面				人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																												実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8400	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12		9	2	1				2	1	2歳	1. 男児	夕方保育の時間と遅実だったことから、疲れから注意力が散漫となっていたこととテンションが上がっていた可能性がある。負傷した前歯が虫歯になっており、うち1本は神経が溶けていた。(生活習慣が原因であると医師より)	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/月	2. 基準配置		その活動時どもの人数に対して体を動かすスペースが適切かすかをる。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日		今後も現状通りの安全点検を行っていく。	1. 集団活動中・見守り		夕方の2歳児保育の中に異もの年齢児も加わっていたため、小さい子の集団による安全対策を意識していく。	1. いつもどおりの様子であった	音楽をかけると他児と一緒に踊っていた。	2. 対象の至対児の近で対象児をいた見ていた	本児が動きた出こと倒れ間もいて、すぐに抱きに起した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に当番保育士1名がいたが、下での子は見ていなかった。		子どもは疲れると注意力が散漫になったりテンションが上がってしまうため、子どもの心身の状態を把握し、特に夕方保育内容は保育内容と環境を整える。	
8401	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20								2	1	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	舞台使用に関する事故防止のためのマニュアルがなかった。	舞台使用に関する事故防止マニュアルを作成する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもたちには発表会の練習時以外には舞台上がらないよう注意してたため、片付けの時間に子どもたちが舞台上でケンカをすることは想定外だった。	柵を置くなどして、発表会の練習時以外は上手に舞台に上がれないようにする。	3. 個人活動中・見守り	発表会に向けて、通常はない舞台が長期間、5歳児保育室に設置されていた。	柵を置くなどして、発表会の練習時以外は舞台に上がれないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	片付けようと思っていた自分が作ったブロックを友だちが持っていってしまい、「僕の！」と訴えり返そうとしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちに片付けを促していたため、舞台の子に目がいいなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	舞台奥に棚ある棚に、もう子どもたちにして背物をまったいなかった。		特にになし	職員は、子どもに対して背を向けないよう気を付ける。	
8402	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17		9	8					4	2	4歳	1. 男児	スライディングが好きで、時々していた。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上左右乳中切歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	規定の人数は満たしているが、怪我をした時クラス職員はベランダで、本児に着いている加配の職員が周りの年少児に目がいっていた。	加配職員が本児に専念出来るよう、職員に先入り、他の補助職員と連携を取りながら気を付けていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	換気の為、ドアが開いていて、廊下に自由に出られるようになった。	廊下へ出ないに鍵おでられるようにすべきあった。	1. 集団活動中・見守り	帽子が思いの外、滑った。	帽子を滑らせないように、注意して見守る。	1. いつもどおりの様子であった	衛動的にこと動が多い。この頃、スライディングの動きを好んでいる。	4. 対象児の動きを見ていなかった	傍にはいたが、他の年少児に目がいっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスリーダーは他の手伝いをしたスのいもう一人の担任は最後に戻ってきてベランダに居たため、補助職員は子ども達の準備をしていた。	この頃、スライディングの動きをすることを好んでいて今回もしていたが、帽子を持っていたので、思いの外、滑ってまった。	動きのある時には、必ず大人が本児の傍にいる。そのために他の子ども達を担任や加配職員以外の大人が見れるように、連携を取っていく。	
8403	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	1								8	6	0歳	1. 男児	なし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	受け入れ室をあたり、設の方に説明する必要がある。使用にあ施、使い丁寧ことがだった。	使い方を丁寧に説明する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	ベビーベッドを置いて、柵がないようになっていた。	ベビーベッドを撤去した。	1. 集団活動中・見守り	引き渡し後の保護者に注意を向けていなかった。	保護者に引き渡した後も、注意を向けておく必要がある。	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後だったので、対象児は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後だったので、対象児は見ていなかった。	保護者が児をベッドに乗せたまま目を離した。	子どもから目を離さないように声をかける。	
8404	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	11								2	1	5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外果骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	当日欠席事故は児はおらず保育士1名補助1名で適切な配置。事故発生の連絡を受け園長から主任に現地に救急車の向かい要請を行う。	救急車の要請につ急高いいときは、人員勢待たず加をに応じて担任保育士が行うことを園知すること周知早くより救急搬送が可能になる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故には、大型遊具使用は、子どもたちが周知できていなかった。	今後の改善点は、ごっこ遊びをする大型使用には、大型使用は、子どもたちが周知できていなかった。	1. 集団活動中・見守り	前年のクラスでは、園外保育の大型遊具を使って鬼ごっこをしてはいけないルールになっていたが、進級ルールの確認と周知ができていなかったことが原因。	年度の代担わり任が変わるときは、必ず園外保育のルールを周知し徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	ルールが、周知されていなかったために事故につながってしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具に近くに保育士が配置されていたが、手を伸ばせばなかったために転落を防ぐ事ができない状況であった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体と対象児を見ていたが、転落が防げるは距離ではなかった。	対象児は足腰の筋力が弱いところがあるので、踏んだり滑ることができず滑り台の不規則な階段から転落してしまったことも要因となる。	日頃より、体操などの運動遊びを取り入れる際に足腰の筋力が鍛えられるような遊びを取り入れていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面							環境面						人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8405	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	44	9	12	15	15	15	15	0		3	3	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕上顆剥離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	子どもの状態(健康状態や動き)を良く知る(把握する)保育士が援助、補助する。ヒヤリハット・怪我報告書の検討内容を多くする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園児たちが遊ぶ場所の下見を更に重点的に行い、遊び場の保、また遊べ等、集団で設定るしていく。	教育・保育成支援の状況	園外保育中の出来事	個々の園児の運動能力を十分に見極め、少しでも不安がったり怖がっていたらすぐ手を差し、ジャンプをしたい子どもには低い所からと誘導したり安全第一にする。年齢にあった遊びを考え実践していく。	1. いつもどおりの子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	そばで見守っていたが、他児と他の児と遊びをしたり話していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった			全園児の活動(行動範囲)が見えるように職員配置をして、また高い所から飛び降りたりしている際にはすぐに止めたり、活動に合わせた援助をしたり職員間で園児の危険行動についてロールプレイングを再認識していく。	
8406	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	14									2	1	2歳	1. 男児	個別対応が必要な子ども	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	前歯骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	手が付けない顔面を床にぶつけたので、つく出来ないように、つくが出来る入れ経験を活動を入れて、手を出して止めることが活れていく	子どもの得意不得意を見極め何が現在いる子ども達に対し必要な活動のなのかを話し合い、活動に組み込んでいく	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	職員の膝に座らせるのでは なく、着椅子に座らせる	7. その他	着脱に気持ちが向けば行うことが出来ない途中で手伝おうと思ったため、ズボンに手もかかっており助けることが出来なかった	本人の気持ちを落ち着けること持ちの工夫を助のしていく。	1. いつもどおりの子であった	午睡後、排泄に促す為、気持ち上げて、直前まで抱っこ揚げたり下ポンポンを上げたりして膝の上でふざけていた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児を膝の上に座らせていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいた誘導していた	直前までふざけていたため気持ちが高ぶっていた。	メリハリをつけるように促す	
8407	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	10									2	2	2歳	2. 女児	活動中転倒しやすい	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	危険がないよう常に声掛けを行っていたが、転倒しやすい時に保育者が手を出して止めることが出来なかった。	転倒した際や危険な場合は、保育者が手を受け止めたり差し伸べて来る出来る距離で活動を見守る。	3. 未実施	実施頻度()回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	少し凹凸滑るある台があ。	1. 集団活動中・見守り	1. 見あ	少し凹凸滑るある台でいるのりんでい。	子ども達が滑り台最後まる見届け、危険な際はすぐに差し出る出離で見守る。	1. いつもどおりの子であった	いつも通りの様子で友だちと活動をしていた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	小さい凹凸のある滑り台で遊んでいる際、側近子の様子の見るにした。	本児を含めて滑り台で滑る全体の子どもの様子を見ていた。	他児が滑り台大きい右で子見て、危険な際は声を掛けた助した。	対象児を見ていたが、転倒する瞬間に手を差し伸べることが出来ず間に合わなかった。	いつでも手を差し伸べることが出来る様にしておく。	
8408	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	15									12	12	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		1. 意識不明	1. 頭部	急性脳症	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	-	今回の事例を職員に話し合い、フローチャートを作成。実際に起きたことを想定しながら研修を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	-	-	3. 個人活動中・見守り	-	-	2. いつもよりも元気がなかった(理由を記載)	事前に運動会の練習を行っていたため、疲れ様子れた。担任が呼びかけを反応があったが、座っとてじっていた。	3. 対象児が離れたところで対象児で	担任が退勤時間だった為、5歳クラス児と合同保育を行っている最中であった。	2. 担当者・対象児の動きを見なった	4歳児と5歳児クラス合同をしていたが、5歳児が保育士1名で保育をしていた。	-	-	
8409	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	19					4	15			2	1	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	職員配置については問題ないが、子供の認識が薄い。危機管理マニュアルの作成しているが、予防についての周知が出来ていない。事故対応の知がきできんとしていない。	園内での研修を定期的に行い、マニュアルの作成や見直しや職員が話合いを定期的に行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(365)回/年	環境面の危険箇所については、気付いた時にすぐに改善していく。	1. 集団活動中・見守り	4～5歳児のため考えて行動はできる年齢だが、遊ぶ際の注意・約束をしてかならの活動ではあるものの子供の行動のなど予測をせずに保育をしていたことが事故に繋がったと考える。また、職員が1名保育室を離れることがわかっていたが、子供たちを自分の目が届く範囲に移動させる、注意を促すなど対策を取らなかった。	応急対応や研修や事故後の確認を行い、事故につ料の研修を周知の話し合い、資料を使いすぐに必ずヒヤハットし報告書を活用し、事故後に周知をすることを定期的に実施する。	職員間の連絡をしっかり行い、対応について意思疎通を図り、統一した安全に過ごせる環境を整えること を徹底する。急な対応に必要な対応ができるもあるもめ他の同保育の当担連絡を取り合って行動する	1. いつもどおりの様子であった	同年齢の遊び本に代わる児童の基本的な遊び方を児童に伝えられない事故直前は2～3名の同年齢の同園児と絵本を読んでいた況	4. 対象児の動きを見ていたか	常勤保育士1名は、保育室入口にて園児の様子を見ながら保育を行う。子供の要望により絵本コーナーの使用を決め遊び始めるが、園児お迎えの連絡システムを1階エントランスの職員からの内線にて受けながらの保育状況。他1名（常勤保育補助）も同室内で子供と遊ぶとして保育をしていたが一時退室をする際においても、残った担当常勤保育士は2名で保育をしているような体制で子どもを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見なった	園児の人数が少なく、子どもたちが静かに遊んでいた心あるのか故きた	園児の人数が少なく、子どもたちが静かに遊んでいた安感もあるのか故きた	対象児を見ていたが、転倒する瞬間に手を差し伸べることが出来ず間に合わなかった。	保育者の人数が少なく段階で、自分の範囲に一時的にでも子供を移動させる、声掛けをしてを促すなどを対応が行う。職員数がやむなくえず少なった時に対応につても研修を話し合い際に行う知徹底をしていく	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
																											ソフト面						ハード面									環境面				人的面									
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】				施設の安全点検	実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
8410	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	20				5	10	5			4	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕全腕骨骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	保育士の危機管理意識の欠如	マニュアルは再度全職員で読み直しを図り、危険個所の見直しし、使い慣れた安全な遊具による事故発生の可能性の再認識を行い、事故の未然防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度使用の都度	1. 定期的に実施	実施頻度使用の都度	遊具の使用年齢は3歳～12歳用であった。	引き続き、遊具の使用前には遊具本体や周辺の地面等も点検を行い、つながる箇所や怪我に繋がる場合は、排除や中止を検討する。	1. 集団活動中・見守りあり	うんていを行っている本児の前に他児が現れていた。	遊ぶ前にお話や約束ごとを伝える場で、雲梯をしている児がいる時は近寄らないことや順番に行っていくことを伝えていく。活動中で怪我に繋がるような危険な関わりが見られる場合には、保育士から声をかけ安全の確保を図っていく。	1. いつもお様子もりの子であった	自ら遊具を選び挑戦を試みていた。	4. 対象児の見ていなかった	雲梯に向かっている本児については確認できていたが、他児やの補助や見守りをお行っており、直前の本児を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをおこなっており、発生時点の動本児の動きを見ていなかった。	日常的に遊んでいる遊具であり、危険度の認識が薄れていた。	各所で活動している児に対して保育士の見守りに死角ができないよう、職員同士の配置を互いに共有し、声をかけ合いながら遊びのサポートを行っていく。	
8411	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	23									2	2	5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	顔面裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	特になし。	事故があった場合は速やかに職員間で情報を共有し、対策を立てるなど再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	屋上遊技場が濡れているようなことはなかった。	特になし。	1. 集団活動中・見守りあり	2つの遊びを設定するには、十分なスペースとは言えなかった。	氷鬼など集団遊びをする時は十分な広さを保ち参加する人数に留意すると共に、職員も複数で見守れるような体制をつくる。フェンスがあることを子どもが意識できるよう、フェンスの手前に目印をつけスピードを落とせるような環境設定を行う。	1. いつもお様子もりの子であった	日頃の様子と変わりなし。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	全体把握しながら、ウェイバラン平均方に対しながら、ウェイバラン平均方に対しながら、ぶつかった瞬間は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	氷鬼についてはぶつかった瞬間は見ていなかった。	特になし。	全体把握が十分に取れるような体制で、適宜危険がないか、職員同士、声をかけ合い確認する。	
8412	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	6	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	15									3	3	2歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折外顆骨折	3. 子どもどもの同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置			1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	走りやすい導線や転倒した時に、怪我につながりやすい環境になっていた。	室内の導線を確認し、子どもにとって合った環境を構成する。マットや敷物も敷き、転倒した時に怪我をしないような工夫をする。	1. 集団活動中・見守りあり			1. いつもお様子もりの子であった	体調もよくいつも通りの様子で過ごしていた。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	1人の保育士は排泄で保育室から抜け、1人の保育士は別の園児が玩具の取り合いでトラブルになっていたので、その対応を行っていた。トラブルになっていた園児は最近噛みつきやひっかきが多く見られたためその園児のそばに近くに行って対応を行っていた。しかし、怪我をした対象児が部屋内を走っている姿は視界にとらえており転倒してすぐ対応を行った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員はコーナー形成で他児童の遊びを見守っていた。	保育士それぞれかの子ども士のトラブルや排泄中に集中してお互いにらいたのの、走り回っている子どもを注意する保育士がいなかった。	子どもの動きを確認しながら保育士同士が声を掛けあい、子ども全体を把握する。	
8413	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13									3	3	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	なし	本件を全職員に周知し、床面の整理整頓を徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(53)回/年	なし	児童活動場所に、転倒発生するものが落ちていないか確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	机や周りを片付けていた為、床に服(衣装)を置き、着替えをしていた。	児童が踏まないよう机等の片付けを終えてから、机の置いて着替えを行うこととする。	1. いつもお様子もりの子であった	日頃から活動きが活発であり、日常通りであった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	保育士2名が複数児童を確認していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名おやつの片付けをしていた。	なし	片付けを終え職員が揃ってから始め着替えを始める。当該児の動きを予測し、着替えが終わるまで必ず職員の手が付き、見守りや声掛けを行い危険ならば行く着替えるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									ソフト面					ハード面							環境面			人的面													
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
8414	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	19								4	3	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	道路の歩き方において列の間延びやトラブルが発生した際の保育者同士の注意や声掛けができていなかった。	戸外活動に関する安全対策及び職員同士の役割について、研修を今年度中に実施する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特なし	1. 集団活動中・見守りあり	園児同士のペアリングと配列、体力の格、体力の差など考慮する必要があった。	担任以外の先生が保育に入っても十分に安全対策を見越した活動計画を共有する。活動後の子ども達の体力に合わせ帰園時間の見通しを立てる。	1. いつもどおりの様子であった	公園の活動を十分に楽しんだ。本児の気に入った友達とペアになったことで満足していて歩いていたが緩い傾斜のついた鉄坂で疲れが出てしまい歩くペースが落ちてしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	先頭で園児を引率し、安全確認のため配列の修正をしたり自動車の往来に注意を払い、補助員に声掛けを促していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と手を繋ぎながら本児の後ろについて歩いていた。前との距離が開くたびに声掛けをしていたが、先頭で引率している担任や配列の中央にいる補助員には声掛けをしなかった。	手伝いに入る先生と園児と間に信頼関係が構築できていない、安全対策に対する役割を十分に果たしていなかった。	手伝いに入る先生と一緒に子ども達へ安全指導を実施する。職員同士が役割を遂行できるように安全対策・緊急時の対応について共有する。	
8415	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14	4	3	7					4	1	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上ＡＡの脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 基準以上配置	夕方は異年齢保育であり、体格や遊びが違うので十分な配慮が必要である。	年齢に合わせた遊びの設定、保育する際の位置や全体把握など、各々で意識しながら視野を広げて保育していくことを全体周知した。	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守りあり	0、1歳児のクラスの遊びや児を保障することで、目の前のことに気を取られている多かった職員も為全体把握という点で手薄になり、予測したり声を掛けることができなかったと考える。	全体の状況把握という面で、保育に当たる人がとりなって職員一人ひとり意識していくことを職員間で確認した。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。他児とぶつかった直前は歩いていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児、他児の2名とも視野に入っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児、他児とは瞬間は関わはなかったが、視野には入っていた。	異年齢保育であり、身長や体重の差はあった。歩き始めた方向から、衝突も予測すべきであった。	衝突することを予測し、事前に声を掛けるようにする。	
8416	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	9								1	1	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左中指の中節骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	事故の起きやすい時間帯や保育士が把握していなかった可能性がある。	事故の起きやすい時間帯・状況等を保育士が話し合い注意出来るようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園児同士が距離を保って遊べるように保育者が見守り・声掛けを行う。	1. 集団活動中・見守りあり	園児同士の遊んでいる距離が近かった。	園児同士が距離を保って遊べるように保育者が見守り・声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	発で注意力が散漫になりやすい対象児であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室にはいたが、対象事故児が事故を起こした場面を見てはいなかった。	他の部屋にいたので場にいなかった	職員は1名体制であった。	対象児が活発に動くため注意が必要がある。	活動的な園児には気にかけて保育者で共有し見守るようにする。	
8417	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	16								3	3	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	遊びの展開から行動予測が出来なかった。	今後は、事故予防について毎月1回クラス会知議で周知し合い、努力防ていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年		今後も継続的に保育園の事故防止表・安全点検表などを続けていく。	3. 個人活動中・見守りあり	狭い小屋の空間、2歳児という運動の発達の考え方小屋にをかけられると分析され、登つて転倒の恐れもが考えられる。	子どもたちが小屋に入り（逃げ込み）窓枠に足をかけた時点で危険を察知するべきであった。危険を予測した時点で、子どもに声を掛けるだけでなく近くに行き行動を抑止することが大切。日頃から子ども達に遊具の使い方を知らせていく。	1. いつもどおりの様子であった	本児はいつもと変わらない様子であったが、おおかみごっこをしたことによってとよっさとまりないと思い興奮していた。	2. 対象至児の近く対象児を見ていた	クラスの子3人と保育者1名が園庭でおおかみごっこをしていた。子3人が小屋の中に入った時（逃げ込み）声掛けの注意だけで、本児が窓枠に足をかけるのを止められなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	それぞれ遊具で複数の子どもたちを見ていた。	園庭でおおかみごっこをし、捕まらないように小屋の中に入り（逃げ込み）2人が窓枠に足をかけ時ごうとしていた。2歳児という年齢から興奮して危険な行為になる可能性がある。危険を感じ、窓枠に足をかけていることを注意するとチ子どもの1人は足を降ろした。が、本児は足をかけるのを止められず、危険を回避することが出来なかった。	足をかけている時点で危険を予測したが、もっと早い段階で声をかけ、すぐに子どもの近く行きに行き行動を抑止する。保育士の注意すや声の掛け方や大きさにも気をつけて子どもの突発的な行動を日頃から予測するよう子ども行動をみる。会議などで職員に周知していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面			人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8418	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9		6	3					3	3	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下前歯2本脱臼	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	砂場の遊び方を見ていた保育士に、園児が園庭に残る等、職員配置に細かい必要だった。園庭の使い方の職員の共通認識が曖昧になっていた部分があった。	職員配置を考える際、遊び方の様子を見ていたのか等も考えて配置するよう改めて意識する。再度使用の園全体での見直しと確認を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(数十)回/年	当該児の発達状況は2歳0ヶ月、運動面でバランスに不安定さを感じる場面もある。ボールには蹴りつけられる高さである。	職員間で危険箇所の確認を行う。「のらくら」の表を作成し、職員に周知する。	1. 集団活動中・見守り	園庭で自由に遊びを設定していたが、当該児は探索的な遊びを楽しんでいたため、砂場の周りを歩いていた。	一人ひとりの動きを細かく見つけ、安心して遊べる環境を整えるよう心がけた。	1. いつもお様子のであった	体調面は変わりなし。普段は幼児クラスの姉が園庭に出ていることが多く一緒に遊ぶ姿が多い。この日は姉が園庭におらず保育士と砂場で遊んだり周囲を観察していた。	4. 対象児の見ていた動きかった	当該児の所在は確認していたが、砂場の中に多くの園児が集まったため、そこに付きまとい砂場の玩具を片付ける声を掛けており、当該児から目を離していた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	他担任は戻ってきて離れていた。	当該児が数回ボールに乗っていた姿を担任間で共有できていなかった。ボールが危険である認識が薄かった。2上が2階に子ども、園庭に残るこどものメンバーの設定を遊びの様子に合わせて決める足りていなかった。	場面の切り替え時子どもの遊びの様子を担任同士で確認する。砂場のボールは危険であることを職員が常に意識し伝えなくても子ども達に伝えていくようにする。担任が少なくなる際には、周りにいる職員に声を掛け協力してもらう。	
8419	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18			18					3	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右下腿骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	特になし	安全に遊ぶよう、常にどもの安全、大人の動きを意識する。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	定期的になど点か破損ないか点検を行う。	1. 集団活動中・見守り	限られたスペースでのびという意識付けが足りなかった。	ども動きが見つけ、ぶつからないように注意してボールを行う。状況によっては、遊びの提供を行う。	1. いつもお様子のであった	クラスの友達と園庭で遊んだ。	2. 対象至児の近で対象児を見た	他の子どもたちも関わりがめた。対象児の動きを守った。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	当対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達と関わりがあり、児童の動きを見守っていた。	職員がボールを止め(押さえた)ところ、児童が来ないで来たボールを蹴ったボールは勢いがあり、その衝撃がすねに加わってしまった。	瞬間的な出来事ではあるが、ボールを抑える力加減を注意する。	
8420	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16			14	2				2	1	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指中節骨骨折	2. 自転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	ボール遊びの経験が全体的に足りないため、ボールの方がいまいちで、本児に指をぶつけた様子や痛がっていた様子がなかったため、当日には気づけなかった。	ボール遊びのリスクを考えながら、開始の準備体操など行いながら遊びを継続していく。子ども自身が痛いことを伝えられるようにする。痛がる様子なくても異変に気付けるよう活動の切り替え時など全体的な視診を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(数十)回/年	遊具の素材について検討した。多少の重みがあるのボールが身体やすいなど、職員間で確認する。	・ボールの素材や硬さからこりの硬さ事故起る想定が大切である。	1. 集団活動中・見守り	夕方の出来事で、気温が下がってきたことも身体が冷えやすくなったりしたことも考えられる。	準備体操などに追加にストレッチなどを行う。	1. いつもお様子のであった	・年中児のボール転がし遊びに興味を持って一緒に遊ぶ。遊んでいる中に痛がる様子はなく、最後までボール遊びを楽しんでいた。遅番後引継ぎ後も変わらず遊んでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見た	・本児を含む数名の児と一緒に安全に配慮しながらボールを転がして走る遊びを行っていた。常に視界に入っていた。転倒や指をぶつけるなど動作も確認していない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	・少し離れた場所で遊んでいた。	・大人数ではなかったが、ボールが転がっている間の子どもの様子はずらいため、遊び人数が多いのではないか、または遊び方に問題があるのではないか。	・ボールの数を減らし、もう少し少人数で遊べるほうが良い。また、キャッチボールなどボールの動きが見れるような活動を行っていく。	
8421	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	30				15	15			3	3	5歳	2. 女児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不期に実施	1. 基準以上配置	本児の背が高かったので、ついた年長児と同じ職員が思った部分があった。	固定遊戯で遊ぶ際の確認。使用遊具の年齢確認。地面の硬さ確認。	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	滑り台のチッピングなどがあれば、ショックになる。	地面がカチカチであるので、滑り台側から落ちてもうまくいかない怪我防止考えるのが良い。	1. 集団活動中・見守り	本人の意欲を考え、年長以上の身長があったので大丈夫と思ってしまった。	固定遊具の年齢と使い方の確認をする。散歩地で遊具の混み合を確認。	3. いつもと活発で活動的であった	自分もできると思った。児へこがれがあった。	2. 対象至児の近で対象児を見た	職員がすぐそばにいた。担任は反対側から側応をした。本人の姿は見えた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをした。	担当ごとどもを見ていたが、子どもの動き予測ができなかった。	手を滑らせたら危ないので事前に伝えるべき、又は、静止すべきだった。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8422	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	26						26			3	2	6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足母指基節部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事例の無いけがであった為、予測していなかった。	危険について事例を挙げて、園児に職員や職員に説明、周知していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(都度)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホールは体育館ほど広くないので、カーテンを2つ並べ、回ってくるには狭かったが、予期出来なかった。	保育者や講師が、行う前に危険かどうかの判断(事故で実践してみるなど)をするとともに、やり方の改善を行う。	1.集団活動中・見守りあり	2チームで行った際が幅が狭く、折り返しが急カーブであった。	2チームで行うのであれば列をずらす等、急カーブにならないような配慮が必要であった。	1.いつもどおりの様子であった	特別変わった様子はなかった。	2.対象児の近くで対象児を見ていた	担任はカーブにに1名、スタートの後ろに1名配置。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外部講師はスタートの場所に配置していた。	競争ということもあり、あわてて走ってしまった可能性あり。	今後はカーブするときやその他危険が予想される場面で陳れる注意事項を事前に伝えておく必要あり。また、興奮しているような状況では競争という形をとらないようにする。	
8423	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									3	2	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	様々な活動(運動)の補助の仕方、指導の仕方、けがの対応の知識不足	保育者も体育的な研修を受けて、多方面からもフォローできるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	室内で圧迫感を感じてしまった。	室内で行うときに、保育室のパーテーションを取って広々とした環境にする。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱5段を跳べたのに、6段に挑戦するとなると、跳べなくなってきた。	高さやスピードに慣れてから、段階を踏んで取り組む。	1.いつもどおりの様子であった	5段は余裕をもって跳べており、6段を勧め段ならば意欲的だった。	4.対象児の動きを見ていた	バランスを崩した側の腕をもって支えたが、スピードもありフォローなしきれなかった。	2.担当者・人の職員が別の方向から本児の取り組みを一部始終見守っていた	2人の職員が別の方向から本児の取り組みを一部始終見守っていた。	本児が自信持って跳べるということに期待を多く持ってしまった。	少しでも戸惑いがあるようなら、その心理を見抜いていく。	
8424	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)		14									4	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	職員連携。計画の甘さ。危機管理への個々の意識レベルの違い。職員全員での散歩プの見直し。	職員連携では再度掛け声合いの徹底。週案の見直し。	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	防犯上立て替え(13年前)の時電子錠に、門前の道の高さとの関係で設置しかった。	電子錠門そのものを変えることは出来ない状況だが、電子錠の間に爪挟み防止ションを付ける事、門を開けた際、ストッパーがわりの土嚢を必ず置く。(設計士と検討した結果土嚢が一番安全という見解になった)	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの姿から計画が甘かった。室内ならの環境つくりの場でのとっさの判断。	いつもと違う環境である時の保育の検討。職員の連携。	1.いつもどおりの様子であった	散歩車から降りて歩く	4.対象児の動きを見ていなかった	先にリードを取っていた職員が園庭に入り、門を閉めなかったことを認識していなかったおでこをぶつけた子への対応のために1名の職員を園内に行かせた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなった	リードを園庭へ戻って取った時、外にいる職員に○入り寸。「門まを閉めず、開けておきます」の声を掛けていなかった。	おでこをぶつけたとき、園内に声を掛けなかった。冷やすものを持っていたが付かなかった。とっさの対応がまずかった。	事前に散歩バックの確認。とっさの対応の仕方を検討し共有。	
8425	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39					21	18			2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外側靭帯断裂・左腓骨剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		靴を履こうとした際に足をねじってしまったとれる。子様子を掴んで応えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		周囲に危ない物ども、一人で靴を履こうとした時の事故であった。	1.集団活動中・見守りあり		担当保育士と他保育士で役割分担をし、保育していた。	1.いつもどおりの様子であった	急いで園庭に出て、靴を履こうとしても考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭から入室するにあたり、子どもたちを並ばせていた為、テラスで靴を履こうとしていた様子は把握しつつ、場所から離れた場所見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスの入室準備の為、4歳児を見ていた。	担当保育士が他児を並ばせていたため、本児が足を痛めた場面を見ていなかった。	全体の子どもの様子を把握しっかり把握できるようにする。	
8426	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	3	1	2	2	3	0		3	3	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右母指末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	水筒の取り扱いについて個別に声掛けをすることあるが、全体に伝えていくあまりなかった。	水筒の取り扱いについて定期的に3歳児に分かりやすく話をした際に、危険な取り扱いを子どもたちが理解できるように個別に声掛けを注意していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	土曜保育の水筒の置き場は決まっているが、週一回利用の保育室のため身支度の身流れ慣付いていられる。	身支度の水筒の置き場は、机に移動する前に置く水筒は、徹底し、危険がなくなるよう、危険な要因がない状態で身支度を習慣に付けていく。	1.集団活動中・見守りあり	土曜日は1歳児クラスで混合保育を行うため、身支度の場所や流れ、物の置場が異なることもあるため。	普段と違う保育室のため、年齢に応じた事前の声掛けや援助をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝の身支度をするため、保育室の水筒に置き場所と机に水筒を置く。	1.対象児ツーマンの状態(対象児に接していた)	身支度をしている側の本児の付き、水筒を置きに行くよう声を掛ける。本児のくにいた際に、転倒した際に手を差し伸べるのが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3人の保育士で、一名は身体が弱く、もう一名は登園を受け入れをし、一支度が子どもの保育をした。	幼児は保育室ではルームシューズを履くが、本児は靴を履き忘れて下支度をしていた。	ベランダで入室前にルームシューズを履くよう、身支度は個別に指示し、本児の保育について落ち着いて見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の種類	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8427	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	46									4	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上顎骨折臼歯	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置	事故予防する十分に研修に時間をとることができたのは入職時の研修のみであった。そのラップアップを欠けた事故発生の要因の一つとなった。	職員会議後にマニュアルを読み合わせる機会を設け、防災意識を高める機会を増やしていく。	2.不定期に実施	実施頻度(4-5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4-5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4-5)回/年	ジャングルジムの固定部の遊具で児童を遊ばせる際は、職員などの見守りが整った状態にする。	3.個人活動中・見守り	園庭では数名ずつ鬼ごっこ、縄跳び、固定遊具遊び、虫探しなどを行っており、縄跳びをする園児が多く広い場所を要することから縄跳びが視野に入るよう見守っていたが、動きが多く動き多く加していることに見守りで追いきれなかった。	園庭での遊び自由遊びにおいて、鬼ごっこを際はしする全体で鬼ごっこに加しない子どもも参加いても固定遊具を使用しない子に遊具を使用しない伝えよう、見守りの際一目な危険を遊び方をしていない瓶別出来るようにする。	1.いつもお様子のであった		4.対象の児の見ていなかった	対象児を含め、園庭全体を2名で見ていて守ったが、参加人数が多い縄跳びをする子どもに遊び声掛けや遊び方に応じて対応するからは視野からはずれてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で、昼食の準備をしていた。	今回はジャングルジムに絡まれてあったが、結果的にジャングルジムに危険が伴うような遊具であったことが考えられる。	人員が十分時のみジャングルジムを用いることとし、その際はジャングルジムに切りで見守ることとする。	
8428	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	23									3	3	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯A｜A歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	子どもは合図をしてくれることの予測興味にせて動きをとることが十分ではなかったわせるがあるとのがはなかった	職員一人一人のリスクを予測する力を養う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	二部屋で過ごす中で、隣室に刺激で刺激になりやすいあったとがこれる。	3.個人活動中・見守り	夕方は疲れが出てくる時間帯なので、リラックスして好きな遊びをしながら過ごせる環境設定が必要	夕方の子どもの一日の疲れによる動きのばらつきや人数の変化を予測し、人数が落ちて少人数着いて遊具べるのスペースを崩すことを予測し、遊具やスペースを崩すことを予測し、遊具やスペースを崩すことを予測し、遊具や

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面					ハード面								環境面					人的面											
								人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8430	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	26						26		2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	グランドとさを考の広さ年齢を考慮する。さらに、人数を増やしたとき、人数を増やしたときは配置をことができたよかった。	1クラスでは職員配置に余裕をもてないため、5歳児クラスにもさらに配置できるように活動時間等を工夫する。	1. 定期的に実施	実施頻度(2４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	グランドを使用する際は、保育者が活動前に異視で危険や目物や放置されていないかを確認し、大きなもの石は撤去し、しかし、今回のような石ではなかった。	引き続きが子ども遊びの前に、保育者が遊ぶ範囲を目視と実路で確認し、危険物を除去する。	1. 集団活動中・見守りあり	広いグラウンドのため、子どもの年齢が高くなるほど活動範囲が広がる。そのため、保育者の目が届くにくくなっていた。	必ず複数の保育者がいるので、それぞれの役割分担を明確にし、全体保育者を配置する。	1. いつもどおりの様子であった	転倒前は特に変わった様子もなく、いつもと通りであった。転倒後も鬼ごっこ参加する子どもに動揺は通常の動きがされて受傷の程度の判断が遅れてしまった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	転倒した児童を守ることはできていたが、保育者が伸ばした手をせば届く位置にはなかったため転倒を防ぐことはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他の子ども複数の子ども中を守っていただった。	本児が以前にも同じような痛みを訴えたことがあったが、その際は本児の機能面の問題ではなく気持ち面での影響が大きかったように保育者側からは受けられた（本児は特段の通院をしていない）。このため今回の事案発生時も、保育者側に前回の状況と同じように気持ちの問題ではないかという思い込みが強くなった。	先入観をもたずに冷静に状況判断する。転倒等のあとに痛みを訴えた場合、どのような状況でも、機能面の問題がないことを確認するために動きを切り上げ、すぐに保護者に連絡し受診をする。	
8431	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	29	0	0	0	10	9	10	0	3	3	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	歩行に行く際は、手をつないで歩いておく際がないが、走りていたが、当日、走り始めた際、止めることができなかった。	散歩マップに、公園までの経路の状況（歩道の幅、段差の無、信号の長短、切り替え先の危険個所）を追記し、児童が走ることのないよう、職員間で確認を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		２クラス合歩くことを散歩をし、スタッフが側によりに行くようにした。	1. 集団活動中・見守りあり	散歩時いて道歩道は、排水路の段差は、溝があり、道幅も狭かった。	今後も散歩使用する道路あるため、段差や狭い歩道の安全方法を伝えていく。また、狭い道路を歩く際、先頭を歩く職員は、全体の歩行を確認し、ペースを高慮していく。	1. いつもどおりの様子であった	通常どおりの様子であった。当日、異年齢とのつながりの歩行でをしており、歩調や、歩幅にばらつきがあった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	児童の列の中間地点で、一緒に歩き、見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩く職員は、全体の確認をしており、当児童の列の中間地点で歩行する職員は、道路の段差について気を付けるよう児童に声をかけていなかった。先頭を引率スタッフの歩行速度がやや早かった。	異年齢と手を繋いで歩行しており、歩調や歩幅にばらつきがあった。児童の列の中間地点で歩行する職員は、道路の段差について気を付けるよう児童に声をかけていなかった。先頭を引率スタッフの歩行速度がやや早かった。	手をつないで歩く際には月齢や体格などを考慮する。先頭を引率する保育者は、常に子どもの歩行状況を見守り無理のない速さで歩く。段差等がある場合は声かけで注意を促し、子ども自身が意識して歩けるようにする。全スタッフの散歩移動時の危険予測の意識を高めるため、振り返りを2回実施した。全ての公園において、道路状況により発生する事故の可能性を想定し、危険個所をマップに記載する。安全な歩行ができるよう交通ルールも合わせ、子どもたちに安全教育を行う。	
8432	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20								2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	亀裂骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置		日頃から、ケガなどに対するヒヤリハットを職員全員で共通認識し、事故防止に勤める。	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/月		三輪車で遊び方の再確認を行い、不適切な遊び方を不適切な遊びには、すぐに注意しやめさせる。	1. 集団活動中・見守りあり	三輪車の乗り方の約束の徹底が出来ていなかった（勢いよく漕いでいた）	遊び方のことを約束ごとの徹底を図る。	1. いつもどおりの様子であった	登園時より、普段わらと変ない様子で過ごしていた。	4. 対象児の見ていなかった	1人はお迎えの園児がいた為保護者へ引き渡しもう一人は全体を見守っていたが対象児からは離れた場所にいた為、事故を防ぐことが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスは室内にして過ごしていた		降園する園児を保護者に引き渡す際も、園庭全体の様子を把握できるようする	
8433	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14								1	1	5歳	2. 女児	保育者一人しかいなかった為、もっと多くの目で見るべきだった。正しい遊び方のルール約束を伝えていなかった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	ハザードを予測事作りる前に、丁寧なされなどをしていた。ハザードマップが、遊び周知ができていなかった。遊び前に職員間で声かけをし、あら等注意喚起をすべきだった。	ハザードマップの見直しを行うとともに、異年齢が園庭を使う際の遊び方のマニュアルの作成を行っていく。事故・怪我が起こった時、ヒヤリハットがあった時に情報の共有を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	山の広さに対し人数が多かった。	芝山だけなく、複数の人数が遊べる環境をつくる。遊具を使わない遊びのしかたを提供していく。	1. 集団活動中・見守りあり	他学年が遊びをしている為空き水遊べる空いる時間の遊び場が少なかった。	全体が見渡せる場所でのり、職員の連携を図る。また、自分の足元など死角ができることも把握しておく。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近で対象児を見ていた	複数児童をひとりで見ていた状況であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数児童をひとりで見ていた状況であった。	山のに子人数が多かった。普段からで場為が注意所が足りなかった。	遊ぶ前に子供に遊び方のルールを指導できるようにする。危険を予測し子どもの動きを把握する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面															
								人数	異年齢構成の内訳																	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名								実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8434	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11								19	13	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	2.自らの転倒・衝によるもの突	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	保育場面の研修やマニュアルがない、見守り方等のマニュアルの整備がされていない。	今後、事故防止マニュアルの作成を検討する	1.定期的に実施	実施頻度(298)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(298)回/年	基準配置の凹凸の確認（溶けた乾燥した際に足跡がつき、乾燥すると滑りやすい状況になる。）	新型コロナウイルス感染症あり、現在はペーパータオルを使用し、タオル掛けの撤去し、歩行スペースの確保をする。	1.集団活動中・見守り	実際はタオルがたくさん掛かっており、足元が子どもの目線からはなかなかえにくい状態であった。	子どもの考えや物は目線とまずらすき取り除き、環境整備をする。	1.いつもお様子であった	バケツにていた水を入って、両手で色水道にバケツの取っ手を持っていた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	園児の側にいたが、転倒でこがないよう、転倒を防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスでいて過ごしていたため、気が付かった。	職員一人だけが見守っている環境・職員配置短い時間だったがあった。また、園児の身体面を考慮していなかった。	子どもにとってバケツを持たせることを見極め、大人は側で見守る	
8435	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41			14	13	14			4	4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	幼児クラスは隣接する校庭を借りて遊ぶことが多い。校庭での保育士の保育の方や約束事は毎年幼児担当で確認をしている。	マニュアル、職員の配置等については現在のものを再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２００)回/年	地面の凹凸の確認（溶けた乾燥した際に足跡がつき、乾燥すると滑りやすい状況になる。）	地面の凹凸がある場合には平らにすか、場所ではそれは遊ぶ。乾燥している場合には水を撒く等の配慮をする。	1.集団活動中・見守り	転倒の際に手が出ないことで大きな事故につながる。	日頃から四つん這の動きなどを遊び取り入れる等、身体の使いの方につ動きを身につけられるような活動を取り入れていく。	1.いつもお様子であった	氷鬼に夢中になり、思い切り走っていた際に手が出ず、肘が曲がった状態で転倒した。	2.対象至児の近で対象見ていた	対象児と一緒に氷鬼をしており、鬼から他の園児と一緒に逃げていた。走って逃げている為、転倒した瞬間は担当職員は見ておらず振り返ると本児が転倒していた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	転倒した近くの他の子どもとドッジボールをしていた保育士が瞬間を見ていた。	スペースも広く、職員配置としては十分であった。	人員配置としは十分であった。	スペースも広く、職員配置としては十分であったと考える。	
8436	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	5								2	2	2歳	1.男児	内反膝	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもの状況とケガのリスクについて職員の危険予知能力の向上が必要	危険予知トレーニングの継続と強化	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(54)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	動物の形状をしたウレタンクッションを提供したウレタン製クッションは非常に柔く、よく沈み、抵抗力がなかった。	発達年齢に合った玩具と遊ぼせ方を、施すに予定していない遊びは実施しない。	1.集団活動中・見守り	園児数が少人数では行き届いた。玩具の素材が柔らかい事故の可能性に結びつかなかった	玩具に対する危険度を考え、遊ぼせ方を員間で周知する	1.いつもお様子であった	本児は夢中で遊んでおり、受傷しないタイミングにくことが出なかった。	2.対象至児の近で対象見ていた	保育室内には職員3名が3カ所に点在おり担当職員は決めていなかった。職員3名が取り囲む範囲内で園児達はクッションに跨りながら移動していた。職員の目が届かない所に移動することとがないよう見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助職員1名はガラス越しの隣の部屋を掃除していたため、本児の様子を見ていなかった	玩具の使い方、遊びのルールについて、員間で確認をしないまま提供していた	見守り時は担当児を決し、注意しながらで観察する。玩具の使い方を職員間で周知の上で子ども達へ遊び方の指導を行う	
8437	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	23								4	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	・特になし	重大なヒヤリハットと事故報告書を、園全員で認識を深めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故当日までの1週間、晴天のため園庭の砂地は乾いていた。外遊び遊具や落葉・ゴミが滑った形跡は無かった。ご外遊びおまとび遊具が倒れた地面が、土が盛ったりして可能性はある。	ある程度の凸凹地面は身体教育上必要だと考えられるが、転倒事故が予想される時は、早めに気づいて均してをおく。	1.集団活動中・見守り	1階フロアの3クラス25分散して園庭で遊んでいた。16時以降23迄で人数は少しずつ減っていたものの、3歳児クラス22名、4歳児クラス15名、5歳児クラス19名のお56名が最多人数である。計算上、園庭の面積が●●●㎡のため、園児一人当たりの最小面積は●●㎡。保育室よりも一人当たりの㎡は広く確保できている状態であった。	あえて園庭を設定して、走りたい欲求を満たしていく。	1.いつもお様子であった	事故当時、身体可動域に制限がかかるようなジャンパーは着用しておらず、薄手の長袖シャツとズボンだった。外靴は履きなれた物だったが、これまでにも何度か転倒して膝に傷を負ったことはあった。体操教室に通っており、走ると いった得意な動きに対しては活発になりやすい。情緒面は安定している。	2.対象至児の近で対象見ていた	当該児は転倒する前（午前中）から狭い保育室で走り回っており、担任が何度も声掛けしていた。事故当時、園庭に16名の職員（内担任4名）が立って見守っており、当該児の近くで様子を見ていたためすぐに受傷時対応できた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	タイヤ遊び、マットままごと、いったび、と別のをしていた園児を見守っていた。	特になし	園庭だけでなく室内（ホール）でも今以上に運動遊びをして運動量を増やし、走る以外の楽しみを見出せるようにく。転び方の練習をする。（指間を狭め手のひら全体を使い、手と腕の支持基底面を広くな使うような身形で受け身をとれるように）職員全員で走りがちな園児の状況を共有していく。	
8438	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15								4	4	3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	テーブルや椅子などは片付け、危険物のない環境えて	1.集団活動中・見守り	午前中に会誕生日会があり、中活動の中で体を動かすことが、活動量が少なかった。	少しの時間でも体動かす動を取り入れる。	1.いつもどお様子であった	読み聞かせの内容が集中できなかった。	3.対象児から離れたところで対象見ていた	消毒や掃除をしながらだから対象児を見守った。走り出した時の口頭で注意をすると、一度は座ったが再び走り出してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	そばで様子を見ていたが、介助児がみたくていため、つくられた止めなかった。	対象児の自身の多動性	対象児の特性を踏まえ、口頭でのみの注意だけではなく、そばについてのそばで対応する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8439	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20				10	10			2	2	6歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右下肢脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険のないよう、周辺の環境を整備する。	1. 集団活動中・見あり守り		子ども達の動線を把握しながら集しいように指導する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であったが、おやつ前手洗いにこうと走ってしまい、立っていた友達の足に躓き転倒してしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしておりが転倒した瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児担当職員で、担当児の対応をしており当該児の動き見ていなかった。	活動の替り時目帯に担任が外れお子達それにとどもがそれに移動した為見守り行き届かず事故が起きた。	担任が席を外す際は、子ども達が着席し落ち着いている状態にした中で、代わる職員に申送りを行い見守りの徹底に心掛ける。離席性する必要性についても再考しタイミングを考える。	
8440	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	11								1	1	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	事故発生時の聴きとり(担任、看護師、園児等)を正確に、漏れの無いように行うことが大切であった。事故により担任がショックを受けていた為、園児との供述に違いが出来ていた事に気が付かず、保護者不信感を抱かれしまった。事故発生時の保護者対応についての研修を行っていなかった。	事故再発防止の為、事故時の正確な状況を把握し改善していく。担任、園児双方からに正確な聞き取りを行い原因解明に努めていく。保護者対応マニュアルを作成し、定期的に研修を行うとともに事例別の保護者対応研修も行っていく。	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱が向こう側に向って跳び箱の窓にかってしまったことや、着地用のマットを2枚重ねに変更しての練習が2回目だったことで着地が不安であったなどが推測される。	向きや助走距離、採光等を考え設定する。一人ひとりの状況を把握し、跳び箱の高さや、マットの高さなどを確認する	1. 集団活動中・見あり守り	本児は、普段の練習と同じ環境であったが前回の練習より一週間空いたため感覚を戻すよう補助を行い段階を踏んで練習を行うべきだった。	期間があいている時は感覚を取り戻せるよう補助を行ない徐々に普段の練習に戻していく。	1. いつもどおりの様子であった	健康状態に問題はなく取り組んだ。1回目跳んだ際、お尻が跳び箱に着き「跳べなかった」と思い次は「もっと高くとぶ」と思っていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の脇に担任が付きマンツーマンで見守りていた。1回目跳んだ際、お尻が跳び箱に着き完全な跳び方ではなかった為「もう少し高く跳んでね」といつも通りの声を掛けを行い、子どもの態勢が崩れた際すぐに手を出せる近距離で援助していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	取り組みには担任のみで対応していた。	担任一人で跳び箱活動をしていた。活動予定など事務所と共有できていなかった。	サポートする為の職員配置を行っていく。また、危険が伴う活動前には担任から声掛けを事務所開始の連絡帳を事務所に提出する。週案で一日の保育内容をあげ、職員間で共有していく。	
8441	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41				13	12	16		4	3	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	中足骨骨折（左）	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	保護者が来園帯に迎えに時間で、保護者をながら対応しながで保育をしたのあった。	遊びのルール（コンテナ使用時）の再確認、職員の立ち位置、体制についてし見直し防策予講じてとをいく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		3・4・5クラス職員、玩具(コンテナ)使用時のルールや遊具や遊び方や注意事項を園児の説明で園前を0～2歳児クラスの職員にも報告し共有した。	2. 集団活動中・子ども達のみ		少人数で遊でいても、目を離さず見守りながら保育をする。園庭全体を把握する決め、職員声を掛けあう。暗くなりはじめたら、室内保育に移行する。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で遊び始めは5歳児のグループと一緒にいなかった。5歳児クラスに姉ぶいて最終的に一緒に遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、花壇の近くにいて保護者対応をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児が複数人で遊んでいた時は、コンテナを2ケーメ重ねてシートをのせ遊びかけていたので職員をした。その後少人数になってからは、園庭の真ん中で静かに遊んでいたこともあり、けがをした時には気付かなかった。(本児の泣き声で気づいた)	園庭遊び全体を把握する職がいる。職員が園児と遊びこんま遊びでしいの周囲の状況を把握していなかった。	園庭遊びを前に職員の立ち位置を決め、合図・対応などを掛け合う。特にお迎えの保護者対応の時も、園児から目を離さない。園庭遊び全体を把握する職員を決めておく。	
8442	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	15								3	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	1. 頭部	頭蓋骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるものにも	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置		滑り台で遊ぶ際は必ず見守者が保育士配置するをるようする。見保育者が配置できない時は遊具の制限をしたり、散歩の守先を選ぶ。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1／日)回/年	滑る面がコンクリートで固いが、遊具の性質から、柔らかい素材にするのは難しい。	ショッピングモールなどと比べて前に遊具が遊び方や注意事項を子に伝えておく。遊ぶ前に、考えられる怪我や子ども達に危険どもにもなるようにする。	1. 集団活動中・見あり守り	別々に個別対応はしないけくくいけない状況が所でおき、3名の保育士のうち2名が個別対応をしていた。	個別の対応があったとしても、滑りを台全体を見渡せるように工夫する。	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に追いかけっこをしていた。保育者が一度は声掛けしたものの、滑る子の子どもは目に入っていない様子だった。	4. 対象児を見ていなかった	一人はケガの手当て、もう子話と一人は子どもと話をしていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台で子どもと遊んでいた	ほぼ全員が滑り台に一般の方もいて、一方で遊び方を考えるこの少人数で、しっかりと伝えることが必要があった。	クラス担任が揃っていない時は危険のある遊びは遊ばないようにする。危険がある遊びは誰が見ているかをはっきりし、離れるときは声を出して他の職員に伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面									ハード面								環境面					人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面	実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】																
8443	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	3	5	5	0	0	0	0	0		3	3	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		死因	5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上唇小帯裂傷。左上乳中切歯陥入	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	バランスを崩してのケガ。	今回の怪我についての情報と、保護者が行われている場所でも怪我をする可能性があることを会議に不足周知。引き続き子どもの子動きを注視していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		コンクリート外壁角部分に子どもが行けないよう保護材で覆った。今回の事故を全職員共有し、付近の職員と、付近の子どもの遊び視しく。	1. 集団活動中・見守り	あり	無し	無し	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	該当園児は集団から離れた場所で道路の車を眺めていたため、職員はやや離れた場所にいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童を視認していたが、同じクラスの他児の対応童も行っていた。	職員は本児の様子を視界にとらえており、状況把握は行っていた。	状況把握はしていた。保護はしているがそれでも怪我をする可能性があることを再周知し、見守りの場所の工夫、遊ばせ方の見直しを行っていく。	
8444	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	15									3	2	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	両上A歯外傷性亜脱臼両上A歯外傷性歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置		今年度受講した研修を活かし転倒や転倒による怪我減る。転倒による様々な運動遊びを取り入れていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	無し	「安全点検チェックリスト外・屋内を再検」を確認し、引き続き定期的に安全点検を行っていく。	1. 集団活動中・見守り		職員の立ち位置等を「遊びの約束」を再確認する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	複数の友だちと鬼ごっこしていて、クラスの子どもが、いつもより日中より気持ちが高まっている様子だった。	2. 対象至児の近く対象児を見た	固定遊具のそばにいた子どもを見ていて、対象児が右側で転倒する様子が見えた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	園庭で自由遊びをしていたためそれぞれの場所に配置全体を見渡しな保育ていた。		全職員に事故の経緯等を周知し「遊びの約束」を再確認するとともに、園児の様子を把握しながら保育していく。	
8445	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	5									2	2	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷			5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼・舌の裂傷・顎の擦過傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	丸太遊びはいつも保育士とつなぎ手をいで遊び大遊びだった。	バランスを崩すことも想定し見守るようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		要因が考えられるため改善策の記載なし	1. 集団活動中・見守り	当日は公園利用者多くて人園が難しいたので遊ぶ。	公園が混んでいるときの安全な場所の確保を確実に行う。	1. いつもどおりの様子であった	普段は保育士とつないで遊べていたが当日は、一人でのぼってしまっていた。	2. 対象至児の近くで対象児を見た	対象遊具の反対で対象児と一人の園児を見ていた。対象児が足を滑らせる瞬間に合わなかった。	対象遊具側で対象児と一人の園児を見ていた。対象児が足を伸ばしたに合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	対象遊具平均近くの他児の援助をしていたため。	付近の他児の援助をしていた。	もう一人の児童が高さのある遊具にっていたため同援助がしにくかった。しっかりと子どもの動きを確認してはいたが実際は確認できていなかった。	子どもの動きが把握できない場合は遊具を使用しない。常に子ども場所を確認し共有する。	
8446	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	9									3	1	6歳	1. 男児	配慮が必要な児	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右第5中手骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置		引き続き研修を受講して、危機管理意識を高めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年		定期点検は実施しているが、日常の危険箇所の中でも保育の危険箇所は特に注意を払っていく。	1. 集団活動中・見守り		今回の事例は、環境面の配慮が必要と考える。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	本児は配慮が必要な児で、朝から機嫌が悪く特定の児に対し攻撃的だった。保育士は落ち着いて遊べていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児は落ち着いて遊べていた為、当番保育士は少し離れた場所から本児を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員Bは、玩具の消毒をしながら、本児を見守っていた。	夕保育入る際に、担任から朝の様子を当番保育士に引き継ぎをすべきだった。	本児が落ち着いていても、1日の状況を把握しながら、何かあった時に静止すぐにできる距離で見守っていく。	
8447	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17									2	2	5歳	2. 女児	入所1か月で保育所に慣れていない状況。泣きながらの登所が多い。昼頃から好きな遊びができている。	8. その他	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左腓骨骨端剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(8)回/年	1. 基準以上配置	特記無し	事故があった場合は速やかに職員間で情報共有し再発防止に努めている。	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	気温が下がって地面も凍ってしまい、足元は安定していたが、気温が下がる時間帯ではぬかるみ状態になった。	寒暖差で体調を崩しやすい時期であるので、保護者と共有し、入室時の様子を職員間で共有している。	1. 集団活動中・見守り	おやつ後、夕方保育前の時間帯に園庭で遊び、その後の入室の時間帯だった。	特記無し	1. いつもどおりの様子であった	入室する児童が、プランコから降りて部屋へ戻ることだった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当は、本児から離れていたが、入室を促し目線はまっすぐに向いていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	入室してくる児童を見守っていた。	本児を児童に含め地面のぬかるみについて声かけをしていなかった。	個々の動きを把握し、地面などの変化について具体的に声かけして、子どもたちの様子と環境の状況に合わせて、入室の際の流れてを配慮していく。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面				人的面											
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8448	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	3								1	1	2歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10~12)回/年	1. 基準以上配置	事故に結びつく行為を行う前に、保育担当者が児を落とし着かせ、これから行う事について話をすべきだった。	前の行動から次の行動に移る際には、一度落ちついて環境で子ども達にこれから行う行為についての注意などを説明する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年・使用する前に確認	1. 定期的に実施	実施頻度(不定期)回/年	70cmという、対象高には児童の設児すぎた巧技定の台	日頃の状況を見て、対象児に合わせた高さを想定できる知識	1. 集団活動中・見守りあり	使い方等の説明をせず、室内活動から流れで巧技台の使用を始めてしまった。	前の行動から次の行動に移る際には、一度落ちついた環境で子ども達にこれから行う行為についての注意などを説明する。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の近く対象児を見ていた	対象児のそばについていたが、すぐに止めるように、受けられるようにはいえなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内クラスの他児に同じ保育に携わっていた。	室内活動から移動直後であり、他の児の動きも把握するために動きだけに注視する事ができなかった	ジャンプする児の行動に合わせ、万が一を考えてすぐに助けに入ることができるようお身構えてお
8449	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	19								1	1	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	予期せぬ転倒であったが、担当職員は園庭全体を見ていて対応ができたため。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	園庭に段差も凹凸状態で、園児が転倒が直接的な要因ではないと考える。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	通常通り、園児20名対して職員1名の配置である。	1. いつもどおりの様子であった	園庭を走っていた時に転倒	3. 対象児離れとこで対象児を見ていた	園庭全体を見渡せる位置に立ち、全体を守ったと転倒する児の姿を見え直ぐに駆け寄り、すぐに看護師に確認した。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	園全体を見渡せる位置に立ち、全体を見守っていた。	特になし	職員は園庭全体を見守り適切な対応をとって考えられる。
8450	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	21	0	0	0	0	13	8	0	2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		常に子どもの行動を把握し、保育同士声を掛け合う	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		常にと一緒中で、危険に遊ぶ破損や破に気付き共有する	1. 集団活動中・見守りあり	本児が柵の側にいる時に、見通しをもっていなかったり、離れるよう声を掛けなかった	公園では固定遊具などの使いい方を改めて話す。保育士同士が連携を取って声を掛け合う	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	休み明けクラス落ちがきなかった	3. 対象児離れとこで対象児を見ていた	離れたところ少しいたため、見てなかったいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具について、止める事が出来なかった	本児が柵の側で遊んでいる時に、離れるよう声をかけなかった。本児が柵に手をかけたタイミングで注意していれば防げたかもしれない	公園での遊び方について、子どもと話を育士も固定遊物に子どもが近づくのを見たら、直ぐに離れるようにすする。保育に関して、ゲーム中のよう声をかける。
8451	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20								1	1	6歳	1. 男児	発達障害に対し、心理相談を受け就学時相談の対象である	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第五指基節骨近位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	配慮が必要な園児クラスにおいても一律のルールで室内遊びをして定定し、要配慮児に特化したルール設定は行っていなかった。	週案を園長・主任確認する際、園児の性格や傾向を考慮した遊びを事前に確認する。園長・主任の巡回頻度を増やし、要配慮児にも適した遊びかどうかを確認する。また、配慮児童に関するケース会議を行い、定期的に発達状況や児童の特性に応じた適切な遊び方を考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	ハード面に問題なし	1. 集団活動中・見守りあり	活動する広い空間を設定し動きくるとして大きけるにした。故に子どもは自ゲームに気持ち熟中し運動身のバランスの機能が取れない状況となった。	児童がヒートアップしている場合は、手を両につかず腕を胸の前で交差させて下敷だけを座って前に進むなど、ルールを追加することで動作の難易度を上げ、ゲーム自体のスピードを下げることを検討する。それにより、子どもたち一人ひとりが適度な興奮状態にならず冷静に状況を理解・判断しながらゲームに参加できる、ゲームに夢中にならルールを守れていない児童がいた場合は声を掛けるだけでなく一度ゲームを中断し、再度ルールを開始する、状況に合わせて変更する等工夫する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ADHD傾向があり、ゲームで多動・多弁が目立つ児童である。この日は変わった様子はなく、保育者の話を聞きゲームに意欲的に参加していた。	3. 対象児離れとこで対象児を見ていた	保育室の真ん中(全体を見渡せる場所)に立ち、少し離れた所で対象児を見ていた。ルールを守っていない子に対し、名前を呼んで声を掛けていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	室内遊びだった為、職員が一人でみていた。	対人数は満たしているが、余剰人員が居なかった為、一人の保育士が全体を見ることを行わなければならなかった。	児童の見守りは原則一人の保育士で行うため、状況に応じてゲームに参加する人数を平数程度に減らすなど、ゲーム中の子どもの見守りを強化する工夫を行う。特機中の子どもたちを見守る人員が必要となり、余剰人員がいない当園では課題が残るため、会社として人員の確保に向け採用も同時に進めて行く。定期的に園長主任が巡回を行い、安全に集団遊びが行われているか確認する。

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8452	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13								1	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手指)	骨挫傷→小指中節骨骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	築山（滑り台）で遊び方のルールを見直し、再検討する必要がある。各クラス間での共有すべきを再確認である。	築山や滑り台で人数のある共有されていない制限や使用のルールがあったもの。等などクラスでは築山の遊びの方法が普段と変わりなかったこと。対象児からは築山の遊びの認識であった。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	築山、滑り台での使用に関する検討、決定。	1.集団活動中・見守り	他クラスでの保育士が配置されていたことで、5歳児クラスのルールが徹底されていなかった。勢いのあった滑りではあったものの、注意は促さずに見守っていた。	保育士間の伝達不足の改善。使用条件の共有徹底。築山、滑り台でのルールの検討、決定。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から普段と変わりなく過ごしていた。5歳児クラスでは夕方は築山での遊びはしない、マットを使用して滑り台遊びはしないというルールは園児も理解していたが、担任ではなく他クラスの保育士が配置されていたこと、声かけもなかったことで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	日中の遊び方、状況が普段と変わりなかったこと。対象児からは痛みなどを訴えなかったが、普段通りなかったため、普段通りと変わりなかったことの認識であった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる途中でおあったため、他の職員は関わっていない。	5歳児クラスでのルールは園児も理解していたが、担任不在であったことで遊びはしないでしまったのではないか。ケガ直後は痛みも自制内であったとの予測から、遊びが優先されていたため伝えなかったのではないか。担任ではなかったことで伝えるのためらったのではないか。	職員間の情報共有と伝達、遊具の使用条件の早急な検討、決定と周知への徹底。他の保育士と児との信頼関係を築く声かけをする。	
8453	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20								2	2	5歳	2.女児	園児Bは支援を要する園児である。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手指)	左手首骨折（亀裂骨折）	5.他児から加害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	生活や遊び中の使用する、事故に繋がりやすい教材について取り扱いマニュアルを作成し、期的に確認することで職員の意識を高めていく。	年齢に応じた教材・教具の見直し定期的（月1回程度）に行い、子どもの成長や理解に合わせた教材選定を行う。活動計画を立てる時に、人員配置や環境構成を含め安全配慮の必ず入り。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年		3.個人活動中・見守り		ハサミなどの事故につながりやすいものを扱う時に、職員がその場所から離れる際はハサミ等の事故に必ずハサミを片づけてから離席する。ハサミ等の事故につながる要因の扱いについて、職員共通のものとなるよう確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	怪我をした園児は、友達と切り紙をして遊び、糊付けを済ませ、となりの席のお友達とおしゃべりをし、次の活動の準備されるのを待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室にいた職員は、次の活動のため、子ども背中を向けて、教材準備をしていた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員は園庭で子ども遊びを見守っていた。園児Bが入室することに気付いたが、他の水遊び児びのをしり、追いかけるのかが1.2分後となった。		教材準備等は活動開始前に行い、子どもの活動に保育者の目が集中できるようにする。子どもに背中を向けて作業をしない等、常に全体が見渡せる場所で子どもの見守りができるようにする。職員の連携意識を高め、曖昧の時に声の掛け合いや助け合いができるよう、日頃から指導・周知する。	
8454	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	20								2	1	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左肘過剰骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(11)回/年	2.基準配置	園からの近所あった場所で、保育士1名、保育スタッフ名、アシスタント1名で散歩で出た。	散歩に行くときは、保育士2名、保育アシスタント名で出かける。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	木の根が多く、つまずきやすいまずいであった。	園外の為、設備改善は難しいので、マーカー（小さいコーン）等で危険個所を見える化する。	1.集団活動中・見守り	虫を探すことに夢中になっていた。足元への注意が薄くなっていた。	足元への促すに声掛けを行い、職員間での危険個所の共通理解をする。	1.いつもどおりの様子であった	他児ともにがんばりになりを見ていたのを、動しと思って出た際に根いて、両手を地面についた。	3.対象から児離れたところで対象児を見ていた	全体を見ていたが、特にブルやトラブルの起きやすい場所に本児の近くおり、本児のすぐそばにはいなかった為、見充はなく守りが分でいた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他児が集まってベンチで子ども遊びをしていたため、見ていた。	危険箇所の認識があまく、職員間での共有が充分ではなかった。	一緒に散歩に出かける職員が散歩先での危険性を再認識をし、見守りを強化する。また、子ども安全な遊び方を繰り返し確認する。	
8455	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37		6	8	13	10	14		7		5	4歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	保育士が特別の児の特性を理解はしたが、事本人の特性はしたが、故につこと予想がまで予想はしていなかった。	走っていても子にも注視するに保育士共有する。走っていることに関する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		鉄棒と他遊具との距離の十分り、周り園の他の児もいたため、特に改善策はない。	1.集団活動中・見守り	園庭に出る前にてうしから遊ぶように話をしてび始めたが、よそ見をしの突然に走ってしまった。	遊ぶ時は人の人員周り、遊具などに気をつけて遊ぶようにたちに知らせている。	1.いつもどおりの様子であった	普段は戸外では一人で遊ぶことが多い、また保育士と関わって遊ぶことも好きである。当日は特に変わった様子は無く、一人で遊んでいた。	4.対象動児の動きを見ていなかった	本児が走って遊んでいることは把握したが、滑り台でいたんでいるお子ども園児がふざけて心配だったのでにいた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	本児がなにをしているかは把握いたが、園の園庭で子どもたちを見守っていた。	職員配置は2足りないが、突然走り出したため止められなかった。	事故についてやもの特性について保育士間で共有し話合いの時間を持ち改善策を考えていく。	
8456	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11								2	2	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左手首骨折（亀裂骨折）	8.その他	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	今年度中の事故が起きたと仮定し、職員が動けるように、全員でのルを読み、事故研修を意識増やし高め識を。	職員が各段からの普段の会議が無いか、破損していないかを確認し、職員が声を合う、特に不備破損があるが合はが合はが合は

No	概要						発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面						人的面											
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																																																			掲載更新年月日
8457	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	9									16	12	1歳	2. 女児	特に無し	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の打撲	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(随時)回/年	2. 基準配置	0歳児6人で見ていた。0歳児を捉えることができず、職員に同じ動きが取れていなかった。児の動きに合わせた保育者の動きに関する研修が行われていなかった。	食べ終えた児が保育者一人で見切れない人数になった場合、おやつを食べている児と保育者のバランスを考え保育をする。他クラスの状況を把握し、各クラス十分な職員配置ができるよう見直す。0歳児の発達を理解し、子どもたちの動きを見守ることができる位置に動きができるように座る。戸棚収納が必要な怪我が起きた場合、何が原因だったか、どうすればよかったかを関わった職員で話し合い、職員会議などで共有し、改善していく。事故事例から怪我を基に、保育内容、安全確認、事故対策の呼びかけを行い改善していく。点検表などを使用し、毎年度も園で共有し改善していく。	種類が少なく飽きられる。種類を増やす、遊びの場が分散されるよう玩具棚の位置を離す。保育者との安定した関係を築き、適切な配置をする。おやつ、あそびの生活の流れを見直し、適切な保育者の配置をする。	1. 集団活動中・見守りあり	発達に合った玩具が十分に用意されていないため、子どもが集中できずに動き回るようになっていた。玩具は毎日同じだったため、子どもたちは選びに偏りがあっていないなかった。好きな遊びをしていても、玩具が少なく、玩具の取り合いなどもあり、不満な気持ちを持つ子もいた。職員ごとに保育書類で話し合い、環境構成の変化をしている最中だったが、職員ごとの保育の仕方にばらつきがあった。	発達に合った玩具の見直しをし種類を増やす。遊びの場が分散されるよう玩具棚の位置を離す。保育者との安定した関係を築き、適切な配置をする。おやつ、あそびの生活の流れを見直し、適切な保育者の配置をする。	1. いつもどおりの様子であった	穏やかな様子で昼中は散歩で歩くことを楽しんでいた。保育者に抱っこを求め、それに応えてもらうと満足したように笑みを見せていた。給食では、自分でスプーンをもって食べ進めした。昼寝では、お気に入りの毛布を使用し、ぬいぐるみを抱いて安心して入眠していた。寝起きの機嫌も良く、おやつも完食をした。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	0保育士は2児が向こう側を向いて座って遊んでいることに気がついていた。目児が座ったい状況や落ち着く場所を見つけるために左だけの関係を前を向いて保育士、次第に後ろ向きに歩いてA児に近づいていたことに気がついていた。A児目児と離れた場所で見ていたお、側れそうになったときに手を差し伸べるようなどができなかった。目児が離り向き側を向いて保育士がとっさとった時、すぐに手が出せない場所にいた為、目児の転倒を防ぐ事ができなかった。事故が起きた時、A保育士は目保育士がマットが敷いてある場所に来たため、入れ替わるように武藤が事務作業をしていた看護師の下にA児を連れていく。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	おやつ中だったため、0保育士とC保育士は、おやつの準備をしていた。事故が起きたことを知った担保育士は、おやつの対応が終わり、保育室の中に入る準備をしていたため、そのまま対応していた児を連れて保育室の中に入り、C保育士も、対応が終わるところだったため、片付けを優やかに始めた。看護師はA児の怪我を見て、保育室から離れた場所で、A児の口の中を確認する。看護師はA児の口の周りについた血をティッシュで拭き取り、口周りや前歯、前歯の異などを観察。触診をする。担当保育士に状況を報告する。	おやつが終わり、子どもたちが順番室に保育室に入るに全体の園児人数に対する保育者の配置バランスが悪かった。おやつ提人数バランスの調整が悪かった。0歳児の発達を捉えていなかったため、大丈だろうという思い込みがあった。	生活の切り替えの場面では、子どもたちの全体の動きに合った職員配置をする。一人一人の心身の状態を保育者同士で話し、どのような関わりが望ましいか打ち合わせを随時行っていく。保育者自身、身、判断でも思考し、起き定し、事故が起きそうな施所に保育士を配置し保育をする。ささいなことでも、報告をし、必要であれば職員の応援要請をする。	
8458	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12									1	1	6歳	1. 男児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右母子第一関節剥離骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		事故発生の状況を全職員に周知し、子どもの様子をしっかりと見てしばらく再確認する		2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年		サッカーをするのペースが十分に取れる。園庭にある可動式の遊具の方、置き場所の使い方を再度確認する。	1. 集団活動中・守りあり	最後の一回子どもの要望を受け継続したが、室内と園庭に分かれる状況を作ってしまった。	最後まで、子どもから目を離さず、2か所になる他クラスの保育士と連携し保育をすすめていく。	1. いつもどおりの子であった	複数人でサッカーをしていた。激しくぶつかることもなく、いつもと変わらない様子であった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭から室内へ入る準備をしていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の職員はすでに室内に入っていた。		保育士が見ていない状況を作らないように、職員間の連携を密に取り合う。	
8459	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	7									3	2	1歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸・腹部・腰部)	右鎖骨骨折	3. 子どもの衝突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	なし	同じ事故がよく起こるので、各職員に周知し、今後同じ事故がよく起こるないように各職員に見てもらい、場合も改善策を重につらいうように改善策を確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	なし	おが故がよ子ちりゃ事故がよ子ちたす作ちは検落てよのそのの状況提具、遊手も重につないにも提供すときは点がする。着べるに、時の中で提具、遊ら重ようとにる必ずち遊ろ日、の供遊具玩具択する。	1. 集団活動中・守りあり	長椅子を対角線上に設置し、ベンチは壁や押し入れなど可動しにくい場所に設置する。安定して座れる場所を設定する。夕保育は園児も疲れが出る時間帯なので、静かに横になれる布団も子どもの様子に合わせて設定する。	物を持って歩き回っていた場合は、ケガにつながるので静かに遊べる環境を設定する。ベンチは壁や押し入れなど可動しにくい場所に設置する。安定して座れる場所を設定する。夕保育は園児も疲れが出る時間帯なので、静かに横になれる布団も子どもの様子に合わせて設定する。	1. いつもどおりの様子であった	順番を待ついときに作り手作りチェックを使った見立て遊び（ベッド見立て遊び）に寝をして子どもを真似をした。	2. 対象至対児の近で象児を見た	座ってハックモックに乗って（右手で5皿くらい揺れ幅で）揺れが長椅子に子どもを持ってる見守っていた。	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	1人は、ごままおとーんがちをた。1人はおむ	ーで遊るとおもはもう交換に誘っていた。	覆いかぶきったが長いものを持って歩いていたので、職員は声を掛けて注意しき、長いものを持って歩いていた。それを、本児に掛けては見ていたが、覆いかぶさる行動をとるとは予測できなかった。本児が長椅子にうつ伏せになり始めたが、見立て遊びに代わってきていたのに、ハンモックに遊びをつづけていた。	玩具等の遊び方を子どもたちに知らせるが、守れないときは違う遊びに誘う。ハンモック遊びを設定する際に、保育士がそこに付きっ切りになるので、起こりうる様々な状況を予測し、提供遊具、玩具の選択を行う。ベンチをベッドに見立てて遊び始めた時は、遊びに飽きてきていると考え、ハンモック遊びを止めて、遊びを見直す。夕保育の職員には、個別に子どもの予想される動きに ついて配慮することを知らせ、落ち着いて遊べる遊びをするよう適切に指示をする。	
8460	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	6. 午睡中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	12									2	1	3歳	1. 男児	●月より入園。自閉症の認定をうけている。入園当初は全く午睡をしなかったが、家庭と連携し当該児が身体を休められる環境を考えながら対応している	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	職員配置だ当該おいが十分過ぎ、児には担当職員1人がこみだ職員がこみていた	1人で無理なのヘルプを求められる、周りがサポートし状況を作る職員がサポートし状況を作る。の職員がサポートし状況を作る。	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/日)	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/日)	1. 定期的に実施	実施頻度(1回/日)	午睡時、コットをしてが、児はコットの上に立ったり飛び跳ねたり危険な行為をしていた。他児の睡眠の邪魔にならないように壁際に布団を敷いていることも要因となった	コットはなの布団すかの引き布団が壁し布団が壁なく危険で、続き使用が少して敷く場所を変える。	7. その他	なかなかすぐ寝付けず寝に動きを回ったり声を大きを出し動いをするりを、静かに過ごせるに遊びに促せなかった。	寝付けない時は布団の上にないように、絵本や静かに遊べる玩具で動ないように、危険に繋がらないようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児は登園時から話気あり、落ち着きがない状況だったが体調不良なし。午前主活動の時間に、活動の切り替えるタイミングが当該児のタイミングが合わず機嫌を損ねひっくり返ったり、床に頭を打ち付けようとしたり（職員が訪ぐ）して機嫌を起こすことが度々あった。発生時は布団に寝すが、動きが活発で歌ったりごろごろ転がったり全く寝る気配がなく、突然立ち上がったりしていた	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	配慮が必要な児の為1対1でつき、午睡時間中当該児のみ寝付けず、機な寝がある と機嫌を起し床に自ら頭をぶっつけたり、自分の胸をかんだりつねったりするのその行為を止めた り、立ち上がらないようにするように、気持ちが落ち着くように促したりトンとしたりしていた	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	他児9名の午睡の見守りを、当該児と担当職員で動きをのばして間に合う距離ではなかった。	入園当初は全く午睡しなかった。保護者と相談しながら本児が入眠しやすい環境を整えてきた。情緒面が不安定な時は布周り歩ってきから寝ることもあったため、事故当日も当該児の動きを少し見守ってしまった。	落ち着きの ない日は場所を他児の睡眠を邪魔しない位置で尚且つ壁から離し、寝付けない時は布団の上に立たないように、絵本や静かに遊べる玩具で危険行動に繋がらないようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8461	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11						11					1	6歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕橈骨・尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		要因が考えられたかった改善策なためのし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年		1. 集団活動中・見あ守り	1日通して雨天だったため、午後はホールで動かされたとこしかし時間が身体をしたし、その時点で前回の骨折が完治まだしていること、行動がこの点に注意なことが必要とかっていれば、体を動かれば、参加活動は参加を見合わせたと思われる。	保護者からの報告がなかったとは、保育園側からの確認は必要だった。今後は怪我や病気のあとは、治療や治癒の経過を完治まで完治迫うことを必須とする。	1. いつもどおりの様子であった	朝の登園は、母より「変ありませんで元気と伝えられ、日中の様子も普段と何も変わりなかった。	3. 対象児の離れたところで対象児をていた	ホールで、子ども11人を見られるように、全体の動きを全体に立っていた。		ホールには担当者しかいなかった。	担当者以外は不在であった		前回の骨折がまだ完治していないこと、行動に注意必要とかっていれば、体を動かすことは参加をさせていたと思われる。	保護者からの報告がなかったとは、保育園側からの要確認は必要だった。今後は怪我や病気のあとは、治療や治癒の経過を完治まで完治迫うことを必須とする。	
8462	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	2. 1歳児クラス	10									3		3	2歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	保育者間の掛け合いや、カートから離れたルールが、徹底できていなかった	今回の事故を受けて、ストップ歩行をすべ、ともに改めてルールの徹底を行う。カートに子どもが乗ったら必ず大人一人つ目を離さない。	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1歳児がカートに乗ると胸の位置にカートの手がが持ち手(ふち)があり、足を上げると足が届く高さ。	1. 集団活動中・見あ守り	こだわりが強い年齢であり、カートに乗ると乗ら歩くなり、歩かない途中でこだわりが始まると、がでその場で立ちまりする。	カートに子どもが乗っている時は、必ず保育者は離れず見守ること。手つなぎで歩く際は、保育者は1人に対し子ども(2名(成長発達に合わせて人数を調整する)カートを複数台使用する際は、1人は見守り、子どもの急な変化に対応できるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	●月入園落ちまだ着かなかなかなか

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8466	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス						17	4			2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		職員の立など都度検討し保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		園庭はフットであり、安全面問題ない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体操するなど準備運動を行い、活動を始めている。引き続き遊ぶ前には、準備運動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子であった。家庭からも特に連絡はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と共に準備運動を行い、その場から動きながら、走り出す対象児や他の園児を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	準備運動やフープの場所を見渡すことができ、園児たちを見守った。		遊び始める際には、周囲の様子に目を意識を向けるように声掛けをしていく。	
8467	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス		17								5	5	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂傷/4週間後歯の神経が損傷が見られた	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.集団活動中・見守りあり	歩行のスピードが合っていたのではないか。	子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.いつもどおりの様子であった	手をつないで歩く際、保育者との間にいた他の児がいたことで、本児がこけてしまった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	2人1組のペアを2組手をつないで歩いていた。対象児をみて転倒する、すぐに手が出ない状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児とつないでいた。	少し坂になっていた為つまずきやすくなっていた。	事前に「坂があるよ」やや段差があるを時には声掛け注意できるようにする。	
8468	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス		14								1	1	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上乳前歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		その活動を行う時どもに、子ども一人一人の対して動かすペースが適切かどうか、体をすスかどうかを考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		常に子どもたちが立ち場所にすることが、見守りやすくするため。	3.個人活動中・見守りあり	室内で走った。	声掛けたり見守りだけでなく、落ち着く座ったりするような遊びに誘う。また、危険な行動や激しい遊び方が見られた際はすぐに声を掛け、事故、怪我を防いでいく。	1.いつもどおりの様子であった	本児を含めた3名でマグフォーマを戦いごっこをした。本児がひとりだけ、何もないところで滑り転倒。	4.対象児の見ていなかった	職員は本児と離れた所で5名と制作を行っていた。事故前にも約事前に約束事を確認したり走らないよう声を掛けていたが、事故の瞬間は本児の様子を見ていなかった。※ビデオカメラにて事故状況を確認。	他の場所にいてその場にいなかった	職員は1名体制であった。	床のすり減りや乾燥により、転倒した場所の床が少し滑りやすくなっていた。	昼やタ方の清掃の際等に床の滑りやすさも確認し、点検を怠らない、滑りやすい箇所があれば、床にテープで×を貼り、注意できるようにする。	
8469	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成		15								3	3	2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第三指末節骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	園児の発達を考慮して、個人の上でり事故を起こしたのを想定し安全管理ができていなかった。	発達による行動パターン再度確認し、個々に応じた安全指導を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	次に排泄を済ませておくため、テラス遊びと並行して合同保育室内のトイレを使用した。上、園児の往来を想定していなかった扉（指挟み防止カバー）を開閉し、園児の往来をさせていた。	当該の扉は施錠し、園児の往来をさせないこと。	1.集団活動中・見守りあり	保育士3名のうち、扉付近に1名いたものの、扉開閉のためにしっかりいてのみ、扉閉閉の安全のためにしっかりいてわけでしたはなかった。	扉の開閉が伴う際は必ず職員が付き、その度必ず施錠する。	1.いつもどおりの様子であった	排泄誘導待ちの順番待ちをしていた。	4.対象児を見ていなかった	近くに職員がおり、全体を見ていたが、近くに職員が離れて遊びに誘っていかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄に入っている段階ドアが閉まっていたが、ドアにもかかわらず、ドアが離れて遊びに誘っていかけていた。	保育内容や環境など慢性的に過ご疑視することにして問題がなかった。	職員同士、日々のミーティングで危険箇所や流れを共有していく。	
8470	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス		20								3	1	5歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	職員配置はお互いの位置を確認しながらできていた。公園内の危険物チェックは、掃管時にマニュアル通り行った。事故発生後の対応において、特定保育者のみの対応で対応を行っていたため、看護師や他保育者の見解を含わせて判断することが重要であった。早期に、担当の対応に繋がったと考えられる。また施設や触診をする際、子ども一の関き取りの仕方で「大丈夫？」と聞いていたため子どもの返答も「大丈夫」と応答的なものになっていた。その後の判断材料として有効なものを引き出すための声掛け、視診、触診方法についての理解やスキルが不足していたようにも考えられる。	診の触際、もが動かすか、自身行ら触れるか確認する。他職員と話し合い、直し点や共有事項を具体的に確認する	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ぶつかる事ごと予測ができれば、事前にすぐ止めたらスクを減らせる。	日々の活動や遊び前に子ども方や遊び前に子ども遊びを起こすにと遊びるつにの話をする。	1.集団活動中・見守りあり	遊びを行う前に子どもと注意喚起を行う意識の注意喚起を行う意識の注意喚起をすることで、事故発生のリスクを減らすことを考える。	起こる事故がを前に、事前に、こりの途中に、危険を察しを確認し、行動を止めて落ち着かせる。	1.いつもどおりの様子であった	後方からくるものを見ながら追って、前方を確認しており方を確認していた。	2.対象児の近で対象児見た	後方からきたぶつかることを防ぐことができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていた故は職員が本確認していない。	事故発生後のアプローチへの判断を確認し、安全を怠らず、適切にフローを作成することができていなかった。	職員間で怪我をした際の子どもへの聞き取り方法を確認し、共有する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面				ハード面						環境面				人的面									
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8471	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16		7	9					4	4	2歳	2.女児	1,2歳児ｸﾗｽ合同で一時保育室にて遊ぶ.部屋を柵でｺｰﾅｰに区切りそれぞれのｺｰﾅｰに保育士が分かれて過ごす。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第1中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	職員配置ではあった前の気付の児童に気付き取られる当該児童の転倒を瞬間見逃してしまった。	子ども、保育士の人数、用具意する合わせて、全体が見やすい環境設定する。保育士一人ひとりが常に全体を見ようと意識していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床が固い為、マットを敷いているが、ではない。	何もないこと予測しマットなどを用意して必要によると。	1.集団活動中・見守り	ゆったりすごすと時間ではあったが、中には走りしてしまう児童おり、つかってしまうこともある。	仕切られた空間では危険と感じることを保育者が意識し、子どもたちが激しくならないような遊びや環境を設定する。	1.いつもお様子であった	当該児童は柵を通り抜けソフトブロックのコーナーへ移動してきた時に転倒した。ソフトブロックのコーナーには2名の保育士がいたが、それぞれ別の児童を見ていた。	4.対象の児童は見ていなかった	それぞれのコーナーには保育士がついていたが、それぞれ全体を見ていた。当該転倒したコーナーの保育士は移動してきたことに気付いていなかった。	2.担当者・対象児の動きは見なかった	コーナーは自由に行き来できるため、当該児童の出入りまでの動きは見ていなかった。	子どもに背を向けないよう意識はしていたものの、高く積み上げたソフトブロックを支えた当該児童の動きを見落とした。	要因、分析を職員全員で確認し、危険予測をしっかりと子どもたちの動きに合わせた死角をつくらない配慮をしていく。	
8472	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	0	11	8	0		2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	職員配置をしていたが基準を満たしていたと余裕を持って裕を持ってるようにする。	園庭での遊び方の遊び方が正しいか子どもの人数はどうなのか検討をする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特にわはない園庭というところ斜面がにくいバランスが取りにくい。	段差や滑やすいが際に段差やはすぐに修繕を行う。	1.集団活動中・見守り	斜面のある園庭で鬼ごっこをする際は園庭の人数が少ない時フラットな行場所で遊ぶ場所を決める。	鬼ごっこをする際は園庭の人数が少ない時フラットな行場所で遊ぶ場所を決める。	1.いつもお様子であった	いつもと変わらず元気に過ごした。	4.対象の児童は見ていなかった	それぞれ場所の持ち前の園児を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	1名は見晴らし台全体の見ていてもう加晴から見ていた。1名は加配児が砂場で遊んでいたため砂場をみていた。	職員はいたが配置に偏りがあった。	戸外遊び中,全体が見えにくい職員配置を見直していく。	
8473	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6			2	3	1				2	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯のエナメル質の欠け	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修は行っているが、園として危険箇所のチェックや予想される危険行動の分析等をしていなかった。	園内のヒヤリハット地図を作成し危険箇所を共有し改善していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	保育室内の机やロッカーの配置(子どもが走ってしまう環境)	出口まで道線や視部屋の机を妨げる壁があったので部屋切り机を配置して安全な環境になる。	3.個人活動中・見守り	他児が降園するまで走ってロビーを見ようと出入り口まで走っていたことが原因	室内では走らないよう注意喚起を徹底する。	1.いつもお様子であった	夕方の降園までの自由遊びの時間は、いつも他児と一緒におままごとやブロック遊びをして遊ぶんです。怪我も当日もいつもと変りなくおままごとをしていた。	4.対象の児童は見ていなかった	壁側のロッカー前付近のテーブルを置いているもたちの見守りをしていて対象児の対象は把握しなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	当番児が降園し、いつも該当児がお見送りで来る園当児がおまごとコーナーからの出入り口から見守っていた。	他児が降園し、いつも該当児がお見送りで来る園当児がおまごとコーナーから来る出入り口から見守っていた。	2人の職員の立ち位置や把握子どもの担当を決めていなかった。	夕方の自由遊びの時間は、職員が一人降園対応をするのでもう一人の職員が立ち位置を考えて全体をみるようにする。	
8474	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	2	9	8						7	3歳	2.女児	朝のおやつが終わり、トイルの順番を待っていた	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	末節骨折	4.玩具・遊具等施設・安全の備にもの全不備によるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育士が排泄して童いる児につ方いていた為、トイレ待ちの距離があった本児と離れた。	保育士の立ち位置、もの1人ひとりの動きを把握する。チーム体で見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	ドアには角の取っ手を全に配慮したが、どもが問があった。	トイレのドアはドアでくの空間ドアに出ないように、指はさみ防止を設置。子どもが出る時間は、職員をトイレを考慮する。	1.集団活動中・見守り	2歳児8名手洗い終わり玄関で靴下などを支度Bトイレ待ちをしていた。	担当保育から時は声を掛けて、相手の返事を待ってから行動する。声に出して伝えるなど、声掛けを習慣づける。	1.いつもお様子であった	トイレ待ちをする子どもたちを集めおしくりを台に乗ってぴょんぴょんねていた。	2.対象児の近で対象児見ていた	玄関に保育士1人、子どもがトイレに保育士1人、玄関に保育士1人、子どもがトイレにいた。保育士にトイレに「行って」と声掛けをトイレに入る。トイレ待ちの対応していた保育士は本時と事は本時と事が近い事は見ていたが、指が近くにある事は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トイレに他の子どもを行く子ども見た。	子どもがトイレを待機する場所が職員トイレと近かった。	トイレ待ちの場所を明確出来に、誘導方法について配慮する。	
8475	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	8	0	0	1	2	0	5			2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左手尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年重大事故が発生した場合はその都度	1.基準以上配置	特になし	マニュアルの職員への周知を徹底し、事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	定期点検、使用前の確認を今後も継続して行う。	1.集団活動中・見守り	特になし	今回の事故を職員で共有し、状況に応じた対応が取れるよう職員へ指導する。	1.いつもお様子であった	普段と変わりはなかった。	2.対象児の近で対象児見ていた	職員は鬼ごっこをしている子を見守った。園児が逃げ回るので、見守りの職員の距離とはまちであった。園児とのとは5m弱で、転倒を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2，3歳あべ台の児が遊んでいる遊ばたちの守り助をしていた為。	特になし	職員不足のために事故が発生することのないよう、適切な人員配置に努めていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面					ハード面								環境面				人的面									
									異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事																																							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8476	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18		2	5	3	3	5			3	5歳	1.男児	1.遊具から転落・落下	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.なし	3.未実施	1.基準以上配置	事故の現場である木が茂まれており、角度によって子が見えづらくなっている。	木に同時に登れる人数については、子どもたちに検討を行い、安全に遊ぶことの出来る方法を身につけていけるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	事故の現場である木が茂まれており、角度によって子が見えづらくなっている。	担当の職員が見守るようにするのはもちろんの職員と声合わせ、死角のもできるだけ職員に掛いにならぬように意識していく。	1.集団活動中・見あり守り	すでに他児二名は登っており、木に登れるには感児が該当児が該当児は感じられる狭いと感じられる状態であった。	木に同時に登れる人数については、子どもたちに検討を行い、安全に遊ぶことの出来る方法を身につけていけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から遊び木登り遊びは行っており、対象児はこの遊び方に慣れていた。	3.対象児から離れたところで対象児でいた	現場の近くに他児がいたが、事故発生時は用具を取るためにの場から離れていた。現場の近くの他児クラスの職員の離れたことに気づいて最中に向かいるであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別クラスのお担任がお子ども、事故が発生する直前までは該当児も視界に入れるようにしていた。しかし、担当の子どもと移動を共にした際にその場を離れ、該当児も視界から外れてしまった。	声掛けが少なく、事故現場の近くに職員がいない時間が出来てしまった。	園庭の要注意箇所について、改めて職員が確認を行うようにし、危険予測の共有を園全体で行えるようにしていく。それを基に現場でのクラス単位を超えた注意の呼びかけ、移動する際のスタッフ間での声掛けを徹底していく。	
8477	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									3	2	5歳	1.男児	天気が良く空気が乾燥していた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	土が乾いたため、勢いよく走ることで滑ってしまった	水をまくと土を湿らせる	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	小石の多いまったので、まぐくの可能性があった。	危険がないか都度、点検にを丁寧にしていく。	1.集団活動中・見あり守り	土が乾燥し、滑りやすかった。	水を撒き滑りいすき、にくいうる。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び中で草の花を見ようと走り出した時に転倒する。	3.対象から離れたところで対象児でいた	職員配置位置から対象児の位置が見えるが、死角を入れた手を伸べるような距離ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	対象児以外なので、対象児は見ていたが、対象ことはなかった。	砂利等で足元が滑りやすいということを把握していれば、事前に子どもたちに事前いることを伝えられた。	砂利等で足元が滑りや すいことを5歳児には理解できるので、子どもたちに事前に伝える。	
8478	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	109	5	18	19	22	23	22	0		21	21	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	無し	どの年齢の職員も記憶ておくよう繰り返しに参加したり、重大事故が起こる前にヒヤリハットを出し合い、意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に無し	設備の問題は無いと考える。改善点無し。	1.集団活動中・見あり守り	活動場所を広くとっていたが、その分参加人数が多くなってしまった。	人数の分散を図る。また児童にも遊び方の再確認をしたり、再確認をすることで十分に走れる環境を常に確保する。	1.いつもどおりの様子であった	特に無し	2.対象至対児の近で象児見た	児童同士鬼でのごっこは危険と判断したため、対象を保育士対児童にし、目わかりやすいにし標りていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児の動き守りに参加し見ていた。	本児も一緒に転倒した児も大きく、転倒した際重みが右腕にかかってしまったのはないかと考えられる。	人数の分散させる。また児童にも遊び方の再確認をするとともに十分に走れる環境を常に確保する。	
8479	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6～7)回/年	2.基準配置	特になし	園内の事故報告で故善策も含め全体周知をした。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	土の園庭部凹凸ま分につい ての転倒	●月園庭修メのンテナンス	1.集団活動中・見あり守り	園庭の凹に凸部分した躓いため	園庭の改修メンテナンス	1.いつもどおりの様子であった	遊びも終わりに近づいたので、友達がくのに走っていだくのに気急いだため	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	保育士Bが当該児がピロティにて走くるの目視している	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士Aはクラスに戻るために、全体目きでだ時を見ていた。全体掛けて声掛けをして、全体視はでいたので転んの様子を発見しる。	園庭の凹凸は埋まって砂も見た目立たないが、走った児にとはなが原因となった	園庭の改修メンテナンス	
8480	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	17									3	3	4歳	2.女児	おしろい花の種を集めた後、次の場所に移動しようと立ち上がり方向転換をした時に、友達の足につまずいて転倒。転倒した場所は、クッション材が敷き詰めてある通路だった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	脚らせん骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6,～7)回/年	1.基準以上配置	当該児が上がとし他につ立ろうて、の足ずいてまずいて転倒し。転倒したもクション材が弾き詰められた通路で、職員も傍にいたが転倒を予期することは難しかった。	事故報告書（保育園の様式）使用申し送り周知して職員を した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2年ごと)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	クッション材を使用した場所での転倒	クッション材を使用した場所で通路で立ったの為、改善特にありません。	1.集団活動中・見あり守り	おしろい花を観察し花をつんで遊んでいる保育中、周育り子どもたちもいるわけではなく、骨折事故がおこることを予期することは難しかった。	特になし	1.いつもどおりの様子であった	おしろいつん花を摘む移動しようと立ち上がり向きを変えた時	2.対象至対象児の近で象児見た	保育士Bがおしろい花を子どもと一つん緒にいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	要フォロー児の動きに合わせて動いた	落ちおいしろ着おいつみ花を摘んでいる子どもたちの傍にいた保育士が、当該児が上がろうとして転倒をすると予期することはなかった。	特になし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面					人的面										
									人数	異年齢構成の場合の内訳																																												
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																									死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか					
8481	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	0	0	0	9	8		3	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷			6.その他	5.下肢(足・足指)	右足くるぶし下の骨にひび	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	3.未実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	職員ひとりひとりが、同じ対処ができるようにDVD研修にして良かったと考えられます。	定期的に視聴していくことで、事故防止を心がけていきます。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)/年	点検チェックで気づいた点を職員に提起することが必要と考えます。	また、点検チェックでも改善ことで改善した昼礼でも全体把握しています。	3.個人活動中・見守り	園庭遊び前、子ども達に注意する点を確認しておくことも考えられます。	実際に起きた事故について子ども達に伝えて、注意に子どもに、換気していきます。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わった様子はなかった。	2.対象至児の近象児を見ていた	人数も10名以下と多く、鉄棒やジャングルム等の使用もなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は保護者対応その為、その場を離れていた。1名は4歳児を主にみていた。	午前中散歩で、50～60cmの高さからのジャンプを数回楽しんだ。	少し体をほぐしておくという意味から、今後遊びの前の準備運動や体操等が必要と考える。	
8482	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	10								1	1	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	事故予防の研修等を実施している。	研修等の実施があり、改善点なし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	施設、遊具、玩具は適切に点検している。(園庭は人工芝が敷き詰めており、濡れている状態はなかった。)	施設・遊具・玩具に破損による怪我はないではので、改善点なし。	1.集団活動中・見守り	園庭の広さは、10名ごっこをするのには適当で人工芝をあり、人敷いている。	今後も継続して環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく、他児と一緒にごっこ遊び鬼ごっこに参加していた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこしていて見えなくなっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、保育士1名であった為、他の対象児の動きは見ていない。	本園庭で同時様子をすることがあり、特にすると見守っていた。鬼ごっこがあった為、児童が本園庭で同動集ごっこにできる方法を考える。鬼中でできるような遊びの前の準備運動や体操等が必要と考える。鬼仕も達していく。	
8483	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21								2	2	5歳	1.男児	医師・保護者によると、当該児は、鎖骨の骨折は2～3回目とのことであった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士衝突よるのにもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	コロナ禍の影響があり、職員配置がギリギリの日々、なかなか外部の研修に出せない状況がある。	過去の研修報告等を再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	園庭の構造上、全を見渡せる場合がある。	職員と子ども位を再度確認す	1.集団活動中・見守り	ごっこにするは充分なお広さ、ごっこで遊ぶ子ども達が、ごっこに参加せず砂で遊ぶ子の動線が入り混じていた。	園庭での「鬼ごっこ」(設定保育以外)の禁止	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこには参加せず、立ち止まっていた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	子どもの多い場所に移動し全体を見ていたが、すべて及び円台付近裏に子どもが多く、台の側にがある為、瞬時に事故の事故を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり下とに見ていた。	台中心にすべり中心ていた。	事故起きた場所は、台の危険であるより険と判断したが、ためどちらに行っていた。	可能であれば、保育補助等の配置を行う。	
8484	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	38	1	3	6	9	9	10		12	10	5歳	2.女児	登園後、朝の支度を子ども達が行っているが、右手で引き出しをしまう際に左手小指も一緒にしまってしまった。左手の小指に赤みがあり、7/29を行って様子を見たが「痛くない」と午前の活動(園庭での異年齢)に参加をした。本人からのその後も痛みの申告はなかったが、念のために整形外科を受診することにした。	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(「でいい分類ば、骨折かな」という判断でした。)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置	子ども達に、引きしまい方について、4, 5歳のクラスは改めて見せながら、お話をする機会がなかった。朝の支度は、3～4歳児職中心に見守る体制にていた。	年齢に関係なく、職員の見守りを行う。朝の支度方法についても、確認と指導をその都度、行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	5歳児には、無理のない引き出しのき作り角は丸角になっている。手をきちん手とに取っ手とに添えれば、押す際に空いている手なを添えるように声を掛ける。	引き出し不具合がないか、安全のか、安全点検を行う	7.その他	登園した順に朝の支度を行っていた。	朝の支度(引きしの出しまい方)を一緒に見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	保護者確認の際も「体調は、変わらないです」との報告を受けていた。	3.対象から離れたところで対象児を見ていた	幼児クラスの合同の時間の全体のための子ども達の動きが見守れるような立ち位置にいた(2名)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋の仕切りの部分を開放して、乳幼児の様子が分かる状態であったが、登園児の様子が、登園している子ども達を見守っていた。	職員の配置人数について問題はなかったが、個人的な見守りは行わなかった。	子ども達の得意不得意を共有理解を共有し、見守りの配慮を行う。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事								事故誘因	ソフト面							ハード面							環境面				人的面												
			施設・事業所種別	認可・認可外	月	時間帯	発生場所	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8485	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13							3	3	3歳	2. 女児	土曜日保育の日は鼻水が多く出ていたが、当日は鼻水に加えて咳も見られた。事故前に園庭で活動していたが、転倒する姿があった。	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	顔面打撲・顔面挫滅創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	3ヶ月に1回、安全チェックテストと危険箇所記入シートを各クラスに配布し、担任がチェックしている。クラス会議の中で園舎の危険箇所を担任同士、日常の保育の中で情報や気付いた事を確認し合っているが、業務が多忙で時間が取れて、複数人の目で確かめながらシートに記入するという事ができていなかった。今回事故の原因となった便器当たりを止めるためのゴムが取れていた事は、無意識としてしまっていた事と、担任の危険予測ができていなかった可能性があると考えられる。	安全な保育環境を整備は、保育を行う上で基本である。中の基本である。事を職員に意識付けを改め識付け、1回は1回程度、必ず担任同士で実際に目で見、手で触れて保育環境の安全性を確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(296)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(296)回/年	園舎の老朽化に伴い、置の設備の劣化が著しい、その為に、今回原因となった便器当たりをめるためのゴムキャップが取れていたと考えられる。また、2歳児クラスのトイレは毎日掃除をしていたが、便器当たりをめるキャップが取れていたのか把握できていなかった。ゴムキャップが取れている事が異臭化しており、危険な事に気付かずに過ごしていたと考えられる。	事故当日、園内のトイレを点検し、便器当たりをめるのゴムキャップが取れている物に関しては、幼児様子のゴム製開キャップの予備を取りつけ、同じ事故が起こらないように対処した。また、老朽化に伴う園内の劣化している箇分が多い為、各クラス担任は再度危険箇所を点検して修繕すると共に、主任と看護師で再点検する事でダブルチェックを行い、安全に保育が出来る環境を整えている。	1. 集団活動中・見守りあり	本児はトイレに子どもの様子が保育室から見えるはずの範囲であったが、トイレの環境が危険であるという認識がなかった為、トイレに必ず付き添うという考えはなかった。	今回本児が使用したもう片方の便器の水洗レバーは、老朽化の為、使えなければ押す事が難しい為、便器当たりを止めるためのゴムが劣化されたものであった。子どもがトイレに1人になる事が無いように必ず職員が付き添う事と人員配置は適度であった。	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	鼻水と咳が見られていた。また、園庭活動時、2回ほど転倒しいる姿があった。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもをしたトイレの方を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任2人は園庭で他の子どもを見ていた。	トイレが老朽化している為、子どもがトイレを使用する際は、必ず職員が付くようにする。また、園舎の老朽化をふまえ、日常の中で保育の危険予測を防止できるように職員の意識付けをしていく。	人員配置は適度であったと考えている。	
8486	令和6年3月4日	1. 認可	7. 小規模保育事業		10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	8							2	2	3歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	現地は斜なくりもくってやすと上つて知は滑り雨上で落ふいる場所の認ふかりがふかりがりち葉がもち状態で、転んでも怪我に至る予測までのはなかった。	マニュアルを再検討する(タイムなとヤリ活用、慣れとヤットの大丈夫からの脱加、危険箇所や自然環境下における活動場所の情報収集と共有による活動場所の選定、状況に応じた保育士の立ち位置、活動や目的に応じた職員配置や協力支援、予測しながらの保育の実施等をマニュアルに追記し、周知徹底する。)	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	野外での転倒は、大きなケガなる事がある。	野外での遊びは、転倒等危常険性があり、通常の保育活動と異なることを再確認し、現状況の把握地を、その情報を園全体で共有する。	1. 集団活動中・見守りあり	園活動中、子どもの行動をは予測することは、難しく、子どもが自身で危険知ることも難しい。	園外活動を通して、転びやすい、つまずきやすい、足が埋まりやすい。滑りやすい地等の危険性の現地箇所に認識させる。また、坂であっても、蛾がたり、車がいたり、上り注意喚起し園外活動にあたる。	1. いつもどおりの様子であった	坂道を駆け上がり保育士声掛けに引き返しし転倒する。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	落ち葉がったり5名の子ども達がしんくるの危険い様見守った。本この保育士の前を通過し6〜7mほど坂道上を駆け上がり途中で転倒する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	坂道の上下り に興味を持ったた、他3名りの見守り を行っていた。	転倒しどの行もの動予測はしいたもの、坂を走下る為転倒時の負荷がかり骨折に至ってしまった。	坂道途中や上部に保育士がおらず、全体や子どもたちの行動を考慮したバランスの良い立ち位置、見守り位置を常に意識する。本クラスには、こだわり等が見られる児童もおり目的、活動に応じた職員配置や園長等の支援を求めること。	
8487	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34			10	12	12		6	6	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	唇と歯茎の炎症、右上前歯のぐらつき	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	保育士の立ち位置が重なっていたかった か。	保育士のお互いの立ち位置、状況の把握する。	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭内の狭く袋小路の場所であった。ストライダーのハンドルが曲がったうがかった要因と考える。	乗り物の検点の定期的実施。園庭内の袋小路の場所には乗り物り入りできうにした。	3. 個人活動中・見守りあり	園児や保護者の出多く、職員が入り、園に落ちない共に着かない時間帯であった。	保護者対応を行う職員と、保育に入る職員間の声掛けや連携をとっていく。	1. いつもどおりの様子であった	登園から降園までは児童もおりであった。	4. 対象の動き児を見ていなかった	担任は他児に関わっていたため、対応が難しかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	そばにいた保育士が転倒を目撃したが、手を出せるが、距離ではなく、間に合わなかった。	特になし	保護者対応を行う職員間や保育に入る職員の声掛けをとっていく。	
8488	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所		9	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	31	0	0	0	10	11	10	6	5	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折(ひび)	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	1. 基準以上配置	慣れ親しんでいる遊具で、緩んでまったこと も考えられる。	ものの子どもの行動に対できるこ、職ひとり人が子と「へかもしれない」というもつにしたい。	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	鉄棒や地面が水溜ではいるはたが、離しまうを避ける油断しまった。	その都度、遊具使い方、また危険を避ようにも伝えるこ。	1. 集団活動中・見守りあり	朝の時間帯、受け入れもあるので、気持ちがそそ取りしまったこと も考られ取りしこえる。	職員間で合話しっかり、役割分担を行く。また、排せつ付きの添いなど、急にその場を離れるなどの対応も再確認する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	見守りをしていたが、転落しすることを予測できなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の固定遊具で見ていた。職員が遊ぶ子どもに気を取られ、意識が薄かった。	園庭で遊ぶ際は、大型の遊具(複合遊具や棒、鉄んなど)での事故を防ぐ為、子どもたちに注意喚起をすべきであった。	状況に応じて、固定遊具など職員がつけた場合に、職員が声をかけ、場合に応じ職員配置や園長等の支援をとっていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面													
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者の内訳											マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置			施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き						
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策			理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																															
8489	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27			8	11	8				7	7	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、ないに片側で引っ絡まないように片側で張る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、ないに片側で引っ絡まないように片側で張る	1.集団活動中・見守り	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、ないに片側で引っ絡まないように片側で張る	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	翌日が運動会であり、より真剣に、意気込んで活動に取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴールテープを持ち、ゴールで待機していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	待機児童を見守ったり、コース上見守りしつつ、担当者や対象児の動きを見ていたが、至近距離ではない	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、絡まないように片側で引っ張る	
8490	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	竹馬が得意あるため、他の子より高く設定していた。竹馬さえ子たちが倒れなかった。	竹馬の下からの高さを決め、それ以上は上げないルーを作り、職員会議等で周知徹底する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	施設や遊具等の不備等なく、また施設の関係性はないため、ハード面での改善策はなし	1.集団活動中・見守り	特記事項なし	保育の関係性はないため、環境面での改善策はなし	1.いつもどおりの子であった	一旦竹馬をしまい、集合とよびかけすぐに集合せず、竹馬を続けていた	4.対象児の動きを見ていなかった	担当者が年長クラスを見ていたため、対象児からは離れていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園長及び主任がいたが、別な作業をしていた	特記事項なし	クラス全体の見守りであり、個別に手を差し伸べる等の動きは難しいため、人的面での改善策はなし	
8491	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			23	17	20				4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具についたからとて、子どもが遊具に飛び乗ってしまった。	遊具に職員がついて始められるように約束をしてから遊ぶ。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	固定遊具の使い方が不適切だった。	適切な使方を子どもにも知らせ、落ち着いて取り組ませるよう声掛けする。	3.個人活動中・見守り	鉄棒についていたが、離れたところだったので、間にあわなかった。	所定の位置に職員がついてから遊びが始めるようにする。	1.いつもどおりの子であった	1人で自分の好きな遊びをしていた。階段を上ったり下りしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子のお世話をしていて、対象児の見守りや対応ができなかった。場所を離れる時に他の職員に言葉掛けがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ周りの子ども対応に追われ、対象児に気付かなかった。	職員間の連携がうまくとれていなかった。言出状況伝えず、子どもに必ず声を掛けるが、幼児の場合は子どもから言いに来てもらうように伝える。また、痛いところや怪我をしたところはないか、子ども全体に問うようにする。	固定遊具から職員が離れる時には子どもに今は使えないと伝える。	
8492	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28	0	0	0	14	0	14	0		2	2	6歳	2.女児	元気に松林を走っていた	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●月●日捻挫、●月●日別の病院に再受診し剥離骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特記事項なし	本児が自分で足を捻った為、改善策は特になし	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守り	松林にて遊んでいる際、自分で足を捻った	遊び始め前に準備運動をし、ほぐしからよる	1.いつもどおりの様子であった	松林で遊ぶ際、他児と遊んでいて足をひねった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	松林や子ども全体を見渡せる位置で、子どもを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	松林や子ども全体を見渡せる位置で、子どもを見ていた。	子ども全体を見渡せる位置で、子どもが足を捻った際、すぐに付け、本児も本人が遊びに続けており、公園を出る際に痛みを訴えに来た。	保育士が見てないところで転んだり、痛みを忘れて夢中で遊ぶ事もあるため、保育士が異変に気づいた時は、子どもに必ず声を掛けるが、幼児の場合は子どもから言いに来てもらうように伝える。また、痛いところや怪我をしたところはないか、子ども全体に問うようにする。	
8493	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11	4	7		0			保護者		11	10	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自ら転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	初めての形行事の形式。	待機時間帯の短縮、待機時間時の過ごし方の工夫。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	あそび慣れない部屋を使用した。	普段から活用し、特に行事場前には慣れておく。	1.集団活動中・見守り	保護者にて任せてしまった。	待機時間プログラム実施。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の楽しみ、両時間を親がいる、他保護者がいると事で多少の興奮状態であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	同じ室内には、1名の職員が1名の職員が誘導全体を見る等の役割はあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内には、11名中11名の職員が誘導・全体を見る等の役割はあった。	保護者元に戻した後と考えられる、全体が行に気持ち行っていた。	待機の親子の過ごし方を入れる。集まってわらべうたあそび等。	
8494	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									7	6	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	子どもの体の使い方についての把握不足	研修の際に個々の子どもに結び付け、リスクを把握する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	跳び箱、マットのずれについて、一人一人跳んだあとの確認に不足部分があった	一人一人が跳んだあとの、跳び箱、マットのずれについて確認を行う	3.個人活動中・見守り	職員は飛びに箱横についていたが、事故への予測が出来ていなかった	子ども一人一人に、得いり起こるリスクを想定して見守る	1.いつもどおりの様子であった	保育参観日であり、少し興奮した様子であった	2.対象児の近で対象児を見ていた	跳び箱の横で対象児がすぐ対象児を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	音響担当、他の職員は至近距離にいた。	他の介助職員は至近距離にお子様の動きを見ていた。	運動を行う前の事前の運動の不足と、子どもの力量に合わせた跳び箱の段数の提供が出来ていなかった	跳び箱を跳ぶ段数について、個々の子どもの力の入れ具合や勢いなどを見極め介助する。参観当日の子どもの精神状態に考慮し、動きを予測したうえで介助する	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面							環境面			人的面								
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
8499	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	17								3	3	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上AB外傷性歯牙脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不期定に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	夕方の時間帯は、気持ちは高揚しているのに疲れからか体の動きがついていかないといったアンバランスが起こることを想定しておく必要があった。	16：00以降の活動は、室内で机上遊びや興味のある玩具、絵本の読み聞かせ等で落ち着いせに過ごしてるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	なし	遊具や玩具を使っでで事故ではなかったため、記載なし。	1. 集団活動中・見守り	疲れからか、興奮気味で活発に走っていた。夕方の時間帯に加え短時間のお迎えが始まり、お迎えが近いことで気持ちが高揚したと推測する。	疲れてくる時間のためのリスクが高い時間帯の園庭遊びを室内でのごし方を検討して過ごす。	1. いつもどおりの様子であった	特に体調面、精神面の不調の様子はなく元気なく遊んだ。	2. 対象至対象児を見ていた	対象児も一緒に鬼ごっこを含め、一緒ごっこしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人はお迎えの保護者対応。一人は他の園児と関わっており見ていなかった。	保育者は3人体制であったが、一人はお迎えの保護者対応。一人は遊び対応で、鬼ごっこの配慮が十分でなかった。	1人の保育者は、全体を見て子ども一人の動きを確認しながら配慮しているようにする。	
8500	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	5								1	1	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	事故予防の研修等を実施している。	研修等の実施があり、改善点なし。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	施設、遊具、玩具には適切て点検している。	施設・遊具・玩具に損による怪我ではないので、改善点なし。	1. 集団活動中・見守り	それぞれのコーナーで園遊び、床(フローリング)に何も落ちていない場所で、自分の足に引っ掛かっての転倒だった。	今後も継続して保育環境を整えていきます。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌よく、他児ごとくままごとをした。	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	降園したお児がお、保育室に5人の園児になったと穏と自ろころやかに自分の好きな遊びをしていたため、全体が見える場所で子ども様子を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内には、保育士1名であった為、他の対象児の動きは見ていない。	バランスを崩し易い園児だったので、保育者は全体を全体の様子を見ていたが、個別で声掛けする事はなかった。	既に歩行がしっかりしている年齢であるが、バランスを崩し易い園児である事を考え、本児に声掛けする等の配慮をする。	
8501	令和6年3月4日	2. 認可外	11. 一時預かり事業	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	7								3	2	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯牙破損	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	一時預かり児童のためであった、歩行についての確認が足りなかった可能性がある。	マニュアル活用月毎のミーティングをしてのディで研修を行う	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	散歩時に手をつこしているが、そのためつまずいた際には手せなかった散歩はなくにしたのが出せなかった	お散歩等より、マップ、危険箇所を確認をして戸外に出て活動にかける	1. 集団活動中・守り見ある	入り口にローロが必ずなどなく、必ず段差をはスロプまたぐ段差がある。	段差の前では一旦立ち止まり、いつでも段差を離し手をゆっくりとひとりひとりとくると	1. いつもどおりの様子であった	少しせっかちはがあるが、士の話をよく聞く	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児と担当保育士の間に別の園児が手を繋いでいた。児が転倒し担当の両手がふさがっていた為、差しかった。対象者躓き手は手を伸べられなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児列の後ろを歩いていた保育士も園児も手をつで為、両手がふさがったので、転倒の際に手を伸べられなかった。	保育士1人で4名を引率していた。段差を越えることを、子供達に伝えると、子に伝える際に一呼吸おくことも注意すべきだった。対象児がオープンバイで前歯に衝撃を受けた。	段差を越える際は一呼吸おいて園児がしっかり気を向けられるよう、歩行ルートを再確認し、配慮が必要な危険箇所を職員で共有する。手を繋ぐペアの組み方や一人で担当する人数の再確認。	
8502	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	17								2	2	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	マニュアルに沿って事故発生に園長にて報告して生後すぐに報告している。看護師も確認した。	本人の事故後の様子を確認し、病院に受診すべきかの判断はないし、念のため診をするべきであった。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用前後)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	今回に関してはハード面に原因はなかったが、安全面をより高めるため保育士共有よ間できにうる。	遊具の点検をした際は、声保に出し保育者間で共有する。	1. 集団活動中・見守り	痛みを訴えたのは一時的であり、その後は特に問題なく通せるので受診は見送った。	事故後本人の様子を確認し、病院に受診の必要はないと判断したが、念のため診をするべきであった。	1. いつもどおりの様子であった	ハードルを平均台とを選べるようにしたところ、本児が平均台をやりたがっていたが、直前に行った劇遊びで遊んだ。平均台を劇中の橋として遊ぼうとした。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	平均台を実施する際は1人ずつ行い、保育者が1つ対でつくことになった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう1名の保育者はハードルを配置していた。全体的に見て五員にうまく入ることができていた。ただハードルが園児の援助が必要なため至近距離にいなかった。	本児は通常、巧技台一人でスムーズにとることができていた。平均台については、やはりこのことあるもので、保育者は平均台のところで待っていたが、この時は巧技台に際に急バランスを崩し転倒し	通常できる転倒とでも転倒する場合に倒することを加味し、巧技台のそばにいるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の内訳																				ソフト面						ハード面							環境面						人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8503	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13									3	3	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A1歯牙打撲による根尖性歯周炎	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	起こる事故の可能性の認識や、怪我の予測が出来ていなかった。園児の行動の甘さが事故に繋がってしまったと考えられる。	事故防止マニュアルを全職員が周知し、職員の危機管理能力の向上に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特にありません。	特にありません。	1.集団活動中・見守り	子どもたちが興奮気味で走る子も多くいた。	園児同士がぶつかる状態をつくらないよう、遊ばせ方や職員の動きを再確認する。	3.いつも、より活発で活動的であった(理由を記載)	周囲の子どもたちも気持ちが高ぶっていた為、対象児も活動的であった。	2.対象児の至近に対象児を見ていた	対象児と他の園児も見守りながら全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児らの動きを見ていた為、対象児にはいなかった。	「スロープを走ったら危ない」という認識はありつつも、予想以上に数名が活発に動いた為、注意の声もが不足していた。	園児がぶつかるリスクがあることを想定しつつ遊ばせ方も見直し、職員の位置を確認していく。	
8504	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	23									4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12～14)回/年	2.基準配置	職員は必ずポイントに立っていたが、それぞれと全見切れなかった。子と関わり体を	全体を見る職員配置を一人配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	本児が転倒し所に来ては花壇ではなかった。	花壇にはコンクリート部分があった危険のある場所ではない。本来遊ぶ場所ではないろ危険を行知を行い、見守れる範囲内で遊ぶようにする。	3.個人活動中・見守り	花壇が低かったため安全だと思い、職員は本児の側にはいなかった。	今までも安全な場所として遊んでいた場所だったため、安全チェックを怠ってしまったことを反省している。今まで安全だと思っていた場所でも様々な危険を想定し、チェックを行う。	1.いつもより子であった	公園内の丸形花壇が5つ並んでいるところを、跳んだりたりして遊んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が花壇で跳んでいるとは知っていた。瞬間は見ておらず、後転にうずまるに声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具についていたり、遊び入りながら見守ったり、トラブルの中に対応したり、本児のことは見ていなかった。	2人の保育士がそれぞれ個別対応をしていたため、全体から目が離れた。	個別対応を行う際には、周囲の声を保育士に声をかける。	
8505	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	片付けのため声をかけたが走ることをやめず、走っている児への対応が足りなかった。	皆で行動する時の声掛け、働きかけを全員で取り組めるようにすることを考えていく。それでも違うお子様への行動を場合は、全体への目配りを想定して	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特段なし	園児が安全に活動できるよう園庭を今後も実施する	1.集団活動中・見守り	クラスおらず、他もいになっていたため、園庭が走り広く、くったった可能性がある	事前に次の指示をお出き、片付けない子、終わった子が混在しないようにする。	3.もっと活発的であった(理由を記載)	片付けに参加せず、友だちと走っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちと一緒に片付けをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスはており、1クラスのみの活動であった	一斉の声掛けで次の内容を理解し、行動することが難しい	声掛けが伝わっていないと感じられる場合は、本人に直接伝え、理解できたかを確認する。	
8506	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				5	7	4			3	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	当該児の発達に合った高さの縄跳び高さでは高さではなかった。	低い位置から徐々に高上げ、子どもの特性をつかみ、当該児には更に低く高さを調整する。ウォーミングアップをしっかり行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	当該児の運動機能を十分把握しなかった。	遊び始め前にウォーミングアップをする。	1.いつもより子であった	縄跳び・高跳びは体が重く動きが鈍いので、足が高くに上がりにくかった。	2.対象児の至近に対象児を見ていた	当該児の番になり縄の高さを10cm程下げたが高適切なではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児で他の動きを見守っていたため、転んだ瞬間はなかった。転んだ後にかけ寄りを確認した。	子ども の要望に因われた。	子どもが“○○した”と言っても、その前に必ずウォーミングアップをする。	
8507	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	25	20	25	0		13	7	5歳	1.男児	皮膚が弱くアレルギー体質。発生時の天候は晴れ、夕方の時間帯であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭部不全骨折・右上腕骨小頭不全骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1、2)回/年	2.基準配置	なし	危機管理や保育中の事故について予見よう園内で研修を行い、全職員を意識を高めていく	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	なし	園庭や保育施設内安全点検は継続し、事故がないかどうかの検ものがとろう気を付け点検していく。	1.集団活動中・守り	地面での平坦なイヤを移動しバランスを崩したった	園庭遊びを始める前に園庭のコンディションを確認し、危険がある場合は改善してから遊びを始める。	1.いつもより子であった	園庭で担任とごっこ遊びの相談後、使用する落ち葉を拾いに行った際、気持ちが急いて平坦な場所だったが足を滑らせ転倒する。	3.対象児離れところ対象児を見ていた	本児と話した後、様子をその場から離れ、見通しの良い場所に移動体の動きを把握していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には担任のみ、その他は室内で保育していた。	夕方だったので体力が冷え、動きが緩慢になっていた	園庭で遊ぶ前は十分な準備体操を温めること、１６：３０には室内に入ることを全職員で確認	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																			ソフト面					ハード面								環境面					人的面										
			施設・事業所種別							異年齢構成の場合の内訳																																														
		認可・認可外		月	時間帯		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8508	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21			10	11			3		3	4歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折(ひび)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	事故発生の状況（時間や生活場面など）を分析し、事故が起きやすい状況への意識を高めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	数年前に伐採された樹木の切株が残っている。以前からあるものではあるが、サイズが小さいので目に入りずらい。	切株の除去を実施予定（抜けなければ、地面により位置切り、埋め直す）	1. 集団活動中・見守り	特になし	生活場面が切り替わるタイミングは、保育士のもるが、よく注意してを見守り、保育士同士の連携を図ること。	1. いつもお様子であった	もともと活発に活動するだが、当日はいつも通りの様子であった。	3. 異年齢児の場で対象児を見ていた	隣のクラス（3歳児）入室へのタイミングであり、3歳児を含め、全体把握に努めていた。	1. 担当者・発児の動きを見た（至近距離にいた）	遊具の片づけや入室の促しなが当当の児童を近くに距離にて視野に入れていた。	特になし	配置や役割分担に問題はなかったが、引き続き、クラス間の連携を図りながら、児童を見守っていく。	
8509	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	44							2		2	5歳	1. 男児	発生後事務所に連れてくる。病院と保護者に連絡、12：35病院に移送レントゲンを撮り右鎖骨骨折と診断サポーターをつけて治療母も一緒に診断を聞く●月●日再受診受診後園に連れて帰り、保育を継続祖母が早目のお迎えをしてくれる	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	活動あり、防ぎようのない怪我もあるもの。なので、怪我がお後を対処を早かこった対処をいかする事なくが大のだと職の員間で周知している	活動の中で、お後を早かする事なくが大のだと職の員間で周知している	遊ぶ時の約束ごとを子どもと再確認する	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	些細な状況から大きな怪我へと結び付くと転び方など、運動神経発達ていまでできない	保育の中で今までで以上に体育の重要性を感じる	1. いつもどおりの様子であった	他児にちょっかいをだしたりすることが、多い。トパルにはならないが、ざけ合うことが多い	2. 対象至対象児の近で対象児を見た	ドッチボールをしていて、至近で見ていた。	2. 担当者・発児の動きをていなかった	当対児のきをていなかった	他のとこ遊ん子ろでいるを見ている	子ども達が遊びの中で一瞬でも集中する場面があったら、配慮必要	遊ぶ時の約束ごとを再確認する	
8510	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50			1	23	26		3		3	6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	第5指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	園庭遊びスクのリスクについての把握不足	研修の際庭起に、園庭遊びでこり得るリスクを把握する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	フェンス付近で走る等、勢いがつくような遊びを行っていた	大型遊具やフェンス付近での走る動きを伴う遊びをしない	3. 個人活動中・見守りあり	職員が子どもに対し、フェンス付近で遊ばないよう働きかけをしなかっ	走る等の動きを伴う遊びは大型遊具やフェンス付近で行わないよう、職員間で再度共有し、子ども達にも伝える	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった	2. 対象至対象児の近で対象児を見た	担当諸君は、対象児が他児に行っていたしっぽとゲームの様子を見守っていた	1. 担当者・発児の動きを見た（至近距離にいた）	他の職員は、園庭で他児と関わった、他児の遊びについていた	子ども達の遊びの状況からリスクを把握することとリスクを回避するための子どもへの声掛けが出来な	職員全員が承知リスク周知を徹底し、子どもへの働きかけを行っていく。	
8511	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	14		8	2	4			4		4	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	園外活動の時の注意事項を職員間で共有する。	2. 不定期に実施	実施頻度(日祝日、年末年始6日を除く全日)	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎週金曜日)	特になし	同じ公園でも変化があっても危険個所があるが場合や危険個所がみられた時は速やかに状況しかに把握し職員間で共有する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	合同保育での確認を事前にしっかり行い、環境下児での園の動き職員の動き等を把握する。	1. いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしている途中で走り、ベンチがある目が入り右足をずれベンチにぶつけて転んだ。その際に左腕が下敷きになり転倒した。	2. 対象至対象児の近で対象児を見た	担任の保育士が全体を把握しながら見ていると走った本児が転んでしまいに、近くにいる保育士に応請し2人で対応した。	2. 担当者・発児の動きをていかった	他の職員はそれぞれのクラスの子どもの動きや遊具の安全確認を行っていたので見ていなかったが、怪我をしたことで一担当者に一人呼ばれ、人手の確認を行い、それ以外の職員2人はその他の子どもを集めて人数確認をし待機した。	普段と違う公園ごっこを気高い事に、鬼ごっこでも分担して事に併身なる十なっても、配慮や注意の喚起に欠けていた。	園外活動の危険個所の確認は事前に行い、年齢に合わせて子どもへ喚起も行う。又、保育士間の連携を迅速な行動が取れるように平常確認しておく。	
8512	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26	3	9	14	0	0	0	9		9	2歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右母指基節骨骨端線離開骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	特に無し	職員に対して情報提供したりヒヤリハット出したり共有をしたりすることにも意識を図ってもっとできる改めし保育よう周知した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に無し	設備の問題は無いと考えると、改善点無し。	1. 集団活動中・見守りあり	早朝保育の時間帯の事故のためであった、人の出入りが多かった。	登園時の受入れが多い時間帯は、落ち着いて遊べる環境を準備する。	1. いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2. 対象至対象児の近で対象児を見た	転倒する直前まで保育士の膝に座っていた。	1. 担当者・発児の動きをていた（至近距離にいた）	登園してもいたが入れ、検温を行っていた。	早朝保育の時間帯のため、落ち着いて遊べる環境を準備する。	登園時の受入れが多い時間帯は、落ち着いて遊べる環境を準備する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面					人的面												
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8513	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	43		11		12	11	9			7		6	5歳	1. 男児	既往症なし。発育や発達状況は問題なし。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	日頃から職員は危険予測をしながら保育が出来る様、職員会議で園内研修や過去の事故報告、ヒヤリハット等から学んでいる。今年度も具体的な事例を挙げて危険予測をする園内研修を毎月行っている。事故当日は園舎建て替えの工事に伴い園庭が狭くなっており、通常の園庭ではなかった。園庭が狭くなっている事は事前に全職員に周知はしていたが、園庭の変化に伴う安全な遊びの確認と提供ができていなかった。	今後も定期的に危険予測の園内研修を行うと共に、それぞれの職員が経験した事故やヒヤリハットを職員で共有し、知識を得ていく事を続けていく。●月中は、工事に伴い園庭の広さが変化する事が予想される為、随時職員全体に周知すると共に、提供する遊びの安全性も確認していく事を徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(296)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(296)回/年	事故当時、園舎の建て替えに伴う工事の為、園庭が狭くなっていた。園庭の環境が変わったばっかりである為、園庭が狭くなっている状況での危険に対する職員の認識が甘かった。	今後、園舎の建て替えに伴い、園庭をはじめ、園舎等環境が変わる事が予定されている。また、工事のスケジュールに従い、保育環境が日々変わる事も予想される。職員がこの事を踏まえて日々の保育を安全に行えるよう、随時環境の変化を全職員に周知し、安全にできる遊びの提供を考え、確認していく。	1. 集団活動中・見守り	新型コロナウイルスの影響で自主的に家庭保育をしている家庭があった為、人数は少なめではあったが、通常よりは狭くなっている園庭では3クラスが過ごしていた。その中で男子児童と遊び込む中で、勢いよく走っていたのは危険が伴いやすいと考える。	思い切り走る活動を子ども多くいる園庭ではなく、広いスペースで行う。	1. いつもおいもりの子であった	いつも通り、元気に過ごしていた。	2. 対象児の近く対象児を見ていた	本児と他児と一緒に遊び、他クラスの児童と遊びをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	一人の担任クラスの職員が近くで担当児の育ちを見ていた。もう一人の担任クラスの職員が近くで担当児の育ちを見ていた。	子どもと遊び込む事は必要な事であるが、今回は子どもの不意な動きに対応できず、子どもを避けた為受けとめる事ができなかった為怪我に繋がったと考える。全職員で保育環境と安全に遊びを提供する事の関係を考え確認すると共に、保育中の危険予測力をつけていく必要がある。	子どもが急に心変わりする事や、不意に大人が予測しないような行動をする可能性がある事を今回の経験から学び、常に危険予測をしながら保育に当たる様、意識付けをする。また、今回職員が、今回の事故を踏まえて保育環境と安全に遊びを提供する事の関係を常に考えて確認し、保育に当たるように周知し、意識付けを行っていく。	
8514	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	18		8	10	.					4		3	3歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自ら転倒・衝突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	一人の職員が保育室にいたんどと子供を子づけをしていた始めたにも関わらず、その他の3人の職員がそれぞれ1~2人の子供と遊びに集中していた為、片付けに参加して子供に目届いた全員が行きかなかったことが原因と考えられる。	全員に全職員が常に保育を意識して保育を進める。活動内容と人数に応じた配置がよく保てるよう声をかけあう。保育者が活動内容、場所を分けて遊ばせる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	部屋面積に対する人数は満たしていた。面積の余裕はあまりなかった。床が滑りやすかったの床暖房ついて、床が乾燥した可能性がある。	子供の人数と活動内容を考える。宜めれ雑巾で床を拭いたり、足裏を拭いたりすることで可能性を少しでも低くする。	1. 集団活動中・見守り	活動の切り替え時のため、まだ活動をしていた本児がいるところ所とけている職員がいて、子供に視線が行っていなかったことが考えられる。	活動の流れを作り、まだ遊びたい子供と次の活動(片づけを)する子などを分ける。保育者の中で全体を見守る人が常にいるよう、互いに気を配り連携を図る。	1. いつもおいもりの子であった	室内を走ったこと、回りすとなく、玩具や新聞紙を歩くこともなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	比較的傍にいた、転倒が、転倒するところは見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の為、他職員3名も割合近くにいたが、したろいなかった。	職員が自分の近くに子供を見ていて、全体を見る職員がいなかった。	自分の傍にいる子供の中に、全体も見ようとする意識が必要のためスキルを磨く。	
8515	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28									1		0	6歳	1. 男児	園庭にて友達とサッカーを行っている際、友達のボールが右手に激ったボールが当たり負傷。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	保育士が、保育中の危険を予測し、事前に回避できなかった。	子どもの行動を予測し、危機回避できるよう、定期的に職員間で情報共有を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(293)回/年	特になし	ある程度広さが庭のある園なため、ハード面改善のあるまでの策は見当ないたら	1. 集団活動中・見守り	行事等もあり、職員が分散していたために園庭には人だった。	できる限り職員が一人にならないよう配置していくことを	1. いつもおいもりの子であった	いつもと変わらず友達とサッカーを楽しんでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見守っていた為、一人のみることは難しい。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はその場にいなかった	保育士が思っていた以上にボールを蹴るがついてきていたために制止するタイミングが遅れてしまった	ボールの扱い方や力加減等も子ども達に周知すると共に職員も遊び方を把握し見守っていく。	
8516	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7				3	4				2		2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	活動時間の配慮…週末、夕方の疲れていると考えられる時間帯の活動。また、長期休み明けの活動により、体力が落ちていたことが考えられる。活動内容…3名が順番に跳び箱を跳んでいた為、インターバルが短く体力が落ちていたことが考えられる。	子どもの身の状態を考える。跳び箱を午前中の動に取り入れる。余裕をもったインターバルを入れる。休息と活動のバランスと考える。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱・ロイター板・マットの安全点検後使用。破損損等の不具合なし。	使用する玩具や遊具の点検と、使用前の安全点検を定期的に引き続き徹底していく。	1. 集団活動中・見守り	5歳児保育室スペースに跳び箱を1つ設置する。半径3メートル以上棚や他児が接触しない環境で、3名の園児が遊ぶ。他4名は、4歳児保育室スペースで製作とコマ回しのコーナーを作り遊ぶ。子ども一人一人が自分で選んだ遊びに熱中して楽しんでした。	引き続き、安全を確保した環境設定とも落ち着いて遊ぶ子どもを見守りながら、子供と次の活動(片づけ)をする。保育者の中で全体を見守る人が常にいるよう、互いに気を配り連携を図る。	1. いつもおいもりの子であった	新型コロナウイルス感染に罹患し12日間園を休み、復帰後4日目の事故。復帰後、対象児はいつも通り活発に過ごしており長距離歩にも参加し、活発に過ごした事故当日も、活発に過ごした事故当日も、活発に過ごした変わった様子は見られなかった。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱を対象児が跳ぶ補助についた。ロイターを板ジャンプする対象児の尻とお腹に職員が手を添えて、対象児の体の安定を図る。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	製作とコマ回しコーナーに4名の園児の名を一人の職員が見ていた。	長期休みの後だったので、対象児の筋力が落ちていたことが考えられる。短いインターバルで繰り返ししていたので低下していたことが考える。跳び箱を跳び越える補助方法を指導を受け実践しているが、跳び越えた後の補助方法を知らなかった。	長期休み後は、子どもの体力等を考慮した保育を設定する。近距離のお散歩。運動遊びは午前中の主活動に取り入れる。運動遊びに余裕を持ったインターバルを取り入れ、動と静のバランスを考える。跳び越えマットに着地するまでの補助方法を体操教室講師に確認して取り入れる。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面					人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制									教育・保育等従事者										事故の転帰																										
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8522	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49			12	18	19			6	6	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	3.子ども同士衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育士の立ち位置が園庭が見渡せる立ち位置ではなかった	保育士のお互いの立ち位置、状況の把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	園庭にいる保育士が隅々まで見回せていなかった。	保育に入る職員間声掛けや連携をとっていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園から降園まで園児はいつもどおりの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児をていた	担任は固定遊具についた、ケンカの対応が遅れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士がけんかを目撃したが、手を出せる距離ではなく間に合わなかった。	特になし	特になし	
8523	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22								2	2	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	特になし	今回の例は根本改善策はないが今後も定期的にマニュアルを読み返し、改正を加える.	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	ホールなど床面などに制が起れや突起などの異常がないか使用前に確認する。	1.集団活動中・見守り	特になし	障害物など活動に適した環境になってるか確認、活動中も全体を見渡し環境の変化に気付ける様に注意する。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこの為、箸っていて足がもつれた子。振り返りざまに転倒した為、やや横向きに倒れ肘を打ってしまったことと周囲にいた子どもの談。	4.対象児の動きを見ていなかった	一緒に鬼ごっこをしていたが、大ホールの対角線の実対角位置で鬼ごっこをしていた為発生時はお互いに見えず、本児と周囲の子の声で気付くく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの中でおやつが食べ終わって子どもたちのお片付け清掃を行っていた。	特になし	保育士も安全に配慮し、全体を見渡しながら共に入り保育を行う。	
8524	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23	0	0	0	6	11	6	0	3	2	5歳	1.男児	普段から転びやすく、怪我をすることが多い。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	遅番担当保育士が、園児の対応をしており、全体を見る役割が欠けてしまった	保育士間で連携を各とり、役割がないように、目視、声掛けをする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	固定遊具は換えられない為、遊具の遊び方について幼児組園児と再確認した	1.集団活動中・見守り	戸外から、室内への切り替えの時間帯で、園児の落ち着かない姿もあった	内切りの時間帯で、園児の落ち着かない姿が多い時あるは、一度集合させて、次の活動について予告をする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	片付け開始となり、戸外があそびが終了となることで、行動と気持ちが慌ててしまった	3.対象児から離れたところで対象児をていた	喧嘩の仲裁対応中、対象児ら割り台へのの視界が、途中で落ちつかったことや、離れた為、落下時に体を支えに行けなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児と片付け、送迎保護者への声掛けを対応中。落下の予測はつかなかった	各対応中、対象児らの行動気に掛けていたが、落下の測に至らなかった	各対応中も、全体把握が欠けないように職員間で連携していくようにする	
8525	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22								3	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	今回の事故発生職員において開知を行い、今後同様の事故が発生しないよう注意喚起を行う。	クラスでは、園外保育前で着き様どころのない子供がいる。静かに話をもたために聞くように注意するが必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	床には何もて落ちない状態で整頓されていても、床がやってあっても、床が滑りくいないなど、常に確認を行う。	周りに玩具や物が無い状態であっても、怪我に繋がることがあるという子どもと事もたち合い、一緒な保育に考え事も話ら合い、考えから進めて、にがを行く。	1.集団活動中・見守り	片付けも終わり、床には何もない状況。周りのもきちんと、動いている状況だった。	1.定期的に実施	保育室という限定されたにおいて走ったり飛びこと、いう性かもたりこと話し生活をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	その日はみにいた楽しみ保育園というとも、気分が浮かれていた。	3.対象から離れたところで対象児をていた	片付けも終わり、テーブルを動かすテーブルの職員と、椅子をかたづけるよう言葉掛けいたにわかれていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	出椅子をかけるよう言葉掛けいたるている。	園外保育前で片付けも終わる頃、園外保育準備も動き回っている状況だった。	園外保育で余裕も時間に余裕をもって落ち着いてゆったりに子どもたちに声をかける。	
8526	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28								9	8	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折→左第5趾基節骨骨端線損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		広い視野で保育し、危険を予知しを動くように職員に周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		十分な間隔で遊具を取って配置して保育する。	1.集団活動中・見守り		交錯しないような競技の設定にする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会ごっこの障害物走で、一番に走って競技を進めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のサポートをして、本児が後ろから走ってきたことに気づかなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで見ていたが、見もすぐ走り出したので、児の外傷に気づかなかった。		保育補助の加保育士に配慮を保育士を配置し、場面に応じた声掛けをする。	
8527	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	88			29	20	39	0		11	10	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕撓骨、および尺骨骨折→左尺骨骨幹部若木骨折左前腕骨骨折左橈骨骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	1.基準以上配置		ヒヤリハット事例は毎朝の朝礼でタイムリーに全に周共職員知し、通認識のと再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		リレーの走る十取り際に取り、折りコーナ返しの位置の距離、チーム同士の距離間をしっかり保つ。	1.集団活動中・見守り		子どもたちの気持ちの高揚の落ちを着けてから参加させる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会ごっこという行事の中での事故であり、子どもたちの気持ちが盛り上がった。	2.対象至対児の近対象児見ていた	対象児がリレーでっていて、一緒走る際、に応援し部始終を見たりしなを守っていたが、がらリレーの様急な転倒子を見守っていた、距に瞬時に離れていた手を差し伸べる余ため転倒地がなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児を並ばせたり、一緒に応援したりしながらリレーの様子を見守っていた、距離に離れていたため転倒を防ぐに至らなかった。		行事参加の際は、対象児の心の状態、身体の動きをしっかりと捉えながら落ち着きを促すかけを働きかけていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										事故誘因	ソフト面																															
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8528	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		転びにくい体づくりやバランスを崩したとき、咄嗟に手を出し体ら支えるように運動遊びを取り入れていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		滑りやすい床というわけではなかったので、今後も掃除行い、滑り床にくいにしにく。	1. 集団活動中・見守り		周囲にはできもつまずくものそのかりなかった。	1. いつもお様子であった	朝から動いて遊んだ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯場を走り回っていた。ボールが飛んだ時は差し出べる距離ではなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ボールができ飛んで瞬間は見が、とは思わなかったので助けられなかった。		あらゆる想定をしながら子ども見の動きを見る。職員の位置確認。	
8529	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	17									3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具から等の転落・落下	2. なし	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	雲梯付近に職員配置をしながらの様子をみるだった。	危険個所をきちんと予想しておき、遊具・位置かてどの判断しておくべきだった。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3 6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		遊園には慣れなかった。下見の遊びもを確認が子想できなかった。	1. 集団活動中・見守り	普段の子様から、公園に行ったとこ一りの様きもとり子をすだった。	慣れていない遊具で、意味子なのもの動なのをを含ども予想する。	3. いつもより活発で活動のあった(理由を記載)	バスで公園に行き、嬉しいで雲梯にチャレンジした様子。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	チャレンジした見たことを離れたところで、近いろの寄ったこと。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	1名、ブランコにいた。もう1名、すべり台に離れ、遊具に近いところ。	遊具に着く職員配置によりがな遊に限あら、具の限、ども待ってもこと必要。	子どもが一人でできる考慮を、介助が必要な場合なら時間的に遊具の制限をする。	
8530	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	7	0	0	0	0	3	4	0		2	1	6歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨端線離開	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	法被をきて踊るこの初めて本児もでいる喜んだ。踊り終了後保育者のの声掛けですが本児に法被でを脱いた。他児はその後の声掛けで脱ぎ始める。	膝丈までの法被をの日が初めてだったので、脱いする注意のあらかじめ伝おけばよかった。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年		点検後の不備があった場合は速やかに報告をする。徹底する。	1. 集団活動中・見守り	室内での遊戯練習時にも安全対策を心がける。	職員も活動の子に遊指導かり行う。	1. いつもお様子であった	なし	2. 対象至対象児の近で対象児を見た	担任は、他の園児が法被を見ていて近くにいたが、止めることが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	この日は5歳児の保育室で児が、本児倒をることが出来なかった。	なし	園児の様々な動きを想定して声掛けをしていく。	
8531	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11			5	6					2		1	4歳	1. 男児	●月●日A医院を受診し、骨折との診断。B病院を受診するようにとのこと。●月●日B病院を受診し、全治6週間の骨折との診断。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第3中足骨骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置	特になし	定期的な研修を継続し、安全への意識を高める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	可動遊具の位置等、園内危険個所を職員で再確認する。	1. 集団活動中・見守り	特になし	遊具の設置個所等の点検を強化する。	1. いつもお様子であった	普段と変わらず登園。本児も元気にでいたが、途中4歳児と合流し、4歳児の行動にひっぱられたのか行動に勢いがつき、遊んでいた。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	可動遊具しから少し(2メートルくらい)離れ〜3メトルくの全体を見ようにしてみていた。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	可動遊具の近くに援助していた。事故対象児が落下する瞬間もあっという間で手伸べられなかった。	特になし	保育士は、より一層全体に動的な遊びを園児にしようにする。	
8532	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18									1		1	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨通顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	事故予防に関する研修が未実施であった。	園児の心理状況と活動の設定について、事故予防に関する園内研修を実施する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		古い園舎のため、遊戯室の床面の状態について注意が必要である。	1. 集団活動中・見守り	翌日が運動会でクラス全体のが気持ちよいつもり高揚していた。	行事前の園児の心理状況も把握し活動を行う際には十分配慮していく。	1. いつもお様子であった	日頃からいた遊び で、本児の周辺には障害物や他児はいなかった。	2. 対象至対児の近で対象児を見ていた	担任が鬼役を全体をしっかり確認おり、目の前で起きた出来事だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該クラスは、配置基準上、1名配置であった。	日頃楽しんでいる活動で発散させたい気持ちが強かった。行事前で担任も気持ち著しく落ちがない面もあった。	計画的保育を行い、気持ちの面で余裕を持ち園児の様子把握していく。	
8533	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11									2		1	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 基準配置		定期的に事故防止マニュアルの確認や事故事例について職員間で共有し、対策を検討する。また、子どもの個々の活動や行動の特性を把握し、職員間で共有していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日		日頃から利用している施設や遊具の点検は確実に行い、安全が上危険がある箇所があれば、改善策を講じる。	1. 集団活動中・見守り		突発的なよけケガをする行動止すを防ぎ、適宜園児が落ち着けるタイミングをとる。	3. いつもより活発で活動のあった(理由を記載)	気持ちが落ち高まり着かない状態であった。	2. 対象至対児の近で対象児を見ていた	ステージ上は危険であることを繰り返しいた。突発的な行動に対し即時対応できずに対応が遅れてしまった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ステージ上は危険であることを繰り返伝えいた。突発的な行動に対し即時対応できずに対応が遅れてしまった。		園児の状態と危険の可能性を判断しながら、園児に指示を出すようにする。担当保育士同士で連携しながら、クラス全体に目が届くようにする。	
8534	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	0	0	5	0	5	5	0		5		5	6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足第3中足骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4 8)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	特になし	特になし	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	節分の行事に鬼退治の遊びをしていたため、興奮した様子が見られた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児が職員の背中側から足不意に飛びくという行動ができていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	遊びの様子は見ていたが離れていたため対応ができなかった。	周囲の刺激に興奮しやすいという特性に対する理解が不足していた。	職員間で特性を共有し支援方法を徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面						環境面						人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	遊具の安全点検	玩具の安全点検	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																		死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
8535	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	実施頻度(1)回/年	危険予測が不十分だった。	様々なリスクがあることを意識する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱やマットにほつれやなみがあり、つくろい手位置をテープで示した。	設備面での安全対策を施していたため、改善策なし。	1. 集団活動中・見守り	遊戯室中央に跳び箱・マットを置き、児童とも周りにもゆとりがあり跳びやすかった。	児童が跳びやすさを感じている分、傍らについた職員は転落防止を意識していた。手の付き方等も危険意識もつようにする。	3. いつもと活発で活動的であった	以前から跳び箱が苦手で跳んで自信を持った。繰り返し練習していたことが当日ランプアップしたいと言っていた。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の苦手な児童が傍らにいた。本児の手が滑ったと一瞬ヒヤッとしたが、支えることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	大縄跳びでいる児童の近くに居た。	本児が楽しんで跳び箱を繰り返していた。意欲を大切にしていた。	体を休めながら取り組めるよう休憩を促す。	
8536	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	17			9	8					4	3	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼・歯肉切創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	実施頻度(12)回/年		ヒヤリ・事ハット事例の振り返りを積極的に保育にいかしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊びの内容や子ども達の状態より、不要な片付け床に遊具をつかうことが無いようにする。	1. 集団活動中・見守り		子どものよりの特性を予測し、職員間でかけあい子どもから目を離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	午前10時頃から遊戯室で自由遊びを楽しむ。本児は、保育士や5～6人と一緒に、フト積み木(ウレタン製)をお家ごっこをしていた。	2. 対象至対児の近で象児見ていた	対象児の対象児も含め至近で象児も一緒に遊んでいたが、他の園児と一緒に起きたために目られた事故だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内に存在離れて存在し、それぞれが子ども達と遊んだり動きを見守っていた。対象児は落ち着いて遊んでいたと、近くに担当保育士がいたことで特に注意を払っていなかった。		子どもの特性を把握したうえで、クラス保育士の誰か一人を離さないようにする。	
8537	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24	0	5	7	4	4	4			8	8	5歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	実施頻度(5)回/年	ヒヤリ・事ハット事例クラス会議で検討される。以上クラスし延集合した時や保育時検討されている事故が弱が、児が長間の対策い	事故の分析について具体的な事故事例からどのような事故が想定されるかを研修に入れる。複数クラスの保育時の配置と子遊び取り職員もの見取り方を研修に入れる	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)/週	点検等がネリがマンになりちち	月長は園主任の点検を加え主検を加える	1. 集団活動中・見守り	遊びの設定がボリュームがあり職員が対応できない可能性がある	遊びの設定を職員人数に合わせたボリュームに変更	1. いつもどおりの様子であった	朝登園してすぐ運動遊びのアスレチックコーナーに来て遊び始める。他児が軽々と行っているのを見て自分もできると思いチャレンジ。ハードルに足が引っかかり転倒した際既ですぐ立ち上がろうとして痛み合った脱を無理に起こそうとした	2. 対象至対児の近で象児見ていた	本児の担任ではないが、の程度のどの運動能力の運動能力を把握しきれず見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	連絡帳出パやカレンダーなどに取られていた	遊びの設定が職員人数や個別配慮の必要などを考えた遊びの設定になっていない	朝の受け入れ時間は子ども人数に合わせ職員が多くいる目としと考えず目配りをする目配りできない環境をつくらない	
8538	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	7									1	1	6歳	2. 女児	上記女児以外に4名受傷(合計5名が受傷)園児1：男児(5歳児)右唇打撲、園児2：男児(5歳児)左眼下瞼打撲、園児3：女児(5歳児)右側頭部切創、園児4：女児(5歳児)右頭部打撲	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折・前歯3本の打撲	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	実施頻度(2)回/年	特になし	今回の事故を踏まえ、園バス対応マニュアルの見直しを検討するとともに、職員ミーティングで運転時における注意事項を随時確認するほか、出庫前には天候や路面状況に応じ、その都度注意しなければならないことを確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	業者による点検	実施頻度(1)回/年	大型玩具の点検	実施頻度(1)回/月	相手方の車両が赤信号での侵入の為、回避は難しい。	車内安全装置(シートベルト)は備えてある。車両の不良衝突事故を起こさぬよう、引き続き徹底した車両点検を行う。	7. その他	問題なし	万一の衝突時に、物品が車内に飛散し園児等が負傷しないよう、車内に持ち込まれる物品はカバンなどに収納する。	1. いつもどおりの様子であった	乗車中、座席にしっかり座っていた。バス	4. 対象児の動きを見ていなかった	添乗員の動き、対応も問題なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	状況の把握に主任保育士と副園長が現場に向かった。その後、指示園へ指示し、該当園児の家庭へと連絡を入れるなどマニュアルに沿って行った。		特になし	適正な人員を配置し車両を運行している。本事故の発生原因から、改善策は見当たらない。	
8539	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	28									2	2	5歳	1. 男児	虫歯の歯だった。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A外傷による歯牙脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	実施頻度(3)回/年	定期的に園内外で研修を受けたり、報告をしたりしていた。実践・意識に結びついていなかった。	紙面・資料だけの研修ではなく、実際に保育の現場を見ながら検証する等の機会を増やし、意識向上を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	保育中の安全確認・確保ができていなかった。保育室内にテープが7台あったが、全て同じ向きに並べてあったため、遊びのスペースが不十分であった。不要な場所に椅子があいていた。	子どもの遊びによって、コーナーやテーブル等も変動するため、保育中にこまめに点検をする。内のテーブルを遊びに合わせて向きや配置等を工夫する。不要な椅子は所定の位置に片付ける。動線を確保する。	3. 個人活動中・見守り	遊びが盛り上がり、1つのテーブルに人が増えるでの工夫であった。	遊びの様子を見てスペースを広げての遊び、のび伸びんだり、人数を分散させるなどして楽しめるよう、遊びの展開や提案をする。	1. いつもどおりの様子であった	目の前のもの(一緒に遊ぶ児と玩具)に夢中で、周り(前に座っていた児)まで気が向いていなかった。	2. 対象至対児の近で象児見ていた	支援児として対視しつつも、関わっており、対象児に入っていたものの、転倒を予測できなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところ、児は対象児野に入っていたもの、もたちたちと対視野にいなかった。	見えない部分への意識が足りなかった。スペースの狭いところ椅子を使わず膝を立ている児がいること気付いていなかった。	支援児に1人つく場合、もう1人の職員が必ず子ども全員を見守れる位置にいるようにする。見えない部分にもこまめに目を配る、椅子に正しく座っていない児がいた時にすぐに椅子に座るよう促す。保育者は子どもたち全体の動きを把握し、危険予測をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事												ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
			施設・事業所種別	発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8540	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22								2	1	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨内側上顆粒骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故防止チェックリストを使いセルフチェックをたりヒヤハット事故後の分析を行い事故防止に努めている。	春から、遊びの前のホールの使い方や安全教育を行ってきている。転び方の練習や体力づくりプログラムを通して、転んでも怪我をしない園児の体づくりを行っている。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年毎週	施設の点検及び、遊具の点検は定期実施してた。適切な人員配置を行っていた。ヒヤリハット報告をとに分析する。	引き続き、施設点検と遊具は定期的に安全管理を徹底する。	1.集団活動中・見守り	ドッチボールで特に本児が落ち着かないで他児が落ちまたは困った様子はなかった。積極的に自分でボール取って、攻撃に参加しとしていた。	活動前に、安全教育や準備体操を行う。ボールをキャッチする時は、両足をしっかり開いて体を安定させるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールの内野で、前から自分の横を通り過ぎたボールを、振り返ってバランスを崩し、左腕を下に少し体を捻った状態で床に転んだ。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	担任1人は、全体が見渡せる位置でドッチボールに参加していた。	1.担当職員が見ていた(至近距離にいた)	当対象児の動きを加配職員は、加配園児に一緒に参加していた。	ヒヤリハット報告をもとに、要因分析を行い防止に努める。	クラス全体の安全な見守りを行う為に人員を増やす。	
8541	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13					7	6		1	1	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	特になし	事故防止検討委員会による事故発生時間や曜日などの統計を見ると、他の曜日と比べ2番目に火曜日が多くなっている。今回の事故発生も火曜日だったことから、週の初めから後々に体を動かし手どもの様子を見ながら大きな動きを取り入れた遊びを展開するよう改善する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度/毎日	特になし	ハード面については、毎日であり定期的に点検しているが、さらに遊ぶ直前にも危険がないか入念にチェックし、遊び始めるようにする。	1.集団活動中・見守り	特になし	縄跳びやおうちごっこごっこ鬼など複数の遊びに分かれて好きな遊びをしていた。危険がないように遊びごとに大きかに場所を決めて遊んでいた。今後も危険がないよう同様に工夫をしつつ、さらに危険がないか入念に予測をしつつ遊びを進めていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをする。鬼がを数えを数え終わり逃げ出そうとしたところであった。	2.対象至対児の近で対象児を見ていた	担当職員も鬼ごっこの仲間にこの入り、対象児の1～2メートル離れた所にいた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	職員は一人で見守っていた。	特になし	職員の人数配置は4.5歳児13人に対し職員1人で基準通りだし職員に余裕がある時は職員を2人体制にする。	
8542	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27								2	2	6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		広い視野で保育し、危険を予知し動くように職員をてうに周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具の置使方や使いつ方について職員確認し合う。	1.集団活動中・見守り		ソフト積み木の遊び方や置き方について配慮を促したり見守りたりする。	1.いつもどおりの様子であった	ソフト積み木を並べて、その上を渡って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育準備のため遊戯室の隣にある職員室にいた。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	ソフト積み木で遊び始めた時は、その時の場所にいて、安全を確認した。離れた場所のコマ回しのところを対応していた。		その場を離れる時は、職員同士声を掛け合って、園児を見守ることを再確認した。	
8543	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	47	0	0	0	9	17	21	0	3	3	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	本児が運動能力もあったあめ、安心してしまったところがある。	ヒヤリハット等を事例を使い、今迄以上に研修に力を入れていく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ホールの床がフローリングのため転落したときの衝撃が強かったのではないか	危険と感じた場合はマットを敷くなどの措置をとる	1.集団活動中・守り	朝の自由遊びで、まだしっかりと体が動かない時間帯には使用しないブロックを使用してしまったからではないか	朝の時間帯は、落ち着いても遊べる用意をし、落ちて遊べる環境にする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しぶりに自由遊びで使う遊具だので、本児もいつも活発に動いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児からはなれたところにいた為、気付いた時には間に合わなった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	本児以外の園児の様子を見ていた為、気付かなかった。	ブロックを上にのっている状態で、育士がそばに注意を促した。	ブロックに上がっている場合は、保育士がついたり注意を促す。	
8544	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	34								2	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置		指針にあチェックリストを定期的に活用して事故防止に努める。外部に参加し、議職員で報告することで共通理解して事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(2４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		全点検危険や必要な物等があったときは、早急に解決策を考え対処する。安全な環境を整備する。	1.集団活動中・守り	対象児が他児が鉄棒をしている様子を見ていたので、保育士が鉄棒で遊ぶので補助をすると声を掛けたが、本児は首を傾げた為、無言で鉄棒をしなしていと思って、他の子の補助や砂場で砂を投げていしまい、他の子にてうとしたり見守りたりする。	鉄棒は、個人差があり、落ちたときに事故がなることを把握つなげることし、その場合は、他の子にて保育士にてわっていることは、保育士場もちら配場れるとき見てすべきそのは、早急に見う慣すべきであった。	1.いつもどおりの様子であった	●月に入り、鉄棒に興味を示すようになり、当日も鉄棒している友達の側で遊びた。保育士の鉄棒遊びの補助の申し出に、本児は無言で首を傾けたため、鉄棒をしない本児から目を離した間に、自分で前回り鉄棒をして前に、自分で棒から落ちた。	1.対象児で一人ンマン状態（対象児に接していた）	対象児が鉄棒をしている友達の様子を見ていたので、補助をしようと思い声を掛けたが無言で首を傾げたので、したくないと思い誘わなかった。他児の様子を見ようと横を見ると、砂場で砂を投げている子が見えた。鉄棒から離れられないと思いながら、砂場の方へ2歩位動き砂を投げている子に声を掛けたため、対象児が落ちるところを咄嗟に助けることができなかった。	2.担当対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、から5メートル程離れる遊具で遊ぶ子ども達を見ていた。	園庭で遊ぶときには、職員がどの位置でも子ども達が遊びを見守るのか、事前に合意を行っていたのだが、鉄棒、砂場、総合遊具等を見守る保育士の立ち位置が分かっていなかった。	一人一人の保育士が広く見渡せるよう、園庭遊具の固定遊具の位置と保育士の配置場所を検討し、周知する。鉄棒での予定される行動に対する予測ついて把握し、職員間で対処法を話し合い共通理解をする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																																
8545	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	0	0	0	5	4	5			1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指つけ根の骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故防止チェックリストを活用し職員再確認後、ヒヤリハットマップの見直しを行い改善した結果を検証した。	1.定期的に実施	実施頻度(２５)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年		安全点検項目の見直しを行う。実際に確認を行いながら、項目の内容変更等行った。	6.食事(おやつ)中	部屋の出入り口の桟が張っ扉が出ていて躓きやすい。	躓きやすいことを知らせ、注意を促す。出入り口付近に物を置かない等、物の配置を改善する。	1.いつもお様子であった	部屋の出入口付近にある机で遊んでいたため、遊んでいたラキュープがロック廊下まで飛んで行った。	4.対象児の動きをしていなかった	他児の食事の援助を行っていたため、本児の動きや転ぶ瞬間、見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	一人担任クラスのため、他の職員は他クラスにて保育中であった。		異年齢保育は、年齢によって子ども達の動きが違うため、クラス状況を把握し、達を見る位置や育りしないように気をつけて保育を行う。	
8546	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	33									5	5	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内上顆骨折、右肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	運動会の練習の為、道具を運ぶ二職員が多くも達とに職員が多くも達とから離れた為。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		本件は園で発生した事故であるため要因・要因策は改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	運動会の練習の為、道具を運ぶこと職員が多くも達とから離れた為。	子どもの小さな変化にすぐ対応できるよう担任一人は必ずものそばにいるようにする。	1.いつもどお様子であった	体調は普段と変わらず座って水分補給を摂っている子ども達が前を歩いていた。	3.対象児ところで対象児を見ていた	子ども達は水分補給中、壁側で座っている状態だった為、子どもの様子を見ながら運動会の練習ができるよう準備していたので対象児が接触・転倒の際、見ていたが近くにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	運動会の準備の準備に専念していて見ていなかった。	子どもに座ってよ達に座っているよう指示はしていたが、立ち歩くことも想定した担任の位置に配慮が足りなかった。	子どもの小化に対応すぐ対応するよう担任一人は必ず子どものそばにいるようにする。	
8547	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				14	20				4	4	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		職員全員でマニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(数)回/年		地面には安全マットが敷いてあるが、もう少しクッション性のある物を敷く。	3.個人活動中・見守りあり		遊具の正しい遊び方をその都度知らせる。	1.いつもどお様子であった	ヒーローごっこをしていた際、ロープ坂の上段よりジャンプしし、バランスを崩し落下した。	3.対象児ところで対象児を見ていた	本児と少し離れたところで遊び違うと違うと子どもと一緒に遊んでいた為、本児の危険な行動に気付くのが遅くなった。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	園庭が広く、遊ぶ場所が離れていて、本児の姿が見えていなかった。		園庭で遊ぶ際の保育士の位置について確認をし、全体が把握できるようにする。	
8548	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指の骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	日頃からドッジボールをしている時間であった。	動的な活動だったので職員配置に配慮が必要だった。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	寒冷期で室温が低く、身体の動きが鈍くていた。	活動前に室温調節をしておく。	1.集団活動中・見守りあり	外野に転がってボールを皆で拾ったりと傾向があった。	取り合いなる時は、保育士が止めにする。	3.もいつも活発で活動であった(理由を記載)	外野にいた本児がボールを取ろうと滑り込み、勢い余って小指を打ちつけると思われる担任には痛いことを言わなかった。	4.対象児の動きをしていなかった	ドッジボールの審判をしていたが、本児が痛を痛める場面に気づかなかった。本児のいう痛い訴えもなかったので当日は、気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きをしていなかった	休憩中であり遊戯室にはいなかった。	翌日朝に内出血と腫れがあった当日は痛がらなかったので、異常を確認していなかった。	床面に打ちつけて骨折するという事例を共有し、ドッジボールを行う。	
8549	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									3	2	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	裂創（顔）挫創（顔）	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	安全に関する危機管理意識が不足していた。	災害報告や、ヒヤリハットを再確認し、職員一人一人の危機管理能力を養う場を設けて設ける。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	机の周囲だなくなるようにしたると空間があった。	机の配置の部屋の中央隅へ移動する。不要な時は机を片づける。	3.個人活動中・見守りあり	あそびは時間帯に加え、次々とくるくる時間帯でもこと子どもが登園してくる時間帯であったことも要因の一つと考えられる。	子どもの様子から、必要な援助ができるようにするしていく。咄嗟の時にすぐに怪我を防ぐ事ができるようにする。	3.もいつも活発で活動であった(理由を記載)	うきうきした様子で机の周囲を走った。	2.対象児で対象児で対象児を見ていた	走り出し気に事に気づいた見ていた。	1.担当者・対象児の動きをしていた(至近距離にいた)	担当者以外の2人のうち一人はおむつ交換をし、一人は対象児の動きを見ながらまままごとコーナーで他児とごっこ遊んでいた。	対象児の担当保育士がいたため、まままごとコーナーにいた保育士は声かけを遠慮してしまった。	見守ることどまらず、危険を予測し素早く必要な援助ができるようにする。保育にあたる全ての者同士、声を出し合える関係性を構築する。	
8550	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		職員の見守り位置の確認。（特に死角位置に配置を必須）どんなに場合でも早急に受診判断をする。	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約48)回/年		屋外の土壌の状態を確認する。	1.集団活動中・見守りあり		日頃から体力増進の為の動を取り入れる。友達との集団遊び時の注意事項等を確認する。	1.いつもどお様子であった	鬼ごっこしていて追いかけていた。	4.対象児の動きをしていなかった	別の場所で鬼ごっこ全体の見守りをしていたが、対象児は死角だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で、鬼ごっこにて園児ごっこ参加しない児の見守りをしていた。	職員の活動への参加方法（見守り方法、立ち位置等）を確認し直し、園児の動きを見ていなかった状況を減らす。	事故の内容を職員間で共有し、活動への参加方法（見守り方法、立ち位置等）。死角が立ち位置。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故	ソフト面						ハード面						環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8551	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	6								2	2	2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首脛骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	所内研修を行っていたがショルダーバッグが原因で転倒に繋がるとは思っていなかった。本児が歩いていたため、危険ではないかとはとしまった。	ショルダーバッグのような長い紐が付いた物は置かないようにした。	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	ハード面については事故発生要因/改善策はないと考えられる。	安全点検を行っていて、特には問題はない。	3. 個人活動中・見守り	所持品を始末するロッカー側を空けて配置だったため、子どもの通路がやや狭かったかもしれない。	子どもの十分に確保できる通路が十分に確保できる棚の配置にする。	1. いつもどおりの様子であった	保育室でいろんな遊ぶ時、友だちの玩具を取ろうとして追いかけていたところ、本児から肩からかけていたショルダーバッグが床につき、それに躓いて転倒した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児がトラブルを起こしていたために泣いたために応した。	2. 担当者・対象児の動きをていた対象児を見なかった	トラブルを起こしたこの子へ対応をたち人の子へ対応し、再度トラブルをなにして、トラブが起きないように見守っていた。	他児へのトラブルへ対応をしていたため、児の見守りが不十分であったかもしれない。	トラブルが起きて対応するときも複数保育士であらゆる方向から見守る。	
8552	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	15								3	3	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	特記なし	特記なし	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	ハード面については事故発生要因/改善策はないと考えられる。	安全点検を行っていて、特には問題はない。	1. 集団活動中・見守り	本児が内脱ぱきを履けるだけは、不慣れあったのではと推察する。	靴下姿で動く危険について子どもに改めて子伝えたとも認識する。	1. いつもどおりの様子であった	鬼の襲来に対して怖がって動揺いた。豆まきをしながら逃げ回っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	豆まきの子ども様子を近い距離で見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	鬼に扮していた面をかぶった。	節分の恒例の行事であったが、保育士の鬼の襲来の仕方が強いすぎると省察する。	日本古来の伝統の節分の行事を大切にしつつ、鬼を怖がる子どもたちに対する加減の仕方について見直し、危険を伴わないようにする。	
8553	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	59			25	15	19			6	6	3歳	1. 男児	左右上A歯は以前より神経の損失が見られており、歯科通院していた。よく転ぶ姿が見られていた。	1. 室外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左右上A歯打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置	散歩での活動内容や配置、危険箇所の確認が十分ではなかった。	事故発生の原因分析、事故防止マニュアルに基づく内容及び、危機管理の再確認を職員会議で行った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	散歩中、屋外施設での利用にあたり、児も危険となる場所の把握が十分ではなかった。	散歩場所の危険箇所の確認を事前に行い、把握する。	1. 集団活動中・見守り	施設外での活動だったが、時前に危険箇所の確認を行わなかった。	散歩など施設外で遊ぶ場合は、活動前に職員が危険箇所がないか安全確認を行う。	1. いつもどおりの様子であった	公園のコンクリート部分を走って転倒する。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児やその子どもたちの様子を見ていた	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	各職員、固定遊具や遊び場につき、安全を見守っていた	転倒しやすい児ったが、見守り中、特別に意をしていなかった。	担当職員を決め、転倒児しやすい児の動きに留意する。	
8554	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11								2	2	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	2. 顔面(口腔内含む)	下顎乳側切歯1本損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	子どもの生活動線上に布団を敷かれていたこと。パジャマのボンボンが長いに、着替えさせたえさせ折り曲げられていなかったこと。布団の絵本を選んだ事。	子どもの生活動線状に布団を敷かない。布団の上で遊んだり、活動をしない、遊ばない。パジャマが大きい時は、保護者に伝え縫い上げしてもらったり、折り曲げて足、手がきちんと出ている事を確認する。	1. いつもどおりの様子であった	お友達4名と、午睡前に読む絵本をあ選んだあと、一人でだけの場ていった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園児と絵本を選んだ園児と話した時に、対象児が園児を動し、対象動き、児の動きを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	対象児や担当職員と離れたところ（まとコーナー・着脱コーナー）で他も遠ってわった。	対象者目し対象から離した。	色んな危険を想定し、常日頃木の上を歩く際は、保育士が側に注意を見て、声かけしていく。	
8555	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	15								1	1	6歳	1. 男児	乳糖不耐症	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	右上腕骨折通顆骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	歩いている子の側にいること	ソフト積み木の上を歩く場合は、保育者にいるようにするが、要ら場れない場合は遊び方を変更するなどする工夫	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	ソフト積み木の上を歩いた際、積ソフトの上にブロックをのっけてしまったこと。ソフトに腰掛けてあるバランスをとろうとして崩した	玩具等になっていが、使用する玩具には歩行用の想定際の想定をし、マットを使用する。	1. 集団活動中・見守り	2種類の玩具を使った ことと	2種類以上の玩具を使用する際は仕切りを使い場所を区切る	1. いつもどおりの様子であった	ソフト積み木を並べた上を渡るように歩いていた際、ソフトあって積み木に置いてあった別の玩具を使ってソフトを置こうとした	2. 対象児の近で対象児を見ていた	ソフト積み木とブロックの2種類の玩具で遊んでいることを把握とし、危険が見ないように見守っていたが、すぐにはいたが近くにはいたなかったため、本児がバランスを崩したときに対応が間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担任が一人の人の、他のは保育士に遊戯室にいなかった	ソフト積み木はバランスを崩しやすいことを予想していなかった	ソフト積み木の上を歩く際は、保育士が側に付けする	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
8556	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	26									16	11	3歳	1.男児	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	戸外で見守りをする保育士の数が少なかった。	戸外遊びの時は、クラス担任以外にも主任保育士や園長が遊びを見守るようにする。けがをした部分や痛がっている部分以外にも身体全体を確認する。園内研修をし事故の再発防止に努める	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3.未実施	—		遊具や玩具の事故でないため。	3.個人活動中・見守り	石などにつまずいて転倒したことも考える。	園庭に石などつまずき枝などつまずきやすい物が落ちていないか、遊具でつまずきやすい所はないか、毎日確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に活動的に遊んでいる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒するところを見ていて、汚れたところを洗ったり、怪我の状態を確認する。すぐに園長に報告し、園保護者に連絡する。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	怪我のあった場所から離れた場所にいた為。	戸外で見守りをする保育士の数が少なかった。	戸外遊びの時は、クラス担任以外にも主任保育士や園長が遊びを見守るようにする。	
8557	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0	2	2	1	0	0	0		3	3	1歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩上腕骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士1名戸外保育士2名室内	基準配置であった。事故予防のための園内マニュアルを作成し定期的に自主研修を行うようにする。またヒヤリハット報告書を作成共有し、未然に事故防止につなげていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	乳幼児に対して窓の位置が高い為、外の気の逆に様子になる	設備はできるだけ安全な状態で外を見せる。	変更なしで抱えの安全で外を見せる。	1.集団活動中・見守り	本児が戸外遊びの見外子どもの様子を見ていた活動のになった。	本児の欲求を満たす為に窓枠には本児の目の届き枠にはのせず抱き上げて安全に室外の様子を見せる。	1.いつもどおりの様子であった(理由を記載)	3.いつもより活発で活動的であった	室内窓枠に保育士に支えられち戸外の様子を見ていた。	4.対象児の見ていなかった	事故直前児を支えたが近寄って来たものに気をとられ手を離した本児に背を向けた。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	午睡後に使用した掃除機を片付けていた。	窓枠にせたことがない大き判断ミスであった。	本児とその他の動きと保育士の配置を連携させ近くで見守り死角を作らないようにする。	
8558	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	44	3	7	9	10	10	5			12	12	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕尺骨橈骨ねじれ骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置		職員会議にて全職員に周知。特に延長保育の時間帯においては、保護者対応で保育士が抜ける場合でも、無理のない保育体制を整えてから抜けることとした。	2.不定期に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	乳児室は広いため、高月の子は回ってしまうあため、気分が高揚してしまう	室内をパーテーションで区切ったり、コーナー遊びを設定し、個々に合った遊び定し、落ち着いて遊べる環境を整えていく。		1.集団活動中・見守り		子どもの予行動を測し、夕方は特にが落ちて多く出し、ゆったりと遊べる環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	玩具を取りにくくなり、抵抗し玩具を離そうとしなかった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	当該児かれて、泣いたため、止め入れなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	体調が悪いずるずるずるずるとしたため、それぞれの職員が上に子を膝の他の抱えていた。	玩具を取り上げた1歳児は、他の子の玩具を次々に取っていってしまうという傾向がある。又、当該児も諦めず抵抗する傾向がある	毎日の中で、子どもの様子を申し、担当者全員が共有し保育を見直し、又、ヒヤリもその都度クラス会議クラで共有し、職員会議で共有していく	
8559	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									3	3	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘、左上腕骨2か所骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園独自の事故防止マニュアルがない	園独自の事故防止マニュアルを作成する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日		特になし	1.集団活動中・見守り		特になし	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	他の園児と一緒に遊具の片付けをしていた。とっさの事に出来ず対応できなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	園児と一緒に遊具を片付けていた	遊戯室での遊びについては園庭と同じように監視や見守りを重視しているが、片付けの時は、園児と一緒に片付けていたので見守りができていなかった。	活動の最中はもちろん、それ以外の時間も園児の行動を見守り、園児にも気を付けて行動するよう話をする。	中	
8560	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	1	5	2	19	14	15			11	11	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折右肘・右肩打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の下にマットも薄いものであった。	安全マットの厚いものを設置する。	1.集団活動中・見守り	夏のお昼寝が終わり、運動会練習も入ってきて保育環境の変化が見られて2週間が経ち、慣れてきたところであった。本児もできるようになってきて、挑戦したい気持ちも芽生えて始めてきたところでもあった。	できるようになったと過信せず、鉄棒等での安全指導を行いつつ、見守にようするする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒での前回りができるようになったことで、やりたいもち強くなり、鉄棒遊びを楽しんでいた。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の隣に雲梯の場所で雲梯ある遊ぶ子を見守りつつ、鉄棒で遊ぶ対象児ていたが、まだ別の園児に声をかけられたため、そちらに目を向けたため、落下の瞬間に手を差し伸べることができなかった。	なし	園庭で、他の保育士はなく、担任一人で見って守り、園児の対応していた。	鉄棒の握り方の確認は以前話してあったが、この日は見過ごしてしまった。園児に対しても注意喚起する必要があった。コロナ禍で、クラス別で園庭遊びをするため、1人担任の場合は見守りにあたり十分でなかった。	園庭にある固定遊具や園内での危険箇所や危険性があることを職員全員で再確認し、見守り方のポイントや固定遊具の扱い方等園児にも指導するように話し合い、保育士の安全保育に対する意識を高めて保育にあたるようにする。園庭遊びの際には複数で点在して見守るようにし、午後からは未満児クラスの先生の応援も借りるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面						環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																											実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8561	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56	1	8	6	17	9	15			12	12	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	雲梯の下には、５センチのマットを引いてはあった。	現在のマットにもう上１枚引いた。	1. 集団活動中・見守り	運動会練習も入り、活動習熟して、やり方に慣れて、やり方に慣れて、やり方に慣れて

No	概要						発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面							ハード面							環境面				人的面										
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8565	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置		職員会議など用し、事故予防・事故などについて定期的に研修や話し合いを行う。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度①(1)回/年、②（1）回/週	2.不定期に実施	実施頻度玩具使用時		遊具の下には、安全マットも敷いてあった。引き続き、安全点検に努めていく。	3.個人活動中・見守りあり	「そろそろご飯食べませんか」と声をかけていた時だった。ハングリングジムの輪の中にいたが、降りようとして輪から抜けてぶらぶらしていて、慌てて降りようとしたが着地に失敗したのではないか。	全園児に向けて固定遊具の使い方について「しっかりとつかまる」「飛び降りない」「輪の中にいる時は、そのまま輪の中をくぐっていって降りる」等、遊び方を定期的に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	最近ハングリングジムで遊ぶ姿がよく見られていた。本人はハングリングジムを得意に思っていたのではないか。	4.対象児の動きを見ていなかった	「給食」と声をかけていた部屋にくくるこども達と一緒に園から戻り、玄関にたどりつき、泣き喚く園児の確認のため振り向いた時対象児は落ちた後だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3歳児担任は玄関付近、4歳児担任の中央辺りの園庭で給食を食べようとしていた。対象児が落ちたのを4歳児の担任がすぐに駆けつけた。	職員が近くで見守っていなかったからではないか。	遊具を使用しているときは、職員が最後まで確認して部屋に戻るようにする。	
8566	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨骨折基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	走り込んだ場所で上手身転がって狭い受けをしなかったと考えるべきだった。	走る場所を確認をしっかり行い、危険な場所かはない。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	走り込んだ場所で上手身転がって狭い受けをしなかったと考えるべきだった。	走る場所を確認をしっかり行い、危険な場所かはない。	1.集団活動中・見守り	鬼の囲をこっこ範囲決めておらず、広範囲で動きも更に活発になっていったと考える。	行動の限度を考えていくことや、遊び環境を整えていくことや、遊び工夫を動いて、等を整えていくように努力し、遊び方の工夫を考えいく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、捕まえられずに逃げようとした。	3.対象児の目が見ていなかった	転んだ所おそれは見てはずに、本児は泣いたが、痛みを訴えることはなかった。	1.担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	一緒に鬼ごっこ参加がなかった。	ごっこ走の範囲決めおらず、広範囲で遊び動きも更に活発になっていったと思われる。保育士も全体を把握しきれず、転んだことにも気づくことが出来なかった。	行動の限度を考えていくことや、遊び等の環境を整えていくことに努力し、遊び方の工夫を考えいく指導心を掛けたい。骨折が発生することを油断しないように危険保育中も危機管理を意識する。	
8567	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	6歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘打撲上傷、左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（５）回/年	1.基準以上配置	対象児の目を対して、どのような危険が考えられるか、どのような提供方法を守ると良いかが合えるよう話していかった。	危険を予測し、安全に遊べる提供の場仕方や場所を考え実施する。また、職員が把握し全員で把握するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度（240）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（240）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（200）回/年	テラスに下ご座ったり駄をしたりとしたが、バランスを崩すやすい危険あっしためであった。	下駄の着脱にはチ等を用意する。また安全な場所に配置する。	1.集団活動中・見守り	対象児の見守り、補助が不十分だった。	バランスを崩し倒しやすいことを把握し、必ず保育士が側につく。	1.いつもどおりの様子であった	一人で下駄をはいて遊び、保育士に保育その姿をいて見せていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見ていて、転ぶ守ったが、倒時支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所で遊んでいたので、すぐに片付けの時間こちらを知らせることができなかった。	運動会の練習を予定しており、時間とのゆとりが持てなかった。	活動時間に余裕をゆとり、落ち着いて過ごしたり、接したりする。	
8568	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右眉上部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員配置して には問題と思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎週末		水道の角にショ部分にクッション材をはる。	1.集団活動中・見守り	特になし	特に環境は問題はないと思われる。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	数日前より邪気風味で、鼻水が多くなくしゃくしゃくよくいら鼻をかむこと頻繁であった。	3.対象児の目が離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せる位置に位置が、保護者のも護者にしかけられた時と同時であった。ゴンという音を聞いて本児ところのとに駆けつける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	トラブルを起こした子を落ち着かせるために廊下に出ていて、見ていなかった。		常にこどもが見えるように立ち位置を考える、保護者対応時は、もう一人の保育士とも連携が取れるようになど、職員全員で再確認する。	
8569	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	0	0	15	17	0	0			5	5	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	近くに保がい手をで共有たが持つの対応をしなかった。	近くにいない危ない時には補助対応ようお助きるにしく。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	成長発達あそびの合った提供と補助	近くにいない危ない時には補助対応ようお助きるにしく。	1.集団活動中・見守り	鉄棒には必ず一人は補助保育士を置く事にする。	近くにいない危ない時には補助対応ようお助きるにしく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であり、捕まえられずに逃げようとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	落ちる瞬間すぐに出て補助が出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	落ちる瞬間すぐに出て補助が出来なかった。	鉄棒前回りで一人は補助保育士を置く事にする。	鉄棒には必ず一人は補助保育士を置く事にする。	
8570	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故報告で職員共有し、危険箇所を把握していく	降園時は猫除けの為シートが被せてあるので、足をかけられやすいことを園児に伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	特になし	特になし	7.その他	降園時のお迎えを待つ間の事故で、砂場のシートの張り方やお迎えを待つ方法を考える。	降園時、子どもの所在をきちんと確認を伴うことについては注意していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児の目が離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見ていたため、園児が遊んでいた事に気づかず、転倒しているところを見て発見する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児のトラブルの対応をしていた。	運動会の練習を予定しており、時間とのゆとりが持てなかった。	特になし	担任2人の位置を考えながら、見守る。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
	年月日	認可・認可外	業所種別	月	時間帯	発生場所													年齢	性別	特記事項	発生時状況	転帰	死亡	負傷	負傷状況	受傷部位	誘因	マニュアルの有無	実施頻度【回/年】	職員配置	要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	要因・分析、特記事項	改善策	育成支援の状況	要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	何をしていたか	他の職員の動き	何をしていたか	要因・分析、特記事項	改善策	更新年月日
8571	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	8									2	2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外側顆骨折(左)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	本児の上に他児が被さった時点で止めるべきだった。	行動の予測をしながら、危険な行動についてはとめる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年 定期点検年2回	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ﾏｯﾄの上で、走ったりジャンプしたりして遊んでいたが、本児がうつ伏せ寝の状態で寝転がっていたため、身体の上に被さってのってしまった。	危険な行為については、すぐにとめる	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	少人数だったので、活動しやすく普段より子どもたちの気持ちも高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいて見てはいたが、他児の目に行動を瞬間におさえてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動きをみていた。	一緒に行動した子ども達の中で、支援が必要な子もいるとどうしてもその行動を追いになってしまうところがあった。	危険な行為については、きちんと注意していく。子どもの姿を見ながら職員同士声を掛けていく。	
8572	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	10	2	4	4						4	4	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	子どもの行動の予測ができなかった	高さのある所に上行為について、職員同士で共通意識を持つ	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	いつも行なれて公園しきないるで遊べると思っていた	遊びだす前に安全確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの予測が出なかったことで落ちてしまった。	高さのある所に登ろうと行為について職員同士で共通意識を持ち、ちろかもしれないと行動の予測をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	担任とはいかかこをいたが、つかまりたくなって逃げようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見た	担任が子どもたちを追いかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が他でいて遊んでいたちら側を見た。	高さのあるところから降りようとした時点で、行動が予測ができなかった。	「落ちるかも」を予測しながら行動し、できるだけ怪我をしないようにしていく。	
8573	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		改善点はありません。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日 (1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年 (1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	床が滑りやすい。	床の滑り箇所には防滑剤を塗る。	1.集団活動中・見守りあり	突発的な転倒だったので、保育士がすぐ対応できなかった。	保育士は様全体の様子、子どもの動きを把握する。危険な場面があれば素早く対応する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から落ち着きがない、突発的な行動を等は全く無い。	3.対象児離れたところ対象児を見ていた	全体把握よとできるようにすたちの見守りを行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当が1人であったため、他の職員はそのいなかった。	子ども達には、上履きを脱いだ時の転倒等の危険性を伝え、十分気をつけるよう注意喚起する。	床が滑りやすいので、子どもたちに上履きを脱いだ時の危険性を伝え、十分気をつけるよう注意喚起する。	
8574	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				13	12				3	3	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足甲骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員配置としては基準以上の配置で改善策はあり改善策はたらない。	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし	危険箇所改点善すはなかった。	1.集団活動中・見守りあり	いもむしを年長児の動きを年中児一緒に行った。	子どもの発達を踏まえた上で一つの動きを年中年長児、別で行うのか一緒に検討していく。	1.いつもどおりの様子であった	しゃがん年中児とつだまま、なかって進んでいた時に、前にいた年中児にぶつかり体勢をくずして転んだ。	3.対象児離れたところで対象児を見ていた	1名で全体を見ていた。対象児が体勢を崩しても転んだりは見ていたが離れたところにいた、未然ことは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名はピアノを弾き、1名は配慮が必要ども児いた。	特になし	子どもの動きを予測し、異変を感じたら、すぐに駆け付けられるところに保育士がいるようにする。	
8575	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	足に靴のサイズがあったか、マジックテープがしっかり止まっていか。	靴のサイズ方や履き方を確認している。園庭の小石や段差等不安材料がないよう整備していく。	3.個人活動中・見守りあり	身体の重心がずれ、バランスを崩した。	色々な運動に取り組み、体の柔軟性を育む。	1.いつもどおりの様子であった	特に高揚感があったわけでなく、普段通りの様子だった。	4.対象児を見ていなかった	園庭で遊んでいる全体の様子を見ていたが、転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる全体の様子を見ていたため、転んだ瞬間は見ていなかった。	特になし	特になし	
8576	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				7	12				1	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	転倒による大怪我が発生する可能性を十分に周知する必要があった。	全職員を対象に、事故を予測し守りを行うよう指導した。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	小石や、雑草による地面の凹凸がある。	足を取られる可能性のものを取り除く。	3.個人活動中・見守りあり	下り坂では、早さを調整して走るよう注意を促す。	運動を取り入れた活動を十分に取り入れ、経験を重ねるとともに、筋力の上昇を促す。	1.いつもどおりの様子であった	走り回って遊ぶことを好むため、普段通りに園庭全体の見守りをしていた。	4.対象児を見ていなかった	他の園児から、遊びをしてほしいと言われ、視線をそちらに向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員1名で保育中	こまめに注意を促す声をかけが必要であった。	危険が予測される場合は、こまめに声掛けを行う。	
8577	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13									4	4	2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第２指骨骨中節骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	木製遊具で子ども上でがバランスを崩ることを予想し転倒することを予想した、保育士の動きが足りなった。	ロープネット上に複数名子どもが乗る場合は、保育士もロープネット上に乗る。事故発生時のように子どもがバランスを崩して転倒した場合、すぐに支え立ち上がらせることを全職員で共通理解した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	木製遊具ロープ上のネットで、他児一緒に、と遊んでいた、尚、普段から遊び慣れている遊具であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	木製遊具構で、ロープネット上のたちネット上の子どもたちを見守っていた。本児がバランスを崩し転び他児が覆いかかさるようになったことは見ていたが、事故発生の要因である手を踏んだ瞬間は、他児の体に隠れて見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体に広がり、近くにいる子ども、や保護者の様子をそれぞれ見ていた。	特になし。	特になし。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面							ハード面							環境面					人的面							
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																			死因	負傷状況	受傷部位	診断名																			理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8578	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	34				18	16			2	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肩骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	職員は近くにいたが急いで部屋に入ろうとした為ろっていた足元を見移動した。	職員は余裕をもって声掛けをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	移動式舞台の置き場所。	移動式舞台の置き場所の検討	1. 集団活動中・見守り	なし	園庭の安全環境の見直し。	1. いつもおお様子であった	入室の際慌てていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラスの部屋前にいた。(園庭に隣接している)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近距離にいたがクラス活動をしていた。	クラスの前にいた為転んだ瞬間は見ていない(視野には入っていない)	時間に余裕を持った活動。個々への声掛け。	
8579	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	17								2	2	3歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷			4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	右目下の裂傷	5. 他児危害を加えたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	事故当日は子どもの特性を理解した対応が不十分であった。	配慮の必要な子についてはその状況をきちんと把握し、職員間で共有し意識をしながら見守っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(200)回/年	室内とその前のホールと分かれていたが、互いの職員は見えない位置にいた。	室内での職員配置を確認し、トラブルはすぐに対応するように。	1. 集団活動中・見守り	ブロック遊びが集中したこともあり、そこに向かう子どもの人数も多かった。	ブロックでなだけでく、遊びが分散されるよう環境設定を行う。	1. いつもおお様子であった	対象児については通りの様子であったが、相手については対象児それぞれとの以前のトラブルより納得がいっておらず、気持ちは不安定であった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	ブロック遊びを同じ空間で見守りながら子ども達と遊んでいた。怪我発生以前のトラブルについても把握していて、間に入り互いの話しを確認するなどの対応をしていた。その際に子ども同士が納得し、解決したように感じていた。相手の子のすっきりしない思いに気づけなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋の前のホールで、別のお子と一緒に遊んでいた。	相手の思いがなかなかきっかけで再燃し、突発的に噛まれてしまった。	配慮の必要な子については、その状況をきちんと把握し、職員間で共有し、見守ることができるよう職員を配置しておく。	
8580	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	8								4	4	1歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回以上/年	1. 基準以上配置	特になし	今回は保育士単独の転倒のため、マニュアル等の改善は行わない。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	特になし	何もないところで転倒のため、室内環境における改善は特に行わない。	6. 食事(おやつ)中	特になし	保育士の配置や見守り等十分だったため、環境面の改善は特に行わない。	1. いつもおお様子であった	保育士に抱静かに抱かれていた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	1人を目いな児で追いかけるが本児を抱っこしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつ中で見ていなかった。サークルの中で保育者も背を向けて見ていなかった。	特になし	子どもを抱いている時は特に注意して歩く。滑りやすい靴下をはかないなど足元に注意する。	
8581	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	20								1	1	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右母趾中足骨骨折、右第2趾中足骨折、右第3趾中足骨折	2. 自らの転倒・衝よるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	4歳児クラスの担任1名が遊戯室にて運動会の体操の練習を指導していた。	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	運動会に向けて園児の意欲を促す必要性を感じていた。	運動会の体練習の練易は難度の動きは無く改善の必要はない。	1. いつもおお様子であった	朝の登園時、機嫌が悪く母親から離れずかったが、そのいつもの後通動ができていた。	2. 対象至対象児の近で対象児を見ていた	本児は室内での鋼の支度など通常通り行動を。体操の練習を変わらず参加でき本して気持ち体児に対しても特別に対応をかけず、全体的な指導を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし	他児とよな同じような運動行為をしようとあせっている気持ちが出ていたのではないか。	登園時機嫌が悪いときは、寧に声をかけ、些細な変化を見逃さず落ち着き工夫する。	
8582	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	43				11	19	13		3	2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位骨折	5. 他児危害を加えたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	玩具の片付けを一行う行き、保育士の目が届かなくなり、トラブルが多発する。	片付け時間をし、保育士の行きようにし目くにした。	1. 定期的に実施	実施頻度(約60)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(240)回/年	保育環境の見直し(玩具コーナーの配置)	絵本コーナーの横にままごとコーナーがあったため、遊びの動線を考慮した配置に。(静と動の遊びが混在していた)	1. 集団活動中・見守り	一斉に片付けると、気持ちが高ぶり揺れしトラブルが発生しい。	死角を作らないよう、玩具の配置に配慮する。	1. いつもおお様子であった	絨毯の上に座っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けを手伝うため、本児から少し離れた場所にいた。トラブルに気付き、対応しようとしたが間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレに付き添う別のトラブルの対応・登園児の受け入れ	朝の職員ミーティング中は担任が不在の場合もあり、個々の把握がしにくい。	ミーティング終了後に行う。	
8583	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	50	0	0	0	18	14	18	0	8	8	5歳	1. 男児	既往歴なし発育・発達状況問題なし(活発)	1. 屋外活動中	1. 負傷			2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	園外活動におけるハザードがマップで分でハザードマップを不十分であった。	園外保育保引率全員付近省略を実施。園外活動のハザードマップをたる職員検つくめ、職員検討した。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	今回は園外活動のため、下見の機会が見た見の危険ない所か、年齢に応じた遊び発達に危険が発達に遊び合った不か、話し備えが不足していた。	足の下際足見に、遊具付近に及び危険ない物が点検を危険が方指よ物がなし、危険がなし指示に引率に遊び対つなし、引率に遊び対する遊び全員に遊び対する者全員に周知する。	3. 個人活動中・見守り	足といることり普段より浮かれ気分で、不慣れな遊具で遊ぶ子どもたちとの約束事が不十分であった。	園外活動先での過ごし方は、園児・職員共に慣れていないため、予想される姿を事前によく話し合い、全員で共有すること、約束事を園児にきちんと知らせること、が重要である。	1. いつもおお様子であった	いつも通発に遊び活発でいた。	4. 対象動児を見ていなかった	遊んで良にしなら、遊ぶ制限ながら、子どもの遊ぶ様子を見ていたが、事故の状況は見てしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当と同じように遊ぶ子どもたちを見守る職員2名、レで職員1名、お弁当を食べている子ども見る職員4名。	弁当を食べ時間に差があり、トイレ・遊具と行動範囲が広がり職員が目が行き届かない時間だったため、職員の立ち位置に配慮が足らなかった。危険を感じたり立ち位置を逆ったりした職員は声をあげるべきだった。現地出発するまで過ごし方の見通しが出来ていなかったことが大きな要因である。	弁当を食べ遊具場所やトイレに行き届くようにする、トイレに行く子ども以外は同じ場所で過ごせる工夫をする、等の改善策をあげる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面							ハード面							環境面					人的面						
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8584	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	16								2	2	3歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	職員の見位置いて守りに十分な話し合いがされていなかった。	危険が予測される場所につ工夫対応よ全知いて話し合い、配置をしてできる職員に周する。	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ジャングルジムの高さと子どもの年齢があっていたか。また落下した場合の対策が取れていたか。	周りに危険ないか再度点検を行う。を人工芝敷くなどの対策をとる。	3. 個人活動中・見守り	対象児のでの守りが近くで見守り不十分だった。	しっかりと見届けが必要な場面に保育士がいるようにする。	1. いつもお様子であった	友達と遊ぶ具で遊ぶことを楽しんでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	近くで見ていたが、落下する場面で受け止めることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所で遊んでいる子を見ていた。	職員同士の携が不十分であったかもしれない。	お互いに声を掛けあい、それぞれの場所で遊ぶ子どもたちの把握に努める。	
8585	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	48	0	0	0	17	16	15		19	15	5歳	1. 男児	発生前日が雨の為、遊具が濡れていた	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折、左橈骨骨骨折、左尺骨骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2. 基準配置	危険ない場所は把握その安全会で行っ子に合わ対応せた対応が必要なので、場面をで予測できる職員の危機管理能力の向上を図る必要がある。	危険予知シートヒヤリハット使い、職員の危機管理能力の向上を図る	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用時に毎)回/年	今回の事故においては不問題は無いと思われる。	全マットの上に上でしたこと気がたこまと付いらに掃除をするめるように周た。	1. 集団活動中・見守り	待っているように促すだけなく、その場に座らせる待ちなどの子どもたちに合わせる作業に合わ対応必要がある。	遊具は職員がいる時のみ遊べるように掛け看板を置き、園児に説明でもわかるようにした。	1. いつもお様子であった		3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	対象児が鉄棒で遊ぼうとしたところ鉄棒が濡れていたため、担当職員が本児に雑巾を取ってくるから待っているように話をしその場を離れた。本児は待っていることができず1番低い鉄棒で前回りをし、鉄棒に腹ぐ乗った際に手を滑らせ落下。安全マットに左手を付いたが骨折してしまった。隣の遊具に職員がついていたが間に合わなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	それぞれ遊具に職員がついていた。すぐ後に駆け寄り、本児室にに運れてきた。	本児が鉄棒に自信があったため、濡れても大丈夫と過信してしまった。また普段も保育士の話を聞き流しし事があった。	園児を園庭に出す前に、職員のふき取りを済ませる。十分な職員配置が出来ない時は、園庭に出ることを見合わせる。	
8586	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	14								1	1	4歳	1. 男児		1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	5. 下肢(足・足指)	左第2趾挫創左第2趾靭帯損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2. 基準配置	危険予知能力が低い	危険予知トレーニングをする	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日２)回/年	保育室が狭い	必要面積たしているの施設の検討ので改善は検討しない。	1. 集団活動中・見守り	上履きをいていない。上履くなかった。支度をするため気ぜわしく動いていた。	上履きを履くことを徹底させる。室内では出られない、落ち着いて行動出来るようにする。	1. いつもお様子であった		3. 対象から児を見ていた	全体が見える位置で、子どもたちが支度来ると声をかけながら全体の支度が出ようにしし見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	対象児のクラス1人担任。隣のクラス職員かいるクラスは気かっなかった。	上履きいながこ見しいることを落としてまった。日常的な朝の支度で危険度で危険知アンテナするが低かった。	どこにでも危険は潜んでいることを再認識して注意してみる。	
8587	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	5	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	30								5	5	2歳	1. 男児	特になし	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2. 自転車倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	滑り台の上と下に職員が付いていなかった。	滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	思いのほか滑りがよかった。	滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。	1. 集団活動中・見守り	滑り台と両方で遊んだ玩具の遊び反応が遅れた。	どちらか一つの遊具、玩具で遊ぶ。	3. いつもも活発で活動的であった(理由を記載)	他児と共に順番で滑る。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	滑上職員が一人台の台の下に付ホールとと声をかけ一人ずつ順番に掛けら滑らせる。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り終えても次に降り子と接ったが、滑り台の声をいてども触しよう掛けた。	対象児途中で体制をでを変えることが予測できなかった。	遊ぶ前に滑り方や遊びしっかり方を伝える。滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。	
8588	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50				19	15	16			4	6歳	1. 男児	月曜日から雨続きで外遊びが制限され、体を十分動かすことができていなかった。今朝は晴れて、嬉しい気持ちが先にたっていた。	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置	対象児が年長だったので、職員の危険要素の認識が甘く、遊びをまで至らなかった。	園庭での遊び方を職員で確認し、子どもたちへの説明、注意を周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(350)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	園庭で遊ぶ人数が増え、鬼ごっこでスペースが逃げるスペースが限られていた。	園庭での状況を確認し、安全な遊び方を園児に伝える。	1. いつもお様子であった	いつもと変わらず健康状態は良かった。	3. 対象から児を見ていた	対象児と鬼ごっこをしている見ていたが、築山登り姿を見ることで注意して声かけをした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の状況は見て、対象児の遊び方を他児のを遊びていた。	早番から普通に移った時間帯で友だち増えたが高揚し、ごっこ捕まえ気持ちが大きくなった。鬼ごっこ捕まえ気持ちが大きくなった対象児の危険度予測をできなかった。	事故事例を振り返り、危険を予測する。園児に、園庭での遊び方を伝えてから鬼遊ぶ。ごっこを始める前には築山へは行かないことを伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面						環境面					人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8589	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			20	22	22			5	5	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園庭の見渡せる場所に設置されており監視はしていたが、手の範囲ではなかった。	全体を把握し、バランスの配置とれるよう行動とよう する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	遊具に問題はなかったようだが、降り方に問題があったのでは。	遊具の使用方法・遊び方を指導する。	1.集団活動中・見守り	数人で楽しく遊んでおり、本児の気の緩みもあったのではないか。	遊びの中にも危険はあることに促しとが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り集団で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた所にいる当職員が、すぐに駆け付け手首の具合を確認する。	2.担当者・保育士が他の園児を見ており、本児の動きは見ていなかった。	他の園児をみていなかった	起きないだろうという油断があったのではないか。	集団での活動中、注意深く監視するよう心掛ける。	
8590	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6								2	2	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷			4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下口唇裂傷外傷性歯牙打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員配置では問題なしと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日		面積値も上回規定あり、問題なしと思われる。	3.個人活動中・見守り	床におもちゃがあった。	床におもちゃが散らばらないよう、ていおもちゃは片づける。	1.いつもどおりの様子であった	お気に入りのおもちゃを使えたことが嬉しく、おもちゃを持ち始める。日頃からおもちゃを踏んで遊ぶことがあり、その走りおもちゃをもうと踏し転倒する。	2.対象児の近く象児を見ていた	本児に声をかけ、走ると走ろを止めこうとに行ったところあった。転倒の際、手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・保育士が他の園児を見ていなかった	他児とおもちゃであそんでいた		日頃より座って遊ぶ声かけや習慣づけをする。走り始めたら、すぐに保育士が対応する。	
8591	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	19								5	5	1歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	5.下肢(足・足指)	亀裂骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(350)回/年		飛び降り台を低くし30cmほどにする。飛び降りるくるる所にマットを敷く。	1.集団活動中・見守り	体を動かして遊びたい子どもたちの欲求を満たす為に設定したが、1歳児には適切でなかった。	1歳児の身体能力、個々の身体能力を見極め、保育環境を設定する。	1.いつもどおりの様子であった	体調は良く、ちと台から飛び降りることが楽しく繰り返していた。	2.対象児の近く象児を見ていた	台から飛び降りることを側で見守っていた。怪我やトラブルを繰り返さないように、必ずそばから離し目を離さない。	2.担当者・保育士が他の園児を見ていなかった	別の所でいた園児と、給食の準備をしている園児の保育をしていた。	園児たちが飛び降りることを怪我やトラブル楽しんでいたので、少間他対でしならへ応がと思い込んだ。	子どもの動安を見て安できて観察をし、少しでも危険があれば修正する。常に何か起こるかの可能性がある子どもの場ことを前提にその場を離れないを離れなければならないことがあったら、他の職員に声をかけ対応する。	
8592	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21								2	2	4歳	2.女児	平常どおりの健康状態で登園	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手指骨折（ヒビ）	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	イスの上に立つことの想定が十分ではなかった	イスの上に立たないよう伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	本児のイスに異常はなく床がともなかった	イスの上には立たないイス行方の座り再確認をしていく	1.集団活動中・見守り	イスの上にとしたとめ	イスの上には立たないように危険ある伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	体調は良好	2.対象児の近で対象児を見ていた	本児が遊んでいる様子を見ていて、守ったが想定外に立ちバランスを崩して落下、すぐに駆けつけ対応する	2.担当者・保育士が他の園児を見ていなかった	担当保育士が本児対応する様子を見てその場へ駆けつける	イスの使い方、正しい方を再確認する	保育者同士とり、見守り声掛けを強化していく	
8593	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	1	1	5	3	4	7	0	5	4	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	低い固定遊具でもバランスを崩してする想定を落下することの想定ではなかった	低い固定遊具でもバランスを崩してするあので近守落下するのでるくる	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	固定遊具には異常はなくきに問はのつなと題がある	固定遊具方手伝いく固定遊具方登り再度伝えていく	1.集団活動中・見守り	固定遊具に登りランスした崩め	固定遊具方法バランスを崩すこと伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	体調は良好	2.対象児の近で対象児を見ていた	いつもどおりに固定遊具に登って様子を見ていたらバランスを崩して落下した子の本児のところへ行き対応	2.担当者・保育士が他の園児を見ていなかった	担当保育士が本児対応する様子を見てその場へ駆けつける	固定遊具すぐ隣に保育者が配置されていなかった	保育者同士で連携を取り見守りを強化する	
8594	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22								1	1	5歳	2.女児	平常どおりの健康状態で登園	2.室内活動中	1.負傷			2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	前歯2本にひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	紙飛行機を飛ばし要因はなねる想定が十分でなかった	紙飛行機の飛ばし方を伝える	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	保育室の床は滑るが原因はなかったが紙飛行機を掴みそこれた	転ぶときには手をつくことを伝えるこを	1.集団活動中・見守り	遊びに夢中になり、転ぶ際手をつくことなく顔から転んだ	転んだときには手をつくよう伝える	1.いつもどおりの様子であった	体調は良好	2.対象児の近で対象児を見ていた	紙飛行機いかいたみそこれるとは思はそのまま顔から転倒	2.担当者・保育士が他の園児を見ていなかった	担当保育士が本児対応する様子を見てその場へ駆けつける	紙飛行機で遊ぶ際は掴まれたりすることも想定していく	保育者がクラス全体への見守りを配慮する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																			死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
8595	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17									2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		今回の事故検証、マニュアルを再度確認する。再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎日遊ぶ前の安全点検を再度行い、危険な箇所を見つけたらその都度改善する。	1. 集団活動中・見守り あり	ベンチからのジャンプ等の危険を伴う遊びが日常的に行われていた可能性がある。	ベンチを他の場所へ移動した。衝撃が和らぐように転んだ場所に砂を増量した。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	本児が一人で階段を下にいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見た。		職員の立ち位置に気を付け、1人1人の子ども の動きを見守る。危険な所は側で見守るようにする。	
8596	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	19									1	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上前歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	狭い園庭でのボール遊びの楽しみ方について気になっていたが、年度初めの確認以降、話し合う場を設けていなかった。	ボール遊びを初めとした園での楽しみ方について会議にて考え、周知した。	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭が狭く鉄棒のない園庭のボール遊びを中心とした遊びの状態でボールを使っていたのか。	園庭と鉄棒のないため、ボールを使った遊びをする場所をわかりやすくするため、保育士が立ったり立ち位置を変えたりして位置を知らせる。また、保育環境を十分に見直した上で、遊びの場所は適しているのか。	1. 集団活動中・見守り あり	十分に見守れる位置ではあったが、本当にその場所は適していたのか。	夢中になってしまうと危険を伴うこともあるため、全体の子ども の遊びの危険を予測しながら遊びを提供していく。	1. いつもどおりの様子であった	友達とサッカーをしんでいた。	2. 対象至児の近く対象児見た	園庭を見渡せる場所で、他児のドッジボールを見守っ たり、対象児達がしているサッカーを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス他の園児は、準備のそれぞれの部屋に入りに動いた。	5歳児のみ戸外に出ており、いつもと変わらない遊びをしていた。鉄棒にぶらさがるなどは追わないようにしている姿を見ていたため、安心していた。	常に絶対的な安全はない。「いつも通り」が特に危険であることを念頭に置き保育をしていく。	
8597	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	16			6	7	3				2	2	4歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左示指基節不全骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	なし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	なし	特になし	1. 集団活動中・守り あり	寒さで手がかじかむ。また冷えて体も硬くなった。ブランコに乗り慣れていなかった。	気温や遊びの様子を見ながら、温まる活動も取り入れて、ブランコの乗り方を確認しながら、降りるところ見ていく。	1. いつもどおりの様子であった	特に高揚感があったわけでなく、普段通りの様子だった。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	ブランコのそばで乗っている様子を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる様子を見ていたが、全体の様子を見ていたため、ようとしたところ見ていなかった。	年末年始休明けで登園人数が少なく、担任以外が保育にあたっていた。	異年齢保育の中では特にクラスの中での経験やその子の発達や特徴を職員間で確認する。いつも以上に気を付けて見守っていく。	
8598	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	81	3	11	15	15	18	19	0		14	14	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	過去にも絨毯やござを巻いたり広げたりする時にタイミングが合わず手に少し巻き込まれる等のケースが起きていた。ハットヒヤリハットとして報告されていたが、そのようなケースが新たに入った職員たちに引き継がれていなかったりだし、活かされていない。	過去のヒヤリハットケースを活かし、以前から引いる職員が引き継ぎ、注意喚起をしてく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年		ござに傷みはなく、つまずき事故に繋がっていないため、ござを広げる方法、活動を広げる時の順番を改善していく。	3. 個人活動中・守り 見あ	ロールタイプのござを2人で転がして広げていた。転がす場合は、スピードがいつもタイミングが合わず、転がして広げるタイプのござだったため、2人で広げると1人で転ぶ時よりも勢いがついてしまったのではないかと考えられる。	ござを広げる場合はござ1枚に対し、1人で行う。	1. いつもどおりの様子であった	ロールタイプの睡眠用のござを2人で転がして広げていた。	3. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	グループごとの素直なコップの片付けをレイに行き、園児をイメージしてござを広げる園児の見守りをした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任のため他の職員はそのいなかった。		２つの活動を同時進行せずに、職員の目が十分届く状況下で園児がござを広げるように すること。職員がござを広げる。	
8599	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	62		11	11	17	12	11			23	19	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	転倒等の際に視診のみ行っていたが、触診をしていなかった	どのような場合でも、外傷際と触診を行う場合と、を疑う際は視診と触診を全身を徹底することを徹底する	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(52)回/年		証拠検事後カメラ設置(●月●日取付工事)ができるように監視を	3. 個人活動中・守り 見あ		子ども同士の接触性の可能性を低減させるために室外の入れ替わりを一斉に行わない	1. いつもどおりの様子であった		4. 対象児の見ていなかった	転倒の瞬間には、ちょうど誰も本児を捉えることができていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見回る職員、遊具等ほかの遊びにいた子どもの見守りをしていた職員、他の子どもに個別対応していた職員等がいたが、転倒の瞬間にはちょうど誰の目も本児を捉えることができていなかった。		全体把握担当者をおき、そのための人員確保として雑務担当を7名一職員に依頼	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面				人的面										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	事故誘因	診断名	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																												実施頻度【回/年】																								
8600	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				13	25				4		4	5歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	小指・基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士と向かい合ってボール遊びをしていたが、慌ててボールを取りに行き、指につまづき、当たってしまった。	ボールの受け取り方の再確認をする。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	使用したボールは、空気多くていて、2台入って、硬かった。	遊びの内容に適したボール使用し、空気の入れすぎに気をつける。	1.集団活動中・見守り	本児が楽しくなり、テンションが上がり、ふざけるも見られた。	楽しさには共感するものの、ふざけると怪我がつながることを知らせていく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	遊びが楽しくなり、テンションが上がっていた。	1.対象児とマンツーマン状態(対象接していた)	対象児と向かい合ってボール遊びをしていたが、楽しむと共に、共感し本児も一緒に楽しんでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他3名は園庭にいたが、別の遊びの様子を見ており参加していたので、見ていなかった。	保育士が一緒に楽しむと、本児のテンションをさらに高めてしまった。	どんな遊びでも怪我につながるという意識をもつ。	
8601	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									2		2	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折・右尺骨肘頭骨折	1.遊具等からの落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事前に鉄棒の握り方(親指を下から)を子どもに確認することを職員が把握できていなかった。	運動器具を使った安全な遊び方を職員が共通理解をする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	鉄棒に挑戦したい子が増えていたので、2台を用意し、鉄棒の補助が届く位置がなくなった。	移動鉄棒しを設置したときの適切な補助の場所を確認する。	1.集団活動中・見守り	ひとりひとりの遊びや興味や運動の経験の不十分だった。	活動の中で個々を把握していく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	友達の様子を足掛け回り足掛けしたい思って行った。	2.対象児の近く象児を見た	隣の鉄棒子にいる子の補助をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで跳び箱の補助についていた。	移動鉄棒一台一人の補助が必要だった。	運動器具を使った遊びに興味が出るようなどうい遊びに挑戦するか予想し補助が必要である。	
8602	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4	0	1	2	0	0	1	0		2		2	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	4.玩具・遊具等転落・設・設安全上の不備にもよるの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園児が少なくなり気のみがでた。砂場の砂の減少に伴う危険がある職員に職員会議にて報告、砂が入るまで砂場の中に保育士が園児の安全を守る確認が守られなかった。	事例検証後、再発防止にとり年齢別安全マニュアルの作成。リスクマネジメントの研修。	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	砂場の砂が減少に深いなっより穴にしてしまった。	砂場の砂の定期的を補充すぐに補充出来なかあらか砂場の砂の定期的を補充すぐに補充出ないあるかのあらかじめ予備をおいておく。	1.集団活動中・見守り	当該園児職員は、すぐっていた園児にどすぐ困っていた。	砂場の砂を定期的に補充すぐに補充出ないあるかのあらかじめ予備をおいておく。	3.いつも活発で活動的であった(理由を記載)	保育士とお砂場まわりで砂遊びやお虫探していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当を決めていかが、そばに一緒にしてしまい、園庭に降り場一人、園庭に降り場踊りでいる園児の対応に他の職員に声掛けせずを離れて行ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児2名を見ていた当該児童に向けて当該児童と一緒に職員を気にかけていなかったので、移動した職員の動きに気づかず、当該児童に配りしなかった	園児が少なくなり気のゆがみがでた。砂場の砂の減少に伴う危険がある事を職員に会議にて報告、砂が入る砂場の中に保育士が園児の安全を守る確認が守られなかった。	事例検証後、再発防止にとりくみ。年齢別安全マニュアルの作成。リスクマネジメントの研修。	
8603	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42				21	21				2		2	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		子どもの人数に対する必要職員配置できていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年		施設や遊具、玩具備で事なの起きた故なかった。	3.個人活動中・見守り		延長保育の戸外遊びから起きた事故とは言えない。	1.いつもおりの様子であった	母親が迎えに来たことに気付き、シャベルを手に持ったまま走ってこうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	別の保護者の対応をしていて、対象児が転んだことに気付かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコについていたため、対象児の動きを見ていなかった。		どんな時も全体に目をこどもを配りこどもの様子を把握するよう努める。手に物を持ったまま走ると危険であることを子ども達に伝える。	
8604	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				22	25				5		5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上骨折	1.遊具等からの転・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットを活用し、日常の保育の中の危険を職員全員で共有していく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具・施設は定期的に点検を行っており、不備はない。	1.集団活動中・見守り	子どもの運動能力が育っていない	日常的に戸外での活動を増やし、運動能力を高めていけるように配慮していく。	1.いつもおりの様子であった	保育士は片付けを行った。本児は太鼓橋にぶらがった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体へ声掛けをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ園庭全体に散らばっていたが、太鼓橋付近にはいなかった。	保育士守の見守り、片付けの役割分担がはっきりしていなかった。	片付け時は見守りと片付守りと片付けの援助を行う保育士に分かれ役割を明確にする。	
8605	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									1		1	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員研修(危機管理)の実施から時間が経っており、意識に欠けていた。	大型積み木を使って遊ぶ際は保育士が側に付き、危険がないように見守ったり、安全な遊び方を共通理解する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型積み木大サイズ(120×30×15)中サイズ(60×30×30)小サイズ(30×30×30)単位はｃｍ素材は木製	保育士が積み木の定期的に遊びにそばに付けない時は積み使用木のを控え、または小さいをしてサイズ限定して使用する。	1.集団活動中・見守り	朝の受け入れ時と重なったの園児が動きが多かった。	ケガの発生を受け大型積み木の使用を職員会議で協議する	1.いつもおりの様子であった	友達とのトラブルもなく遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	積み木でいて遊ぶときは目視確認をしていたが、すぐそばにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室前のテラスに職員はいたが保育室の中は見ていなかった。	大型積み木のそばには保育士が付いていなかった。	大型積み木を出す際は担任が付くか他の保育士の応援を依頼する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面									環境面			人的面									
								人数	異年齢構成の場合の内訳																		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】													
	掲載年月日	認可・認可外		月	時間帯																		死亡	負傷状況	受傷部位	診断名																											
8606	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	転倒からの骨折を想定し、全身チェックする訓練を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	初めの転倒の原因となった地面のへみを平こらにした。	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保育室に戻った後、いつも元気な様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応で見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関内の他児を見ていたため、事故の瞬間は見ていなかった。	本児は口数が少なく状況説明することが苦手なので、全身をもっと見て触れるべきであった。	けがの程度に関わらず、全身を見て触れて確認をする。	
8607	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									1	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨複雑骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	園児に対し、縄跳びもっ走とままないと注意喚起した。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭での自由遊びご遊びに範囲とを決めて行う。	1.集団活動中・見守りあり	園児が多数出ている時間に縄跳びを使用した。	園児が多数出ている時間には縄跳びを使用しない、または範囲決めをする。	1.いつもどおりの様子であった	縄跳びをした場所を移動しようと、走りとびをしかけた時に転倒。縄跳びを持っていたので、手がつけず、肘をついてしまった。	2.対象至児の近で対象児を見ていた	保育士も一緒に縄跳びをしていた。本児が転ぶ姿を目撃し、すぐに向かう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を見守っ、子ども達と遊っていた。	特になし	できる範囲、多数の保育士を配置する。	
8608	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	5.他児から危加れを害えたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(常時)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置基準題はなく、マニュアルに沿っているため、改善策はなし	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	芝生の園庭に危険なに物もなく、広い場所でのため、改善策はなし。	3.個人活動中・見守り	担任は部屋に入るが行き届かないまだ遊んでいる子ども準備をしているお子どもの対応をしており、当該園児の様子に目を向けていなかった。	目が行き届かないまだ遊んでいる子ども、他職員に声を連携をとっ、子どもたちの状況を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登園し、良体調不良、元気な様子で戸外遊びをした。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内へ入ると入るなり、玄関付近で入り口の動きを見ていた。子達への対応をした。対象児は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には他クラスの保育士が1人いたが、分のクラスの子と遊んでいた。対象児の動きは見ていなかった	本児のクラスは部屋へ入る時間で、部屋へ入ろうとすると、まだ遊んでいる子がいる状況で部屋へ入る子どもの方に担任は対応していた為、本児から目を離してしまった。	目が行き届かないまだ遊んでいる子どもに、他職員にも声をかけ、子どもたちの状況を把握する。	
8609	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	79					31	48			6	6	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	(右手首骨折)右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/日	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	年長児と追いかけっこを逃げし転倒する。ひざに擦り傷があり手当てをしたが、テにてラスに横になり痛がる様子が見られた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児と別の遊びをしていた本児の遊びの様子を離れた場所で見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びの援助、後の身支度などの援助それぞれが分かれて応した	遊びが混在しており、各遊びの間を通っていけっこ逃げが展開されて、走るスペースの確保がされていなかった	遊び方や場所を確認しあい、できる限り混在しないような遊び方をすすめていく	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析									ハード面								環境面			人的面						掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面									施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況			対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	理由	具体的に何をしていたか	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8610	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25				11	14			2	2	6歳	1. 男児	なし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	(右腕骨折)	2. 自らの転倒・衝よ突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/日	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	戸外遊び後、おやつの支度をする際、保育室前の雨どいに腕をぶつけ、おやつ時には痛みを泣きながら保育士に訴えた	4. 対象児の動きを見ていなかった	おやつ準備をおこないながら、もたもたおやつ準備を見守った	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外からへやを保育室へともちを誘導しながら声かけをしていたら	手足が長く、動きにくいよくよは様々なところに体をぶつけがちである。(保護者談)個人のオルタ等かけるものが周囲近くに配置されているため、ぶつかったと考えられる	本児の動きを確認するとともに、配置場所を改める	
8611	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	56				28	28			6	6	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置		予想できない行動に対しても臨機応変に対応よできる遊具に保育士が同士声掛けを合っていく	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		公園の遊具が年齢に合っているか遊び方を再度確認していく	1. 集団活動中・見守りあり		子どもが園外に出て普段とは違う雰囲気持ちが高ぶっていつもと違う行動をとることも予想しておく	1. いつもどおりの様子であった	遊具につかまり何度も繰り返し楽しんでいた	2. 対象児の近くで対象児を見た	遊具につき、一人危険のないよう遊ぶ一人ずつ降りるときは抱えたり、補助したりしていた	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	それぞれの遊具や全体での見守りの役割にあかれていた。		保育士が役割分担をして安全に留意しながら遊具につく配置を再確認する	
8612	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	65				42	23			4	4	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右モンテジア脱臼骨折	2. 自らの転倒・衝よ突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	なし	利用人数に関わらず、各固定遊具に1名ずつ職員配置、見守りの保育士の位置の変更。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	園庭の定期的な整備(石拾い、水たまり等のおっと)	1. 集団活動中・見守りあり	身体の向きを変えバランスを崩した	子ども達には、遊具の安全な遊び方を知らせ、すべりだいでは着地時は重心が前になるため、慌て地時は重心が前になるため、慌てて走りすぎて、向きを変えると足を取られしやすいことを知らせた。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遠足(園外保育)の後で、気持ちが高揚していた。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象児の2～5メートル距離には保育士は隣合ったり、合わせるのぼりすべり台を一緒に見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員2名は、他の遊び(ドッジボール)対応、個別対応しており、全体を見ていたもう1名の職員は対象児には入っていなかった。	気分が高揚したまま戸外で遊び始めた	行事のあった時など、保育士は高揚する子どもの心情を理解し、事前に落ち着いて行動できるよう声掛け、見守りを通常より意識して行う。	
8613	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	21								2	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折 幹部骨折	2. 自らの転倒・衝よ突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	保育士は2人態勢でいたが一人は一児に部のかかわっており、一人は近に目をお全くしか向けらず、体の動きを見ていなかった。	保育士は全体が見位置に常に子ども の動きを把握する。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊びの人数が多かったことと、子どもの同士の距離が近すぎた。	保育士は、子ども同士がならび密にならない(近すぎない)ように、一緒に走る際は安全な方向に誘導しながら遊びを進める。	7. その他	長靴を履いていた。	長靴を履いている時は、園庭で遊ばないことを徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	長靴が足にフィットしておらず、足元が不安定であった。登園時は、本児の意向で長靴を履かせることがあった。	4. 対象動児を見ていなかった	鬼から逃げながら、本児の1.5m前を走って後ろを振り返って後ろを振った事故が発生したため、衝突を止めることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼役がしたいと言ずっていた関わっていたが、事故の瞬間は見ていなかった。	年少児という年齢で鬼ごっをすることを人数が多すぎて不適正であった。	一斉に走り出す鬼あそびは少人数で行う。	
8614	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	8	3	5	0	0	0	0	0	2	2	2歳	1. 男児	無	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	下腿骨骨折	2. 自らの転倒・衝よ突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	無	保育士2名が転倒の瞬間を見ておらず、子ども全体の動きを把握する事	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	砂場の横におもちゃ入れのコンテナがあり、ここに当バラを崩してそたりンスしてだの因かと思われが転倒の瞬間は見ておらず定かではない	保育士2名が転倒を見ておらず、子ども全体の動きを把握する事	7. その他	砂場の横に、移動しておもちゃ入れ用のコンテナ。	子どもたちが遊ぶ遊具以外の物は、遊ぶ周辺に設置しない。(今回はコンテナ)	1. いつもどおりの様子であった	朝から元気で活動していた	4. 対象児の見ていなかった	園庭にいたのは保育士2名と子ども8名、保育士1名は転倒の直前まで砂場で遊んだが、転倒時は背を他向けて遊びの子と遊んでおり転倒の瞬間は見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れた所で、他の子と他遊んでいた。	遊びの周辺に置かれたコンテナが転倒のバランスを崩した原因と予測	特に0.1歳児の動きを考慮し、遊び場の周辺に直接関わりのない物を置かない	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面					人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8615	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				7	26			3	2	4歳	2.女児	1.遊具等の転落・落下	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	異年齢で時間帯を過ごす時間帯で安全確保のため、それぞれのクラスのクラスの子どもを把握している状況を職員が把握している基準以上配置している。	それぞれクラスの子ども状況を把握して保育士と補助員を基準以上に配置していることに、個々の体調等安全のことに十分考慮し留意する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具（鉄棒）の状態は、不備かったもの、落下してしまった場合のクッション材の硬さについては検討の余地がある。	鉄棒使用時は屋外用クッション材上、マットを敷く。	1.集団活動中・見守り	遊具や園庭の使い方について、危険な使い方、遊びの分析、共有を、助員を定期的に行うことが必要である。	職員会議やクラス打ち合わせなどで、毎月ヒヤハット事例を議題として取り上げ、情報共有を行う。	1.いつもお様子のであった	普段通り着の落ち着いた様で、鉄棒で、遊びをしていた。	4.対象児の動きをていなかった	鉄棒の至近にいて対象児を含め5名を見ていたものの、対象児の瞬目を離に他児たちを見を、対象児が落下する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれ、鬼ごっこ、砂場遊びし対応しており、瞬間は見ていなかった。	3連の鉄棒には5名の児童がいた。その他児童も園庭を走っていた。	鉄棒を使用する際は、高・中・低各1人ずつ取り組むよう促す。	
8616	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	102	0	0		25	34	43	0	7	7	6歳	1.男児	3.子ども同士の衝突によるもの	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折（外側上顆）	1.遊具等の転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(２９４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２９４)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	保育士が片付けられ片付けるもに目が届かなきめ	保育士はに取られることなり、周りの行動に目を向けることもあり、けい子に付誘う、次の行動を知らせる。	1.いつもの様子であった	対象児としては、片付けが自由な時間で終わり園庭を走り回り楽しんでいたため	4.対象児の動きをていなかった	遊具の片づけて対象児が離れたところにいたため	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	自分のクラスの子とかかわっていたが、走る対象児に声をかけようとしたところで被災し、問題に合わなかった。	保育士と一緒に片付けしいるけばかりでなく、自由に動き回っている子もいめたため	片付けするかと保育りでなくと見保育子どもを見の保育士を担当の保子を担当をつくも子ども着い子が落ち着いが次の行動がとれるようにする。	
8617	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	53								4	4	6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園内で起こったヒヤハット事例を共有することで、事故防止について検討することから取り組んでいる普段行く。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	特になし	敷いてあるマットは幅が狭くなっている運動用マットで対応し、幅が広いものに換える。（本児はマットのあるところへ落ち怪我をしている）	3.個人活動中・見守り	特になし	子どもにはそれぞれ正しく遊び方を知り、正しい遊び方での楽しさを伝えようとする。また、子どもも安全に楽しく遊ぶ意識を持つことができるようにする。	午前中は交通安全教室があり、普段よりも中止して集中を聞く時間が設けられた。そのため午前の時間は落ち着いて過ごすことができた。	3.いつもよりも活発で遊んだ	4.対象児の動きをていなかった	鉄棒の至近にいて対象児を含め5名を見ていたものの、対象児の瞬目を離に他児たちを見を、対象児が落下する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・象児の動きをていなかった	環境準備ていたり（交通安全教室があり事前に環境準備ができなかったため）、それぞれの固定遊具は近ていて守っしていた。	特になし	保育中、保育者の立ち位置に配慮し、子どもの行動や異変にすぐに対応気付けるようにする。また、他クラスの子どもにも同様、職員全体で目を配り、対応ができるようにする。	
8618	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10		3	7					3	3	2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨頭部外側骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	継ぎのいもとりが多く、担当が尻つ、一人一人が、お互いに依存し合っているが、保育士が依存し、責任ある保育下で意識が低くなっていまって	引継ぎの時間は、保育士が一人で責任を担うことが多いことから、保育士が依存し、責任ある保育下で意識が低くなってしまった	人数は引継ぎの内容ではいても子どもにとって子どもに目が届かなくなるので、保育士から離れて引継ぎができるように、衛生的にも清潔さを保ち、意識の改善や方法を変更する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	太鼓橋の下のマットの厚みや固さが適切だったか	マットの適切か薬者や商品の検討し、マットの変更を検討	1.集団活動中・見守り	太鼓橋と登り下りという、ぶらぶらと遊具がある、子どもが乗っているが、すぐに下ぶらいるわらずに近くいるので見保育士が乗っても関ず、近くの場を離れなかった。	遊具にていて園児は目を離さない。それは、同じ遊具を時は、担任が合の掛けをする。	3.いつもよりも活発で遊んだ（理由を記載）	機嫌よく楽しく遊んでいた。戦気持ちが芽生えいつもあまりやったことのない太鼓橋にチャレンジしたいという気持ちになったと思われる。	4.対象児の動きをていなかった	出席確認の作業をして認をいた	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にた)	もうひとりの担任は太鼓橋とジャングルジムの間にいたが、泣いている子を抱っこをし、気持ちの切り替えの為に話かけていたのを目撃。泣き顔を向けていた。クラスフォローの保育士は太鼓橋児から少し離れた所におり、他の園児が遊んでいるのを見ていた。担任が園児に抱っで来たので、片付けになったと声をかけながらジャングルジムから他児がドヤ〜くるのを見守っていた。	泣いている児だけを園児に気をとられ、そばにいたその他の園児の動きを把握できていなかった。	遊具を利用している時は、子どもの想定をし、子どもから目を離さない。他の保育士がいるからいいという意識を持たず、子どもを守る共通認識を持つ。	
8619	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73	0	0	0	0	37	36		9	9	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左橈骨）	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	視ずに、待ってもらうようにする	順番を待ち、保育士が見て状態で行う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		鉄棒下に敷いてあるマットの下の土が削れていないか確認する。	1.集団活動中・見守り	1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	園児に遊ぶ約束を確認すると、保育士は今以上にも、子どもの状態を見て保育を行っていく	1.いつもよりも活発で遊んだ	いつも通り変わらない様子であった	2.対象児の至近距離で対象児を見ていた	対象児の至近距離にはいた児が、他児の鉄棒のの介助をしていた	1.担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	それぞれ立ち位置で子どもの様子を見守っていたり、一緒に遊んだりしていた		介助が必要であれば、１人ずつ行う。1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8620	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41			15	10	16				6	3	5歳	2. 女児	今年●月に同じ部位を骨折している	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故報告、ヒヤリハット報告を毎回行い、事故防止につなげる	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	施設設備が原因ではなため、改善策はなし	1. 集団活動中・見守りあり	鉄棒下のマットが低さから硬化している	遊具の安全点検の際に遊具下のマットの状態についても確認する	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒にボールや縄跳び、鉄棒などで活発にあそんでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒に他の職員がついていたので、離れたところで対象児は見ていたが落下した瞬間は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	対象児のいた隣にいた、他児が、話しかけ視線を離した瞬間に対象児が落下した	日差しがまぶしく気温が下がった時間帯で、体の動きが鈍くなっていた。鉄棒が低くて、十分なスペースがなかった。他クラスの園児や保護者が多くいて職員の注意も散漫になっていた	気温が下がってきた時間の固定遊具を中止する。鉄棒を使う園児の人数を制限する。園庭に多く園児や保護者のいる時間帯のあそび方について確認する	
8621	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	12			3	4	1	4			3	3	2歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	亀裂骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	記入なし	降園後挨拶をしたのちすぐに帰宅にした	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	記入なし	園舎外壁塗装中で、歩く場所が狭かった	7. その他	ぶつかった園児が、走っていなければ事故なかった	園舎外壁塗装中で、歩く場所が狭かった	1. いつもどおりの様子であった	母親と一緒に降園する	4. 対象児の動きていなかった	挨拶をして降園する時間なので、対象児を見る事が困難であった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	上記の職員と同じである	対象児にぶつかった園児もすぐに降園すべきだった	園児、保護者にも降園後はすみやかに降園する事を掲示する等で啓発する	
8622	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	1. 男児	令和●年●月●日お休み中に家庭にて右腕を骨折。約1か月後から登園。医者より本事故は●月の骨折の再発の可能性もあるが、●月の骨折とは別の部位の骨折の可能性もあると伝えられる。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	なし	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	1. いつもどおりの様子であった	登園の際、右腕が少し曲がっている様子をカメラで気づいた。(●月●日に骨折しており、完治してからもやや右腕を曲げて過ごしているように感じた。)	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	雑巾がけのスタート地点と反対側の全体が見える場所に待機し、号令をかけていた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	保育士補助は子どもたちの近くに待機していた。	遊戯室で雑巾がけを行っていた。少しまりな一周行い、終了後に声を掛け、担任保育士に「痛いからやめてく」と伝えに来た。過去に骨折していたことから負担かかり痛めと予想される。	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	
8623	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	27									1	1	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折、外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	遊びを寸子ども外子動きらあり突、等に対応できない。	遊ぶ前、遊ぶ途中でも全体に目をけるとともに声を掛け注意を促す。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	同じ方向、間隔ててを空けるようを走るにする。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	ボールやで三輪車ス遊ぶペ分けた後為ペ作る。度、園庭で遊ぶ時の注意事項を園児に伝える。	1. いつもどおりの様子であった	運動会のかけで負けるラックを元気くいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	トラックの外で遊ぶ子ども内でラックで走っているふつうないふつう両方の子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	担任以外は職員はいなかった。	担任1人しかおらず、直手しるぐを伸ばすことができなかった。	他に職員を配置し、直ぐに対応できるようにする。	
8624	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	45									2	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	基準配置は満たしているが、見守りができていると良いと職員が感じた。	休憩時間のあるが、だけの守りの職員が配置できるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	総合遊具は高さがあるが、子どもの発達には遊具である。	戸外遊び合で遊ぶ時には保育守に、遊具で必ず見ようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達に正しい方を伝えていたが、遊ぶ前に毎回伝えていなかった。	遊具の使い方を子ども達に正しい方を知できるように、遊ぶ前に確認ようにする。	1. いつもどおりの様子であった	普段給食後外で遊び友達と一緒に遊んだ。子ども台の上で止まってしまった。	4. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具では総合遊具所でないと関わっていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	遊具所では総合遊具のないと関わっていた。	総合遊具で保育士見守っていたら、別に声掛けることはできていた。	戸外遊び中は、総合遊ぶ時には必ず保育士が見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
																											ソフト面						ハード面								環境面						人的面						
				事故発生時			発生時の体制									教育・保育等従事										事故																										
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8625	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	31								3	2	3歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折(ひび)	1. 遊具から転落・落下等	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	担当職員が、外傷もなく腕をもがかしても痛みを訴えや足をかけることかたえたこと、骨折は怪我は判ないと判や怪我断してしまった。	怪我には傷がでくいもあり難痛みがにくにも判断しいを認識し、念入れた対応を取るようにする。また、「一般的な症状」につも認識を深める。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 集団活動中・見守り	一緒に遊んでいた他児が、自分もタイヤに乗ってみたいと該児を押しうとしても未然に防ぐことができなかった。	固定遊具の使い方や約束事をにも再度伝え、安全に使えるようにする。固定遊具を使う際には保育者はそばにいるようにする。	1. いつもお様子であった	本児は夕乗りタイヤに乗って遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	長時間保育児の様子を配りながら、担当年齢の子どもと遊んでいた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	長時間保育児の様子を配りながら、担当年齢の子どもと遊んでいた。	タイヤに乗っていることは認識していたが、「気をつけてね」と声を掛けただけでそばにはいなかった。	固定遊具を使用している際は必ずそばにつき、安全確認をする。	
8626	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	10					6	4		2	2	5歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	2. 基準配置	子どもの性格や性格から適切かつ不足していた。	子どもの性格や性格を把握し、適切な声かけや遊び方を知らせる。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	一人一人ども子の性格や遊びの容から危険の予測が足りなかった。	危険につながる予測なし、保育士が声をかける。	1. 集団活動中・見守り	園庭の広敷さや人数に対して遊びの場が十分かけられていなかった。	園庭の広敷や人数に対して遊び全に安全にくるようにする。	1. いつもお様子であった	腹部から垂後方へ垂らしていた縄跳び後ろから引っかかれ、ろから急張られ、手をつかずに転んだ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の動きは、４メートル離れた場所で別のし遊びながらしていた。距離が離れていたため、被災の瞬間には傍へ行けなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった		声をかけられているということに気がついていなかった。	子ども達一人一人の遊びの様子や立ち位置を把握し、複数の保育士と声を掛け合っていく。	
8627	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	9								2	2	4歳	2. 女児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左環指末節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	随時	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守り	積み木を見立てたことから、そこに立ちたいという気持ちがた、急ぎ足になったのではないかと考えられる。また、遊びに慣れていなかった。	両手が塞がった状態で歩くと距離が短くなるように、楽器を置く場所と積み木の舞台の距離を考えて積み木を設置する。	1. いつもお様子であった	積み木の乗り台にてしたかも舞台たてまったもしれない。	4. 対象児の見ていなかった	支援児担当保育士が積み木を用意し、楽器遊びをしていた園児について。本児が保育士のうで転んだ音と泣き声を聞き、すぐに声をかけたが本児は泣き止み、また遊び始めたので大丈夫だったと判断した。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	担任保育士は子どもの遊びの様子を見ながら受け入れをしていた。転んだ瞬間は見ておらず、泣いた声で本児の様子を見たが、支援担当保育士がかかわり泣き止んだため支援担当に任せていた。	患部を確認せずに帰りまで、異変に気付かず放置してしまった。	転んだことをいつもの事と捉えず、その時の状況や子どもの様子をしっかりと確認するようにする。	
8628	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56			20	15	21			6	6	5歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	保育者は滑り台付近にいた降り状況の把握ができていなかった。	子どもの遊びの様子をしっかり周知と共険を場面をたかけた見時は、職員が必ずに、危に付くことを確認。	1. 定期的に実施	実施頻度(５３)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５５)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(５３)回/年	滑り台付近や降り口に芝工人が敷いてある　全面敷いていなかった。	滑り台全工人面に芝を敷く。	3. 個人活動中・見守り	揉めると遊ぶこくないもんでいるので、安全だと思いこんしまった。	遊具の正しい遊び方を改め確認し、事故に未然にを防げるようにした。	1. いつもお様子であった	痛がる様子はなく、自分でで起きてその場に座り込んだ。	4. 対象児の見ていなかった	滑り台付近について、方児のりる降の様子まで園子は把握していなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他の遊び場について、滑り台で児童は遊ぶ園子まで様子は把握していなかった。	子どもたちの遊びに確認していなかった。	子どもたちに遊具の定期的に確認し、危険な場面を見そろえたり、職員の都度声をかけ、職員も周知できるよう職員会や朝の打ち合わせで報告したりするようにした。	
8629	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	48								4	4	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	特になし。	半年に一度、または災害共済にかかるような怪我が発生した際には、マニュアルの読み合せを行うなど職員で事故防止について確認する機会を持つ。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/週	特になし。	特になし。	3. 個人活動中・見守り	友人と遊ぶ事んでいる中でのであった。自分で故で危険を伴の行動であうことがあると、十分できいうこと理解していなかったことが考えられる。	クラス内で、遊び方や約束事について再確認する。	1. いつもお様子であった	元気も良く友達と遊んでいる中での事故	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員がドッジボールを子どもと一緒に遊んでいるが傍にあるジャングルジムより飛び降りたことによる事故であった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ付近に保育士は２人おり、年長児という年齢でも担当保育士と一緒に転んだ子に対応他の子しつつ他のフォローに入れる状態であった。	特になし。	高さのある遊具で遊んでいる場合には、なるべく近くに保育士がつく事故防止に留意する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8630	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	15									4	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯冠歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(週1回)	1. 基準以上配置	事故防止チェックやヒヤハットについての報告は定期的に行ったが、子どもの姿に照らして合わせた具体的な活用ができていなかった。	事故防止チェックリストが具体的に活用されるように項目内容等見直しをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(月1回)	1. 定期的に実施	週1回	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	園庭と玄関に段差(0.5ミリ)があり、玄関ホールの砂たたきホールの砂たたきタイル上にあったこと で滑っ て転倒した原因と考える。	段差には、段差のある箇所の人工芝を引き、段差をなくした。玄関タイルの上には、砂がないように遊ぶ前に玄関ホールの上に履き下ろしておく。	1. 集団活動中・見守りあり	活発になってきた本児のコンビカーの乗り方に対して、スピード具合、カーブなどのハンドル操作を知らないなかった。	子どもたちの発達などから戸外遊びでの危険を予測し、職員間で遊び方や危険箇所を共有し個別に知らせていく。	1. いつもお様子であった	コンビカーが好きで勢いをつけて走った。	2. 対象至対児の近く見ていた	至近距離ではあったが、あっという間の事で助けることが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	ボール遊びを他の児としていたの助けとなり、園児ていで、るとも出来なかった。	本児の運動面の発達はゆっくりであったが、運動会を終えて活発に遊ぶ姿が見られるようになってきたことを職員間で共通理解していなかった。	個々の遊びの様子等から戸外遊びでの危険箇所を話し合い、保育士の立ち位置や個々の見わり直し、常に子どもの発達に応じた関わりが出来るよう職員間で周知していく。	
8631	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28									1	6歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕挫手、右手関節部挫傷、右橈骨骨幹部骨折、右尺骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(130)回/年	2. 基準配置	事故防止に対する意識が薄い	今後も細やかなヒヤリハットの共有を日々の事故予防として続けていく	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(48)回/年	2階テラスがコンクリートである	施設の安全点検は年1回ではあるが、日々、職員全体で付け安ごうに過ようにさせるにする	3. 個人活動中・見守りあり	登園後の保育室の様々な場所で遊びが展開している状況であった	グルーガク等はクラスも着いた状況の時使用する	1. いつもお様子であった	保育室では普段と変わらない様子だったが、母親物がが忘れ物を届けに来たことで甘えたい気持ちが見受けられた	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	保育室の奥の方でガンを使った制作活動をしていた為、児童クラスに子てしっかりと目をけていなかった	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	クラスは、担任以外の職員はいなかった	テラスにいる子に対して声掛けはしていたが、配慮が足りなかった	制作を行う場所、保育者の立ち位置等を考える	
8632	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	26									1	6歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(130)回/年	2. 基準配置	早延長保育士への周知不足	早延長保育士への徹底や、今後とも日々細やかなヒヤハットの情報共有を事故予防として続けていく	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(48)回/年	一階テラスがコンクリで階段がある	施設の安全点検は年1回ではあるが、日々、職員全体で付け安ごうに過ようにさせるにする	7. その他	サッカーゴールの設置場所がテラス付近にあった	サッカーゴールの位置を反対側に移動させた	1. いつもお様子であった	普段と変わらず友達とサッカーをして遊んでいた	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	離れた所児と他児で大縄跳びしたが全体で大動を見ていた	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	それぞれ担当年齢児についていた	延長保育士が担当年齢児以外に目が向いていない	延長保育中、担当年齢児だけでなく戸外にいるときは職員みんな安全に遊べるよう気を付けて全体を見るようにしていく	
8633	令和6年4月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	33	1	9	23						9	9	2. 歳児	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A外傷による歯冠・歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2. 基準配置	子どもの対応に危険予測ができていなかった。	子どもの行動の先にある危険を予測していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	使用していない玩具を片付けなかった。	使用していない玩具は片付けるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	複数の遊びコーナーが交ていて差した。	一度にたくさんの遊びを出さず、子ども一人一人の興味に応じて遊びコーナーを変えていく。（ボールコーナーとフラフープコーナーを交互に設定する）	1. いつもお様子であった	戸外遊びでボールをしており、ボールを蹴ったり追いかけることに夢中になっていた。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	本児からと他で離れたころ児とキャッチボールをしていたが、本児がボールを蹴りながら走るのを見た。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	フラフープ、バスケット、砂場の各コーナーに保育士がいたが、ナーでんでいる他児を見ており、本児の様子を見ていなかった。	本児は日頃から多動で突発的なもの多くの子どもがいたもあったにもかかわらず、行動把握や危険予測ができておらず、本児へのかけが出ていなかった。	突発的に激しい動きをする子と共に、保育士が連携を取って本児を常に把握し合落とよいにし、必ずしのないように応じて要に応じて働きかけを する。	
8634	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46	5	15	7	19	0	0	0		7	6	3. 歳児	1. 男児	昨年度、疾病により長期入院しており、発達に遅れがある。発達援助のため保育所を利用している。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不期に定実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	ひとり一人の特性や今までの経験を考慮していなかった。	マニュアルにもひとり一人の特性や今までの経験を考慮して、事故につながる跳ぶ、登る、跳びる等の活動は、注意してみていくという記載を含める。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎朝	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	対象児の担任保育士が遅いため担任保育士以外の職員が見ていた。対象児の特性や今までの経験等をきちんと把握していなかった。	定期的に気を付けて見ていきたい人の情報を職員間で共有する。	1. いつもお様子であった	普段通りに過ごしていた。	3. 対象から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め3歳児を見ていたが、他児の荒ぼり為離れたところから見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	園庭トイレ工事中だったためその周辺に行ってしまい、その対応に職員2名が行っていた。遊具の近くに職員2名の職員が付き、残りの職員で0歳児の保育と全体の把握を行っていた。	子どもの人数に対しての職員配置だけではなく、全体の環境等も含めて考慮しなければいけなかった。	人数だけではなく、環境、活動内容等により、職員配置を考慮していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面				人的面					
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8635	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58	0	0	0	29	29	0	0		5	5	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園内での危険個所についてを第3者評価を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	畑の囲い使していてタイヤ劣化したにもかかわらずもイヤには乗らないことを伝えるため、その状態になっていた。	どタの上ら、子ども達つつ、の状態	1.集団活動中・見守り	子どもに危険な遊び方が徹底されていなかった。	なぜ危険なことをしてはいけないのかを子ども達に伝え、安全な遊び方が身につくよう常日頃から繰り返し全クラス全体で確認していく。また、子どもとともに危険なものかどうかの必要のないものは撤去していく。	1.いつもどおりの様子であった	他児の遊び方を自分で真似てもやってみようと思った。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当保育士1名が保育室に必要な物を取りに行っている間、一人の保育士は砂場で遊んでいたが、本児の姿は視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもも達におわり、本児は視界に入っていなかった。	園児が保育士に伝えたが状況、家庭で保護者に伝えた内容が異なっていた。保育士が全見ていなかったため、危険な遊び方をしていると気づけず状況把握ができていなかった。	どのクラスも保育士も視野を広げて事故防止に努める。また、他保育士から、その場から離れ、保育士間で連携を図りながら、全体が見れるようにする。	
8636	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	6歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左甲側面骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし	保育室に戻る際に「歩いて戻ります。」とルールを子どもたちに再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	特になし	階段とテラスを つ扉をおなお体の動きを一時止めるようにする。	1.集団活動中・見守り		走らないように声かけして注意喚起をおこなう。	1.いつもどおりの様子であった	室内活動が終わり、戸外で自由遊びができると開放感を持って駆け出すようなこと	2.対象児の近くで見ていた	一緒に1階におり、走らないように声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外での自由遊びを行っている時間帯なので、戸外の子どもたちの安全見守りを行っていた	特になし	保育士が常に列の先頭を歩く事で、スピードをあげずにテラスを歩いて保育室に戻れるようにする。	
8637	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	53									4	4	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具から等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		園内で起こった事故について全体で検討することからでいる普段行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	あるマットは幅が狭く劣化したものであるため、運動用マット対応 その広い敷いては、後い換え買い る。	登り棒については棒付近を2枚敷き、転落した時の衝撃を和らげるようにする。しかし、マットが敷いてあることで逆に飛び降りようとする一部いた。マットは安全にためにある敷いてあるものでは、飛ばないものではなく併せていることも伝えていく。	3.個人活動中・見守り		達ども達にはそれぞれの遊具について正しい遊び方を知らせ、正しい遊び方で楽しめるように伝わるようにする。また、子どもも安全に気を付けて遊ぶ意識を持つことができるようにする。	3.いつもと活動的であった(理由を記載)	午前中は交通安全教室があり、普段よりも中止して話を聞く時間が長かった。そのため、普段も遊びの待ち時間が遠く感じてお り、活発になっていた。友達と繰り返し登り棒を楽しんだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	リレーをしようとしている子どもたちを見て、そちらに気を取られ、子どもの手の付き方は、確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	環境準備(交通安全教室事前に環境準備できなかったため)、それぞれの固定遊具見ていて付近で守っていた。		保育中、保育者の立ち位置に配慮し、子どもの行動や異変にすぐに対応気付きができるようにする。また、他クラスの子どもにも同様、職員全体で目を配り、対応ができるようにする。	
8638	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16	3	3	0	4	3	3			4	3	1歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯G	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	階段で子どもが足をすべらしてしまったことを踏まえてしないかと思われる。	階段のスロープに滑り止め付けを。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守り	足が滑り、滑り台の階段を踏みしたのではないか。防止の為の足止めの止の子どもの後ろに、前倒れた補助できなかった。	転倒は防止けるけ前ないなること、ないに滑り止めを付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、活発に上り下りに滑り台を繰り返した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児の付き後ろにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各他箇所で園児の保育をしていた。補助員が、滑り台の反対側で、他の子どもが逆からない上ようにいた。	特になし	特になし	
8639	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72	0	0	0	0	36	36	0		4	4	4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	常にけがを未然に防ぐはしるが、コップが転がるあまりかった。	スコップが地面にて転がっていることを園内研修を修てで共通認識をも。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	使い終った砂場遊び用のスコップが砂場周辺に転んでいた。	使い終わったら砂場の都度片づけるようにし、片づけていない忘れている職員が気づいたときにその都度片付けるよう付けに する。	1.集団活動中・見守り	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	興奮して、行動した行こと動をしりすることなく、砂場付近を歩いていた。	4.対象児の見ていなかった	特に危険な行動はしていなかったが、他の園児とかかわっており、本児を注意してはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で目を歩いていることは把握していたが、特に注意は見ていなかった。	特になし	危険な動きをしていなくても怪我につながることもあることを常に意識し、職員間のコミュニケーションを図り、全体に目を配れるようにしていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の内訳							教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面						環境面			人的面							
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																													実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8640	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	2	4	0	4	3	2			5	3	4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突などによるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	遊びの内容により、場所の確保をする。敏感を身に付ける遊びをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	鬼をしろごっこや鬼をしろごっこや追いかけごっこをしている子と遊びごっこをしている子と同じ場所にいたから。	遊びの内容により、場所の確保をする。敏感性を身に付ける遊びをする。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの動きで活動の移動中であった。	2. 対象児の近くで対象児を見ていた	対象児とぶつかった子どもとごっこごっこをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別の場所で他児の育をしていた。	特になし	特になし	
8641	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	61				20		41			3	3	5歳	2. 女児	1. 遊具等から転落・落下	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	全職員に事故報告はしているが、短時間の対し職員でも、短時間で園内研修を行う	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	転落した左腕時に左腕が体に挟まれてしまい、骨折とした。	これから施設、遊具、玩具等に不ないが点検を行い、〇〇なども対策備えよう引き続き行う。	1. 集団活動中・見守り	寒い時期冷う手が思うように動かないことがあるとられる。	これからも季節を感じられや発達に合った遊びを提供していく。寒い時期に体育遊具場で遊ぶ場合は、準備運動な柔体をほぐしてから遊ぶように促す。	1. いつもどおりの様子であった	普段は、〇〇や〇〇で遊ぶが多いが、故当日は、〇〇で友達と遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	〇〇の所ども、子が縄跳びを〇〇にひっかけて、ブランコのように〇〇で遊んでいたのを補助した対象児を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は鬼ごっこ、一人は泣いている子のをしていたため、いなかった。	泣いている子への対応を一人の職員がしていたため、園庭で遊んでいる子どもを見るのが手薄になった。	職員室に声を掛ける等、連携を安全に配慮していく。	
8642	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	20									3	2	4歳	1. 男児	骨形成不全症で骨折しやすい。つま先が極度に外側を向いており、動く際に体のバランスが取りにくい。事故の２日前に自宅にて転倒し、右腕にひびが入り固定中	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左膝骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	保育室内での職員の立ち明確位置にしていなかった。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	障害物のないスペースであっても、本児の動きも転倒の可能性を察知する必要があった。	保育士は児が常時本児の傍に付き、本児の動きを把握と素早い対応、活動の際の援助をする。	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	数日前に自宅にて転倒し、右腕にひびが入り固定中	2. 対象児の近で対象児を見ていた	本児が座って遊んでいる為、離れて見ていた。本児が動き出し為、本児が傍へ向かったその前に転倒した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応なしな本子を見ていた。	出した際すぐに動きに職員1名が対応にかかが、本児が少し離れたため、間に合わなかった。	右腕を骨折して固定していることでいつもと体の状態が違うため、いつも以上に注意深く本児を見る必要があった。また、すぐに対応できるように、常時傍に付くべきだった。	
8643	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	25									2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 基準以上配置	特になし	保育中のシュミレーションレーション訓練を意識より的に行う。	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	薄いクッションマットとはいえ、狭い空間に敷かない。	1. 集団活動中・見守り	特になし	活動内容、時間帯を再検討。保育士の立ち全体が位置をみえるところにする。	1. いつもどおりの様子であった	特に走っていたわけではない。	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラス全体を気にしつつも、身体測定を実施していたが、対象児に注視していなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス全体の子どもの状況を気にかけつつ保育していたが、蹴いた際とっさには間に合わなかった。	特になし	活動内容、時間帯を再検討。保育士の立ち位置を全体がみえるところにする。	
8644	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	38	0	0	0	15	19	4	0		3	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足骨折、靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年		なし	3. 個人活動中・見守り	延長保育になると、日中やこも落ちから着かない様子が見受けられる。	延長保育に入る前に、子どもたちも遊び方や遊び過ごし方の話を再度り、延長保育士も普段と変わった子の様子の変化とも変わったいれば様子を伝え情報共有し合う。	1. いつもどおりの様子であった	延長保育時に一人で遊んでいた本児が少し駆け足をしてゆっくりと歩こうとした時に力が足りず、勢いクリ、はないまに転んだ。	3. 対象児離れたところで対象児を見ていた	延長保育担当者が一部始終見ていたため近寄ったり、大丈夫ですか聞くと涙ぐわじわと涙みがでて痛みを訴えた。事務室へ行くため立ったが、痛みからなかっ足が動かなかっ。延長保育担当者がおんぶしようか聞くと恥ずかしいと言ったため、支えながらけんけんで事務室まで移動した。	年中担当職員は１名で、同じ時間帯に戸外に出ていた。年長・年少担当職員が、年中担当職員が事務室に本児を移動させる間、年中児も一緒に遊びの様子を見守っていた。遅番保育士は事務室から戸外遊びの延長児を見守っていた。	年中担当職員は１名で、同じ時間帯に戸外に出ていた。年長・年少担当職員が、年中担当職員が事務室に本児を移動させる間、年中児も一緒に遊びの様子を見守っていた。遅番保育士は事務室から戸外遊びの延長児を見守っていた。		なし	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
				発生時			発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面					ハード面								環境面				人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																																								
8645	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16								2		1	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度随時	2.基準配置	特になし	職員配置に問題はなく、マニュアルに沿って対応している為改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	毎月、安点検表いて点用した全を危険確認ったと点検の状態いて凸くに遊具の状態所した	3.個人活動中・見守り	普段から一遊びのイメージで、自分ジャンプして床やなどに見せてすぐ姿かけてあった為、危険であることを繰り返し伝えていた。	不意な転倒ではあったが、普段の本児の欲求が満足できるような安全な環境を考えていく。	1.いつもお子であった	園庭に出ずに、他児と一緒に追いかけっこをしし園庭を走った際に凹凸の芝の上で転倒する。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児がおもしろ、保育士は著替え対応をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	連絡を受けた保育士がプラシコの補助をしながら、児の見ていた本児の転倒を防ぐことができなかった。	戸外に出る前の準備が十分ではなかった。	気温の低下と共に、体の関節などが固まりやすくなっているため、戸外へ出るまえは準備運動などを動かして体を動かして遊ぶこと外で遊ぶことを職員間で再確認した。	
8646	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	31								2		2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置に問題はなく、マニュアルに沿っているため、改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	地面の状態を把握し、乾いている場所で遊び所を展開する。	4.個人活動中・子どもみ		使用した片づけておく。	1.いつもお様子であった	園庭で友達と一緒に氷鬼をして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を見ながら、他児と転ぶしてドッジしていた。その本児が転んだことに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒付近から離れた砂場で遊んでいた他児と遊んだため、付かなかった。	特になし	遊びながら目も全体に目を向け、子どもの変化に気付けるようにする。	
8647	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16			6	6	4			2		2	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	担任が公園からすぐに連絡せずその場で判断してしまい、園長への報告がなかったことが要因。	職員会議で怪我の程度に関係なく、怪我をした時は園長に真っ先に報告するよう徹底する指示を出した。保護者宛てに怪我をした時の対応につき手紙を配布。	2.不定期に実施	実施頻度毎週	2.不定期に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	実施頻度毎週	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	手を繋いでいた友だちが境界ブロックの上に歩いていた。	ゆるやか道ではあったが道がこぼこしているので、手してようする。ので離しを歩くに	1.いつもお様子であった	遠足で朝から機嫌も体調も良かった。	3.対象児の離れたところ対象児を見ていた	集団の先頭を歩いていた。担任は後ろ向きに歩き、境界ブロックに乗っ遊ぶ数数に気づくすぐ名き、に降りるよう声を掛けた。友だちと本児が一緒に転倒する様子を見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団の最後尾を歩き、担任と同じく注意しており、転倒する瞬間も見た。	特になし	特になし	
8648	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7		2	5					3		2	2歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等の転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	想されども子の行動をよりよく計画する必要がある。	転落の可能性がある遊具を利用する時は必ず付き添出来使用れば控えを。	3.未実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守り	特記事項なし	特記事項なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	母親の姿を見て急いで降りようとした。	2.対象児の近で対象児を見ていた	急がないように言葉掛けが届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児の見ていた。他児の見し守りをし	特記事項なし	可能な限り同伴して遊具を使う。	
8649	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14								1		1	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右指骨骨折（第4指）	5.他児から加害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危機管理の認識の甘さがあった。	室内での方過ごしについて再確認する。安全マニュアルを再確認し危機管理意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年（１）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	施設、整備等不備はなかった。	施設、整備等不備はなかった。	1.集団活動中・見守り	対象児が体自分の手をつ自を手をいて上手くく支えられなかった。	室内での過ごしに方ついて再度考え再度考える。怪我から自分守りのを身をようれるように、運動遊びを取り入れるなどして身体面の発達を促す。	1.いつもお様子であった	いつもおりの子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の午睡準備援助しながら、対象児の動き友達の動きを制止した。結果的に2人の動きを制することができず、怪我を防ぐできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者一人で保育をしていた為、担当者以外の職員は対象児の見守りをしていなかった。	対象児は友達といっしょにいるようなもれのようなじゃいこと戯れをしていたが、止も行動めないことが習的になっていた。	子ども達の危機管理意識を高め、保育士の指示を守れるようにする。	
8650	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12		1	4	1	4	2		3		3	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	具体的な事例により検討することが今後必要である。	今回のケガについて職員会議で話し合いをする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭の広さ、カーブの角度の調整	カーブの角度につ度で職員合いで話し合緩やかにする	1.集団活動中・見守り	カーブで曲がった際、並走して走っていた保育士の右足と衝突、反動で転倒。	保育士もカーブのことを考え、並走する際には注意をする。	1.いつもお様子であった	保育士にお負けないと張り切っていた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	近くにおり、一緒になって走りてった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐに本児に駆け寄り、対応をした。	職員の人数的には問題なかった。	今後もこれまでのように一人ではなく二人以上で見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面						環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8651	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	130	0	0	0	39	44	47			8	8	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手腕骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	鉄棒で遊んでいる時には、必ず保育士が傍に付き、落下しないように援助する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度【回/年】	低中高の3連の鉄棒である。年齢児、身長に合わせ安全に使用できるような配慮、見守りが必要。	鉄棒の下安全にはマットあるが、さらに厚手マットよりの敷くようにする。	1.集団活動中・見守り	児は鉄棒の遊びの経験が少なく、常にいないけない状況であったが、担任が他児と違う遊びをして担任以外が傍で援助していたが連携で児に適切な対応ができなかった。	児の遊びを様子を共有し、職員でも対応できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よくお友だちと誘い合って遊び、順番を守っていた保育士の援助の下、前回りを遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒で対象児とも一人の児童を見ていたが、対象児が落下するに手を伸べた児が、頭は守れたが腕をついてしまった。	1.担当者・対象児の動きをい見た(至近距離にいた)	他児以外の児童の対応をしていた、対象児が落下した時に合わせの対応をした。	鉄棒にて対応不慣れなため、鉄棒が上際にバランスを崩してしまった。	必ず保育士が手を添えるなどの援助の下で経験を重ねていくようにする。	
8652	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	1	8							2	2	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	特になし	職員への周知、遊び方の園児への指導等	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	・特になし	継続して実点検を実施する。	3.個人活動中・見守り	園庭全体に子どもが広がって遊んでいた、時折の保育士の視界に入っていないことがあった。	子どもの動きを把握できるような位置及び動きをとる。	1.いつもどおりの様子であった	本児が乳児用滑り台に上り始めた時本児の後ろに立っていた0歳児に対してこないように抵抗するかのごとく左右に腰を振っていた。保育士が目を離した時に階段で足を踏み外して転落。	2.対象至児の近で対象児ていた	本児が滑り台階段に上る姿ででいたが、本児を見守っていた0歳児の方へ近くにいた0歳児の体を支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	乳児用滑り台と反対側にあるジャングルジムやプランコで遊んでいた子どもを見守っていた。	本児が階段を上っていると目がいきが離れてしまった為。	子どもが階段を上って必ず側につき、見守っていく。	
8653	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									3	3	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足靭帯損傷、剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1.基準以上配置		定期的にマニュアルの確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	特になし	施設や設備（遊具に大備等）な不備や問題はきや見られない。	3.個人活動中・見守りあ		環境等には不備や問題は見られない。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は一緒に遊んでいた。他児と	2.対象至児の近で対象児見ていた	園児が遊んではいけない	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くに保育士がいるので他遊ん様で子どもを見ており、対象児の姿あまりあまして意識いなかった。	特になし	集中力が低くなりがち午後からの活動内容や時間の見直しをする。再度、園内外の危険個所の確認と話し合いをし、改善する。	
8654	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44				17	15	12			3	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折、左第1中足骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の不備によるもの安全上の	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	くすの木の根が隆起しており、足元が引っかかりやすい状態であった。	隆起した立ち入り禁止にした辺りも、隆起箇所に人工芝等を敷いて躓き防止策を行う。	3.個人活動中・見守り		特に無し	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	約2か月前に左足を骨折し、今月に完治したが、ギプスとしばらくの間歩いていなかったため、歩行が不安定であった。	1.対象児とマンツーの状態（対象児に接していた）	母親からの要望で、リハビリを兼ねて歩く経験をしいとのことであったため、保育補助が手を繋いで歩いていた。一方に本児、もう別一方の3歳児が手を繋いでいた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きを見ていた。園庭で他児の対応をしていた。	骨折をすると、受傷箇所を固定することによるとバランスのづらさがあり、完治後も以前のように動きができるまで時間がかかることを認識する必要があった。	完治直後は、さらに配慮（特に段差や地面の凹凸）が必要となることを職員で周知して、誰もがすぐに対応できるようにする。	
8655	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	15									1	1	4歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下髄挫足関節捻挫、右下髄骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	なし	なし	6.食事(おやつ)中	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	普段から落ち着いている子	4.対象児の動きを見ていなかった	気にはしていたが、他児と関わっていた	なし	他の職員はいなかった	片付けの際にも子どもたちへ掛け足りなかった。職員の立ち位置が全体が見渡せずにいた。	子どもたちには他事をしないよう予め声を掛けたり、歩いて行動する声を掛ける。保育士は他児と関わっている中でも気を配るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
																											ソフト面						ハード面								環境面						人的面											
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8656	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42			16	12	14			6	5	4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	本児はバがランスが悪く、よく転ぶ。	鉄棒で遊んでいる子には、必ず職員がそばにつき目を離さない。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	鉄棒の下に必ずマットを敷く。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒で前回りができるようになり、くつ嬉しく午前中から何度も行っていた。	2. 対象至対児の近で対象児見ていた	鉄棒を何度もしていたのそばには児の鉄棒を見ていたため落下する瞬間をることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもの保育をしていたため、見ていなかった。	何度も鉄棒をしていたので、提力がおいち可能性がある。	鉄棒をする時は、鉄棒から手を離さないことを知らせる。	
8657	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	136			32	54	50			11	11	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折 右尺骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	防ぎようがなかったと思われるため特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭の広さは十分であるため特になし	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	保育士の位置立ちを工夫する	1. いつもどおりの様子であった	子ども達で鬼ごっこを進めていることが出来ており、保育士は一緒にいなかった	4. 対象動児の見ていた きかった	他児の遊びを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	特になし	保育士が連携を取りながら全体を見る	
8658	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	154			52	52	50			11	11	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右くるぶしはく離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	全体が見られる職員配置を工夫する	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	縄跳びに適切な場所を提供する	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	子どもの異変に保育士が気づけるように配っていく。	1. いつもどおりの様子であった	コンクリートの狭いスペースで一人用の縄跳びを縄跳んでいた	4. 対象動児の見ていた きかった	他児と一緒に縄跳びで遊んでいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間は他の遊びを見ていた	特になし	安全な場所で遊ぶよう全体を全保育士で見る	
8659	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	56	0	0	0	20	19	17		5	5	6歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	ベビージム遊具の側面に手足をかけやすい穴が開いており、よじ登りたくなる環境的にあった。また、遊びの延長線上によじ登った途中から跳んでいた降りることもあり、今回の怪我に繋がったと考えられる	よじ登りたくなる箇所においては、"危険"表示を絵で分かりやすく知らせていく。また、ベビージム遊具から跳び降りる行為においては、再度子ども達に危険であることを伝えていき、全職員への周知と再発防止に努めていく	3. 個人活動中・見守りあり	周りにいる職員も、その姿を見ても黙認していた(ベビージムの高さが低かったため、危険性を認識していなかった)	遊びへの興味・関心に応じて跳び箱やカラーボックス、マットなどを使い、子ども達のやりたいことと、楽しみたいことを安全に構成していく。また、危険性を子ども達にも十分伝え、園全体で声を掛け合い約束を守っていく	1. いつもどおりの様子であった	友達と遊んでいる中でいつもより気持ちが高揚しておりたり慌てることもあり、いつもは飛び降りてしまった	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	2箇所のジムベビー遊具を使って行っていたが、対象児が登り移動しようとする時にすぐ声をかけられなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児が園全体でおり、5人の職員がそれぞれ遊びや遊具の固定遊具について。対象児の動きは見ていなかった。	遊具の階段から飛びなどと飛び降りることを確認をし、遊び方を徹底をすると要があった。	遊び方を含め、子どもも達に確認するとともに、一人一人の様子を常に把握し、保育士の連携を図っていく	
8660	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	15								2	2	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	5. 他児危加られもの害えたも	1. あり	2. 不期実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	園外保育活動で、積雪のある場所のので滑りそうな箇所で、具体的な安全策のないかったため、事前研修にもて職員内容含まれていた。	今回の事故を受け、●年●月より、年間限られた機会であるそりでの滑りについては、新たな具体的安全策を盛り込む。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	毎年、そり遊び園外保育活動が行われるが、事故は積雪が多く、これだけある積雪状況下での当該地での遊びは、毎年引率をする園長も初めての経験であった。	現地の状況は、その時点での降雪の状況によってもの異なることから、現地に到着次第、職員は講師から、安全に遊ぶことが出来る場所の確認をする。	1. 集団活動中・見守りあり	上での滑り段滑りコースの上手に普通に雪のそりは、そりスピードが経験して草場のそりよりも、スピードが出る。	滑りコースの設置については、緩斜面から急斜面までの段階別コース3〜4コースそれぞれ作り、それぞれ子どもに合わせるようにそり滑りを楽しめるようにする。また、保育者と一緒に導入して出来るだけ緩斜面から始めるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	本児は、そり遊びに気が進まないようで、あまり動かずに周りを見ている状況だった。	1. 対象児とマンマンの状態(対象児接していた)	担当職員は、一人の児とのみ対応をした。そり中の真に対象児、後ろに担当職員と形うで、至近距離で接していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、滑りコースの上手と下手にそれぞれ担当児の動きを見ていた。	特になし	特になし	
8661	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	8								2	1	2歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(12)回/年	3. 基準以下	特になし	保育士の人数、配置人員の見直しを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	時間外保育の子どもの様子などを職員が把握できなかった。	時間外保育への中、日中の子ども達の様子などを職員が把握できなかった。	1. いつもどおりの様子であった	滑り台があるとはトラブルとなったりくりトラブルがあった。	2. 対象至対児の近で対象児見た	滑り台が好きであるが、すぐに近くにいたが、それにすぐ手を伸ばしできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台のところに人職員と一人がついていた、他児と遊んでいた。	特になし	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																										
8662	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	40								4	4	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	顎上骨折(右腕)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	午後の戸外遊びでは子ども達も開放感があり活発に遊ぶ。	子ども達の遊びの様子を把握し、職員の担当場所、死角になる箇所の見守りを徹底していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特記事項はありません	子どもの動きを事前に察知し、声を掛けながら安全に遊びへと導く。	3. 個人活動中・見守り	特記事項はありません	戸外遊びの際は、全体に目を配りつつ危険はないか注意深く見守るようにしていく。	1. いつもどおりの子であった	縄跳び(前回しとして遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びでいろいろな人の遊ぶ数人の子どもの近くで数、回数を数えたり、声を掛けていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で、各場所にかれてもた見ていた分子どもを守った。	特記事項はありません	職員の配置は問題がなかったと思うが、対象児に声掛けが行えると良かった。	
8663	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	25								5	5	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指亀裂骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	怪我をした際に、怪我の症状を確認、その後の症状確認を意った。	怪我をした際は、どんなに小さな怪我でもその後の状態をこまめに確認し、早期対応を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(240)回/年	特になし。	特になし。	1. 集団活動中・見守り	コロナ禍でクラス毎、時間差で園庭に出ている職員対園児でドッチボールを行っていた。	遊んでいる際の出来事で、ルールは伝えるものの、環境面では特に改善策はなし。	1. いつもどおりの子であった	ドッチボールのボールをうまく避けようと手を上げたボールが当たった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児がボールを避けようとあの際の出来事だった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がボールを避けようとあの際の出来事だった。	ボールが手にあたった際、冷やす等の対応をしなかった。	ボールが手にあたった際、患部を冷やす等怪我の手当て行う。	
8664	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	14								1	1	3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手上腕顎上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	滑り台に職員を配置していなかった	滑り台を使用している時は、保育士が一つ一つ、安全を配慮する	1. 定期的に実施	実施頻度(4８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4８)回/年	遊具のあそび方が間違っていた	反対からない決め登ようしているが、危険は行為はなその都度制止する。	1. 集団活動中・見守り	クラスの主活動(鬼ごっこ)に応じないので、他児の関わり、主活動を優先にとり、主活動を優先にし本児から目を離した	固定遊具はやらず環境を設に遊べる設定するであっきた	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	いつもあそびとが点いりあった。鼻づまり不足ったまりで寝た	4. 対象児の動きを見ていた	クラスの主活動(鬼ごっこ)をするため、子ども達と共に片付けをし、園庭集めていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいたクラスが、子ども達それぞれ関わっていた	本児が滑り台を反対から登ることに気付いた保育士がいなかった	クラスの主活動(鬼ごっこ)に応じない本児の姿に対し、滑り台をやっている際にもらっていてこ気付いた保育士や副園長に相談する	
8665	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15			7	8				2	1	4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	特になし	保育士の人数、配置人員の見直しを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守り	いつもていつもるベンチのため、気を付けようとしなかった。	ベンチの上には立ったりしないことを伝えていく。低い場所からでも気を付けて降りるよう伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	普段から着き行する動きをすることがある。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	紙芝居を見終わったとで、他児が動きはめていたため、気を付けて降りる声をかけることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が動き始めていたので、ほかの子が応をしていた。	特になし	特になし	
8666	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	28				14	14			2	1	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小児肘内障・左上腕骨顆上骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	常に話し合い、報連相を切に行う。大にし、保育士の調整を行う等、常に正しい保育体制が取れるか確認し合う	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	室内のコーナーは設定かったか、遊びの空間は確保されていたのか見直しが必要だったのではないか	遊びのコーナー、環境の見直しをする	1. 集団活動中・見守り	好きな実習生と実習生は関わりたい気持ちを受け止めるが、巻きなどくなスキンは体付くるようにするのスップを控えるようにべきだった	室内にふわしい提さを遊びを供する	1. いつもどおりの様子であった	友だちやと実習生と過ごしていた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちと実習生の様子の視野にが児遊ちら、他児の室内遊びの様子を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々の担当クラスで保育していた。	実習生と子どもとも関わり守るべきだったのはかえる	実習生と予想される子ども の姿を、保育者が落ち着き士が遊びを提供するべきだった	
8667	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58			7	13	17	21		12	12	6歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位端剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	０．１歳以外の児童は全登園児童に出ている職員配置を確保したと思われる。	時間を区切って園庭に出るようにするなどの工夫をして、基準職員も見守りできるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	本児が転倒したエリアには吸衝マットが敷いてあり、靴ひも引っ掛かった可能性がある。	吸衝マットは走ったマアリエは、明確に園児に話を伝えて、注意する。	1. 集団活動中・見守り	０．１歳以外の児童は全登園した園庭に出ており、子ども達が動き回っていると思われる。	園児数に対して園庭が狭いので、時間を区切って交代で園庭に出るようにするなどの工夫が必要。	1. いつもどおりの様子であった	登園直後で元気な様子。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	本児がすぐ横で転倒したが、すぐに対応していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭にいた児童を見ていた。	手狭な園庭で、走り回ることはあるとまめに声かけする必要があった。	日頃から、安全な園庭での過ごし方を子ども達にも理解できるようにレクチャーする機会を設ける。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
									発生時の体制																		ソフト面						ハード面								環境面				人的面												
										人数	異年齢構成の場合の内訳						教育・保育等従事																																									
											0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所																			発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8673	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27								3		3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	保育士が足が離れ鉄棒から落下する危険を予知できていなかった。	「こうも」を鉄棒でやるときは、保育士が鉄棒にかかっている足を押えていさく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１７)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	こうもりを鉄棒をやる際に、身体をゆらすことが徹底されていなかった。	鉄棒で遊ぶ時の約束を子ども、保育士全員が周知し、守れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒はあ得意ではなく、普段は自分からやろうとしなかった。	2.対象児の至近で対象児を見た	対象児が近くにいたが、とっさに手が出る距離にいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと遊びもたちの別のをしていたので、落下の瞬間は見ていなかった。	鉄棒に保育士は付いていたが、とっさに手が出る距離にはいなかった	鉄棒に保育士がつく際には、何かあったときに手が出る距離につくことを職員間で周知徹底する。	
8674	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	13								3		3	3歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	事故対応について、事例をもとに危険予知の幅を広げられるように職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	自由に取り組める状況。	他の子も、同時に遊べる状況で遊べることを一人ずつにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯の足乗り、一段目にぶらり下がってから降りると返した。	2.対象児の至近で対象児を見た	他児の傍についていたため、対象児が落下瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当者が対象児を職員室に運ぶため、雲梯で遊ぶ他児に対応した。	なし	繰り返し楽しんでいたものの、足がひっかかるという事態を予測できなかったが、丁寧に関われるよう一人ずつ取り組む。	
8675	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7								2		2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕・右大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	些細な衝撃でも、対象児は骨折をする恐れがある	入所以来、対象児の病気の特性を考慮して、常に保育士が離れないようにしている	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)/年	園庭に石には落ちていなかった。石等が原因ではない	今まで以上に園庭の整備を心がける	1.集団活動中・見守りあり	他の園児が遊んでいない時間を選んで、遊ぶ子ども7名と人数を絞っていたが防げなかった	凧揚げのエリアを個別に設定する	1.いつもどおりの様子であった		1.対象児とツーンマンの状態(対象児に接していた)	他児とぶつからないように気をつけていたが、想定外の為ぶつかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1名の保育士は、他の子どもに声を掛けられ対応していた	衝突してきた子ども、自分の周囲の状況に気付けなかった	凧揚げを見守る職員の増員	
8676	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47								3		3	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭には グレーチングの転倒転落防止の人工芝は敷いてあり、走ってあったが、人工の芝と土の段差や園庭凸凹が生じている場所が数か所あった。	人工芝との段差や凸の段差や園庭の凹を見つけ速やかに整備する。	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士で誘い合ってひかけるすら遊びであった。ルール的に必要素があると静の時間ができ、追いかける際も加速しも過ぎなかった。	子ども同士の遊びでも様子を見守り、状況に合わせて声をかけていた。自分でも身で突したり、転倒したりしないように気を付けながら走るように知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも鬼ごっこしている数人の子どもたちと同士で誘い合い児棒「泥棒」に参加した。	4.対象児の至近で対象児を見ていなかった	担任保育士は園庭子たちに保育士と羽根つきをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長担任は、園児の他のたちと遊んでいた。園庭で遊び守った幼児は、園児の補助を行っていた。	園庭には3人の保育士がいたが、トイレに行く園児の補助のため一時園庭からいなくなった時間があり園庭での全体の遊び様子を見る存在の人が欠けてしまった。常に全体を見ながら危険な行動に声掛けをしていく必要があるため、保育士の人員が足りない時には保育士の手を借りなどし体制を整え常に安全に留意していくようにする。	園庭での戸外遊び時には、保育士の配置に余裕を持ち、もし緊急で継続できない場合には声を掛け合い、残っている保育士は園全体をに気を配り子どもの遊びの様子を把握していく。常に全体を見ながら危険な行動に声掛けをしていく必要があるため、保育士の人員が足りない時にはほかの保育士の手を借りなどし体制を整え常に安全に留意していくようにする。	
8677	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17								3		3	2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾基部骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	両手に玩具を持つ子どもに対して保育士が全に周配慮するように職員知した	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	床の段差やなすり状況ではなかったため、改善策はない	1.集団活動中・見守りあり	子どもが両手に車を持ち、床に走らせていた対保育士としての危機意識が足りなかった	子どもに玩両手に玩具を持って遊ぶことは危険につながることを知らせる	1.いつもどおりの様子であった	迎えまで、好きな車遊んでいる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内のコーナーで、部屋の中央で木床で車を四つん這いで動かしていたので少し離れた状態であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2か所の遊びコーナーで他児と遊んでいたため、見れない状況であった	特になし	配置人数もお人的に防げない状況であったので改善策はない	
8678	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12								2		1	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(園開所日数)回/年	滑り台の下にマットが敷いてなかった。	落下するかもしれない場所にマットを敷く。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつも上り活発で活動的であったを(理由記載)	3人で滑り台の踊り場にいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の踊り場に一人ずつ体を乗り出していたため危険と思い、近づいて声をかけるが改善すがなかったため階段より登っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の保育者がその場に向かったので他児との遊びを続けた。	特になし	滑り台の踊り場にいるのは一人ずつとするルールを職員・子どもともに徹底する。落下の危険がある場合は、子どもの動きに対応できるように、遊具等の下から声をかける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8679	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				15	17			4	4	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	なって、動きくなっていく。子どもたちがルールはわかっていても守れない。寒てき体が鈍くなる。	遊びを始める前にみんなで体を温める活動を入れる。遊びを始める前に、ルールを子どもたちと確認。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	コンクリートの角は保護されているが、側面は保護シートされていない。生え替えの生えている段差になっている。	園庭の走ってはいけないが視覚でわかるようにラインを引くなどコンクリート側面を保護する。	1.集団活動中・見守りあり	年長児が出てきて園庭真ん中でクラス遊びを始めた。自由遊びをしていた中児だったが、子どもも増えたことで保育士が行き届かなくなった。	今一度、職員の立ち位置の確認、見届けの仕方について共通理解を図る。	1.いつもどおりの様子であった	数人の友だちと園庭の真ん中にてボール遊びをしていた。本児はケガをした時は別の遊びをするところだったと話すが、一緒に遊んでいた友達はボールを追いかけていて転んだと話す。	4.対象児の見ていなかった	4歳児が自由遊びをしていたが、遊びの場所や内容が様々だった。本児は把握していたが、本児の怪我の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大縄跳びでしていたため、全体を見ていなかった。5歳児の担任はクラス遊びについて、5歳児と出きたフリー担当は、支援児についていた。	いつも、全体を担とそれぞれの遊びに当とかれているが、もう少し立ち位置や見届け方を考えるべきだった。	戸外遊びでは保育士の人数に応じて遊びを工夫する。保育士同士の連携し合って全体の把握をする。	
8680	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	3	12						4	4	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		子どもの人数に対する職員数は配置できていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	段ボール製のハウスのカウンターの部分に乗り、足を滑らせて落ちた。	カウンターの用途は、ままとの台であることを伝え、遊びに来ているものがたちとしいもの	3.個人活動中・見守りあり		子どもの動きに合わせ、死角がないように遊びを見守る。	1.いつもどおりの様子であった	保育室の段ボール製のハウスの中にカウンターの部分に乗った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら近くの子ども遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながらくのも遊んでいた。	保育士は本児がカウンターに乗っているのを把握していたが、高さ的に大丈夫と思い、離れたところ見守っていた。	大丈夫と思ずず、いこま常に危機感を持って子どもを見守るように努める。	
8681	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24								4	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育士の補助の仕方	安全に運動遊びが行えるよう、保育士の補助の仕方を確認し周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	慣れている跳び箱で段数を上げていく必要があった。	使用する跳び箱に慣れる。	1.集団活動中・見守りあり	園児24人と担任1人、主査1人、保育士1人、副園長1人、加配保育士1人で跳び箱をしていた。	跳び箱を跳ぶ際の付き手方、目線方の置きなどの声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもの違う初めて使う跳び箱で跳び何度かんだ。	2.対象児の近で対象児見ていた	跳び箱の傍につ傍き、跳ぶ補助の際をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱のつ傍につき、跳ぶ補助の際をした。加配は保育士に対象児ついていた。	本児がバランスを崩に際に、補助できなかった。	着地前に補助できるようにに、傍でつく保育士とは態勢をとり補助いく。	
8682	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44								4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	職員が見守る中の事故で、対応も適切であったと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	特になし。	障害物のない園庭の真ん中分で自分で事故であったため、転んによる防ぎようがなかった。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	元気も良く友達と誘い合ってのドッジボールをチーム分け後、場所を移動する際の事故であった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	担当職員もドッジボールもボール見守りしている中事。を面も見ておりが体の敷きにが変方でたとがあった。	職員ドッジボールの出来る怪我場した場ており、手の下な転び方であっ報告	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ付近に保育士は3人おり、担当が保育士が子ども対応した時も他の子のフォローにすぐに入れる状態であった。	特になし。	特になし。	
8683	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				9	12	20		3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折・右手部挫傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	今後も研修の中で、いろいろなパターンを想定し、事故予防に努めていけるようにする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	跳び箱の設定や置き方、マットの場所についてもあったため改善策はない	3.個人活動中・見守りあり	自分でできるようなことが嬉しくて、自きになったうち活動的になった	器具遊びは危険が伴うことを伝え常に落ち着いて取り組むように声掛けをする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	補助なしで跳び箱ができるようになったことが嬉しくなったと、いつも気分が高まった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳び箱が設置されていたために保育士が近くに前に園庭に定されていつく遊ており、場所から離れた様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった	他児が遊ぶ場所で子ども一緒に遊んでいるところを守り、見ていた	転んだ時に補助できる位置に保育士がいなかった	跳び箱はでに危険なるようにも伴う遊びなので、保育士が近くに状態になるつけて始めないようにマットを被せて子どもたちにも知らせておく	
8684	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26								2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		保育士は子どもの様子を気にかけ安全に留意しながらしと見守ることを再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭の整備は定期的におこなっている。遊び検証していく方を	1.集団活動中・見守りあり	逃げる事に夢中になり、足元への注意がなかった。	子どもの様子を見守り、声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から友活発だらいかけこんでいる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で子ども様子を見守っていた		戸外遊び前には遊具の配置場所や園庭整備の安全確認をしてから遊ぶ	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面							ハード面							環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8685	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	3									3	2	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	外の時間は職員を遊具付近に配置及び、ミーティングを通じて周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	特になし	注意喚起標識設置。	1.集団活動中・見守りあり	中へ誘導する職員、下駄箱で補助する職員、教室内で対応する職員に分かれており、外で子どもを監視する目が不足していた瞬間があった。また入所間もない子どものため、とっさの行動が予測できない場面もあった。	子どもの室内へ順番に誘導するとっていたが、下駄箱付近でも集め、その後一斉に室内へ誘導することにより、危険箇所（遊具付近）の監視体制を厚くする。	1.いつもお様もりの子であった	滑り台のから階段からジャンプして降りようとして、着地に失敗し、足をひねった。	3.対象から児の離れたところで対象児を見ていた	園庭対応の職員は、他の子ども対応するため、もへすべり台から少し離れていたため、ジャンプの瞬間を見が、子どもの素早きに動きに対応できず、止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は、教室内で戻ってきた子どもの対応をしていた。もう一人は、下駄箱付近で、教室に入る子どもの対応をしており、ジャンプする瞬間は見ておらず、対応できなかった。	教室に戻る時間、園庭での子どもの監視が不十分になっていた。	子どもの室内へ順番に誘導する体制をとって下駄箱付近で子どもを集め、その後一斉に室内へ誘導することにより、危険箇所（遊具付近等）の監視体制を厚くする。	
8686	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	143	3	22	21	30	31	36			11	11	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外上顆骨折	2.自らの転倒・衝に突るもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	活発に遊ぶあ児であるが、行動を注視できる職員の配置で適切でなかった。	リスクの高い箇所には、児の行動が注視しやすい職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	なし	施設、整備面につき改善策なし	1.集団活動中・見守りあり	砂場の縁の上に砂が残っていたため、滑りやすかった。	砂場の縁に砂がのっていないかを適宜観察し、必要に砂をはらう。	1.いつもお様もりの子であった	いつも友達の刺激を受けやすく、活発に遊んでいた。	4.対象児をきていなかった	普段と変わらず遊びを始めた為、目を離しまう時間があった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	子どもをみる担当場所や、おおまかな範囲など職員間の連携はあったが、全てのカバーまで至っていなかった。	児の行動を把握し、見守りができていなかった。	行動予測を行い、危険な行動を起こす前に声をかけ、安全に遊ぶ。	
8687	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	22									5	5	6歳	1.男児	自閉症スペクトラム	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突るもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	複数の職員で確認したが、児の気持ちの気持ちが置いていたため、怪我度合いの度合いを想定できていなかった.	憶測ではなく、様々な結果を予測して、複数の職員で全身の視診・視診に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	入場門のと定用して、１ポのＬのタンクしりを使用したが、可能な動状態であった。	入場門にくく実に紐りくく確固定する。	1.集団活動中・見守りあり	待機時間中の出来事であり、配慮不足であった。	目を離すことなく見守りだけとするのはなく、気持ちが安定する玩具を持ち込んだり、待ち時間を少なくするプログラムにする。	1.いつもお様もりの子であった	他児の様子に興味をもち、ようを同じに遊びたくなった。	2.対象児の近で対象児を見ていた	対象児と一人の児童ていた象倒れが、対象倒れが時手を伸べも届かなかった。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	転倒し擦り傷のあった部位の確認しかできておらず（抱っこで観抜に参加したのも）転倒した痛みで気持ちが崩れていたというまったり職員の思い込みで頷骨骨折していることに気付くことができなかった。	危険予測十分知が十分でなかった。	転倒した時の状況を詳しく聞き取りゆる可能性を考慮する。担任・看護師と連携し受傷後の状況を再確認する。	
8688	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突るもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	マット遊び時、マット上でしか遊ばせないルールを周知していなかった。	マット遊びのルールを職員・子どもたちに周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度その都度	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもお様もりの子であった	気分の高揚などなく、いつも通りに楽しく遊びを楽しんでいた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	マット上で前転をするもの補助の中だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	サーキット遊びの遊び均台遊び補助をしながら全体を平びをら見守っていた。	何回かの経験しているので安全い込み、見ていても注意しなかった。	幼児の特性で突発的な行動をすることを理解し、危険な遊び方やルールが守れていない現場を発見したら、すぐに声かけし危険を回避させる。	
8689	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	6歳	1.男児	アレルギー疾患や持病等なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靭帯損傷右足関節腓骨剥離骨折の疑い	2.自らの転倒・衝によるもの突るもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	なし（職員の配置等十分で、瞬時に対応できた）	なし	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	3.いつもり活発で活動的であった(理由を記載)	幼児でリーダー生懸命になり、勢い余ってランスバランスが取れなかった。また、幼児の身体的特徴によりバランスがとりにくい。	3.対象から児の離れたところで対象児を見ていた	そばで見ており、児が転倒し泣きしたので、すぐに駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた児が泣いて、転倒し出したので、すぐに駆け寄る。	リレー中に勢い余ってバランスを崩した。	家庭と園とで連携しながら、普段から身体づくりに努める。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制									教育・保育等従事											ソフト面					ハード面							環境面					人的面														
								人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他					発生時状況	死亡	負傷	診断名									実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】			実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
																						死因	負傷状況	受傷部位																																	
8690	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	17								2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(通年)回/年	2. 基準配置		今後もヒヤリハットや園児の怪我の情報共有を図り、危機管理意識をもって園児の遊びの様子に応じた職員の立ち位置や見守り化しくする。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１２～１５)回/年		クッション材の役割ができるよう上にして設置している。	1. 集団活動中・見守りあり	一段目な自分で降りてみようとしたので飛びたりて、足元ていたバラくのりを見ずかったのンスずかもしれない。	総合遊具の安全な遊び方について、今後も引き続き子ども達にわかりやすく伝えていく。	1. いつもどもりお様子であった	総合遊具に出来るように、最近自ら喜んで遊んでいたこともあり、当日も友達と楽しんでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任がついていることを確認しが、他の遊具でいた他児の遊んだ動きを見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	総合遊具に担任の１人はついていたが、その時同じ遊具で他児の動きを見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。		遊ぶ園児の全体様子を見ていくように一層気を付ける。	
8691	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	14								4	4	3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等から転落・落下	2. なし	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 基準配置		事故防止に関する研修に積極的に参加する。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	児の気分が高揚もいつより動きが激しかった。	園児一人一人の様子を捉え、特に固定遊んで遊んでいる時にはケガにつながるような動きがないか近く見守りをしている。	3. 個人活動中・見守りあり		特になし。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)		2. 対象至近児の対象児を見ていた	本児の遊ぶ遊具で、見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていた。	遊具の反対側や、園庭の他の遊びの子どもたちと遊ん見をしていた。		園庭での活動の時には、一人でも多くの保育士が出て子どもの動きを見守るようにする。	
8692	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22								1	1	4歳	1. 男児	鶏卵アレルギー	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	児が泣いていたが、職員引率室で静せずをはからかっなかった。児の特性ばかり（思い込み）で十分な観察をしなかった。	マニュアを再度確認し、職員室で観察・安静をはかる。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	マットを敷いていたら、マットに引っ掛かり転ぶ。	マットを撤去し、除みざらに交換。	4. 個人活動中・子どものみ	なし	なし	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつも通りの状態で登園。尿が我慢できなくなり慌てて走ってトイレに行った。	4. 対象児の動きを見ていなかった	朝の登園の受け入れ中で、排せつは自立していので保育士は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の時間帯で忙しく、各々が他の保育にあたり見ていなかった。	児が便秘がちなため、いつも通便がでおなかが痛くて泣いていると思い込み、受傷から時間経っていた。	思い込みで見ると観察ができないため、思い込みで判断せず職員室に引率し、安静にしながら観察を十分に行い判断する。	
8693	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外保育(園外・公園等)	2. 1歳児クラス	18								4	4	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2. 基準配置	子ども同士が手をつなぎ、通行人を振り歩いながら手を繋いでいた。	通行人とすれ違う時は一時停止して気を付ける。子どもも同士でなる場合は、必ず手をつなぐように保育者が片側をつなぐようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	園外保育における下見報告書を、学区内の保護者報告書を作成する。	学区内外に関わらず、園外下見報告書を作成する。	1. 集団活動中・見守りあり	散歩の通路上の側溝が深いところ、注意が十分でなかった。	危険個所の職員間で共通理解し、予防策を考えておくことが必要である。	1. いつもどもりお様子であった	落ち着いて行動できる歩いていたので、仲の良い友達と手をつないで歩いていた。	2. 対象至近児の対象児を見ていた	対象児が落下する瞬間、すぐ後ろの列が、他児とぶつかったために合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩いていた職員は、先頭の子どもと手を繋ぎ前方子どもの確認と子どもの歩く様子を見ていた。後方を歩いていた職員は、他児と手をつなぐ子ども後方の子どもを見ていた。もう一人は避難者に子どもを乗せて歩いていた。	通行人とすれ違うため、手を振りながら側溝に落ちてしまったことで落ちた。	すれ違いなどの時は、一時停止するなどして安全に気を付ける。	
8694	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	16								1	1	4歳	1. 男児	なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	8. その他	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	３・４歳合同保育時は、発達を考慮し低年齢である児クラスを使用していたが、この日は４歳児クラスを使用した。	合同保育時、低年齢児の発達にみあったクラスの使用を優先し、遊び慣れた環境で保育を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	安全に遊ぶことができる保育室への配慮が不十分であった。	定期的な安全点検の中で保育環境も見直し、安全に遊ぶことができるよう見直しや改善をする。	4. 個人活動中・子どもの	落ち着かない環境のリスクの管理不足	合同保育時、低年齢児の発達に見合ったクラスを使用し、遊びなれた環境で保育を行う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	棚の下など普段遊びなれていない環境で、興味もがわくものが多くの気持ちが高ぶっていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	いつもよりも活発に遊んでいたもの、物を教えてほしいと言ってきた児の優先目を外した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員が児に声をかけていたので、見ているものと通信してしまい、他の子どもとかかわっていた。	園児の予測と職員間の連携不足	遊びなれない環境で保育を実施する場合は、危険個所のそばに保育士を配置し随時中止して見守ったり、棚下のスペースを段ボールなどで閉めておいたりする。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8695	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	4	9							4	3	1歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじの骨折と肘内障	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		ソフト面での改善策は、なし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	随時		ハード面での改善策は、なし。	1.集団活動中・見守り		環境面での改善策は、なし。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	機嫌が悪くグズ言いた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接している)	保育士が跳び箱(2段)に座ってずっている本児を抱っこしている時、後ろから他児が不意打ちに飛びついてきた。その拍子に抱かれていた本児がマットの上に落ちる。その後、時々泣いて機嫌が悪かったが、通常の悪さと同様に感じてしまった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	片付け前だった、他児に片付けを促していた。	背後から不意打ちに衝突してくる園児の行動が、予測できなかった。	周囲の園児の行動を予測したり、全員の園児を配る。	
8696	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	41									4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨近位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		マニュアルなども基準配置も基準配置していた為、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		毎月の施設・遊具等の今後も継続して行う為、特になし	1.集団活動中・見守り	職員配置場所が跳び箱の着地点からお離れ合わなかった	職員を子どもの動きに反応できる距離に配置する	1.いつもより元気がなかった	障害走の順番待ち、意欲的に参加していた	2.対象児の近で対象児を見ていた	跳び箱の横につき、子どもの様子を見ていた	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	障害走の為、各教育用遊具(鉄棒・跳び箱・平均台)に保育者がつき、それぞれ見守っていた		運動遊びの危険性や、教育用遊具の使い方やつき方などを再認識するとともに、安全に遊べるように今後も配慮していく	
8697	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75	5	12	16	7	21	14			17	15	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具の正しい使い方について、指導、確認	事故予防について職員研修を行い、共通理解を深めるとともに、遊具の正しい方を子どもたちと一緒に再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/使用時		点検時以外でも、職員間でいたは情報共有している。今後も徹底を図ろ。	1.集団活動中・見守り		戸外での安全確認を保育士間で連携し、徹底する。子どもの発達に応じた遊具の方を職員で研究協議する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の近で対象児を見ていた	登り棒の下で、本児を含め周辺の遊具で遊ぶ数人の活動を見ていたが、保育室へ入る時間となり他児に片付けを促すため目を離した直後、本児は再び登り棒に登り落下した。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	支援を要童をするのおしており、見ていなかった。		遊具の安全法な使用方法を子どもに伝え、その都度、声掛けをする。	
8698	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	30									18	18	3歳	1.男児		7.登園・降園中(家所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	園内ということで、保護者安全であると、者もあるという意識がある。	事故原因は全職員事故を防ぐ為に、保護者と帰園であっても走りなどでは、保護者が時でも回るなど危険となったことかけを全体で体る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保護者と一緒に登降園する時などは、子ども達もならない中で帰宅の時は、子ども達の姿が見られる。	ホールと通路が一緒になっているの為、登園は職員が立ちかけを通して、登園は職員が声かしていく。	7.その他	園内ということで、保護者であっても安全と意識がある。	保護者にも安全に対する意識を高め対する意識を高めていく声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	送迎時4部屋を出てホールを走ってホール入口に向かっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	2階の保育室を出て掃る準備をして保護者監視下の保理況であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2階の保育室を出て掃る準備保護者監視下であった況だった。	園内ということで、保護者安全であると意識がある。	送迎時など日頃からホールを走ってはいけないことをかけていたが、再度・保護者にも声をかけをホールを走らないを様声をかけていくようにする。	
8699	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員がトイレの入口には、トイレの中までは行っていなかった。	オムツ交換する職員やトイレ介助する職員を分ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	トイレ掃除あとだったの分ていやなったのかもしれない。	トイレ掃除あとは床の水分をしっかり拭き取り安全保を確する。	1.集団活動中・見守り	いつもであれば職員の内、1人はトイレに入る一緒についていなかった。	園児がトイレに行くときは必ず職員が付き添う。	1.いつもどおりの様子であった	自分からすんでトイレに行った。	2.対象児の近で対象児を見ていた	見守っていたがついなかった。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	オムツ交換や着替えを手伝っていた。	職員がまとまることなく、子どもたちを見守れる位置にいること。	オムツ交換や介助する職員と分ける。	
8700	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12			8	3	1				2	1	4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨近位端骨折・右肘関節捻挫・右肘間筋挫傷	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で生事故の回発今した事故について情報提供とすることに、事故の分析を、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故で、施設・設備の影響は改善の必要はない。	4.個人活動中・子どものみ		お やつを食べる部屋に部物を移動させておき、片付けの際にの行かなくすむようにし、子ども達も動れるにする。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べた後、コップを片付けに行った教室に行った際に他児と保育室のカーロッ上に登り、飛び下り滑って腕を打った。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べて子どもへの声かけや達かけをした、違う保育室へをづけに児守コップ片行った見守へりがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている子どもへの声かけや達かけをしていた、違う保育室へをづけに児守コップ片行った見守へりがなかった。		事故の可能性を考え、達の見守り、移動やタイミングを子ども動きを見守る。移動やタイミングを子ども工夫し子ども動の行動も達の行動を見届けるようにしていく。	
8701	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11									3	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第4趾基部骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの突による	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保護者から状況を時分で聞いた自判断しまいすぐに職員に連絡が行われなかった。	保護者から連絡を受けた時に状況にはけがの状況に合わ員室に職員に連絡するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の少しのぼったりする。	まずいりありたようなどかは認く。	3.個人活動中・見守り	こけていなくてもひかったりけがすることもあるとしておくようにする。	こけていなくてもひかったりけがすることもあるとしておくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で自由遊びをした。	2.対象児の近で対象児を見ていた	園庭で子ども達の様子を見ていた。	1.担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周りの子ども達の様子を見ていた。	こけてくなってもひかったりけがすることもあるとしておくようにする。	こけていなくてもひかったりけがあるとしておくことも定しておくようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																														掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制																		ソフト面					ハード面								環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8702	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51			16	18	17			8	5	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備は改善の必要はない。	1.集団活動中・見守り		同じ場所で同時に遊び、予定より多くなった時には、子ども達の遊ばせ方を考える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で氷鬼をして走っていて転倒し左足ねる。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	氷鬼以外に、かくれんぼや砂遊びなど各々で楽しんでいた為、それぞれの動きを順に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	氷鬼以外の遊びを楽しむ子どもたちと関わっていた為、対象児の遊びへの見守りが少なかった。		事故の可能性を考えて子ども達の動きを見守る。ケガをした場合に時間の経過により症状等が表れることもあるため、ケガをした部位の変化にも注視していく。	
8703	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24								4	1	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝骨遠位端剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備は改善の必要はない。	1.集団活動中・見守り	慌てて遮断機止めているにもかかわらず、禁止にしていた飛び降りをしてしまった。	土管から降りないように子ども達に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	逃げるのに一生懸命だった。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	保育士は見えない全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士は一緒にゲームをしていた。	2時間ぶっぶっぶ時の間休憩なしでドッジボールやおにごっこ遊びが続いていたので疲れが出ていたと思われる。	休憩入れ、水分も取り、子どもの様子を見ながら遊びを進めていく。	
8704	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30								3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故が発生する可能性について職員間で共有する子どもたちへの安全に関する職員の意識向上を図る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		日常の子どもたちへの動きへの留意	1.集団活動中・見守り		活動内容に合わせ、事前に準備体操をする	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに登所・特に変わったことはなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	とび箱が側にあり、一人ずつ子どもに声を掛け、一人の子どもを跳ぶ様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士で、とび箱を跳び終わった子どもに対し様子を見守っていた。担当保育士とは反対側で、跳び終わった子どもの側で声を掛け見守っていた。		移動遊具(とび箱)を使用する際の注意点や、立ち位置等職員間で共有する	
8705	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11								1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	助走に勢いがあり、子どものものを受けられなかった	補助する立ち位置を確認してから始める。(跳び箱に立ち、手を伸ばせば子どもの伸ばした手が胸の辺りに届く位置)	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱、マット	跳び箱、ロイター板、マットの点検	1.集団活動中・見守り	勢いよく跳びすぎの跳び箱を突く手を位置を超えてしまった	助走の勢いに負けて転落しないよう、子ども自身の支も自身の支体重を考える力、腕を軸にして重心移動が出来るよう段階を踏んで進める	3.いつもと活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱が自跳べる自信から児に為、張り切っていた	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	勢いが有り跳びを超えてしまい、身体を支えたが肩落下したから	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当気付き声に状況確認し、他児を座らせ落ち着かせる。	泣き声に状況確認し、他児を座らせ落ち着かせる。	跳ぶ前には健康状態を把握し、環境を整える	子どもの様子や状況を確認し、跳ぶ前には必ず危ない使い方などルールを決め説明してから始める	
8706	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17								1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故が発生する可能性について職員間で共有する子どもたちへの安全に関する職員の意識向上を図る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		日常の子どもたちへの動きへの留意	1.集団活動中・見守り		安全確認と子どもたちへの見守りの強化	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登所・特に変わったことはなかった	2.対象児を至近で対象児を見ていた	おやつ後や清掃等をしながら子どもたちに帰りの準備を促していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故が起こった時、本児に近くいた状況を確認し、職員室に報告した			安全確認と子どもたちへの見守りの強化	
8707	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	4								3	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第2趾末節骨骨折左第2趾挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置		事故マニュアルを、全職員に周知する事と事故予防に関する研修を通全職員における事故予防の意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(通期)回/年		建付けのもあり問題、保護テープを貼るなどの対策がない出来ない為、声掛けでの改善策としている。	7.その他		慌てずに、周りをよく見てよく歩くことを再度指導する。	1.いつもどおりの様子であった	骨折をしていたが、園では走ったりいつもどうりの姿であった。降園した宅の風呂に入っていた際に疼痛を本児が母に伝えた。	4.対象児の動きを見ていなかった	目撃したは保育士はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当対象児の動きを見ていなかった。	見ていなかった。		延長保育の時間帯でもあり、人の出入りも多いため落ち着いた環境で過ごせるよう声掛けしていく。慌てずにトイレに行くことがないように、適宜園児たちにはトイレ誘導をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				事故誘因	ソフト面					ハード面									環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8708	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	47									18	18	6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	子ども達でこどもは遊んでいるところを見ては守っているが、職員の立ち位置を見直す必要があった。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊ぶコーナーの配置(物的・人的)の仕方。	遊ぶコーナーの配置(物的・人的)の見直し。	1. 集団活動中・見守り	給食後のびのびと遊び、友だちとボルを動きをして遊ぶ自由で、のびのびとカを発揮できるよう、のびのびとした和感があった。	給食後は着いて遊ぶ子どもたちにもも伝えて、転んだり何かこっぱ、だり起き時には、子どもたちが自己発信できるような保育をしていくようにする。	1. いつもどおりの様子であった	給食を食べた後、片づけを好きなして遊びを見つけて遊ぶ。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	食べ終わった後でどもを遊んでいるもたちを見守り、一緒にブロックやマルカルタで遊ぶ。	2. 担当対象児の者・発動きをいかった	給食を食べている子どもと終わった子どもをわか子ども見ている状況。	本児がランスを崩がるがるかったが、注意深ども様見ることも子を守ることをしっかりと行っていく。	給食後といもあ落ち着くこともいて遊べる環境や配置を十分に行うようにする。	
8709	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	33									6	5	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左第4指中節骨々折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		職員間で今回した事故について情報提共とし、事故の分析をし、再発防止に努める。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備は改善の必要はない。	1. 集団活動中・見守り		活動を実施する際には、園児に注意点を伝え、準備体操も行う。普段の保育の中から跳び箱にすれば、一人ずつ動きの危険性について意識を持っておく。	1. いつもどおりの様子であった	運動会に向けて、対象児意欲的に取り組んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	マットと跳び箱の境目辺りの位置で、跳び箱をとび越える姿を右側から危険のないように見守っていたが、対象児がとび越える際、と瞬間の姿勢や着地の際の危険がないように見守っていた為、対象児の手の動きを注視していなかった。	2. 担当対象児の者・発動きをいかった	跳び箱と鉄棒を続けて順番にして練習していた為、跳び箱以外の所にいた職員は、跳び箱に取り組む対象児の動きを見ていなかった。	特になし	事故の可能性を考え、子ども達の動きを見守る。	
8710	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15				4	5	6			2	2	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守り	ダイナミックな動きを伴う動きをすることがあるが、事前に靴下を脱がせ忘れていた	必ず靴下を脱がせてから活動する	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	動物(トラ)になってきっていたため、気持ちも、高揚ダイナミックであった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	約５０㎝の高さからのジャンプで床にマットを敷いており、マットが動かないよう立っていて押さえていた。着地時すぐに助け状態ではなかった。	2. 担当対象児の者・発動きをいかった	他児が並んでいる列について、配慮をすると一緒に活動した。	本人の運動能力を把握していたに、それに合った補助はしていなかった。(一回目のジャンプの着地も不安だった)	不安定な着地でもすぐに心に手をだせるように心体制を整えておく。	
8711	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	21									3	3	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯上2本外傷性歯牙破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3～6)回/年	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	天候が雨で湿度が高く蒸気がこもっていたと思われ、廊下全体には滑りやすくなっていたが、部屋の入口まで敷けてなく、その確認が不十分だった。	全確認をし、安全の都度丁寧な対策をとる。安全を確認、そのための事前の予測をする。	1. 集団活動中・見守り	当該児童が廊下に設定をしたトランポリン遊び内の移行時に、早く行きたい気持ちが強かったように思われるが、室内と廊下の段差と、ゆっくりと移動などの安全面の言葉がけがなかった。	子どもの行動を予測し、音楽を使う。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	トランポリン遊びでいた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	当該児童の様子を見守れる場所にいたが、止められなかった。	2. 担当対象児の者・発動きをいかった	室内と室外に遊び分けて遊びをみていた。	遊びに入る前に遊びのルールを全体に伝えるその場の状況に応じた該当児童の状況にたがなかった。	児童の状況を把握し、安全に気を音楽をかける。	
8712	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24									1	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	職員が安全管理に関するマニュアルを確認できていなかった。	全職員で安全管理に関するマニュアルを定期的に見直し、事故予防に関する定期的研修をに行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	見守りが状況ない状況で当該児童がうんていに登っていた。	子どもたちがうんでは遊ばないが、ではない時には登らないなど貼り紙をする。	1. 集団活動中・見守り	当該児童が集中きずに遊びだしていた。	狙いを持った活動を行い、遊びが始める前に約束をなどを始めるなど方を工夫していく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒をするために並んでいたが、並んで列の隣にあるように登っていた。	4. 対象児の動きを見ていた	他の子どもの鉄棒の練習に付き添っていた。当該児童の動きを見ていなかった。	2. 担当対象児の者・発動きをいかった	一人担任であるため、担任以外に当該児童の動きを見ていた職員はいなかった	鉄棒をしている間、当該児童から離れていた。	集団活動中に、抜けているこどもがいないかなど常に人数確認しながら、危険な行動を予測して指摘できるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事											ソフト面						ハード面							環境面					人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8713	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	9								1	1	6歳	1. 男児	前日夜、自宅にてベッドから落下し右上腕部外側に打撲と裂傷を受傷してきており、登園時に保護者からその旨の引き継ぎがあり、当該児童も少し元気のない様子だった。負傷した腕を気にしている様子が覗えた	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満していたため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	室内で走る行為を取った集団遊びをおこしてしまった	室内という環境に適した集団遊びを考える	1. いつもどおりの様子であった	前日の家庭でのケガがあったもの。対象児として始めて遊びだったので、いつも通り元気な様子で遊んでいた	2. 対象児の近で対象児を見ていた	見守りながら、速くなどと声かけをしつつ見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故の際、保育士は１名だった	前日に家庭で負傷してきている状況であったが、本児が熱望したので、遊びをしてしまった	子どもの希望を受け止めることも事故よりの防止を考えて今後はあそびの内容を配慮する	
8714	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18								1	1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	粉砕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満していたため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	机の下に直椅子を机の横で着替えるが、椅子がぐまっすぐ入っていなかったため、体が当たった際に椅子が倒れそうになったのを止めしたり、ケガとなったのを考えられるよう、を考える。	着替えを含め席かから立った際に、きちんと椅子を直すよう、習慣をつけ慣をつける。	1. いつもどおりの様子であった	他児と同様、自席に服をたたんで脱ぎでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体の動きを観察しつつ、シャワーを先にする児童数人を出入口付近で誘導していた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人担任であるため、担任以外に当児童の動きを見ていた職員はいなかった		特になし	1人担任で全体を見渡す場所にいたため、特にいい問題はないと思われる。	
8715	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10				6	2	2		2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年以上	2. 基準配置	マニュアルを行動化できていなかった	マニュアル内容、発生時に各々が行動がよう実施研修きるに実施充実修をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年以上	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	走り回る児童に落ちないてきく状態であったため、トラブルがおこりやすい環境であったと考える。	園児たちが落ち着けるように、走っている子どもに、一緒に遊んだりできるよう働きかけていく。	1. いつもどおりの子であった	健康観察表と口頭で保護者と健康等に変わないことを確認する。	4. 対象児を見ていなかった	子どもを見ながら保育室のことや保育の準備、連絡帳の確認などを２人の職員が同時に行った。走り回っている園児に対し口頭で制止を行った。ぶつかったのは本児が泣いて気が付く。その時両手を後ろについてた膝を立てた状態でいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記と同様の動きをし、子ども担当者が分担し見守ると、本児が泣い気が付もりをしなく、児童が付く。	室内でも走り回ったり落ち着きない状態をすぐに止めることができなかった。また、2人の職員間で、安全管理の分担がスムーズでなかった。	2人同時に業務を行うのではなく、お互いが声をかけながら意志をもって見守りを実施する。	
8716	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47				22	25			2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満していたため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	降所時間に近くなり、児童全体の持ち足立ちが見えたので、足が遊びをつけて遊び機会をくったが、その後の変わった姿は変わらなかった	児童の姿が改善されれば、気持ちが落ちち着いた時間を設定する	3. いつでも活発で活動的であった(理由を記載)	友達とふざけながら高揚した気持ちはだった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	4歳児担任が所庭を見渡し、全体を俯瞰し、つ瞬間を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所時間に近いので保護者の対応を行った	職員間の連携をとりながら庭の遊びを見守っていたが、保護者対応にあたる職員もいるためにじた遊び応じた保育士の配置場所、人数が不足していた	保育士の配置場所を考え遊び遊び置した遊び対応の種類や決め方など、職員の連携を密にとるようにする	
8717	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23								4	4	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満していたため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	子どもたちで遊んだ場が砂場だがそのまま穴ままになっていた。	今後は足元が悪いので、着替えるようになったり、ケガの際に埋める。	1. いつもどおりの子であった	とくに変わりなくいつもと元気だった	2. 対象児の近で対象児を見ていた	砂場にシートを敷いて玩具をかけて片付けるようにみんなで声をかけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	竹馬に取り組むもの子どもや、他ども片付けを行った。	担当職員はぼみがくことを子どもたちに伝えたが、埋めて事故起こらないようにするなどの配慮に至らなかった。	危ないと部分に気付いた時点すぐに対応する。日ごろから事故防止の意識を高くよう努める。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8724	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	18									2	2	3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨遠位部骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	適宜な事故予防研修が必要。	全職員で定期的にマニュアルの見直しをする。	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	遊びの内容と人数、場所(広さ)のバランスが悪かった。	鬼ごっこの人数に合わせて、使う大場所をすきくる。	1. いつもより多お様子であった	普段と変なくわりなく元気に過ごす	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児を見つつ対象児を見ていた為、転倒した時に目を離す事もあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じように対象児を目を離す事があった。	遊びの内容と見守りのバランス悪かった。	職員の連携と遊びの内容を理解し、職員が必要であれば人を足す。	
8725	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	6									3	3	1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前額部挫傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置		事故防止の為に職員間でマニュアルを再度見直し、周知する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	2. 不定期に実施	実施頻度()回/年	1. 集団活動中・見守りあり	久しぶりの登園で、環境構成が前とは、違ってい	しっかりと遊びを見守る。保育士間での掛け合い大切にしておく	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しぶりの登園で保育室の環境も変化しり、探索が多くなった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	見守りながら他の子の対応をしていた為、転倒した時に手を差し伸べる事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつを給食室に取りに行っ、トイレで排泄介助を行った。	久しぶりの登園に保育室の環境を見直し、配置を変えており、転倒した場所に棚が配置されていた。	空間を区切る目的にて棚を配置してあったが、今回の事例後、配置を考え直した。	
8726	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20									1	1	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	特になし	施設。遊具・玩具点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	室内には机、椅子、おもちゃの棚や、遊びのコーナーが多くあった子どもの動線が狭くなっていたため、急に移動しようとした当該児童の足が友達の足に引っかかり転倒した。	遊べるおもちゃの決まったり、ちゃもちや種類をもっ配置したりする、子どもが通おもちゃや所等、余裕で配置すいや動線を考えていく。	1. いつもより多お様子であった	元気に登園して午前中にも活動に取り組んでいた。午後からは、ブロックで友達と一緒に遊んでいた。	4. 対象児の見ていた	保育室全体を見渡せる場所に座り、子ども一緒に遊びながら見守っていたが、離れたところで遊んでいた当該児童が転倒の瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任あるため、室内当番で他に児童を見ていた職員はいなかった。	特になし	1人担任で全体を見渡す場所にいたため、特に問題はないと思われる。	
8727	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	16									1	1	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折(左手肘)	1. 遊具等から転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	慣れた場所や遊具とはいえ、高さもあり落下の危険性はある。子どもへの過信や慣れが危機管理を薄くさせた。	安全管理の視点での保育の見直しを行う。遊具の使用時は側で見守る。	1. いつもどおりの様子であった	友達と話ながらジャングル台滑り台を登っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	所庭の西側に子ども達の遊びの様子を側で見ていた。その落下に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスには所庭に出ていなかった。	担任が1名でも子ども達の遊びを全体的に見守っていた為、遊具に常にこのできず、落下時に間に合わな	遊具で遊ぶときは側で見守る。それができない時は所庭の職員がいる時に複数に遊具を使用する。	
8728	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	20					15	5			2	2	6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離性骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具点検は定期的に行っているため、特になし	3. 個人活動中・見守りあり	手洗い場前と机上で他の場所より通り狭く、バランスを崩した際、よけきれなかった。	机の配置を変更し、動線とスペースを確保する。	1. いつもどおりの様子であった	通常同様給食を食べ、食べ終わったら子たちと一緒にブロックで遊んだが、立ち上がって室内を一周走り始めた。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	同じ保育室で子どもたちも遊びながら、場いる子たちを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食をまだ食べている園児の対応を行った。	担当職員が走らないように声掛けするが遅れた。	室内では走らない全体で約束し、走り始めたら即座に声を掛け走らないように注意喚起する。	
8729	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	33									4	3	4歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子ども同士衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	おやつ後で机、椅子を掃除するため子ども達は床でお茶を飲む事になり本児が床に手をついてしまう状況が出来てしまった。水筒は固くて重い危険物という認識をもち注意して取り扱いう指導を子ども達に徹底出来てなかった。	部屋で水筒からお茶を飲む際は、出来るだけ机に座った状態で飲むようにする。水筒を持ち運びする時は水筒の紐を首から下げて移動する習慣がつくよう再度子ども達に指導を行う。水筒を扱う活動の際は保育者も十分に注意して見守るようにする。	1. いつもどおりの様子であった	朝から機嫌良くいつも変わらない様子。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	トイレから戻り、水筒でお茶を飲んでいる子ども4名の内1名の保育者が前から見守っていた。内2名はおやつの片付け、内1名はトイレの見守りをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の2メートルほど離れた場所から事故現場を見ていた。	特になし	そばで見守るべき職員がいたため、人的環境に問題はないと思われる。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8730	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	12								3	3	2歳	1. 男児	生まれつき関節が柔らかく歩行に少しだが支障をきたすため、A病院に定期的に通院している。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具全点検の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1. いつもどおりの様子であった	特別な様子はなかった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたところで、他の子ども達を見ていたが、転ぶところは目に入った。	特になし	そばで見守る職員がいたため、人的環境に問題はないと思われる。	
8731	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	5								3	3	3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	雨上がりなど園庭が凹凸している所があった。	定期的な整地の必要がある。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	連休明ということもあり、横を向いて走っていて気持ちが高ぶっている様子だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の園児がすべり台で遊んでいるのを側で見守っていたため、対象児の近くにいなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいたため見ていなかった。	広い園庭の中、保育士の目が十分行き届いていなかった。	担当の保育士が注意して見守る。担任間で子ども一人ひとりの遊びの様子、注意点を周知し合う。	
8732	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	105				35	35	35		8	7	6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肩あたりの骨折・すり傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	自由遊びの中で、各々好きな遊びに集中していたため、周囲に気づけなかった。	鬼ごっこなど走る遊びには場所、範囲を定めるなど、ぶつかり合うことのない様、ルール作りを行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	前を見ないで移動することがある。	4. 対象児の動きを見ていなかった	活動の変わりめで全体誘導を行っていたの本児のみ子はみていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びを継続している子の対応や自分のクラス児童の誘導を行っていた。	全園児が園庭に出て自由遊びはじめた。	職員の全体配置を決めて、走っては特に目をくばり、気をつけるよう言葉がけをしていく。	
8733	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	28				6	13	9		2	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	長時間の時のルールが統一されていない。	職員間で長時間の時のルールを再度確認し、子ども達にも伝える。	1. いつもどおりの様子であった	何事に対してもせっかちになることが多い。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	テラスに座りに行こうとする姿を確認した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場辺りにいた残っていた子どもをテラスへ誘導していた。	早く座り場所がないぞいでしまっていたみて、声かけができていなかった。	方向転換する子とぶつかるなど予期せぬ動きを子どもたちはするので、そのことを想定しながら見守る必要がある。テラスへ座りに行く際は、クラス単位で動くようにし、子どもたちには前を向いて歩くなど声掛けを必ず行う。	
8734	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	65				20	20	25		3	2	6歳	1. 男児	特記事項なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置	対象児を含むドッジボールの様子は園庭に配置した各職員は把握していたが、本児が転倒を見ていた職員はいなかった。その後、入室後の本児の様子に変化による痛みからくるものであることに結びつかず、骨折に気づくことが遅れてしまった。	様子がおかしい時は、発熱、腹痛を疑うだけでなく、身体触れずに直接触れなどいかを確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	特記事項なし	担任の確認だけで他のスタッフによる点検を行うこと、見落ちないようにクラスにしておくこと。	1. 集団活動中・見守りあり	基準を下回る職員配置はしておらず、園内で周知している園庭の配置に従い、全体の様子を把握できるようにしていたが、途中替わった職員が途中で入れ替わっていた事を、危険察知の視点で見る事、またその後の確認の仕方が十分でなかったため、ケガの発見が遅れてしまった。	時差出勤で職員が入れ替わる時は、その時の様子を丁寧に引継ぐ。また、児童の様子が通常と違う時には、身体を直接触り、発熱、痛みなどがないか丁寧に確認を行うことを全職員に周知する。	1. いつもどおりの様子であった	園庭でドッジボールをしている時は、いつもどおり元気で最後まで参加していた。入室後元気がなく涙目になった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールに参加していたが、転倒の瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた他の職員も対象児がドッジボールに参加していたとは把握していたが、遊具に守り等それぞれの持ち場で安全確認をしながら、全体の動きも見ていた。	ドッジボールをしている児童をそれぞれの持ち場から職員は見ていたが、ボールを複数名で拾いに行く時などは転倒や接触危険があるので、遠くからの見守りであっても、そのような状況が起きそうな時には、注目して見る等見守り視点が欠けていた。	安全確認の方法をや危険を事前に察知する視点を全職員で確認す	
8735	令和6年3月4日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	9								4	4	3歳	2. 女児	特記事項なし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折(左足母指第一末節骨)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	特に該当するものはない。	2歳児の職員配置の基準を満たしており、対数的な問題はない。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特に該当するものはない。	上記の理由により、該当なし	3. 個人活動中・見守りあり	普段は午睡後に布団のシーツ外しはないが、受傷した日は布団のシーツを外していた。十分なスペースが確保できていなかった。	睡後は子ども布団から起きたらシーツを外し布を速やか片づけ、安全で遊ぶスペースを十分確保する。	1. いつもどおりの様子であった	普段から落ち着いて行動できる子で歩行もしっかりしているが、他児が遊んでいた電子レンジが気になりそこへ行こうとした時に左足を痛めたようだが、保育士はその状況を見ていなかった。その後本児は変わりなく過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	いつも落ち着いてできるため、自由遊び中骨折ような怪我をする予測ができた。担当保育士は他児2名のトイレ引率から帰ってきたところで、よく見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいた保育士は本児の傍でシーツを外していたが、左足を痛めた時に転倒や痛がる様子がなかったため、受傷したことに気づかなかった。保育士1名は他児1名のトイレ引率に行っていたため見ていなかった。他保育士は本児に背を向けたかたちで他児2名に本の読み聞かせをしていたため見ていなかった。	シーツ外しだったため、いつもより子どもから目が離れていた。	午睡後の布団のシーツ外しは保育士が起きた子どもの所から順次布団を外し、また保育士同士で声かけを行い、どの子どもにも保育士の目が届くようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況					事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面						ハード面							環境面					人的面								
			施設・事業所種別	事故発生時		発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯																																																
8736	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	12								3		3	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯２本破損	2.自らの転倒・衝よるもの突こる	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守り	体のバランスをとりにくい遊具だったのでバランスを崩し顔面を打ち付けた。	子どもが遊具で安全にバランスを保育士で確認する。	3.いつもより活発で活動的でした(理由を記載)	戸外に出ると楽しくなりはしゃいでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	観ていたごやらうことをとめた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	他の子どもを見ていた	特になし	そばで見守る職員がいたため、人的環境に問題はないと思われる。	
8737	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(園外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20								3		2	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	雲梯をっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童野を視野に入れながら、他児ボールとも、と遊びをしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	当対象児の動きを見ていた	滑り台でいる子どもの見守り。	雲梯で当遊ぶ童のそばに保育士がいなかった。	雲梯に保育士配置。いつも遊んでる遊具であっても、どんな危険があるかを考え子ども見守る。また、保育士の数で見切れない場合は遊ぶ場所を限定する。	
8738	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15								2		2	5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士衝突よるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育・教育を行うあたって、園児の声掛けや立ち位置など、行期の序がくいた。	保育・教育を行うあたっての研修を行い、周知を職員に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年	普段、使いない固定遊具付近で水遊びを行っていた。	安全に遊ばせるための声掛け、立ち位置など、再確認、実行していく。	1.集団活動中・見守り	保育場面の移行期に、教諭と児との離がってしまっていた。	児が移動する際に予測されるや事故から、教諭の立ち位置を決め事前の園児への声かけを意識して実行する。	1.いつもどおりの様子であった	バス登園時から、良好で、元気に水遊びを楽しむ様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	水遊びを終了し、の園児誘導の中であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	動して園児を見守りつ、残りの園児、本守った。	保育場面の移行期に、留意できていなかった。	保育場面、また移行期でも、保育士教諭の立ち位置を明確にしておくとともに、声の掛け合いを行い、園児をしっかりと見守る。	
8739	令和6年3月4日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	0	0	3	20	18	30	0	5		4	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突こる	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員配置について、人数だけでなく場所やクラス担任なども考慮する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	側溝には蓋・グレーチング等の転倒予防対策は取られていなかった	排水の妨げにならないように蓋を設置するとの提案	3.個人活動中・見守り	バスの運行事行や行ハーサルの準備でいつもと違う人員配置だった	各担当場所の園児の動きをよく確認し、危険な場所でいる場合は声をかけて遊ぶ場所を変えることも必要	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらな変わい様子でいる遊んだ	4.対象児の見ていなかった	同じ園庭にはいたが、5歳児をサッカーをしていたため当該園児が該園児は転倒ことには気が付かなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が近くにいたが、年少クラスの子ども遊んでいた該児童の動きを見ていたわけではなかった	特になし	いろいろな遊びを展開する子どもたちの様子をよく把握し、危険がないかを確認したうえでの見守りを行う	
8740	令和6年3月4日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	71	0	0	3	20	18	30	0	5		4	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指骨折	2.自らの転倒・衝よるもの突こる	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員配置について、人数だけでなく場所やクラス担任なども考慮する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	柵には触らないように言っているが固定等は行っていない	改めて柵には触らないように園児に周知。	3.個人活動中・見守り	行事のリハーサル終了後でほっとした気持ちから緩んでいることたしれなるあもい	各担当場所の園児の動きをよく確認し、危険な場所でいる場合は声をかけて遊ぶ場所を変えることも必要	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらな変わい様子でいる遊んだ	4.対象児の見ていなかった	同じ室内にはいたが、別の5歳児をしていたため当該園児が該園児は転倒ことには転倒物音で気が付いた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	給食当番の準備をしていたり、別の園児と遊んでいた	特になし	いろいろな遊びを展開する子どもたちの様子をよく把握し、危険がないかを確認したうえでの見守りを行う	
8741	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18		6	5	7				4		4	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	擦過傷	5.他児から危害を加えたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	トラブルが起きたときに保育士が離れた場所にいたため、2歳児が『取らないで』を意味する「やーめーてー」という言葉に保育士が気付かず、危険な行動を止めることができなかった。	職員間で声をかけ合い、連携をとりながら死角がないように職員の配置も工夫する。また、トラブルが起きたときにはすぐに保育士が仲介に入り、危険な行動を未然に防いでいくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		一つの遊具・玩具に集中しまうような意にしてしまたり、遊んでないに十分な数を用意することが、遊んでできるような遊びの種類のしを工夫たりする。	3.個人活動中・見守り		3歳児が1、2歳児と合流する時間を従来よりも遅くし、夕方の一部屋に集まる人数を減らすことで、落ち着いた雰囲気で遊ぶことができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いろいろな人や物に興味を持ち始め、関わろうとしている。友達が遊んでいる楽しそうにしていると、近づいて使う物を触りしている。	4.対象児の見ていなかった	他児と関わり本きこわったため動きこたった児の見ることができていなかった。また、離れたところにいたためトラブルが起こったときに、すぐに止めることなく入ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1～3歳児合同になったばかりで全体に目が届いなかった。また、職員間の十分ではなかった。	他噛でし子ども、噛まれてまう子どもに目が向いていたため、トラブルへの気付きが遅くなったえると考えられる。	職員間で言葉を掛け合い、誰がどこを見るのか、子どもたちが何をしているのかなど、その都度情報の共有をしていく。	
8742	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10								2		2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯陥没	2.自らの転倒・衝よるもの突こる	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットの共有を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		足を使っ運動あびを多く取り入れていく。	3.個人活動中・見ありる		フローリングの面にマットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	元気な様子で登園する。検温３６．７度	2.対象児の至近で対象児見ていた	歩いて移動した時に転倒する手を伸べた倒が、差したが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同保育室各コーナーで見ていた。		今後は、両手に玩具を持った状況で歩かないよう一緒に座って遊ぶようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	事故発生時 時間帯	発生場所	発生時の体制 人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	小学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	負傷 受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8743	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	16				8	8			2	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左前腕部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	転んだ時に咄嗟にうまく手をつくことができなかった。	転んだ時の適切な手のつき方が身に付くように意識して運動遊びに取り組む。	1. 定期的に実施	実施頻度（3）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（12）回/年		不要物がいかに確認すると、もの落ちないかを検査する。	1. 集団活動中・見守り		外遊びの時間帯は子どもの活動も様々であるため、担任および周囲の職員全員で子ども達を見守る体制をとる。	1. いつもどおりの様子であった	外遊びの準備をし（靴を履き帽子をかぶる）階段を降り園庭へ出る。その後遊び始めようと駆け出した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭でそれぞれ遊び始めるクラスの全児童を全体的に見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	園庭で遊べる子ども達を全体的に見ていたため、児の様子に気づき声をかけた。		夕方の外遊びの時間帯は他クラスの児の活動も把握し、危険のないよう環境を整える。	
8744	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	4. 3歳児クラス	12								1	1	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部・臀部）	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的実施	集団での活動が苦手な子ども（A児）がいる為、平時は2名の保育士で13人の3歳児を保育している。この日A児が屋上に行くことを頑なに拒みA児と保育士一人が残り、もう一人の保育士が12名の3歳児を屋上で保育した。	「事務職員に屋上がっ保育補助をもらう方つが良かったと思われるので今後はように改善していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	屋上は少だけクッション性の有る塗料でクッション塗装しおり、床面で問題があるとは思えない。	1. 集団活動中・見守り	コロナ禍でも体操教室や外遊びを充実させるよう努力したが、変異株が子どもに感染すると言われた今年の夏、マスクを付けた子どもを長時間戸外で遊ばせる事が出来ず、運動能力が落ちていると考えられる。	運動能力が落ちていると考えられる子どもの状態を多く取り入れ運動を取り入れる。	1. いつもどおりの様子であった	朝元気に登園し、いつも通り屋上でもボールをバウンドさせて遊び取るをしたが、ボールで友達の傍に行こうとしてたまたまバラなくずして転倒してしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全園児が見渡せる入口付近屋上の口付近、ボールをバウンドさせて取る遊びをしているを見守った。	障害の認定は受けていないが配慮必要な子ども1人、屋上上がるのを嫌がったので、保育室で個別対応をしていた。	屋上に保育士一人の為、他の職員なし	特になし	保育経験のある職員が担当していたが、休み明けで有ることを十分に考えて砂遊び等の外遊びをする。（本園では休み明けは子どもが休日の疲れから注意散漫になる為、散歩は控えているが、園内での外遊びは禁止していなかった）	
8745	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝（始業～午前10時頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	35			12	12	11			3	3	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	右足関節外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2. 基準配置	再発防止に向けて職員間で検討し、共通確認をする。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		タイヤを３～４列しており、幅が広くなるため、危険に遊ぶときは、２列にしておきにする。	3. 個人活動中・見守り	安全のためにタイヤを高くしており、使用している時はすべて１段で平坦だったため、タイヤ登園児の受け入れをしていた。	使知恵や工夫を使って、本児が使用する時は、すべて平坦だったため、タイヤ近くで登園児の受け入れをした。	子どもたちにタイヤの使いらき、１段でも油断せず見守る。	1. いつもどおりの様子であった	タイヤの上で、繰り返しジャンプしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の見ていた近くで守りていたが、１段でも跳べていたため、夫だろうと思い、近くで登園児の受け入れをした。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子たちの見守りをしながら、別の登園児の受け入れをしていた。		タイヤ一段でも今回のような事故につながるので、保育士が側に付き安全確認を行う。	
8746	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	64	0	0	5	19	23	17	0	7	7	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	2. 基準配置	コロナ禍子ども園庭整備の活動少なくなり、園庭には凸凹にあり、子供の遊びを行うお供えもの特に凸凹等、転倒と見つかっなかった。	戸外遊びや園庭整備も行わ園庭には凸凹特に凸凹等、転倒と見つかっなかった。	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	業者による清掃が行われ、子供が安全に遊べるように十分注意する。	週１回保育所職員が行う園庭整備を継続して行い、子供が安全に遊べるように十分注意する。	1. 集団活動中・見守り	地面が乾いていて、子供が足をすべらせないよう遊びの供が滑いを撒いてから遊びを始めた。	乾いた地面でいるときは、今滑りにくくするために乾いているときよりに、こまめに水を撒く。	1. いつもどおりの様子であった	健康状態は良好であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	遊びが行われていて、子ども達が集団で遊び始めるお供えもの動きを見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	少し離れた場所にいたため、事故が起きたときは目を離していた。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲をでこ求れるとめる。	職員間の連携保育士自身の見守りの範囲をでこ求れるとめる。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくことに、職員間での声の掛け合いを増やしやすい。	
8747	令和6年3月4日	1. 認可	4. 地方裁量型認定こども園	12	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	3								4	3	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左尺骨近位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		職員の配置は問題なくことができも、不意な子どもの動きは見逃さないように職員間で周知、徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		転倒のきっかけとなるなどが、遊び前に環境を確認する。	3. 個人活動中・見守り		行事と通常保育のできるように、こどもたちが切り替えるきっかけとなるよう子どもたちと関わりを持つ。	1. いつもどおりの様子であった	いつもより遅い時間に登園し、その日初めて動かし始めたところ。自由遊びで日時間サッカーが始まる前に仲良くなった。年長児同士、ボールを蹴って遊んでいるところであった。	4. 対象児の見ていなかった	保育士たちはサッカーを始めようと準備に動いており、その横で数人の子どもたちがボールを蹴って遊んでいた。年長児ばかりでボールに慣れた子どもたちだったため、保育士は少し離れたところから見守りながら、他の園児に声をかけるなどして過ごしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	別の保育士とサッカーの準備をしていたところ、ボールを蹴っていて子ども達のものに近づいてしまったことで、ルールのあるこの視界には入っていたくて、その中には入った。	体を動かすことを始めたところで、サッカーをしたことがないこの子に向けてのとっての準備がなかった。	勝手に子どもたちが動きだすので、先生方も交えて話をしたり体操をするなど、次に向けての動きに準備を整える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制									教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
									人数	異年齢構成の場合の内訳																マニュアルの有無	事故予防研修				施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			教育・保育成支援の状況				対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	理由	具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8748	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	45					25	20			5	5歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	保育・教育を行うにあたっては、園児への掛け位置や立ち位置など、移行期の順序に手をかけることができなかった。	保育・教育を行うにあたっての研修を行い、職員に周知を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(96)回/年	ボール使用時の園庭の使い方を伝えたが、周知できていなかった。	安全に遊ばせるための掛け、立ち位置など、再確認し、実行する。	1. 集団活動中・見守りあり	保育場面中、保育教諭と園児との距離ができてしまっていた。	園児が移動する際に予測される行動や事故から、保育教諭の立ち位置を事前決め園児への声かけの園児の声かけを意識して実行する。	1. いつもどおりの様子であった	登園時から、友達や保育教諭と会話や遊びを楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で4・5歳児の園児の人数を5人保育教諭で分かれて、見て守っていた。他児ボールを使用した遊びをしながら、全体の様子を見ていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他児とボール遊び等で長縄びで遊びながら、体の様子を見ていた。	保育場移動の面行期の保育教諭の立ち位置が、留意できていなかった。	保育場面、また移行期でも、保育教諭の立ち位置を明確にしておくとともに、声の掛け合いを行い、園児をしっかりと見守る。	
8749	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	12									1	6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足腓骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2. 基準配置		事故予防マニュアルの周知徹底と、日頃より事故について、職員間で話し合う機会をもち、危険個所等の情報共有に心がける。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	設備面には問題点や不備は見られない。	今後も、安全点検を行い、不備があれば、即対応する。	3. 個人活動中・見守りあり		日頃から危険が生じやすい場所について職員間で話し合い、子どもにも注意を促すようにする。	1. いつもどおりの様子であった	足元を見て歩いでなかった。日頃よく転ぶ。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は対象児離れから見ていた。対象児が階段を突然ふみはずしたため、防げなかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	それぞれクラスで保育を行っている。		保育者は全児の動きに気を配り、早め、危険を見ぬいに察知し、子ども達に知らせていく必要がある。	
8750	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	12	1	2	0	4	2	3			5	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置		今回の事例は、毎月あるある職員会ヒヤリハット報告時に、もう一度事故報告し、今後の改善点みんなで話し合った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊戯室の広さから、トラックをつくってこの使っていかけつこは、4歳児以上が2人ずつ走ることに決めた。	1. 集団活動中・見守りあり		初めてトラックを走る3歳児に対して、担任が子どもたちと一緒にゆっくりトラックを走ってみることを事前にすべきだった。今後初めてのことは、保育士と一緒に経験してから、実施する。	1. いつもどおりの様子であった	はりきってこに参加していた。	2. 対象室児の近で対象児を見ていた	担任は全見な体を見ながら、保育を行っていた。	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	テープ貼りをしながら、保育の様子を見ていた。		職員全員が本児のケガについて共通理解を行い、保育所での生活が問題なく過ごせるように対応をしている。	
8751	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18									1	1	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	2. 基準配置		特に遊具を使用する時には必ず補助するなどの位置について安全により配慮する	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(24)回/年		落下予防ゴムマットを敷いているが、それだけで事故を防げない。見合と人的な見合とを必ずせる必須の守りわこ	1. 集団活動中・見守りあり		事故のリスクを常に考え、あった時にすぐ補助できるように保育者がいなければならないということ	1. いつもどおりの様子であった	特にはしゃいでいた様子ではない。鉄棒からの地の時に保育者が側にいれば防ぐことが出来たと思う。	4. 対象動児きていなかった	全体を見ようとはしていたが、結果的に防ぐ出来なかった。遊具を使用する時の見方や援助について職員で話あっていった	1. 担当者・象児の動きを見た(至近距離にいた)	他には気づいない状況であった			遊具を使用する時の保育者の位置や見方について再確認していく。	
8752	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	24									2	2	5歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨端線損傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	特になし	特になし(職員の配置等については問題はなかったと思われる)	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし(施設や設備が要因となったためなかった)	1. 集団活動中・見守りあり	相手が衣類が汚れていたため着替えて廊下にある洗濯物入れて走って戻ってきたために部屋の入り口付近に児とよくかった。本いぶつ勢い	日頃から保育室や廊下は走らないようにすることも、子ども伝え、その職員が見守り、声をかける。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	身体計測中だったため、対象児とは場所離れた場所にいた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	保育室内ごとだったため、担当職員は当外れていた。	身体計測中だったため、相手の児は園児は急いで戻ろうとしたと考えられる。	日頃から保育室や廊下は走らないよう子どもに伝え、その都度職員が見守りをする。	
8753	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置		久しぶりに出かける所は、予め下見をする。またそこの最近の状況など確認してから出かける。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年			出かける場所の環境について、子どもたちのに夫ども大丈夫か、施設使用しても大丈夫かを確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	久しぶりに歩く所(斜面など)は、予保育士がその場所を確認してから通らせるべきだった。	子どもが活動する際には、そのおけるあらゆることを想定しておくことが必要と思う。	1. いつもどおりの様子であった	園外での保育で、他のもたち同じにやりたい気持ちで登っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもも含めもたちが登っているのを見ていた。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	子どもよき、子どもが通る場所が安全か確かどうかなどの様子を見ていた。			そのような活動を行う時は、保育士2人でお互いに子どもの様子をしっかり見守れる位置にいるべきだった。	

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8754	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									1	1	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	本児を含め、普段の体作り・体幹強化に努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ステップ部分に傾斜があり、砂が上がると滑りやすい為検討した結果、このステップは撤去した。	1.集団活動中・見守り	特になし	体を動かしてあそぶ際には、これまで通りしっかり広い場所で遊ぶ。	1.いつもどおりの様子であった	特に変化なし	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特に変わなし	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特に変わりなし	特になし	子どもの発達に合った動きや咀嚼に体が動くなどを身につけることよう、保育士の質の向上を目指して研鑽を積む。	
8755	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12		3	9						4	4	2歳	2.女児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		事故予防チェックリストを作成する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		リズム運動は広さの中で安全に取り組むようにする。	1.集団活動中・見守り	狭い場所でリズムに運動をしたため同士がぶつかった。	リズム運動は十分な広さの中で安全に取り組むようにする。	1.いつもどおりの様子であった	走って床せるリズム運動をしていた。	2.対象至児の近く対象児を見た	3名の保育者がリズム替え運動をしながら子どもを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者1名が子どもをピアノを弾いていた。		子ども同士がぶつからないよう、保育者が間に入り調整するようにする。	
8756	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									3	3	4歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	職員配置は人数だっ分だが、子の動が十分とは言えなかった。	様々な体験や運動遊びを通じて、バランスを崩した時につくがようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(260)回/年	施設が古いため、床材が硬く怪我につかりやすい。	子ども達に安全させるように、園内の怪我が起こりやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。	1.集団活動中・見守り	運動面において、本児は不器用さが見られるが見たけがだった。	いろいろな活動において、子どもたち一人一人の個人差やその日の体調などを慮し、ドッジボールをコートのを変更するなど安全面に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	ドッジボールに参加しており、保育者が転がしたボールをよけようとしていた。	2.対象至児の近く対象児を見た	3歳児がよけやすいように、ゆっくりボールを転がしした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員3人位置に配置し、距離を保ちながらコートの外で動いていた。	特になし	活動内容や応個人差に応じて、職員同士連携しながら、立ち位置、声かけなどに配慮する。	
8757	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									2	2	4歳	2.女児	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園庭の地面の硬さについて全点検項目に安全入っていなかった	園庭の安全点検表において、土(地面)の硬さ等の項目を新たに加える等、安全点検項目表の項目の見直しを行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年			1.集団活動中・見守り	子どもたちが一緒に内へと動いたため密になっていた	子どもたちには歩いて移動する引き続き指導す。子どもたちが密にならないよう分散して移動するよう声かけをする	1.いつもどおりの様子であった	友だちと移動した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたち全体を見ていたが、本児が転倒する瞬間はみていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児からの話しかけに応えており、本児が転倒する瞬間はみていなかった		子どもたちには歩いて移動するよう引き続き指導すると共に担任ともに担任間で連携し、子ども一人一人の様子を今まで以上に注意して見るようにする	
8758	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	35	2	11	2	7	7	6			8	7	5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置		降所後は、玄関と門扉の駐車場ことな、建物内に降所することかに降所するよう、保護者向けの玄関掲示を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年		玄関先が暗いため、照明の数や明度を増やすことを検討する。	7.その他		玄関を出るまで、事務室を中心に、危険のないよう、できるだけ見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降所後のため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所後のため。		遊んでいる子どもを見かけた際には、危険であることを知らせ、速やかな降所を促す。	
8759	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37									2	2	5歳	1.男児	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節剥離骨折（主）左肘打撲傷左肘筋肉痛	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	感染症予防駐車場の混雑を避けるため、全面からもタ方降園後は園庭ではぱずにいたが、遊ばず帰ることなっていたが、徹底できていなかった。	各クラスで子ども周知するとともに、保護者には文章を掲示した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(260)回/年	特になし	遊具の安全な使い方について、職員間で共通理解をはかる。	7.その他	特になし	保育中ではないが、降園後の園児の安全面を考え保護者に繰り返し呼びかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達と降園になり、雲梯で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	怪我の当日はそのまま帰宅されたため、翌日の朝、母の親から聞いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	降園後の降園後のため	降園後、遊んでいる子どもを見かけた時には、遊ばないよう声掛けをすることが徹底できていなかった。	職員に今回の怪我と合わせて再度周知し、共通認識をはかる。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制																			ソフト面					ハード面								環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8765	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33			11	10	12			4	4	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	遊具で遊ぶ際、職員が注意ポイント押さえいなかった。	遊具の予想される危険性を職員間で共有し、遊ばせる際には、職員間でとり連携をとり、職員配置。事故防止のためのチェックのチリスト再確認と再認識。	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	遊びの環境設定が不十分なまま、外遊びを始めていた。検診役や職員配置が決まっておらず、職員同士の連携がとれていなかった。	年齢に合った遊びの環境を整えた上で遊ばせるようにする。声かけ連携をとり、職員の役割・配置を決める。	1.いつもどおりの子であった	友達と一緒に、鉄棒で遊んでいる状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は、保護者対応をした後、鉄棒横の砂場付近にいたが、本児を目の動きを見ており、落下の際対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの職員が、離れた場所でクラス担当の園児の担当スペースを見ており、フリーの1名は、外遊びのための準備をした。	全体を見て危険がないか判断する職員がいなかった。3歳児の発達・能力に対する見極めが不十分で、遊具の傍に職員がついていなかった。	必ず職員１名が全体を見て危険がないか判断する。各年齢の発達や考え方で、遊具で遊ぶ際は必ず傍について見守るようにする。	
8766	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	94	11	16	17	16	16	18	0		14	13	2歳	1.男児		1.屋外活動中	2.死亡	6.その他		4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の備えにもよるの	低酸素脳症	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置		職員配置については基準に従って配置していた。	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	遊具の設置は平成20年に業者に依頼して設置したものであり、その後、同業者に追加で今回の事故の原因となった囲障を設置してもらっている。遊具の損傷の有無等の確認のため点検シートを活用していたが、囲障の設置自体に不備があるとの認識はなかった。	大型遊具につき撤去予定	1.集団活動中・見守り	事故当時、0歳児クラスの泣く声が気になって、0歳児クラスに入ったり、2歳児クラスのおむつを替え(便)たり、園庭から離れていた。固定遊具で遊んでいたから、少しの時間なら保育士2人でも大丈夫であると思い、危機意識につき認識不足の点があった。	上記状況にて保育士が一時的に持ち場を離れる場合は、他の応援職員を呼ぶこととする。また、できない場合は、いる保育士に声掛けし、通常以上に安全に注意して児の行動を見守ることとする。また、遊び方を変える等の工夫を行う。	1.いつもどおりの子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	実際に事故が起こった場所は、地足もついて、安全であるという思い込みがあった。大型遊具の内部で該当児は遊んでいたが、内部の園児の様子を詳細るまでにいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びの辺集まって遊んでいるのを確認まんで安全と思い、0歳児の部屋にて入まった。その後、排泄（便）の失敗があった児いたため、続けて一人れて子ども一人を連れてその場所を離れた。	一人の先生が一時的に離れていた際に事故が起きた。	一時的に保育士1名が現場を離れざる得ない場合は、応援職員を呼ぶ、遊びの仕方を変える等の工夫を行う。	
8767	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11		2		3	2	4			5	5	5歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折前胸部打撲傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通り降園した	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室にて当番保育中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に当番保育当番中であった	特になし	特になし	
8768	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	40									2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	夕方の園庭遊びはボール、フープ、集団遊びと子ども自発的な鬼遊びが並行して展開されるため、移動する方向がまちまちで衝突が起きやすい。またお迎えの保護者が来ることもあり、その対応などで子どもの活動を見ることができない場合も考えられる。	夕方の園庭遊びは、他のクラスとの話をして1クラスのみの使用とする。遊びの設定を子どもに知らせ、必ず全体を観察する役割の保育士を配置する。クラスで保育者が確保できない場合は、事務所などから出るか遊びを変更する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	1.集団活動中・見守り	降園前でをお迎えが待ちながら、自分で選択した遊びをしたため、解放感を感じながら遊んでいた。お迎えの保護者が来ることもあり、園児の目がちらきちらに向き不注意になることがある。	送迎の際保護者に園庭の端や事務所前の通って頂く。	1.いつもどおりの子であった	他児の遊びを見ながら、こっそけっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の中央付近で、鬼遊びやフープを使用して子どもとして子関わった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育園の辺から離れた位置で、園庭の端で遊んでいる児と関わりながら、全体の保育士から主の園児のまわりを見ていた。	2名の担任保育士で見ていたが、選択が多岐にわたり、全体を見ながら事前に防止掛け声をかけることが難しかった。	遊んでいた園庭は鉄棒などの遊具が端に設置され、活動空間を広くそのため、こっこなどは方向や目標を決めてて園児に知らせておくことで衝突に繋げる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面							環境面					人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8769	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	13								3		3歳	2. 女児	骨形成不全症の診断あり（行動制限は特になかった）	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左手部圧挫傷左第４中手骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（１０）回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度（３６）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（３６）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見あり守り	ままごとのコーナーあそびの場所用マットを２枚敷き遊んでいたが、ままごと遊具を並べていたため、遊びのが狭くなっていた。	遊びの場のスペースを広くとる。興味ある他の場所にも設定し、子ども達が分散して遊べるようにする。	1. いつもお様どおりの子であった	マットの上に座り、ままごとをしていた。	3. 対象児の児が離れたところ児を見ていた。	担当職員は、保育室の廊下側に位置しており、保育室を全体を見つつ、テラス側に座る本児の視界に入った。踏まってすぐ入れたので見ていた。	2. 担当者・対象児の児の動きを見ていなかった	一人は必要な子ども援なを中心に保育し、人子ども達のもう一は他の子ども達のを保育していた。	本児や児の成長がにつれ、活発行動するようになってきていることで、骨折の危険性が増す能性があることを今以上に考慮して育て上げる必要があるかた。	子どもの状態等を踏まえ危険な動きや怪我が起こりそうな事を予測し、職員の連携を密にする。また当該園児のよりより一層連絡を密にし、必要な安全管理に努める。	
8770	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	15								2		4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	右肘頭骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		園庭で自由遊びの見守りは、保育士がどの位置にどの方向にいればよいかを全職員共解め園内研修を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		対象年齢3～5歳児が使うも思われるが、思ったあるもすに対応できる位置に見守り体制が必要。	3. 個人活動中・見あり守り	運動場に設置された砂場に真砂の小石が混じっていて、靴の裏に真砂がついて階段を滑ったり考えられる。	遊具付近に足の砂を取るマットを敷いり、遊具マットの下をこまめに掃除したりをする。	1. いつもお様どおりの子であった	本児は、雲梯ができなかったが、近がようにこと喜び習いた。	4. 対象児の遊具子見ていなかった	他の遊ぶものを見守りていた。	2. 担当者・対象児の児の動きを見ていなかった	砂山で遊ぶものをいん子見守り行った。		全体の子どもを見守れ立ち、保育士ども位置に立ちが子どももたちに背を向けない。また、雲梯は、今の時期に必ず子どもたちが挑戦するので、保育士はそばにいること。	
8771	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	75			20	27	28			4		4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左前腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	子どもの発達段階と危険予測についての認識。	子どもの運動発達について再確認。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１３）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	鉄棒の高さが身長にあっていなかった。	挑戦する際は、保育士が補助をする。	1. 集団活動中・見あり守り	同年齢の男児数名と鉄棒付近にいり、鉄棒にぶら下がり、逆上がりの体上がりような勢をとっていた。年齢、運動発達の未熟さ。	遊具の安全方を再度確認する。	3. いつもよって活発で動きのあった(理由を記載)	年齢以上ことに挑戦していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	至近距離ではあったが、また対象児ではなかった	2. 担当者・対象児の児の動きを見ていなかった	園庭のそれぞれの配置についていた。	固定具の落下危険を認識し、安全に活動するようにする。	挑戦意欲は認めつつ、見守り補助の下で挑戦するようにする。	
8772	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18								1		6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手・手指）	左モンテジア骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	3. 個人活動中・見あり守り		本当に転んだだけでも骨折があるとしても事で共有すを、職員にも伝えるように、保護者に努力をする。	1. いつもお様どおりの子であった	特に変わった子様なく、普段通りであった。	3. 対象児の児が離れたところで児を見ていた	全体を見ながら、本児が転んだところも見ていたが、骨折をすぐ転び方ないと思ったは思った念の為、副主任保育士に見てもらった。	2. 担当者・対象児の児の動きを見ていなかった	本児が少し痛がっていたので、骨折に添え木で固定し、腕を吊って応急処置をした。	特になし		
8773	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21								3		5歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢（足・足指）	左足背部打撲傷左第5中足骨骨折両足痛	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（１４）回/年	1. 基準以上配置	子どもの予混雑が想される時間帯と場所に、不要なカバンがあることにし、職員の危機管理意識が薄かった。	全職員対象に、保育の日常における危機管理に対する意識を高めるを取組を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	カバンが倒れ掛けるが折れるカバンを立てる際に脚のロックがかかっていない状態のカバンは掛用のロックをとすることが認識するとともに、すべてのカバンを再点検し、必要あれば替える。	1. 集団活動中・見あり守り	午睡前にカバンを片付け使ったカバンを片付け、廊下に置いたままになった。	子どもの移動線を考慮し、移動する者は使用後すぐに片付ける。	1. いつもお様どおりの子であった	午睡から起き廊下に出て靴を履いていたところ、他児のかったカバンが本児の左足の上に倒れてきた。	2. 対象児の至近の児を見ていた	すぐで、前にカバンを掛けたまま掛けたことがなったと気付きもうカバンを掛けた。本児の足にカバンが倒れたのすぐに対応した。	2. 担当者・対象児の児の動きを見ていなかった	他児の保育や支援を要する子どもの対応、また午睡後の布団の片付けの準備の等を行っていた。	片付けていたカバンの危険性に気付くが遅れた。午睡後子どもが移動し始めた時点で気付いたが間に合わなかった。	全職員が安全意識を高め、危険を予測し対応できるようにする。また職員ことは間で共通理解し連携を密にするようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事	事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8774	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	2									3	3	5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置		普段より、子ども達が遊ぶときは職員の配置に留意している。各クラスでヒヤリハット発生時には、記録をつけ職員間で回覧し起こりやすい事故を意識している。また、全保育所でも把握し、話し合うことはできている。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(約２６０)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		引き続き安全点検を行い、ヒヤリハット研修をすることで職員間で起こりやすい事故を未然に防ぐための共通認識を図る。	1. 集団活動中・見守り		遊びのルールや内容について子ども達と確認したり、遊びの振り返りをして職員だけでなく全体で気をつけることがないよう、遊びを通して安全に過ごすことができるようにしていきたい。	1. いつもお様子であった	追いかけっこをしていたため、転倒するかもしれないという予測をして声かけをするべきであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員の配置は、適正だったと思われるが、本児の行動から目を離すことはあった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の遊びが展開していたため、職員は各所に配慮していたが、本児の転倒した場面は見ていなかった。		子ども達の遊びの内容、場所などを工夫していく。	
8775	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	19									13	13	4歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置	安全柵の高さは50センチ	遊具・園庭器具は用途外の使い方をしないように子ども達に周知する	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	1. 集団活動中・見守り		より安全に見守るために、配置基準の改善	1. いつもお様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	落下の瞬間は見ていなかったが、安全柵の近くにいることは認識していた。通常の遊びの範囲内であれば安全柵にもたれかかったり、安全柵の近くにいるときには見守りの範囲として妥当なため、注意を払っていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離で見ていたわけではなかったが、遠くから他児と一緒に安全確認を行っていた。		特になし	
8776	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	29									22	16	5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨肘頭骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	2. 不期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		付き添いの職員が全体を見渡しつかり見渡し、危険を察知できる職員で確認を行った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		滑り棒のクッションがあるチップマットが張っている定期的に点検を行い、けがへの防止、防止の有効性を保ってい く。	1. 集団活動中・見守り		職員の意識を高め、引き守り続きを見つ実施していく。	1. いつもお様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び中は園児が散らばっている中で、全体を見渡した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び中は、担当職員２名を業務に専念させ、施設内での各自の業務を遂行していた。		外遊びの範囲が広い場合は、他の職員の応援を仰ぎ人員を増やす。	
8777	令和6年3月4日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	5	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15			3	6	6				3	1	4歳	1. 男児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨転子部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置		送り迎えの時に職員が配置について、全職員で話し合い繰り返し徹底させる。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年		施設の危険箇所について点検の中で日々の行動を生活でもいきその度、スタッフ士で共有する	7. その他		送り迎えの混雑時に起こったこともふまえ、着替えを落とした行動をとることに子どもや保護者に促す	1. いつもお様子であった		4. 対象児の動きを見ていなかった	児童を保護者に受け渡した後、他の保護者と応対した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保護者とした。	1. 保護者対応	子どもから目を離さないこと、子どもが見えないところにいないかどうかを確認し合うなど、スタッフ間でのやりとりを丁寧にする	
8778	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	37		16		21					4	4	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	多数の遊具の中、担任1名は保護者とのお迎えの対応をしており、残りの職員で全体を見守らなければならない状況であった。その象児については、他園児に目を移してしまったタイミングで事故がおきてしまった。	使用する遊具を多数にせず、遊具を絞ることを伴う遊具には、必ず直ぐに手が出せる距離で１名つく。基準以上の職員配置を検討する。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１2)回/年		衝撃が、より軽減できる保護マットを導入する。	1. 集団活動中・見守り	比較的運動能力が低い児だったが、普段から下の子を見ていたが、傍について守っていたが、普段から下がっていた鉄棒にぶつかったりの経験はあったので、援助を伴う見守りではなかった。	日頃から鉄棒の握り方やぶら下がり方の指導はしているが、今一度正しくできているかの確認と、で園児については手が外れても直ぐに対処できるように、安全な場所で見守り援助をしていく。基準以上の職員配置を検討する。	1. いつもお様子であった	午後からのお帰り、普段は帰りの会をした後保育室で過ごすが、この後久しぶりに遊戯室で遊んだ。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児が、他児が朝から他児に手を出すことが多かった為、数人で鉄棒で遊んでいる際には、至近距離でみ守っていた内、対象児が一人で鉄棒にぶら下がっていたので、安心して多人数の遊具の方へ目を向けてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎え対応や他園児の見てをした。	多数の遊具の中、担任1名は保護者とのお迎えの対応をしており、残りの職員で全体を見守らなければならない状況であった。その象児については、他園児に目を移してしまったタイミングで事故がおきてしまった。	使用する遊具を多数にせず、遊具をしぼる。危険を伴う遊具には、必ず直ぐに手が出せる距離で１名つく。基準以上の職員配置を検討する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
				事故発生時				発生時の体制								教育・保育等従事					事故の転帰						ソフト面								ハード面							環境面				人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	人数	異年齢構成の場合の内訳								うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員			年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷		診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他									死因	負傷状況	受傷部位				実施頻度【回/年】				実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】															
8779	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	38								2		2	5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	コーナーでの転倒による骨折も想定しているが、直後の児から痛み等の訴えや後の様子に変化がなかったので、対応が遅れた面がある。	転倒などが生じた場合は、その後の経過に注意する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3. 未実施	実施頻度)回/年	コーナーの曲率が大きくとりにくい。	かけっこのコーナーになる曲率がいてくく大きくなるようにする	1. 集団活動中・見あ守り	コーナーでの転倒は予想しており、すぐに対応できるようにコーナー地点に保育士を配置していた。	児の全力走行中の転倒であり、予防は困難と考えるが、その後の処置と保護者への連絡を密にする。	1. いつもどおりの様子であった	張り切って、運動会の練習に参加していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこのスタートの合図をおこなった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	コーナー部分で見ていた	スタート地点、コーナー地点の保育士はかけっこ中の子どもの動きを注視していたが、転倒は防止できなかった。	転倒は生じたものとして、職員全力の対応力を強化する。	
8780	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	20								2		2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置		職員会議において事故予防対策を行う	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハード面の要因はられない特にの考えない改善点はなし	1. 集団活動中・見あ守り	代替の職員が担当していたので子どもたちもいつもよりかない様子(保育士に甘えたり、立って遊ぶ等)があった。	代替保育士が入る場合の注意点(子どもの様子や対応について)の意識を高める	1. いつもどおりの様子であった	代替保育士に甘えるある様子が	1. 対象とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	当該園児を含む2名の園児をかわりにしばんこおんんいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	休憩時間中であった		保育室から離れる場合の職員同士の意識(状況把握、コミュニケーション)を高める	
8781	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	21								2		1	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨上骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	7. その他	遊戯室のテーブのカーテンが開いていた。	カーテンが開いていることで、上がくやすくなっていので、常に閉めておくようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から興奮気味で午睡をしておらず、気持ちがぶった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室を行ったりしながら、対象児に声をかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児へのの対応をしていた。		特になし	朝からの子どもの状態を把握し、行動を予測し危険な行為に繋がらないかを常に意識し保育する。また職員間で連携を図り、声をかけあうようにする。	
8782	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	61				21	20	20		6		6	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	3. 未実施	2. 基準配置()	特になし。	特になし。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	砂場に遊後のんだ数カ穴が数あった。	遊んだ後、必要のない埋めておく。	1. 集団活動中・見あ守り	砂場の穴取り転倒、足をられ、ぶつあまった	砂場での遊び方を子どもと再確認した。	1. いつもどおりの様子であった	事故発生時、本児は数名の友達と砂場で遊んでいた。	4. 対象児の見ていなかった	当番保育士は置場所近くでもたちも関わっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	当番の正規は保育士は居残り全体を把握しながら、降所子ども子ども子や保護者に対応していた。	事故発生時、本児は数名の友達と砂場で遊んでいた際、砂移場を動いた。	子ども達に砂場での遊び方を伝えるとともに、砂場の状況を把握し、危険個所があれば改善する。	
8783	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26				16	4	6		3		2	5歳	1. 男児	天候は晴れで、園庭は湿っていなかった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	2. 不定期に実施	2. 基準配置	特になし	再度、事故防止マニュアルの確認をうよう行うよう職員に全職員周知	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭には芝生や草がローバーの草が生え、日、草は湿なかったが、ブを曲がるこで滑っ際にそこでとも考えられる。	園庭の芝生や草の状況いて安全時に確認をする、安全点検項目に追加する。	1. 集団活動中・見あ守り	保育士の見ている所で起こったが、他児の接触があったりすることがあわけでもなく、一人で転倒したので時はするすきなく、事なかった。	子ども達の間でかけっこを遊ぶ姿がみられ、この日も走って保育室に向かってきたが、その時ってもあわてることなくてこのあわてず良いとやカーブでもなっているブでは気付かるとよ言葉けをしておけるに言けるように思われる。	1. いつもどおりの様子であった	運動会でかけっこを経験してからは、走るのが早くなり自信もついてきたようで、よくかけっこをしている姿を見かける。ただ、かけっこでは直線を走っていたので、カーブを曲がることには慣れていなかったと思われる。スピードにのったままカーブにさしかかり、足がもつれたような形で転倒した。その時右肘が体の下敷きになっていた。	2. 対象児で対象児を見た	片付けを終え、走りながら戻路の方に向かって帰ってくる子どもたちをテラス付近で待っていた時、間近で対象児が転倒するのを見たがどうする事も出来なかった。対象児は転倒しても泣くことも無く自分で立ち上がり「痛くはないから大丈夫」と担当職員に伝えに来たので、大傷や痛い所が無いか等を確認した。特に異変も見られず、他の子どもたちと一緒に変わりなく保育室に戻って行った。（転倒した時に近くに子どもはおらず、接触をしての転倒ではない。）	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を名5名子ども庭終で含む以外の園児、園児は職員一緒に保育室に戻っていた為、対象児の動きを見ていなかった。		かけっこをするときは直線コースをまっすぐ走るようにし、カーブを走り慣れていないことも原因と思われる。	遊びの中でいろいろな走るコースを体験をしたり、カーブを曲がる時の体の使い方等を伝えるようにしたい。（体幹を鍛える遊びを取り入れる等、工夫をする。）	
8784	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58				15	18	25		6		6	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具から等の転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見あ守り	遊具からジャンプ降りしとし、着地に失敗し、肘を打ち付けたようとき、したよ付けた	安全に遊ぶ下ろよ遊具のマットを敷く	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで逃げていると、遊具からジャンプした	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で鬼ごっこの様子を見守った、対象児との距離があり、対応合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児と一緒に別のびをいたため、見てなかった	鬼につまらないように、少し慌てた	鬼ごっこの遊具時は上がらない約束をし、周知する	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
																												ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
									異年齢構成の場合の内訳																			マニュアルの有無	事故予防研修			施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検				教育・保育成支援の状況			対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き				
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因		実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		その他要因・分析、特記事項	改善策			具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか		その他要因・分析、特記事項	改善策	
																						死因	負傷状況	受傷部位	診断名																											
8790	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	75			20	15	19	21			6	6	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	尺骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基準以上配置	園庭にいる保育士全員が、全体を見ることができなかった。	クラス関係なく目を体に目を向け、危険と予測し行動、声掛けを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもの方をして遊び想定物のを考える。	1. 集団活動中・見守り	子ども達の導線を考慮して設置の配置の不足	子ども達が過ごす場においては、子どもの遊び方を想定して物の設置を行い、実際にその付近での遊び方等を保育士が観察に確認・理解し、危険があれば設置場所を変更する。また、それぞれの場所で実際に遊ぶ子供たちの様子を都度確認し、危険が予測される場合は声を掛けを行い事故防止に努める。	1. いつもどおりの様子であった	通常通り、変わりなく元気に園庭で遊びしんでいた。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	対象児の友達とのかかわりを近くで見て確認していたが、特に声をかけることはなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの園児を中心に、遊具等で遊ぶ様子を見守っていた。	砂場模でごっこ遊びをしている対象児達へのかけの不足	その場にいる保育士全員があらゆる箇所に目を向け、クラス関係なく危険を察知し、子どもの動きに目を向けることを周知徹底する。	
8791	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	16	3	13							4	4	1歳	2. 女児	畳の部屋であるが、４０センチほどのカラーボックスをおき、マットも敷いていた。カラーボックスからの飛び降りをしたがった本児が、着地した際の、保育士の支えが十分でなく、転倒してしまい、未然に防ぐことができなかった。	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右尺骨折亀裂骨折（ひび）1ヶ所右橈骨亀裂骨折（ひび）1ヶ所	8. その他	1. あり	2. 不定期実施	2. 基準配置	子どもの発達段階を把握しづらい状況だった。	園内研修により、リスク管理、日頃の遊びの中での危機意識の高揚を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(2~3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度（４８）回/年	飛び降りという遊びが、２歳にいなっても遊びるもいが、にて、遊びはなかったかもしれない。	カラーボックスから、飛びいびという遊び方が、１歳児にとっては、子どもにとっては、子どもにとっては、子どもに

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面								ハード面								環境面					人的面											
			施設・事業所種別	事故発生時					異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事									事故の転帰																															
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況		死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8799	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	35			12		8	15			5	4	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	転倒時、手をついない事を目撃した保育士がいたが、状況の共有ができなかった。	怪我の程度に関わらず、目撃した事象すべてに報告し共有でき体制の確認を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	園庭の段差	目視では分かり場合子どもたちがこうい場所でくがあ、土ならすなどの改善も、同じなつまづきれをなする。	7. その他		園庭の段差を確認がし蹴きないようにならしていく。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	2. 対象児の近で対象児を見ていた	対象児付近にも保育士がいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児の様子を安全に見守つつ対象児の動きも見ていた。	追いかけ遊びの際に夢中になりすぎて周りが見えなくなってしまう事。	園庭の不具合などにすぐ気づき、対応ができる事。	
8800	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	16									5	3	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯根破折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	マニュアル配置には問題はなく、コロナ禍により研修ができてはいない。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	なし	1. 集団活動中・見守りあり	保育士が声掛けしながら子活などの確認をする	職員が安全確認をしながら、走っている子どもへの声掛けを行う	1. いつもどおりの様子であった	いつものあ通る	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	走っている子ども少し離れた場所にいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれのクラスの子どもの遊びに入ったり、見ていた。	なし	走っている子ども への声掛けをすると共に子どもの動きを予測しながら様々な想定をしながら配慮する。	
8801	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	13									20	15	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	外傷による、上唇小帯裂創、口内炎	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置		園内研修を適時行い、何かあったときはきと対応できにちんとしるる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		日頃から危険な箇所がないかを点検に意識を確認よにすしてをうる。	1. 集団活動中・見守りあり		保育士が園児の行動をすべて監視することは困難なため、日頃から保育園での過ごし方についての話をするなど注意を促す。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通ごりした。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	危険なことがないよう、声を掛けながら見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危険なことがないよう、声を掛けながら見守っていた。		これまで通りしっかり見守っていく。子供が遊びに夢中になっているときは一旦落ちを着かせるような声掛けをする。	
8802	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	21									2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性の歯の脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	職員会議で見守り体制について話し合い、周知を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	児童同士の衝突があった事を、ハード面の改善策には特になし。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの動きを見て、危ない場面が見られる場合はその都度指導する。	1. いつもどおりの様子であった	パジャマに着替えて布団のところに行こうと行った。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	午睡前の着替えを見守りながら対象児から離れたところで時々対象子をたため間に合わず危険回避が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	掃除の後片付けをしていたため見ていなかった。	特になし	子どもの動見て、危ない場面が見られた場合はその都度指導する。	
8803	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	39				12	13	14			12	11	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足首の剥離骨折、靭帯損傷	8. その他	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	危険な遊びをしていないか目を配る	職員全員が全体に目を配る	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ベンチとマットの位置関係	戸外の遊具の配置を見直す	1. 集団活動中・見守りあり	予想がつかない行動をとった	遊具の遊び方等を子どもたちと話し合い、約束ごとを決める	1. いつもどおりの様子であった	変わった様子はない	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通り全体を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	いつも通全体を見ていた	マットにの上で飛んいたので、けがをするが想定がなかった	職員全員が全体に目を配る	
8804	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	29					15	14			1	1	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左母親基節骨骨線損傷	4. 玩具・遊具等施設・設安上の備にも全不備によるの	2. なし	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 基準配置	事故予防に関して報告、改善はしていたがさらに検討が必要であった。	報告だけでなく、事例や過去の事例の見直しを行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	活動に参加する人数に対して活動の面積が適していなかった。	密になりにくい活動に応じて活動をそれぞれ人数に応じて場を都度見直し対応していく。	1. 集団活動中・見守りあり	近距離から蹴ったボールが本児は避けたつもりがきれず手に当たった。	サッカーをする際のコートの面積の見直し、ルールや遊び方を再度伝え、ボールを蹴る際の他児はコート半面離れるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	日頃より体を動かすことを好み巡回サッカー教室を通してサッカーへの関心が高まりサッカーを好んで遊んでいる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	視界にいていたものすぐにいなくなる位置がいなかった。経過観察をし、腫れもあるも担任が母親へ連絡する。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐさま看護師へ伝え冷やし状況を伝えながら経過観察を行う。	1つの園庭で複数の活動(遊び)をしていた。	活動(遊び)の内容について見直しを行い見守りがしやすいように改善していく。	
8805	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	3. 昼食時・おやつ時	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	39	1	10	7	7	8	6			11	11	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置		研修については引き続き積極的な参加していく。また、早急にマニュアルを作成するようにしたい。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	落下したがころなっまって硬くしまっている土面であった。	ゴムチップ舗装を行うようにした。	1. 集団活動中・見守りあり		昼食後の集団活動中であったが、特に環境面で問題はなかった。	1. いつもどおりの様子であった	通常の方法で遊んでいた中で特に問題はなかった。	2. 対象児の近で対象児を見ていた	少人数であったため、保育士は至近距離で子どもの動きを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他のこどもの保育を行っていた。		至近距離で見ていたため、細かな事故報告ができた。特に今回問題点は見当たらない。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																				ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																																														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8806	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	12									1	1	3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	事故防止マニュアル周知徹底される。予想される危険を察知し、職員配置を決める。	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	今後も安全点検を徹底し、危険な箇所等があれば至急改善する。	1. 集団活動中・見守り	活動内容を振り返り、疲れが出たり、注意力が落ちる状況だったかを反省し、活動計画の改善を図る。	1. いつもお様子もりの子であった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	他のクラスは園庭に出ていなかったので、ほかの職員は園庭には不在。	散歩後すぐの園庭遊びだったため、休憩させて体力、集中力の回復を図った方が良かった。	子どもの特性を知り、ケガや事故に合わないように細心の注意を払う。	
8807	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	37			10	13	14				12	11	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	危険な遊びをしないかの活動内容や注意事項を保育士間やともとする事が不いて共有することは足した。	職員全員が全体に目を配る	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	三輪車の走行場所を決めていなかった	夕方の遊具の方、使用台数を見直す	1. 集団活動中・見守り	予想がつかない行動をとった	三輪車の乗り方、スピードの出し方等を話し合う	1. いつもお様子もりの子であった	変わった様子はない	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通り全体を見ていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	いつも通り全体を見ていた	目の届かないところで遊んでいた	職員全員が全体に目を配る	
8808	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	10									2	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	額挫創	2. 自らの転倒・衝によるもの突	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	2. 基準配置	公園に着いてから、の活動内容や注意事項を保育士間やともとする事が不いて共有することは足した。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(49)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	石畳のでこぼこ凹凸している。	目的地にたどり着いたら子どもと一緒に滑りやすいことを知らせる。	1. 集団活動中・見守り	通常あまり使われた所ではなかった。	園外に出るときには、注意事項を子ども共有する。	3. いつも活発で活動的であった(理由を記載)	公園に着いて保育士の声をかけて走った注意の声こえず、足元にも注意がいかなかったと思われる。	1. 対象児ンマンの状態(対象児にいた)	公園に着いて本児が手を放して走り始めて、注意するとかけの声をかけたが聞こえなかった。他のもたちも集まって座り込んだ。	1. 担当者・象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児に注声えこで振り向くと、滑って倒れていたので、抱き起こ急処置をした。保育所にケガをしたことを電話連絡し、応援を要請した。	本児は気持ち興奮すると注意の声が耳にはいらなくなるので、特に注意して個別の配慮をする必要があった。	目的地に着いたら着かせて、危ないところは走ると滑りやすいことを知らせるようにする。	
8809	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32				7	9	16			6	6	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置		特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(37)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	W35cm×H25cm×D25cmの中が空洞の軽い段ボール箱で、強度を高めるためなどをテープで補強していたが、崩れて大きなケガにはならない定観念があり、継続していたので、この時も特に気にはかけなかった。	安全な玩具（遊び道具）思ったものが可能性があるとして共確認を行う。	3. 個人活動中・見守り	その時に園庭で遊んでいた3歳児に対して職員配置人数が足りていたにもかかわらず職員の方に安全意識のゆるみさせた。発達面で未発達面があるから児の職員がいる間に職員の方に職員の方に職員の方

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																																	掲載更新年月日
							発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面													
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者の内訳	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8811	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス		15									8	8	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左膝骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(15)回/年	1. 基準以上配置	遊具等の点検は月に3回は点検を行っているが、マーチング用のポイントがあることで、コースもあることに誰も意識しないでいた。	マーチング用のポイント、コースのポイントの検討をていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(37)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	マーチングのポイントが、砂で盛りてことが少し上がいたと、コスより少外側にあった。	1. 集団活動中・見守り	本児がコースをたに対して従てたことにして加え、マーチング用のイン踏んでまい足首を捻しまった。	ゴールの明ら位置を明確におき、取り組む。	1. いつもより元気がなかった	初めてアンカーとして走り、アンカーであることを意識しておらゴールかわずに向かいバトンの受け渡した場所からコース内にてしまった。	2. 対象至児の近で対象児を見ていた	運動会の取り組みのリレーを行っていたので、少し離れたところから見守りだった。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	コースの付き周り、走る見ていて様子を守った。	コースにいた職員がポイントを意識した言葉掛けをしていればよかった。	安全なコースを作りとポイントを意識しコースに着くようにする。	
8812	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成		11		3	1	3	2		2		3	3	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1以上)回/年	2. 基準配置		引き続き上記を徹底し、事故防止について再度確認を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	ほふく室(畳)と1歳児保育室を仕切る木柵がある。身体の大きい幼児であれば腰かけることは想定れる。また故意でなくも、触る、寄りかかる日常的けられる。	現時点での柵の撤去は難しいので、職員の見守りもへの声掛けを徹底する。	1. 集団活動中・見守りあ	異年齢保育育片付け作業中に様々な動き(玩具片付け、示さない幼児、幼児興味を示さない幼児、幼児の手洗い補助)があり、低年齢児に注意が向いていた。	片付けを完了して次の活動に移行する	2. いつもより元気がなかった(理由を記載)	登園後、室内活動中は壁によりかかったり寝体育座りをして疲れた様子(母親談、昨夜就寝時間が遅かった)。玩具の片付け作業中、全体を見るような様子で柵に寄りかかり片付け作業には加わらない。	4. 対象児を見ていなかった	柵から離れている場所で柵に対して背を向ける状態で、他児と片付け作業をしていた。低年齢児の手洗い場を正面にすると柵に対して背を向ける形になる)補助の為、転倒に気づかなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	概ね片付け終了し、未だ子どもたちの落ちも着いたのでの後に満児用おやつの準備へ、職員に「おやつの準備ができました」と声をかけ調理室へ向かい、現場を離れていた。	異年齢児保育の中で、対象児は普段からクラスでもリーダー的存在で、また保育利用も多い為、保育者も安心感を持ち低年齢児に意識が向いたこともら考える。	柵のある部屋を使用する際は、片付け作業時に職員が柵側で保育室全体の様子を見守りながら、子どもを進める。	
8813	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス		12									1	1	4歳	1. 男児	3歳児クラス１２名出席しており１人は療育へ行っていた。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	活動開始時、可能なときは、ほかの職員のいるときは、職員をも協力を	マニュアル作成し職員周知していく。ハザードマップの活用、ヒヤリハット報告会を定期的に行う。(職員会議の時など)職員の協力体制を整える。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	つまずきやすい土やはなかったが、石や壊かったが、どっきのどのおちとなるもいなかったかの原因のの確認だった。	園庭では、思い切りダンボクをよう走に石、石ころ拾いをする。園庭内で方ついて園の遊びについ検討する。	1. 集団活動中・見守り	対象児の気持ちが着いたか落ち確認する必要があった。	園庭での遊びをと楽しみてみたい。靴を履いた一番に外に出ておところ遊びきた。	4. 対象児を見ていなかった	声掛けし自ての靴をとりに行った。	1. 担当者・対象児の動きを見た(至近距離にいた)	ほかのクラスの職員が先におり対象児が園庭に出ときたことを目ていて、園舎からこ撃した。		職員が靴を取りに行く、トイレにいくなど離れる際は他スタッフの協力をも図り、靴をウッドデッキに座ってまもみんなを約束事を確認してから遊ぶなどの決まりを作る。	
8814	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成		14					6	8			3	3	6歳	1. 男児	体格が良く、気持ちが高ぶると活動量が増える傾向にある。療育を受けている。(発達障害に関る診断はされていない。)既往歴・持病・アレルギー性鼻炎	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手指)	前腕骨部骨折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	事故未然防止における事故を想定する意識が足りていた。	事故の検証を行い、職員との協議の上マニュアルに園外活動における事故未然防止のための「事故想定表」を作成し、実施事故を高めて活動時の想定表を作成し、を向上させる。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	園の遊具で、公園つい、行き慣れた場所であったため、事故が不ていて想定足した。4歳児が回転の椅子に座り、本児が支柱にまりつかまって遊んでいた。座る場所が4か所にしかなかったため立っていた児は思われる。	園外活動における未然防止の「事故想定表」を作成し、実施時事故をすくする。遊具等の遊び方やルール等を把握前にし、共有するにする。	2. 集団活動中・子ども達のみ	遊具の遊びやルールを指導に指導しなかったとや、率者数丁寧なかこと引に問題はなかが、見守りの連携掛けが十分あったと思われる。	遊具の遊び方やルールを遊び指導に守って守り、ぶのを見守りを行おこなうように見直し体制の強化する連携をしを行う。	3. いつもより活発でした(理由を記載)	日常の保育の中でも、興味のあることから高まると夢中になる行動が多く、配慮した支援を行うことが必要な本児である。事故当日までも、本児の高気持ちからつかぶりトロールができない場面もあった。保育士の注意等も一時は聞けるが継続することが難しく、注意散漫になっていたように感じる。	4. 対象児の見ていなかった	同転遊具で遊んでいた子ども、別の場所で遊びたいと移動することとなった。そのやに配慮が必要な子がいたため保育士は見守りのあ、一緒に移動した。(別の場所は設でゴザゴザとしていたため。)陽ったあ児は、離れた場所からの見守りとなったが、事故の様子は見ていなかった。事故後の本児からの聴き取りで、同転遊具でふ支程をつかんで遊んでいて無が起まったことを知る。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士は1下段の場所の滑り台等で遊ぶ子どもを見守っていた中、上段のフェンス際で眺り込でいる本児に気づき声掛けをしたが、設さなから高落さなく弾を向けたため、本児が落ち、驚いてから再び声掛けしようと判断して、様子を眺いながら他の見守りを続けた。保育士は、同転遊具の近くにあるブランコで遊ぶ子どもを見守っていた。他児とのトラブルが保育士はから思ったためかと思い、原因を知ったが保育士に報告し得ねた。本児の普段の姿から、よくある姿と判断してしまった。	本児の普段からの姿から、少々の危険行動や落ちふむ姿があっても「大丈夫」という思い込みから声掛けする タイミングに遅れが生じた。また、その思い込みから事故(骨折)の発見の遅れが生じた。遊具の遊び方に対する危険予知が不足していた。見守り体制で、注意を払う視点(どの子に重点を置くべきか等)が軽微していた。保育士同士の声掛けや、連携が不足していた。	事故防止委員会で協議し、危険予知力の向上や事故想定による事前の事故想定力を高めて、未然防止に努める。見守り体制や様々な状況での連携の在り方を強化を図る。	
8815	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成		77	8	14	14	12	10	19			18	12	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 基準以上配置		痛みがあり右肩の稼働状況の確認もしているが、帰園後、看護師等にも確認を取り、当日中に病院に受診をすること望ましかった。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	達足時で。あった。	園外活動で普段行かない場所であるため、職員の配置限定を事前に確認する。	1. 集団活動中・見守りあ		園外活動で普段行かない場所であるため、職員の配置限定を事前に確認する。	3. いつもより活発でした(理由を記載)	何回も草案そりをしんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら、安全に配慮できるよう音楽かけをしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	草そり場フィールド全体を４～５人の職員で見守っていた。		子どもたちに順番や交代を促し、安全に行えるよう一層配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
									人数	異年齢構成の場合の内訳																ソフト面				ハード面						環境面				人的面																
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8816	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	10								2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷		2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置		引き続き適切に配置を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		足を滑らくいすに夫をする。	1. 集団活動中・見守り	回転して目を回してしまうことを、してて思いなかった。	回転してばないように、声掛けを行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	帰りの会に向けて身支度をした。	2. 対象児の近で対象児を見た	帰りの会の準備をしながら、園児かに声をかけた。	2. 担当者・対象児のきを見ていなかった	トイレ等の介助をした。	身支度をしながらも、遊ぶ時間があった。	遊んでいる子に対して、声掛けを行っていく。	
8817	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	29				5		24		4	4	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折疑い	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	園外活動の際は加配を行っている。	園外活動では、職員の加配を行う対応を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	公園への見を行い、経路を決めている。園外活動に行った際には活動報告を記録する。	公園や見を行外活動に行った際には活動報告を記録する。経路や見を行う。園内の	3. 個人活動中・見守り	本児童はコブランで遊んでおり、後、そのいに座ろうとしていた。	本児童はコブランで遊んでおり、後、そのいに座ろうとしていた。	遊具、柵や囲いを使用しない際は、声掛けを行うなど、注意を行う。	1. いつもどおりの様子であった	久しぶり活発に動を楽しみにしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、本児とは離れたところにおり、公園内の見守りを行った。	1. 担当者・対象児のきを見ていた(至近距離にいた)	担任以外の職員が、本児の近くにおり、園内の見守りを行っており、本児が転落したことに気づいた。	本児童はブランコの囲いに座ろうとしていた。	遊具、柵や囲いを本来の使い方でない際は、声掛けを行うなど、注意を行う。	
8818	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	86	8	10	9	13	16	12	18	12	11	4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2. 基準配置	遊具などの不備が原因ではないが、遊び方に要因が遊びも要因のもあるのではないか。	各遊具に必ず職員は注意してみる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年	施設、設備等に問題はないが、遊具に配置がもあるのではないか。	角やすい場所は、子供の動きにしてあたる。	1. 集団活動中・見守り	活発に激しく動き回って、飛び跳ねるなど勢いが多い年齢で、降りるから登り棒から降りていた。	危険な遊びや、棒の方の導。	1. いつもどおりの様子であった	いつもの熱通もなく元気な状態	4. 対象動きをいなかった	職員はすぐ近くにいたが、他の園児がいて事故後に気づいた。	2. 担当者・対象児のきをいなかった	園庭全体職員が、それぞれ見て、園児の入れ事故と見落としまった。	職員がすぐ近くにいたが、どのような遊びをしていたかかったことも要因ではないか。	もっと園庭全体を見わたし、危険な遊びをしていかない。事故が起こ事故が起こ起きないように、事故を防ぐ	
8819	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	16								2	2	6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置		職員体制等はしっかりでいたが、今回コンクリートでのでのコンクリートは所とし達けていきます。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		水溜まり流れ雨で水の良雨まコンクリ危険個所と危険個所認識した。	1. 集団活動中・見守り	コンクリートの地面の上に木材を造りと考えられます。鋼管プールの下がるとされます。	コンクリート地面の上では家造りは行わない。鋼管のパイプのにぶらないとルらをルとして決めた。	1. いつもどおりの様子であった	特に日常と変わりなくいつも通りに遊んでいた。	2. 対象児の近で対象児を見た	園庭でい通り子ども達の観察していたが、対象児がジャンする一瞬の出でありめることが出来なかった。	2. 担当者・対象児のきをいなかった	他の子どもたちの観察した。	コンクリート地面の上でのびに遊び関しては特に注意しておく必要がある。	コンクリートは如何なる状況であれ危険があるということを認識園庭上での状況と同じと考えな予測する。	
8820	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	59	3	9	12	10	13	12		9	9	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	左第5指骨折	2. 自転車転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	行事中の園児への配慮(平常保育より園児がはりきっすで行動するため)	リズム室内での保育士の位置や園児への配慮をへを確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	廊下は木製であり、建築以降ワックスの施していない。	1. 集団活動中・見守り	特になし	毎月行う通常のである。	1. いつもどおりの様子であった	誕生者ったち、気分あった為、が高揚していた。	2. 対象児の近で対象児を見た	保育士1名が誕生者10名を誘導していた。転んで手を差した。手伸べた。	2. 担当者・対象児のきを見ていなかった	近くで見る位置には、他の見た園児ていた当該園児を守っていなかった。	保育士1名が誕生者名導ていたが、並びながら歩きだした。	きちんと並ん揃って出ら歩きます。列の後方に保育士を配置する。	
8821	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20								1	1	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨顆上骨折	2. 自転車転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置		定期的にマニュアルの読み合わせを行い確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(数)回/年		園庭整備、整地こまめをに行う。	1. 集団活動中・見守り		園庭整備、整地こまめをに行う。	1. いつもどおりの様子であった	友だちとおうちこ中、手をつない歩いた。	4. 対象動きをいなかった	園庭で全守りをした。	1. 担当者・対象児のきを見た(至近距離にいた)	園庭で全守りをした。本児の泣き声を聞き声をかける。		今まで以上に子供の動きに目を配る。	
8822	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	11								1	1	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折		4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨の関節側が骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	当日は、園児11名に対し担任1名の保育士を配置。5歳が眠べるように、なった本児。マニュアルや園内研修において、遊具について、保育士の立ち位置についても確認をしていたが、当日は子どもの思いを優先にしてしまい、保育者1名に対して3名の遊具を出していた。	跳び箱が2台と鉄棒も台出ていたので、跳び箱一台にし、低い段から連めていき子ども達の様子を見ながら段を重ねていく方法をとるようにする。再度、職員全員でマニュアルなど、園内研修で取り組んできたことを確認し実践する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室、屋上、園庭おいては、安全チェックがあが、イルにおいては、隣の4歳児保育室のチェックとにしていて一緒チェックした。	再度、プレイルムのみの安全チェックを一シートを作り、ひとり危機意識を高めていく。	1. 集団活動中・見ありり	園児は11人だが、配慮すべき遊具の数で多いのはと考えられる。保育者の遊具子ども達への気配りあり、万一鉄棒や跳び箱4段で遊ぶ子どもが出来るか	運動遊び場をする合は、配慮すべき遊具（跳び箱5段）ひとつに絞り、短時間で楽しむ	1. いつもどおりの様子であった	本児出かったようなり切っていた。	1. 対象児とマンの状態（対象児にした）	積極的に組む援助にあって本児の助けたった。かりと跳んでいるので、ひとりに着地した。	2. 担当者・対象児のきを見なかった	—	事前に遊び入れる前に事前に遊び起こるなつ話と共に起こるなつ話と遠ざけるこ子ども達に対してケガにいて合う。保育者に対して「分ってだ」信頼いろうのがあった。	事前に跳び箱などで起こうる事を子ども達や保育者間で確認する。跳び箱は、一台のみ置き段階を経て重ねていくようにする。保育者間の危機意識を高くもち、注意を再確認する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の内訳							教育・保育等従事										ソフト面					ハード面						環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8823	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10				5	5			3	3	3歳	2. 女児	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左母趾中足骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置	園児10名に対し1名の保育士を配置、休憩時間を設けつつ遊びを楽しんでいたが、4歳児クラスの大縄跳びの記録を目指し、挑戦する本児の姿がみられたので本児の思いを優先にしてしまった。回数多く跳んでいた本児の体力や足などにかかる負荷について配慮すべきだった。また、マニュアルはあるものの発達に応じた配慮が足りなかった。	子どもの思いを受け止めつつ危ないことなどを明確化(運動靴を履くなど)して伝えていく。「今日は、こんなに跳べたから、これで終わりにしようね。今度は挑戦しようね」などと声をかけ、適度なタイミングを図り終了する。また、職員等と子どもの発達について再度確認をしていき、実践していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室、屋上、園庭おいては、安全チェックがあった。プレイルームには、隣の4歳児保育室のチェックとシート一緒にてチェックした。	再度、プレイルームの安全チェックを、シートを作り、人ひとり危機意識を高めていく。	1. 集団活動中・見守りあり	数人の子ども達が大縄跳びを楽しんでいたので、順番が回ってくることが早かった。益々切り児保育者の異変に気付かなかった。	休憩時間を確保しつつ安全に遊ぶことを伝えゆったりと楽しんでいるように配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	4歳児の大縄跳びの記録をこの児の超えとも張り切った。	1. 対象マンの状態(対象児にした)	対象児が大縄跳びを回る際の回る。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	各コーナーの専属となり、子の援助した。	専門の他の遊びを遊び助した。	子どもの思い先優てしまい、普段の象児の遊び好静びをむことから力的こと含動の面いて認識不足があった。	子ども達と予測される事故等について話し合う。職員全体で危機意識を高めもち、注意を払うことを再確認する。また、専門の先生(体育講師)から講座や園内研修を計画し、日頃の保育に活かしていく。	
8824	令和6年3月4日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室内・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	49		11	7	12	10	9		6	2	4歳	1. 男児	通常通り、園庭自由あそびをしていた時のことで、職員の数も十分ではあったが、担任が来客対応中で見守りが十分だったとは言えない。その旨保護者にも伝え、謝罪。翌日、傷の状態を確認するため受診し、さらに、5日後に抜糸。痂皮形成しているので、それが剥離すれば完治となる。	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	頭部外傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	普段なら園児に直接声をかけているが、来客対応で見落としがあった。	来客対応に入る職員は、必ず他の職員に代わりに入り、見守りを声をかけ、人員確保しようから来客対応を確認して客対応すること。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	そのものチェンジ部の後にはベンチはあるフェンスに結び付けられているが、地面多少傾きがあり、グラグラしていた。そのもとも座っていた。背にあった園児の座面にベンチ足つまずき、ベンチ足の上に事故が起こったと思われる。	日はベンチの当ンにぐらきようにマットを入れて傾き整。園児(特に年長児)も、危険な座り方をしないように、日のに事止めの共なしをようそのうち故防のを有をした。その後、ベンチは撤去した。	1. 集団活動中・見守りあり	普段自由あそびは職員が一か所にとどまらず、離れんなく見守りしているが、この日はいつもとはいるが違う「来客」があった。結果、見守りが徹底できなかった。	担当職員が見守りさせる時他の職員(園長含む)に応援を頼む。	1. いつもどおりの様子であった	ベンチ近辺で座りしあと、何気なく座面にベンチ立ち、背もたれの上に座ったら、バランスを崩して後方に倒れた。	1. 対象児が離れたところで対象児を見ていた	園児を全見ながら来客をしていたが、当該園児のお危険回避のための声がけが難しかった。	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	当該園児の担任も園庭に立っていたので、年少クラスの動きに注意をおり、危険回避のための声かけをしなかった。	園児も園庭で、常に危険がないかを各自付けて見守ることに徹する。園庭では職員は近寄ず、自の持ち場で、まんべんなく見て、危険を予測し、園児に声をかけられるように意識する。	他の職員は、年少クラスの園児の安全確保を先にすべきだったが、年長児の動きで配慮することが難しい状況だった。	これ以上の人員の職員確保が難しいので、常に危険がないかを各自付けて見守ることに徹する。園庭では職員は近寄ず、自の持ち場で、まんべんなく見て、危険を予測し、園児に声をかけられるように意識する。	
8825	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	9	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	80				25	31	24			8	8	2. 女児	障がい児支援保育対象児1対1の対応、癇癪を起こす状況を避ける・注意をひきつける等の配慮を行っている。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯牙打撲・上口唇裂傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	—	マニュアルには事故の原因が園児同士でも園児本人の不注意でもないとあるので見直しすべきか指導を仰ぐ。これまで同様配置基準の徹底・マニュアルの読み合わせで共有する。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	改善点なしこれまで同様点で検を欠かさず行う。不備があれば対応する。	3. 個人活動中・見あり	—	改善点なし。これまで同様前の慌ただしい時間の園児の様子を確認しながら自分活動の持ち場を守り役割を遂行する。	1. いつもどおりの様子であった	5歳児が練習ができるように舞台上に和太鼓が2台置かれている。触って良いときはないと知らせるために×印がある本児にはそのルールの遂行は難しいので片付けておくべきだった。	1. 対象児とマンの状態(対象児にした)	おやつ後の顔拭きが未だだったので太鼓をたたくのを止めさせ誘うが、嫌がった為手を繋いで保育教諭は後ろから舞台から降ろし部屋へ移動させようとする。他の保育教諭から後ろに園児がいることを聞いて安全確保のために足を上げた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を担当している加配保育士が後ろを見ていなかったので安全かで声をかけを知らせた。	—	後ろ向きは危険なので改善前に次にすべきこと伝え手をつないで部屋まで移動すべきであった。	
8826	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	26									3	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/月	2. 基準配置	遊具の片づけの際は子どもの活動中は子どもを見る	遊び方の見直しが必要。遊び方のルールを定める	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	ソフトブロックの片づけのブロック上に登っていた。	片づけの時は遊ばないように声かける	1. 集団活動中・見守りあり	ソフトブロックの片づけのブロック最中、ブロックの上に乗った。	片づけの時は遊ばないように声かける	1. いつもどおりの様子であった	日頃、使っている遊具である片付けの合図をしたが、本児は未だ遊んでいた	4. 対象児を見ていなかった	遊具を片づけている最中であった	2. 担当者・象児の動きを見ていなかった	離れた所で子ども全員をみていた	他の職員は子ども全体を見ていた	他の職員は近くで子どもを見守り声掛けを行う	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																				ソフト面					ハード面							環境面				人的面									
									異年齢構成の場合の内訳																																														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8827	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47	2	8	4	10	14	9			2		2	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折の疑い	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	—	園内研修では実際に起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測について話し合い危機管理の意識をあらためるようにしたい。安全管理についての研修の回数を増やしたり、定期的にしていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	園庭の固定遊具が年齢に合っているものなのかを改めて見直し、今回の事故から危険だということで判断したのに、そこにすがろうとする園児（特に年少児）がいれば、必ずそばにつくことを徹底する。遊具の劣化や破損による危険箇所がないか毎日の安全点検でリガへのリスクを抑えるようにする。	1. 集団活動中・見守り あり	—	子どもの成長に伴って行が動範囲が広がるなかに見守れる範囲を考える。場合によっては、固定遊具の制限する。	1. いつもどおりの様子であった	身体的にできることが増え、固定遊具に積極的に登ろうとする姿が見られた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の固定遊具に他児がいて、そこについた為、側につくことができなかったが、本児の動きを見守り「危ない」と声をかけていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	上記と同じく、他遊具の固定他児がいて、そこについた為、本児の側につくことができなかったが、本児の動きを見守っていた。	—	固定遊具に保育士が必ず配置するようにする。見守りだけでは支えてあげられないので、配置が難しい状況であれば、固定遊具の使用を制限する。職員同士の連携、声の掛け合いの徹底。	
8828	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	29									5		5	3歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	睡眠、食事、水遊びに関する事故防止マニュアルはあるが、全体的な事故予防マニュアルは作成されていない	全体的な事故予防マニュアルを皆で検討して作成し、職員に周知する	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(580)回/年	玩具の点検は日に2回にしていたが、要因となった牛乳パックが、子どもが立つ位置によっては多少滑りやすくなっていることに気付いていなかった	台の下に止め、台の滑りを敷き、滑らないようにする。また以前に対して、これまで危険な玩具としてこれまで以上に危険がないか点検し、必要があれば改善する	3. 個人活動中・見守り あり	台の高さはほどよいものの、運動があまりはさないため、他児がジャンプしてを見て「やりたい」と思ってしまい、挑戦したがブレるので、「やりたい」と思われる	個々の運動能力を十分に見極め、不安な様子があればすぐ近くで見守ったり、必要であれば手を添える等、安全第一の援助をするまた子どもの挑戦したい気持ちも大切にしたいことから、さらに低い台を用意して徐々に高くするなど、発達相応の高さの遊具を使用する	1. いつもどおりの様子であった	元気に登園し、活動する。食欲いつもいつとりなく、15時頃検温36.4度。特に変わった様子は見られない	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで他児の見ていたことも児で本児がジャンプする瞬間ていたが、ジャンプは見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きをいつ見ていなかった	同保育室コーナーの守りをしていた。1人は迎えもした	保育士1人お対応しいた、残り保育士4人で28人を見ている状況4人で保育室全体を見渡せていなかった児が上台の上に立っている段階でジャンプすることを想定べきだった	保育室全体を見渡せる職員配置をするまたお迎え対応で園児から目が離れる場合は、必ず、保育室にいる他職員全員に聞こえるような声で伝える	
8829	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	11									4		4	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸腰椎圧迫骨折	5. 他児危から害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	お迎え時間で、保育士が保護者対応等を行っており見守りが不十分であった。また、怪我をした場所は避難経路であり遊ぶ場所ではなかった。	保育士同士が声を掛け合い安全に留意し保育を行う事。遊ぶ場所ではないところに園児が行かないよう園児にも丁寧に伝えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	避難経路の階段でありその場ではの遊ばないようにする。	1. 集団活動中・見守り あり	保護者対応の為、園児への見守りが不十分になった。	避難経路の階段なので、その近辺に保育士を配置し安全を見守っていく。	1. いつもどおりの様子であった	遊ぶ場所ではない、避難経路である階段に座り遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保護者対応中で対象児から目を離していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のトラブルに対応しておりなかった。	園児のトラブルに対応しておりなかった。	降園時間で、保護者対応しながら保育し、職員間の連携が必要だが連携が不足があった。	安全に遊ぶため全職員・園児で遊ぶ場所、危険について確認し再発防止に努める。	
8830	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									31		21	6歳	1. 男児	無し	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	不明	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1. 集団活動中・見守り あり		利用定員の減少と保育士配置基準の見直し	1. いつもどおりの様子であった	元気で登園している	4. 対象児の動きを見ていなかった	日課として遊戯室でリズム運動をして運動にいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2階にあるホールで普段と同じようにノイズキャンセル運動をしていた。	2階にあるホールで普段と同じようにノイズキャンセル運動を楽しくしていた。	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	
8831	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4. 3歳児クラス	27									31		21	4歳	1. 男児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	不明	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1. 集団活動中・見守り あり		利用定員の減少と保育士配置基準の見直し	1. いつもどおりの様子であった	元気で登園している	4. 対象児の動きを見ていなかった	園児の行動も把握ながら他のお迎えの対応	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	えのしもと園ながら迎えたちと遊んお対応ながら児共に（保育する）	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	
8832	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	24									3		3	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕ヒビ	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置		予想される子どもの行動について把握し、気を配って見守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		当園外施設の改善策なし	1. 集団活動中・見守り あり		職員の見守る配置	1. いつもどおりの様子であった	楽しそうに遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの見守り動きをいたが助けられる距離ではなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	周りの子目にもに配りがらを撮り、見守っていた。			上り降りする際気をつけるとの声かけ、子どもの動きやその時の子どものテンションから考えられる注意を予想する。危険だと思う場所に職員の立ち位置の確認。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面							ハード面							環境面				人的面									
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																								死因	負傷状況	受傷部位	診断名																												
8833	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	3									1	1	6歳	1. 男児	当日の朝、母親の不注意で車のドアに側頭部をぶつけた為、様子を見るようお願いされていた。一日通して変わった様子はなく、本人も「全然大丈夫」といい元気だった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	1. 頭部	頭部外傷	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度(0)回/年	2. 基準配置	—	園庭遊び及び遊具での危険な箇所を探したり、遊び使い職員士で話し合う機会を設けてもよいと思う。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	危険な箇所を見ていた。	遊具を固定している金具の緩み、動かす事が出来ないように飛び出ないようにカバーを覆いかぶせるなどの対策が必要だと思う。	1. 集団活動中・見守り	狭い空間と足場が悪いと環境が重なったと思う。	子どもの遊びの姿を見ながら、危険な動きまたは遊び方をを見かけた際は、声を掛ける。遊ぶ前に、遊具の安全性にのや周りに怪我に繋がる物がないか確認する。	1. いつもおお様子のであった	怖がる様子もなく、両手使い、両足を使い、壁をよじ登っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児見ていた	落下し転倒する様子も分かるが、遊具の外側で遊びをして見守っていたので手が届かない事が見受け止める事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊びと園庭遊びの二つに分かれていたので、他のクラス部屋にいた。	本児から距離がある場所で見守っていたので、支える出来なかった。	子どものやってみたいという気持ちも大事にしたいので、環境面が整っていない場所で、落下、転倒しないよう支えるなどの配慮が必要である。	
8834	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	34				20	14				4	4	5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特にソフト面での不備は考えられない、コロナ満によりもも発達の遅延低下と考える。	子どもの運動発達を促す遊びや環境つく研修を取り入れる。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特に備えられない、コロナ満によりもも発達の遅延低下と考える。	一不定期の遊具で、コロナ満により子どもの運動発達の遅延低下と考える。	1. 集団活動中・見守り	コロナ満により外遊び等で身体発達を促す為、戸外遊びを多く取り入れてく。	コロナ満により園外保育の機会が減り、子どもたちの身体能力もやや低下しているので感染予防に気をつけながら戸外遊びを多く取り入れてく。	1. いつもおお様子のであった	公園内では2か所（駐車場側とプール側）の遊具遊び場があるが、そのうちのプールエリア側遊具エリアで遊んでいた。プール側エリアには、幼児用アスレチックと遊具とブランコ、ターザンロープがある。本児は幼児用アスレチック遊具で遊んでいた。	3. 対象から離れたところで対象児見ていた	幼児用アスレチックが見渡せる場所に立ち、全体を見守った。本児の遊ぶ姿は見ていたが、落下時にすぐ手が伸ばせる場所にたっていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は、ターザンロープ、ブランコ、幼児用アスレチック用具にそれぞれ一人付き、もう一人は水を分補充しながら全体を見守った。	特に人的面の不備は考えられない、コロナ満により、子どもの運動発達の遅延低下が要因と考えられる。	今回も担任2人＋フリー保育士2名が引率していて、各遊具に一人ずつ、死角がないように配置されている。今後も園外保育の際は引率の職員は基準より多く配置していく。	
8835	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21									2	2	6歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	園児と共に活動する中で、反らる一瞬目を離した事故だった。	活動にお保育士の把握と、園児の安全管理意識を高めるようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（290）回/年	今回のケースに遊具の要因はみられない。	一	1. 集団活動中・見守り	遊びの環境構成として、ござを一作り使用。ござの為に上がり、上履と着脱があり、その際靴下の上を走り転倒へ繋がった。	遊びコーナーの作り方を工夫し、上履きの着脱なしで遊べるようにする。また、子ども達自身の安全管理を高める投げかけを行う。	1. いつもおお様子のであった	ゴザに上がる為に上履きを脱いで、上履脱ぎかない上履ま遊具の片付けに走ってしまった。	4. 対象児の見ていなかった	園児と一緒に室内を片付けながら、次の活動の為のテーブルティングをしていた。同じ室内での活動だったが、当該園児の方向を向いなかった	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	当該園児と一緒に片付け。他児への対応を行った為、当該園児の一瞬の目は見ていなかった。	同室内にの対応の為、ケガの瞬間は見ていなかった。	上履きを履いていない事に気づいなかった。その為注意の足りなかった。	クラス全体の把握（上履無）が出来なかった。共に活動しながら、俯瞰で見守るように、複数担任による役割分担を一度確認する。	
8836	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	3	12							4	4	1歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨の骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	マニュアルに沿った研修不足	マニュアルの読み合わせ等を行い、事故予防に対する知識を深める	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	遊具の手すりの高さが低かったため	手すり部分に網を取り付け、位置を出した高さを出した	1. 集団活動中・見守り	夕方、初めての合同保育でもあり職員間の連携不足	遊ぶ前だけではなく毎朝の遊具の安全点検を行い、園庭等に出る前には立ち位置、声かけの確認をする。職務会等において、振り返りをし、声かけや立ち位置の再確認をする。安全のために大型遊具の下にマット等を敷く	1. いつもおお様子のであった	遊具手すりで立ち止まり、前傾姿勢になった	4. 対象児の見ていなかった	遊具の手すりにいた職員が他の子のおむつ替えのため室内に戻った	2. 担当者・対象児の動きを見なかった	立ち位置を変えず前を見守り、目の子の達のりをつけた	初めての合同保育で子ども達の動き予測できなかった	持ち場を離れる際に、残った職員は、持ち場を離れた場所の子ども達の安全確認をし見守る。	
8837	令和6年3月4日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	15	3	4	1	5	2				2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基準以上配置		お迎え対応時の職員配置を考える。マニュアルの周知、徹底をする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(200)回/年		遊具の危険性、扱い方を職員で共有する。	1. 集団活動中・見守り		職員の人数に合った遊びの場所、遊びを考える。	1. いつもおお様子のであった	5歳児が鉄棒をしている様子をみていて、真似をしてみたとられる	4. 対象児の見ていなかった	鉄棒の近く（少し前の方）で見ていたが他に走る子がいたので目をそこに向け、再び鉄棒の方を見た時には対象児が落ちる瞬間で間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え対応その場を離れていた。		遊具側での活動は職員配置の人数が必要になるので、職員数が少ない場合は広い場側で遊ぶようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																												掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳																	ソフト面						ハード面								環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時 月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8838	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	4	1	6						6		4	3歳	1.男児	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員の見守り配置が固まっており、十分な見守り、声かけができていなかった事	すぐに子ども達に対応できるよう配置場所を決め見守りの強化を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	転倒事故為、床やさ滑りや床の硬さなど要因となる事が予測できる。	床の滑り定期にはの的クスは滑強化を行う。	1.集団活動中・見守り	遊び終わった玩具を片付けてから次の遊びに移行する事を教える。保育者は常に環境整備を行い安全に子ども達が活動する事ができるようにする。	遊び終わった玩具が片付けられなくなっていたり、それ足を出せてしまった。	1.いつもお様子であった	気に入った場所で遊んでいたが、忘れた玩具にとっさに走りこういこうと思急だと	3.対象から離れたことで対象見ていた	登園時の受け入れを行っても、全に遊ぶ事でいや他の職員も見ているため離し離れても心配でないと思い込んしまった。	2.担当者・象児の動きをていなかった	全体を見ながら守りも、安全でつも、安全でつも気に子を見ていた他の子を見ていた際に発生した。	職員の見守り配置が固まっており、十分な見守り、声かけができていなかった事	すぐに子ども達に対応できるよう配置場所を決め見守りの強化を行う。	
8839	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	2	8	4	10	14	9			11		8	5歳	1.男児	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左小児肘内障	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	—	園内研修では実際起き事例等園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測、事故後の対応適切な共通理解危機管理の意識を高められるようにしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	固定遊具の安全チェック、転倒などにつながはないかを確認する	1.集団活動中・見守り	—	最近は夕方の子どもたちの様子に落ちも着かない状況が見られたことから、園庭に出るのにお約束事を再確認して遊ぶなどの工夫を行う。	1.いつもお様子であった	お友だち同士、追いかけっこなどを通して活発に遊ぶ姿があった。	4.対象から離れたことで対象見ていた	他の場所全体を見ったりに保護者応を受けるあった保護者応を受ける動きをするあった、本児の衝突の瞬間はいなかった。他職員から衝突の報告を受け、冷やして様子を見る処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のトラブルに対応した際、近くで大きな声で泣いた本児に気付き、本児が転倒した状態を発見する。二人に聞き、衝突したことが分かった。本児が左腕を押さえて泣いていたので、担当保育士を呼び状況を説明した。	—	トラブル対応だけは出来るだけ子どもに背を向けず、いつでも全体が見渡せる状態でいること。園児の体にケガがないか詳しく確認を行う。（今回は本児が左腕を押さえていた曲げ伸ばし、上がり下がり、手の開き具合を見る必要があった。）	
8840	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									1		1	5歳	2.女児	なし	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	ロッカーに玩具箱を置いた	施設の安全チェック再確認。ロッカーの上に置いてな物つけは、ロッカーの上には落下しなかうへ危険見時そ都度ていのろしく。危険置よ全職員周知。	1.集団活動中・見守り	食後の時間で、担当全体的に部屋の様子を見守っていたが、掃除中で対象児を視していなかった。	部屋全体の危険確認を丁寧に行う。掃除をしていても、子ども達一人ひとり目配り行う。	1.いつもお様子であった	対象児がロッカーの上の玩具を取って良いか保育士に尋ね、「いいよ、待ってて」と伝え、保育士が取ろうとしたが、「いいよ」の言葉でOKと思い、先に取ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体的にいては見ていたが、対象児を注視して見ていなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった		特になし	イミングの際には、コーチがいつもうまくいかないことがあった。プールサイドからは士線で子どもへ保育士がを送っていたが、ふとすぐそばまで行って子ども行動を促していく。	一人ひとりの子ども達の動きをしっかりとみる。スイミングでは、子ども着かないは、必ずそばまで行って子ども行動を促していく。	
8841	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				11	11				4		2	5歳	1.男児	ギプス固定	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故報告書を記入し、職員で共有している。	走る際は前などの注意事項を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	—	園庭に危険物がないか、普段から確認する。	1.集団活動中・見守り	周りに歩いているお友達が行き交う中で、蛇行して走ったり、前かがらくるくる職員を呼び止めたが、避けた先に友達がいることに気付かず衝突した。	走る時にはながらも周りを見進むよう伝える。	1.いつもお様子であった	走ることに夢中になり周り上手くが見えなかった。	3.対象児離れたことで対象見ていた	近くには他児いたが対応への支援を為なかった。	2.担当者・象児の動きを見なかった	保護者応えた場所離れ為と支援が出来なかった。	—	遊びを始める時は周りを見て進むなどの約束事を確認する。	
8842	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7				3	1	3			2		1	5歳	2.女児		1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	傾斜を駆けりるときとコンクリート面の危険性をていなえかった。	危険性を職員、児童に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	小高い丘から駆けた先がコンクリート面だった。斜面は芝てが生えており、平地ではなかった。	児童が走は、保育士が配置する。	1.集団活動中・見守り	小高い丘を勢いよく駆け下りるためとくりり	公園での危険個所について職員間に改めて周知。見守りと声掛けの強化。	1.いつもお様子であった	いつも通り活発に駆け回っていた。	2.対象児の至で対象児を見ていた	対象児とが児童ばんでいるところを見ていたが、対象児が転んだ時には間に合わなかった。	2.担当者・象児の動きを見ていなかった	他児童の見て、様子を、気がついた時は対象児は転倒していた。	危険がある考えれる場所にはその場ではなかった。（少し離れた場所にいた）	危険個所（転落、転倒の可能性がある）所に人を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																													掲載更新年月日
				事故発生時			発生時の体制																			ソフト面								ハード面							環境面				人的面								
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】						実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度(回/年)					理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8843	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10								1	0	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	ブランコを使用できるようにしなかったため、本児が無理な遊び方をした。	座面を梁付けているのは、ブランコの周囲に保護柵がなく、園児をケガを心配したためだが、保護柵を設置などして、遊具を本来の形で使用させたい。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守り	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	降園を前に、本児を含め、園児たちはわくわくしながら遊んでいた。	2.対象至児の近で象見児をていた	担任のスタッフは、至近距離にはいたが全体を見渡す位置に立っていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	本児から近い距離にいたが、他のグループの園児を見守っていた。	ブランコがあった場所には人工芝が敷いてあり、ブランコの高さもあまりは高くなかったので、担任の保育スタッフは本児がケガをすることは考えられなかったという油断があった。	今回の事故を教訓にしてて、さらに園児の行動に注意を払いたい。	
8844	令和6年3月4日	2.認可外	10.事業所内保育事業（認可）	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	1	1		3	1	3		3	2	4歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/2年	2.基準配置	子ども9人の遊ぶ範囲を限定せず、6種類の遊具で広域で遊ばせていたため。	保育士の目の届く範囲で、限定して遊ばせる。	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具ではなかった危険性を確認できていなかった。	無し	1.集団活動中・見守り	子どもが遊びたい場所(遊具)で遊ばせてしまったため。	その時の子どもの状態や保育士の人数に応じて保育人数を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	前回りが出来るようになり、保育士に賞がっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコよりも他の気を取られたため。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	自分が担当していた子どもを見ていたため。	公園で遊び方を徹底していなかった。	遊具でない物で遊ばなど、事前に園児に危険な事をしないよう伝えていく。	
8845	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0		1	1		1		4	4	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置		改善点なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	カーテン床が床に触れる長さであったため、カーテンをみながら転倒した可能性も考えられる。	仕切りのカーテン裾上げを縫いし、床につかないサイズへ改善した。	3.個人活動中・見守り	普段はカーテンを縦襞のように引き上げて入室していたが、覗いたりするあそびを発見して気分が高まり、頭でカーテンを押しながら前方が見えない状態で入室してしまったと考えられる。	全員入眠中の時間帯のみ、仕切りカーテンを使用するようにするす。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よくしていたが、カーテンを利用しての遊びにテンションが高まり、とても高いつも違を起こしまった。	2.対象児の近で象見児をていた	午睡室内（幼児室）で他の子の著書えの見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	1名は、調理室にておやつの配膳準備、他の1名は室外の清掃作業中。	対象児の行動からこりる危険を予測することができなかった。	事故発生翌日に現場検証を行い、事故についての詳細を全職員で共有した。また、再発防止のための意見交換を行い再発防止に努める。	
8846	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	一	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				17	14			2	1	5歳	2.女児	診断等はなく、発達が面で支援が必要なため個別に見守りを行っている。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	特になし	正規保育保育士と補助置り、加配対象として近距離で常に見守りを行っているため。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	事故が起こったがここで不明である。	施設設備に危険な場所いが全員で点検を行った。	7.その他	普段からし怪我をは、思いが込みがよう納得と説明できるいる帰宅前にが泣いに、本児の理由から聞きとれなかった。	子どもが痛みを訴えて来たときは原因や理由を聞き、深く注意確認しておく。また、配慮が必要な児童について職員で共有し、全体で再合する度話しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	登所して長時間保育にから閉園まで、泣いたり、トラブルになったり、痛みを訴えることなくは普段とわりなごした。	3.対象児の児離とで対象見児をていた	本児は集団から外れたり、いつもテラスに部屋にいて入ないこともあるが、子見の全体の見ども守りつ、対象離こでとからとも常に意識して本児を把握していた。	1.担当者・対象児の動きをていた（至近距離にいた）	日中は支援員の必要なこと一緒補助ども保育士が本児の様子を至近距離で見守っていた。集団から外れたときは原因や理由を職員全体で共有しており、長時間の体を見守りながらも意識的に行動を確認していた。	痛がった時に保護者と確認し保冷剤や湿布で冷やして帰宅してもらったが、「なぜ痛くなったの」や「指げられるのか曲げられるのか」等の確認をしなかった。	子どもが普段と違う姿であった時、怪我の可能性がある場合は、注意深く原因を確認する。保護者に対して説明できるような確認を必ずず行う。	
8847	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30	1	4	3	6	10	6	0	6	6	5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	・職員同士の連携不足。	・土曜保育の職員配置の見直し。 ・職員同士の位置や声掛け等の連携の取り方の確認。 ・園内の危険個所の再確認と周知。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	子ども達が、日曜日に引き取りの気持ちが高揚しいつもと違う行動をしてしまった。	・子ども達と階段下の仕方の確認を行う。 ・土曜日保育の職員と周知する。	1.集団活動中・見守り	いつもと変わらず児周に階段をの子の上ったとそのの子の気持ちの変化に気付けなかった。	・当たりつこっと行ってるこの前とでも、子達とでも定期的に確認し周知する。	3.いつもより活発的であった(理由を記載)	階段を上る際に気持ちが高ぶり、揚してまい、一段抜かして上まってしまった。	3.対象児の児離とで対象見児をていた	３人の保育士が先頭、階段踊り場、最後尾にて子ども達の様子を見ながら対応する。	2.担当者・対象児の動きをていなかった	集団で一段一段に階段を上っていたため、一人ひとりの動きを見られなかった。	・本児と周り数人の気持ちが高揚していた。 ・階段を抜かして上るとは想定していなかった。	・子ども達と階段の上り下りの仕方を再確認する。 ・以前よりも職員間で立ち位置に気を配り、連携を強化した。 ・土曜日保育を行うにあたって子ども達について情報の共有（一人一人の性格、その週の様子など）をして保育にあたる。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
									異年齢構成の場合の内訳																		ソフト面				ハード面							環境面				人的面														
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名																														
8848	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	49									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	今まで事故や怪我もなかったことから危険箇所という認識がなかった。	危険箇所としての認識を持ち、同じようなことが起こらないように努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/月	高さがあるので複数人が登ると危険である。	登って遊ぶ場合には、人数の制限やすぐそば見守りすぐでの見守りが必要である。	1.集団活動中・見守り	職員の見守りが適切ではなかった。	職員が見守りを出来る範囲で遊ばせる。	1.いつもお様子の子であった	いつも通りオンジェに登っていたが、足を滑らせて落下した。	4.対象の動きを見ていなかった	対象児が少し離れたところで別の園児達を見ていた為落下した時は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員も近くにいたが、対象児が落下したのすぐ近くは見ていない。	対象物が園庭の端の見えにくい場所にあること。職員が園児の見えない位置での見守りを行っていた。	対象物は使用しない。職員は園児がしっかり見える位置で見守りを行う。また、見守り範囲でできる範囲で遊ばせる。	
8849	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57	2	10	12	16		17			9	9	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		遊具の安全な使い方を再度職員で周知し、事故への認識や危険に対する知識を共有するとともに子どもの行動を予測して注意深く見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日・1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日・3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も点検を継続していく。	1.集団活動中・見守り		園庭が狭いため、園庭活動時間をクラスを毎に重ならないよう時間配分を行う。	1.いつもお様子の子であった		3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	担任は離れたうんの側いで他児って見ており、本児が転倒した際はすぐに駆け寄ることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員が泣き声で気付き、本児の倒に気付き、対応した。		固定遊具には必ず職員が付くよう職員同士で声をかけあい、鉄棒付近に入らないように赤線で目印をつける。	
8850	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	21									3	3	4歳	1.男児	先天性内反足（左脚）※日常生活において問題なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脚部脛骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置		安全に対する意識を高く持ち、リスク回避の検を安全に行う会議や頻繁に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	日常的に使用している●●公園について、利用前には慣例的に安全点検を行っているが、きちんと業務化されておらず、安全点検チェックが未作成。	●●公園環境や安全点検チェックの遊具の検チェックを作成する。	1.集団活動中・見守り	鬼ごっこ遊びをする園児は、広い場を自由に走り回っていた。	広場で遊ぶ際の用方法や子ども人数を再考する。	1.いつもお様子の子であった	普段と特に様子変わりなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が各々に好きな遊びを楽しむ時間であったことから、本児から4～5m程の距離で本児や他児を含め、全体的に動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内で保育園ポイント配置確保し安全上で見守っている。	本児の動きを事前に予測し、危険を避けた。	鬼ごっこ等の危険がある遊びは、保育士主導の下で行う。その際は、子ども達にもしっかり遊びのルールを伝える。	
8851	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	10									2	2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度2回以上/年	3.基準配置		保育園内で事故・けがの起きやすい場所、時間など過去の事故報告、データーの報告について、研修の実施。自園のヒヤリハット報告の閲覧実施後の検討会実施。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日・1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日・3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	子どもたちの見える、手に触れることがあるや、止栓の確認の為に、止水栓の上の蓋をした。水栓のバーを外した後、バーのカをしていなかった。	子どもたちの興味関心を理解し、安全面から危険とさせる物は、目に触れることは、保育士は連携を持ち子どもに手を届くよう位置に居ながら見守る。	1.定期的に実施	3.個人活動中・見守り	何にでも興味関心を持って、見た目に触れたり触れたりしたい年齢であった。	1.いつもお様子の子であった	機嫌の悪さがあった。次の活動への切り替えがしにくい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の機嫌が落ち着く見守りまでなり、他の部屋に入ることが為に靴を脱がれ、靴箱に入れたり靴の援助をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスに、他児入援助洗援助手援助ていて、靴の靴をはいのをした。	本児にて士手ばら位ではつま止栓をやが要ることがあり、以前に蓋上にバーがされていた。確認がされていなかった。	子どもの目線から考え、危険に繋がることはないか、常に安全の目線を持って環境整備に努める。活動前には保育環境を目視したり実際に活動の場所に行き確認したりする。保育士が声を掛け合いながら、適切な位置でこどもたちに援助をしていく。靴箱の位置を乳児園庭の近くに移動し、子どもたちの動線が室内に入る際に最短になるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況						事故発生の要因分析																																掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事								事故の転帰					ソフト面							ハード面							環境面			人的面										
			施設・事業所種別	事故発生時				人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	5歳児	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	負傷			事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外		月	時間帯	発生場所																死因	負傷状況	受傷部位	診断名			実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】						理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか				
8852	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32			10	10	12			5	5	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度２回以上/年	4. 基準配置		職員同士で情報共有を行い、子どもが安全に遊べるよう、子どもの行動を注意深く見守っていくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・３)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も点検継続し、様子を見ながら安全に遊べるよう、子どもの行動を注意深く見守っていくようにする。	4. 個人活動中・見あり		職員間で十分連携をとり、築山から降りるスピードが出ることもあることを共有し、そのような場面を見たときかは声をかけるようにする。	1. いつもお様もりの子であった	鬼をしていた。ごっこいる時、築山から駆け下りた。バランスを崩し、足首をひねった。	2. 対象至対象児の近で象児を見た	鬼ごっこを一緒にしていた職員が本児の声に気づき、すぐに駆け寄ることができた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	対象児とは少し離れたところで他児を見守っていたが、駆けてバランスを崩したときはすぐ駆け寄るができなかった。		子どもが活動している時の保育者の立ち位置や連携の取り方について、園全体で話し会うとともに遊具などの使い方によっては事故につながることを意識して見守るようにする。	
8853	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	24		4	10	10				3	3	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下唇裂傷 右前歯打撲	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置		翌日職員会にて状況・原因を明確にし、延長保育時の見守りの意識について再確認すると共に、安全改善策として職員の立ち位置や動きについて見直し、当日より実施する。職員長検討についての対策会議を行い、けがが起きた際の状況から改善できることはないか考えることとした。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 不定期に実施	登園日毎日 実施頻度(６)回/年		定期的な点検を確実に行うと共に、様常対策を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	遊びの盛りかたがり、ウレタン積み木でアスレチックを作ったが、列の後ろに並ぶ子どもの列を回りを通ってルートをごっこ遊びの盛り上がりやすいように、子どもたちが安全に楽しめるように、ルートを工夫しながら安全に遊ぶ工夫をしていきたい。	1. いつもお様もりの子であった	クラスのもた列になって鬼ごっこを楽しむ姿があった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が姿ぶ姿は遠ざけられたが、遠確認ったので、距離があり、間に合わなかったが寄っかけた。	1. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	3名で当番であったが、1名は対象児のグループが鬼ごっこをしていると姿ごっこを見ていたが、転倒した際は、1名は他児のトラブルの仲裁に入り、もう1名は違う遊びの見守りを行い、視線は別方向だった。		担当職員が遊びこんでしまわないよう、見守りを最優先に行うことの意識確認を行う。また、見守りの目が欠ける時には、事務室などの他職員に応援要請を行う。常に3人の見守り体制が欠けないようにする。担任でない職員が当番にあたる時の、配慮が必要な子どもへの対応について、トラブルが起きた際の対応がスムーズにいくように情報を共有する。	
8854	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11								4	4	3歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１)回/年	5. 基準配置		担任の職員配置と子ども全員を全体のように改善する。	2. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2. 定期的に実施	毎月１回職員が実施 年２回業者が実施	2. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		玩具や遊具は気を付けてが、施設内では見落としがあったのではないかと	5. 個人活動中・見守りあり	おやつ後も開放が気持になっている中で、担任が排泄のが介助を行った	活動と活動の合間と活動の過ごし方や配慮について職員同士で話し合う	2. いつもお様もりの子であった	おやつ後というこもあり、少しとも、興奮気味に、他児と遊んでいた。	3. 対象至対象児の近で象児を見た	排泄の介助をし、排泄を終えた子どもたちを見ていた。	2. 担当者・対象児の動きをていた(至近距離にいた)	2歳児が同じ部屋で過ごしているため、1歳クラス児の保育士が1歳児の子ども共に近くとく守った。		活動と活動の合間帯で、子ども達が手持無沙汰になっていた。	クラス会議を行い、子どもの姿や関わり、配慮する点など、情報共有する。午睡の間の際に昼時間に話し合いができるようにしておく。	
8855	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18								1	1	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝によるもの突による	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置		使い慣れていた等の使い方には慣れていたが、勢いをよく動かすとバランスを崩し怪我がしやすい体のバランスを子ども繋がることも、逆に等でなが伝えると、一緒に等の正持ち方に絡まれたり、適切な感覚で等を動かすことも確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/週	通路である畳の部分が多く、地面の境から石の砂が上がりやすい。	滑りやすいので職員も小まめに掃き掃除をする。	1. 集団活動中・見守りあり	子ども達は排泄だけに任せていた。	保育士もそばで一緒に掃除しながら正しい使い方を伝える。	1. いつもお様もりの子であった	真面目な性格で生懸命に掃除をしようとしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭玩具の片付け場所付近で、対象児を見ていて、対象児がすぐに対捉えたことは手を出すことができなかった。	2. 担当者・対象児の動きをていなかった	最後に年長児が残っていたので園庭には他の職員はいなかった。	年長児を18名を保育士1名で担当していたが、別の場所の片付けを行っていた。	フリー保育士が補助に入る。	